

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第77集

上土遺跡(立石地区) I

(遺構編)

平成4・5年度静岡バイパス(上土遺跡立石地区)
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第77集

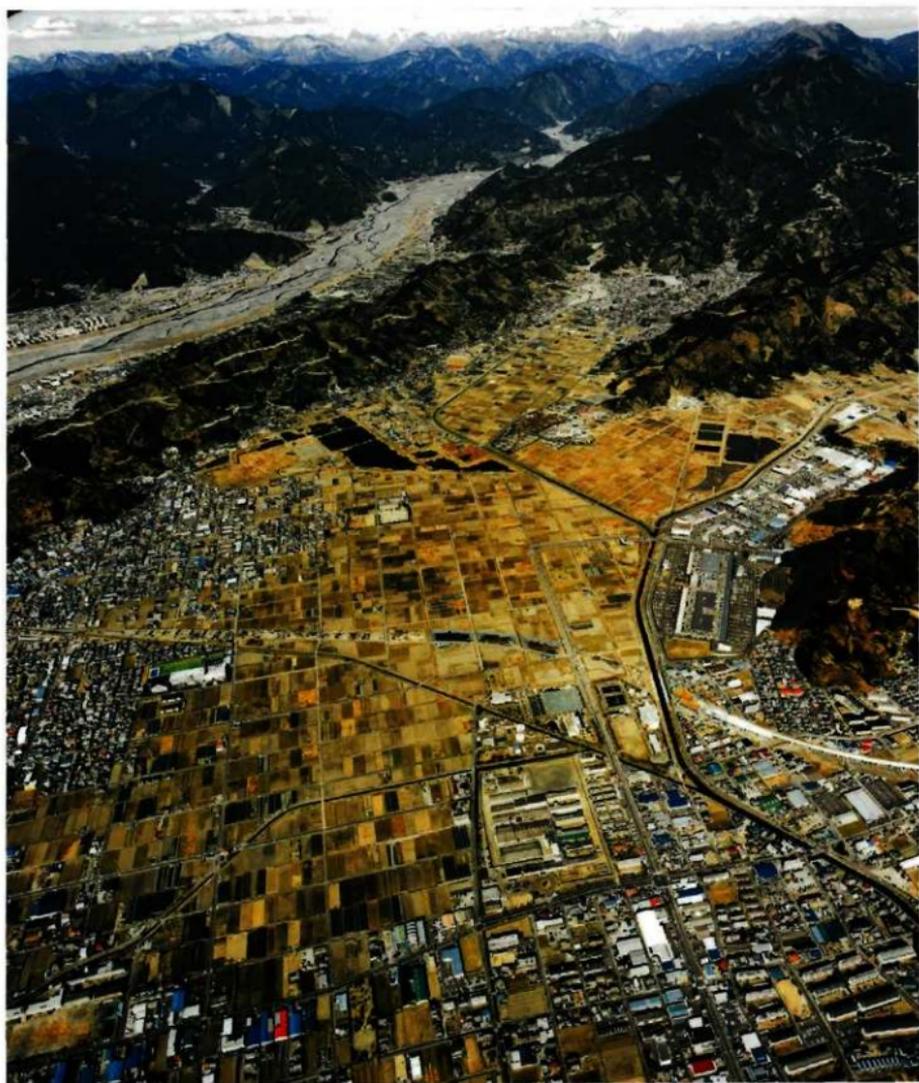
上土遺跡(立石地区) I

(遺構編)

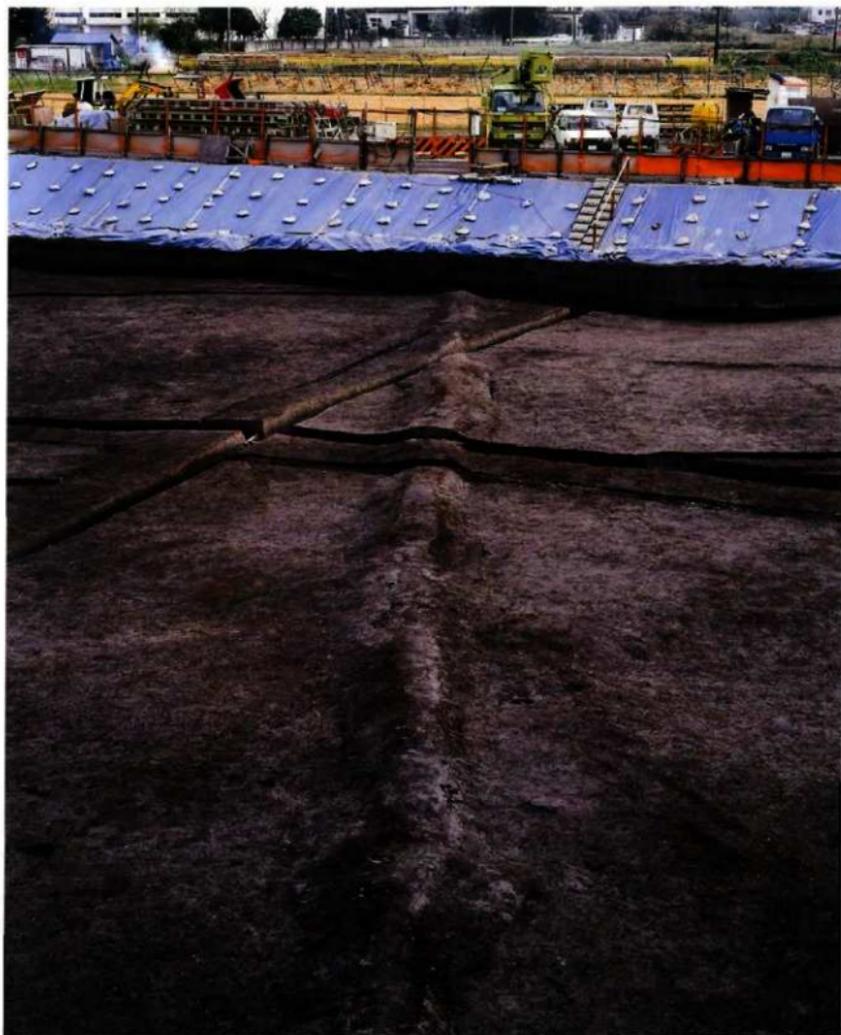
平成4・5年度静岡バイパス(上土遺跡立石地区)
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

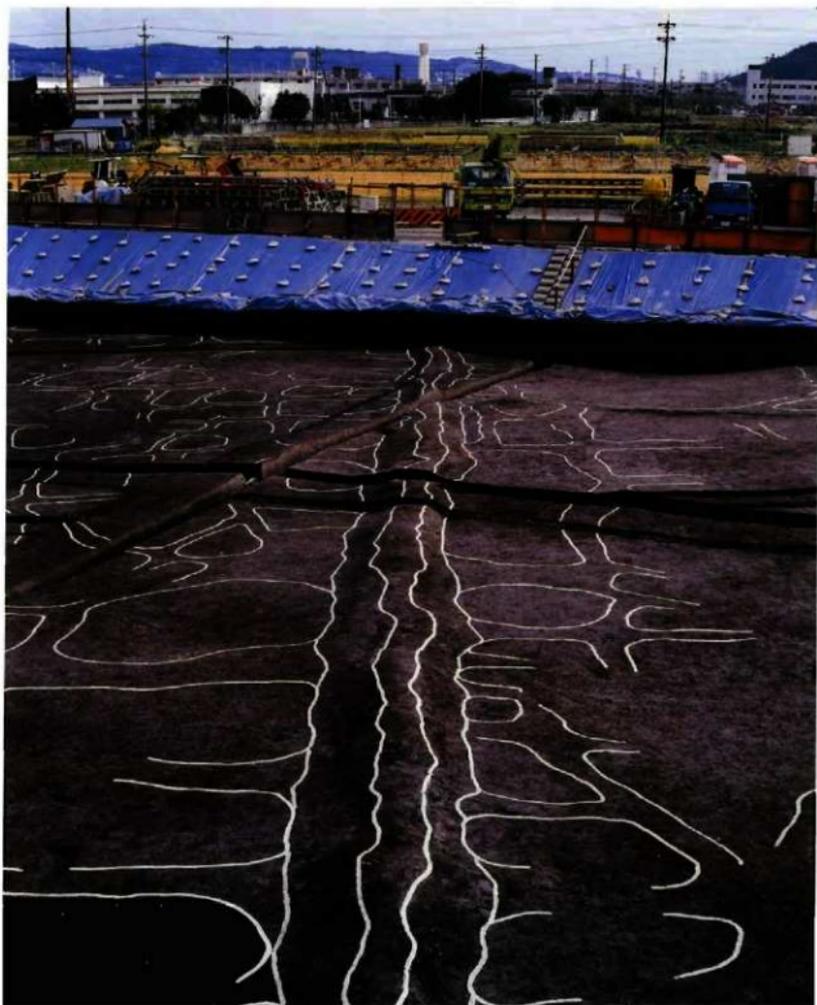
財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



静岡平野北部麻績低地付近空中写真（南から）



3区12層水田擬似群A検出面（11層上面）での律令期の南北条里坪界大柱群 SK 30501検出状況（北北西から）



3区12層水田擬以畦畔A検出面（11層上面）での律令期の南北条里坪界大畦畔SK 30501と小畦畔等の下端の輪郭マーキング状況（北北西から）

序

当研究所は、昭和59年度から一般国道1号静岡バイパス建設工事に伴い、静岡平野北部において、池ヶ谷・厩美・上土（立石地区）・川合・瀬名・長崎・能島の7遺跡の発掘調査を実施してきたが、この上土遺跡（立石地区）の調査が、最終段階での調査となった。この遺跡の現地調査は、平成4年度に着手し、5年度末に終了、引き続き平成6年度から本格的な整理作業を始めた。

本報告書は、上土遺跡（立石地区）の調査報告書の第1冊目の遺構編として、弥生時代中期後葉から近世までの、各時期の遺構について報告している。

上土遺跡（立石地区）は、静岡平野北部の麻機低地の東部に位置する。この遺跡では、沼沢地化と陸地化を交互に繰返す環境変遷により、陸地化した段階で造成された古代から近世の水田跡が4時期にわたり発見された。①弥生時代中期後葉から古墳時代前期、②古墳時代中後期から奈良時代、平安時代初頭、③鎌倉時代、④近世～近代の4時期の水田跡である。

この上土遺跡（立石地区）の、遺構面での主要な特色として、次の5点をあげたい。①これまで、近世新田開発以前は沼地であるとされていたような、静岡平野で最も標高が低い湿地から、上記のような4時期の水田遺構が検出されたこと。②この低地での水田開発の初現は弥生時代中期後葉にまで遡ること。③静岡平野で最も低湿な地域でも、奈良時代に条里型水田が施工されていること。④これまで、あまり明らかでなかった中世での低湿地開発が、近世新田開発以前に存在し、弥生～古墳時代に一般的であった小区画水田が再び採用されていること。⑤このような、各時期の水田が経営された時期の乾湿状況や開発・再開発・復旧といった災害や自然環境の状況に対応した開発行為の変遷の様子が、耕作土や畦畔の断面観察や区画の検出状況から確認できたことである。

なお、本報告書作製にあたっては、建設省中部地方建設局静岡国道事務所、静岡県教育委員会及び静岡市教育委員会を始め、関係機関各位に多大な援助・協力を得ている。この場をかりて深くお礼を申し上げる次第である。また、作業に関係した研究所職員や多くの方々から心から謝意を表したい。

平成8年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所 長 斎 藤 忠

例 言

1. 本書は、静岡県静岡市加藤高・立石に所在する上土遺跡（立石地区）の調査報告書の第1分冊である。
2. 調査は平成4年度～平成5年度まで静岡バイパス（上土地区）埋蔵文化財発掘調査業務として建設省中部地方建設局からの委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施した。このうち、現地調査は平成4年4月1日から平成6年3月31日まで行い、整理作業は平成6年度から平成7年度まで実施した。
3. 調査の体制は次のとおりである。

平成4年度 所長 齋藤 忠、常務理事 鈴木 勲
調査研究部長 山下 晃、調査研究二課長 栗野克巳
主任調査研究員 矢田 勝、調査研究員 杉高徳、鈴木正悟、池ヶ谷清

平成5年度 所長 齋藤 忠、常務理事 鈴木 勲
調査研究部長 植松章八、調査研究二課長 栗野克巳
主任調査研究員 矢田 勝、調査研究員 佐藤 浩、青野好身、池ヶ谷清
中尾欣司、加藤雅弘、池田将章 技術職員 柏木善治

平成6年度 所長 齋藤 忠、常務理事 鈴木 勲
調査研究部長 小崎章男、調査研究部長兼調査研究一課長 栗野克巳
主任調査研究員 矢田 勝、調査研究員 池田将章

平成7年度 所長 齋藤 忠、副所長 池谷和三、常務理事 三村田昌昭
調査研究部長小崎章男、調査研究部長兼調査研究一課長 栗野克巳
主任調査研究員 矢田 勝、調査研究員 鈴木 謙

4. 本書は主任調査研究員矢田 勝、調査研究員池田将章が執筆した。

5. 本書をまとめるにあたり次の諸氏、諸機関にご指導、ご協力をいただいた。

静岡大学名誉教授 加藤芳朗氏（地形・地質分析・火山灰）、明治大学文学部専任教授 杉原重男氏（火山灰）、通産省工業技術院地質調査所近畿・中部地域地質センタ 主任研究員 寒川 旭氏（地震・断層地形）、愛知県立明和高等学校教諭 森 勇一氏（昆虫化石）、専修大学教授 坂口 豊氏（自然地理学・泥炭地）、東海大学海洋学部 海洋土木工学科教授 浜田政嗣氏（土木工学・地盤流動）、早稲田大学理工学研究科特別研究員 若松加寿江氏（土質基礎工学）
アジア航測（株）、（株）古環境研究所、バリノ・サーヴェイ（株）

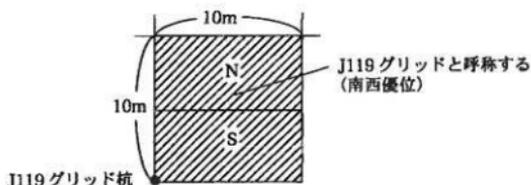
6. 本書の作成にかかわる資料整理・図版作成については、青島久仁子を中心に剣持富枝、加藤百合子、嶋田 聡、伊澤幸恵、川上邦広の協力を得た。

7. 本書の編集は静岡県埋蔵文化財調査研究所が行い、調査、分析に関する資料は同研究所が保管している。

凡 例

本書の記述については、以下の基準に従い、統一を図った。

- 1 調査区の座標軸は、平面直角座標体系を用いた。
- 2 使用した方位は、上記の座標系の方位（座標北）である。
- 3 一辺10m方眼のグリッド配置は、本遺跡の西に位置する池ヶ谷遺跡1区南西端から南約15mにあるX=-110, 950m軸を調査区座標南北軸のAとした。また、池ヶ谷遺跡1区南西端から西約60mにあるY=10, 600m軸を調査区座標東西軸の0とした。
- 4 東西軸は、通し番号（159～191）、南北軸はアルファベットを用い、C～L（第4図参照）を設定した。なお、上土遺跡（立石地区）で使用したA軸は、調査区南西端付近から約30m南のX=-110, 430m軸とした。
- 5 グリッド杭とグリッドのそれぞれの名称については、右記のように設定した。



- 6 調査区の中の一部を限定する場合には、南北・東西のグリッド座標により、それぞれD列～F列、160列～163列のように用いた。
- 7 遺物実測図には、報告書の見出し番号（報告番号）を左下に記入した。この報告番号は、遺構図・遺構写真図版についても統一し、共通の番号を付した。
- 8 遺構・遺物の標記は次の通りである。

遺 構 記 号				
SK 畦畔	ST 田面	SR 河道	SD 溝	SX その他

例 遺構番号 SR 1 06 03

遺構記号 区 層位 遺構

- * SK番号は、大畦畔・中畦畔に付し、小畦畔には付さず、南北方向に数字を、東西方向に□数字を付した。ST番号は、大区画に付し、小区画には、単に番号を付した。
- * なお、本遺跡は、主として水田遺構を検出したが、それらは第4表上土遺跡各区水田遺構対応表のように呼称した。
- * なお、上記の表の遺物種類名の前に付したアルファベットは、種類の略号であるが、これらは本報告書でのみ使用した略号である。また、これを使用した遺物は、「上土遺跡Ⅱ（遺物編）」でとりあげた遺物であり、アルファベットに続く数字は、遺物編での報告番号である。

遺物編掲載遺物の表記例 PY 3

遺物種類名 報告番号

また、遺物編で個別に紹介されていない遺物については、上記の表の遺物記号（斜字体）と現地での

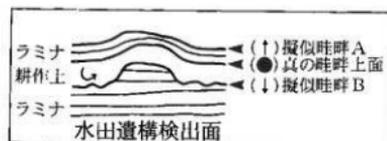
遺物記号		遺物種類
P	土器・土製品	P Y 弥生土器・古式土師器、P その他の土器、D 土鍾
W	木製品	NO 農耕具・工具、WA 杵型田下駄、1 T 板状田下駄、WT 輪カンジキ型田下駄、OA 大足部材
	(WKは 杭・矢板)	祭祀関係、SA 祭祀具、II A 箸状木製品
	容器・生活具	K U 刳物、MA 曲物、Y O その他の容器、U R 漆椀、S E 生活用具
	建築材等	K D 建築材・土木材、F U 用途不明木製品
M	金属製品	K I 金属製品
S	石器・石製品	S 石製品
N	自然遺物	N 骨・貝、n 種子等

遺物登録番号を用いて表した。

<上土遺跡道構検出状況対応表について>

(1) 上土遺跡の調査面について

当遺跡では、水田遺構が主な遺構である。調査面には、耕作土上面を覆う自然堆積層の上面を検出した面、真の山面の検出を行った調査面と、耕作土の下面を検出した調査面の3種類がある。これらは、斎野裕彦他1987の命名に従えば、擬似畦畔A検出面、田面検出面、擬似畦畔B検出面、である。これを、本報告書では、以下のような記号(↑)(●)(↓)で示した。



(2) 上土遺跡の調査面の呼称と略号について

当遺跡で検出された水田遺構は、現地表面から下へ、近世～近代の水田、中世の水田、古墳時代後期?～平安初期の水田、弥生時代中期中葉～古墳時代前期の水田の、大きく4時期の水田から構成される。そこで、これらの各水田を、上から下に、耕作土の土層名から、それぞれ1層水田、5層水田、12層水田、15層水田と呼称し、さらに、これらの各水田の中の調査面について、上から下にA、B、C、Dとアルファベット順に略号を付した。(01A)～(15C)というような略号で表した。

ただし、12層水田の調査であっても、それが擬似畦畔Aの検出面の調査であれば、実際の調査面は10層の上面であっても、その調査面に(12A)という略号を付している。

なお、3区上層水田では、同一の調査面で規格の異なる2つの水田の遺構を検出した場合があった。そこで、(05B)と(05B')のような略号を付け、遺構全体図も2つに分けて作成した。

* 斎野裕彦他「富沢遺跡第15次発掘調査報告書」1987 仙台市教育委員会

出土遺跡遺構検出状況対応表

年代観	略称	原名	3区遺構検出状況(略号)	2区遺構検出状況(略号)	1区遺構検出状況(略号)
近世～近代(昭和50年に耕地整理)	最上層	1層 水田耕作土	3区1層水田上面(01A)		
		2層			
		3層			
		4層			
		5-1層			
		5-2-1層 水田耕作土	3区5-2-1層水田上面(05A)	2区5-2-1層水田上面(05A)	1区5-2-1層水田擬似畦畔A(05A)
		5-2-1-2層 水田耕作土	3区5-2-1層水田擬似畦畔B(05B)	2区5-2-1層水田擬似畦畔B(05B)	1区5-2-1層水田上面(05B)
		5-2-2層 水田耕作土	3区5-2-2層水田上面(05B')	2区5-2-2層水田上面(05C)	
		6層	3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)	2区5-2-2層水田擬似畦畔B(05D)	1区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)
		7層			
中世	中層	8層			
		9層			
		10層	3区12層水田擬似畦畔A(12A)	2区12層水田擬似畦畔A(12A)	
		11層		2区12層水田上面(12B)	1区12層水田上面(12A)
		12層 水田耕作土	3区12層水田擬似畦畔B(12B)	2区12層水田擬似畦畔B(12C)	1区12層水田擬似畦畔B(12B)
		13層			
		14層	3区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)	2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)	1区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)
		15-1層			
		15-2-1層 水田耕作土	3区15-2-1層水田擬似畦畔B(15B)	2区15-2-1層水田擬似畦畔B(15B)	1区15-2-1層水田擬似畦畔B(15B)
		15-2-2層 水田耕作土	3区15-2-2層水田擬似畦畔B(15C)	2区15-2-2層水田擬似畦畔B(15C)	1区15-2-2層水田擬似畦畔B(15C)
16層					
17層					
弥生時代後期 ～古墳時代前期	下層 水田				
弥生時代中期後葉	中層				

上部は奈良・平安時代の
条型型水田、下面は
古墳～奈良時代

弥生時代後期
～古墳時代前期

弥生時代中期後葉

目 次

序	
例言・凡例	
第I章 位置と地理的・歴史的環境	1
第II章 調査の方法と経過	2
第1節 調査の方法	2
第2節 調査の経過	3
第III章 層位的観察	9
第1節 基本層序の設定地点と深度、土層の大別について	9
第2節 基本層序の記述方法	9
第3節 各土層の概要	12
第IV章 遺構の概要	32
第1節 遺構のあらましと遺構の記述について	32
1. 遺構のあらまし	32
2. 遺構の記述方法と項目	32
第2節 弥生時代中期後葉～古墳時代前期の15層水田遺構群	35
1. 15層水田遺構の概要	35
(1) 土層の観察と年代観	35
(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造	36
2. 各調査区の概要	40
(1) 3区15層水田	40
(2) 2区15層水田	44
(3) 1区15層水田	48
第3節 古墳時代中後期～律令期の12層水田遺構群	52
1. 12層水田の概要	52
(1) 土層の観察と年代観	52
(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造	52
2. 各調査区の概要	57
(1) 3区12層水田	57
(2) 2区12層水田	60
(3) 1区12層水田	62
第4節 中世の5層水田遺構群と河道跡	66
1. 5層水田と河道跡の概要	66
(1) 土層の観察と年代観	66
(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造	67
2. 各調査区の概要	69
(1) 3区5層水田	69
(2) 2区5層水田	74
(3) 1区5層水田と河道跡	79
第5節 近世以降の河道跡と溝状遺構群	88
1. 遺構の概要・・・3区1層遺構	88
(1) 土層の観察と年代観	88
(2) 遺構と遺物	88
第V章 まとめ	90
1. 遺構面での特色	90
2. 当遺跡の調査にかかわる工夫と問題点	94

挿図目次

- 第 1 図 静岡・清水平野地形概念図
- 第 2 図 上七遺跡付近遺跡分布図
- 第 3 図 上七遺跡周辺新旧地形図
- 第 4 図 グリッド配置図
- 第 5 図 上土遺跡土層柱状模式図
- 第 6 図 上土遺跡土層断面概念図
- 第 7 図 3区土層断面縮図
- 第 8 図 3区・2区土層断面縮図
- 第 9 図 2区土層断面縮図
- 第 10 図 1区土層断面縮図(1)
- 第 11 図 1区土層断面縮図(2)
- 第 12 図 3区北壁断面図(1)
- 第 13 図 3区北壁断面図(2)
- 第 14 図 3区北壁断面図(3)
- 第 15 図 3区北壁断面図(4)
- 第 16 図 3区東西中央帯北壁断面図(1)
- 第 17 図 3区東西中央帯北壁断面図(2)
- 第 18 図 3区東西中央帯北壁断面図(3)
- 第 19 図 3区東西中央帯北壁断面図(4)
- 第 20 図 3区南壁断面図(1)
- 第 21 図 3区南壁断面図(2)
- 第 22 図 3区南壁断面図(3)
- 第 23 図 3区南壁断面図(4)
- 第 24 図 3区西壁断面図(1)
- 第 25 図 3区西壁断面図(2)
- 第 26 図 3区南北中央帯東壁断面図(1)
- 第 27 図 3区南北中央帯東壁断面図(2)
- 第 28 図 3区東壁断面図(1)
- 第 29 図 3区東壁断面図(2)
- 第 30 図 2区北壁断面図(1)
- 第 31 図 2区北壁断面図(2)
- 第 32 図 2区北壁断面図(3)
- 第 33 図 2区北壁断面図(4)
- 第 34 図 2区東西中央帯北壁断面図(1)
- 第 35 図 2区東西中央帯北壁断面図(2)
- 第 36 図 2区東西中央帯北壁断面図(3)
- 第 37 図 2区東西中央帯北壁断面図(4)

- 第 38 图 2 区南壁断面图 (1)
- 第 39 图 2 区南壁断面图 (2)
- 第 40 图 2 区南壁断面图 (3)
- 第 41 图 2 区南壁断面图 (4)
- 第 42 图 2 区西壁断面图 (1)
- 第 43 图 2 区西壁断面图 (2)
- 第 44 图 2 区南北中央带东壁断面图 (1)
- 第 45 图 2 区南北中央带东壁断面图 (2)
- 第 46 图 2 区东壁断面图 (1)
- 第 47 图 2 区东壁断面图 (2)
- 第 48 图 1 区北壁断面图 (1)
- 第 49 图 1 区北壁断面图 (2)
- 第 50 图 1 区北壁断面图 (3)
- 第 51 图 1 区北壁断面图 (4)
- 第 52 图 1 区东西中央带北壁断面图 (1)
- 第 53 图 1 区东西中央带北壁断面图 (2)
- 第 54 图 1 区东西中央带北壁断面图 (3)
- 第 55 图 1 区东西中央带北壁断面图 (4)
- 第 56 图 1 区南壁断面图 (1)
- 第 57 图 1 区南壁断面图 (2)
- 第 58 图 1 区南壁断面图 (3)
- 第 59 图 1 区南壁断面图 (4)
- 第 60 图 1 区西壁断面图 (1)
- 第 61 图 1 区西壁断面图 (2)
- 第 62 图 1 区南北中央带西壁断面图 (1)
- 第 63 图 1 区南北中央带西壁断面图 (2)
- 第 64 图 1 区东壁断面图 (1)
- 第 65 图 1 区东壁断面图 (2)
- 第 66 图 1 5 层水田造构变遷图
- 第 67 图 1 5 层水田地形起伏变遷图
- 第 68 图 3 区 1 5 - 2 - 1 层水田 (1 5 A) 全体图
- 第 69 图 3 区 1 5 - 2 - 1 层水田 (1 5 B) 全体图
- 第 70 图 3 区 1 5 - 2 - 2 层水田 (1 5 C) 全体图
- 第 71 图 3 区 1 5 - 2 - 2 层水田 (1 5 D) 全体图
- 第 72 图 3 区 1 5 层水田檢出状况
- 第 73 图 3 区 1 5 - 2 - 2 层水田 (1 5 C) 杭列大畦畔 集中部平面图
- 第 74 图 3 区 1 5 - 2 - 2 层水田 (1 5 C) 盛土大畦畔之杭列大畦畔交差部附近平面图
- 第 75 图 3 区 1 5 层杭列大畦畔断面图 (1)
- 第 76 图 3 区 1 5 层杭列大畦畔断面图 (2)
- 第 77 图 3 区 1 5 层杭列大畦畔断面图 (3)
- 第 78 图 3 区 1 5 层杭列大畦畔断面图 (4) 1 5 层绕曲城横断面图

- 第 79 図 3区15-2-1層水田(15B) 出土遺物集成図
- 第 80 図 3区15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(1)
- 第 81 図 3区15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(2)
- 第 82 図 2区15-2-1層水田(15A) 全体図
- 第 83 図 2区15-2-1層水田(15B) 全体図
- 第 84 図 2区15-2-2層水田(15C) 全体図
- 第 85 図 2区15層水田検出状況
- 第 86 図 2区15-2-1層水田(15A) 擬似畦畔A地形起伏図
- 第 87 図 2区15-2-1層水田(15A) 水田分析グラフ
- 第 88 図 2区15-2-1層水田(15A) 水田標高分析図
- 第 89 図 2区15-2-1層水田(15A) 水田堆積量分析図
- 第 90 図 2区15-2-1層水田(15A) 水田面積分析図
- 第 91 図 2区15-2-2層水田(15C) 杭列大畦畔集中部平面図
- 第 92 図 2区15-2-2層水田(15C) 溝状遺構付近平面図
- 第 93 図 2区15層杭列大畦畔断面図(1)
- 第 94 図 2区15層杭列大畦畔断面図(2)
- 第 95 図 2区15層矢板列大畦畔断面図
- 第 96 図 2区15層畦畔断面図(1)
- 第 97 図 2区15層畦畔断面図(2)
- 第 98 図 2区15-2-1層水田(15B) 出土遺物集成図
- 第 99 図 2区15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(1)
- 第 100 図 2区15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(2)
- 第 101 図 1区15-2-1層水田(15A) 全体図
- 第 102 図 1区15-2-1層水田(15B) 全体図
- 第 103 図 1区15-2-2層水田(15C) 全体図
- 第 104 図 1区15層水田検出状況
- 第 105 図 1区15-2-1層水田(15A) 水田分析グラフ
- 第 106 図 1区15-2-1層水田(15A) 水田標高分析図
- 第 107 図 1区15-2-1層水田(15A) 水田堆積量分析図
- 第 108 図 1区15-2-1層水田(15A) 水田面積分析図
- 第 109 図 1区15-2-1層水田(15A) 杭列大畦畔 集中部平面図
- 第 110 図 1区15層遺構断面図(1)
- 第 111 図 1区15層遺構断面図(2)
- 第 112 図 1区15層断面図
- 第 113 図 1区15-2-1層水田(15B) 15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(1)
- 第 114 図 12層水田遺構変遷図
- 第 115 図 12層水田地形起伏変遷図
- 第 116 図 3区12層水田(12A) 全体図
- 第 117 図 3区12層水田(12B) 全体図
- 第 118 図 3区12層水田検出状況
- 第 119 図 3区12層水田(12A) 水田分析グラフ

- 第120図 3区12層水田(12A) 水田標高分析図
- 第121図 3区12層水田(12A) 水田堆積量分析図
- 第122図 3区12層水田(12A) 水田面積分析図
- 第123図 3区12層水田(12A) 雁行地割 群平面図
- 第124図 3区12層水田(12B) 杭列集中 平面図
- 第125図 3区12層遺構断面図(1)
- 第126図 3区12層遺構断面図(2)
- 第127図 3区12層遺構断面図(3)
- 第128図 3区12層遺構断面図(4)
- 第129図 3区12層遺構断面図(5)
- 第130図 3区12層水田(12A) 出土遺物集成図
- 第131図 3区12層水田(12B) 出土遺物集成図(1)
- 第132図 3区12層水田(12B) 出土遺物集成図(2)
- 第133図 2区12層水田(12A) 全体図
- 第134図 2区12層水田(12B) 全体図
- 第135図 2区12層水田(12C) 全体図
- 第136図 2区12層水田(12B) 分析グラフ
- 第137図 2区12層水田(12B) 標高分析図
- 第138図 2区12層水田(12B) 堆積量分析図
- 第139図 2区12層水田(12B) 面積分析図
- 第140図 2区12層水田(12C) 分析グラフ
- 第141図 2区12層水田(12C) 標高分析図
- 第142図 2区12層水田(12C) 面積分析図
- 第143図 2区12層水田(12C) 杭・敷板
- 第144図 2区12層遺構断面図
- 第145図 2区12層水田(12A) 出土遺物集成図、12層水田(12B) 出土遺物集成図
- 第146図 2区12層水田(12C) 出土遺物集成図(1)
- 第147図 2区12層水田(12C) 出土遺物集成図(2)
- 第148図 1区12層水田(12A) 全体図
- 第149図 1区12層水田(12B) 全体図
- 第150図 1区12層水田検出状況
- 第151図 1区12層水田(12B) 溝状遺構 平面図
- 第152図 2区12層遺構断面図
- 第153図 1区12層水田(12A) 出土遺物集成図、12層水田(12B) 出土遺物集成図
- 第154図 5層水田遺構変遷図
- 第155図 5層水田地形起伏変遷図
- 第156図 3区5-2-1層水田(05A) 全体図
- 第157図 3区5-2-1層水田(05B) 全体図
- 第158図 3区5-2-2層水田(05B*) 全体図
- 第159図 3区5-2-2層水田(05C) 全体図
- 第160図 3区5-2-1層水田(05A) 分析グラフ

- 第161図 3区5-2-1層水田(05A) 標高分析図
- 第162図 3区5-2-1層水田(05A) 堆積量分析図
- 第163図 3区5-2-1層水田(05A) 面積分析図
- 第164図 3区5-2-1層水田(05B) 分析グラフ
- 第165図 3区5-2-1層水田(05B) 標高分析図
- 第166図 3区5-2-1層水田(05B) 堆積量分析図
- 第167図 3区5-2-1層水田(05B) 面積分析図
- 第168図 3区5-2-2層水田(05B') 分析グラフ
- 第169図 3区5-2-2層水田(05B') 標高分析図
- 第170図 3区5-2-2層水田(05B') 面積分析図
- 第171図 3区5-2-2層水田(05C) 分析グラフ
- 第172図 3区5-2-2層水田(05C) 標高分析図
- 第173図 3区5-2-2層水田(05C) 面積分析図
- 第174図 3区5層水田遺構断面図(1)
- 第175図 3区5層水田遺構断面図(2)
- 第176図 3区5層水田遺構断面図(3)
- 第177図 3区5-2-1層水田(05A) 5-2-2層水田(05B') 5-2-2層水田(05C) 出土遺物集成図
- 第178図 2区5-2-1層水田(05A) 全体図
- 第179図 2区5-2-1層水田(05B) 全体図
- 第180図 2区5-2-2層水田(05C) 全体図
- 第181図 2区5-2-2層水田(05D) 全体図
- 第182図 2区5-2-1層水田検出状況
- 第183図 2区5-2-2層水田検出状況
- 第184図 2区5-2-1層水田(05B) 出土遺物集成図
- 第185図 1区5-2-1層水田(05A) 全体図
- 第186図 1区5-2-1層水田(05B) 全体図
- 第187図 1区5-2-2層水田(05C) 河道跡全体図
- 第188図 1区5-2-1層水田(05B) 分析グラフ
- 第189図 1区5-2-1層水田(05B) 標高分析図
- 第190図 1区5-2-1層水田(05B) 堆積量分析図
- 第191図 1区5-2-1層水田(05B) 面積分析図
- 第192図 1区5-2-2層水田(05C) 河道跡平面図
- 第193図 1区5層河道跡土器出土位置図(年代観別)
- 第194図 1区5層河道横断面図(1)
- 第195図 1区5層河道横断面図(2)
- 第196図 1区5層溝状遺構断面図
- 第197図 1区5-2-1層水田(05A) 大畦畔横断面
- 第198図 1区5-2-1層水田(05B) 箸状木製品等出土断面図
- 第199図 1区5-2-1層水田(05A)(05B) 出土遺物集成図
- 第200図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(1)

- 第201図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(2)
- 第202図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(3)
- 第203図 3区1層上面水田全体図
- 第204図 3区1層上面溝状遺構SD30101
- 第205図 3区1層上面河道跡SR30103
- 第206図 3区1層上面河道跡断面図
- 第207図 3区1層上面出土遺物集成図
- 第208図 上土遺跡で検出された疑似畦畔成立過程推定図
- 第209図 発掘された埋没条里と地籍図に残された表層条里—静岡平野北部・中部—
- 第210図 地震痕跡位置図3区12層(12A)
- 第211図 地震痕跡位置図1区12層(12A)
- 第212図 1区断層断面図
- 第213図 12層水田被覆土の地震による流動状況推定図
- 第214図 新潟地震(1964年)による表層地盤の側方流動
- 第215図 泥炭層流動状況断面図(1区)

挿表目次

- 第1表 上土遺跡付近遺跡地名表
- 第2表 2区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(1)
- 第3表 2区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(2)
- 第4表 2区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(3)
- 第5表 2区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(4)
- 第6表 1区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(1)
- 第7表 1区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(2)
- 第8表 3区12層水田疑似畦畔A(12A)計測表(1)
- 第9表 3区12層水田疑似畦畔A(12A)計測表(2)
- 第10表 3区12層水田疑似畦畔A(12A)計測表(3)
- 第11表 3区12層水田疑似畦畔A(12A)計測表(4)
- 第12表 2区12層水田上面(12B)計測表(1)
- 第13表 2区12層水田上面(12B)計測表(2)
- 第14表 2区12層水田疑似畦畔B(12C)計測表(1)
- 第15表 2区12層水田疑似畦畔B(12C)計測表(2)
- 第16表 1区12層水田疑似畦畔B(12B)計測表
- 第17表 3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(1)
- 第18表 3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(2)
- 第19表 3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(3)
- 第20表 3区5-2-1層水田疑似畦畔B(05B)計測表(1)
- 第21表 3区5-2-1層水田疑似畦畔B(05B)計測表(2)
- 第22表 3区5-2-2層水田上面(05B*)計測表(1)

- 第23表 3区5-2-2層水田上面(05B*)計測表(2)
- 第24表 3区5-2-2層水田上面(05B*)計測表(3)
- 第25表 3区5-2-2層水田上面(05B*)計測表(4)
- 第26表 3区5-2-2層水田上面(05B*)計測表(5)
- 第27表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(1)
- 第28表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(2)
- 第29表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(3)
- 第30表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(4)
- 第31表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(5)
- 第32表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(6)
- 第33表 3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(7)
- 第34表 2区5-2-2層水田上面(05C)溝状遺構計測表
- 第35表 1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(1)
- 第36表 1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(2)
- 第37表 1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(3)
- 第38表 1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(4)
- 第39表 1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(5)
- 第40表 1区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表

写真図版目次

巻頭カラー図版目次

- 巻頭カラー図版1 静岡平野北部麻機低地付近空中写真(南から)
- 巻頭カラー図版2 3区中層水田上面(11層上面)での律令期の南北条里坪界大畦畔S K3050i検出状況(北北西から)
- 巻頭カラー図版3 3区中層水田上面(11層上面)での律令期の南北条里坪界大畦畔S K30501と小畦畔等の下端の輪郭マーキング状況(北北西から)

写真図版目次

- 図版1 静岡平野北部空中写真(1948年1月8日米軍撮影)
[145W31 P S M724 314 e w 8 J A N. 48 27]
- 図版2 3区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)全景空中写真
- 図版3 3区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)全景
1.北西から 2.北東から 3.南東から
- 図版4 3区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)
1.全景(西から) 2.西半分全景(南東から) 3.東半分全景(南から)
- 図版5 3区15-2-1層水田擬似畦畔B(15B)全景空中写真
- 図版6 3区15-2-1層水田擬似畦畔B(15B)
1.全景(南東から) 2.西半分全景(南西から) 3.立木根株群[E163グリッド付近]全景(南から)

図版7 3区15-2-2層水田擬似畦畔B (15C) 全景空中写真

図版8 3区15-2-2層水田擬似畦畔B (15C)

1.全景(南西から) 2.全景(南東から) 3.西部検出状況(南東から)

図版9 3区下層水田大畦畔

1.SK31506(中央部)の敷材(田F駄等)(F164グリッド杭付近:北から) 2.SK31504(北部)内部の杭列・敷材解体状況(南西から) 3.SK31501内部の杭列・敷材検出状況(南東から) 4.3区下層水田大畦畔SK31501(中央部)内部の杭列・敷材検出状況(南から)

図版10 3区下層水田大畦畔

1.SK31501杭列・敷材解体状況(西から) 2.SK31501内部の杭列・敷材検出状況(南西から) 3.SK31501・31503内部の杭列・敷材検出状況(東から) 4.SK31501横断面(164)の状況(南東から)

図版11 3区下層水田作上下面の起伏の状況

1.調査区中央部北部:中央のH165グリッド杭(北から) 2.調査区中央部北部:中央奥にH165グリッド杭(南から) 3.調査区南西部(南東から)

図版12 2区15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 全景空中写真

図版13 2区15水田

1.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 全景(南西から) 2.大畦畔SK21505・21506検出状況(15-1層上面)(西から) 3.全景(北東から) 4.南東部での、鹿の下顎(N1)の検出状況(南から) 5.鹿の上顎(左がN2 [上顎?], 右がN3 [右上顎])(南から)

図版14 2区15水田

1.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 東部全景(南から) 2.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 南北小畦畔[小区圃181と179の間](北から) 3.東西小畦畔[小区圃199と178の間](東から) 4.大畦畔SK21506横断面の土層(中央部:西から)

図版15 2区15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 全景空中写真

図版16 2区

1.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 全景(西から) 2.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 全景(北東から) 3.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 南西ブロック中央東寄りを通る火山灰列(南から) 4.16層上面の北東ブロック西部の立木根株(ヤナギ属)(北から)

図版17 2区下層水田

1.直交大畦畔SK21506・SK21503検出状況(北東から) 2.杭列大畦畔SK21506横断面(165)検出状況(調査区中央北部:東から)

図版18 2区15層水田

1.杭列大畦畔SK21506検出状況(西から) 2.杭列大畦畔SK21506検出状況・横断面(100)検出状況(西から) 3.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B)で検出された火山灰を白線マーキングした状況(調査区中央南北トレンチの東端、東西土層帯のすぐ北: I176グリッド中西部付近:西から)

図版19 2区15層水田

1.敷板列大畦畔SK21505検出状況(西から) 2.2列並行の杭列畦畔SK21506検出状況(西から) 3.南北並列水路の西側SK21515の敷板(KD27)(南から) 4.南北並列水路の中央SK21514の敷材群(北から)

図版20 2区15層水田

1. 杭列大畦畔SK21506の土器片群検出状況（北西から） 2. 杭列大畦畔SK21506の土器片群検出状況（南東から） 3. 2区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）で検出された火山灰を白線マーキングする直前の状況

図版21 2区15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）全景空中写真

図版22 2区15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）

1. 全景（南東から） 2. 北部全景（西から）

図版23 2区15層水田

1. 杭列大畦畔SK21503・21506の直交接合部付近（西から） 2. 杭列大畦畔SK21506（174・175列付近）（南西から） 3. 大畦畔SK21505の敷板検出状況（南西から） 4. 大畦畔SK21505の敷板検出状況（北西から）

図版24 2区15層水田

1. SK21503・21506の直交接合部の北東部付近の杭列・敷板群の分布状況（北東から） 2. 15-2-2層下部・敷板列大畦畔SK21506上面の土器片（壺PY09）集中出土状況（I 174グリッド北西部：北西から） 3. 15-2-2層下部・SK21506でのPY09（有東式） 4. 15-2-2層下部・SK21501の北側出土土器（PY04：有東式の甕）（東から） 5. 15-2-2層下部・SK21501の北側出土土器（PY07：弥生後期後葉の壺）（南から） 6. 2区15-2-2層下部・SK21501の北側出土土器（PY02：弥生後期後葉の壺）（南から）

図版25 2区15層水田東部

1. 南北方向並列水路と水路脇の畦畔検出状況（北北西から） 2. 南北方向並列水路の完掘状況（北北西から） 3. 南北方向並列水路・付設畦畔の横断面（112）（南から） 4. 南北方向並列水路の完掘状況（南から）

図版26 2区

1. 北東拡張部SK21506付近15-2-2層上面の火山灰粒了（南西から） 2. 北東拡張部SK21506付近16層上面の杭列・敷板（南西から） 3. 15層水田15-2-2層下部SK21506上面出土土器片（壺PY09）（南東から） 4. 15層水田15-2-2層下部SK21506上面出土土器片（壺PY09）[拡大]（南東から） 5. 15層水田15-2-2層下部SK21506上面出土土器片（弥生中期後葉の壺PY05）（南から）

図版27 2区

1. 15層水田15-2-2層下部SK21506解体状況（16層上面）（南西から） 2. 15層水田15-2-2層下部SK21506に直交する敷板列（I 175グリッド北東部：北西から） 3. 15層水田15-2-2層下部SK21506解体状況（16層上面）（左端にIT06：北西から） 4. 15層水田15-2-2層下部SK21506・21503の北東側集中出土木製品（手前左IT22、右IT44。奥の横長板材KD69：北東から） 5. 17層上面の起伏（南西部：西から） 6. 17層上面起伏横断面（南西部：西から）[測取前] 7. 17層上面起伏横断面（南西部：西から）[測取後]

図版28 遺物出土状況

1. 板状田下駄IT06（SK21506） 2. 板状田下駄IT02（SK21506） 3. 板状田下駄IT20（SK21506）
4. 板状田下駄IT01（SK21506） 5. 板状田下駄IT04（SK21506） 6. 板状田下駄IT41（SK21503）
7. 板状田下駄IT74（SK21503） 8. 板状田下駄IT79（SK21506） 9. 板状田下駄IT73（SK21503）
10. 板状田下駄IT48（南北大畦畔？） 11. 磨製石鏃S-10（SK21506） 12. 木製祭祀具SA01（SK21506）

図版29 2区

- 1.北部15層水田杭列畦畔群解体状況（北西拡張部を含む）（西南西から）
- 2.北外周トレンチの北側での東西矢板列SK21501検出状況（J173グリッド南東部付近：南東から）
- 3.北西拡張部での東西矢板列SK21501解体状況（J174グリッド中央：南から）〔ステレオ写真〕

図版30 2区

- 1.東西矢板列SK21501解体状況〔西端〕（南から）
- 2.SK21501解体状況〔中央：西部〕（南から）
- 3.SK21501解体状況〔中央：中部〕（南から）
- 4.SK21501解体状況〔東〕（南から）
- 5.南北杭列SK21503解体状況〔中〕（西から）
- 6.東西杭列SK21506解体状況〔中〕（南から）
- 7.SK21506解体状況〔東〕（南から）
- 8.SK21506解体状況〔東端〕（南から）

図版31 1区15-2-1層水田擬似畦畔A（15A）全景空中写真

図版32 1区15-2-1層水田擬似畦畔A（15A）

- 1.全景（東から）
- 2.北西部全景（東から）
- 3.杭列畦畔付きの南北水路SD11503と横断面（B83）（南から）

図版33 1区15-2-1層水田擬似畦畔A（15A）

- 1.全景（南西から）
- 2.西半部全景（南東から）
- 3.中央部全景（南西から）
- 4.中央部全景（南東から）

図版34 1区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）全景空中写真

図版35 1区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）

- 1.全景（南西から）
- 2.全景（南東から）
- 3.西半部全景（南南東から）

図版36 1区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）

- 1.全景（西北西から）
- 2.中東部全景（南西から）
- 3.南北水路SD11502全景（南西から）
- 4.SD11502北部（東から）

図版37 1区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）SD11502

- 1.全景（北から）
- 2.北部（南西から）
- 3.南部（北西から）

図版38 1区15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）全景空中写真

図版39 1区15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）全景

- 1.西から
- 2.南西から
- 3.西から

図版40 1区15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）

- 1.全景（南東から）
- 2.北西部全景（北東から）
- 3.中部・擬似畦畔B検出状況（南東から）
- 4.南北水路SD11502検出状況全景（南から）

図版41 1区15層水田

- 1.15-2-2層水田擬似畦畔B（15C）南北水路SD11502検出状況北部（南から）
- 2.南北水路SD11502北部付近の杭列畦畔群解体状況北部（南から）
- 3.南北水路SD11502北部付近の杭列群解体状況と水路・両畦畔の横断面（南から）
- 4.南北水路SD11502北部付近の杭列群解体状況（北東から）

図版42 1区15層水田

- 1.SD11502北部付近の杭列群解体状況（南東から）
- 2.南北水路SD11502北部付近の杭列群（北東拡張部：中央SK11504、典SK11503、手前右手大板型状田下駄IT10）（北東から）
- 3.SK11504の杭列露出状況（K184グリッド南西部：北東から）
- 4.SK11505杭列・敷板群検出状況

況（北東から）

図版43 1区

1.15層水山・北東拡張部SK11504杭列・矢板検出状況（南西から） 2.15層水山・北拡張部SK11505杭列・敷材列検出状況（南から） 3.15層水山・南北水路西側畦畔SK11503の矢板・杭検出状況（南西から） 4.15層水山・SK11503北東拡張部の杭・矢板検出状況（南西から） 5.南西部の20層直下に形成されていた両面凸レンズ状の黄灰色粘土層（南東から）

図版44 1区15層水山

1.SK11505の縦断面（南東から） 2.SK11501の縦断面（南東から） 3.SK11505西部の縦断面（南から） 4.SK11503北部の縦断面（南西から） 5.SK11504の縦断面（北東から） 6.SK11504の横断面（南から） 7.SK11505の杭の屈折状況（東南東から）

図版45 3区12層水山擬似畦畔A（12A）全景空中写真

図版46 3区12層水山擬似畦畔A（12A）

1.全景（南東から） 2.中央部全景・中央に南北条里坪界大畦畔が検出された（南から） 3.全景（西南西から）

図版47 3区12層水山擬似畦畔A（12A）

1.近接写真（西南西から） 2.西半分全景（南東から） 3.東半分全景（南から）

図版48 3区12層水山擬似畦畔A（12A）

1.南東部東西中畦畔38（南西から） 2.南西部東西中畦畔19（南西から） 3.南北条里大畦畔SK31201（北西から） 4.南西部、南北②と東西19の各中畦畔の盛り状況（北西から） 5.南西部、東西19南北②の各中畦畔の盛り状況（北東から）

図版49 3区12層水山擬似畦畔A（12A）

1.南北条里坪界大畦畔SK31201断面（南から） 2.南北条里坪界大畦畔SK31201断面（北から）

図版50 3区南東部

1.雁行地割れ（西から） 2.雁行地割れ（東から） 3.地割れ発生に伴う5層水山の接曲現象（G167グリッド杭：西から） 4.雁行地割れの段差の状況と横断面（F167グリッド北東部：東から）

図版51 3区南東部の雁行地割れ

1.南西から 2.段差と横断面（F166・167グリッド：東から） 3.段差と横断面（G166・167グリッド：東から） 4.段差状況（東から） 5.地割れ状況（北東から） 6.段差と横断面（南西から） 7.地割れ状況（西から）

図版52 3区12層水山擬似畦畔B（12B）全景空中写真

図版53 3区12層水山擬似畦畔B（12B）

1.全景（南西から） 2.全景（東から） 3.北部全景（北東から）

図版54 3区12層水山擬似畦畔B（12B）

1.中部の複数の斜交する矢板・杭列（南東から） 2.SK31205出土輪カンジキ山下駄（WT13：北から） 3.非条里型のSK31205北部の敷板・杭列（南西から） 4.非条里型のSK31203の敷板列（北から） 5.輪カンジキ山下駄（WT1：南東から） 6.輪カンジキ山下駄（WT1：北西から）

図版55 3区12層水山擬似畦畔B（12B）

1.中央部SK31201・31205解体状況（南東から） 2.SK31205出土輪カンジキ山下駄

(WT19と20：北西から) 3.非条里型SK31202南東部の敷板・杭列(南東から) 4.SK31202南東部の敷板群(南西から) 5.条里型SK31201南部の敷板群(南東から) 6.非条里型SK31204に直交する敷板群(北東から) 7.SK31203の敷材群と板状田下駄IT81(縦割れ状態)(東から)

図版56 2区12層水田擬似畦畔A(12A)全景空中写真

図版57 2区12層水田

1.擬似畦畔A(12A)全景(南西から) 2.擬似畦畔A(12A)南東部・SK21202全景(南西から) 3.擬似畦畔A(12A)東部・小畦畔群(南東から) 4.擬似畦畔A(12A)西部・小畦畔群(南東から) 5.南北条里大畦畔敷板・杭列(南東から)

図版58 2区12層水田上面(12B)全景空中写真

図版59 2区12層水田上面(12B)

1.全景(南西から) 2.東西条里坪界大畦畔SK21202検出状況(南西から) 3.東西条里坪界大畦畔SK21202検出状況(北東から) 4.東西条里坪界大畦畔SK21202の横断面「41」(調査区中央部：H175南西部)

図版60 2区12層水田上面(12B)

1.全景(南東から) 2.ST21208内の小畦畔群検出状況(南東から) 3.ST21201内の小畦畔群検出状況(南東から)

図版61 2区12層水田上面(12B)

1.条里坪界大畦畔SK21202・SK21204交点付近検出状況(南東から) 2.条里坪界東西大畦畔SK21202横断面「53」(I175グリッド北西部：北東から) 3.条里坪界大畦畔SK21202中西部検出状況(北東から) 4.条里坪界南北大畦畔SK21204横断面「183」(G176グリッド：北西から)

図版62 2区12層水田擬似畦畔B(12C)全景空中写真

図版63 2区12層水田擬似畦畔B(12C)

1.全景(南西から) 2.中央部付近全景(南西から) 3.条里型と非条里型の擬似畦畔Bの混在(北東部：北東から) 4.条里大畦畔交点出土輪カンジキ型田下駄横木(WT42)

図版64 2区12層水田擬似畦畔B(12C)

1.西部全景(南西から) 2.条里坪界大畦畔の交点付近の杭列・敷板列の検出状況(南東から) 3.枠型田下駄(WA1)検出状況(南から) 4.枠型田下駄(WA1)検出状況(西から)

図版65 1区12層水田上面(12A)全景空中写真

図版66 1区

1.12層水田上面(12A)全景(南東から) 2.12層水田上面(12A)全景(北西から) 3.10層上面出土の墨書土器(P7) 4.SR10603右岸、12層侵食部分出土の駿東環(P1) 5.SR10603右岸、12層侵食部分出土の駿東環(P2)

図版67 1区12層水田擬似畦畔B(12B)全景空中写真

図版68 1区

1.12層水田擬似畦畔B(12B)全景(東から) 2.12層水田擬似畦畔B(12B)全景(南西から) 3.12層水田擬似畦畔B(12B)全景(北西から) 4.12層水田擬似畦畔B(12B)圧密(W390)(J183) 5.5層河道跡SR10603河床出土の用途不明木製品FU49(I184グリッド)

図版69 1区12層水田を覆う泥炭層の中で生じた断層断面

- 1.逆断層断面（I 185グリッド杭付近） 2.正断層断面（I 187グリッド北西部；西から）
3.正断層断面（I 187グリッド北西部；西から）と段差地形

図版70 1区12層水田を覆う泥炭層の中で生じた断層断面

- 1.正断層断面 2.正断層断面と段差地形 3.正断層断面と段差地形地割れの中に堆積し粘土層をそのまま残した状態

図版71 3区5-2-1層水田上面（05A）全景空中写真

図版72 3区5-2-1層水田上面（05A）

- 1.南東部付近全景（西南西から） 2.南部全景（西南西から） 3.小区圃水田検出状況（F 164グリッド付近；北東から） 4.不整形水路跡SD30505検出状況 5.不整形水路跡SD 30505（E164；東から） 6.整形水路跡SD30508・溝内の足跡（F166グリッド；西南西から）

図版73 3区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）全景・3区5-2-2層水田上面（05B'）全景

図版74 3区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）・3区5-2-2層水田上面（05B'）

- 1.全景（西南西から） 2.全景（北西から） 3.5-2-2層水田の南北小畦畔⑥検出状況（D 162グリッド；南から） 4.5-2-2層水田の南北小畦畔⑥と横断面（D162グリッド；南から）

図版75 3区5-2-2層水田擬似畦畔B（05C）全景空中写真

図版76 3区5-2-2層水田擬似畦畔B（05C）

- 1.全景（北西から） 2.西半部全景（南東から） 3.中央部全景（南東から） 4.東半部全景（南から）

図版77 3区5-2-2層水田擬似畦畔B（05C）

- 1.調査区北西部の擬似畦畔B検出状況・右手に東西中畦畔8（南西から） 2.調査区西部の擬似畦畔B検出状況・右手に東西中畦畔14（西南西から） 3.E160グリッドでの東西小畦畔10の擬似畦畔B検出状況（西南西から） 4.D161グリッドでの東西小畦畔14の擬似畦畔B検出状況（西南西から）

図版78 2区5-2-1層水田上面（05A）全景空中写真

図版79 2区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）調査区南東部全景空中写真

図版80 2区5-2-2層水田上面（05C）全景空中写真

図版81 2区5-2-2層水田擬似畦畔B（05D）全景空中写真

図版82 2区5-2-1層水田上面（05A）

- 1.南中東部全景（西から） 2.南東部全景空中写真 3.南東部全景（南から） 4.南東部全景（東から）

図版83 2区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）

- 1.5-2-1-2層間層粒子検出状況（南東部全景；東から） 2.間層粒子検出状況（南から） 3.間層粒子マーキング状況（東から） 4.間層粒子マーキング状況（南から）

図版84 2区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）（間層粒子マーキング状況）

- 1.南東部全景空中写真 2.南東部全景（南から） 3.H178・179グリッド付近の状況（西から）

図版85 2区5-2-1層水田擬似畦畔B（05B）（間層粒子マーキング状況）

- 1.H178・179グリッド付近の状況（北東から） 2.I179グリッド杭の南部付近の方形小区画擬似畦畔Bの検出状況（北から） 3.2の近接写真（北から）

- 図版86 2区5-2-1層水田擬似畦畔B (05B) (間層粒子マーキング状況)
 1. I 179グリッド杭南西側の東西擬似畦畔Bの近接写真(横断面46:北から) 2.1の近接写真(北西から) 3.1の東側の延長部分(I 180グリッド杭付近:北西から)
- 図版87 2区5-2-1層水田擬似畦畔B (05B) (間層粒子マーキング状況)
 1. I 180グリッド杭西側付近の状況(断面27の反対側:北東から) 2.1の断面部分の近接写真(北東から) 3. I 180グリッド杭北側付近の状況(西から)
- 図版88 2区5-2-1層水田擬似畦畔B (05B)
 1.推定畦畔全景(北東から) 2.推定畦畔全景(北西から) 3.推定畦畔全景(南西から) 4.2の左手部分の近接写真(西南西から)
- 図版89 2区5-2-2層水田上面(05C)南東部擬似畦畔B
 1.溝状遺構群検出状況全景(北東から) 2.溝状遺構群検出状況(北東から) 3.溝状遺構群検出状況(北東から)
- 図版90 2区5-2-2層水田上面(05C)南東端部
 1.溝状遺構群検出状況(H 179グリッド:南から) 2.溝状遺構群検出状況(H 179グリッド:北西から) 3.溝状遺構群検出状況(H 179グリッド:北西から)
- 図版91 2区5-2-2層水田上面(05C)南東端部溝状遺構群
 1.溝状遺構群検出状況(H 179グリッド:南から) 2.SD20502検出状況(H 179グリッド:北から) 3.SD20508検出状況(I 179グリッド北東部:南から)
- 図版92 2区5-2-2層水田上面(05C)
 1.溝状遺構群全景(南西から) 2.溝状遺構群検出状況(西北西から) 3.溝状遺構群検出状況(I 179・180グリッド:西から) 4.出土陶器片(P 25)(13世紀常滑壺) 5.出土陶器片(P 3)(13世紀常滑壺)
- 図版93 2区5-2-2層水田上面(05C)南東主要部空中写真
- 図版94 2区5-2-2層水田上面(05C)
 1.南東部擬似畦畔B検出状況(北西から) 2.南東部擬似畦畔B検出状況(南東から) 3.東端部擬似畦畔B検出状況(J 179グリッド:東から)
- 図版95 2区5層水田
 1.5-2-2層水田擬似畦畔B (05D)南東主要部全景空中写真 2.2区条里境界南北人畦畔の横断面[183](H 177グリッド北西部:北西から)
- 図版96 2区5-2-2層水田擬似畦畔B (05D)
 1.東端部・溝状遺構群完掘状況 2.南東端部・溝状遺構SD20501完掘状況(北西から) 3.南東端部・溝状遺構SD20507完掘状況(北から)
- 図版97 2区
 1.5-2-2層水田下面(05D)足跡群(I 179グリッド:北から) 2.5-2-2層水田下面(05D)足跡群(I 179グリッド:北東から) 3.6層灰色粘土下面・7層泥炭上面での東西方向足跡遺構の検出状況(I 178グリッド北東部:北から) 4.7層泥炭上面での足跡群(H 175グリッド:北東から) 5.7層泥炭上面での足跡群(I 179グリッド:東から) 6.5-2-2層水田下面(05D)竹製品遺構SX20511(I 179グリッド:北西から) 7.5-2-2層水田下面(05D)SX20511解体状況(北から) 8.5-2-2層水田下面(05D)SX20511解体状況(西から)
- 図版98 1区5-2-1層水田擬似畦畔A (05A)

図版99 1区5-2-1層水田擬似畦畔A (05A) 全景

1.東から 2.北西から

図版100 1区5-2-1層水田擬似畦畔A (05A)

1.中西部全景(東から) 2.東西大畦畔SK10503検出状況(東から) 3.東西大畦畔SK10503検出状況(西から)

図版101 1区5層

1.5-2-1層水田擬似畦畔A (05A) 北西部小区函水田遺構検出状況(東から) 2.5-2-1層水田擬似畦畔A (05A) 北西部小区函水田遺構検出状況(北西から) 3.3層泥炭の流動状態(J185グリッド北西部;南東から)

図版102 1区5-2-1層水田上面(05B) 全景空中写真

図版103 1区5-2-1層水田上面(05B) 全景

1.東から 2.西から

図版104 1区5-2-1層水田上面(05B)

1.全景(南西から) 2.東半部全景(西から) 3.南中部(H187グリッド付近;南西から) 図版105 1区5-2-1層水田上面(05B)
1.北中部(J186グリッド付近;南西から) 2.北西部(K183グリッド付近)と上層断面[2の反対側](南西から) 3.北西部(K185・186グリッド付近;北から) 4.南東部(H190グリッド付近;南から)

図版106 1区5層水田

1.東西大畦畔横断面(東から) 2.5-2-1層水田上面(05B) 箸状木製品(HA2)出土状況(東西大畦畔SK10503と南北小畦畔22の交点;K186グリッド南西部)(南から) 3.5-2-1層水田上面箸状木製品(HA96)出土状況(東西40と南北42の小畦畔交点) 4.5-2-1層水田上面中南部東西小畦畔31東脇出土小刀(K17)

図版107 1区5-2-1層水田上面(05B)

1.擬似畦畔B 東西小畦畔29の検出状況(中部;H186グリッド北東部;南東から) 2.東西小畦畔の擬似畦畔Bの検出状況(北西部;K182グリッド南東部;南東から) 3.HA102出土状況(J184グリッド南東部) 4.HA80出土状況(東西小畦畔23上面付近;西から)

図版108 1区5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)・中世河道跡SR10603全景空中写真

図版109 1区

1.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)・中世河道跡SR10603完掘状況全景(南西から) 2.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)・中世河道跡SR10603完掘状況全景(南東から) 3.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C) 溝状遺構群SD10501等確認状況(横断面S5;J183グリッド北部;南東から) 4.SD10501完掘状況(東南東から) 5.中世河道跡内上層器坏(P8)出土状況(J184グリッド中南部) 6.中世河道跡岸部杭(W429)出土状況(J185グリッド北端部;土塚体の中部)

図版110 1区

1.中世河道跡確認状況全景(南西から) 2.中世河道跡完掘状況全景(東南東から) 3.河道跡出土横櫛(SE8)(J185グリッド) 4.河道跡出土鉄鏝(K15)(K186グリッド) 5.5-2-2層水田下面SD10501出土鉄鏝(K14)(J183グリッド) 6.中世河道跡出土鉄鏝(NO6)(H188グリッド中東部) 7.7層出土四ツ手網杵材(SE10)(K184グリッド)

図版111 1区中世河道跡

- 1.西側流路横断面（土層帯1：手前94の反対側、中央東西土層帯：奥33-34：南西から）
- 2.西側流路横断面（中央東西土層帯：奥33-34：南から）
- 3.西側流路横断面（土層帯2：手前99-98の反対側、中央東西土層帯：奥33-34：南から）
- 4.東側流路中央部横断面（中央南北土層帯北部：99-100：西から）

図版112 1区中世河道跡東側流路

- 1.右岸付近横断面（中央南北土層帯南部：100：西から）
- 2.左岸付近横断面（東側壁面土層帯北部：101：西から）
- 3.中央部横断面（東側壁面南北土層帯：102：西から）
- 4.右岸付近横断面（東側壁面南北土層帯南部：103-104：西から）

図版113 3区

- 1.1層水田上面（01A）河道跡SR30103（旧安東川）確認状況（北西端部：南西から）
- 2.1層水田上面（01A）河道跡SR30103（旧安東川）完掘状況（北西端部：南西から）
- 3.1層水田上面（01A）河道跡SR30103（旧安東川）完掘状況（北西端部：北西から）
- 4.1層水田上面（01A）河道跡SR30103（旧安東川）完掘状況（北西端部：南東から）
- 5.1層水田設置された畔畔脇の矢板護岸（北西部）

図版114 3区1層水田上面（01A）

- 1.溝状遺構SD30101南部検出状況とタガ（YO6）（調査区南東部：北から）
- 2.溝状遺構SD30101完掘状況（調査区東部：南東南から）
- 3.タガ（YO6）（調査区南東部：北から）

第 I 章 位置と地理的・歴史的環境

上土遺跡（立石地区）は、静岡市の市街地の中心から北北東へ約4kmにあり、静岡平野北部の麻機低地の東部に広がる遺跡である。

上土遺跡（立石地区）の位置する静岡平野は、西部を高草・安倍の各山地と北部を賤機・麻機・沼上・瀬名・高部・庵原の各山地に囲まれている。いずれも、南北方向に尾根をもつ古生層の山地である。この安倍山地と賤機山地の間を南流する安倍川が形成した平野が、静岡平野である。

この平野の特色として、以下の5点をあげることができよう。

- ①約10万年前から隆起運動をはじめた有度丘陵（標高307m）を南東部にもち、その反対に北西部の平野は沈降運動をしていること。
- ②平野を形成させるのは主に安倍川と東流する藁科川であり、これらは「東海型河川」ともいわれ、大龍川・大井川・宮上川とともに、大量の砂礫を供給する砂礫掃流河川である。そこで、安倍川は現在の河口付近まで扇状地が発達している。
- ③扇状地末端の被圧地下水の噴出と周辺の山地・丘陵からの流水を集めるのが平野北部を東流する巴川であり、有度丘陵西部を南流する大谷川である。これらの河川の流域が、三角州平野となっている。とりわけ沈降運動を示す平野北西部の麻機地区が最も低湿であり、最低標高は約6mである。さらに、南東から北西に傾動隆起する有度丘陵の北西端部をめぐる大谷・池田・長沼・島坂・長崎の各地区にも、埋め残しの低湿地（三角州平野）を形成している。
- ④安倍川扇状地の主な発達方向が、安倍川の方向を規定する賤機山地の方向である南南西方向ではなく、南～南東方向であるのは、賤機山地南端部付近に北西方向から合流する藁科川の影響を受けるためである。
- ⑤また、この南～南東方向に主軸をもつ扇状地の末端は、賤機山地南端部と有度丘陵との間に存在する3つの独立丘陵（古生層の谷津山・八幡山・有東山）によって、扇状地の拡大が阻止され、扇端部から手の指のようにのびる自然堤防は、これらの独立丘陵の間を通過してのびている。上土遺跡の位置する麻機低地にも、西から池ヶ谷、北安東、千代田の3つの自然堤防が北北東～北東方向にはほぼ直線的に伸びている。しかし、北安東自然堤防の延長部分に上土遺跡が位置するといえども、自然堤防堆積物は、この遺跡までは到達していない。この南～南東方向に扇状地性の堆積物、北東部に埋れ残しの三角州低地があるというパターンは、大井川平野の大井川扇状地と瀬戸川流域の低湿地という対応関係と類似している。

以上のような地形環境の特色をふまえ、上土遺跡が立地する静岡平野北部の地形環境の形成過程と弥生時代から現代までの遺跡立地の動向をのべる。

上土遺跡は、埋め残しの三角州平野に位置し、しかも麻機低地のほぼ中央であり、沈降運動の中心付近でもある。砂礫を押し出す安倍川や長尾川から離れ、ここまでは砂礫の堆積物はほとんどこない。少なくとも上土遺跡を調査した範囲の、過去2000年の間ではそういえるだろう。すると、絶えず低湿地のままであったかという現代まで、4回の乾燥化の時期があったようだ。第1期は弥生中期後葉から古墳前期まで、第2期は古墳後期から平安時代初頭まで、第3期は鎌倉時代を含む中世、第4期は16世紀から現代である。第4期は、いわゆる近世の「新田開発」の時期である。年率2～3mmの沈降を示す麻機低地であっても、これらの4時期は水田が開かれ耕地として機能していたと考えられる。このことは、当研究所が調査した麻機低地西部の池ヶ谷遺跡の調査でも明らかである。この低地で、近世の「新田開発」

段階でも、最も低湿であった北東部の「浅畑沼」周辺の丘陵に群集墳が多数発見されているが、これらの古墳を管んだ人々の生活基盤を考える上でも、麻機低地での水田耕作が、周期的な乾陸化と深く結びついていることを指摘したい。また、この第2の乾陸化の時期に、静岡平野のほぼ全域で条里型水田が開発され、しかも統一広域条里として、きわめて高い精度で条里メッシュを組む施工がされたようである。これは、静岡バイパスの諸遺跡の調査や静岡平野中南部の山金北遺跡、小鹿杉本掘合埴遺跡等の調査から、推定しうることである。

なお、これらの乾陸化の原因は、降水量の増大によって盛んになった堆積作用による湿地の埋め立てと地下水位の低下と考えられる。逆に、湿地化の原因は前述の、地盤の沈降作用の他に地下水位の上昇が考えられよう。これらの時期には遺跡付近は泥炭を形成させる湿地が広がり、水上交通が発達したと考えられる。上土遺跡の東に位置する川合遺跡は、古代の安倍郡衙関連遺跡とも目されるが、麻機低地と巴川を結ぶ交通の要衝に位置すると考えられる。

上土遺跡（立石地区）では、このような乾陸化と湿地化が交互に繰り返されるなかで、水田の開発・再開発と放棄・廃絶が行われたと考えられよう。

第Ⅱ章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

<調査区の設定>

上土遺跡の発掘調査対象地区は県道山脇古庄線の西側に東西約400m、南北約70mの帯状をなしている。その為、調査対象地域をその地域を横切る農道、用水路を境として3つの区画に分割し東側より1区、2区、3区と名称を付した。

<グリッド配置>

調査対象区域には全体にわたり国土座標軸（第Ⅷ座標系）を利用した10m×10mのグリッドを設定した。グリッド設定にあたっては隣接する岳美遺跡、池ヶ谷遺跡との比較検討を容易にするため、池ヶ谷遺跡1区西南のX=-110950軸、Y=-10600軸の交点を調査区座標原点とし、X軸は南から北にA、B、C・・・ Y軸は西から東に向かい0、1、2、・・・とアルファベット、番号を付した。

<現地発掘調査事務所の設置>

調査開始とともに、その拠点とするため、現地調査事務所を1区南側に設置した。また作業員棟として3区南側に平屋のプレハブ棟を設置し併せて資材置き場、駐車場を整備した。

<安全対策>

調査にあたっては次の様な安全対策を講じ作業の安全確保に努めた。各調査区をフェンスバリケードで囲い看板を設置し出入口にはチェーン錠を取付、調査事務所、作業員棟には警報装置を設置し警備会社との間で警備契約をむすんだ。また日祭日等の休業日には安全パトロールを実施するとともに随時点検、整備をおこなった。

本調査区域は県道山脇古庄線（通称 流通センター通り）に隣接し交通量が多く車両の出入り等の安全を図るため調査区入り口には必要に応じて警備員を配置した。また、当地区は麻機低地に属し洪水の常襲地域であり、周囲には被圧地下水による自噴井群が存在するため多くの湧水があり水対策には万全を期す必要があった。そのため各調査区には法面内側に排水を兼ねたトレンチを巡らせ集水枡を設けポンプにより強制排水をおこなった。

調査区法面は浮き石等の落石対策と降雨、湧水による崩壊を防ぐために法面全面をブルーシートで覆

い、土囊をつみ上留め対策もおこなった。台風、梅雨期には随時対策を講じ待機し不測の事態にそなえた。なお、当地区は周囲を農地に囲まれており工事用道路の造成や調査区の設定により水路の変更を強いられる箇所もあり現地との話し合いに基づいて水路の変更等の対策を講じ、個々の問題については必要に応じて話し合いの上対策を講じた。

<発掘の基本工程>

調査は基本土層を設定し、七層から1層、2層・・・と数字で表記し、細分した場合は-1と枝番を付した。基本七層は出来るだけ各調査区で共通したものとした。表土、中間層の除去は重機で行い、その後はベルトコンベアを使用し人力で掘り下げ精査を行った。排土は各調査区内に仮置き場を設定し定期的に搬出した。

本調査に先だって1区集水橋地点においてプラント・オバール分析を実施し水田遺構の層位把握に努めた。

<記録>

記録は遺構、遺物ともに種類別に記号・番号を付し実測と写真撮影をおこなって台帳に記入し、整理の段階で遺構カード、遺物カードを作成している。

整理作業にともなって分類の変更を必要とするものもあるが、混乱をさけるために、原則として現地での番号を尊重した。ただし一部調査区毎に不統一があった為記号、番号の付しかたを統一した。

遺構についての実測図は縮尺1:20を基本に作成したが、必要に応じて縮尺1:100、1:200で記録したのものもある。

調査区全体の平面図作成に当たってはクレーンによる空中写真による写真測量を実施し縮尺1:20、1:100の図面を作成した。

土層断面図は縮尺1:20を基本に作成し調査区常設トレンチと必要に応じてサブトレンチを設け記録した。

出土遺物はその遺物の大きさ、性格などにより原寸から1:20まで縮尺で作成し、必要に応じ縮尺1:100で分布図を作成した。また今回は1部パソコンCADを使用した図面の作成等も試みている。

<写真記録>

写真は現地調査においては6×7版、35mmモノクロ、35mmカラースライドを使用し必要に応じて4×5版も使用した。このほか35mmカラーネガで調査工程の記録をおこなった。

全景の撮影にはローリングタワー、ハイライダからの斜景撮影を行ったほかクレーンによる空中写真も実施した。

出土遺物については整理の段階で専門家に依頼をし本研究所以外野整理事務所にて6×7版カメラを用い撮影を実施した。

<各種分析>

調査においては前述したプラントオバール分析のほか調査の各段階において自然科学的分析を専門家、研究機関に依頼し多くの助言、指導を得た。

第2節 調査の経過

上土遺跡（立石地区）は、調査区を1～3区に分け、それぞれの調査区で5層水田、12層水田、15層水田の調査を中心に行った。また、3区では、1層の河道跡と溝状遺構を調査した。なお、それぞれの水田遺構の調査では、基本的に上面（埋没時の水田遺構）と下面（開発時の水田遺構）をとらえることにとめた。

調査は以下に述べるように1区から先行して行われ、続いて2区が始まり、3区は表土除去が遅れて本格的な調査は平成5年4月から開始され、平成6年3月に完了した。

平成4年度

9月～3月

現地調査に先立ち、9月下旬から、調査区内草刈り、周辺水路・側溝の清掃、調査区南側ダンプ道路造成工事を始めた。10月12日に1区北東隅と北西隅の集水槽の予定箇所を試掘坑として深掘りし、土層の確認を行った。翌日から1区の表土除去を開始し、11月に入って表土除去と並行して、遺構の精査を開始した。ただし、1区は、現在の水田の嵩上工事に、先立って行なわれた掘削工事によって、攪乱を受けたため、5層水田は調査区北西部と0.5～1.5m位の幅の帯（近代耕地整理水田の畦畔〔用地境〕の位置に一致する）数本以外は破壊されていた。

12月上旬から2区の表土除去を開始した。1区と同様、ほとんどの部分で9層泥炭上面まで攪乱が及んでおり、深い部分では12層の条里水田をも破壊していることがわかった。なお、12月中旬から本部棟プレハブ建設を行い、下旬に完成した。

1月も引き続き、1区、2区ともに表土除去、トレンチ掘削を行い、1区についてはほぼ表土除去を終えた。2月になって1区では、上層水田の5層上面の調査に入った。中旬に3区南側に作業員休憩用のプレハブを建てた。

1区では、調査区中央部で東西方向に5層水田の大畦畔SK10506が検出され、近世の新田開発以前の中世水田と考えた。調査区内は攪乱の影響を多く受けていて全面的には遺構をとらえられなかったが、耕作土である5-2-1層の上層である5-1層上面を、5-2-1層水田擬似畦畔Aとして起伏をとらえ、3月上旬に初めての写真測量を行った（05A）。その後、5-2-1層上面検出作業に入り、下旬に5-2-1層上面の写真測量を終えた（05B）。

2区では、3月上旬に表土除去を終了し、5-2-1層水田上面の検出作業に入った。下旬に5-2-1層上面の写真測量を行った（05A）。

3区は3月から本格的に表土除去に取りかかり、4月から調査を進める準備を行った。

平成5年度

4月～6月

<1区>

前年度に引き続き、5-2-2層水田下面の精査を行ない、旧河道SR10603と溝状遺構数本の検出作業に取りかかった。SR10603の遺構としての性格を見極めるために、数箇所にとレンチを設定した。断面を観察したところ、6層を下刻して河道が形成された後、河道が埋積し、しばらくしてその上面に5-3層が自然堆積し、そこで耕作が行なわれたと推定した。また、SR10603の範囲が不明確だった南東部ではサブトレンチを数本設定して、SR10603の河道範囲と覆土の状況を調べた。北東部についても断面観察を行なったが、北東部は全域河道内であると考えた。河道外の南東部については5-2-2層下面の精査を行った。SR10603の掘り下げ作業を進めながら、平面的な河道の広がりや覆土の観察により、南西部から中央部へ、と中央部から南東部への2つの流れが想定できると考えた。

<2区>

主に攪乱の影響を受けていない南東部（490㎡）の調査を行った。中世水田の耕作上層である5-2-1層下面の精査を行なった。その結果、5-2-1層の白色粘土塊の斑模様は帯状に現れ、肉眼でも判別できるいくつかの区画を構成した。この帯状の白色粘土塊の斑模様は耕作による攪拌の影響を受けずに残存し

た、5-2-1層水田の疑似畦畔Bをとらえて、客観的な検討をするために白色粘土塊すべてをマーカーキングした(05B)。平面実測、写真撮影の後、1~2cmの掘り下げを行なうと、区画がより鮮明に観察された。検出した疑似畦畔B付近に対して、直交する10数本のサブトレンチを設定して断面を観察し、ほとんどの断面で白色粘土塊が集中していることが確認できた。

さらに5-2-2層上面の精査を行なったところ、上記の疑似畦畔Bの脇付近に溝状遺構が数本検出された(05C)。5-2-1層水田の疑似畦畔Bの直下付近で溝状遺構を埋めた白色粘土塊が検出されたことに対して、畦畔と溝状遺構の判別方法について検討課題が残った。これについては、本報告書の「第V章まとめ」(第208図)で、検討している。基本的には耕作上下の自然堆積層である灰白色粘土層(6層)が切られている場合を溝状遺構と認定することとした。そして南東部で5-2-2層をスライスし、SD20501・20502・20503の3本の溝状遺構を検出した。特にSD20503は、6層を切って7層上面まで達していることがわかった(05D)。なお、この南東部490㎡の上層水田遺構面で3回写真測量を行った。

<3区>

4月上旬に表土除去を終了した。3区は1、2区と比べて攪乱が少ないため、1層上面の調査を開始した。1層の平面精査中、溝状遺構SD30101を検出した。明治期に作成されたと考えられる旧地籍図に記載されている水路と同位置で検出されているものである(01A)。1層精査終了後、5-1層上面精査を行った。北西部では旧河道SR30103を検出したが、旧地籍図により、旧安東川の流路跡と判明した(01A)。6月に入って、5-2-1層水田上面の平面精査と並行してSR30103の河道検出作業を行う。

7~9月

例年にない冷夏で、この3ヶ月は雨天・台風の日が多く、法面養生や水抜きといった作業が増えたため、工程の遅れを招いた。

<1区>

主にSR10603の検出作業を行う。南西部の土層断面の観察の結果、河道の覆土は薄く、2つの層(①層・②層)に分けられ、さらに厚い沼地の堆積物5-3層が、その上に乗っていることがわかった。河川の流水堆積物は少なく、河川活動が終息した後に沼地化していったと考えられる。7月下旬にはほぼ完掘と考えていたSR10603は当初想定していた河床がさらに下部であったことが判明し、掘り下げを急いだ。8月中旬にSR10603を完掘し、河床からは木製品では田下駄、泥除け具、横櫛、曲物、火鎌白、權杖木製品。土師器の坏や土錘、砥石、貝などが出土した。さらに、河床を精査すると12層の耕作土を覆上とする条車型水田の方向性をもつ溝状遺構SD11201が検出された。この溝状遺構の覆土の調査も続けて行なった。この溝状遺構の覆土からは、奈良時代前半の転用碗が出土し、12層水田の年代観を推定させる貴重な成果となった。このようにSR10603とその河床から検出されたSD11201とともに精査、完掘した後、写真測量を行った(05C)。8月中旬以降はSR10603以外の範囲で自然堆積層である6~9層を掘削した。掘削の際、工程短縮のため一部重機を導入した。また、南北中央トレンチで確認した正断層SX11201については、8層、9層で平面実測を行った。その後10層上面検出作業に入った。10層も自然堆積層であるが、上面に838年噴出の伊豆神津島天上山火山灰(1z-Kt)が数mmの厚さで堆積しているため、この火山灰を平面で検出しようとしたわけである。そこでは、10数cm下部にある12層の上部の水田(条車型水田)の疑似畦畔Aをとらえようとしたが、肉眼では確認できなかったため、火山灰をはがして等高線図の作成を行う。断面でも12層における畦畔上の高まりを認めることができず、その下の11層(暗灰色粘土)の精査を進めながら、11層下面で12層水田上面の茶褐色粘土をマーカーキングして写真測量を行った(12A)。

<2区>

6層七面写真測量を行った。7～9層の自然堆積の泥炭層を掘り下げ、10層上面の調査に入った。5～6層までは、攪乱のため南東部のみの調査であったが、10層ではほぼ全域に調査を進めることができたようになった。10層上面の火山灰を平面で検出し、条里型水田（12層の上部の水田）の擬似畦畔Aをとらえる目的で、1区と同様等高線図を作成し、写真測量を行った（12A）。その後、条里型水田の耕作上である12層の上面検出、精査に入った。12層上面を検出する上で、特に北西部と南東部において11層から丹念に平面をスライスし、12層上面の粘土の検出作業に取り組んだ。かなりはっきりした状態で、東西方向と南北方向に条里型水田の境界線にあたる大畦畔を検出し、11層を除去したところ、小畦畔の高まりも確認でき、写真測量を行なった（12B）。次いで、12層下面の調査を開始した。工程を早めるために重機を導入して12層の掘削、人力と並行して精査を行った。12層下面の精査では、条里型の大畦畔に属する敷板列や杭列だけでなく、条里型ではない方向性の小畦畔の痕跡と思われる高まりと敷板列・杭列がいくつか検出された。これらは、前者は12層の上部の条里型水田の大畦畔の痕跡であり、後者は条里型水田以前の水田の小畦畔の痕跡と推定される。この面は、12層水田の耕作上下面であり、擬似畦畔Bの検出面としての調査（12C）であったが、第IV章でも述べるように、擬似畦畔Bの新たな問題点を提起することになった。畦畔を解体する過程で、敷板を中心に木製品がまとまって出土した。12層下面での写真測量（12C）を終えて、重機による1mに及ぶ中間層（13層）除去を月末から始めた。

<3区>

旧安東川SR30103の横断面の上層審実測を終えた。5-2-1層水田上面では、大畦畔や小区画水田とそれに伴う溝状遺構が検出された。南北方向に流れていたと考えられる溝状遺構SD30504、30505を検出した。溝状遺構の覆土はいずれも調査面上層の自然堆積層（5-1層）で、一部で侵食地形も見られたため、洪水などで畦畔、田面の一部を浸食したと考えた。遺構の検出されなかった範囲は、1層（近現代）水田の耕作の影響を受けていたと考えられた。5-2-1層上面については写真測量を行った（05A）。次いで、5-2-1層水田の耕作上を精査していくと、その下位から5-2-1-2層の白色粘土塊の斑模様帯状に現れ、5-2-1層水田の畦畔の下位であったために、耕作されなかった部分、擬似畦畔Bと認定した（05B）。

なお、この5-2-1層水田の擬似畦畔B（05B）が検出された範囲は、5-2-1-2層の比較的厚く分布する区域に限られたため、同時に、それ以外の部分では、薄い5-2-1-2層をはずし、5-2-2層水田上面を精査し、畦畔遺構を検出した（05B'）。工程上の理由から、これらの2つの検出面を同時に写真測量をした。

さらに下層の5-2-2層中の白色粘土は、6層のものと考え、平面で白色粘土ブロックの連続性が認められたため、畦畔痕跡として検出した。確認のため、サブトレンチを入れたところ、6層の白色粘土がはっきりと残存していた。そこで、5-2-2層下面で、5-2-2層水田の擬似畦畔Bの検出を行なった（05C）。

10～12月

<1区>

12層水田下面の調査を行なう。下位の13層灰色粘土の巻き上げブロックを平面で検出し、ブロックをマーキングして写真測量を実施した。その後、中間層除去に入るが、中央部で大量の水が湧き、排水に苦慮した。1m近い中間層である13層は重機で除去したが、杭列などの検出や起伏をとらえるために残りの厚さ10cmのところで重機掘削を止めてその後は慎重に人力で掘削した。11月上旬に中間層除去を終えた。ここでは調査区内にかなりの高低差が確認できた。特に調査区西部には西から微高地上に続く高まりが、途中で大きく落ち込んでいた。下層の14層は厚さ3cm程の黒色腐植土であるが、各トレンチの断面を観察したところ、14層の黒褐色腐植土と15-1層の黄褐色腐植土の違いは理解しやすいが、平面での検出作業ではその差がわかりにくくかなり慎重に精査を行って15-1層上面を検出した。ここは、15-2-1層水田の上層にあたり、擬似畦畔Aと考えられたため、等高線図を作成した（15A）。写真測量後15-1

層を掘り下げて、15-2-1層水田上面を検出しようとした。前述の通り、調査区西部では南北方向に2本の大畦畔と推定される高まりとその間に溝状の落ち込みがみられた。この2本の畦畔状の高まりの傾きに対して調査区東側に向かうにつれ畦畔の傾く角度が大きくなっていくようであった。1区では、15-2-1層は、15-1層のような黄褐色泥炭の水平堆積がみられ、下部(15-2層)は上部より粘り気があり、黒色の度合いが強い。15-2-1層と15-2-2層とを断面で分層できても、15-2-2層上面を平面でとらえることは困難であった。そこで、16層上面に堆積した火山灰が耕作によって15-2-2層中に巻き上がり、畦畔ではその巻き上がった火山灰がブロック状に残るだろうという推定のもとに、15-2-2層上面に分布する15-2層中位火山灰のマーキングを行って畦畔の方向性を確認する作業を行った。

<2区>

10月下旬までで中間層除去を終えて月末から14層の表面精査を行った。その後、15-1層上面精査を行った。1区と同様15-1層はプラント・オパールの数値が低く、15-1層上面の帯状の高まりは、15-2層水田の擬似畦畔Aと考えた。15-1層の検出は当初14層の黒褐色腐植土を徐々にスライスし、茶褐色腐植土である15-1層の高まりを検出しようとしたが、14層中には15-1層に類似した極めて薄い層が含まれているため、高まりの検出が困難であった。そこで、トレンチの断面から確実に15-1層と確定できるところまで14層をはずして15-1層の起伏を出し、等高線図を作成した(15A)。その後、2区もほぼ1区と同じ様な理由から同じ要領で15-2層中の火山灰精査を行い、15-2-1層水田の擬似畦畔Bの検出作業を行なった(15B)。中には、畦畔をなすと思われる並びの検出も見られ、さらに、出土した木製品の上に火山灰が検出された箇所もあった。また、調査区北西部を東西方向に走る枕列大畦畔上からは、多量の弥生時代中期後葉の土器片が出土した。

<3区>

9月上旬に5-2-2層水田下面の精査を行い、写真測量を行った(05C)。5-2-2層下面で検出された擬似畦畔Bからうかがえる5-2-2層水田の遺構は、上位の5-2-1層と比べて不規則な小区画水田であった。また、調査区南側中央部から東側にかけて、黒泥の堆積した溝状遺構SX30502が検出された。これは、12層調査の段階で、地割れ群の直上に形成された段差痕跡であると推定された。その後、電機を導入して7~10層の泥炭層を人力と併せて掘削した。さらに条里型水田耕作土(12層)の上層である11層の上面精査を開始したところ、南東部で断層があることが分かり、その検出を行うことも必要となった。11層上面を精査し、ここで写真測量を行ったが、条里型水田の擬似畦畔Aとしてとらえている(12A)。南北の大畦畔を中心にして規則性を持った区画が部分的に検出された。さらに断層の精査、実測、重機による12層下面までの掘削、12層下面検出作業を始めた。大畦畔を解体すると、多くの木製品が出土した。断層については平面で精査、実測、断面のはぎ取りを行った。12層下面は条里型水田より前の水田と条里型水田の、それぞれの擬似畦畔Bが混在していると考えた。12層下面の中で13層の灰色粘土ブロックを検出しようとしたが、スライスしていくと灰色粘土ブロックが広範囲に広がってしまったため、ブロックの中でもこぶし大より大きいものだけマーキングして擬似畦畔Bの推定を行うこととした(12B)。12月に12層下面(12B)の写真測量を行った後、大畦畔の解体、遺物の取り上げを行って、厚さ1.15mの中間層(13層)の除去を重機で開始した。

1~3月

<1区>

引き続き15-2層中位の火山灰を検出し、写真測量を行った(15B)。次いで、16層上面の検出作業を行い、15-2-2層水田の擬似畦畔Bと考えて写真測量を行った(15C)。検出方法は15-2-2層下面の精査で16層の黄褐色腐植土の高いレベルで検出できた部分を擬似畦畔Bと考えてブロックをマーキングした

(15C)。この15-2-2層水田の擬似畦畔Bの方向性は以前15-1層上面で推定した15-2-1層水田の擬似畦畔Aとほぼ同様であると考えられた。ただし、このように検出された高まりが水田経営のための人工によるものでなく、地震などの自然現象で隆起した可能性もいくつかの断面で観察できた。また、こうした高まりの下層には19層（大沢スコリア）、20層上面（カワゴ平バミス）の層位のズレが認められたため、何箇所かで断面の実測と断面のはぎ取りを行った。調査区西部の南北方向の2本の大畦畔状の高まりは杭列を伴うものであった。それらに直交したと思われる東西方向の杭列も、検出された他の調査区の杭列と比べると不規則で下層の17層上面付近で折れ曲がっているものが多かった。その後、16層掘削作業に入り、自然地形をとらえる目的で17層上面のレベリングを行った。ここで、掘り下げ作業を全て終え、調査区北西部の杭列の平面、断面の実測作業を始めた。杭列断面の掘削は重機を用い、杭列のいくつかの断面は写真測量で実測を行った。3月初めに杭列部の実測、取り上げを終えて、現地調査を終了した。

<2区>

1区とはほぼ同様な経過、方法で15-2層中位火山灰を検出し、マーキングすることによって15-2-1層下面の擬似畦畔Bとして、小畦畔痕跡らしきラインを数本検出できた。調査区北中部の東西大畦畔SK21506からは約300点の上器片が出土し有東式の半字紋も多数見られた。調査区南東部からは道板と推定した長さ1m強の丸木4本が南北方向に平行に出土した。15-2層中位火山灰をマーキングした15-2-2層下面の写真測量後、16層上面の精査に入った。16層上面精査では15-2-2層の黒褐色腐植土の下面の中から16層の黄褐色の泥炭を検出、マーキングする調査であるが、土色の違いから検出は比較的容易であった(15C)。写真測量後、16層下部の精査を行ったが、北トレンチ北側には東西大畦畔杭列SK21506に並行して矢板列SK21501が検出され、引き続き杭列検出作業を行った。2月は主に杭列、矢板列部分の実測を行った。1区と同様杭列断面の掘削は重機で行い、平面、断面とも実測は写真測量を援用した。杭列部の実測、取り上げを3月上旬に終えて、現地調査を終了した。

<3区>

1月中旬まで中間層除去を重機によって行う。10cm程度残した13層（中間層）の灰色粘土を人力で除去して14層（黒色腐植土）の上面を検出しようとした。こぶ状の泥炭の高まりのある部分があり、15-2層水田の擬似畦畔Aではないかと考え、マーキングしたが、方向性などはよく分からなかった。その後15-1層上面で、15-2-1層水田の擬似畦畔Bの検出作業を行う。15-1層上面で写真測量（15A）後、15-2層上面の火山灰検出作業を開始。1、2区と同様な理由と方法で15-2層中位火山灰をブロックで検出し、マーキング、写真測量（15B）。さらに16層上面検出作業に入り、写真測量を完了した（15C）。前述の通り、16層上面を15-2-2層水田の擬似畦畔Bと考えたわけだが、1、2区よりも明瞭に、畦畔とみられるラインが確認できた。その後、杭列断面の掘削を重機で行い、杭列部分の実測にとりかかった。断面実測はステレオ写真による写真測量で行った。作業途中で調査区西側に南北方向に延びる杭列に対して直交する杭列が調査区北部で見つかったため、さらに実測を続けた。この杭列は法面を掘削すると検出長は10数mの距離でかなり頑丈に打たれたものであった。これらの作業を全て完了し、3月中旬に現地調査を終了した。

以上のように各区の現場調査を完了する間に、本部棟、資材棟、作業員棟を順次撤去し、それらの整地作業を3月18日に終えて、現地を完全に撤収した。

第Ⅲ章 層位的観察

第1節 基本層序の設定地点と深度・土層の大別について

上七遺跡立石地区は、昭和33年作製の静岡広域都市計画図の等高線を見ると、標高6.0～7.3mであり、麻機低地の最深部の南東部付近に位置する。東西方向の延長は約330m、南北方向では約30～35mという調査区をオープン・カットして調査を行った。現在の地表部の大半は、近年、嵩上工事が行われており、標高は8mとなっている。しかし、昭和33年作製都市計画図での耕地整理以前の標高値は、西から東へ順にみると、各調査区中央の標高では、3区が7.15m、2区が6.75m、1区が6.3mである。このように西から東へ、次第に低くなっているものの、約2900年前のカワゴ平軽石を挟む層の低位約50cmまでの3つの調査区の層相の変化は、基本的には、いずれも共通しているので、調査区の基本層序の設定地点を中央部の2区とした。ただし、区によって異なるものは別記した。

近年の盛土を除いた、戦後の耕地整理水田面からカワゴ平軽石を挟む層の低位約50cmまで、約3mを発掘調査し、この範囲の土層について、記述する。

基本的な層序は自然堆積層と作土層の区分、さらに自然堆積層の種類変化（湿地堆積か洪水堆積か）によって13のグループに大別して記述することにした。また、これらの大別層の名称は池ヶ谷遺跡・岳美遺跡の名称と対応させている。

第2節 基本層序の記述方法

基本層序の記述は、まず、大別した層のグループの概要について記述し、次いで、各グループ所属の各層の記述を行う。各種の自然科学分析の中でも、水田耕作層に関連が深いプラント・オパール分析については、それらの結果を各層位別に再編したものを合わせて掲載し、発掘調査結果との対応関係について検討した。

なお、記述の順序は下位から上位に、堆積順に述べる。また、層のグループはアルファベットの英文字で示し、層は算用数字で示す。また、調査区の報告順は、地形基本傾斜の方向にしたがって、南西から北東に、すなわち3区→2区→1区の順である。

記述項目は、最初に、「十色帖（『新版標準十色帖』農林省農林水産技術会議監修1967）による土色と、『野外土性の判定方法』ペドロジスト懇談会1984による土性*註を記述し、発掘現場での通称土層名を（ ）内でのべる。また火山灰【加藤芳朗氏調査による】については★印の後に概要を述べる。さらに、以下の6項目について特徴的なことから略記する。

*註 バリノによる土壌分析での土性の記述は、以下の略号を使用している。

〔粘土含量15%以下〕 S：砂土、LS：壤質砂土、SL：砂壤土、L：壤土、SiL：シルト質壤土

〔粘土含量15～25%〕 SCL：砂質壤土、CL：壤土、SiCL：シルト質壤土

〔粘土含量25～45%〕 SL：砂質土、LiC：軽土、SiC：シルト質土

〔粘土含量45%以上〕 HC：重土

①土壌の状態：a層…当時の地表を形成し、土壌化した層【ただし耕作土層ではない】、a'層…耕作土層（当遺跡では水田耕作上）、b層…自然堆積層（洪水・湿地の成因別の表示をする）。

②水平ラミナ：有・無

③視拌：有・無

表1 上土遺跡（立石地区）におけるプラントオパール分析試料採取地点一覧

3区			2区			1区		
西北	中北	東北	西北	中北	東北	西北	中北	東北
B,C			A,D			B,O I	P,Q,E F 6,F 5,F 4	A,J-1
西中	中央	東中	西中	中央	東中	西中 R,D K	中央 L,M,F 3 F 2,F 1 N 1 5,N 1 0	東中 N,J-2
西南	中南	東南 A,D	西南 E	中南 C	東南 B	西南	中南 C,N 5,W 1 3 W 1 0,W 6	東南 G,E 2 2 E 2 7,N 5

表2 上土遺跡（立石地区）における珪藻・花粉・土壌化学分析試料採取地点一覧

3区			2区			1区		
西北	中北	東北	西北	中北	東北	西北	中北	東北
E,B C	(D)	F	A			B-2 I	(E-2),F-1 (E-1),F-2	(A)
西中	中央	東中	西中	中央	東中	西中 B-1	中央 S	東中 N,J-2
西南	中南	東南 A	西南	中南	東南 B	西南 (D)	中南 (C)	東南

() は、試料採取は行ったが、分析をしなかった地点

*は土壌化学分析を行った地点。*印の地点を含め、() 以外の地点全てにおいて珪藻・花粉分析を実施した。

④粘性：強・弱

⑤腐植：多・少と混人物

⑥プラント・オパール分析 [古環境研究所による] (各区対応層ごとに、発掘調査結果との検討をした) (概略の位置については、表1を参照)

⑦イネ属比率 [バリノ・サーヴェーによる] : イネ属比率とは、栽培イネ=イネ属が、イネ科の全花粉の中の百分率。現在の水山では30%以上の比率を示す。() 内は、イネ科の検出花粉個数が100個未満の試料におけるイネ属比率である。

★印は、火山灰についての報告である。これは加藤芳朗氏による分析に従った(遺物編の加藤論文参照)

なお、花粉分析・珪藻分析・土壌化学分析 [バリノ・サーヴェーによる] も行っており、プラント・

表3 上土遺跡(立石地区)土層構造表

階層	層のグループ	層	層種	時代・種別	遺構検出位置記号	遺構検出層(略号)	
	盛土層						
最上層	A1層	1層	a*	近世「新田開発、水田耕作土」(一部下部に山上の客土)	(●)	1区01A	
中間層	AII層	2層	b	自然体積の粘土層			
		3層	b	泥炭層			
		4層	b	自然体積の粘土層	(1)	1区	
		5-1層	b	面積葦じりの自然体積粘土層			
上層水田	AIII層	5-2-1層	a*	中世水田耕作土	(●)	3区05A・2区05A・1区05B	
		5-2-1-2層	b	自然体積の白色粘土層(3区・2区に偏在)	(1)	3区05B・2区05B	
		5-2-2層	a*	中世水田耕作土層	(●)	3区05B・2区05B	
		5-3層上部	a*	中世沼地水田耕作土層(1区)	(1)	3区05C・2区05D・1区05C	
		5-3層下部	b	中世沼地(1区)(ラミナ不明瞭)			
		河道覆土		中世河川流水地堆積層(1区)			
		①層	b	青灰色シルト質粘土堆積(ラミナあり)			
②層	b	灰色(砂質)粘土堆積(ラミナあり)					
中間層	B・C層	6層	b	中世洪水堆積層(白色粘土)			
		D1層	7・8・9層	b	平安瀬地堆積層(泥炭) ★833年伊豆神津島天上山噴出火山灰(Iz-K)	(1)	2区12A
		DII層		b	平安瀬地堆積層(泥炭)		
		10層				(1)	3区12A
		11層	3区では一部はa、2区と1区はb(自然体積の腐植質粘土)			3区12A・2区12B 1区12A	
中層水田	DIII層	12-1層	a*	奈良・平安初期水田耕作土層 [条里型(一部に非条里型を混在)]	(●)	3区12A・2区12B 1区12A	
		12-2層	a*	古墳中後期?水田耕作土層「非条里型」	(1)	3区12A・2区12B 1区12A	
		12-2層下部	b	1区でのみ低地部分の一部で泥炭層を検出			
中間層	E層	13層	b	古墳中期洪水堆積層(粘土)			
		14層	b	古墳中期湿地堆積層(泥炭)			
		15-1層	b	古墳中期湿地堆積層(泥炭質粘土)	(1)	3区15A・2区15A 1区15A	
下層水田	FII層	15-2-1層	a*	弥生後期~古墳前期水田耕作土層 ★15-2層上位火山灰(長崎DIII層:N7-1火山灰[弥生中期後半の土器])			
		FIII層		★15-2層中位火山灰(池ヶ谷:Ik-2火山灰、地名9区39層火山灰)	(1)	3区15B・2区15B 1区15B	
	FIV層	15-2-2層	a*	弥生中期後葉水田耕作土層 *有東式土器出土 ★15-2層下位火山灰(川合八反田:H12-2火山灰[弥生中期後半]) *有東式土器出土			
					(1)	3区15C・2区15C 1区15C	
最下層	GI層	16層	b	★16層下位火:灰(川合八反田:H12-2火山灰)			
		17層	b	★17層下位火:灰(川合八反田:H12-2火山灰)			
		18層	b	★Os火山灰(旧称はOs火山灰)			
		GII層		★Os火山灰(約2700年前) ★Kgp火山灰(約2800年前)			
	GIII層	19層	b				
	H層	20層	b	粘土層 縄文後期以前の洪水堆積層			
		21層	b	砂礫層(沖積層上部砂層の下層:Aug1) 註1			

註1 加藤芳樹1993:「静岡県池ヶ谷遺跡をめぐる地形・地質的背景」池ヶ谷遺跡Ⅱ(自然科学編)

なお、この加藤論文による層序と対応させると、以下のようになる。

オパール分析・火山灰分析〔古環境研究所による〕とともに、遺物編に掲載した。また、花粉分析・珪藻分析・土壌化学分析のうち、特徴的な事柄は、各層の記述の中に取り入れた。報告文の要約部分には、**！**を付した。(花粉分析・珪藻分析・土壌化学分析の概略の位置については、表2を参照)

また、記載の順序は地形の基本傾斜に従って、南西から北東に、すなわち3区→2区→1区の順である。

まず、21の層をA～Hの13グループに大別して概括し、それらの堆積相・年代観等を、表3の土層総括表で示す。

第3節 各土層の概要

H層 (縄文後期以前の洪水堆積層：21・20層)

(池ヶ谷遺跡ではH層黒灰色砂礫、自然堆積層)

・珪藻分析では、[1区S地点の21～19層は、流水不定性種が卓越。この中に、河川等の常に流れのある水域の礫などに付着生育する種が含まれており、20層堆積時には流水の影響を受けた可能性がある。3区A地点の20層最上部は、流水不定性種を主体とした群集であるが、陸生珪藻の産出率が高い。そこで、表層部には乾いた場所もあるような沼沢～湿地のような水域が推定される。3区C地点の20～18層でも同様である。また、3区F地点の20層の下のA層は、流水不定性種を主とし、好流水性種、好止水性種等を伴う混合群集である。ここでは、水の流れ込みの影響を受けた堆積物によって構成されていると思われる。ここは拗曲した凹地の直下であり、河道が下位に存在した可能性がある。

・花粉分析(森林植生)については、[1区S地点の21層の下の粘土堆積物(縄文時代後期ころの河道埋積物)下部では、スギ属とアカガシ亜属が多産。さらに、ヤナギ属およびブドウ属の花粉が多産。ヤナギ属は河川周辺の湿地に生育し、ブドウ属は虫媒花で花粉生産量が少なく、花粉の散布範囲は狭い。そこで、この河道近辺には、これらの植物が分布していたと考えられる。]

21層 黒灰色礫泥じり灰色粘上・シルト

安倍川系の礫。黒色多く、白色少量泥。礫は径7mmほどのものが中心。

[3区西北：土壌分析C地点] (21層上部)10YR1.7/1黒・HC、(21層下部)7.5Y4/1灰・HC [1区西中：土壌分析B-1地点]5Y3/1オリーブ黒・CL

[1区東北A地点] 灰色シルト質粘土(10cmの厚さ)。その下位は、細砂となり、1m以上堆積している。

①自然堆積層：b層(洪水堆積)。②ラミナ：有(不明瞭)。③攪拌：無。④粘性：無。⑤腐植：少。[3区西北：土壌分析C地点]腐植含量(21層上部)15%・(21層下部)4%。[1区西中：土壌分析B-1地点]8%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] C地点21(21層上部)	0個/g	18000個/g	7200個/g	700個/g
[3区西北部] C地点22(21層下部)	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[1区東北部] A地点	0個/g	700個/g	700個/g	0個/g

20層 黒色泥炭質粘上・シルト(灰色砂質粘上～暗茶褐色泥炭質粘上)

[3・2区]灰色砂質粘土 Hue 7.5Y4/1

[3区西北：土壌分析C地点] 10YR1.7/1黒・HC

[1区西中：土壌分析B-1地点]N2/0黒・HC

[1区]20-3層緑灰色砂質粘土Hue10G5/1、20-2層黄褐色粘質泥炭Hue10YR5/6、20-1層黒色粘土Hue2.5Y2/1、

[1区東北A地点] 黒褐色～灰褐色粘土(鹿状に灰色の21層の粒が混入)

①自然堆積層：b層（洪水～湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：[3・2区]弱。[1区]20-1強。20-2・3弱。⑤腐植：[3・2区]やや多。砂多量混。[3区]西北：土壌分析C地点]腐植含量22%。[1区]20-3少。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] C地点20-1	0個/g	23000個/g	2100個/g	0個/g
[3区西北部] C地点20-2	0個/g	25000個/g	5900個/g	0個/g
[2区西南部] E地点	0個/g	2900個/g	1400個/g	0個/g
[1区東北部] A地点	0個/g	2300個/g	0個/g	0個/g

G層（弥生中期中葉～縄文晩期初頭の湿地堆積層：19・18・17・16層）

（池ヶ谷遺跡では、GⅢ・GⅡ・GⅠ。自然堆積層）

（池ヶ谷遺跡：GⅢ層灰黄褐色泥炭）……………当遺跡の19層下部に対応

（池ヶ谷遺跡：GⅡ層黒色泥炭質粘土）……………当遺跡の19層上部と18層下部に対応（池ヶ谷遺跡：GⅠ層灰オリブ色泥炭質シルト）…当遺跡の16層・17層・18層下部に対応

・土壌分析では、[1区B-1地点の20層上部から18層にかけて、流水不定性種と陸生珪藻が多産。流水不定性種の中には、好塩性種が多産している。これは、沼沢地のような環境でも水の移動が少ないために、水中の塩類濃度が高い状態にあったものと推定される。同地点の17-2層上部では、好止水性種が多産。この中に、淡水～汽水の着生種で水域の沿岸部に付着生育する種群がある。同地点の16～14層は、20層上部から18層にかけての特徴と類似している。1区S地点の18層は、好流水性種と陸生珪藻で構成されている。通常は湿地のような環境であったが、洪水あるいは散発的な水の流入があったものと考えられる。3区C地点の17層は、好流水性種が多産。この層の堆積環境は規模の小さい止水域で、ある程度水が溜まっているが、水生植物が繁茂しているような停滞水域であったものと推定される。2区A地点の16層は、好止水性種が卓越。この層の堆積環境はある程度の水深を有する止水域であったと推定される。2区B地点の16層でも同様である。

・花粉分析（森林植生）では、21～14層が堆積した縄文時代後期～古墳時代初頭の頃、付近にはスギとカシ類を中心とする暖温帯性の森林が存在したと推定される。]

・花粉分析（低地植生）では、[21～16層が堆積した縄文時代後期～弥生時代の頃、付近の湿地には、カヤツリグサ科を中心として、イネ科や水生植物のガマ属・オモダカ属・サンショウモ・アカウキクサ属などがそれぞれの環境に応じた場所に生育していたと推定される。]

19層 黒褐色粘土質泥炭 Hue 10YR 6/8（泥炭は明黄褐色Hue 10YR6/8）

[3区西北：土壌分析C地点]10YR2/1黒・CL

[1区西中：土壌分析B-1地点]2.5Y2/1黒・CL

[1区東北A地点]・カワゴ平軽石Kgp混入部分(19層)は、黒褐色粘土。粘性：弱。大沢スコリアOs混入部分(18-4層)は、茶褐色粘土。

①自然堆積層：b層（湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：やや強。⑤腐植：多（3区が最も多。2区、1区と東にいくほど少なくなる）。

[3区西北：土壌分析C地点]15%

[1区西中：土壌分析B-1地点]25%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] C地点	0個/g	28500個/g	5500個/g	700個/g
[2区西南部] E地点	0個/g	6800個/g	2200個/g	0個/g

[1区東北部] A地点 0個/g 1500個/g 700個/g 700個/g

★18層と19層との層界下位の火山灰「カワゴ平軽石(Kgp) 約2800年前：縄文晩期初期＝池ヶ谷遺跡Ik-5火山灰

★18層と19層との層界上位の火山灰「大沢スコリアOs」約2700年前：縄文晩期初期＝池ヶ谷遺跡Ik-4火山灰

18層 黒色粘土質泥炭 Hue 10YR 2/1 (泥炭は明黄褐色Hue 2.5Y 6/8)

[3区西北：土壌分析C地点]10YR1.7/1黒・CL

[1区西中：土壌分析B-1地点]2.5Y2/1黒・CL

①自然堆積層：b層（湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：やや強。⑤腐植：多。[3区西北：土壌分析C地点]32%、[1区西中：土壌分析B-1地点]44%。

⑥プラント・オパール分析

[3区西北部] C地点18-1 0個/g 32800個/g 8900個/g 1400個/g

[3区西北部] C地点18-2 0個/g 11600個/g 3600個/g 0個/g

[3区西北部] C地点18-3 0個/g 40700個/g 4500個/g 2200個/g

[3区東南部] D地点18-1 0個/g 2700個/g 600個/g 0個/g

[3区東南部] D地点18-2 0個/g 18400個/g 3500個/g 0個/g

[3区東南部] D地点18-3 0個/g 11900個/g 5200個/g 0個/g

[2区西北部] D地点 0個/g 8400個/g 2400個/g 0個/g

[2区西南部] E地点 0個/g 5300個/g 2300個/g 0個/g

[1区西北部] B地点 0個/g 13900個/g 1500個/g 700個/g

[1区東北部] A地点18-1 0個/g 26700個/g 3800個/g 900個/g

[1区東北部] A地点18-2 0個/g 1500個/g 4500個/g 0個/g

[1区東北部] A地点18-3 0個/g 3000個/g 700個/g 700個/g

[1区東北部] A地点18-4 0個/g 1700個/g 0個/g 0個/g

★17層と18層との層界火山灰「押切石川火山灰OsI、旧称大沢類似スコリアOs」 縄文晩期後半＝池ヶ谷遺跡Ik-3火山灰

17層 黒褐色粘土質泥炭 Hue 7.5YR 3/2

[3区西北：土壌分析C地点]2.5Y2/1黒・HL

[1区西中：土壌分析B-1地点]2.5Y2/1黒・CL

①自然堆積層：b層（湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：やや強。⑤腐植：[3区]多。[3区西北：土壌分析C地点]42%、[2区]やや多。[1区]やや少。東部では多。[1区西中：土壌分析B-1地点]56%。

⑥プラント・オパール分析

[3区西北部] C地点17-1 0個/g 28300個/g 7600個/g 1300個/g

[3区西北部] C地点17-2 0個/g 31400個/g 5200個/g 2200個/g

[3区西北部] C地点17-3 0個/g 21000個/g 8200個/g 0個/g

[3区東南部] D地点 0個/g 8200個/g 3400個/g 0個/g

[2区西北部] D地点 0個/g 4700個/g 500個/g 0個/g

[2区西南部] E地点 0個/g 8300個/g 2300個/g 0個/g

[1区西北部] B地点	0個/g	7700個/g	1500個/g	700個/g
[1区西北部] I地点17-1	0個/g	1700個/g	2300個/g	1100個/g
[1区西北部] I地点17-2	0個/g	4400個/g	1400個/g	0個/g
[1区東北部] A地点	0個/g	0個/g	1400個/g	0個/g
[1区東北部] J-1地点	0個/g	21300個/g	6800個/g	1500個/g
[1区東中部] J-2地点	0個/g	10400個/g	1400個/g	0個/g

★17層下位火山灰—川合遺跡八反田地区H2-2' 火山灰

16層 黄褐色泥炭 Hue 10YR 5/6

[3区西北: 土壌分析C地点]2.5Y2/1黒・HC

[3区東南: 土壌分析A地点]10YR3/1黒褐・HC

[2区西北: 土壌分析A地点]10YR2/2黒褐・HC

[2区東南: 土壌分析B地点]5Y2/2オリーブ黒・HC

[1区西北: 土壌分析B-2地点]10YR2/1黒・CL

[1区西中: 土壌分析B-1地点]2.5Y3/1黒褐・CL

①自然堆積層: b層・泥地堆積。②ラミナ: 多。③攪拌: 無。④粘性: やや強。⑤腐植: [3区]やや多。

[3区西北: 土壌分析C地点]54%、[3区東南: 土壌分析A地点]74%。[2区]少。[2区西北: 土壌分析A地点]76%、[2区東南: 土壌分析B地点]65%。[1区]やや多。[1区西北: 土壌分析B-2地点]43%、[1区西中: 土壌分析B-1地点]70%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] C地点16-1	0個/g	0個/g	1400個/g	0個/g
[3区西北部] C地点16-2	0個/g	13500個/g	1500個/g	0個/g
[3区東南部] D地点	0個/g	1400個/g	700個/g	0個/g
[2区西北部] D地点	0個/g	600個/g	3300個/g	3300個/g
[2区西南部] E地点	0個/g	0個/g	700個/g	2100個/g
[1区西北部] B地点	600個/g	5500個/g	1300個/g	0個/g
[1区西北部] I地点	0個/g	3000個/g	2200個/g	0個/g
[1区東北部] A地点	800個/g	11400個/g	800個/g	800個/g
[1区東北部] J-1地点	0個/g	700個/g	0個/g	0個/g
[1区東中部] J-2地点	0個/g	5200個/g	3000個/g	0個/g

⑦イネ属比率

[2区西北部] A地点 (0) %、[1区西北部] B-2地点 (11) %。

★16層下位火山灰—川合遺跡八反田地区H2-2' 火山灰

FⅣ層 (弥生時代中期後葉水田耕作土層: 15-2-2層)

FⅢ層 (15-2層中位火山灰分布層)

FⅡ層 (弥生時代後期～古墳時代前期水田耕作土層: 15-2-1層)

・珪藻分析では、[1区B-2地点の15-2層は、好止水性種が卓越する。これらの中に、富栄養の湖・池等に見られ、ある程度水深を有する池沼等の縁辺底付近や水生植物等に付着生育する種がみられる。そこで、この層は、池沼のような環境。比較的水位が高い水域と推定される。2区A地点の15-2～14層は、流水不定性種を主とし、陸生珪藻を伴う種群で構成される。ここの堆積環境は、表面が乾くような場所

も認められる沼沢地～湿地のような水域であったと推定される。また、水の流れも少なく停滞しがちであったことから、水中の塩類濃度も高い状態にあったものと思われる。2区B地点の15-2層と3区A地点の15-2-1層は、流水不定性種を主とする種群からなる。これらは、沼沢～湿地のような水域が推定され、後者は、水の流入が少なく、閉鎖的であった可能性が高い。3区C地点の15-2-1～14層は、流水不定性種を主体として、陸生珪藻を伴う種群からなる。この堆積環境はやや閉鎖的な沼沢～湿地のような水域と推定される。]

・花粉分析（低地植生）では、[15層が堆積した弥生時代の頃、周辺の湿地にはイネ科やホタルイ属などのカヤツリグサ科や水生植物のガマ属・ミクリ属・サジオモダカ属・オモダカ属・ホシクサ属・ミズアオイ属などが生育していたと考えられる。またイネ科の出現率が高率でないことやカヤツリグサ科がイネ科とほぼ同率ないしそれ以下の出現率であることから、イネ属以外の草木類も多く分布していたこと、あるいは耕作期間が短かったなどの可能性も考えられる。]

15-2層下部（暗茶褐色泥炭質粘土）

[3区・2区（一部）で確認]黒色泥炭質粘土Hue10YR3/1

[3区西北：土壌分析15-2-3：C地点]2.5Y2/1黒・CL。

(池ヶ谷遺跡ではFIV層黒色泥炭質シルト層、弥生時代中期後葉以前のFIV層水田耕作土)①水田耕作土：a'層（15-2-2層水田下部）。②ラミナ：無。③攪拌：やや有。④粘性：やや弱。⑤腐植：少。[3区西北：土壌分析15-2-3：C地点]55%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	キビ族
[3区南東部] 3区D地点	2000個/g	4000個/g	5300個/g	600個/g	
[3区西北部] 3区C地点	700個/g	5800個/g	5800個/g	700個/g	700個/g
[2区西北部] 2区D地点	1800個/g	9700個/g	4800個/g	600個/g	

(3区の南東部、2区の西北部の微高地部分では、水田耕作が盛ん。3区の西北部の低地では、水田耕作は盛んではない。)

15-2-2層（暗茶褐色泥炭質粘土）

[3区]オリーブ黒色泥炭質粘土Hue5YR2/2

[3区西北：土壌分析：C地点]2.5Y2/1黒・Cl。

[2-1区]黒色粘土Hue10YR1.7/1(1区では、15-2-1層より粘り気があり、黒色の度合いが強い)。

*15-2層下位火山灰をはきんで、有東式土器が出土。

*15-2層中位火山灰の下位が、当遺跡では、15-2-2層とした。この15-2層中位火山灰付近を、池ヶ谷遺跡では、自然堆積層のFIII層黒色泥炭質シルト層が位置している。

①水田耕作土：a'層（15-2-2層水田）。②ラミナ：[3区]一部有。[2-1区]無。③攪拌：有。④粘性：[3区]弱。[2-1区]やや強。⑤腐植：多。[3区西北：土壌分析：C地点]34%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] 3区C地点	3400個/g	14600個/g	2700個/g	1300個/g
[3区南東部] 3区D地点	3700個/g	6700個/g	9700個/g	1500個/g
[2区西北部] 2区D地点	500個/g	2300個/g	1700個/g	0個/g
[1区西北部] 1区B地点	2600個/g	9900個/g	1300個/g	0個/g
	1区I地点	2300個/g	6300個/g	700個/g
[1区西中部] 1区K地点	700個/g	11100個/g	1500個/g	1500個/g

[1区中央部]	[1区L地点]	600個/g	2700個/g	2000個/g	600個/g
	[1区M地点]	700個/g	8700個/g	6500個/g	2100個/g
[1区東北部]	[1区A地点]	700個/g	7600個/g	1500個/g	700個/g
	[1区J-1地点]	2300個/g	13200個/g	1500個/g	0個/g
[1区東中部]	[1区J-2地点]	800個/g	10200個/g	7600個/g	700個/g
	[1区N地点]	600個/g	5700個/g	3800個/g	1900個/g
[1区東南部]	[1区G地点]	1800個/g	19200個/g	6400個/g	900個/g

⑦イネ属比率 [3区西北部] C地点 上位(18)%, 下位(8)%。

★15-2層下位火山灰(15-2-2層下部で検出) - 川谷遺跡八反山地区H2-1火山灰(弥生中期後半)

★15-2層中位火山灰(15-2-2層上面で検出) - 池ヶ谷遺跡1/2区の1k-2火山灰(FⅢ層) = 瀬名遺跡9区の39層火山灰(S)(弥生中期後半の火山灰の方形周溝墓の溝の直上)

15-2-1層 (暗茶褐色泥炭質粘土)

[3区]オリーブ黒色泥炭質粘土Hue5YR2/2

[3区西北: 土壌分析15-2: C地点]2.5Y3/1黒褐・Si。

[3区東南: 土壌分析15: A地点]N2/0黒・HC

[2-1区]黒色粘土Hue10YR1/1 (1区では、黄褐色腐植土)

[2区西北: 土壌分析15-2: A地点]N2/0黒・CL

[2区東南: 土壌分析15-2: B地点]5Y2/1黒・HC

[1区西北: 土壌分析15-2: B-2地点]10Y2/1黒・CL

[1区西中: 土壌分析15: B-1地点]2.5Y3/1黒褐・CL。

*3区では、古墳時代前期の土器、2区・1区では弥生時代後期の土器が出土。

(池ヶ谷遺跡ではFⅡ層黒色泥炭質シルト層、弥生後期～古墳初頭のFⅡ層水田(耕作土))

①水田耕作土: a'層(15-2-1層水田)。②ラミナ: [3区]一部有。[1-2区]無。

③攪拌: 有。④粘性: [3区]弱。[1-2区]やや強。⑤腐植: 多。[3区西北: 土壌分析15-2: C地点]55%、[3区東南: 土壌分析15: A地点]50%、[2区西北: 土壌分析15-2: A地点]54%、[2区東南: 土壌分析15-2: B地点]59%、[1区西北: 土壌分析15-2: B-2地点]64%、[1区西中: 土壌分析15: B-1地点]65%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	
[3区西北部]	3区C地点	2100個/g	26300個/g	3600個/g	00個/g
[3区東南部]	3区D地点	1300個/g	16300個/g	4700個/g	600個/g
[2区西北部]	2区D地点	1200個/g	3700個/g	4300個/g	0個/g
[2区西南部]	2区E地点	3000個/g	7900個/g	2400個/g	1200個/g
[1区西北部]	1区B地点	700個/g	4300個/g	2900個/g	0個/g
	1区I地点	800個/g	6600個/g	3300個/g	800個/g
[1区西中部]	1区K地点	600個/g	9500個/g	2000個/g	1300個/g
[1区中央部]	1区L地点	2000個/g	8900個/g	600個/g	2700個/g
	1区M地点	2100個/g	9400個/g	5800個/g	700個/g
[1区東北部]	1区A地点	3500個/g	5600個/g	5600個/g	0個/g
[1区東中部]	1区N地点	2300個/g	10700個/g	100個/g	6900個/g
[1区東南部]	1区G地点	1400個/g	22200個/g	2900個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [2区西北部] A地点 (26%)、[2区東南部] B地点 (1%)。

★15-2層 上位火山灰－長崎遺跡7区のN7-1火山灰（DⅢ層、弥生中期後半の土器が共存）

F I層（古墳時代中期湿地堆積層：15-1・14層）

・珪藻分析では、[1区B-2地点の15-1層は、陸生珪藻を主体に流水不定性種を伴う群集で構成される。陸生珪藻の中には、湿地等でも表面が乾くような場所に多く認められる種がある。そこで、この層の堆積時は、沼沢～湿地のような水域であるが、常に冠水した場所は少なく、むしろ表面は乾くような場所であったと推定される。2区A地点の15-1層は、流水不定性種の中でも貧塩-好塩性種が多産。ここは、沼沢～湿地のような水域が推定され、水の流入も少なく、閉鎖的であった可能性が高い。3区A地点の15-1層は、流水不定性種を主体とした種群で構成されている。ここは、閉鎖的な沼沢～湿地のような水域であるが一時的に淡水の影響を受けた可能性がある。1区B-2地点の14層は、流水不定性種を主体とした種群で構成されている。この環境は、おおむね湿地であり、水の出入りの少ない閉鎖的な水域であったと考えられる。また、閉鎖的であるため水中の塩類濃度が高い状態にあった可能性が高い。]

・花粉分析（低地植生）では、[14層は、各地点ともイネ属が検出されなくなる。このことは当時の調査区が稲作地として利用されなくなったことを示唆する。この原因については不明であるが、低地は、イネ科・カヤツリグサ科や水生植物が生育する湿地であったとみられる。]

15-1層（暗茶褐色泥炭質粘土）オリーブ褐色泥炭 Hue 2.5Y4/3

[1区西北：土壌分析：B-2地点]10YR2/2黒褐・CL（1区では、黄褐色腐植土。2区では、茶褐色腐植土）
（池ヶ谷遺跡ではF I層オリーブ黒色泥炭層）

①自然堆積層：a層（湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：無。⑤腐植：多。酸化すると暗色化。[1区西北：土壌分析：B-2地点]67%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] 3区C地点	0個/g	1400個/g	700個/g	0個/g
[3区東南部] 3区D地点	1400個/g	5600個/g	4900個/g	0個/g
[2区西北部] 2区D地点	700個/g	7100個/g	2300個/g	700個/g
[2区西南部] 2区E地点	0個/g	3600個/g	1800個/g	600個/g
[1区西北部] 1区I地点	0個/g	20300個/g	4000個/g	1600個/g

⑦イネ属比率 [3区西北部] A地点 (31%)、[2区西北部] A地点 (8%)、[2区東南部] B地点 (15%)。

14層（黒褐色腐植土）黒褐色泥炭 Hue 2.5Y3/1

[3区西北：土壌分析：C地点]2.5Y3/1黒褐・L

[3区東南：土壌分析：A地点]10Y4/1灰・HC

[2区西北：土壌分析：A地点]7.5Y2/1黒・HC

[1区西北：土壌分析：B-2地点]7.5Y2/1黒・CL

[1区西中：土壌分析：B-1地点]2.5Y2/1黒・HC。（池ヶ谷遺跡ではF I層オリーブ黒色泥炭層）

①自然堆積層：b層（湿地堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：無。⑤腐植：著しく多。[3区西北：土壌分析：C地点]107%、[3区東南：土壌分析：A地点]2%、[2区西北：土壌分析：A地点]59%、[1区西北：土壌分析：B-2地点]60%、[1区西中：土壌分析：B-1地点]70%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] 3区C地点	0個/g	3000個/g	2200個/g	700個/g
[3区東南部] 3区D地点	0個/g	11000個/g	3600個/g	3600個/g

[2]区西北部	2区D地点	0個/g	3700個/g	2200個/g	0個/g
[2]区西南部	2区E地点	0個/g	5300個/g	500個/g	0個/g
[1]区西北部	1区B地点	600個/g	6500個/g	6500個/g	600個/g
	1区I地点	0個/g	7700個/g	800個/g	0個/g
[1]区東北部	1区A地点	0個/g	7800個/g	0個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [3区東南部] A地点 (0)%, [2区西北部] A地点 (0)%, [1区西北部] B-2地点 55%。

E層 (古墳時代中期洪水堆積層:13層)

・珪藻分析では、[3]区C地点の13層は、好止水性の多産により特徴付けられる。この堆積環境は、閉鎖的な湿地あるいは沼沢地のような水域であり、ほとんど水の移動がなく静穏であったと推定される。

13層 (灰色粘土～シルト:下部が13-2層、上部が13-1層)

13-2層 青灰色シルト質粘土 Huc 5P6 6/I

(池ヶ谷遺跡ではE層下部 [EIV層] シルト層、厚さ0.5～1m)

- ①自然堆積層: b層 (洪水堆積)。②ラミナ: 有。③攪拌: 無。④粘性: やや強。⑤腐植: ほとんど無。
⑥プラント・オパール分析 (実施せず)。⑦イネ属比率 [1区西北部] B-2地点 27%。

13-1層 灰色シルト質粘土 Hue N 6/I

[3]区西北: 土壌分析: B地点]7.5Y4/1灰・HC

[3]区西北: 土壌分析: C地点]10Y5/1灰・HC

[3]区東南: 土壌分析: A地点]7.5Y3/1オリーブ黒・HC

[2]区東南: 土壌分析: B地点]7.5Y4/1灰・HC

[1]区西北: 土壌分析: B-2地点]7.5Y4/1灰・HC

[1]区西中: 土壌分析: B-1地点]10Y4/1灰・HC。

(池ヶ谷遺跡ではE層上部 [EIII層] 砂礫層、厚さ2.5～3m。木片の14C年代がB.P.1920+200年・2170±160年・2790±90年・2450±160年。またE層出土原木は年輪年代測定では、253年と219年 [弥生後期・堆積物])

- ①自然堆積層: b層 (洪水堆積)。②ラミナ: 有。③攪拌: 無。④粘性: やや弱。⑤腐植: 無 (木片やや混入)。[3]区西北: 土壌分析: B地点]8%。[3]区西北: 土壌分析: C地点]2%。[3]区東南: 土壌分析: A地点]10%。[2]区東南: 土壌分析: B地点]2%。[1]区西北: 土壌分析: B-2地点]3%。[1]区西中: 土壌分析: B-1地点]3%。なお、1区の低地部分では13-1層上面に泥炭がのる。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族	
[3]区西北部	3]区B地点	700個/g	700個/g	700個/g	0個/g
[2]区西北部	2]区A地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[2]区東南部	2]区B地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[1]区西北部	1]区B地点	0個/g	600個/g	0個/g	0個/g
[1]区中南部	1]区C地点	0個/g	600個/g	600個/g	0個/g
[1]区東北部	1]区A地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g

*上記の試料番号は、全て13層として登録されている。

- ⑦イネ属比率 [3]区東南部] A地点 47% (12層耕作土の混入の可能性あり)。

DⅢ層 (古墳時代中後期? [非条里型水田] ; 12層下面に遺構下部が遺存)

(奈良時代～平安時代初頭「糸里型水田」 ; 12層)

・花粉分析(森林植生)では、13層上部～7層が堆積した古墳時代中後期～奈良・平安時代の頃の植生は、基本的に縄文時代後期～古墳時代初頭の頃と同様な植生であったと考えられる。ただし、本時期の花粉化石群集では、モミ属・ツガ属といった針葉樹の種類が増加している。これらの種類は、現在では暖温帯上部～冷温帯の移行帯(中間温帯)において森林を形成する要素である。当時も後背の丘陵において、これら針葉樹の種類が分布を拡げた可能性がある。また、この原因としては気温の低下や降水量の増加といった気候要因の変化が考えられる。このような傾向は池ヶ谷遺跡でも認められ、川合遺跡八反田地区では顕著である(川合遺跡(八反田地区)Ⅱ | 1995)。また、花粉化石群集では、マツ属が増加傾向を示し、スギ属が減少している。これはマツ属が極端な陽樹であることから、二次植生としてマツ属が分布域を拡げたことを示している。この原因としては12層において糸里型水田が検出されていることから、人間の生業活動が考えられ、森林植生に対する干渉が強くなった可能性がある。」

・花粉分析(低地植生)では、[12層・11層では、イネ科の出現率が高率となり、その中のイネ属比率も各調査地点とも30%以上、場所によっては50%以上と高率を占めるようになる。このことは奈良・平安時代には、周辺で稲作が再び行われていたことを示している。また、ガマ属・ミクリ属・サジオモダカ属・オモダカ属・ホタルイ属・ミズワラビ属・サンショウモなどが生育していたと推定される。]

[水田跡が確認された12層では、各地点で水生植物の出現状況が若干異なる。1区B-2地点では、ガマ属・ミクリ属・オモダカ属。2区A地点では、オモダカ属。2区B地点では、ガマ属・オモダカ属・ホシクサ属・サンショウモ。3区A地点では、ガマ属・ミズアオイ属。3区B-2地点では、サジオモダカ属・オモダカ属・ホタルイ属などの種実遺体が検出された。これらの産状の違いは、局地的な植生の違いに起因するものであり、水田雑草として生育していたものに由来する可能性が高い。ただし、ガマ属は比較的大型の水生植物であり、現在休耕田などには生育しても、水田雑草となることはあまりない。]

12層 褐色粘土～シルト (腐植泥じり褐色粘土 ; 下部が12-2層、上部が12-1層。1区の低地部分には、12-2層下部泥炭層が偏在)

12-2層下部泥炭層 (暗褐色泥炭) (1区の低地部分に偏在)

*3区の12層下面で、古墳時代中期の和泉式の土師器が出土しているため、この時期の堆積層か。

①自然堆積層 : b層(湿地堆積)。②ラミナ : 有。③攪拌 : 無。④粘性 : 無。⑤腐植 : 植物遺体の繊維がそのまま残存(地割痕跡の褶り面直上の切断された層に該当)。⑥プラント・オパール分析(実施せず)。

12-2層 褐色粘土 Hue 10YR4/1

[2区東南 : 土壌分析12下部 : B地点]5Y4/1灰・HC

[1区西北 : 土壌分析12下部 : B地点]7.5Y3/1オリーブ黒・CL。

*下面から、古墳時代中期の和泉式の土師器が出土 [3区]。12-2層は、古墳時代中後期?～奈良時代の非条里型水田耕作土・糸里型水田耕作土。

(池ヶ谷遺跡ではDⅢ層下部黒色シルト質砂層、下面の腐植の14C年代がB.P.1330±150年)

①水田耕作土 : a' 層。②ラミナ : 無。③攪拌 : 有。13-1層を攪拌し灰色粘土粒子(粒径1～30mm。1cm弱が多い)を巻き上げる。④粘性 : やや強。⑤腐植 : 少。[2区東南 : 土壌分析12下部 : B地点]8%、[1区西北 : 土壌分析12下部 : B地点]11%。(1区では、13層上面に12層下部泥炭層あり)。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] B地点12-2	1500個/g	700個/g	1500個/g	0個/g
[2区西北部] A地点12-3	1500個/g	0個/g	700個/g	0個/g
[2区東南部] B地点12-2	0個/g	1500個/g	0個/g	0個/g
[2区中南部]				

C地点① [12-1層糸里水田の東西坪界大畦畔中央断面の位置]

(大畦畔の盛土下部(擬似畦畔Bは存在していない。13層粘土粒子の巻き上げが確認されている)

盛上下部の上半分 12-7	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g
盛上下部の下半分 12-8	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g

C地点② [12-1層糸里水田の東西坪界大畦畔端の位置]

12-2層の上半分 12-11	700個/g	700個/g	700個/g	0個/g
12-2層の下半分 12-12	700個/g	700個/g	700個/g	0個/g
[1区西北部] B地点 12-2	700個/g	4500個/g	0個/g	0個/g
O地点 12-2	600個/g	3400個/g	600個/g	0個/g
[1区東北部] A地点 12-2	800個/g	1700個/g	800個/g	0個/g
[1区中北部] P地点 12-2	0個/g	700個/g	700個/g	0個/g
Q地点 12-2	0個/g	2900個/g	0個/g	0個/g
[1区西中部] R地点 12-2	2200個/g	1400個/g	2900個/g	0個/g
D-2地点12-2	2100個/g	3600個/g	700個/g	0個/g
[1区中央部] N15地点下部12-17	0個/g	3400個/g	800個/g	0個/g
N10地点下部12-15	700個/g	2200個/g	0個/g	0個/g
[1区中南部] N5地点下部12-13	0個/g	0個/g	800個/g	0個/g
W13地点下部12-11	600個/g	600個/g	600個/g	0個/g
W10地点下部12-5	0個/g	3700個/g	1500個/g	0個/g
W6地点下部12-8	700個/g	1500個/g	700個/g	0個/g
C地点 12-2	0個/g	3100個/g	600個/g	0個/g

[1区東南部]

E27N5地点下部12-21	1600個/g	1600個/g	4000個/g	0個/g
E22地点 下部12-19	3500個/g	3500個/g	3500個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [3区西北部] B地点 上部40%、下部(29) %、[2区東南部] B地点 46%。

12-1層 (茶褐色粘土) 黄灰色粘土 Hue 2.5YR4/1

[3区西北] : 土壌分析12 : B地点J7.5Y4/1灰・CL

[3区東南] : 土壌分析12 : A地点J7.5Y3/2オリ・ブ黒・HC

[2区西北] : 土壌分析12 : A地点J7.5Y3/1オリ・ブ黒・HC

[2区東南] : 土壌分析12上部 : B地点J2.5Y3/1黒褐・HC

[1区西北] : 土壌分析12上部 : B-2地点J7.5Y3/1オリ・ブ黒・HC。

*糸里型水田の方向性の溝状遺構SD11201覆土中から、奈良時代前半の須置器の坏身(転用型)が出土。

12-1層は、奈良時代～平安時代初頭の水田耕作土である。

(池ヶ谷遺跡ではDIII層上部オリ・ブ黒色泥炭層、耕作土中からの出土木製品の年輪年代測定では、663年・671年・767年・847年。また、耕作土上面から出土した曲物蓋板の年代が900年以降。畦畔上面出土

土器の年代が10世紀中葉)

①水田耕作土：a'層。②ラミナ：無。③攪拌：12-2層が攪拌され、灰色粘土粒子(粒径1~40mm。数mmが多い)が巻上がる。④粘性：やや強。⑤腐植：やや泥。[3区西北：土壤分析12：B地点]10%、[3区東南：土壤分析12：A地点]11%、[2区西北：土壤分析12：A地点]12%、[2区東南：土壤分析12上部：B地点]11%、[1区西北：土壤分析12上部：B-2地点]13%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] B地点12-1	800個/g	800個/g	3300個/g	0個/g

(12-2層よりもタケ亜科がほぼ倍増し、乾燥化したことがわかる。イネは西北部のB地点では半減以下となっている。条里水田に耕地整理されてから以降の経営期間が、耕地整理以前の12-2層水田段階と比べると短期間であったためとも考えられる)

[2区西北部] A地点上部12-1	800個/g	1700個/g	400個/g	0個/g
A地点下部12-2	700個/g	700個/g	1500個/g	0個/g
[2区東南部] B地点12-1	2900個/g	700個/g	2900個/g	0個/g
[2区中南部]				

C地点① [12-1層条里水田の東西坪界大畦畔中央断面の位置]

(大畦畔の盛土上部。12-1層の耕作土と連続しており、12-1層を盛土としたことが確認されている)

盛土上部の最上部分 12-1	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g
盛土上部の上部分 12-2	1400個/g	700個/g	700個/g	0個/g
盛土上部の中部分 12-3	2400個/g	0個/g	2400個/g	0個/g
盛土上部の下部分 12-4	2800個/g	700個/g	1400個/g	0個/g
盛土中部の上半分 12-5	600個/g	0個/g	1300個/g	0個/g
盛土中部の下半分 12-6	0個/g	0個/g	700個/g	0個/g

(盛土中部は、白色粘土の谷土と推定される)

C地点② [12-1層条里水田の東西坪界大畦畔脇の位置]

12-1層の上半分 12-9	1600個/g	800個/g	800個/g	0個/g
12-1層の下半分 12-10	700個/g	700個/g	700個/g	0個/g

(西部のA地点では、12-2層と比べると、ヨシの出現・増加 [0個/gから700個/g、さらに1700個/g] とタケ亜科の約5倍増がともにみられる。また、東部のB地点では、A地点とは異なり、ヨシは半減し、タケ亜科の出現 [0個/gから2900個/gへ] がみられた。イネは、A地点では、半減し、B地点では0個/gから2900個/gになっている。また、条里東大畦畔付近のC地点②では、イネが約倍増している。なお、耕地整理後構築された、条里東大畦畔の横断面を上からドへ8点採取して比較してみた。耕地整理以前の耕作土12-2層段階 [12-7、12-8] のイネの数値が1とすれば、その直上の盛土下部の灰白色粘土層 [12-5、12-6] が0~1、盛土上部 [12-2~12-5] の暗灰色粘土が4~2。盛土最上部 [12-1] が1である。この灰白色粘土は、よく締まり、有機物は少ない。上土遺跡立石地区、その西隣の岳美遺跡・池ヶ谷遺跡の条里大畦畔に共通して見られた層であり、これは、条里大畦畔を構築する際の芯として、固めの粘土を客土して使ったものと考えられる。ただし、この芯材の灰白色粘土は、12層直下の13層に共通してみられる自然堆積層と類似しており、この層を部分的に掘り起こして使用したのかもしれない。なお、13層ではラミナが確認できたが、この灰白色粘土では確認できなかった)。

[1区西北部]

B地点 12-1	700個/g	4500個/g	0個/g	0個/g
----------	--------	---------	------	------

O地点 12-1 0個/g 600個/g 600個/g 0個/g
(O地点では、イネP.0減少・0個/gへ)

[1区西中部]

R地点 12-1 700個/g 700個/g 1400個/g 0個/g
(R地点では、イネP.0大幅減少へ)

[1区中北部]

条里型水田溝状遺構SD11201

E地点12'-1(溝覆土上部) 700個/g 1400個/g 700個/g 0個/g

E地点12'-2(溝覆土下部) 0個/g 2300個/g 700個/g 0個/g

P地点 12-1 700個/g 3500個/g 1400個/g 0個/g

Q地点 12-1 700個/g 700個/g 1400個/g 0個/g

(P、Q地点では、イネP.0 0個/gから微増へ)

[i区中央部]

N15地点上部12-16 1800個/g 3600個/g 1800個/g 0個/g
(N15地点では、イネP.0 0個/gから増加へ)

N10地点上部12-14 0個/g 2400個/g 0個/g 0個/g
(N10地点では、イネP.0減少・0個/gへ)

条里型水田溝状遺構SD11201

F-3地点12' (溝覆土) 0個/g 0個/g 4400個/g 0個/g

F-1地点12-1 700個/g 700個/g 3900個/g 0個/g

(F-1地点では、イネP.0 0個/gから微増へ)

(1区の12層水田では、南西部では耕作痕跡が耕作土下面に確認できたが、中部から北東部にかけて、不明瞭もしくは存在しないところがあった。このことは上記のプラント・オバール分析にもよく整合している。)

[1区中南部]

N5地点上部 12-12 0個/g 0個/g 3600個/g 0個/g
(N5地点では、イネP.0、下部・上部ともに0個/g)

W13地点上部12-9 00個/g 2300個/g 3100個/g 1500個/g

W13地点中部12-10 1400個/g 4300個/g 1400個/g 0個/g
(W13地点では、イネP.0増加・減少へ)

W10地点上部12-3 3600個/g 3600個/g 6600個/g 1500個/g

W10地点中部12-4 1400個/g 5000個/g 2100個/g 0個/g

W6地点 上部12-6 1500個/g 2200個/g 2200個/g 1500個/g

W6地点 中部12-7 1100個/g 1100個/g 1100個/g 0個/g
(W10-W6地点では、イネP.0増加へ)

C地点12-1 1400個/g 1400個/g 0個/g 0個/g
(C地点では、イネP.0 0個/gから増加へ)

[1区東南部]

E27N5地点上部12-20 1600個/g 2400個/g 1600個/g 0個/g

E22地点上部12-18 6200個/g 5300個/g 2600個/g 0個/g
(E22地点では、イネP.0 増加へ)

⑦イネ属比率 [3区西北部] B地点 23%、[3区東南部] A地点 45%、[2区西北部] A地点 40%、[2区東南部] B地点 55%。

DⅡ層 (11・10層)・DⅠ層 (9～7層) …… (平安時代の湿地堆積物層)

・10～7層は、全体として黒色～オリーブ褐色泥炭層。

・珪藻分析では、[1区B-2地点の10～7層では、流水不定性種を主体として、陸生珪藻を伴う群種で構成される。ただし、8層上部には好流水性種も伴う。ここで、沼沢～湿地の水域が推定されるが、8層上部については周辺からの水の流入があったものと推定される。]

・花粉分析 (低地植生) では、[10～7層では、イネ科の出現率が減少し、イネ属もほとんど認められなくなり、これに対してカヤツリグサ科が増加した。このことは低地で稲作が行われなくなり、カヤツリグサ科を中心にガマ属・イネ科・サンショウモなどが生育するような湿地に変化したことが推定される。]

11層 黄灰色粘土・黄褐色泥炭混じり粘土～シルト (暗灰色粘土) Hue 2.5YR4/1 [3区西北: 土壌分析: B地点]7.5Y4/1灰・HC

[3区東南: 土壌分析: A地点]7.5Y2/1黒・HC

[2区西北: 土壌分析: A地点]7.5Y4/1灰・HC

[2区東南: 土壌分析: B地点]2.5Y3/1黒褐・HC

[1区西北: 土壌分析: B-2地点]5Y3/1オリーブ黒褐・HC、

*自然堆積層ではあるが、3区では耕作がおこなわれた可能性もある。

(池ヶ谷遺跡ではDⅡ層オリーブ黒色泥炭層、腐植の14C年代がB.P.1150±170年)

①自然堆積層: b層～一部でa層? (洪水堆積)。②ラミナ: 有 (3区では不明瞭)。③攪拌: 無 (3区では不明瞭)。④粘性: 強。⑤腐植: 少。[3区西北: 土壌分析: B地点]12%。[3区東南: 土壌分析: A地点]18%。[2区西北: 土壌分析: A地点]19%。[2区東南: 土壌分析: B地点]9%。[1区西北: 土壌分析: B-2地点]20%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点	600個/g	600個/g	1300個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	700個/g	700個/g	1500個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	0個/g	700個/g	0個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	0個/g	1500個/g	700個/g	0個/g
[1区中央部] B-1地点	0個/g	700個/g	1400個/g	0個/g
[1区中南部] C地点	0個/g	0個/g	600個/g	0個/g

(3区と2区で若干のイネのプラント・オパールが検出されているが、3区では11層にやや攪拌がみられるのに対して、2区では攪拌はほとんどみられなかった。1区では、攪拌はまったくみられず、イネのプラント・オパール検出も無かった。これは、11層の堆積によって1区では稲作はただちに放棄され、2区、3区と微高地的になるにつれて次第に放棄されたと推定される)

⑦イネ属比率 [3区西北部] B地点 39%、[3区東南部] A地点 27%、[2区西北部] A地点 (36%)、[2区東南部] B地点 57%。

10層 褐色粘土質泥炭 Hue 7.5YR4/1

[3区東南: 土壌調査A地点]7.5Y4/1灰・HC。

(池ヶ谷遺跡ではDⅡ層オリーブ黒色泥炭層、腐植の¹⁴C年代がB.P.1110±180年)

①自然堆積層：b層(湿地堆積)。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：弱。⑤腐植：やや多。[3区東南：土壌調査A地点]43%。

⑥P.O分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点	0個/g	0個/g	2100個/g	0個/g
[3区西北部] B地点	600個/g	0個/g	2000個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	0個/g	3000個/g	1500個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	600個/g	1900個/g	1900個/g	0個/g
[1区中央部] F-1地点	0個/g	1400個/g	6400個/g	0個/g
[1区中南部] C地点	0個/g	2100個/g	2100個/g	0個/g

★10層上面に降灰：伊豆神津島天上山火山灰Iz-Kt(838年噴出)＝池ヶ谷遺跡Ik-i－川合遺跡八反田地区H-0

(10層で、イネのプラント・オパールが検出できたのは、ここ2ヶ所だけである。1区では、この層の上面から甲斐型環(黒書土器)が発見されている。また、2区では調査区の東部で連続歩行を示す足跡が検出されている。そこで、湿地化は一時休止し、やや乾燥した時期があったのかもしれない。明瞭な耕作痕跡もなく、畦畔等の遺構も発見できなかった。そこで、一部に稲作が実施された可能性もありうるが、全体としては湿原のままであったと思われる)

9層 褐色泥炭 Hue 7.5YR4/4

(池ヶ谷遺跡ではDⅠ層黒色シルト層、腐植の¹⁴C年代がB.P.1150±240年)

①自然堆積層：b層(湿地堆積)。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：弱。⑤腐植：強。

⑥P.O分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] B地点	0個/g	0個/g	800個/g	0個/g
[3区東南部] A地点	0個/g	1300個/g	600個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	0個/g	3000個/g	1500個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	0個/g	3600個/g	0個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	0個/g	5300個/g	3800個/g	0個/g
[1区中央部] F-1地点	0個/g	700個/g	2800個/g	700個/g
[1区中南部] C地点	0個/g	700個/g	1400個/g	0個/g

8層 にぶい赤褐色泥炭 Hue 5YR4/3

(池ヶ谷遺跡ではDⅠ層黒色シルト層)

①自然堆積層：b層(湿地堆積)。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：弱。⑤腐植：やや強。

⑥P.O分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部] B地点	0個/g	700個/g	0個/g	0個/g
[3区東南部] A地点	0個/g	700個/g	700個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	0個/g	1500個/g	700個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	0個/g	3600個/g	0個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	0個/g	11100個/g	2200個/g	700個/g
[1区中央部] F-1地点	0個/g	600個/g	5200個/g	0個/g
[1区中南部] C地点	0個/g	0個/g	600個/g	600個/g

7層 黒泥 Hue 10YR2/1

(池ヶ谷遺跡ではDⅡ暗黒色シルト層)

①自然堆積層；b層(湿地堆積) ②ラミナ；有。③攪拌；無。④粘性；弱、⑤腐植；弱。

⑥P.O分析		イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区西北部]	B地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[3区東南部]	A地点	0個/g	8800個/g	1200個/g	0個/g
[2区西北部]	A地点	0個/g	3800個/g	4500個/g	700個/g
[2区東南部]	B地点	0個/g	3600個/g	0個/g	0個/g
[1区西北部]	B地点	0個/g	20400個/g	4900個/g	700個/g
[1区中央部]	F-1地点	0個/g	600個/g	5200個/g	0個/g
[1区中南部]	C地点	0個/g	5900個/g	5900個/g	1400個/g

C・B層 (中世洪水堆積層；6層)

(池ヶ谷遺跡ではB層；黒灰色砂礫層・自然堆積層)

6層 (灰色粘土層) 灰白色粘土～シルト Hue N7/0～7/1

(灰白色粘土の間に黒色腐植Hue10YR2/1の薄層が挟まれる)

[3区西北；土壌分析B地点]7.5Y4/1灰・HC。[3区東南；土壌分析A地点]5Y2/1黒・HC。[2区西北；土壌分析A地点]7.5Y4/1灰・HC。[1区西中；土壌分析B-1地点]7.5Y4/1灰・HC。

*湿地堆積物の上を洪水被覆。

①自然堆積層；b層(洪水堆積)。②ラミナ；有(腐植がラミナ状に入る)。攪拌；無。④粘性；強。⑤腐植；ほとんど無。[3区西北；土壌分析B地点]6%、[3区東南；土壌分析A地点]3%、[2区西北；土壌分析A地点]4%、[1区西中；土壌分析B-1地点]3%。

⑥プラント・オパール分析		イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部]	A地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[3区西北部]	B地点	0個/g	700個/g	700個/g	700個/g
[2区西北部]	A地点	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g
[2区東南部]	B地点	0個/g	1500個/g	0個/g	0個/g
[1区西北部]	B地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [1区西北部] B-2地点 (49) %。

(池ヶ谷遺跡ではB層直下に灰色シルトのC層(厚さ10cm)が位置する。その下位のDⅠ～Ⅱ層(厚さ10cm)の厚さを隔てるが、DⅢ層水山の坪区人畦畔・坪内区向中畦畔の最終起伏をトレースしている。なおC層・DⅠ～Ⅱ層はいずれも自然堆積層である。また、D層・C層から検出された昆虫から、D層よりもC層の方がより温暖な気候であったことが推定されており(森男-1993)、さらに、C層直下のDⅢ層の腐植のC年代がB.P.±150±240年であることから、平安海進期の堆積物と考えられよう)

AⅢ層 (1区SR10603河川堆積物；②層・①層、沼地堆積物；5-3層)

(中世水田耕作上；5-2層；灰色～灰褐色シルト～粘土)

・珪藻分析では、[1区SR10603跡の沼地堆積物のF-1地点の、5-3層は好止水性種が多産。中には、浮遊性で富栄養のある水域の岸近くに認められることが多いとされる種がある。そこで、この層は、止水性種の優先、さらに浮遊性種の産出から、ある程度水深がある止水域の可能性が高い。F-2地点の同一層

でも、好止水性種が多産し、F-1地点と類似した環境と推定できる。]

・花粉分析（森林植生）では、5～2層が堆積した中・近世の頃になると、周辺地域はマツ属を主体とした植生へと変化。人間の活動がさらに著しくなり、周辺でマツ二次林が分布域を広げたものとみられる。ただし、アカガシ亜属も引き続き検出されていることから、後背丘陵などにはアカガシ亜属等からなる林分の存在が推定される。なお、中世河道SR10603河川堆積物①層は、F-1地点ではマツ属が多産したが、F-2地点ではマツ属以外にモミ属・ツガ属が多産した。このような地点間での群集組成の違いは、堆積物の堆積環境や堆積時期の違い等に由来する可能性がある。しかし、この河道跡が埋積され沼地となつてからは両地点の群集組成は類似し、モミ属・ツガ属・マツ属が多産する。]・花粉分析（低地植生）では、[5層は、各調査地点ともカヤツリグサ科が低率で、イネ科が多産した。イネ属比率は1区A地点が約30%、他の調査地点が約50%前後であった。このことから、本層堆積期には低地において稲作が再び行なわれるようになったと推定される。また、本層からも水生植物の花粉化石が検出された。1区B-1地点では、ミズワラビ属・サンショウモ、2区A地点ではオモダカ属・サンショウモ、3区B地点ではサジオモダカ属・オモダカ属・ヒルムシロ属・イグサ属・ホタルイ属が検出された。これらは水田雑草に由来する可能性がある。また、オニバスが検出されていることから、場所によっては比較的水深のある水域が存在した可能性もある。]

[中世の河道埋積物から検出された水生植物は、ガマ属・オモダカ属・ミズアオイ属・ミズワラビ属、浮葉植物のヒツジグサ属・ハス属・ヒシ属、沈水植物のクロモ属・フサモ属、浮水性シダ類のサンショウモである。中でもヒシ属とサンショウモが5-3層で特徴的に産出する。これらの産状から5-3層は、比較的水深があり水の流れがほとんどない池沼のような水域であった可能性が高い。水深別の分類では、水深のある場所には、クロモ属・ヒツジグサ属・ハス属・ヒシ属・フサモ属、その縁辺部など水深の浅い場所にはガマ属・オモダカ属・ミズアオイ属・ミズワラビ属・サンショウモ等が生育していたものとみられる。なお、F-1地点5-3層下部では、マメ属が多産していることから、一時的に河道の縁辺部等にマメ科が生育していたと考えられる。]

1区河道跡SR10603覆土（②層・①層）

[②層下部] 灰色砂質粘土 Hue 7.5Y4/1

*6層上面に13世紀の常滑壺片

①自然堆積層：b層（流路内堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無し。④粘性：強。微細な砂混入、⑤腐植：ほとんど無し。

[②層上部] 灰色粘土 Hue 5N5/0

①自然堆積層：b層（流路内堆積）、②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：強。⑤腐植：ほとんど無し

[①層] 青灰色シルト質粘土 Hue 5PB5/1

①自然堆積層：b層（流路内堆積）②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：やや強い。⑤腐植：ほとんど無し

5-3層 暗オリーブ灰色粘土 Hue 2.5GY4/1

*沼地堆積物（1区河道跡SR10603埋積後の凹地に堆積）

*ヒシの実の含有は、沼地の水深が約1mであることを示す。

*空気に触れると暗オリーブ灰色 Hue 5GY3/1となる

- ①自然堆積層；b層〔上部は、a'層〕〔沼地堆積〕。オニバス・ヒシの実を多数含む。リン酸鉄含有。空気に触れると暗色化。タンニン含有か。②ラミナ；やや有。③搅拌；無。④粘性；強（きめ細かい）。⑤腐植；ほとんど無。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
--	----	-----	------	-------

[1区中北部]

F-6地点5-3-5	0個/g	600個/g	600個/g	0個/g
F-6地点5-3-4	0個/g	0個/g	700個/g	700個/g
F-6地点5-3-3	0個/g	700個/g	700個/g	0個/g
F-6地点5-3-2	0個/g	0個/g	1500個/g	700個/g
F-6地点5-3-1	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g

(5-3-1の部分では、若干の土壤搅拌がみられた)

5-2-2層 黄灰色粘土 Hue 2.5Y4/1

[3区西北：土壤分析B地点]7.5Y4/1灰・HC

[3区東南：土壤分析5-2-2上部：A地点]7.5Y4/1灰・HC

[3区東南：土壤分析5-2-2下部：A地点]7.5Y4/1灰・HC

[2区西北：土壤分析5-2-2上部：A地点]5Y4/1灰・HC

[2区西北：土壤分析5-2-2下部：A地点]7.5Y3/1オリーブ黒・HC

[1区西中：土壤分析5下部：B-1地点]7.5Y3/1オリーブ黒・CL

*2区で5-2-2層下部から、鎌倉時代の常滑壺片が出土（池ヶ谷遺跡ではAⅡ層；褐色シルト）

- ①水田耕作土；a'層（5-2-2層水田）。②ラミナ；無。③搅拌；1～3mmの白色粘土粒子の巻き上げ有り。④粘性；強。⑤腐植；やや有。木片やや混入。[3区西北：土壤分析B地点]8%、[3区東南：土壤分析5-2-2上部：A地点]10%、[3区東南：土壤分析5-2-2下部：A地点]7%、[2区西北：土壤分析5-2-2上部：A地点]6%、[2区西北：土壤分析5-2-2下部：A地点]10%、[1区西中：土壤分析5下部：B-1地点]15%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
--	----	-----	------	-------

[3区西北部] B地点

600個/g	600個/g	600個/g	600個/g
--------	--------	--------	--------

[3区東北部] A地点

1400個/g	1400個/g	2100個/g	0個/g
---------	---------	---------	------

[2区西北部] A地点

5400個/g	1500個/g	2300個/g	0個/g
---------	---------	---------	------

[2区東南部] B地点

2300個/g	700個/g	3900個/g	0個/g
---------	--------	---------	------

⑦イネ属比率 [3区西北部] B地点 55%、[3区東南部] A地点 49%、[2区西北部] A地点 48%

5-2-1-2層（白色粘土薄層） 灰色シルト質粘土 Hue N4/1 [3区西北：土壤分析B地点]10Y5/1灰・HC。

*5-2-2層水田を洪水被覆（池ヶ谷遺跡ではAⅡ層；褐色シルト）

- ①自然堆積；b層（洪水堆積）。②ラミナ；有。③搅拌；5-1層の耕作による搅拌で多くは消滅。④粘性；強。⑤腐植；ほとんど無。[3区西北：土壤分析B地点]5%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
--	----	-----	------	-------

[3区東南部] A地点

0個/g	700個/g	3700個/g	700個/g
------	--------	---------	--------

[2区西北部] A地点

2100個/g	700個/g	700個/g	0個/g
---------	--------	--------	------

(2区A地点では、イネの数値が高いが、これは耕作土である5-2-1層の混入の可能性が高い)

⑦イネ属比率 [3区西北部] B地点 50%。

5-2-1層 灰色粘土 Hue 5Y5/1

[3区西北：土壌分析B地点]7.5Y3/2オリーブ黒・HC

[3区東南：土壌分析5-2-1上部：A地点]7.5Y3/1オリーブ黒・HC

[3区東南：土壌分析5-2-1下部：A地点]7.5Y4/1灰・CL

[2区西北：土壌分析5-2-1上部：A地点]7.5Y4/1灰・HC

[2区西北：土壌分析5-2-1下部：A地点]5Y4/1灰・HC

[1区西中：土壌分析5上部：B-1地点]7.5Y3/1オリーブ黒・HC。(池ヶ谷遺跡ではAⅡ層：褐色シルト)

①水田耕作土：a'層(5-2-1層水田)。②ラミナ：無。③攪拌：1~3mmの白色粘土粒子の巻き上げ有。

④粘性：強。⑤腐植：ほとんど無。[3区西北：土壌分析B地点]7%、[3区東南：土壌分析5-2-1上部：A地点]8%、[3区東南：土壌分析5-2-1下部：A地点]7%、[2区西北：土壌分析5-2-1上部：A地点]10%、[2区西北：土壌分析5-2-1下部：A地点]8%、[1区西中：土壌分析5上部：B-1地点]14%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点	1400個/g	0個/g	2200個/g	700個/g
[3区西北部] B地点	0個/g	0個/g	0個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	0個/g	700個/g	2200個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	0個/g	0個/g	1400個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	1400個/g	700個/g	700個/g	0個/g
[1区中北部] F-6地点5-2	0個/g	700個/g	2300個/g	700個/g

⑦イネ属比率 [3区東南部] A地点 28%、[2区西北部] A地点 上部50%、下部47%、[1区西中部] B-1地点 26%。

AⅡ層 (中世湿地・洪水堆積物：5-1層・4層・3層・2層)

・柱状分析では、[1区B-1地点の5層上部~3層は、好止水性種が多産する。多産した種は淡水域に生育し、水域の沿岸部の水生植物に付着生育する。一般に貧栄養の水域に広く分布し、湿原などで腐植を生成するような水域に認められる種である。そこで、この層は、比較的水の流入が少ない湿地のような水域であったと推定される。同地点の2層は、好流水性種が多産する。この層は湿地化が継続していたが、本層堆積時に流水の影響を受けたと考えられる。]

・花粉分析(低地植生)では、[4~3層は、イネ科あるいはカヤツリグサ科が多産した。種実遺体ではオニバスやヒシ属が検出されたことから、場所によっては池沼のような水域も存在した可能性がある。なお、イネ属も検出されたがイネ属比率は30%以下と低率であったことから、調査区内で稲作が行なわれていた可能性は低い。2層が堆積した近世以降になると、イネ科が多産し、イネ属比率も高率となることから、周辺では再び稲作が行なわれるようになったと推定される。]

5-1層 灰色粘土 Hue 5Y5/1 b層

[3区東南：土壌分析A地点]7.5Y3/2オリーブ黒・HC。

(池ヶ谷遺跡ではAⅠ層：褐色シルト)

①自然堆積：b層(洪水堆積)。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：強。⑤腐植：ほとんど無。[3区東南：土壌分析A地点]11%。

⑥プラント・オパール分析

	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点	3200個/g	600個/g	5200個/g	600個/g
[1区中北部] F-6地点	0個/g	800個/g	0個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [3区東南部] A地点 43%。

4層 灰色粘土 Hue N6/0

[1区西北B地点]では、暗黄褐色粘土（白色粘土ブロックを下部に含む）。[1区西中：土壤分析4：B-1地点]2.5Y3/2黒褐・HC。

（池ヶ谷遺跡ではAⅠ層：褐色シルト）

①自然堆積：b層（洪水堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：強。⑤腐植：少。[1区西中：土壤分析：B-1地点]18%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[2区西北部] A地点	0個/g	1500個/g	3000個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	0個/g	900個/g	900個/g	0個/g
[1区中北部] F-6地点	700個/g	0個/g	700個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [3区東南部] A地点 33%、[1区西中部] B-1地点 22%。

3層（茶褐色泥炭） 下部は3-2層：暗褐色粘土 Hue 7.5YR3/3

上部は3-1層：暗赤褐色泥炭 Hue 5YR3/4

[1区西中：土壤分析：B-1地点]2.5Y3/1黒褐・HC。

*中世水山の水没時の湿地植物が堆積

（池ヶ谷遺跡ではAⅠ層：褐色シルト）

①自然堆積：b層（湿地堆積）。泥炭を構成する植物はヨシ以外か？。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：無。⑤腐植：多。[1区西中：土壤分析：B-1地点]49%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点3-2	0個/g	0個/g	700個/g	0個/g
[3区東南部] A地点3-1	0個/g	0個/g	800個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	0個/g	1000個/g	0個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	700個/g	0個/g	2300個/g	0個/g
[1区西北部] B地点	0個/g	3000個/g	3700個/g	0個/g

⑦イネ属比率 [2区西北部] A地点 5%、[1区西中部] A地点 13%。

2層（灰色粘土） 上部：2-1層 灰色シルト質粘土 Hue N4/1

中部：2-2層 暗灰色砂 Hue N3/1

下部：2-3層 灰色粘土 Hue N5/0

[1区西中：土壤分析：B-1地点]10YR4/1褐灰・HC。

*湿地堆積物の上を洪水被覆

（池ヶ谷遺跡ではAⅠ層：褐色シルト）

①自然堆積：b層（洪水堆積）。②ラミナ：有。③攪拌：無。④粘性：2-1層：やや強。2-2層：無。2-3層：強。⑤腐植：ほとんど無。[1区西中：土壤分析：B-1地点]3%。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
[3区東南部] A地点	700個/g	0個/g	3700個/g	0個/g
[2区西北部] A地点	1300個/g	1300個/g	8200個/g	0個/g
[2区東南部] B地点	0個/g	0個/g	1500個/g	0個/g

〔1区西北部〕B地点 1400個/g 0個/g 1400個/g 0個/g

⑦イネ属比率〔1区西中部〕B-1地点42%。

A1層（近世「新田開発」水田耕作土：1層）

・堆積分析は、〔3区北西部の田安東川のSR30103の覆土を調べた。覆土下部は、流水不定性種が卓越し、好流水性種と好止水性種を伴う。この層は、沼沢地のような水域で、多少は流水が流れ込む環境と推定される。覆土上部は、好流水性種が卓越し、好止水性種を伴う。この層は、流れ込みの影響が強い水域と推定される。〕

1層 黄灰色シルト質粘土 Huc 2.5Y4/1

*3区では欠板列畦畔が一部検出*3区で、1層中から近世陶器片が出土

（池ヶ谷遺跡ではA1層：褐色シルト）

①水田耕作土：a'層（近世「新田開発」水田。下部に、山土の客土：黄褐色粘土あり。3区に残存。1区・2区では嵩上時に削平）。②ラミナ：無。③攪拌：有（2層粘土粒子を一部で確認）。④粘性：弱（締まり有）。⑤腐植：無。

⑥プラント・オパール分析	イネ	ヨシ属	タケ亜科	ウシクサ族
〔3区西北部〕B地点	1700個/g	0個/g	2300個/g	0個/g
〔3区東南部〕A地点1-2	1400個/g	0個/g	1400個/g	0個/g
A地点1	2800個/g	700個/g	2100個/g	700個/g

第IV章 遺構の概要

第1節 遺構のあらましと遺構の記述について

1 遺構のあらまし

土遺跡(立石地区)で検出された主な遺構は、①弥生時代中期後葉から古墳時代前期(15層水田)、②古墳時代中後期?から平安時代初頭(12層水田)、③中世(鎌倉時代)(5層水田)、④近世～近代(1層水田)の4時期の水田跡である。これらの遺構は、いずれも沼沢地が陸地化した段階で造成されているという共通点を持つ。しかし、各時期内でも区画の変更されるもの、また湿田系水田と半湿田系水田の変遷がみられるものがあり、それらが畦畔の形状や補強用の木製品の種類や量と深い関連を持つことが推定できた。また、畦畔断面の形状から、開発型水田と耕地整理型水田との違いも推定できた。さらに、②の段階の耕作土には、ほとんど耕作痕跡としての土壌粒子の巻き上げが確認できない部分が存在し、耕作されていない部分が存在することがわかった。

このように大きく4時期の水田遺構が確認できたが、各時期の水田遺構の特色は、表4に示した。この表でもわかるように、15層水田は15-2-1層と15-2-2層が、12層水田は上部と下部が、5層水田は、5-2-1層と5-2-2層が、それぞれ水田耕作土であり、1層水田と合わせると、計7つの水田耕作土を調査したことになる。

2 遺構の記述方法と項目

以下の遺構の記述は、下から上に15層水田、12層水田、5層水田、1層水田の順に行なう。これは、当遺跡の遺構の展開の変遷過程を明らかにするためである。ただし、各時期の水田の内部の細分された水田遺構の調査に関しては、上から下に調査の展開に従って報告したい。これは、調査区の上層の堆積やその後の擾乱の状況が、調査区ごとに若干の違いがあり、それに関連して、調査面・調査方法が異なっているためである。

具体的には、耕作土の上面を検出する方法の他に、耕作土を薄く覆っている泥炭や粘土層の上面の起伏(擬似畦畔A)の形状を調査した場合、耕作土下面の起伏(擬似畦畔B)の形状を調査した場合の3つの方法を採用した。擬似畦畔Aについては、耕作土上面の層界が不明瞭であっても、その直上にある薄い自然堆積層の上面の層界が明瞭である場合、この面を調査面とした。したがって、12層水田の耕作土の上面の起伏を11層や10層の上面の起伏によって間接的に把握しようとした。

また、擬似畦畔Bについては、その水田の畦畔の下部構造(畦畔痕跡)そのものの検出である。ところが、上面の畦畔配列と、下面の畦畔痕跡配列とが異なる場合も、しばしば検出されており、その水田の開発当初の形状を残しているものと考えられる。しかし、12層水田の上部水田である条車型水田の大畦畔の擬似畦畔Bは、ほとんど検出できなかったが、そのかわり、12層の耕作土下面には、条車型とは方向性の異なる畦畔痕跡が多く発見された。

このように、各時期の水田の内部の展開過程は、調査面の決定と調査の展開過程に即して記述した方が、土層の堆積順序に従って記述するよりもわかりやすいと考えたので、遺構面の紹介は上から下に行なった。以上の、耕作土と調査面と調査方法の一覧は、凡例の「土上遺跡遺構検出状況対応表」で示したので参照されたい。

なお、各調査区別の記述は、灌漑水の流下方向であり、またグリッド系の展開方向である南西から北東の方向に従って述べていきたい。具体的には3区、2区、1区の順である。

表4 上土遺跡（立石地区）水田遺構の特色変遷一覧表

時期	乾層 (注1)	大畦畔・補強木 製品(注2)	層位	層群 (注3)	水田の特色 土層の特色	調査した水田遺 構の名称	気候(注4)	開発形態(注5)
近代 (昭和50年)～	福田系	盛土	近代水田 耕作土層		近代耕地整理水田			耕地整理型
近世～近代 (～昭和50年)	福田系	盛土+一部矢板 列	1層	A I 層	近世「新田開発」 +一部調査	1層水田	中世小氷期	再開発型
中世後半～近世	洪水堆積		2層		薄い青灰色粘土			
	沼地		3層～5-1 層	A II 層	泥炭質粘土		暖期?	
中世(鎌倉時代 : 13世紀代)	半福田系 洪水堆積 半福田系	盛土	5-2-1層 5-2-1-2層	A III 層	大畦は桑里型で 小畦は非桑里型の 小区両水田	5-2-1層水田 5-2-2層水田	中世小氷期	大畦は復旧型、 小畦は再開発型が 多い
(平安時代末?～ 鎌倉時代?)	洪水堆積		6層	B・C 層	河造形成。厚い青 灰色粘土			
平安時代初期 ～平安時代	沼地		7～9層 10～11層	D I 層 D II 層	泥炭 平安高遺跡?		中世暖期	杭列護岸等の処策 による間もなく種 地化
奈良時代 平安時代初期	半福田系	盛土+一部散板	12層上部	D III 層	一部に木圍発地	12層水田上部 (桑里型水田)		耕地整理型
古墳時代中後期 ～奈良時代		盛土+一部散板	12層下部			12層下部水田	古墳寒冷期	再開発型
古墳時代中期	洪水粘土		13層	E 層	厚さ1mの青灰色粘 土			
	沼地		14層、15- 1層	F I 層	泥炭質堆積物		暖気か?	
弥生時代後期～ 古墳時代前期	福田系	杭列+矢板列護 岸	15-2-1層	F II 層 F III 層	湿地化に対抗して 畦畔の杭・矢板等 を増強	15-2-1層水田	古墳寒冷期	復旧型
弥生時代中後葉 ～弥生時代後期	半福田系	盛土+杭列	15-2-2層	F IV 層	畦畔上面からA型 田下敷出土(6)	15-2-2層水田		開発型
(縄文時代晩期～ 弥生時代前期)	深池		16～19層	G 層			紀元前後の暖 期	
縄文時代晩期	洪水粘土 洪水砂礫		20層21層	H 層	厚い21層砂礫の上 に、薄く20層粘土 が覆う		縄文中後期の 寒期	

注：表3の用語説明

1 半福田系・・・盛土のみの大畦畔が主体(大畦畔上面に若干の散板を乗せる場合がある)。冬季の地下水位が田面から1m以下の場合は、通例乾田とされるが、当遺跡の専水田では判定できなかった。なお、当地跡付近の耕地整理以前の土層(1層水田耕作土)を調査した福田系土壌基本図1965では、当遺跡付近の土層型は湿田であり、若干の矢板列を1層の調査でも確認している。そこで、杭列、矢板列を含まない盛土のみの大畦畔の場合は、耕作土はそれよりもやや乾燥していると考えられる。そこで、この場合を半福田系とする。

福田系・・・杭列・矢板列で、覆厚された大畦畔が主体
沼地・・・泥炭もしくは泥炭質粘土の堆積
洪水粘土・・・洪水で粘土堆積
洪水砂礫・・・洪水で砂礫堆積

2 大畦畔・補強木製品 湿 地 矢板列で護岸
乾 地 杭列で補強
散板列をとまなう
盛土のみ
水田の乾湿の程度に対応して、
左のような対応が考えられる。

3 層の群(グループ) 西隣の長美遺跡・池ヶ谷遺跡に準拠

4 気候 北川1993に準拠。「紀元前後の暖期」(鈴木1991)、「縄文中後期の寒期」(阪口1993)、「中世温暖期」(安田1995)「中世小氷期」(安田1995)、「古墳寒冷期」(阪口1993)

5 開発形態
開発系・・・初期開発水田
復旧系・・・既存の水田が洪水や火山灰で被災した後、水田区画の形状をほとんど変更しないで復旧させる場合(正確には災害復旧系)
再開発系・・・既存の水田が洪水や火山灰で被災した後、水田区画の形状を変更させて再び水田を構築する場合(正確には被災再開発系)
耕地整理系・・・再開発系の一類。ただし被災再開発ではなく、人為的な要因によって水田区画が変更される場合

開発系
├ 復旧系(被災復旧系)
├ 再開発系
└ 耕地整理系

6 A型復旧田下敷・漏名遺跡での田下敷変遷の研究(中山1993)では、「やや縦長の板田下敷」を、A型として、これは弥生中期に遡る田下敷の典型としてしている。そこで、これのみが多量出土する遺構は、弥生時代中期に遡る可能性があるとよいだろう。

各層の水田群の記述に使用する、本報告書に掲載された図面・表・写真の種類と記述の関連を述べた。

まず、各時期の水田を、遺跡全体として、3つの調査区を総覧し、「遺構変遷図」と「遺構起伏変遷図」を提示しながら、遺構変遷と地形起伏の変遷を述べる。なお、この「遺構変遷図」には、前述したように、擬似畦畔Aや擬似畦畔Bの検出面に調査による、畦畔痕跡の推定に加え、等高線図からも段差縁辺や畦畔状の微高地の張り出しの認定による畦畔痕跡の推定、さらに杭列や敷板列による畦畔痕跡の推定の成果を記述した。この作業では、多くの畦畔遺構痕跡の推定ができた。しかし、これらの成果は、あくまでも推定遺構であるので、破線・1点鎖線・2点鎖線等によって示した。

ここでは、さらに、第Ⅲ章で示した、「土層柱状模式図」「土層断面概念図」、各調査区の「土層断面縮図」の調査成果も活用する。

次に、各調査区別に、調査方法と調査面について述べ、各水田耕作上ごとの遺構の調査事実を述べる。提示する図面は、各調査面ごとの「全体図」である。なお、各調査面の遺構把握の方法と調査面の位置を示す、前掲の「出土遺跡遺構検出状況対応表」を参照されたい。この全体図で示した遺構の計測数値は、「計測表」に示した。

その結果を、わかりやすく提示するために、それらを「分析グラフ」・「分析図」として示した。なお、遺構の輪郭が不明瞭で、測定ができなかったものについては、これらの表・グラフ・図は作成していない。

また、遺構の詳細については、「引出図」を示す。さらに、遺構断面図として、サブトレンチを設けて作図した、各畦畔・溝・河道等の横断面図を示す。さらに、杭列・矢板等を伴う大畦畔については、縦断面図を示す。なお、小畦畔の断面の詳細については、各調査区の四周と調査区中央に、東西と南北に設定したトレンチの壁面の土層図によって示した。また、これらの断面図で示した小畦畔の位置は、全体図に破線で平面位置をしめしたものもある。

なお、各全体図には、遺構編で紹介した全ての遺物の出土位置を示した。また、各全体図ごとに、これらの出土遺物実測図の集成図を示した。その際、種類別・類型別に提示した。なお、これらの種類の種類とその規定については、遺物編に記載した。参照されたい。また、写真図版では、各遺構面の遺構・遺物の検出・出土状況及び土層断面を紹介している。ここで掲載した写真について、必要な解説は、各調査面の本文で行なった。

以上のように、この報告書では調査結果の事実関係を、細部にわたって提示している。また、各調査面について、これらの調査結果を、以下の項目と順序で記載した。なお、遺構の計測数値は計測表を参照されたい。

1)遺構・遺物の概要

2)発掘区域

3)水田基盤

<1>土壌

①被覆土

②耕作土

③土層土

④地下水(水田型)

<2>調査方法(遺構認定)

<3>微地形と堆積活動・地盤運動

①田面の標高と起伏

②起伏と成因

4)水山形態

<1>畦畔と区画

①畦畔の構造

a 大畦畔の規模と構造

b 小畦畔の構造

②区画・畦畔の配列と変遷

③山面状況

<2>水利

①用排水施設

5)遺物・火山灰と年代観

なお、当遺跡では、微化石分析として、プラント・オパール分析、珪藻分析、花粉分析、土壤化学分析を実施しているが、これらの分析結果は、すべて遺物編に掲載した。また、この内、水田遺構の状況と特に関係の深いプラント・オパール分析の結果については、第三章で、各層別別に主要な部分を掲載し、遺構の調査状況と比較して検討している。また、珪藻分析・花粉分析については、その要約を第三章に掲載した。さらに土壤化学分析の内、土性(土色・粒度)と腐植含量について、また花粉分析の内のイネ属比率についても、第三章に掲載した。そこで、本章では、これらの科学分析結果については、必要に応じて、その要点を述べるに止めた。

第2節 弥生時代中期後葉～古墳時代前期の15層水田遺構群

1 15層水田遺構の概要

(1) 土層の観察と年代観

当遺跡で最初に水田開発が呼ばれたのが、15層水田である。耕作土は暗茶褐色泥炭質粘土の15-2層である。この層の断面を観察すると、上下2層にわたって耕作による攪拌が観察できた。そこで、水田耕作土は15-2-1層と15-2-2層とした。この2つの耕作土の間に火山灰が確認でき、さらにその上位からも耕作によって攪拌された土壌中から火山灰層が確認できた。また、15-2層の中程の耕作土中からもやや攪拌された火山灰が確認できた。これらの3種類の火山灰の確認は15-2層の上位・中位・下位の火山灰として加藤芳朗氏によって行なわれた(遺物編・特論1加藤論文参照)。第3表で記述したように、加藤氏によって、静清バイパスの池ヶ谷遺跡・瀬名遺跡・川合遺跡八反田地区で出土した火山灰に、この15-2層の3種類の火山灰がそれぞれ同一のもものと認定されつつある。いずれの火山灰も弥生時代中期後半の土器と共存している。また、当遺跡での土器の出土状況は下位火山灰の層を挟むようにして弥生時代中期後葉の土器が出土している。いいかえると15-2-2層からは弥生時代中期後葉の土器が出土している。ただし出土は2区のみである。15-2-1層からは、下部から2区で弥生時代中期後葉の土器が出土しているが、この層からは弥生時代後期や古墳前期の土器が出土している。

そこで、15-2-2層は弥生時代中期後葉の耕作土、15-2-1層は弥生時代中期後葉の時期を含み、さらに弥生時代後期から古墳前期の耕作土と考えられる。ただし、2時期の耕作土ではあるが、その間の断絶は、あったとしても15-2-2層上面に堆積した火山灰降灰によって一時、耕作が中断した程度であろう。むしろ、耕作は継続した可能性がある。

なお、土器は、大畦畔や大畦畔に伴う溝状遺構から出土しているが、分量は少ない。弥生時代中期後

葉の土器は2区の東西杭列大畦畔SK21505でのみ出土し、古墳前期の土器は3区の東西杭列畦畔のSK31501のみで1点出土している。また、1区では、南北大畦畔に挟まれた溝状遺構SD11502からは弥生後期の土器が1点出土している。このように、土器の出土はわずかな量であっても、それらを補完する火山灰が3種類も発見されたことは、貴重な成果であった。

(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造

1) 後世に生じた撓曲と畦畔配列との関連

上遺跡の場合、現況での埋没水田の地形起伏が、当時の地形起伏と一致しているとはいえない部分があり、現況の地形起伏をもとに、当時の灌漑水利や畦畔配列を議論することには、やや無理な点がある。たとえば3区の東中部に南北方向の幅約10数mの撓曲凹地SX31516があり、15層段階で、約60～70cm、12層段階では、約50cm、5層段階でも数10cmの落ち込みが確認できた。この凹地の発生時期は、水田区画の配列や、条里大畦畔の高さの検討から5層水田の時期に発生したものと考えられる。5-2-1層水田の畦畔配列はこの凹地の方向や凹の程度を顧慮したものようであるが、5-2-2層水田やそれ以前の水田では、これほどの規模の凹地に関係なしに畦畔配列や大畦畔の造成が行なわれている。そこで、この撓曲凹地の発生は、正確には5-2-1層水田の時期に発生したことがうかがえる。このことは、後に、12層水田や5層水田でも述べるように、12層水田で確認できた多数の雁行地割れSX31208の形成時期が、W-W' の上層断面の観察からわかるように、5-2-2層水田の上層が地表面であった時期とすれば(遺物編の特論2寒川論文参照)、この3区の撓曲地形の形成と同時期である可能性が考えられる。とすれば、この撓曲地形は中世(鎌倉時代)に発生した地震に起因すると考えられる。

同様な撓曲は1区でも確認できそうであるが、3区のように明瞭でなかった。両者に共通するのは撓曲の西端が段差状に下がり、東端はややならかなことである。1区では撓曲凹地状の低地が北西から南東に直線的にのびるが、これは溝状遺構SD11502と平行し、その東側の田面を窪ませている。通例、このような凹地地形が存在すれば、この形状に対応した細長い小区画ができそうであるが、ここでは南北方向の小畦畔の部分をもっとも低い部分になっている。このことから、これも後世の地形起伏の影響と考えてもよさそうである。

そこで、問題となるのは、この撓曲凹地が存在しないとして起伏を検討することであるが、この報告では、問題の所在の指摘に止めたい。

このような事例は清水市長崎遺跡2区でも確認されており、凹地の地下から縄文河道が検出されている(「長崎遺跡1」1991)。そこで、凹地の横断面の調査を行なった。今回は、3区(L-L') : 第78図)と1区(Y-Y') : 第112図)で20層の下層まで掘削したところ、3区・1区ともに、約1mのシルト質粘土が確認できた。これらは、いずれもラミナが確認できた(3区では顕著)。さらに炭酸鉄が多く確認できた(1区では顕著)。これらの堆積物は、21層のシルト～砂質粘土を挟んでいるので、河道堆積物とみなしていいだろう。年代を示す遺物は発見されなかったが、2900年前のKgp火山灰の下位にあるので、縄文後期以前の河道である可能性がある。縄文河道が埋積されたが、その河道跡が、一度平坦に埋積された後、地震動によって再び凹地となったとも考えられる。これも長崎遺跡2区の状況と類似している。

2) 地形起伏と塔懸土壌

そこで、このような後世の撓曲要因も部分的に存在する可能性も考慮しながら、15層水田段階の地形起伏は西南西から東北東への緩やかな傾斜(約300mで約4m30cmから約2m80cmの低下・落差約1m50cm)を示している。より正確にいうと、このような傾斜を示しつつも、3区から2区にかけての部分が若干の微高地を形成し、南から北に張り出している。この原因としては、第6図でもわかるように21層以下の

砂礫の張出が南西から北東に向かって存在していることから、この方向での上砂供給が比較的旺盛であったことがうかがえる。ただし、この15層水田の基盤は直接的には、16層の黄褐色泥炭層であり、その下に20層まで連続する泥炭層である。この泥炭層の厚さは3区・2区が約50～60cmであるのに対して、1区では約1m～2m近くもある。最も低湿なのが1区である。

耕作土の15-2層は暗茶褐色泥炭質粘土であるが、前述の15層の3種の火山灰は、この1区でも発見されている。また遺構も15-2層水田の擬似畦畔Bとして、小区圃水田の畦畔痕跡の一部が検出されている。そこで、最も低湿な1区でもほぼ同時期に開田されたと考えていだろう。

3) 地下水位の変化と畦畔構造の変化

開田時の地下水位は低かったと考えている。それは、3区中央の南北水路を挟む大畦畔が盛土畦畔であり、中山1993が弥生時代中期に典型的とした正方形の田下駄がいくつかまとまって出土した。そこで、開田期は盛土畦畔でも大丈夫なくらい地下水位が下がっていたと考えられる。ただし、杭列畦畔がまったくないのではなく、初期の段階からあったと考えているが、3区西側の南北杭列大畦畔SK31501東西杭列大畦畔のSK31506・31511と斜めに交差する小畦畔痕跡が発見されており、この調査区では盛土大畦畔でも十分機能したと考えていだろう。

その後、3区では杭列大畦畔に変貌していったと考えられる。2区でも、当初の東西杭列大畦畔SK21503・21506の北東側約7～8m離れたところに、さらに厳重な矢板列大畦畔を造成している。遺物からは、前者が弥生時代中期を主体とした5-2-2層水田の大畦畔とすれば、後者は弥生時代後期から古墳時代前期が主体である。このような変化はいったん乾燥した当遺跡付近は、再び湿地化の歩みをはじめたものと考えられる。

4) 水田耕作土・遺構の認定と調査方法

<1> 水田耕作土の認定

15層水田の基盤は16層の黄褐色泥炭であり、この泥炭層は20層から連続している。耕作土は15-2層暗茶褐色泥炭質粘土である。この耕作土は、15-1層の暗茶褐色泥炭質粘土(腐植含量は15-2-1層より多い)、さらに14層黒褐色泥炭によって覆われている。全体として厚さ約1mの腐植土層(Ap)の上から1/4ほどが水田耕作土となっており、その表面が厚さ数cmの腐植土層によって覆われているのである。大局的に言えば、Ap層の上部が、当遺跡の初期水田耕作土である。また、この15-2層でか、土壌粒子の攪拌は上部と下部でやや分離して確認でき、それらの中間には火山灰層が断続的にほぼ同一層位で確認できた。そこで、この上部を15-2-1層水田、下部を15-2-2層水田と命名した。

耕作土の認定は、耕作による土壌の攪拌の存在、さらにイネのプラント・オパールの数値が高いこと(第三章参照)、また畦畔遺構の確認によった。

<2> 畦畔遺構の認定と調査方法

畦畔遺構の確認で、問題となったのは、次の2点である。第1に、大畦畔の圧密問題。第2に小畦畔の平面検出技術の問題である。

第1の大畦畔に関しては、杭列畦畔が卓越しているものの、杭列の頂部は13層の青灰色シルト質粘土中に約10～70cmも食い込んでいるものが多数発見され、大畦畔の高まりは圧密によってほとんどなくなり、幅2～3mであっても、田面との比高は数cm程度となっていることである。13層は自然堆積層であるので、これは15-2層の畦畔に打込まれた杭列であることは推定できるが、数10～70cmの圧密が埋没後に生じたと考えられる。これらの杭列は、15-2-1層であるのか15-2層であるのかという問題が残るが、これは杭列に伴う敷板の所属する土層によって判定した。敷板は、杭や矢板とは異なり、所属土層と

もに圧密沈下を受けるので、遺物の所属土層の変化が無いと考えられるからだ。調査の結果は、敷板は2つの耕作土の、それぞれの下部から発見できた。このことは、それ自体が、2つの時期の耕作土の存在を傍証するものである。

第2の問題は、耕作土の上面起伏・畦畔等の遺構の配列をいかに把握するかという問題である。

15-2-1層水田については、土層の観察から、大畦畔の高まりは、全調査区で確認できたが、小畦畔の断面は、2区・1区で比較的原形に観察できた。しかし、耕作土上面は次第に腐植質が強まっていく自然堆積粘土層の15-1層であることから、15-2-1層と15-1層の層界の平面検出は困難であった。しかし、15-1層と14層黒褐色泥炭との層界は明瞭であることから、14層を除去して15-1層上面を検出し、これを15-2-1層水田の擬似畦畔Bとすることにした。15-1層の厚さは約2cmと薄いことから、15-2-1層水田の上面起伏の形状はトレースできると考えた。なお、2区・1区では上面起伏を検出し、遺構の輪郭を記録することができた[2区(15A)] [1区(15A)]。しかし、3区では、断面での起伏の把握が困難であったので、第72図のように、14層泥炭をスライスして、15-1層の腐植質粘土粒子の列を把握する方法を採用した。粒子の分布から帯状の畦畔痕跡を把握するのは困難であったが、大筋では1区・2区の大畦畔群の方向性(N24°E)に合致する畦畔群が確認できそうである(第66図の遺構変遷図参照)。

また、前述のように15-2-1層と15-2-2層の間の火山灰層が、断続しながらも15-2層の中心に広く確認できたので、この面の精査によって、この火山灰層が連続していれば15-2-1層水田の畦畔下部に相当する可能性があると考えた。すなわち、火山灰層の分布によって、15-2-1層水田の擬似畦畔Bを検出しようとしたのである。これは、全調査区で実施した。その分布状況は第72・85・104図の各区の検出状況を示した。また、この情報と等高線情報から推定した畦畔痕跡は第66図の遺構変遷図に示した。3区では、正方位系の畦畔痕跡が卓越し、どうも耕作土上面の区画の方向性とは食い違っている。また、2区では、N15°Eの方向の畦畔群が多数確認でき、N24°E系と錯綜している。1区では、耕作土上面で確認できた小畦畔の方向性と合致する畦畔痕跡が多数を占めた。しかし、若干の正方位系の小畦畔群も確認できた[3区(15B)] [2区(15B)] [1区(15B)]。

問題は15-2-2層上面の起伏である。これは、15-2-1層の耕作によって破壊されているようであり、調査を断念した。そこで、この15層水田の開発当初の形状を残すと考えられる、15-2-2層下面の調査を行った。調査は16層上面が黄褐色泥炭であるため、15-2-2層をスライスしていけば、15-2-2層の暗茶褐色泥炭質粘土の中に16層の黄褐色の高まりの列、すなわち15-2-2層水田の畦畔下部の自然堆積層の高まり列(擬似畦畔B)が識別できるのではないかと考えて実施した(第72・85・104図に各区の検出状況、変遷図第66図参照)。

この面の調査から、3区では、N11°W系の杭列大畦畔と盛土大畦畔が検出でき、さらにこれらに平行・直交する比較的整然とした小畦畔群が検出できた。また2区・1区では(15B)の状況と類似していた。ただし1区では、小畦畔群の中に主要な畦畔が存在しそうなことがわかった[3区(15C)] [2区(15C)] [1区(15C)]。

<3> 畦畔配列の種類と変遷

15層水田は、杭列大畦畔・敷板列大畦畔・盛土大畦畔に囲まれた大区画を方形の小区画で細分する方式であり(第66図参照)、静清平野の同時期の水田遺構と共通している。大畦畔の方向性は第5表で示したように3種類がある。なお、2区(15B)では、調査区中央でN15°E系の南北方向の火山灰列が確認できた。これら3種類の大畦畔は15-2-2層水田の時期から15-2-1層水田の埋没まで基本的には継続して使用されたようであるが、前述のように、小畦畔にはいくつかの方向変換があったようである。

また、大畦畔も3区中央の溝付き畦畔のように弥生中期に特徴的な田駄が集中出土する盛土畦畔が15-2-2層水田の開発当初の遺構として存在していたようであり、初期水田が湿地が、有る程度、乾燥陸

表5 15層水田大畦畔一覧表

畦畔の方向	3区	2区	1区
N24° W系 (南北方向)		SK21503杭数* 21504盛 SK21518数杭 SK21515数 SK21514数 SK21516盛 SK21502矢*	SK11503杭数* — SK11504杭数* SK11501杭
(東西方向)		溝付 SK21505数 SK21506杭数* SK21501矢*	溝付 SK11505杭数*
N11° W系 (南北方向)	SK31513 SK31511盛 SK31510盛 SK31504杭数* SK31505杭		
(東西方向)	SK31506 SK31511杭数		
N1° E系 (南北方向)	[正方位系] SK31503杭数*		
(東西方向)	SK31507杭数 SK31501杭数*		

- 凡例 盛・・・畦畔盛土に、敷板・杭・矢板を伴わない場合。
 数・・・畦畔盛土の上面または内部に、敷板が施されている場合。
 杭・・・畦畔盛土の側面または中央に杭列が施されている場合。
 矢・・・畦畔盛土の側面に矢板列が施されている場合。
 *・・・敷板・杭・矢板等の畦畔補強材の密な分布を示す場合。
 溝付・・・畦畔に溝が伴うものを示す。

化した段階で開発されたことを示す遺構といえよう。この溝付き畦畔は、15-2-1層水田の段階では廃絶したようである。同様な溝付き畦畔は、2区や1区でも見つかっているが、2区では、調査区東部で15-2-2層水田段階から15-2-1層水田の下部遺構の段階(15B)までは存続していたが、上部遺構の段階(15A)では、溝中央の南北畦畔が盛土畦畔となり、ほかの小畦畔と同様の規模になっている。1区では、調査区西部で検出されているが、これは開発当初から泥炭による埋没まで継続して使用されていたようである。廃絶直前の段階では、溝跡は東西方向の小畦畔によって細分され小区画水田となっていた。

なお、東端の1区の溝は、3区・2区の溝と比べて、約1m低い谷地形を通過しており、この低地の溝が最も長く使用された理由は不明であるが、灌漑水路としてだけでなく排水路としても機能していたためかもしれない。

このような3本の水路群はいずれも南から北に流れるものであり、3区にある1層水田東部の南北溝と同様に、この地域の地形傾斜の方向に共通性が継続していることをものがたと考えられる。

15-2層水田の廃絶段階でも、杭列畦畔は機能していたようであるが、2区の水路跡が小区画水田になり、大畦畔が小畦畔になったように、1区でも東西杭敷板列大畦畔のSK11505も小畦畔になっている。

このように、杭敷板列を補強するのではなく、盛土畦畔への方向性をもっていたようである。これは、長崎道跡2区の弥生時代後期水田が杭列護岸畦畔であったものが古墳時代前期水田は盛土畦畔に転換したことと関連があるかもしれない。なお、当遺跡の2区でも、稠密な杭敷板列畦畔のSK21503(南北方向)とSK21506(東西方向)でL字型に区画された東北部の約4～5m東北側に、これらと並行に稠密な、L字型の矢板列畦畔が設けられている。これらの新旧関係は、出土土器から、前者は弥生時代中期後葉には設けられたが、後者は弥生時代後期後半には設置されていたようである。すると、これらの時期には、畦畔護岸の増強が必要な段階であったと考えられる。これらの土壌の乾湿の程度は、地下水位の変化と密接に関連しており、15-2-2層水田開田期が、杭列大畦畔ばかりでなく、盛土大畦畔も設置した時期とすれば、半湿田。その後、杭列や敷板で、さらには矢板列での補強でもわかるように、15-2層水田と15-2-1層水田の大半の時期は湿田であったと考えられる。しかし、15-2-1層水田の廃絶直前には、盛土畦畔が増えることからわかるように、やや乾燥したのかもしれない。そこで、この段階の水田は、再び半湿田に戻ったとも考えられる。

なお、前述のように、15-2層水田は、15-2層中位火山灰を境に上部の耕作土と下部の耕作土に分割できるものの、自然堆積層による断絶とはいいがたい。しかし、小畦畔の配列は2～3回の方向変換があったようであるが、大畦畔の配置は、若干の位置部変更があったものの、基本的には当初から廃絶まで継続したものと考えられる。そこで、開発形態は、15-2-2層水田が開発型、15-2-1層水田は前者の復旧型(一部に再開発型を含む)といえよう。

<4> 小区画の編成と規模

第66図を見ると、小区画の痕跡が検出できた3区(15C)、2区(15A)、1区(15A)の3種類のうち、水田区画の面積が求められる2区では、平均すると約2㎡未満と、ごく狭い。ところが、1区では平均が約8㎡であり、2区の4倍ほどである。これは、1区の小区画の内部にさらに十字に小畦畔をいれたようなくあいである。なお、2区のような、ミニ水田は、静岡市が調査した上土遺跡加藤島地区でも発見されており、このような形状の水田の類例として比較検討が課題である。

また、擬似畦畔Bとして確認した3区の小区画は、約3m幅の南北方向の短冊状の区画をさらに東西方向に約2～6m間隔に小畦畔を設けていることが推定できそうである。すなわち、1区と3区の区画の大きさは、比較的類似していそうである。

さらに小区画の編成は3区・1区ともに東西方向よりも南北方向の連続が良く、南から北へ順に灌漑する方式がうかがえよう。2区も基本は、3区・1区と同様であるが、2区では、東西方向の小畦畔の連続性も良く、方形のメッシュパターンとなっている。

2 各調査区の概要

各調査区に共通する事項の概要は、すでに1で述べたので、ここでは、各調査区に固有な事項を中心に述べたい。また、数値的なことは観察表に譲る。

(1) 3区15層水田

15層水田の耕作土は、15-2層であり、その中で検出される15-2層中位火山灰によって、15-2-1層水田と15-2-2層水田に2分される。しかし、これらの水田は火山灰の降灰時期に一時的に中断をみるとしても、基本的には連続して耕作されたと考えてよいだろう。15-2-1層水田については、耕作土上面起伏の把握のために、15-1層上面で擬似畦畔Aの検出を試み(15A)、さらに耕作土下面の調査をめざして15-2層中位火山灰層の上面での火山灰の分布によって擬似畦畔Bの検出を試みた(15B)。15-2-2層水田は、上面が上位の水田の継続耕作によって検出できないので、耕作土下面の、開発当初の畦畔痕跡の検出をめ

ざして16層泥炭の分布から擬似畦畔Bの検出を試みた(15C)。

1) 遺構・遺物の概要

大畦畔の一覧は、第5表のとおりである。初期水田の畦畔配列は15Cの全体図に比較的明瞭に示されている。大畦畔はN11°W系のものと正方位系の2通りが検出された。小区画は、これらの2通りの大畦畔の方向性に規制された方向性を持つ。小区画は15Cの段階では、主に南北方向の短冊を細分した形態のものである。15-2-1層水田の下位の15Bの段階では、正方位型となり、この水田の廃絶期を示唆する15Aの全体図では、2区・1区の区画の基本であるN24°W系が卓越するようだ。

遺物では、杭敷板列畦畔群から、建築材を転用した土木材が多く出土した。15-2-1層下部の15Bと15-2-2層下部の15Cの段階で最も異なるのは、田下駄が後者には弥生時代中期の特徴を示すA類(正方形型)が出土していることである。このA類は調査区中央の盛土畦畔からの出土である。

2) 発掘区域

全域調査ができた。ただし、調査区西部にある2つ方形土坑は静岡市教委による試掘坑である。

3) 水田基盤

<1> 土壌

①被覆土 14層黒色泥炭

15-1層暗茶褐色泥炭質粘土(腐植多い)

②耕作土 15-2層暗茶褐色泥炭質粘土

*中位に断続する15-2層中位火山灰検出。耕作攪拌はこの火山灰層の上と下で確認。敷板材等も、それぞれの耕作攪拌の下位で検出。そこで上位の耕作土15-2-1層、下位の耕作土を15-2-2層と命名し、それぞれ対象とした。

③下層土 16層黄褐色泥炭

④地下水(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。しかし、初期水田段階に固有の弥生時代中期の盛土大畦畔の検出。そこで、開田時には、杭列畦畔も伴うものであっても盛土畦畔も有効であったのは、やや乾燥していた可能性が考えられる。そこで、半湿田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに15層水田の概要でも述べたように、15-2-1層水田は耕作土上面起伏を15-1層上面で擬似畦畔Aとして検出、さらに、15-2-1層水田の下位での畦畔配列は15-2-2層上面を覆う15-2層中位火山灰上面の精査によって、この火山灰の分布状況から擬似畦畔Bとして、畦畔配列を把握しようとした。15-2-2層水田は、上前の起伏は上位の水田の耕作によって破壊されているので、検出できず。16層泥炭の上面に精査によって、耕作土下面の起伏を擬似畦畔Bとして把握することを試みた。この場合、16層泥炭の粒子列の分布から、畦畔配置の痕跡を探ろうとしたが、調査区中央北部と、調査区南西部とで、通例5cm間隔で実施した等高線作成(第70区)を、2.5cm間隔で把握することも試みた(第71区)。すると、5cm間隔ではつかめなかった畦畔痕跡が、2.5cm間隔で明瞭に検出できた。いかえると、ここでの小畦畔の高さは、2.5cm間隔でやっと把握できる高さなのである。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

① 田面の標高と起伏とその成因

15-2-1層水田の田面の標高は南西部が最も高く、約4.5m。東部が最も低く約4mである(15Aによって推定)。15-2-2層水田の田面の標高も南西部が最も高く、約4.4m。東部が最も低く約3.8mである(15Bによって推定)。なお調査区の中央に南北方向の拗曲凹地SX31512が通り、約50cmも窪んでいる。この拗曲凹地の成因が、前述のように中世(鎌倉時代)の5-2-2層水田の上面が地表

面であった時代とすれば、それ以前の地形はこの地変の影響を受けているのは当然である。具体例として、15Cの全体図で確認できる小区面の畦畔方向が、この撓曲凹地と方向が異なっており、この凹地ができる以前に畦畔が配列されたことを雄弁に物語っている。そのたの地形は、安倍川扇状地の末端から派生した自然堤防の一つである十二双川自然堤防が押し出した沖積砂層(Ag)の堆植物によって基本傾斜が決まり、この上面には21層の砂礫が位置する。ただし、この15-2層水田の母材は腐植土(Ap)である。この腐植土は、この遺跡の位置する麻機低地だけでなく、長崎遺跡の位置する巴川低地でも発見される、連続性がきわめられ良好な地層である。

4)水田形態

<1> 畦畔・溝状遺構と区画

① 畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の一例は、第5表のとおりである。初期水田の畦畔配列は15Cの全体図に比較的明瞭に示されている。大畦畔はN11°W系のもので正方位系の2通りが検出された。N11°W系のもの内、南北方向のものは、調査区西部に稠密な杭敷板大畦畔SK31504とそれに南側に連続する杭列畦畔SK31505。調査区中部に盛土大畦畔のSK31510とSK31512・31511に挟まれた溝状遺構SD31512。これに南側に連続する杭列畦畔SK31505。東西方向のものは調査区南部の杭敷板列大畦畔のSK31506・31511である。

正方位系のもの内、南北方向のものは、調査区北西部に稠密な杭敷板大畦畔SK31503。調査区東部に杭敷板列大畦畔のSK31507。東西方向のものは調査区北西部の稠密な杭敷板列大畦畔のSK31501である。南北大畦畔や南北溝状遺構の間隔は、西からSK31503とSD31512の間隔が約36m、SD31512とSK31507の間隔が約24mである。

これらの大畦畔遺構と基盤地形の起伏との関連を述べると、まず調査区中央の南北方向の両畦畔付きの溝状遺構SD31512の西側に直線的な南北段差線がある。この段差は西から東に傾斜しており、撓曲凹地SX31506と類似しているが、やや方向が異なっている。この段差線はN4.5°Eで、約35m連続するが、撓曲凹地は南から北へN15°E→N7°W→N27°Eと屈曲しながら展開している。そこで、この段差は水田造成当初にあった段差の下の部分に水路を設置したと考えられる。また、これとともに、より緩やかであるが、東西方向E5°Nの段差線が、調査区西部の北側部分に確認できる(第67図参照)。ここには大畦畔が設けられた痕跡は発見できなかったが、この段差の下段部分の西端に設置された正方位系の大畦畔SK31501稠密な杭敷板列が確認できた。さらに、これに直交する南北大畦畔のSK31503・31504も、この段差の北斜面部分から下段にかけて。しだいに杭敷板列が稠密に変化してきている。これらから、この2つの段差は、開田当初から存在していたようである。なお、この後者の段差の中央から東部にかけて大畦畔が確認できていないが、今後の検討課題としたい。なお、この東西方向E5°Nの段差線とほぼ並行して調査区南部に東西大畦畔のSK31506・31511が設置されている。また西の南北大畦畔SK31504は、杭列検出位置よりも東に約5m離れて南北方向の不明瞭な段差線(西から東へ傾斜)があるが、杭列検出位置では、ほとんど検出できなかった。また、東部の南北大畦畔のSK31507は、その付近に南北方向の段差線(東から西に傾斜)があるようだ。すなわち、3区では、大畦畔群は、地形傾斜に基本的に対応して設置されたと考えてよいであろう。

なお、盛土大畦畔とそれに挟まれた溝状遺構は、15-2-2層水田の初期(15C)に設けられたが、

15-2-1層水田段階では廃絶したと考えられる。その他の大畦畔も15-2-2層水田の初期に設けられ、15-2-1層水田の下部段階までは存続していたが、15-2-1層水田の最終段階まで、明確に存続していたかどうかは不明である。なお、15-2-1層水田の下部段階(15B)では、東西方向のSK31506の両脇にヤナギ属を中心に、ヒョウタンボク・ノイバラから構成される立木群SX31515が検出されている。これは、約15mの距離がある並木状の立木群であるので、枝の一部にイネ葉を架けて乾燥させる、いわゆるハサ木として利用されていたのかもしれない。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成され、15-2-2層水田の下部、特に調査区西部には基盤土壌の16層の泥炭の自然堆積層が比較的によく残存していた。

②区画・畦畔の配列と変遷

小畦畔・小区画の配列は、上記の2通りの大畦畔の方向性に規制された方向性を持つ。小区画は15-2-2層水田の下部(15C)の段階では、主に南北方向の短冊を細分した形態のものである。短冊の幅は約3m。東西方向に細分する小畦畔の痕跡は明瞭ではなかったが、約2～6m間隔のようである。

15-2-1層水田の下位(15B)段階では、正方位型となり、この水田の廃絶期を示唆する15Aの全体区では、2区・1区の区画の基本であるN24°W系が卓越するようだ。

なお、N24°W系の小畦畔推定痕跡は第66図でもわかるように、調査区南東部では15Cの段階でも若干確認できそうである。これは、2区のN24°W系の東西大畦畔SK21505の西側への延長部分が、3区の南北大畦畔SK31507と東西大畦畔SK31511との交点付近に接合していた可能性が考えられる。

③山面状況

足跡状の痕跡は15-2-2層水田の耕作土を全て除去した段階で、16層上面に刻まれたものがいくつか確認できたのみである。15-2-1層水田の下面(15B)の調査段階で、調査区北東部のH16 6グリッドの南西部でモモの種実67個が集中出土した。なんらかの祭祀行為にかかわるものと考えられるが、なぜ、その位置に存在するのか。畦畔が絡むとしても小畦畔であり、今後の検討課題である。

＜＞水利

①用排水施設

調査区中央部の南北方向の溝状遺構SD31512が検出されている。この水路の両脇には盛土大畦畔が位置している。水流の方向は、15C面の等高線によって、南から北への流れが推定できる。

なお、この盛土大畦畔は、15-2-1層段階では廃絶されていたようである。湿地が、ある程度、乾燥した時期の開田であるので、用水路の開設が不可欠であったと考えられる。

5)遺物・火山灰と年代観

15層水田の概要でも述べたように、3種類の火山灰が検出されている。これらは、第3表に記したように、近接する遺跡群で、弥生時代中期後半の遺物と共存する。当遺跡でも、3種類の火山灰の内、最下位の15-2層下位火山灰を挟んで弥生時代中期後半の有東式土器片が、2区で多数出土している。そこで、15-2-2層水田は弥生時代中期後半の時期の水田とみなした。ただし、この3区では、弥生時代中期の土器は発見できなかった。

また、15-2-1層は、3区の北西部の杭敷板列大畦畔のSK31501とSK31504の交点部分から、古式土師器が発見されている。また、2区の矢板列大畦畔のSK21501、1区の南北溝状遺構のSD11502から、それぞ

れ15-2-1層から、弥生時代後期後半の上器が出土している。そこで、これらのことから、15-2-1層水田は、弥生時代後期から古墳時代前期の水田と推定した。

なお、出土遺物で遺物幅に報告したものは全て第79～81図に示した。農具では、鋤、泥除けが若干出土し、板田下駄が多数出土した。なお、山下駄の古手のA類(正方形型)が、調査区中央部の南北溝状遺構の両脇の盛土大畦畔から出土している。これは、開田の時期と、当時の土壌環境を推測させるのに貴重な資料となった。

また、調査区北西部の大畦畔の枕材から、第81図のKD5の九平柱とKD56の台輪材が出土している。これも建築部材として名称が特定できた重要な遺物である。

6)写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版3:15A検出面全景や図版8:15C検出面全景であるが、いずれも、調査区中央に南北方向の撓曲凹地SX31516が観察できる。図版8-3では、擬似畦畔Bとして検出した15-2-2層水田の畦畔痕跡が明瞭に観察できる。図版10-4では、大畦畔SK31505の横断面であるが、肉眼では高まりがほとんど確認できないほど扁平であることがわかる。図版11では、全体図第71図(15Cその2)の調査区中央部分である。これは15-2-2層水田の耕作土をすべて取り去った状況である。これも肉眼では、足跡状の痕跡がいくつか確認でき、さらにA類の正方形の田下駄が散在するだけであるが、2.5cm間隔の等高線から溝状遺構とその両脇の盛土大畦畔の痕跡がうかがえた。

(2) 2区15層水田

15層水田の耕作土は、15-2層であり、その中位で検出される15-2層中位火山灰によって、15-2-1層水田と15-2-2層水田に2分される。しかし、これらの水田は火山灰の降灰時期に一時的に中断をみても、基本的には連続して耕作されたと考えてよいだろう。15-2-1層水田については、耕作土上面起伏の把握のために、15-1層上面で擬似畦畔Aの検出を試み畦畔痕跡の輪郭を把握できた(15A)、さらに耕作土下面の調査をめざして15-2層中位火山灰層の上面での火山灰の分布によって擬似畦畔Bの検出を試みた(15B)。15-2-2層水田は、上面が上位の水田の継続耕作によって検出できないので、耕作土下面の、開発当初の畦畔痕跡の検出をめざして16層泥炭の分布から擬似畦畔Bの検出を試みた(15C)。

1)遺構・遺物の概要

大畦畔の 覧は、第5表のとおりである。最終段階の水田の畦畔配列は擬似畦畔Aではあるが、15Aの全体図に明瞭に示されている。大畦畔はN24°W系のものに統一されている。小区画は、これら大畦畔の方向性に規制された方向性を持つ。小区画は上に南北方向の短冊を細分した形態のものであるが、東西方向の小畦畔も比較的連続している。15Bや15Cの段階では、N15°E系の小畦畔群が散見できそうである。

遺物では、土圧でつぶされた状態で面的に広がった状態で弥生時代中期後葉の上器が15-2層下位火山灰を挟むようにして大畦畔から検出できた。また、杭・矢板列畦畔群から、建築材を転用した土木材が多く出土した。ここで、注目すべきは、この杭・矢板の下部に切断痕が観察できたことである。地震によるものと考えられる。

2)発掘区域

全城調査ができた。

3)水田基盤

<1> 土壌

①被覆土 14層黒色泥炭

15-1層暗茶褐色泥炭質粘土(腐植多い)

②耕作土 15-2層暗茶褐色泥炭質粘土

* 中位に断続する15-2層中位火山灰検出。耕作攪拌はこの火山灰層の上と下で確認。敷板材等も、それぞれの耕作攪拌の下位で検出。そこで上位の耕作土を15-2-1層、下位の耕作土を15-2-2層と命名し、それぞれ対象とした。

③下層土 16層黄褐色泥炭

④地下水(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。3区の初期水田の大畦畔が盛土のみの構造であったので、開田時には、杭列畦畔を2区SK21506のように作るものであっても、やや乾燥していた可能性が考えられる。そこで、半湿田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに15層水田の概要でも述べたように、15-2-1層水田は耕作土上面起伏を15-1層上面で擬似畦畔Aとして検出、さらに、15-2-1層水田の下位での畦畔配列は15-2-2層上面を覆う15-2層中位火山灰上面の精査によって、この火山灰の分布状況から擬似畦畔Bとして、畦畔配列を把握しようとした。15-2-2層水田は、上面の起伏は上位の水田の耕作によって破壊されているので、検出できず。16層泥炭の上面に精査によって、耕作土下面の起伏を擬似畦畔Bとして把握することを試みた。これらの内、15-1層上面で15-2-1層水田の擬似畦畔Aとして検出した水田区画痕跡が最も明瞭に認識できた。これは、断面でも小畦畔の高まりが数多く検出できたからである(断面図参照)。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

①田面の標高と起伏とその成因

15-2-1層水田の田面の標高は中央南部が最も高く、約4.4m。中央北西部が最も低く約4mである。また、北東部も約4.2mと低くなっている(15Aによって推定)。15-2-2層水田の田面の標高も中央南部が最も高く、約4.3m。北西部が最も低く約4mである。また、北東部も約4.1mと低くなっている(15Bによって推定)。この2区の西部は3区で確認された曲凹地SK31512の影響とも考えられるが、泥炭層の基盤の沖積礫質土(Ag)の北東方向への張り出しの影響の可能性もあり、今後の検討課題である。また、東西方向の大畦畔SK21505・21206の北側が段差状に低くなっている。これは、両水田に共通しているが、15-2-2層水田の方がより明瞭である。また、初期水田の基盤である16層上面の起伏も、この段差部分で北北西に傾斜している。そこで、この水田基盤の段差部分の自然地形に対応して15-2-2層水田の大畦畔を設置し、それが15-2-1層段階ではやや段差が埋没してゆるやかになったものと考えられる。

なお、15-2-1層水田の耕作土の厚さから、15-2-2層上面段階からの堆積量を測定した第89図によれば、堆積物は調査区の南から北へ西端、中央、東端の3本の堆積コースをたつたようである。西端は南東から南西へ、南西側の凹地を埋めるようにして堆積し、中央は南西から北東へ、等高線の張り出しの基本方向に堆積し、東端は南東から北西に堆積している。この方向は、2本の溝状遺構の方向と合致しており、これを伝って堆積土が供給されたと考えられる。また、この堆積によって、これらの溝状遺構群は埋められ廃絶したと考えられる。

4)水田形態

<1>畦畔・溝状遺構と区画

①畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の一覧は、第5表のとおりである。15-2-1層水田の畦畔配列は15Aの全体図に明瞭に示されている。ここでは、大畦畔の造成順に述べる。

まず、15-2-2層水田では、南から北への舌状の張り出しの北側の緑辺部分に東西方向の大畦畔を築く。敷板列大畦畔SK21505・御密杭敷板列大畦畔SK21506である。これに直交する南北大畦畔を築いている。西から御密杭敷板列大畦畔SK21503、中央に杭敷板列大畦畔SK21518、東端に、両側に側溝SD21508とSD21507を持つ敷板列大畦畔SK21514である。この両側溝の脇にも敷板列と盛土の大畦畔SK21505とSK21516が設けられる。これが15-2-2層水田から15-2-1層水田の初期段階である(15C・15B)。

ところが、弥生時代後期後半の段階で、L字型の御密杭敷板列大畦畔SK21503とSK21506の北東側にわずか4~5mほど離れて、これらに並行して、同じくL字型の御密杭敷板列大畦畔SK21502とSK21501が設置される。この理由としては、第67図でもわかるように、南から北に堆積が進行し、微高地の北側縁辺部が、より北側に前進したためと考えていいのかもしれない。新規に形成された段差縁辺に大畦畔を設置しなおしたものと考えられる。

また、この15-2-1層水田の最終段階では、調査区東端の南北両側溝は埋没し、東西小畦畔に区切られた小区画となり、両側溝中央の大畦畔は、南北小畦畔となっている。さらに、この段階では、南北御密杭敷板列大畦畔の南側に盛土大畦畔のSK21504ができている。これらの大畦畔は、全てN24°W系のものである。この方向性を規定したものは、微高地の張り出し部の北縁辺の方向性と考えるとよいだろう。

これらの大畦畔の内、南北大畦畔の間隔は、西から東に順にいくと、SK21504とSK21508との間が約20m、SK21508とSK21514との間が約31mである。ただし、SK21504とSK21508は同時には存在していない。なお、2区でもヤナギの根株2個が15-2-2層水田の下面(15C)で発見されている。この2個の根株は、N15°E系の東西方向の畦畔痕跡に沿っており、これも3区のものと同様に畦畔脇の立木の可能性がある。しかし、大畦畔は明瞭には検出できなかった。また、この方向性の推定小畦畔痕跡は15B・15Cで多数発見されているが、これは、15B・15C段階でみられる地形傾斜の方向(南北段差線の方向はN15°E、段差は南東から北西に緩やかに傾く)に合致しており、この方向に小畦畔が設置されることが十分考えられることである。

b 小畦畔の構造

高まりが比較的によく観察できた15-2-1層水田の小畦畔の断面観察では、小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

小畦畔・小区画の配列は、上記のN24°W系の大畦畔の方向性に規制された方向性を持つ。ただし、上記のように、15B・15Cでは、N15°E系の推定小畦畔群も多数発見されたが、ここでは、15-2-1層水田の擬似畦畔A(15A)として検出した小畦畔群について述べたい。ここでは、南北方向の小畦畔とともに、東西方向の小畦畔もよく連続し、しかも1区画は1辺1~2mの正方形的な区画が多く、3区とは異なった畦畔構造である。3区では等高線に直交する小区画の短冊

が確認できたが、2区西半部では、小畦畔のメッシュは等高線とはほぼ45°に斜交する。このような部分では灌漑水の方向は、3区のように整然とはいかない。これは、静岡平野南部の表層条里の畔の方向性の問題と類似している(静岡原埋蔵文化財調査研究所 研究紀要 IV1993の拙稿「条里型地割と水田」の項の232~235頁参照)。

また、この区画の細かさであるが、後述する1区ではこの約4倍の広さであることから、調査精度をいぶかる向きもあるようだが、これは畦畔の高まりを断面で押さえながら調査したものであり。このようなミニ水田が実際に存在したとみてよいだろう。また、同様の大きさのミニ水田は静岡市が調査した上上遺跡加藤島地区の同時期の水田でも検出されている。なぜ、このようなミニ水田となるのか、稚苗の育成から考えて、一つの山内面の水深が10cm以上になると畦畔が必要とする、藤原宏志他1989(「先史時代水田の区画規模決定要因に関する検討」『考古学と自然科学』21号)の見解をこえる問題をはらんでいると考えられる。今後の研究課題としたい。

③田面状況

足跡状の痕跡は検出できなかった。

＜＞水利

①用排水施設

調査区東端部で、南北方向の溝状遺構SD21508とSD21507が並行して検出されている。この両水路の中央と両脇には敷板列と盛土で築かれた大畦畔が位置している。水流の方向は、15C面の等高線によって、南から北への流れが推定できる。なお、この盛土大畦畔は、15-2-1層水田の廃絶時期には埋め立てられ小區両水田として利用されていたようだ。湿地が、ある程度、乾燥した時期の間山であるので、用水路の開設が不可欠であったと考えられるが、途中で堆積物に埋められたまま放棄されたと考えられる。

5)遺物・火山灰と年代観

15層水田の概要でも述べたように、3種類の火山灰が検出されている。これらは、第3表に記したように、近接する遺跡群で、弥生時代中期後半の遺物と共伴する。当遺跡でも、3種類の火山灰の内、最下位の15-2層下位火山灰を挟んで弥生時代中期後葉の有東式土器片が、2区中央北部で多数出土している。そこで、15-2-2層水田は弥生時代中期後葉の時期の水田とみなした。また、2区の矢板列大畦畔のSK21501、1区の南北溝状遺構のSD11502から、それぞれ15-2-1層から、弥生時代後期後半の土器が出土している。そこで、これらのことから、15-2-1層水田は、弥生時代後期から古墳時代前期の水田と推定した。

なお、出土遺物で遺物欄に報告したものは全て第98~100図に示した。農具では、鋤が出土し、板田下駄が多数出土した。なお、田下駄の占手のA型(正方形型)も、調査区中央北部のL字型の稠密杭敷板列大畦畔のSK21503とSK21506から5点ほど出土しており、この畦畔の設置が弥生時代中期に遡る可能性は、これからもうかがえる。また、この2区のL字型の杭敷板列大畦畔と、同じくL字型の矢板列大畦畔の杭・矢板の調査からは、第84図15Cの全体図からわかるように、多数の近接して打込まれた上木材が接合することがわかった。特に、貴重な発見は、2つの直交する矢板列畦畔から出土した2枚の矢板が接合でき(KD19として第100図に掲載)なことである。このことから、これらの2本の矢板列が同時期に施工されたことが推定できたのである。

さらに、これらの矢板列、杭列は、17層上面付近で地中切断されているものが多数発見された(第95図SK21501縦断面L-L'等)。このことは、この面が滑り面となって、土層が層滑りをおこしたと考えら

れる。同様な状況は1区でも多数みられた。この地震の時期は、今後の検討課題であるが、興味深い現象として、第93図SK21506縦断面G-G'に示したように、垂直に打込まれた杭と斜めに打込まれた杭(垂直から約14~39°傾斜)があることである。はじめから斜め杭を打込んだのではなく、層滑り現象がおこって、斜めになり、その代わりに垂直杭を打込んだと考えられる。この推定が正しいとすれば、層滑りは15層水田の経営時期、弥生時代中期後葉から古墳時代前期のあいだにおこったと考えられる。

6)写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版i4-2・3は15-2-1層水田の小畦畔起伏を擬似畦畔Aとしてとらえたものである。高まりがわずかながらうかがえよう。図版15は、15-2-1層水田の擬似畦畔Bを火山灰列で把握しようとしたものである。特にこの面で調査区中央を斜めに直線的に南北方向N15°Eに通る列に注目されたい。この火山灰列の近接写真が図版i6-3である。畦畔痕跡としてみなしてよいであろう。図版18-1・2、15Bの検出面であるが杭列が13層の粘土層に70cmも食い込むほど、泥炭が圧密沈下したことがわかる。図版18-2の大畦畔の横断面も扁平となっている。図版24-2では、弥生時代中期後葉の土器P8・9の出土状況である。この土器の直下から15-2層下位火山灰が検出され、その火山灰検出層位の下位からも、この時期の土器が出土している。図版25-3では、調査区東端の南北並列溝状遺構の断面を示した。溝も脇の畦畔も上圧で扁平になっている。図版29-2では、東西杭列大畦畔SK21506の杭列が13層に1mから数10cmも食い込んでいることがわかる。図版29-3はSK21501の解体状況のステレオ写真である。実体視すれば、矢板列が17層上面付近で折れ曲がっていることがよくわかる。図版30-1~6は、杭・矢板の上中での折れ曲がり状況である。7・8は、斜めに傾いた杭列である。

(3) 1区15層水田

15層水田の耕作土は、15-2層であり、その中位で検出される15-2層中位火山灰によって、15-2-1層水田と15-2-2層水田に2分される。しかし、これらの水田は火山灰の降灰時期に一時的に中断をみるとしても、基本的には連続して耕作されたと考えてよいだろう。15-2-1層水田については、耕作土上面起伏の把握のために、15-1層上面で擬似畦畔Aの検出を試み畦畔痕跡の輪郭を把握できた(15A)、さらに耕作土下面の調査をめざして15-2層中位火山灰層の上面での火山灰の分布によって擬似畦畔Bの検出を試みた(15B)。15-2-2層水田は、上面が上位の水田の連続耕作によって検出できないので、耕作土下面の、開発当初の畦畔痕跡の検出をめざして16層泥炭の分布から擬似畦畔Bの検出を試みた(15C)。

1)遺構・遺物の概要

大畦畔の一覧は、第5表のとおりである。最終段階の水田の畦畔配列は擬似畦畔Aではあるが、15Aの全体図に明瞭に示されている。大畦畔はN24°W系のものに統一されている。小区画は、これら大畦畔の方向性に規制された方向性であるが、やや西に傾きN39°W系となっている。小区画は上に南北方向の短冊を細分した形態のものであるが、東西方向の小畦畔も比較的連続している。3区と2区の区画法の中間的な形状である。

15Bや15Cの段階でも、N39°E系の小畦畔群の推定痕跡が検出されている。ただし、15Bでは、若干の北方位系の畦畔痕跡がありそうである。

遺物では、調査区西側の溝状遺構の覆土(15-2-1層)中から弥生時代後期後葉の壺が出土している。また、2区とともに1区でも杭・矢板の下部に切断痕が観察できた。

2)発掘区域

全域調査ができた。

3)水田基盤

<1>土壌

①被覆土 14層黒色泥炭

15-1層暗茶褐色泥炭質粘土(腐植多い)

②耕作土 15-2層暗茶褐色泥炭質粘土

*中位に断続する15-2層中位火山灰検出。耕作攪拌はこの火山灰層の上と下で確認。敷板材等も、それぞれの耕作攪拌の下位で検出。そこで上位の耕作土15-2-1層、下位の耕作土を15-2-2層と命名し、それぞれ対象とした。

③ト層土 16層黄褐色泥炭

④地下水位(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。3区の初期水田の小畦畔が盛土のみの構造であったので、開田時には、杭列畦畔を1区SK11505のように伴うものであっても、やや乾燥していた可能性が考えられる。そこで、半湿田と推定した。

<2>調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに15層水田の概要でも述べたように、15-2-1層水田は耕作土上面起伏を15-1層上面で擬似畦畔Aとして検出、さらに、15-2-1層水田の下位での畦畔配列は15-2-2層上面を覆う15-2層中位火山灰上面の精査によって、この火山灰の分布状況から擬似畦畔Bとして、畦畔配列を把握しようとした。15-2-2層水田は、上面の起伏は上位の水田の耕作によって破壊されているので、検出できず。16層泥炭の上面に精査によって、耕作土下面の起伏を擬似畦畔Bとして把握を試みた。これらの内、15-1層上面で15-2-1層水田の擬似畦畔Aとして検出した水田区画痕跡が最も明瞭に認識できた。これは、断面でも小畦畔の高まりが数多く検出できたからである(断面図参照)。

<3>微地形と堆積活動・地盤運動

①山面の標高と起伏とその成因

15-2-1層水田の山面の標高は北東部が最も高く、約4m。中央やや西部寄りが最も低く約3mである。また、南西部は約3.6mと高くなっている(15Aによって推定)。15-2-2層水田の山面の標高は北東部が最も高く、約4m。中央やや西部寄りが最も低く約2.9mである。また、南西部は約3.5mと高くなっている(15Bによって推定)。この1区には、3区と同様に挽曲凹地がありそうである。この挽曲凹地は、N40°W・N24°Wの方向で調査区の西部を南北に貫いている。

これが挽曲凹地である証拠は2つある。第1に、15Aで検出した小区間の南北小畦畔③の部分が高さも低いことである。もしも、15-2-1層水田の耕作時の起伏とすれば、この凹地部分の谷縁に畦畔を設けることはしないと考えられる。第2に、この凹地に接して、その西側に、両側に杭敷板列を備えた大畦畔を備える溝状遺構SD11502が傾斜地の斜面(西畦畔の高さが東畦畔の高さより約20~30cm高い)に位置しており、溝覆土断面の堆積ラミナもこれと同様に傾斜している。すなわち、水流による堆積物であれば、堆積層位は水平に近くなるはずであるが、ここでは、そうならない。これは、地盤の傾斜が、耕作時期のできたのではなく、後の時代にできたことをもがたっている。したがって、この凹地は挽曲凹地と命名してよいと考えられる。

もう一つの挽曲地形がありそうである。それは、調査区北東部の隆起地盤である。第62・63図1区の南北中央帯西断断面図E-E'と第64・65図1区の東断断面図F-F'でもわかるように、6層上面に刻まれた河道跡SR10603の流心部分が、15層のみならず、13層さらに6層まで隆起し

ている。しかも、土層の厚さは隆起部分とそうでない部分とほとんど変わらない(F-F'の右側部分参照)。この微高地は、いつできたのか。もしも河道が形成された時期であるとすれば、河道跡は微高地の後縁部分に流心をもつ形でできたのだろうか。通例は、河道は低い部分に形成される。そこで、この河道形成時期には、これほどの隆起は形成されていないと考えられる。すると、河道形成以後に隆起したのか。しかし、このF-F'の19層上面に注目されたい。ここでは、南から北に向かって、大沢スコリアやカワゴ平軽石層が低角の逆断層をおこしながらのしあがっている。このような現象は、第112図のX-X'やW-W'でも確認できる。これは、このSR10603の流心部分が、15層水田の基盤形成段階ですでに高まりをみせていた証拠かもしれない。とすれば、15層水田の段階の小区画配列が谷底地形の曲面を利用した形態になっているのも理解できよう。この問題点については、再び5層水田のところでも述べたい。

なお、15-2-1層水田の耕作土の厚さから、15-2-2層上面段階からの堆積量を測定した第107図によれば、堆積物は調査区の南東から北西方向のコースで進んだようだ。この部分は小区画が最も小規模になっている部分であり、この段階での最も低い部分であった可能性がある。この最低地を埋めるようにして堆積が進行したと考えられる。このことは、その西側に存在する撓曲凹地の位置には堆積物があまりきていないことから、この凹地が後世にできたことを暗示している。

4) 水山形態

<1> 畦畔・溝状遺構と区画

① 畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の一覧は、第5表のとおりである。15-2-1層水田の畦畔配列は15Aの全体図に明瞭に示されている。この1区は全調査区の中で最も低い位置にあり、15-2-2層水田の段階では杭列護岸畦畔であった。しかし、15-2-1層水田の段階では、これらの畦畔を基本的には踏襲しながらも、盛土畦畔として機能していた可能性がある。例えば、東西方向の稠密な杭敷板列大畦畔のSK11505は、畦畔断面の観察でも、上面起伏の観察でも盛土小畦畔3として機能している。これと同様に溝状遺構の両脇の大畦畔も盛土畦畔の状況と考えるとよいかもしれない。この推定の根拠として、15-2-1層水田の段階の溝状遺構の覆土の底から15-2-2層水田段階の杭列畦畔が出土することがあげられる。溝状遺構とその両側の畦畔の位置が移動したと考えないと、これは理解できない。ただし、土圧による泥炭質粘土の圧密によって、15-2-1層水田の段階の溝状遺構の底から杭列の頭が突き抜けて露出しているが、15-2-1層水田の経営の時期には、地下に埋没していたものと考えられる。

なお、これらの大畦畔は、全てN24°W系のものであり、2区の大畦畔の方向性と一致している。微高地の張り出し部の北縁辺の方向性と考えるとよいだろう。

これらの大畦畔と溝状遺構の内、この1区の南北溝状遺構SD11502と、2区東端の両側に側溝を持つ南北大畦畔SK21504との間隔は、約53mである。

b 小畦畔の構造

高まりが比較的によく観察できた15-2-1層水田の小畦畔の断面観察では、小畦畔は盛土から構成されている。

② 区画・畦畔の配列と変遷

ここでは、小畦畔・小区画の配列が明瞭に観察できた15-2-1層水田の擬似畦畔A(15A)検出面

の記録をもとに検討していきたい。

小畦畔・小区画の配列は、上記のN24°W系の大畦畔の方向性に規制されつつも、谷状地形の地形勾配を反映し、N39°W系である。前述のようにこの谷地形の当時の最深部は、I186グリッドからJ185グリッドにかけて展開している最も小区画の南北方向水田列3列と考えられる。この地域は15-2-1層水田の耕作土が最も厚く、したがって堆積物の流入コースと考えられたからだ。この3列は、ほぼ正方形であったり、南北方向に長い小区画であり、灌漑水も南から北への方向性が考えられる。それに対して、この3列の東側と西側は東西方向に長い小区画が目立ち、3列の両側の高い部分から最も低い3列の部分に山越して灌漑水を流す方式が推定できる。

なお、1区の小区画の大きさは前述の様に2区の約4倍の広さである。が、1区でも最も小さな区画の1辺は2~1.5mであり、これは2区の平均的な区画の大きさに相当する。

なお、15B・15Cでも15Aで確認した小畦畔痕跡の方向に合致する畦畔痕跡群が確認できたが、15Cでは、正方位の小畦畔痕跡も若干推定できた。なお、15Cの北西部を東西方向に延びる太い帯状の屈曲した筋が確認できる(第104図参照)。この方向性は、ほぼ正方位系の東西畦畔であるかもしれない。また、この屈曲した東西方向の帯状の筋の直上から雑木類が数点、この方向に並んで出土している。これも、正方位系の畦畔痕跡と関連するかもしれない。

③田圃状況

足跡状の痕跡は検出できなかった。

<2> 水利

①用排水施設

調査区西端部で、南北方向の両脇大畦畔付きの溝状遺構SD11502が検出できた。水流の方向は、15A面の等高線によって、南から北への流れが推定できる。なお、この水路は、3区の水路が15-2-2層段階で廃絶し、2区の水路が15-2-1層下段階で廃絶したのに対して、1区の水路遺構SD11502は、開田当初から15-2-1層水田の廃絶まで継続して使用されている。なお、この溝状遺構から弥生時代後期後半の壺が出土している。

5) 遺物・火山灰と年代観

15層水田の概要でも述べたように、3種類の火山灰が検出されている。これらは、第3表に記したように、近接する遺跡群で、弥生時代中期後半の遺物と相伴する。当遺跡でも、3種類の火山灰の内、最下位の15-2層下位火山灰を挟んで弥生時代中期後葉の有蓋式土器片が、2区中央北部で多数出土している。そこで、15-2層水田は弥生時代中期後葉の時期の水田とみなした。また、1区の水路遺構SD11502の15-2-1層相当の上層から弥生時代後期後半の壺が出土している。また、3区の15-2-1層から古式土師器が出土している。これらのことから、15-2層水田は、弥生時代後期から古墳時代前期の水田と推定した。

なお、出土遺物で遺物編に報告したものは全て第113図に示した。農具では、板田下駄が多数出土した。また、工具としては溝状遺構からは拵矢(N08)が出土している。また、2区と同様に、矢板列、杭列は、17層上面付近で地中切断されているものが多数発見された(第111図)。この面が滑り面となって、土層が陥没をおこしたと考えられる。

6) 写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版32-1は谷状地形に、15-2-1層

水田が立地していることを示している。図版32-2は下位の東西方向の杭敷板列大畦畔SK11505と、15-2-1層水田の東西方向小畦畔の位置がずれていることを示している。図版32-3は南北溝状遺構とその下部の大畦畔の横断面である。圧密を受けていずれも扁平になっている。図版33-3この写真で、溝状遺構よりも低い部分があることがわかる。図版42-3、43-1～3、44-2～7は、いずれも17層上面付近での杭列の切断を示している。図版43-5は、第112図のY-Y'断面である。谷状地形の下位の20層の直下に黄灰色の粘土層が検出された。タンニン鉄が多く、空気ふれるとたちまち暗褐色に変色した。レンズ状の堆積を示す。

第3節 古墳時代中後期～律令期の12層水田遺構群

1 12層水田遺構の概要

(1) 土層の観察と年代観

15層の弥生時代中期後葉から古墳時代前期の水田の上面には、数cmの泥炭質粘土(15-1層)と泥炭(14層)が堆積している。これは、15層水田の廃絶にかかわる湿地化の時期の堆積物である。その後、厚さ約1mの青灰色もしくは灰色のシルト質粘土(13層)が堆積する。この上に堆積した褐色もしくは黄灰色の粘土を耕作土として12層水田が営まれている。この12層は3区で厚さ25cmほど、2区・1区で約20cmである。この耕作土を観察すると、下半分は下層の13層粘土の攪拌した粘土粒子が明瞭に散らばっているが、上半分ではこれらの粒子はより細かなものになっている。なお、3区より1m程下位に位置する1区の中でも低地部分からは、13層上面に泥炭層が厚さ数cm堆積していた。

この12層中からは、土器片は、ほとんど出土しなかった。わずかに3区の13層上面に刻まれた耕作痕跡を精査していくうちに、調査区中央部で和泉式期とも考えられる土師器片が数点発見された。また、1区では12層の耕作土が覆土となっている条里系の方向を示す東西溝の覆土中から奈良時代の須恵器の坏の底(転用型P17：遺物編第1図。遺物実測図1区中層水田第4図17)が発見されたのみである。また、この12層水田を覆う11層黄灰色粘土(腐植質)の上に、厚さ20～25cmの泥炭層(10～7層)が堆積しているが、この内、10層上面からは、838年伊豆神津島天上山噴出の火山灰(Iz-K1)が一樣に検出できた。そこで、この12層水田の時期は、わずかな出土土器と火山灰から古墳時代中期～平安時代初頭と考えられる。

また、後述するように、この12層の耕作土下面からは条里型水田とは方向の異なる水田遺構が発見され、この水田区画が耕地整理されて、条里型水田に変貌を遂げていることがわかった。そして、この条里型水田の初現は、当遺跡では、条里型水田の区画方向に、ほぼ並行する東西溝状遺構の施工が奈良時代には行なわれていたことを示している。そこで、12層下部の非条里型水田の時期は、古墳時代中期から古墳時代後期を経て、奈良時代のある段階までと考えられる。この水田を耕地整理した条里型水田の時期は、奈良時代のある段階から、平安時代初頭以前と考えられよう。ただし、12層の上に厚さ数cmの11層、その上に厚さ数cmの10層が乗り、この上面に838年火山灰が位置していることから、12層上面が埋没したのは、8世紀代にまで遡る可能性もある。

(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造

1) 拗曲凹地と畦畔配列との関連

15層水田でも述べたように、3区と1区に南北方向の拗曲凹地が存在し、この凹地地形は12層水田段階でも存在している。しかし、この拗曲凹地の形成が5層水田段階であるので、12層水田の畦畔配列には影響していない。

2)地形起伏と基盤土壌・畦畔配列

12層水田段階の基本傾斜も、15層水田と共通して、西南西から東北東への緩やかな傾斜(12層上面で、東西約300mの距離で約6mから4.4mへの低下-落差約1m60cm)を示している。15層段階では2区が舌状に南から北に張り出していたが、12層段階では、3区が、南から北に張り出している(第115区)。また、1区は最も低く、13層上面に泥炭の形成をみている。このことは、基盤土壌の13層が形成した段階の後、1区では泥炭が生成する湿地となったが、3区・2区では微高地であって、水田の再開発が進んだと考えられる。いいかえると、1区の水田再開発は遅れたと考えられる。数cmの泥炭の生成であるから、約数10年以内のタイムラグがあったとみていいかもしれない。

1区の低地部分では、再開発水田の母材は12層の褐灰色粘土と泥炭であったが、3区・2区では、母材の主体は褐灰色粘土そのものである。そのため、15層水田と比べて、有機質が乏しく、草木等の施肥が必要となろう。これに関連して輪カンジキ型山下駄や、縦長型の板状山下駄が出現すると推定される(遺物編、まとめ参照)。

また、12層下部の水田区画は、2区・1区で、地形傾斜いかにに関わりなく、正方位系が卓越しているようだ。これは、静岡市瀬名遺跡でも確認されている(「瀬名遺跡Ⅱ」静岡県埋蔵文化財調査研究所)。しかし、3区では、これとはちがって、N65°Wの方向の東西大畦畔とそれにほぼ直交する南北大畦畔がいくつか検出されている。また、N65°Wの方向に段差線が延び、南西から北東に傾斜する微高地の縁辺が存在し、これに対応する畦畔配列になっている。

12層上部の条里型水田の段階は、N39°E系の条里型坪界大畦畔が全区で確認できた。しかし、3区・2区では盛土を伴う条里型坪界大畦畔だけでなく、それに並行する、杭列や敷板列のみの畦畔痕跡が検出されている。このような事例は、岳美遺跡でも報告されており(「岳美遺跡Ⅰ」1995静岡県埋蔵文化財調査研究所)、条里施工に伴う試行錯誤の過程の産物かもしれない。

なお、小畦畔については、2区では整然とした方形の区画が検出されたが、3区では新旧の畦畔が入り組んで検出されている。

また、土壌と遺構の問題にからんで2点指摘したい。第1に、1区では、調査区西部で、南北方向の条里中畦畔SK11206の北東側(12層下部に泥炭が存在する部分)では、あまり耕作攪拌の痕跡が12層中や下部で確認できなかったことである。プラント・オパール分析でもイネの数値は0個/gのところいくつかあった。このように湿地域では、条里以前の再開発も行なわれず、条里段階になって、条里型坪界大畦畔は設けるもの、湿地の開発はあえてしなかった部分があった区域が検出できたのである。第2に、通例大畦畔の下部には擬似畦畔Bが存在するものであるが、この条里型坪界大畦畔の下には擬似畦畔Bが存在しないのである。耕地整理型の大畦畔の典型とみなしていいだろう。

3)地下水位の変化と畦畔構造の変化

12層水田は、下位の水田も上位の条里型水田ともに、大畦畔は敷板が若干あり、杭もまばらであり、15層水田段階よりも乾燥していることがわかった。また、12層の中でも下位の水田の大畦畔の方が、上位の条里型坪界大畦畔よりも、杭列や敷板の分量が少ない。このように地下水位は低下していったことがうかがえよう。畦畔区画は大変化した、これは地下水位の変化によるものではなく、人為的な耕地整理である。

4)水田耕作土・遺構の認定と調査方法

<1> 水田耕作土の認定

12層に、前述のように13層粘土の巻き上げ痕跡が明瞭に残ること。イネのプラント・オパール

が多数検出されたこと。断面に畦畔の高まりが確認できること。以上の点から水田耕作土の認定を行なった。

<2> 畦畔遺構の認定と調査方法

畦畔遺構の確認で、問題となったのは、小畦畔の平面検出技術の問題である。いいかえると、耕作土の上面起伏・畦畔等の遺構の配列をいかに把握するかという問題である。

12層水田については、土層の観察から、条里型坪界大畦畔の高まりは、全調査区で確認できた。ただし、1区の場合は大畦畔の圧密が著しく進み、大畦畔の痕跡をみつめることも容易ではなかった。わずかにX-X' 断面の観察から大畦畔の規模がうかがえた。

小畦畔の断面は、12層上面での確認が、湿地化が徐々に進行した分、不明瞭とならざるをえなかった。そこで、3区では11層上面で、2区では10層上面での擬似畦畔Aの検出を試みた〔3区(12A)〕〔2区(12A)〕。11層上面の検出は、10層の泥炭を剥いでいく作業であった。また、10層上面の検出は、838年火山灰の上面を追いかける作業であった。3区・2区ともに小畦畔断面が多数観察でき、2区では、さらに12層上面を追いかける作業をすすめた。すると、より明瞭に小畦畔の痕跡を検出することができた〔2区(12B)〕。また、1区では、断面で小畦畔の高まりを探す作業を実施したが、不明瞭であり、小畦畔の高まりを示す、12層上面の粘土層の高まりを11層の腐植質粘土をスライスすることによって見付けようとした〔1区(12A)〕。

また、12層水田の下部の状況をあきらかにするために、全調査区で、13層上面の高まり部分から小畦畔痕跡を追求する擬似畦畔B検出作業を行なった。同時に大畦畔の解体も行ない、条里型坪界大畦畔とは異なる大畦畔痕跡群を発見した〔3区(12B)〕〔2区(12C)〕〔1区(12B)〕(第114図の遺構変遷図参照)。

<3> 畦畔配列の種類と変遷 (第6表)

12層水田の調査で確認できた大畦畔は、大きくは、2種類がある。一つめは、N39°Wの静岡平野広域条里系の坪界大畦畔(以下、条里系と略す)。二つめは、非広域条里系の大畦畔である。これには、N13°E系と正方位系がある。12層水田の上面で検出できたのは、広域条里系の坪界大畦畔のみであった(擬似畦畔Aまたは耕作土上面での調査)。ところが、12層水田の下面では、12層水田の上面で検出できた条里系の坪界大畦畔と同じ角度をもつ大畦畔が検出された。さらに条里系とは異なる、N13°W系と正方位系の大畦畔が確認できた(擬似畦畔Bの調査)。

同じ広域条里系大畦畔とはいっても、12層の上面で検出できたものは、12層水田が廃絶する直前まで機能していた水田大畦畔である。これらに対して、12層下面で確認できたものは、敷板や杭列は確認できても、盛土が存在しないものである。そこで、条里系の坪界大畦畔にも新旧関係があることがわかる。

なお、非条里畦畔の2種類の新旧の認識は、不明瞭であった。これらの大畦畔の種類の一覧は、第6表を参照されたい。

第6表で示した、水田遺構群の分類をもとに、畦畔群の変遷過程を以下に述べたい。

まず、非条里型のN13°E系と正方位系の畦畔が設置されたと考えられる。3区では、地形の傾斜に対応するN13°E系が採用され、2区・1区と3区の東部では、正方位型が採用される。この正方位型は、静岡市瀬名遺跡でも確認できた。これらは、敷板・杭列を伴うものである。次に、条里型水田の設置が行われる。当初の条里型坪界大畦畔は3区・2区で、敷板と杭列を備えたものとして検出された。これと同様の事例は、西隣の岳美遺跡でも確認されている。以上の畦畔群の敷板・杭列の上の盛土は、全て、新規の条里型水田の耕作によって攪拌され、断面観察では確認できなかった。最後に、新規の条里型坪界大畦畔が設置されるが、これも敷板・杭列を伴うもので

表6 12層水田大畦畔・畦畔群・溝状遺構一覧表

1 12層上部で確認された水田遺構

条里系（新）水田

方向	3区	2区	1区
(南北方向)	SK31201杭数大	SK21203 SK21204杭数大	SK11202盛大 SK11206盛中
(東西方向)	SK31210盛（中） SK30209盛（中）	SK21202 SK21205杭数大 SK21212盛中	SD11201

2 12層下面で確認された水田遺構

条里系（旧）水田

方向	3区	2区	1区
(南北方向)	SK31205杭数大	SK21209数杭大	
(東西方向)		SK21210数杭大	

12層下置水田・・・N13°E系

方向	3区	2区	1区
(南北方向)	SK31204杭数 SK31203杭数		
(東西方向)	SK31202杭数		

12層下置水田・・・正方位系

方向	3区	2区	1区
(南北方向)	SK31211数	SK21211杭数 SK南北杭数群	
(東西方向)		SK31501杭数	

凡例

- 盛・・・畦畔盛土に、敷板・杭・矢板を伴わない場合。
- 敷・・・畦畔盛土の上面または内部に、敷板が施されている場合。
- 杭・・・畦畔盛土の側面または中央に杭列が施されている場合。
- 大・・・条里型坪界大畦畔
- 中・・・条里型中畦畔（坪内部での主要な畦畔：長地型畦畔等）

ある。このような変遷過程を経過していると考えられるが、杭列や敷板列の分量は、下位水田のN13°E系のものが最も多く、その他は、若干少なくなっている。

なお、杭列や敷板列の分量が最も集中するのは大畦畔の交点部分である。この部分を通して田越して灌漑していたと考えられ、破損と補修が繰り返された跡と考えられる。

なお、1区では、下位水田の段階で、正方位系の水田区画が存在したようであるが、条里型坪界大畦畔の付け替えについては、不明であった。ただ、条里型坪界大畦畔SK11201の下位に自然堆積層の盛り上がり確認できなかった(X-X'断面)ことから、ここでも下部水田を耕地整理して条里型坪界大畦畔が設置されたことがわかった。

<4> 小区画の編成と規模

第114図のように、小区画の痕跡が検出できたのは、3区(12A)、2区(12A)(12B)のみであった。これらは、どれも条里型水田の小畦畔群であり、下位水田の小区画の検出は、明確にはできなかった。

なお、3区(12B)や1区(12B)での擬似畦畔Bの状況から、正方位系やN13°E系の水田も小区画が存在したようである。

次に、条里型水田の小区画の状況を主に3区と2区で検討したい。ここでは、便宜的に、条里型坪区画の番号を、北側の坪区画列を西から東へ、坪1～坪3、南側の坪区画列を西から東へ、坪4～坪6と命名した。3区の状況は、条里系の小畦畔とN13°E系の小畦畔が錯綜した状況がみられる。また一部には正方位型のものもみられる。3区西部の坪1では、条里系が卓越し、一部にN13°Eがみられる。3区東部の坪2では、条里系とN13°E系が錯綜し、東南部では正方位系も存在している。なお東部の南半分には、5層で生じた地割れ痕跡が多数発見され(SX31208)、小畦畔の検出を著しく困難にした。なお3区では、坪1と坪2で、東西方向に比較的高く、しかも連続のある、坪内畦畔2条が検出されている(SK31209とSK31210)。これらは、その他の小畦畔とは異なり、長地型の長地畦畔と同様に、連続性が良く、灌漑水を制御するような機能をはたしているのので、これを中畦畔とした。このような中畦畔は、条里型坪界大畦畔に次いで、施工され、徐々に従来の非条里系の小畦畔群を条里系に改編していったのかもしれない。耕地整理過程の途中で、腐植質粘土の洪水堆積を受け水田としての機能を廃止したと考えられよう。

これと比べて、2区は比較的に整然とした条里系の畦畔配列が確認できた。調査区西部の坪2では、1辺約5～8mの方形の区画が並んでいる。南北と東西のいずれの方向が規制力をもっているのか判然としなかった。ただし、この方形区画は、3区の南東部の坪1でも見られる。また、調査区北西部の東西中畦畔SK21212も高い盛土であり、3区のSK31210と連続する。調査区北東部の坪3でも坪2と類似した方形区画が散見できる。しかし、攪乱坑が広く不明瞭なところが多い。坪2と3はしいていえば、東西方向の小畦畔がやや卓越しているかもしれない。2区中央南部の坪4は、小面積のため、畦畔配列の特徴は不明である。調査区南東部の坪5では明らかに南北方向の小畦畔が卓越している。この差異は、坪2と3が南から北に張りだした微高地が南から北になだらかに傾斜するのに対して、坪5は、2区の東から1区の西にかけて、徐々に傾斜し、1区中央部の谷地形に至っている。そこで、この等高線の方向に並行に短冊型の南北長地小畦畔を配列し、これを適宜細分する方式(長地細分型)を採用している。なお、長地方向の小畦畔の間隔は約3～4mで、長地を細分する東西方向の小畦畔の間隔は約約3～8mである。この東西方向の小畦畔も連続性がよいが、ところどころで畦畔がとぼされて耕作土となっている。これは、施工の順序と経営の実態を反映しているのかもしれない。施工方法は、①長地小畦畔の設置、②長地を細分する小畦畔の設置。こうで、格子目となる。耕作単位は長地単位が、静岡市南部の近世での土壌慣行であるので、格子目の格子の欠落は東西方向にのみみられることから、やはり、当時でも長地単位に耕作し、水利の関係で東西小畦を撤去したほうがよい場合には、そうしているたとも考えられる。

なお、1区西部の坪5であるが、南北方向の中畦畔SK11206を堺に、その東の低地で、13層上面に泥炭がのっている地域と、西のやや微高地となっている地域とは、12層下部での耕作攪拌の痕跡のありようがまったくちがっている。西の微高地では激しい巻き上げ痕跡があり、東の低地では、それはほとんどない(第152図Z-Z'、b-b'断面参照)。イネのプラント・オパールも、東の低地は0個/gである。

なお、条里型水田の坪界大畦畔の間隔であるが、当遺跡では南北方向が3本検出されているので、その間隔を報告する。3区のSK31201と2区のSK21204との間隔は約104m、2区のSK21204と1

区のSK11202との間隔は約103mである。

2 各調査区の概要

各調査区に共通する事項の概要は、すでに1で述べたので、ここでは、各調査区に固有な事項を中心に述べたい。また、数値的なことは観察表に譲る。

(1) 3区12層水田

12層水田の耕作土は、12層であり、その上部は条里型水田であり下面は、それ以前の非条里型水田である。上部の水田の遺構の上面起伏の調査は、11層上面の検出によってとらえた。本来ならば、12層上面でとらえるべきであるが、12層上面に生成した腐植質の粘上層(11層)との層界が不明瞭であったため、厚さ5~6cmの11層上面で、12層上面の畦畔起伏を擬似畦畔Aとして把握する方法を採用した(12A)。

12層水田の開発当初の形態を確認するため、12層下面で擬似畦畔Bの調査を行なった(12B)。

1) 遺構・遺物の概要

大畦畔の一覧は、表に示したとおりである。12層水田の上面で擬似畦畔Aとして確認できた主要な畦畔遺構は、条里型坪界大畦畔SK31201とそれに直交する2本の中畦畔(坪1ではSK31209、坪2ではSK31210)である。また、2区・1区では、12層水田の上面で確認されたのは、すべて条里系の畦畔群であったが、この3区では、非条里系のN13'W系の畦畔群が多数検出され、調査区東南部では正方位系の畦畔群も検出された。

また、12層下面の調査では、敷板や枕列の帯状の配列によって、条里系の畦畔痕跡の他に、上記の非条里系のN13'W系の畦畔痕跡群が多数検出され、正方位系の畦畔痕跡も検出されている。条里系のものとしては、上記の条里型坪界大畦畔SK31201の東側約3m付近に、これと並行する敷板列SK31205が確認できた。畦畔痕跡としては、両者ともに、同じような規模の敷板列からなり、ともに敷板の下位に、自然堆積層の存在が確認できなかった。いいかえると、共に擬似畦畔Bの存在が確認できなかったのである。ところが、N13'W系の畦畔痕跡としてとらえた敷板列の、敷板の下面からは、自然堆積層の13層の高まりが、ある程度、確認できた。

いいかえると、条里系の畦畔敷板材の下面には擬似畦畔Bはなく、非条里系の畦畔敷板材の下面からは、擬似畦畔Bが発見されたのである(第118図参照)。このことから、N13'W系の畦畔痕跡の方が、条里系の畦畔痕跡群痕跡よりも古いことがわかる。また、同じく条里系の畦畔群の中でも、盛土を伴っているSK31201の方が、盛土も伴わないで敷板列のみのSK31205よりも新しいことがわかる。

遺物では、杭敷板列畦畔群から、板状田下駄の縦長タイプのA類が、多数出土した。また、15層水田では1点も発見されなかった輪カンジキ田下駄も多数発見された。これらの縦長タイプのA類の板状田下駄と、輪カンジキ型田下駄とのセット関係については、遺物編に述べる。

2) 発掘区域

全域調査ができた。ただし、調査区西部にある2つ方形上土は静岡市教委による試掘坑である。

3) 水田基盤

<1> 上壤

- ①被覆土 10層褐色粘土質泥炭
- 11層黄灰色粘土(腐植質)

この層が耕作土であるかは、断面形状では、ラミナはあるものの不明瞭であるので、耕作によって搅拌行為が行なわれた可能性は否定できない。しかし、プラント・オパール分析では、東南部でイネ属は500個/g。花粉分析のイネ属比率は27%である。

同区西北部でのイネ属比率は39%である。この結果を受けて、古環境研究所のプラント・オパール分析報告では、この11層では、稲作の可能性は低いとし、花粉分析報告書では、稲作の可能性は高いとしている。調査者は、12層にみられる下位の土壤粒子が耕作による搅拌に巻き込まれるという現象が、上層断面から確認できなかったため、耕作土として、積極的に認定していない。

②耕作土 12層(上部)黄灰色粘土

12層(下部)褐色灰色粘土

③下層土 13層灰色シルト質粘土

④地下水(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。

しかし、12層の上部の調査で確認できた条里型坪界大畔群はじめ、12層下面の調査で確認できた新旧の条里型水田群の、多くは敷板のみを畦畔補強材として使用していた。杭列はわずかであった。

そこで、12層水田の廃絶時には、やや乾燥した田面や耕作上の状況がうかがえた。そこで、半湿田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに12層水田の概要でも述べたように、12層水田は耕作土上面起伏を11層上面で擬似畦畔Aとして検出、さらに、12層水田の下位での畦畔痕跡は13層灰色シルト質粘土の粒子群の帯状の分布によって擬似畦畔Bとして、把握することを試みた。また、この面では、敷板列や杭列によって、畦畔痕跡を推定することも試みた。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

① 田面の標高と起伏とその成因

12層水田の田面の標高は南西部が最も高く、約6m。北東部が最も低く約5.4mである(12Aによって推定)。12層水田の下面の標高は、南西部が最も高く、約5.9m。北東部が最も低く約5.2mである(12Cによって推定)。なお調査区の中央に南北方向の拗曲凹地SX31512が通り、約50cmも窪んでいる。この凹の程度は、15層段階とほぼ、同じ規模である。この拗曲凹地の成因が、前述のように中世(鎌倉時代)の5-2-2層水田の上面が地表面であった時代とすれば、それ以前の地形はこの地変の影響を受けているのは当然である。具体例として、12Aの全体図で確認できる小区画の畦畔方向が、この拗曲凹地と方向が異なっており、この凹地ができる以前に畦畔が配列されたことを雄弁に物語っている。

なお、この12層水田耕作土の厚さは北西部と北中部がもっとも厚く、堆積量の変化から、堆積の経路を推定すると調査区西部では南西から北東方向に、北中部では南南東から北北西に堆積物の堆積ルートがあったようだ。調査区東部では、北東隅で堆積物が多く、これまで微高地であったところの縁辺部分に堆積物が多くなっている。微細な起伏の凹地部分が埋めたてられ、平坦化が進んだのである。

② 雁行する地割れ群と地盤運動

調査区南中部から南東部にかけて多数の雁行する地割れ群SX31208が確認できた(平面図：第

1 27図、断面図126～128)。これらは、正断層であり、北から南への地盤の表面の引っ張り作用の結果生じたと考えられる。この地割れの発生時期は、5層水田の項で記述するように、5-2-2層水田の経営段階と推定できる。この地割れ群の形成によって、調査区東半部での小畦畔等の遺構の確認は不明瞭にならざるをえなかったものと思われる。

4)水田形態

<1>畦畔・溝状遺構と区画

①畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の一端は、前の表のとおりである。初期水田の畦畔配列は12Cの全体図に比較的に明瞭に示されている。大畦畔はN13°W系のものと正方位系の2通りが検出された。なかでもN13°W系のものが卓越している。

なお、12Cの検出遺構には、12層の上部にまで継続する条里型坪界大畦畔と、12層の上部までは、継続されないものが発見された。前者を条里系の新。後者を条里系の旧とした。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

小畦畔は盛土から構成され、12層水田の上部で、条里系のものと非条里系のものが錯綜して複雑な区画を構成している。小畦畔・小区画の配列は、上記の2通りの大畦畔の方向性に規範された方向性を持つ。

③田面状況

足跡状の痕跡は検出されなかった。

<2>水利

①用排水施設

検出されていない。

5)遺物・火山灰と年代観

12層水田の概要でも述べたように、10層上面で838年に伊豆神津島で噴出した火山灰が発見されており、12層水田の廃絶は、奈良時代末か平安時代初頭と考えられる。12層の上部で確認できた条里型水田の初現は、3区では土器の出土がまったくなかったため不明であるが、1区の条里型の方向性をもつ溝状遺構SD11201から出土した須恵器が奈良時代前半であることから、この時期以前と考えられる。

また、12層下面で検出されたN13°W系の畦畔群の施工時期は、調査区中央部で13層にくいこむようにして出土した土師器が和泉式期のものであるので、これから古墳時代中期と考えられる。

なお、出土遺物で遺物編に報告したものは全て第130～132図に示した。農具では泥除けが若干出土し、縦長型板田下駄や輪カンジキ型山下駄が多数出土した。

6)写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版45、46-1：12A検出面全景。雁行地割れSX31208の平面での配列が確認できる。図版46-2：条里型坪界大畦畔SK31201の南部がやや変形しており、地震との関連が推定される。図版48-1・2・4・5：12A検出面で確認できた畦畔痕跡のたかまり。比較的顕著な例をあげた。図版49：条里型坪界大畦畔の盛土部分の中央に客土がみられる。ま

大畦畔の下部には自然堆積層の高まりとしての擬似畦畔Bが確認されていない。図版50・51：雁行地割れSX31208。50-3は地震が5-2-2層水田段階で発生したことを示す貴重な証拠である。50-4では、地割れが13層にまで達している。図版52：12B検出面全景。ここでは、N13'W系の敷板列と条里系の新旧の大畦畔の敷板列の配置がわかる。もうひとつ注目すべきは、このN13'W系の敷板列には、擬似畦畔Bが確認できることである。図版54-4：擬似畦畔Bを伴うN13'W系の敷板列。図版55-1：擬似畦畔Bを伴わない条里系の敷板列。右手が旧条里、左手が新条里。ともに並行していることがよくわかる。

(2) 2区12層水田

12層水田の耕作土は、12層であり、その上部は条里型水田であり下面は、それ以前の非条里型水田である。上部の水田の遺構の上面起伏の調査は、10層上面の検出と12層上面で行なった。前者は擬似畦畔Aにあたる。耕作土上面を直ちに調査してもよかったが、12層上面に生成した腐植質の粘土層(11層)との層界が不明瞭であったため、敢えて、より明瞭に層界の分離ができる10層上面を予備的に調査し、その結果をふまえて、12層上面の調査に入った。また、12層水田の開発当初の形態を確認するため、12層下面で擬似畦畔Bの調査を行なった(12B)。

1) 遺構・遺物の概要

大畦畔の一覧は、表に示したとおりである。12層水田の上面で擬似畦畔Aとして確認できた主要な畦畔遺構は、条里型南北坪界大畦畔SK21203とそれに直交する1本の中畦畔(坪1のSK21201)、条里型東西坪界大畦畔SK21205とそれに直交する11本の中畦畔(坪3の南北畦畔14・15・16・18、坪5の南北畦畔12・13・14・15・17・18・19である)。3区では、非条里系のN13'W系の畦畔群が多数検出されたが、2区では全く検出できなかった。

遺物では、杭敷板列畦畔群から、敷板に転用された建築材とともに、ここでも3区と同様に、縦長タイプの板状田下駄や輪カンジキ田下駄が、多数確認できた。ここで、注目したい遺物は、全国最古の枠型田下駄の出土である。13層上面からの出土であり、12Bで発見された敷板列の正方位系の大畦畔SK21211からの出土である。

2) 発掘区域

全城調査ができた。ただし、調査区中央部の南北条里坪界大畦畔SK21203・21204付近は、土取りの痕跡が大きく、13層内まで攪乱を受けていた。

3) 水田基盤

<1> 土壌

①被覆土 10層褐色粘土質泥炭

11層黄灰色粘土(腐植質)

この層が耕作土であるかは、断面形状では、ラミナが確認でき、耕作は行なっていないと判断した。しかし、プラント・オバール分析では、西北部でイネ属は700個/g。東南部でイネ属は0個/gであった。花粉分析のイネ属比率は、西北部で(36)％。東南部で57％である。ここでも3区と同様な問題が惹起している。プラント・オバール分析では、稲作の可能性は低いとし、花粉分析では、稲作の可能性は高いとしている。調査者は、前述のように耕作土とは認定していない。

②耕作土 12層(上部)黄灰色粘土

12層(下部)褐色粘土

③下層土 13層灰色シルト質粘土

④地下水位(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。

しかし、12層の上部の調査で確認できた条里型坪界大畦畔はじめ、12層下面の調査で確認できた新旧の条里型水田群の、多くは敷板のみを畦畔補強材として使用していた。杭列はわずかであった。そこで、12層水田の廃絶時には、やや乾燥した山面や耕作土の状況がうかがえた。そこで、半湿田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに12層水田の概要でも述べたように、12層水田は耕作土上面起伏を10層上面で擬似畦畔Aとして検出、さらに、この擬似畦畔Aを手がかりとして、12層上面で真の畦畔の位置を断面で確認した。最後に、12層水田の下位での畦畔痕跡を13層灰色シルト質粘土の粒子群の帯状の分布によって擬似畦畔Bとして、把握することを試みた。また、この面では、敷板列や杭列によって、畦畔痕跡を推定することも試みた。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

①山面の標高と起伏とその成因

12層水田の山面の標高は南西部が最も高く、約5.5m。北西部が最も低く約5.3mである(12Bによって推定)。12層水田の下面の標高は、南西部が最も高く、約5.3m。北西部が最も低く約5.1mである(12Cによって推定)。

なお、この12層水田耕作土の厚さは南西部がもっとも厚く、堆積量の変化から、堆積の経路を推定すると調査区西部では南西から北東方向に、堆積物の堆積ルートがあったようだ。なお、この2区は、隣接する3・1区と比べて平坦である。これは15層水田の段階でも確認されている。

②地割れ痕跡と地盤運動

この2区は、隣接する3・1区と比べて断面に地割れ痕跡は、断面の詳細な観察によっても発見することができなかった。この区の堆積物が平坦に堆積され、平坦面を構成していることと無縁ではなからう。

4)水田形態

<1> 畦畔・溝状遺構と区画

①畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の・覧は、前の表のとおりである。初期水田の畦畔配列は12Cの全体図に比較的に明瞭に示されている。大畦畔は正方位系のもので、調査区全域で卓越している。さらに、条里系の大畦畔は新旧2本づつ、交点部分を含む遺構が検出できた。いずれの交点も敷板が集中し、杭列も若干存在している。新旧の間の距離は、南北方向が約15m、東西方向が約12mである。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

小畦畔は基本的には、盛土から構成されるが、初期の正方位系の小畦畔の中には、第143区

ように敷板を伴うものもありそうである。

③田面状況

足跡状の痕跡は検出されなかった。

<2> 水利

①用排水施設

検出されていない。

5) 遺物・火山灰と年代観

12層水田の概要でも述べたように、10層上面で838年に伊豆神津島で噴出した火山灰が発見されており、12層水田の廃絶は、奈良時代末か平安時代初頭と考えられる。12層の上部で確認できた条里型水田の初現は、2区では土器の出土がまったくなかったため不明であるが、1区の条里型の方向性をもつ溝状遺構SD1120iから出土した須恵器が奈良時代前半であることから、この時期以前と考えられる。

また、12層下面で検出された正方位系の畦畔群の施工時期は、調査区中央部で13層にくいこむようにして出土した土師器が和京式期のものであるので、これから古墳時代中期と考えられる。

なお、出土遺物で遺物編に報告したものは全て第145～147図に示した。前述したように枠型田下駄の出土が最大の特徴である。

6) 写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版56、10層上面での全景写真であるが、南北方向の条里坪界大畦畔SK21203・21204が記入されていない。これは、この段階では、擾乱が深くおよんでいたため、明確に認識できなかったからだ。また、小畦畔の認定に一部誤りがあった。57-5は、南北条里坪界大畦畔の擾乱下部から出土した敷板群・杭列群である。52-3は、写真右手の南から北にカーブする小畦畔は、実は60-3のような形状の誤りであった。59-4は、東西条里大畦畔SK21202のE'-E''断面である。作業員の大きさと比べると、大畦畔の大きさがよくわかる。60-1・2のように、坪5では、長地畦畔が卓越している。しかし、南北坪界線の西側の坪2では、60-3のように、方形の規格が卓越している。61-2は、東西坪界大畦畔の断面。61-4は、南北坪界大畦畔の断面。ともに、下位に擬似畦畔Bを持たない。ともに耕地整理型の水田であることを考古学的に証拠である。また、これらの条里坪界大畦畔の上面は平坦であり、歩行に使われていたことが想像できる。さらに大畦畔の肩部がかなり急斜面になっている点に特色がある。62は、12Cの全景である。写真中央部に新規の条里大畦畔交点が見え、その東20m付近に、旧の条里大畦畔交点が見える。第64-2は、新規の条里大畦畔交点解体状況である。64-3・4は枠型田下駄検出状況である。時計方向に若干回転している。

(3) 1区12層水田

12層水田の耕作土は、12層であり、その上部は条里型水田であり下面は、それ以前の非条里型水田と推定される。上部の水田の遺構の上面起伏の調査は、12層上面の検出によってとらえた(12A)。この1区では、12層上面直上の11層の腐植が多く、両層の層界が3・2区よりも明瞭であったので、いきなり12層上面の遺構検出作業に入った。さらに、12層水田の開発当初の形態を確認するため、12層下面で擬似畦畔Bの調査を行なった(12B)。

1) 遺構・遺物の概要

大畦畔の一覧は、表に示したとおりである。12層水田の上面で確認できた主要な畦畔遺構は、南北条

甲型坪界大畦畔SK11202とそれに直交する1本の溝状遺構SD11201である。また、SK11202から約25m離れて西に位置する中畦畔SK11206である。いずれも条里系の方向性をもつ。しかし、SK11202の断面観察では擬似畦畔Bは確認できず、12層下面の等高線図で推定できた正方位型の段差線が畦畔痕跡を反映していると仮定すれば、ここにも、最初は正方位系の区画があって、これが条里型水田に耕地整理されたことが想定できる。

また、南北条里型坪界大畦畔SK11202といっても、調査区南東部で若干の高まりが確認できただけであり、中畦畔SK11206にいたっては、その東側が非耕作域、西側が耕作域であり、西側の微高地と東側の低湿地との傾斜変換線に位置し、盛土の痕跡はほとんどない。さらに溝状遺構SD11201は逆台形の断面をもつ。しかし、その大半の部分が、SR10603によって侵食されてしまっている。だが、一部、溝の底の部分にへばりついていたものをSD11201の遺物として認定した。

遺物では、最も重要な発見としては、奈良時代前半に遡る須恵器の坏の底部(転用履)がある。これは、SD11201の底から発見された。この条里型水田の使用年代が、奈良時代前半に遡ることが確実にになった。また、この区では、箸状木製品や人形の出土が目される。

2)発掘区域

全域調査ができた。

3)水田基盤

<1>土壌

- ①被覆土 10層褐色粘土質泥炭
11層黄灰色粘土(腐植質)
- ②耕作土 12層(上部)黄灰色粘土
12層(下部)褐灰色粘土
- ③下層土 13層灰色シルト質粘土
- ④地下水位(水田盛)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。1区では、条里系の畦畔の全てが、単なる盛土畦畔であって、畦畔補強材は一切検出できなかった。やや乾燥した田面や耕作土の状況がうかがえるかもしれない。そこで、半湿田の可能性があらう。

<2>調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに12層水田の概要でも述べたように、12層水田は耕作土上面起伏を12層上面で検出、さらに、12層水田の下位での畦畔痕跡は13層上面で把握した。なお、この区では、12層上面の起伏の把握のために、11層・12層の上の色の相違によって11層泥炭のなかに分布する12層の粘土粒子のマーキングを試みた。

<3>微地形と堆積活動・地盤運動

①田面の標高と起伏とその成因

12層水田の田面の標高は南西端部が最も高く、約5.2m。この微高地は北西から南東に向かって傾斜し、端部から約15m東に、もっとも低い谷地形(N35°Wの谷筋)があり、最下部の標高は約4.4mである(12Aによって推定)。12層水田の下面の標高は、南西部が最も高く、約5.0m。この微高地も北西から南東に向かって傾斜し、端部から約15m東に、もっとも低い谷があり、最下部の標高は約4.1mである(12Bによって推定)。このように基本的には、12層下面の地形をト

レースするようにして、12層上面の地形が成立している。しかし、堆積量は、谷部では、約30cmであるのに対して微高地部分では約20cmとやや少ない。そこで、この谷地形は、i2層下面の段階ですでに存在していたと考えられる。15層水田の項で述べたように、15層段階から存在していた凹地形である。しかし、12Bの等高線図をみると等高線の方向から正方位系の段差線が散見できそうであり、この谷地形にもかかわらず、正方位系の水田を造成したふしがある。

しかし、これらの正方位系の水田を耕地整理してできた条里系の水田は、方向性がN39°Wであるので、この谷地形の方向性とうまく対応し、谷地形部分付近を湿地のまま残させ、微高地部分を耕作土として利用したようである。

②地割れ群と地盤運動

調査区西部から中部にかけて数箇所の地割れ痕跡が発見された(第211区参照)。平面ではi2層上面で確認したが、断面の観察では9層上面で発生した地割れと考えられる(第212区参照)。これらは滑り面を12層下面または10層下面にもち、ともに地滑り地塊が水を多く含んだ繊維分に富んだ泥炭質の粘土であるのに対して、滑り面の直下には、より粘土分が強い地塊が存在している。これらは地震動によって、滑り面の上下で異なった振動を起こし、地割れの発生になったと考えられる。これらの地割れ群は正断層・逆断層がいろいろあり、12層水田の遺構に変形を与えたと考えられるが、実際にはよくわからなかった。

4)水田形態

<1>畦畔・溝状遺構と区画

①畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

大畦畔の一覧は、表6のとおりである。ここでは、比較的明瞭にわかる条里系の大畦畔・中畦畔・溝状遺構を取り上げる。南北条里型坪界大畦畔SK11202とそれに直交する1本の溝状遺構SD11201。SK11202から約25m離れて西に位置する中畦畔SK11206である。SK11202の直下には疑似畦畔Bは観察できず、3区2区と同様に、1区でも耕地整理型の水田畦畔であることがわかる。坪界大畦畔SK11202は、湿地部分に位置し、d-d'断面(第152図)でもわかるようにほとんど扁平で、わずかに数cmの高まりが認められるにすぎない。同様に、中畦畔SK11206の場合は、西側の微高地と東側の低湿地との傾斜変換線に位置し、盛土の痕跡はほとんどないが、その東側が非耕作域、西側が耕作域である。断面を見ると、非耕作域では、12層と13層の層界は直線的で、ほとんど乱れがなく、12層中にもラミナが不明確ながら観察できた。これに対して、耕作域では、12層と13層の層界は複雑に入り組み、13層の粒子が12層に巻き上げるように散在している。Z-Z'、b-b'断面(第152図)をみれば明らかである。これらの非耕作域と耕作域との境目付近は、やや12層の高さが若干(1~2cm)高まっており、これがSK11206の断面と考えられる。

また、この非耕作域と耕作域との境目の平面位置は、N39°Wの方向性を持つ一直線になり、畦畔の高まりが、ほとんど肉眼では確認できなかったが、畦畔遺構として認定してもよいと考えた。

なお、この非耕作域でのプラント・オパール分析では、イネ属は0個/gのところかいくつもあるのに対して、耕作域ではイネ属は700個/gと少ないながらも確認できた。また、非耕作域の13層上面には12-2層とした暗褐色泥炭の薄層が確認できた。これも湿地であったために、耕作域から除外したと考えてよいだろう。稲作適地の選地をしていたと考えられる。

溝状遺構SD11201は微高地部分から低地部分にかけて刻まれている。溝の底の高さは4.8mから4.1mにかけてである。この微高地を刻む部分では溝の底に遺壺状の凹が確認でき、ここに多数の木製品が滞留していた。また、微高地部分の端部にも多数の木製品が滞留していた。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

小畦畔の検出数が少なく、配列と変遷を論じるには材料が不足している。

③田面状況

足跡状の痕跡は検出されなかった。

④ 水利

①用排水施設

微高地部分から低地部分にかけて刻まれたSD11201。これは排水兼灌漑とも考えられる。堰状の遺構は不明だが、微高地端部と微高地と低地の接点部分の木片の集積部分は堰の存在を暗示している可能性がある。特に後者の木片集積部分は、中畦畔SK11206の西側に位置し、中畦畔と溝状遺構が交差する部分では木片が溝状遺構に直交していたものが2点、それに斜めに傾斜して置かれたものが3点、縦に立てられたものが2点あった。これらは、堰状遺構といってもよいかもしれない。しかし、これが仮に堰であるとしても、この下流域は湿地であって灌漑水を必要とする時期は、夏の田植え期以外には考えられない。今後の検討課題である。

5) 遺物・火山灰と年代観

12層水田の概要でも述べたように、10層上面で838年に伊豆神津島で噴出した火山灰が発見されており、12層水田の発達は、奈良時代末か平安時代初頭と考えられる。12層の上部で確認できた条里型水田の初現は、3区では土器の出上がまったくなかったため不明であるが、1区の条里型の方向性をもつ溝状遺構SD11201から出土した須恵器が奈良時代前半であることから、この時期以前と考えられる。

また、12層下面で検出されたN13°W系の畦畔群の施工時期は、2区中央部で13層にくいこむようにして出土した土師器が和泉式期のものであるので、これから古墳時代中期と考えられる。

なお、出土遺物で遺物編に報告したものは全て第135図に示した。溝状遺構SD11205付近から、人形やいくつかの器状木製品が出土していることは注日できる。溝の祭りにからむ祭祀行為が行われた可能性が考えられる。

6) 写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版67：1本の溝状遺構と小畦畔が若干確認できた(12B)。この小畦畔の内、南東部分の南北小畦畔が条里坪界大畦畔SK11202の痕跡とも考えられる。また、この付近は、図版65でも12層の高まり部分として確認できるところである(12A)。図版69・70は逆断層・正断層の断面・平面写真である。69-1は、当初、白い火山灰層が2層重なって見えたところである。しかし、丁寧に断面を観察すると、低角度の逆断層であり、低地から微高地に向かって上盤が緩りあがっていることが解る。69-2は、12層下部に泥炭が散見でき、これと13層の粘土との層界がすべり面となっていることがわかる。また、正断層ができた部分と13層の接点付近に、青灰色の13層が盛り上がりしていることがわかる。これは、墳傍ならぬ、墳泥ともいえるものだろう。ただし、9層上面に噴出することなく、途中で止まっている。

第4節 中世の5層水田遺構と河道跡

1 5層水田と河道跡の概要

(1) 上層の観察と年代観

①11～6層の堆積

12層の古墳時代中後期～平安時代初頭の水田の上面には、数cmの泥炭混じり粘土～シルト(11層)と厚さ約20cmの泥炭(10～8層)・黒泥(7層)が堆積している。なお、10層上面には、838年噴出の伊豆神津島天上山火山灰(Iz-Ki)が降灰している。これらの11層から7層にかけては、12層水田の腐絶にかかわる湿地化の時期の堆積物である。これらの湿地堆積物は、各区ともにほぼ均一な厚さである。その後、7層の黒泥の上に、6層の灰色粘土が堆積する。これは、洪水堆積物であるが、下位の泥炭・黒泥層とは異なり、厚さは一律ではない。3区では約7cm、2区では約9cm、1区では約28cmである。これは、湿地堆積物は、静穏な池沼の底に植物遺体が固着するように堆積するが、洪水堆積の場合は、低地に多く、微高地に少なく押し寄せるためと考えられる。

②6層を切る河道跡の形成・埋積、沼地堆積物(5-3層)の堆積

この6層を切って1区では河道跡SR10603が形成される。この河道跡には、厚さ数～10cmの河川堆積物層と厚さ約1mの沼地堆積物層(5-3層)によって、埋積されている。河川堆積物層には明瞭なラミナが確認できる。この5-3層は下から2/3(5-3層下部)が湿地堆積物そのものであり、ところどころでラミナが、不明瞭ながら確認できた。しかし、上から1/3(5-3層上部)は、湿地堆積物に攪拌、特に下位の5-3層下部との層界部分にわずかながら攪拌痕跡を認めることができた。河道跡から検出された土器の22点は河床付近の河川堆積物層からの出土である。また、5-3層上部からは1点山茶碗が出土している。5-3層下部からの出土はなかった。河道跡から検出された土器は、7世紀末～12世紀後半の土器である。耕作土層の5-3層からは13世紀の山茶碗1点が発見されている。

③河道跡の形成と埋没の時期

この河道跡が埋積されたのは、13世紀以前であるが、ではいつ形成されたのかについては、河道内堆積物の下限である12世紀後半以前とすることができる。では河道の形成時期はいつなのか。6層を切っているのだから、これはそれ以降とはいきれるのか。第193図に示したように7世紀末から12世紀が河道堆積物から出土した土器の年代観の範囲である。この内、7世紀末～8世紀、10世紀、12世紀の3時期の遺物の破片が河床付近を移動し、数mから10数mも離れた土器が接合されている。このことから、これらの時期に、その時代に使用されていた土器が河道に投入されていたとすれば、これらの時期には流れがある河道が存在していたことになる。逆に、これらの遺物は、使用後、しばらくたったのちに河道に廃棄されたとすれば、または河道の下方、傾方の侵食活動によって12層～6層までに土層中に残された土器が河道に投入されて流されたのか。このようにいくつかの解釈ができよう。

また、この問題を解明していくための、いくつかの留意点をあげたい。第1に、12層段階では条里型の溝状遺構SD11201が機能していたことである。前述のように、SD11201の機能していた時期が、8世紀前半以降。そして、条里型水田の埋没時期が9世紀初頭とすれば、この時代には河道の西側流路は存在しなかったと考えられる。第193図でもわかるように、7世紀末～8世紀の西側河道底の土器は、SD11201の肩部付近からの出土であり、もともとは溝状遺構内に廃棄された遺物の可能性があり、それがのちに河道ができた時に溝状遺構の肩を侵食して河道内に取り込まれた可能性も考えられる。また、この時期の遺物は、東側流路の河床中央部付近に散見される。このことは、調査区西部には溝状遺構があったが、東部にも水流を伴う溝状遺構または河道のようなものがあったのかもしれない。第2に、条里

型水田の埋没が湿地化によるものであるとすれば、溝状遺構SD11201と東側にあったかもしれない流路も全て湿地となったと考えられる。いいかえると水没したのである。この湿地化は7層まで連続するが、断続的に地表面が陸地化したり、流水の影響があったようだ。まず、遺物としては1区の10層上面に正置された甲斐型土器(P7)は、植物遺体が器の中に入り込みその上に、838年火山灰がのっていたのである。そこで、この10層上面段階では1区は湿地の中でも、陸地化していたのではないかと推定できることである。また、1区の地震痕跡からも8層上面の滞水の揺れをうかがえたが、珪藻分析からも、8層には好流水性種の珪藻が伴い、水の流入が想定できるといふ。さらに、7層は植物遺体がかなり分解し黒泥となっていること。また7層上面に、1区でも、足跡や流水の経路が若干見られたこと。以上から、10層上面、8層上面、7層上面の3時期の陸地化がうかがえそうなことである。これらの時期に湿原の中に河道が刻まれたり広がったりするとは十分あると考えられる。その場合、かつての溝状遺構跡や流路跡は凹地となっており、この凹地をトレースするようにして河道が復活するとは十分考えられる。中でも、7層黒泥上面を覆う6層粘土層が堆積した時期には、かなりの水流があり、1区の谷地形を侵食しここに6層粘土を堆積させたことは間違いないだろう。すなわち、6層を刻む河道が形成される以前に、7層を刻む河道が形成されていても一向に不思議はないのである。このように、時々陸地化や流れの復活の時期に、9～12世紀の上層が流れ込んできたのかもしれない。しかし、当初述べたように、現段階の上層観察では、6層粘土を刻んで河道跡が形成されているのである。今後の検討課題としたい。

④5層水田が営まれた堆積物

次に、この河道跡が湿地化し、沼地堆積物によって覆われ、その上部に水田耕作が営まれる段階である(5-3層上部)。この土層からは13世紀の山茶碗が出土している。

さらに、沼地部分だけでなく、調査区全域を5-2-2層粘土が覆い、これを耕作土として5-2-2層水田が営まれる。ところが、3区・2区では、厚さ1～2cmの白色粘土(5-2-1-2層)で薄くバックされる。この洪水堆積の薄層の上に、5-2-1層粘土が堆積し、これを耕して5-2-1層水田が営まれている。この5-2-2層の堆積後に3区では地割れ群が発生している(第129図)。遺物編Ⅱ所収泉川論文では、この地割れ群は、11世紀末と14世紀中頃にそれぞれ発生した南海地震・東海地震の中間の時期に生じた東海地震によるものと推定されている。この地震の後に、白色粘土薄層と5-2-1層粘土が堆積したと考えられる。

この5層水田の時期であるが、2区では6層上面から、1区では5-2層中から、いずれも13世紀後半の土器片が出土している。そこで、前述したように、5-3層上部の沼地での水田耕作は13世紀に行われた、そして、5-2層の水田(5-2-2層水田と5-2-1層水田)は13世紀後半には形成・経営されていたと考えられる。ただし、これらの土器片は、耕作土中からの出土であり、しかも、それぞれ1～2点の破片の出土であり、断定的なことはいえない。

⑤5層水田を廃絶させた堆積物

5-2-1層水田の上には、5-1層と4層の灰色粘土が洪水によって流れ込み、廃絶に至っている。次いで3層の泥炭が生成する湿地となる。

(2) 地形起伏・地質・地盤と畦畔構造

1) 拗山凹地と畦畔配列との関連

15層水田・12層水田でも述べたように、3区と1区に南北方向の凹地が存在し、この凹地は5層水田段階でも存在している。なお、この凹地の形成は、20層シルトを覆土とする河道跡の凹地として形成され、1区では、この凹地地形が、15層水田の畦畔配置に若干影響したようであり、12層水田でも湿地の非耕作域として影響を与えていた。しかし、3区の場合は、15層水田でも12層水田でも、平坦面となり畦畔配列に影響を与えていないようである。しかし、5層水田の段階では、5-2-2層水田面の時期に生じた地

震の影響で、20層段階以降に形成されていた凹地の直上に堆積していた泥炭混じりのシルト質粘土と泥炭が、圧密沈下し、その上に堆積していた19～5-2-2層が挽み、いわゆる拗曲地形が形成されたようである。この現象は、清水市長崎遺跡2区の縄文河道と、その直上の泥炭層が、古代～中世の段階に生じた圧密沈下によって、拗曲し、凹地を形成したことと、よく似ている(「長崎遺跡Ⅰ」1989参照)。

この拗曲の影響によって、凹地地形が出現し、5-2-1層水田は、これに対応した畦畔配列になっているようだ。なお、1区の凹地地形は、5層水田段階ではほとんど解消され、南西部が約20cm高くなっているにすぎない。ここでは3区とは異なって5-2-2層水田面が発生した地震による地形変化は、あまりなかったのではないかと考えられる。

2) 地形起伏と基盤土壌・畦畔配列

5層水田段階の基本傾斜も、15層水田・12層水田と共通して、西南西から東北東への緩やかな傾斜(5層上面で、東西約300mの距離で約6.4mから4.9mへの低下―落差約1.5m)を示している。15層段階では2区が舌状に南から北に張り出していたが、12層段階では、3区が、南から北に張り出し、この5層段階では3区と2区が、南から北に張り出している(第155図)。また、1区は最も低く、凹地地形の中央から北東部にかけて河道跡SR10603が刻まれ、これが河川堆積物と沼地堆積物によって埋積された後、5層水田となった段階でも、SR10603の東流路付近が最も低い。

5層水田の基盤土壌は、6層灰白色粘土上面に堆積した5-2層灰色粘土である。なお、1区ではSR10603を埋積した沼地堆積物の5-3層上部が水田となっている。

5層水田の畦畔配列は、大きく3種類に分類できそうである。まず、N39°W系の12層の広域条里型水田の系譜を引くもの。次に、N21°W系の畦畔群。3つ目は、正方位系の畦畔群である。広域条里系の畦畔は、5-2-2層水田では、3区の南北境界大畦畔とそれに接続する2～3本の小畦畔、2区では南北方向の溝状遺構7本、1区でも南北方法の溝状遺構4本が数えられる。5-2-1層水田では、3区の南北境界大畦畔は擬似畦畔Bとしては確認できたが、5-2-1層水田耕作土上面では確認できなかった。このことは、全区で共通していいことである。広域条里系の畦畔は、すべて5-2-1層水田耕作土上面では消滅していると考えてよいだろう。N21°W系の畦畔群は、3区では、5-2-2層水田段階、さらに5-2-1層水田擬似畦畔Bの段階で、南北境界大畦畔以外の小畦畔で卓越する。正方位系の小畦畔群は、5-2-2層水田段階で、全区で出現し、N21°W系の畦畔群とともに、5-2-1層段階でも存在している。なお、3区の5-2-1層水田耕作土上面では、N21°W系の畦畔群よりも、正方位系の小畦畔群跡の方が広く展開しているようだ。これは、5-2-1層水田耕作土上面で生じた凹地地形の方向とはほぼ合致していることによるのかもしれない。なお、この段階の耕作土は、地震の影響で拗曲した5-2-2層(5-2-1層水田にとっては基盤層)とともに、凹地に厚く堆積している(第6図)。また、1区でも、正方位系の小畦畔群跡が、広く出現しているようだ。また、地形勾配は、N21°W系または正方位系のものに、ほぼ合致するようだ。

3) 地下水位の変化と畦畔構造の変化

5層水田は、下位の水田も上位の水田も、ともに、大畦畔・小畦畔をとわず、杭・矢板あるいは敷板等の畦畔補強材は、ほとんど検出されていない。そこで、12層水田の段階よりも、さらに一層乾燥していることがわかった。15層・12層・5層のそれぞれが水田化された時期の地下水位のレベルは、15層・12層・5層の順に下がっていることが推定できる。

4) 水田耕作土・遺構の認定と調査方法

<1> 水田耕作土の認定

5層に、前述のように6層粘土の巻き上げ痕跡が明瞭に残ること。イネのプラント・オパールが多数検

出されたこと。断面に畦畔の高まりが確認できること。以上の点から水田耕作土の認定を行なった。

<2> 畦畔遺構の認定と調査方法

畦畔遺構の確認で、問題となったのは、畦畔の平面検出技術の問題である。いいかえると、耕作土の上面起伏・畦畔等の遺構の配列をいかに把握するかという問題である。

5層水田については、土層の観察から、条里型坪界大畦畔の高まりは、3区の5-2-2層水田と5-2-1層水田の擬似畦畔Bとして確認できた。また、広域条里系の溝状遺構群が、2区・1区で確認できた。

なお、正方位系の大畦畔としては、1区のSK10506がある。この場合、真の畦畔の高まりよりも、その上を覆った4層3層の粘土層の方が、よりシャープに高まりをつくっている。これは、通例の擬似畦畔Aの高まりとは異なり、地盤の層滑りによって、原型以上の高まりとなってしまったようだ(第197図参照)。

<3> 畦畔配列の種類と変遷 (第7表)

5層水田の調査で確認できた畦畔は、前述のように、大きくは、3種類がある。一つめは、N39°Wの静清平野広域条里系の坪界大畦畔(以下、条里系と略す)等。二つめは、非広域条里系の大畦畔であり、N21°E系。三つ目は正方位型のパターンである。それらの特徴と地形勾配の関係については前述の通りである。また、それらの分布と変遷の一覧を第7表にまとめた。参照されたい。

<4> 小区画の編成と規模

この5層水田では、区画はきわめて小規模である。1辺の長さが1m程度の小区画が多数、ほとんど無秩序にちりばめられている。しかし、よく観察すると、前述のように、主としてN21°E系の小畦畔が、散見できる。この小区画水田は、12層の律令期の条里型水田よりも、一層小規模となっている。中世の小区画の報告は、岡山早野の南釜田遺跡で、条里型水田の一種として報告されている。小区画になった原因は不明であるが、中世小氷期の影響で水田の水温が下がり、それを防ぐために区画を小さくして暖めやすくなったのかもしれない。なお、条里型水田の変形の過程として、まず、小区画が新たな地形勾配に合わせて、条里型大畦畔に囲まれた坪内で、方向を変化させている。次いで、最後まで残存していた条里大畦畔が消滅する、というような段階をふんでいるようである。

条里型水田の開始期には、大畦畔が、まず設置される。次いで、中畦畔・小畦畔の順で条里型に耕地整理される。こんどは、条里型水田の終末期には、開始期とは逆の方向で再整理されることを暗示しているのかも知れない。類例の報告を待ちたい。

2 各調査区の概要

各調査区に共通する事項の概要は、すでに1で述べたので、ここでは、各調査区に固有な事項を中心に述べたい。また、数値的なことは観察表に譲る。

(1) 3区5層水田

5層水田の耕作土は、5-2-1層と5-2-2層の2つである。この2つの耕作土の間には、洪水堆積の白色粘土の薄層がある。5層水田耕作土の直上には、5-1層～3層の腐植混じりの粘土・泥炭層がある。2つの水田遺構は、それぞれ耕作土の上面と下面(擬似畦畔B)で調査を行なった。ただし、2つの耕作土の間の自然堆積層が薄く、かつ部分的な分布であったため、5-2-1層水田の擬似畦畔Bと5-2-2層水田の上面遺構とは、同時に写真測量を行なった。

1) 遺構・遺物の概要

主要な畦畔の一覧は、表7に示したとおりである。上位で5-2-1層水田、下位で5-2-2層水田が検出され

表7 5層水田大畦畔・小畦畔・溝状遺構一覧表

5-2-1層水田 (5-2-1層上面検出遺構)

畦畔の種類	畦畔方向	3区05A	2区05A	1区05A (擬似畦畔A) 05B
N39° W系 〔条里系〕	南北方向			小畦畔② ③
	東西方向			小畦畔① ②
N21° W系	南北方向			
	東西方向	小畦畔①① SD30508 SD30504		
N21° W系 〔正方位系〕	南北方向	SD30507	小畦畔⑮	小畦畔⑥① (小畦畔痕跡あり)
	東西方向		SD20513	SK10506 (小畦畔痕跡あり) 小畦畔⑳ ㉓ ㉔

5-2-1層水田 (擬似畦畔B : 5-2-1層下面検出遺構)

畦畔の種類	畦畔方向	3区05B	2区05B	1区
N39° W系 〔条里系〕	南北方向	SK30501	SK20513	
	東西方向		SK20512	
N21° W系	南北方向	小畦畔③④		
	東西方向	小畦畔⑩		
N21° W系 〔正方位系〕	南北方向		(小畦畔痕跡あり)	
	東西方向		(小畦畔痕跡あり)	

5-2-2層水田 (5-2-2層上面検出遺構)

畦畔の種類	畦畔方向	3区05B'	2区05C	1区
N39° W系 〔条里系〕	南北方向	SK30501	SK20513 溝群SX20512	
	東西方向		SK20512	
N21° W系	南北方向	小畦畔⑥ ③② ③⑤		
	東西方向	小畦畔③ ②① ⑤④		
N21° W系 〔正方位系〕	南北方向	小畦畔④④ ④⑤	SD20505 SD20507	
	東西方向		SD20506 SD20509 SD20510	

5-2-2層水田 (擬似畦畔B : 5-2-2層下面検出遺構)

畦畔の種類	畦畔方向	3区05C	2区05C	1区05C
N39° W系 〔条里系〕	南北方向	SK30501	SK20513 SD20501 SD20502 SD20503	SD10501 SD10504 SD10505
	東西方向	小畦畔④① ④③ ④⑤	SK20512 SD20504	
N21° W系	南北方向	小畦畔⑥ ⑧ ④④ ④⑤ ④⑤ ④② ④⑤ ④④ ④① ④②		
	東西方向	小畦畔④① ④⑩ ④④ ④⑨ ④① ④③ ④④		
N21° W系 〔正方位系〕	南北方向		SD20505 SD20507	
	東西方向		SD20506 SD20509 SD20510	
その他の主要遺構		N21° W系南北④⑤ 東西④①		SR10603 SD10504

* 5層水田では、畦畔の盛土に、敷板・杭・矢板は一切伴っていなかった。

た。そこで、検出順に述べる。

<1> 5-2-1層水田の遺構・遺物の概要

5-2-1層水田の上面は、上位の1層水田による耕作攪拌によって、畦畔上面の起伏が肉眼では確認できたのは調査区の中南部から南東部にかけてであった。大畦畔は確認できなかったが、幅20～30cmほどの小畦畔が、N21°W系または正方位系の方向で格子目状の、いわゆるミニ水田として確認できた。小区画の平均辺長は、約1.4m、小区画の平均面積は、約2㎡である。また、10数条の溝状遺構が確認できた。これらの溝状遺構にはSD30504のように小畦畔で囲まれた直線的な水路状のものもあるが、多くは畦畔や小区画の一部を欠損させた、洪水氾濫にともなう侵食痕跡とも考えられる不定形な遺構群である。全体としてみると、調査区南東部の中央北部付近を中心とした東西方向に長い楕円の半分が描かれているような配列の溝状遺構群である。この長楕円の中心付近には、5-2-2層水田調査時に発見された地割れ痕跡SX30502(第159図)や、12層水田耕作土上面で確認できた、雁行地割のSX31208(第116・123・210図)が存在している。溝状遺構群は、これらの下位の調査面で確認できた地割れ痕跡を囲むようにして位置している。溝状遺構群と地割れ痕跡の関係については後述する。

5-2-1層水田疑似畦畔Bとして検出された遺構では、特筆できるのは、条里坪界大畦畔のSK30501である。同じ5-2-1層水田であっても、初期の段階では、大畦畔は条里型のを踏襲して採用していても、廃絶直前には、これを踏襲していないのである。また検出された小畦畔のほとんどは、N21°W系であり、条里型のもは確認できなかった。

以上の5-2-1層水田の全ての畦畔は、敷板・杭列を伴わない、盛土畦畔であった。遺物では、輪カンジキ型田下駄2点、箸状木製品9点、曲物4点が田面から出土している。

<2> 5-2-2層水田の遺構・遺物の概要

5-2-2層水田の上面は、上位の5-2-1層水田による耕作攪拌によって、不明瞭な部分が多く、耕作土上面を薄く覆う白色粘土が存在している部分のみ、畦畔上面の起伏を確認することができた。大畦畔としては、条里型坪界大畦畔のSK30501が確認でき、小畦畔は、5-2-1層水田疑似畦畔Bと同様に、N21°W系が大部分であった。特に調査区南西部で比較的整然とした格子状のミニ水田が確認できた。幅20～30cmほどの小畦畔。小区画の平均辺長は、約1.5m、小区画の平均面積は、約2.3㎡である。なお、正方位系の小畦畔も調査区南東部で若干検出されている。

5-2-2層水田疑似畦畔Bとして検出された小畦畔は、ほとんどがN21°W系であるが、条里系の遺構としては、南北坪界大畦畔SK30501と若干の東西小畦畔がある。なお、N8°E系の小畦畔もある。5層水田では、条里系畦畔が最も顕著なのは、この面である。また、この5-2-2層水田面の調査区南東部で地割れ痕跡のSX30502が検出されている。

以上の5-2-2層水田の全ての畦畔は、敷板・杭列を伴わない、盛土畦畔であった。遺物では、箸状木製品8点、曲物2点、漆桶1点、鉛玉1点、舟形木製品1点、用途不明木製品2点が、田面から出土している。注目すべきは、鉛玉と舟形木製品である。前者は鉄砲の玉とすれば、鎌倉時代の水田からの出土には疑問が残る。16世紀の鉄砲伝来以降に、この地で鉄砲が使用され、その際、水田または沼地に落とした鉛玉が、この5層水田の耕作土層内に達したことも考えられる。後者からは、鎌倉時代においても舟形木製品を使用した祭祀が行われていたことがわかる。

2) 発掘区域

全域調査ができた。ただし、5-2-1層上面は、前述のように1層水田の耕作攪拌が調査区の広い範囲に及び、畦畔起伏が肉眼で確認できたものは、調査区の中南部から南東部である。

3)水田基盤

<1> 土壌

*5-2-1層水田

①被覆土 5-1層灰色粘土(3区東南部A地点では、オリブ黒重粘土)

この層が耕作土であるかは、断面形状では、ラミナはあるものの不明瞭であり、耕作によって攪拌行為が行なわれた可能性は否定できない。また、プラント・オブバル分析では、東南部A地点でイネ属は3200個/g。花粉分析のイネ属比率は43%である。

そこで、3区では5-1層でも水田耕作を行っていた可能性が考えられる。ただし、ラミナが確認できるということは、積極的な耕作が行なわれていないとも考えられる。基本的には、洪水堆積層のままであったと考えられる。

②耕作土 5-2-1層灰色粘土

③下層土 5-2-1-2層灰色シルト質粘土(洪水堆積層：厚さ1~2cm)

*5-2-2層水田

①被覆土 5-2-1-2層灰色シルト質粘土(洪水堆積層：厚さ1~2cm)

この層は薄いため、上位の5-2-1層水田の耕作によって、この被覆土が、5-2-1層耕作土中に細かな粒子として混入されたものがあつた可能性がある。しかし、このような粒子は、あまり観察できなかった。そこで、5-2-1-2層の堆積は最初から部分的であり、5-2-1層が直接、被覆土になっていた部分も存在していたとも考えられる。

②耕作土 5-2-2層黄灰色粘土

③下層土 6層灰白色粘土~シルト(洪水堆積層：厚さ10cm~1cm)

この層は、5-2-1-2層よりは厚いが、5-2-1-2層と同じく、堆積は部分的であった可能性がある。6層の堆積がない部分では、下層土は7層の黒泥となる。

*5-2-1層水田と5-2-2層水田での地下水位について

①地下水位(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。しかし、5層水田の調査で確認できた条里型埋界大畦畔はじめ、全ての小畦畔で、敷板や杭列は発見できなかった。そこで、5-2-1層水田、5-2-2層水田の両方とも、12層水田以上に乾燥した山面や耕作土の状況であったと推測される。そこで、半湿田もしくは、それ以上に乾燥していた水田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに5層水田の概要でも述べたように、5-2-1層水田と5-2-2層水田の両者ともに、耕作上上面起伏を直接確認し、また、それぞれの耕作上の下位での畦畔痕跡は擬似畦畔Bを検出することによって把握した。なお、畦畔または擬似畦畔Bの確認については、起伏の平面での観察とともに、多数のサブトレンチでの断面観察によって行なった。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

①田面の標高と起伏とその成因

5層水田の田面の標高は南西部が最も高く、約6.4m。北東部が最も低く約6mである(05Aによって推定)。5層水田の下面の標高は、南西部が最も高く、約6.3m。北東部が最も低く約5.7mである(05Cによって推定)。なお調査区の中央に南北方向の撓曲凹地SX31516が通り、約40cmも窪んでいる。この凹の程度は、12層段階より約10cm浅い。この撓曲凹地の成因が、前述のように中世(鎌倉時代)の5-2-2層水田の上面が地表面であった時代とすれば、それ以前の地形はこ

の地変の影響を受けているのは当然である。具体例として、12Aの全体図で確認できる小区画の畦畔方向が、この拗曲凹地と方向が異なっており、この凹地ができる以前に畦畔が配列されたことを雄弁に物語っている。

なお、拗曲凹地の南東側に地割れ痕跡SX30502が検出されている。これは、1層水田で確認できた、多数の雁行する地割れ群SX31208の直上に位置する。これらSX30502とSX31208の両方にかかわる断面図として、第129図と遺物編所収の寒川論文の図2を見ると、5-2-2層が断層部分で強く窪んでおり、それに比べて、5-2-1層はこの凹地を埋めるようにして、この凹地部分で厚く堆積している。この状況から、寒川氏は5-2-2層上面段階での地震発生とされている。しかし、この5-2-2層は水田耕作土であり、もしもこれが湛水期であったとすれば、5-2-2層は耕作土としてかなり軟弱な状況と考えられ、このように強く窪むことはないと考えられる。しかし、落水期とすれば、5-2-2層内には地割れ線が確認できそうなものであるが、これも観察できなかった。また、5-2-2層上面の耕作による攪拌痕跡とともに強く窪んでいることは、5-2-1層水田の耕作が及んでいる状況での地割れ発生とみたほうがよいのではないかと。すると、5-2-1層上面で多数発見された不定形の溝状遺構も地震地割れの影響を受けて生じたと考えてよいかもしれない。

このように考えると、5-2-1層がかなり軟弱で、水によって膨張し、マシュマロ状態であった。さらに、この耕作土としての5-2-1層の直下には、下層土として、やや軟弱な状態であった5-2-2層があったのではないかと。このような水田耕作土に生じた地震の場合、どこの層位面が地表面であったのかを推定する場合、耕作土がマシュマロ状態である場合には、地震発生当時の耕作土であっても、それがあっても地割れ発生後に堆積した層であるかのように錯覚する可能性があると考えられる。

4) 水田形態

<1> 畦畔・溝状遺構と区画

① 畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

主要な畦畔の一覧は、表7のとおりである。この調査区で検出された大畦畔は、条里坪界のものである。ただし、5-2-1層上面では、この条里系の大畦畔は消滅している。

また、溝状遺構は、N21°W系の東西方向のSD30504とSD30508である。前者は、小畦畔と小畦畔の間に掘り込まれた、長さ約18mの溝状遺構であり、西側は、不定形の溝状遺構群に連続している。これに対して後者は、小畦畔の北側の脇に掘り込まれていた。これは、前者の機能が水路であるのに対して、後者は畦畔盛土用の土を採土した痕跡、もしくは、畦畔補修用の土を採取した痕跡とも考えられる。このSD30508の底面には、この溝の走向に一致する足跡が検出されている(図版72-6)。ただし、前者の溝状遺構の西側に連続する不定形の溝状遺構群は、さらに南西側の調査区外にまで延びていくが、方形に区画する小畦畔を切っているものもあり、水路状の遺構が損壊を受けた結果を示しているとも考えられる。なお、SD30507は正方位系の長さ約7mの溝状遺構であるが、これも、小畦畔で囲まれた方形区画を損壊させている。この東側にも不定形の溝状遺構群が存在していた。これらの方形状区画を損壊させている不定形の溝状遺構は、前述のように地割れ痕跡SD30502の形成に関わった地震動によって引き起こされた洪水によるものとも考えられる。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

前述の様に条里系、N21°W系、正方位系の3種類が主な方向性である。その中で、5層水田の開田当初から、N21°W系が卓越し、条里系は、少数の小畦畔があったが、大畦畔を残すのみとなり、最終的には条里系の大畦畔そのものが消滅する。

③田面状況

足跡状の痕跡は検出されなかった。

<2> 水利

①用排水施設

5-2-1層上面で確認できた、東西方向の直線水路SD30504。これは水路の両側に小畦畔をともなっている。

5)遺物・火山灰と年代観

年代観にかかわる遺物・火山灰の検出はなかった。2区で5層水田の下位から発見された13世紀の常滑の壺の破片から、この3区でも同様の年代をがすと考えられる。

6)写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版71：05A検出面全景。調査区南西部のみで、5-2-1層水田の小畦畔起伏が検出できたが、その中でも、北中部では畦畔起伏は、肉眼ではほとんど検出できなかった。この部分の下位から図版75：05C検出面全景で明らかになった地割れ痕跡SX30502が検出されている。図版72-6では、SD30508の底面から足跡が検出された。この向きは溝状遺構の走向に合致しているので、小畦畔の脇を歩いた痕跡とも考えられる。また、足跡の輪郭は不鮮明であり、山積え時の足跡の形態とよく似ている。そこで、水路内もしくは小区画内に水が張られた状況での歩行と考えられる。また、この状況で、水田が廃絶したと考えられる。図版74-3、74-4ともに、05B' 検出面で確認できた5-2-2層水田の小畦畔⑥である。真の畦畔の上面付近での検出である。前者は、耕作土下位に存在する6層粘土の高まりが粒子状に散見できた状況である。この段階でサブトレンチを入れ、断面で6層粘土の高まりを確認し、小畦畔と認定した上で小畦畔の輪郭をマーキングしたものが後者である。図版75：05C検出面全景：耕作土をほとんど除去した状況での5-2-2層水田の擬似畦畔Bの検出状況であるが、この調査区では、耕作土の下位の6層自体がかなり薄いことが読み取れる。薄いことは、6層直下の7層黒泥の上面の黒色が透けて見えるからだ。図版76：05C検出面で、調査区南東部から検出された地割れ痕跡のSX30502である。この遺構の検出にあたっては、この部分では、6層灰白色粘土が、ほとんど確認できなかった。これは、最初から、この部分には6層粘土が存在していなかったためと考えられる。図版77は、05C検出面での、5-2-2層水田の擬似畦畔Bとして検出した小畦畔群の状況である。図版74-3・4の場合は、耕作土の直下の6層灰白色粘土の粒子列で確認できたが、この場合は、6層粘土が存在しないため、7層黒泥粒子の帯状の分布状況と、断面での7層の高まりのよって、擬似畦畔Bを検出した。

(2) 2区5層水田

5層水田の耕作土は、5-2-1層と5-2-2層の2つである。この2つの耕作土の間には、洪水堆積の灰白色粘土の薄層(5-2-1-2層)がある。5層水田耕作土の直上には、5-1層～3層の腐植混じりの粘土・泥炭層がある。2つの水田遺構は、それぞれ耕作土の上面と下面(擬似畦畔B)で調査を行なった。なお、下位の5-2-2

層水田では、5-2-2層耕作土上面と下面の間でも調査を行なった。これは、5-2-2層耕作土の上面で確認できた灰白色粘土粒子の帯状の配列の位置と、中位で確認できた灰白色粘土粒子の帯状の配列の位置とが異なっていたため、この面の調査も行なった。

この5-2-2層水田耕作土の断面を観察したところ、5-2-2層耕作土の上面で確認できた灰白色粘土粒子の帯状の配列は溝状遺構の溝内に堆積した5-2-1-2層のものであり、5-2-1-2層の中位で確認できた灰白色粘土粒子の帯状の配列は耕作土下位に存在する6層の灰白色粘土を巻き上げた粒子(5-2-2層水田の擬似畦畔B)であることがわかった。これまで、耕作土の上面で確認できる、耕作土と色調の異なる粘土粒子列は、擬似畦畔Bと、疑いもなくみなしがちであった。この問題については、調査方法の項とまとめの章で言及したい。

写真測量は5-2-1層水田の上面(05A)、5-2-1層水田の下面(05B)、5-2-2層水田耕作土中位(05Cと05D)の間、5-2-2層水田の下面(05D)の4面で行なった。5-2-2層上面については、手実測した。

なお、面的にまとまった調査範囲は調査区の南東部のみであった。

1) 遺構・遺物の概要

主要な畦畔の1覧は、表7に示したとおりである。上位で5-2-1層水田、下位で5-2-2層水田が発出された。そこで、検出順に述べる。

<1> 5-2-1層水田の遺構・遺物の概要

5-2-1層水田の上面では、3区と同様に、条里系の畦畔は、確認できなかった。多く確認できたのは正方位系の畦畔群といえるだろう。また、東西方向の溝状遺構SD20513も正方位系である。幅20～30cmほどの小畦畔から構成される格子目状の、いわゆるミニ水田として確認できた。小区画の辺長は、50cm～2mほどである。3区の5-2-1層水田で確認できたN21°W系の小畦畔も確認できなかったが、小区画の規模の点では、3区の場合とよく似ている。

また、5-2-1層水田の下面では、5-2-1-2層の灰白色粘土粒子の巻き上げの帯によって、擬似畦畔Bの小畦畔遺構痕跡を推定することができた(第182図参照)。ここで推定した小畦畔痕跡の多くは、耕作土上面の起伏によって推定した小畦畔の配列と異なっていた。このことは、この水田の経営期間の中で、水田区画の変更が行なわれたことを推定させるものである。

なお、これらの小畦畔痕跡や推定小畦畔痕跡からは、遺物は全く確認できなかった。ただし、5-2-1層上面で、切った竹を4本地面に突き刺した遺構SX20511が発見された。祭祀行為に関わる可能性があらう。

<2> 5-2-2層水田の遺構・遺物の概要

5-2-2層水田の上面は、上位の5-2-1層水田による耕作攪拌によって、不明瞭な部分が多かった。耕作土の上面起伏を薄く覆う白色粘土(5-2-1-2層)は、上位の5-2-1層水田の耕作土下位に位置する下層土でもある。この5-2-1-2層は、5-2-2層水田の溝状遺構の凹の上に厚く堆積していた。

なお、この5-2-2層水田では、条里型境界大畦畔の東西方向のSK20512と南北方向のSK20512が確認できた。前者は調査区中央部での平面検出と断面観察から、後者は調査区南壁での断面観察によって確認できた。

5-2-2層水田の小畦畔では、明瞭なものが確認できなかったが、そのかわり、溝状遺構の確認ができた。しかし、5-2-2層上面で確認できた溝状遺構と5-2-2層下面で確認できた溝状遺構とは、両者に共通するものと、後者のみにあつて前者にないものは多くある(表7、第182・183図参照)。これは、溝状遺構の内、下層土の6層にまで掘削が及んだものと5-2-2層下部までしか掘削が及んでいないものとの差異と考えられる。

これらの溝状遺構の方向には、条里系のもものと正方位系のもものとが交錯しており、詳しくは表

7参照。全体の傾向としては、条里系のものが強いことがわかる。

以上の5-2-2層水田の全ての畦畔は、敷板・杭列を伴わない、盛土畦畔であったと考えられる。さらに、遺物では、5-2-1層水田上面から出土したものは、木または竹を地面に垂直に射した、祭祀遺構SX20511である。これらの遺物の中で、実測図を本報告書で紹介しているのは木製の、一見、陽物に似た遺物である。土器は、5-2-2層水田の下位から発見された常滑壺の破片である。

2)発掘区域

調査区の全域での調査を実施したが、最近の粘土採掘によって、耕地整理後の農道や小畦畔の部分と調査区南東の三角の形をした部分で、平面調査を実施できた。

3)水田基盤

<1> 土壌

*5-2-1層水田

①被覆土 5-1層灰色粘土

この層が耕作土であるかは、断面形状では、ラミナはあり、耕作によって、攪拌行為が行われた可能性は薄い。基本的には、洪水堆積層のままであったと考えられる。

②耕作土 5-2-1層灰色粘土(2区北西部A地点では、灰重土上)

③F層土 5-2-1-2層灰色シルト質粘土(洪水堆積層：厚さ1~2cm)

*5-2-2層水田

①被覆土 5-2-1-2層灰色シルト質粘土(洪水堆積層：厚さ1~2cm)

この層は薄いため、上位の5-2-1層水田の耕作によって、この被覆土が、5-2-1層耕作土中に細かな粒子として混入されたものがあつた可能性がある。しかし、このような粒子は、あまり観察できなかった。また、この5-2-2層水田の溝状遺構の凹地の上部には、顕著に堆積していた。

②耕作土 5-2-2層黄灰色粘土(2区北西部A地点では、上部が灰重土上で下部はオリブ黒重土)

③F層土 6層灰白色粘土~シルト(洪水堆積層：厚さ10数cm~1cm)

この層は、5-2-1-2層よりは厚いが、5-2-1-2層と同じく、堆積は部分的であった可能性がある。6層の堆積がない部分では、下層土は7層の黒泥となる。ただし、調査区南東部では、6層は広く分布していた。

*5-2-1層水田と5-2-2層水田での地下水位について

④地下水位(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。しかし、5層水田の調査で確認できた条里型坪界大畦畔はじめ、全ての小畦畔で、敷板や杭列は発見できなかった。そこで、5-2-1層水田、5-2-2層水田の両方とも、12層水田以上に乾燥した田面や耕作土の状況であったと推測される。そこで、半湿田もしくは、それ以上に乾燥していた水田と推定した。

<2> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに5層水田の概要でも述べたように、5-2-1層水田と5-2-2層水田の両者ともに、耕作土上面起伏を直接確認し、また、それぞれの耕作土の下位での畦畔痕跡は疑似畦畔Bを検出することによって把握した。

- この調査区で問題となったのは、5-2-1-2層の自然堆積層が、5-2-1層水田の疑似畦畔Bを示すと

ともに、5-2-2層水田の溝状遺構の凹を掘り、この水田の溝状遺構の位置を示すこともしていたことである。当初は、これらの自然堆積層の粘土粒子の平面での連続は、共に5-2-1層水田の擬似畦畔Bである、あるいは最初の粘土粒子列は上位の5-2-1層水田の擬似畦畔B、次に出現した粘土粒子列は、下位の5-2-2層水田の擬似畦畔Bではないかということも、考えた。しかし、多数のサブトレンチでの断面観察によって、この推測が誤りであることが判明した。すなわち溝状遺構の断面が、後者の自然堆積層の粘土粒子列に合致することが観察できたからである。それでは、5-2-2層水田の本当の擬似畦畔Bは、5-2-2層を、さらにスライスしていくことによってみつかった。それは前述の溝状遺構の脇に、溝に並行し、白色の自然堆積層の粒子列が散見できた。これこそ、6層の自然堆積層を巻き上げた粘土粒子列であることが判明した。

<3>微地形と堆積活動・地盤運動

①田面の標高と起伏とその成因

5層水田の田面の標高は、ほぼ平坦であり、約6mである。等高線の分布から洪水堆積は南から北へ及んだと考えられる。この5層水田の時期に3区では拗曲が生じる地震動が記録されているが、その影響は、2区では、ほとんどなかったようである。

4)水田形態

<1>畦畔・溝状遺構と区画

①畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

主要な畦畔の一覧は、表7のとおりである。この調査区で検出された人畦畔は、条里界界のものである。ただし、5-2-1層上面では、この条里系の人畦畔は消滅している。これは、3区と同様である。

また、溝状遺構は、3区でみられたようなN21°W系のは確認できず、この調査区では正方位系と条里系の2種類が確認できた。5-2-2層水田では、条里系の南北方向の溝状遺構群SX20512が卓越する。とりわけ、SD20501とSD20502は、深く掘削されており、より水路的な機能を持っていると考えられる。これに対して、その他の南北方向の溝状遺構は、下層土の6層まで掘削されていない浅いものがほとんどであり、これらは、隣接する条里系の南北小畦畔(長地型の坪内区画に対応)の盛土掘削用の溝である可能性がある。これらの浅い溝状遺構は、これにはほぼ直交する東西方向の溝状遺構とともに、連続性が明確には確認できないことも、水路以外の機能を考えたほうがよいと思われる。なお、この条里系の溝状遺構は、5-2-1層水田では確認できなかった。正方位系の溝状遺構は、5-2-2層段階で深く掘削されたものが検出され、5-2-1層段階では、これらの内の一部がやや窪地化した状態で確認されている。5-2-2層段階で確認できた正方位系の溝状遺構は、6層まで掘削されている深いものが多く、これらは、前述の条里系溝状遺構の深く掘削されている2条の南北方向の溝状遺構に連続している。このことは向系統の溝状遺構が同時期に機能していた可能性をものごとっている。なお、調査区東端部で確認できた正方位系のSD20507・20509・20505・20506は約3mの辺長のほぼ正方形の区画のまわりを囲む溝状遺構となっている。さらにこの正方形の区画は北にも連続する可能性がある。明瞭な溝状遺構で囲まれており、区画も正方形であり、正方形の区画は畑の耕作上の可能性も考えられよう。今後の検討課題としたい。

b 小畦畔の構造

小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

前述の様に条里系、正方位系の2種類が確認できた。3区とは異なり、N21° W系の区画・畦畔は確認できなかった。全体の動向は、条里系から正方位系への移行がうかがえる。しかし、区画としては、条里系のもは南北長地型として比較的整然としているが、正方位系は、前述の4条の溝状遺構に囲まれた正方形区画を例外として、ほとんどが不定形の小区画水田となっているようだ。1辺の長さは約2~1.5mである。

③地面状況

足跡状の痕跡は、5-2-2層水田の下層土の上面で数条検出できた。多くは南北方向の移動を暗示させるが、直線的な動きとやや曲線的な動きが含まれている。足跡状の痕跡は、深く刻まれるが、足指は不明瞭であり、湛水状態で土壌がきわめて軟弱になった状況での歩行が推測できる。しかし、水田耕作に関連した足跡とは断言できない。

<2> 水利

①用排水施設

5-2-2層水田で確認できた、正方位系の溝状遺構群と条里系の南北溝であるSD20501・20502は水路とみなしていいだろう。

5)遺物・火山灰と年代観

年代観にかかわる遺物としては、5-2-2層水田の下位から発見された13世紀の常滑の壺の破片は、この調査区での水田耕作の年代を示すと考えられる。

6)写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版80：05C検出面全景。この調査区中央部で、条里型水田の東西大畦畔の一部が確認できる。しかし、図版78：05A検出面全景では、条里型水田の東西大畦畔は、もはや確認できなかった。図版82-1は、この05A検出面での条里型水田の東西大畦畔該当部分である。断面では条里型水田の東西大畦畔が下位で確認できるが、05A検出面では、条里系以外の方向の小畦畔が確認できた。図版83：05B検出面全景である。5-2-1層水田の疑似畦畔Bの検出状況である。上の2枚は、灰白色粘土粒子の輪郭をマーキングしない状態、下の2枚は、灰白色粘土粒子の輪郭をマーキングした状態である。マーキングによって、帯状の粒子の連続がより明瞭になっている。なお、マーキングした粒子は親指のつめの大きさ以上のものである。図版84・85は、このマーキングした粒子を徐々に近接して撮影したものである。図版84・85は、このマーキングした粒子の平面での状況と断面での状況を示したものである。このように灰白色粘土粒子の厚さは2~3cmであることがわかり、5-2層中の間層の灰白色粘土層の状況を示している。図版88は、このマーキングした粒子の帯状の連続そのものの輪郭をマーキングしたものである。1区では、このように、いきなり粒子の帯状の連続そのものの輪郭をマーキングしたが、2区では、まず粒子そのものを表示し、次いで、それらの帯を認定したものである。この写真の状況を図示したものが第182図の下の図である。図版89~92は、この間層をスライスしていったら、整然とした帯状の粒子列が現われ、89~91は、その平面検出状況と断面の様子、92は、帯状の粒子列をマーキングしたものである。この粒子列は、疑似畦畔Bを示すものではなく、溝状遺構の凹地の上に堆積した灰白色粘土であることが、断面からわかる。これらを区画したものが、第183図の上の図である。写真のタイトルは「5-2-2層水田上面(05C)南東部疑似畦畔B」となっている。

いるが、上述のように、これは、2-2層水田の溝状遺構の位置を示すものであり、疑似畦畔Bではない。訂正したい。図版92の下の3枚の写真の左から2枚が5-2層下層下部から検出された陶器片である。これらは13世紀の常滑窯の破片であるが、最も右の写真は、遺物との照合ができなかった土器片である。これも同一層位から出土している。図版93・94は、写真のタイトルとして、「5-2層水田上面(05C)」となっているが、この面は第183図の中央の図に示したように、5-2層水田耕作土中位での、灰白色粘土粒子分布状況である。この写真で注意したいのは、灰白色粘土粒子分布状況が、図版89～92とは異なっている点である。どのように異なっているのかというと、ネガとポジの関係のように灰白色粘土粒子の分布は、基本的には正反対になっていたのである。これは、図版89～92の灰白色粘土粒子は、5-2層水田の覆土の5-2-1-2層であるのに対して、図版93・94の灰白色粘土粒子は、5-2層水田の下層土の6層である。色調・土質ともに極めて似ているが、断面観察によって、2つの異なる層位の灰白色粘土粒子であることがわかった。図版89～92では、溝状遺構の凹地の中に灰白色粘土粒子が入り、図版93・94では、これらの溝状遺構の脇の部分、または溝状遺構以外の部分から灰白色粘土粒子が検出されている。今後の水田調査の際にも、注意すべき問題であろう。図版95～97は、写真のタイトルが「5-2層水田疑似畦畔B(05D)南東主要部全景空中写真」となっているが、これも第183図の下の図に示したように、5-2層水田耕作土下面での、灰白色粘土上面の起伏検出状況である。ここでの灰白色粘土とは、5-2層水田の下層土にあたる6層のことである。図版89～92で確認できた溝状遺構の内、より深く6層にまで掘削が及んでいた溝状遺構が確認できた。また、これらの溝状遺構をよくみると、6層をさらに掘削し、黒泥の7層にまで掘削が及んでいる部分が多いことがわかる。このことは、図版96-2・3のように溝状遺構の断面をみれば確認できることである。なお、この調査面では、図版97-1・2のような足跡状の遺構が検出されている。また、7層上面で検出された足跡状の遺構を図版97-3・4・5で示した。これは、4層上面が歩行できる状態には、乾燥していたことを示す貴重な資料である。図版97-6・7・8はいずれも竹製品遺構SX20511である。祭祀に関連する遺構と考えられる。この遺構の実測図は、遺物編に掲載した。なお、この遺構の形成された層位は、5層であることは間違いないが、それが、5-2-1層水田の段階であるのか、5-2層水田の段階であるのか、不明である。なお、図版95-2では、中世段階の条里型坪界大畦畔の断面をうかがうことができる。6層の灰白色粘土の堆積は条里型坪界大畦畔の上に堆積した11～7層の泥炭・黒泥層の凸型の高まりの部分では薄く、それ以外の部分では厚いことがわかる。また、5-2層水田でも、この条里型坪界大畦畔の直上の凸型の高まり部分が、若干高まっている。また、この高まり部分には6層の白色粘土の大きなブロックや粒子が残存しており、この部分にはあまり耕作が及んでいないことがうかがえる。このことから、5-2層水田の段階では、条里型坪界大畦畔が機能していたと考える根拠のひとつとした。しかし、この泥炭・黒泥層の凸型の高まりの部分でも、耕作による攪拌が行われたこととは否定できないが、攪拌によって生じた粘土ブロックの大きな物が、そのまま残存していることは、やはり、5-2層水田の田面部分ではなかったことなによりは、査証であろう。第144図のh-h'断面の図は、この部分を図示したものである。なお、5-2-1層水田段階では、下層土である5-2-2層水田の粘土粒子の分布は、下位の条里型坪界大畦畔の直上であるかいなかに係わりなく、同程度に分布し、この段階では、条里型坪界大畦畔は存在していない可能性がある。このことは平面調査で、下位の条里型坪界大畦畔の直上であっても、その方向性に係わりない小畦畔がいくつか分布していることが、決定的な証拠であるが、この断面での、下層土の粒子分布の状況が、それを補助する役割をもっていると考えてよいだろう。

(3) 1区5層水田および河道跡SR10603

5層水田の耕作土は、5-2-1層と5-2-2層の2つである。この2つの耕作土の間には、3区・2区では、洪

水堆積の灰白色粘土の薄層(5-2-1-2層)があったが、この1区では、灰白色粘土の薄層(5-2-1-2層)は、ほとんど確認できなかった。しかし、5-2-1層の方が、5-2-2層よりも、やや明るくみえ、これらの両水田耕作上の境は、やや乱れていた。このことは、5-2-2層上面に、灰白色粘土が洪水によってもたらされたが、その上に、さらに洪水によってもたらされた5-2-1層の堆積後、水田耕作が行われ、5-2-1層とその直下にある灰白色粘土層が攪拌され、灰白色粘土のブロックが5-2-1層の耕作土中に広く分布し、やや明るい色調になったと推定できる。

5-1層を除去して、5-2-1層水田の小畦畔の上面起伏を明らかにしたが、これらの小畦畔をスライスすると、灰白色粘土ブロックが最も濃密に分布している部分があった。これは、5-2-1層水田の擬似畦畔Bであることがわかった。そこで、この水田の調査では、小畦畔の上面起伏があまり明らかでない部分については、この擬似畦畔Bの検出作業を並行しておこなった。この手法は、これまでの擬似畦畔Bの調査とは異なっており、さらに客観的な調査方法としてこの灰白色粘土ブロックをマッピングする方法を2区で採用した。

なお、5層水田耕作土の直上には、5-1層～3層の腐植混じりの粘土・泥炭層がある。2つの水田遺構は、3区・2区では、それぞれ耕作土の上面と下面(擬似畦畔B)で調査を行なったが、この1区では、5-2-1層水田については、耕作土上面を覆う洪水堆積粘土である5-1層上面で擬似畦畔Aの調査を行い、次いで5-2-1層上面で調査を行った。遺構の形状としては5-2-1層上面で把握できたが、5-1層上面でもあえて調査を行ったのは、5-2-1層水田の東西大畦畔であるSK10503の起伏が、田面よりも擬似畦畔Aの方が、より強調されているという、通例とは逆の状況が観察されたため、あえて調査を行った。なお5-2-1層水田の下面と5-2-2層水田の上面は同一面であり、3区や2区のように間に灰白色粘土層を挟んでいないこと。さらにこの層界は、断面観察でもやや不明瞭で、明暗の差が若干ある程度であったこと。以上のような理由から、1区では、5-2-1層水田の擬似畦畔Bの平面調査と5-2-2層水田の耕作土上面の平面調査は、ともに実施しなかった。5-2-2層水田の平面調査は、耕作土下面＝6層上面の起伏を明らかにすることにより、擬似畦畔Bを検出する作業を行った。ただし、この5-2-2層水田の耕作土下面の調査は、水田遺構としては、数条の溝状遺構が検出できたのみであった。しかし、調査区の擾乱が及んでいない部分の大半は、6層を切って形成された河道跡SR10603で占められており、この河道跡の調査も同時に行った。そこで、この5-2-2層水田の耕作土下面の図(第187図)は、同時に河道跡SR10603の完掘状況をも示している。なお、5-2-2層水田耕作土と河道跡SR10603の覆土最上部の5-3層との層界は、きわめて不明瞭であり、ここでの平面調査は実施しなかった。

写真測量は5-2-1層水田の擬似畦畔A(05A)、5-2-1層水田の上面(05B)、5-2-2層水田耕作土下面及び河道跡SR10603の完掘状況(05C)の3面で行った。

なお、05A・05Bの面で、面的にまとまった調査範囲は調査区の北西部と中央部と南東部のみであった。

1)遺構・遺物の概要

主要な畦畔の一覧は、表7に示したとおりである。上位で5-2-1層水田、下位で5-2-2層水田と河道跡SR10603が検出された。そこで、検出順に述べる。

<1> 5-2-1層水田の遺構・遺物の概要

まず、5-2-1層水田の擬似畦畔Aとして5-1層上面を調査したものが第185図である。ここでは、前述の東西大畦畔のSK10503はさらに盛り上がり第194図・第197図の断面図にあるように、耕作上の5-2-2層よりも5-2-1層の方が、より盛り上がっていた。なお、この傾向は、さらに上位の4層では、さらに顕著になる。この最も盛り上がった4層上面を3層の泥炭層が覆っている。この現象

に対する検討は後述したい。また、調査区北東部ではこのSK10503の東側の延長部分であるSK10511が検出されている。これも、5-2-1層上面よりも起伏が強調されている。溝状遺構としては、SK10503の南側に溝状遺構SD10509とした、ゆるやかな帯状の凹地形が検出されている。この溝状遺構の深さは、下層土の5-3層の上面にまで及ぶものではなく、畦畔盛土探掘溝としても、5-2-2層の耕作上のみを盛り上げた結果生じた溝状遺構と考えられる。また、調査区の南東部で、西北西から南東東に向けて溝状遺構SD10508とした帯状の凹地形が、調査区の南西部でも西南西から東北東に向けて溝状遺構SD10510とした帯状の凹地形が検出されている。これらの2条の溝状遺構は、いずれもゆるやかであり、後述するように複曲地形とも考えられる。

次いで、5-2-1層水田の上面での調査を行った。ここでは、3区・2区では、条里系の畦畔は、確認できなかったが、この1区では、調査区北西部で、わずかに南北方向の小畦畔②と③と、東西方向の小畦畔1と2が確認できたのみである。また、3区で確認されたN21°W系の畦畔は、1区では確認できなかった。この1区では、調査区北中部の東西大畦畔のSK10506とそれに直交する南北方向の小畦畔27、33、35など、また調査区南東部の南北方向の小畦畔61付近では正方位系の小畦畔群が多数確認できた。しかし、小畦畔の方格はいずれも不明瞭にたわんでいた。小区画の大きさも平均すると約2.5㎡であるが、最も小さい区画は、約0.9㎡であり、第188区のように0～2㎡の範囲に大部分が入るような、いわゆるミニ水田群であった。

出土遺物としては、5-2-1層上面出土の遺物では、以下のとおりである。調査区北西端部付近で13世紀後半と思われる山花碗期の灰軸系陶器(P21)1点が南北方向の小畦畔①上面から出土している。また、この調査区の小畦畔と小区画内からは、48本もの箸状木製品が発見された。この内、28点は小畦畔上面及びその側面から出土し、さらに、その内の12点は小畦畔の交点付近から出土している。約60%が小畦畔付近からの出土、さらのその40%ほどが交点付近で出土していることになる。さらに、これらの箸状木製品の内の斜めまたは直立した状態で出土したものは20点ほどあったが、それらの中で、6点の出土状況を断面図で示した。現在のところ、全国各地で、中世の箸状木製品が多数発見されているが、その出土地は河辺であることが多く、この調査区のように、中世の水田面から、しかも小畦畔やその交点から、突き刺した状態のものも確認されるというような出土事例は、普及では知らない。なんらかの水田に係わる祭祀との関連が考えられよう。今後の調査事例の増加を待ちたい。その他の遺物としては、曲物と漆棺が各4点、火鉢白・鉄製小刀・用途不明木製品が各1点が出土している。

5-2-1層水田の疑似畦畔Aの調査をした5-1層上面出土の遺物は、祭祀具SA4とした上端付近に切り欠きがある板状の木製品、曲物、漆棺、用途不明木製品が各1点である。

② 5-2-2層水田の遺構・遺物の概要

5-2-2層水田の上面は、上位の5-2-1層水田による耕作攪拌によって、不明瞭な部分が多く、しかも、この耕作上面起伏を薄く覆ったと推定される灰白色粘土は5-2-1層水田の耕作によって、ほぼ完全に5-2-1層中に混ぜられていた。そこで、5-2-2層下面で、5-2-2層水田の疑似畦畔Bの調査を行った。この調査は5-2-2層の耕作下面の起伏を明らかにする方法をとったが、疑似畦畔Bと認定できるような畦畔痕跡の高まりは明瞭には検出できなかった。しかし、溝状遺構4本と埋没河道跡を検出した。

溝状遺構としては、調査区北西部の南北方向の溝状遺構SD10505、10501、10502の3本が、いずれもN30°Wほどであり、しいていえば、条里系とみなしてよいだろう。また、調査区南西部から南東部にかけて溝状遺構SD10504は、南東部から中央部にかけては、N66°Wの方向(この部

分の隣接する河道跡SD10603の方向と並行)であるが、調査区の南西部ではN30°Wほどに向きを変えて(この部分の隣接する河道跡SD10603の方向と並行)、河道跡SR10603に接続している。そこで、この溝状遺構は河道跡との接続部分付近については、条里系とみなしてもいいかもしれない。これらの溝状遺構群の内、SD10501、10504は、断面が逆台形となっており水路としての機能が確認できる。中でも、SD10504は河道跡SR10603に注いでいることが確認できた。また、SD10501は攪乱によって、SR10603との接続部分が確認できなかったが、南側の法面までは、溝状遺構が繋がっていないようであり、やはりこれもSR10603に注いでいると考えられる。その他の溝状遺構は、断面形が皿状であったり、半円形であったりし、溝状遺構の平面形状でも端部が不明瞭であり、畦畔脇の採土溝の可能性もあるかもしれない。覆土は、5-2層である。これらの溝状遺構の機能については、上記のような理解の他に、湿地から水田化したばかりの段階で、耕地を適度に乾燥させるため、排水を河道に落とすという役割も果たしていた可能性がある。

遺物としては、溝状遺構SD10501の覆土中から短頸雁殿式の鉄鎌が1点出土している。なお、後述するように、河道跡SR10603からは、短頸雁殿式の鉄鎌が4点出土しており、この溝状遺構と河道跡が同時に存在していた可能性を暗示するものである。

<3> 河道跡SR10603の遺構・遺物の概要

河道跡の概要：SR10603は、調査区の中央部から、南東部にかけて、N30°Wの方向からN66°Wの方向に、推定幅約32m、検出長約50mの河道跡(東流路)と調査区の南西部から、中央部にかけて、N30°Eの方向からN39°Eの方向に、幅約3～10～15の3段階で拡幅される河道幅を持ち、検出長約40m(西流路)からなる。下刻は6層上面から行われ、下刻の深さは最大1.25mである。

流れの方向：この西流路の流れの方向は、東流路は北西から南東に、西流路は南西から北東に流れたものと推定した。その根拠は河道内の堆積物の堆積状況と河道の形状である。一般に流れの向きは高所から低所へ、河幅は、下流に向かうにつれて広がる。この2つの条件に照らすと、西流路は、2条件に合致している。調査区の南西端では、河床標高が4.9mであったものが、調査区北中部では、4.1m付近にまで、約80cmも高さを減じ、河幅も前述のように約5mから15mにまで拡大している。しかし、問題は東流路である。ここでは、河床の標高は調査区の北中部でも、東端中部でも、またその中間でも約3.7mである。また、川幅では南岸は検出できたが、北岸は調査区外である。ただし、4.0m～4.5mの10cm刻みの等高線の、それぞれ同一標高の等高線の水平距離を測定すると、西北西部に比べ、東南東部がやや広がっていることがわかった。そこで、流れの向きは西北西から東南東の方向であることが推定できた。しかし、これだけでは根拠としては薄弱である。そこで、河床に堆積した砂または砂質粘土の粒子の堆積が、クロスミナリナ形状を呈しているか、河道縦断面で観察した。東西中央土層帯の第54図の188グリッド列付近から、189グリッド列付近までの河床の図を見てもわかるように、西から東に、河床堆積した砂のクロスミナリナが189グリッド列付近で観察できた。このことは、前述の川幅の測定による推定結果と合致し、西から東に流れていたと推定してよいと思われる。なお、礫以上の大きさの堆積物があれば、インプリケーションが観察できたかもしれないが、堆積していないので観察できなかった。

ノッチ状の急崖：それから、東西の内流路とも、約4.7～5.0m付近と、約4.3～4.5m付近に等高線が密となる部分が存在し(第187・192図)、断面でも、これらの2ヶ所のノッチ状の急崖が観察できた(第194・195図)。このことは、平常の水位を示す部分が2段階存在したことを暗示するものである。つまり初期の堆積段階では低位の急崖、その後の堆積段階では高位の急崖というように。しかし、詳細に平面・断面の検討を行うと、それ以外の急崖もいくつか観察できた。

流路変遷：また、河床出土遺物の分布を年代ごとに示した第193図をみると、東流路の遺物は北側に古いものが、南側に新しいものが分布している。これは、この部分の形状から、南側が攻撃斜面にあたり、北側が滑走斜面にあたる。そこで、東南流する水流が次第に攻撃斜面を侵食し、外湾しながら徐々に流路変遷した結果であると考察される。

西側流路の方形の淵と溝状遺構：また、西流路は約40mで80cmもの河床低下があり、淵と淵を形成し、蛇行を繰り返していたことがわかる。また、西流路の南西端の部分の幅が約5mしかないのが、1184グリッド中部から北東部にかけては急に幅が約10mにまで拡大し、淵を形成している。しかし、川幅の拡大が右岸部を延長約10mに渡り、約5mほど岸部を掘削したような状況である。蛇行も確認できず、蛇行によって形成された淵を人工的に拡張したとも考えられよう。なお、この方形の淵部の上流側の淵の部分に北から溝状遺構SD10501が接続している。この合流点付近のやや下流に木材及び木製品が散在していた。中には着状木製品が数点含まれていた。なお、ここで発見された木材は、長さ1m以上のものが7本あり、これらはこの約5mの川幅部分(淵)と約10mの川幅部分(淵)の境の西側の淵部分に築かれた環状遺構の痕跡の可能性もあるかもしれない。西側流路と溝状遺構SD10504：また、この方形の淵の下流側の淵の部分に南から溝状遺構SD10504が合流している。この合流部分の北東側にも木製品が散在していた。なお、この合流部分が淵となった理由は、南から北に流れる溝状遺構SD10504の水流の勢いによって、西流路の勢いが減速され、この合流点付近に礫が形成され、西流路の流心は北西に蛇行せざるを得なかったと推測される。木材や木製品などの遺物はこの淵の北西側の淵部分から多数出土した。ここで、注意したいのは、SD10504との合流点付近に淵が形成され流心はこの合流部分から遠くに移っていることである。

西側流路と溝状遺構SD10501：しかし、SD10501との合流点付近では、同じく淵であるが、等高線を見ると、合流点付近に流心が通っている。このことは、SD10501から水流が西流路に放水されていないどころか、逆に、西流路からSD10501に水流が北流した可能性が考えられるのである。だとすれば、前述の堰を構成していたかもしれないとした木材群が、上流から来た水流をダムアップし、左岸のSD10501に流していた可能性が考えられる。現在でも、またこの6層上面でも、基本傾斜は南から北への傾斜であり、SD10501の水流の方向に関する推理は妥当と考えられる。

河道跡西流路に打ち込まれた5本の杭：4本の杭は、J185グリッド杭付近にまとまっ検出され、方形の淵部分の北東部の右岸に打ち込まれている。この杭列に隣接した下流部分に南からSD10504が合流し排水される。この排水口の護岸としての機能をはたしていた可能性がある。もう1本の杭はJ185グリッド北辺の東部から発見されたものである。舟を繋留するための杭かもしれない。また、方形の淵が舟溜まりであるとすれば、この4本の杭も舟を繋留するための杭かもしれない。

河道跡の形成時期：これについては、第4節1の「5層水田と河道跡SR10603の概要」の「河道跡の形成と埋没の時期」の項で述べた。要点のみ略記すると、この河道跡は6層上面から下剝が確認できることから、5層水田の形成の直前と考えられる。すなわち13世紀後半以前と考えられるが、いくら早くても、条里型水田の埋没時期である平安時代初頭(8世紀末～9世紀初頭)以前とは、考えられない。ましてや、その条里型水田の直上には約20cmほどの泥炭～黒泥層の堆積があり、この形成年代を200年間弱とすれば、10世紀末～11世紀初頭には、これらの泥炭～黒泥層の生成の直後に堆積した6層粘土層を、下剝して形成されたと、みなしてよいかもしれない。しかし、問題は、河道堆積物から発見された遺物は、第193図からもわかるように、7世紀末～12世

紀後半の土器が出土し、その内、7世紀末～8世紀、10世紀、12世紀の3時期は、隠れた地点で発掘された土器が、それぞれ接合でき、これらの時期には流れがあったことを物語っている。つまり、土層の堆積から検討した河道の形成時期と、流路内部から発掘された土器類の年代観との齟齬が問題として残ることになった。そこで、西流路の河床の下位から律令期の条里系の方向性の溝状遺構SD11201が発見されたように、東流路付近にも溝状遺構もしくは河道跡が存在していた可能性が推測できること。さらに、これらの溝状遺構または河道跡が湿地化の時期には滞水し埋没するが、一時的に陸化した形跡がうかがえる10層上面、8層上面、7層上面には流水が、溝状遺構痕跡や、河道跡の凹地を流れた可能性を考えてもよいだろう。6層粘土の堆積が完了した直後に、大きく下刻し、今回の調査で検出された河道跡SR10603の西流路の東流路が形成されたと考えてもいいかもしれない。ただし、7世紀末～9世紀の土器は、河道跡が生成した後に、そこに以前使っていた土器を投入するとか、下刻や側方侵食によって6層以下の各層位中に包含されていた土器が河道内に放出された結果であるのか、といった要素も否定できない。今後の検討課題である。

河道の流水堆積物層の直上を覆った5-3層の湿地堆積物：この5-3層は上部ではイネのプラント・オバールが多数検出され、5層水田の最初の耕作域の一つであったと考えられる。ただし、5-2層水田は、この湿地が完全に埋没した段階で営まれた水田でが、溝状遺構が前述のように河道跡と関連した配置となっていることから、河道跡部分の水田域の中央部には流路跡が残されていた可能性も否定できない。また、河道跡部分のまわりの水田域の区画も河道後の形状となんらかの関連がありそうである。例えば、SD10504などは河道跡に並行する部分が確認されている。等高線の分析によれば正方位系の起伏が、6層上面からも若干検出されている。これは、上位の5-2層水田の区画に発展するものと考えられる。

河道内から出土した遺物：土器については、前述のように第193図の土器が出土した他に、土鉢6点、板状皿下駄2点、輪カンジキ型下駄4点、鉄鎌1点、鋤の泥除け2点、木製祭祀具5点、箸状木製品58点、曲物12点、挽物1点、円形厚板の一部1点、箱物1点、漆碗1点、火鉢1点、下駄1点、四ツ手網部材1点(7層中)、弓1点、櫛状木製品1点、梯子1点、その他の建築材4点、用途不明木製品8点、鉄鎌4点、小刀1点、鉄片1点、砥石3点である。これらの内、木製品の多くは河床付近の厚さ10cm前後の河道の流水堆積物の上位に堆積した5-3層の湿地堆積物の中からの出土のものが多かった。また、5-3層からは、多数のヒシの実やオニバスの実が発見された。鉄鎌1点や、山茶碗1点(13世紀)も5-3層からの出土である。

河道跡と現在の河道との関連：東流路は、大きく蛇行する川幅の広い河道であり、流れの方向が西北西から東南東であることから、巴川の変型である可能性がある。西流路は、小さく蛇行しながら南西から北東に向かい、東流路に注いでいる。これは、十二双川の変型である可能性がある。

2)発掘区域

調査区の全域での調査を実施したが、最近の粘土採掘によって、耕地整理後の農道や小畦畔の部分と調査区北西部、中央部、南東部での平面調査を実施できた。

3)水田基盤

<1> 土壌

*5-2-1層水田

- ①被覆土 5-1層灰色粘土(中北部のF-6地点でのイネのプラント・オバールの数値は0個/g)
断面形状では、ラミナはあり、耕作によって、攪拌行為が行なわれた可能性は薄い。基本的には、洪水堆積層のままであったと考えられる。この層の上面で擬似畦畔Aの調査を実施。
- ②耕作土 5-2-1層灰色粘土(5-2-2層より明るい)
この5-2-1層の直下には、5-2-1-2層の薄い灰白色粘土があったが、これは、5-2-1層の耕作によって攪拌されたが、畦畔部分の直下では、あまり攪拌が生じないので、大きなブロックが密集して残ることになり、5-2-1層の畦畔上面の起伏が不明瞭な部分では、若干のスライスを行い、ブロックの密集帯を見付け、畦畔痕跡を推定した。
- ③下層土 5-2-2層灰色粘土(5-2-2層水田の耕作土でもある)
5-2-1層と5-2-2層との層界は不明瞭である。

***5-2-2層水田**

- ①被覆土 5-2-1層灰色粘土(5-2-1層水田の耕作土でもある)
- ②耕作土 5-2-2層灰色粘土
- ③下層土・6層灰白色粘土～シルト(洪水堆積層：厚さ10数cm～1cm)
河道跡SR10603の覆土の最上層の5-3層の灰色粘土(沼地堆積物が耕作土となったもの)
これらの2種類の下層土の内、6層との層界は明瞭であるが、5-3層上面との層界は不明瞭である。

***河道跡SR10603**

- ①湿地化した段階での被覆土 5-3層灰色粘土(上位1/3ではラミナの攪拌が一部で観察できた)
中北部のF-6地点では、イネのプラント・オバールは700個/g。1区内の他の調査地点4ヵ所ではイネのプラント・プラント・オバールは0個/g。沼地堆積物。ヒシの実がオニバスの実は、ともに多数発見される。

②河道内流水堆積物

①とした上位が青灰色シルト質粘土とその下位に位置する②の灰色粘土。ラミナは比較的よく確認できた。

***5-2-1層水田と5-2-2層水田での地下水位について**

④地下水位(水田型)

調査時には、全層グライ。炭酸鉄は検出されず。しかし、大畦畔はじめ、全ての畦畔で、敷板や杭列は発見できなかった。そこで、半湿田もしくは、それ以上に乾燥していた水田と推定した。

<> 調査方法(遺構認定)

遺構・遺物の概要さらに5層水田の概要でも述べたように、5-2-1層水田については、耕作土を覆う薄層である、5-1層の上面起伏の調査を行い、5-2-1層水田の擬似畦畔Aを検出し、次いで耕作土上面起伏を直接確認した。5-2-1層水田の畦畔の検出は、5-1層を除去する方法で行ったが、この畦畔の高まりをやや削平すると、5-2-1-2層の灰白色粘土粒子が大きく残り、それが帯状に連続する部分が畦畔の高まり部分と一致して存在することが多かった。このように、帯状の灰白色粘土粒子列の連続によっても畦畔であることを確かめた(図版107-1・2)。また、5-2-2層水田については、この水田の上面=5-2-1層水田下面の認定が困難であったので、6層上面起伏を検出することによって、5-2-2層水田の擬似畦畔Bを把握することに努めた。ただし、この耕作土下面が6層上面であるところでは、溝状遺構が検出できたり、若干の擬似畦畔Bの痕跡を推測する

ことができたが、河道跡SR10603の覆土最上部の5-3層上面との識別が困難であったので、この部分では、いきなり河道跡の覆土調査に入った。

<3> 微地形と堆積活動・地盤運動

① 田面の標高と起伏とその成因

5層水田の田面の標高は、ほぼ平坦であり、約5.5mである。擾乱が多くて、洪水堆積物の動向については普及できない。この5層水田の時期に3区では撓曲が生じる地震動が記録されているが、その影響は、1区では、ほとんどなかったようである。しかし、4層まで堆積が進んだ段階で、南から北へ、5-1層と4層の層滑りがあったようだ。これは、東西大畦畔のSK10503の5-2-1層の畦畔の高まりが、擬似畦畔Aの5-1層上面より強調され、さらに4層上面ではもっと強調されている。逆例は、擬似畦畔Aでは、実際の畦畔起伏よりも、ややなだらかになる。ところが、その逆の現象が起こっていた。5-1層上面を調査した第185図をみると、この他に溝状遺構とした撓曲地形がみられる。また、強調されたSK10503のすぐ南側に撓曲凹地のSD10509ができています。また、なぜ、南から北への層滑りと推定したかということ、第197図でSK10503の畦畔の強調の様子を断面でみると、高まりの中心が南から北へ移動していることから、さらに東西大畦畔の南は緩やかであるが、北は急になっている。そこで層滑りが5-2-1層の粘土層と5-1層の腐植泥じりの粘土層との層境で滑りが生じたためと考えられる。この撓曲の生じた時代は中世後半とも考えられる。

また、河道内の生じていた瘤状の東西方向の盛り上がりも、撓曲現象の一つと考えられるのではない。第187図のJ189グリッド付近に見える紡錘状の高まり(高さ約50cm)のことである。第195図のk列の断面図をみると、この紡錘状の高まりの内部は外見の脈らみに対応した凸型のラミナ(17層に顕著)が内部に存在していることがわかる。このことから、18層の黄褐色泥炭層(腐植含量44%)と17層の黒褐色粘土質泥炭(腐植含量56%)との層界がすべり面となったと考えられる。なお、この滑りは、左右両岸付近から河道中央部に向かって層滑りが生じ、両者の力の合成が、このような地形のたかまりとなってあらわれたのである。なお、この撓曲の形成時期は、下刻直後で、河床堆積砂層が堆積する前と考えられる。その理山は、河床堆積砂層の厚さが、この瘤部分では薄いからである。

4) 水田形態

<1> 畦畔・溝状遺構と区画

① 畦畔・溝状遺構の構造

a 大畦畔・溝状遺構の規模と構造

主要な畦畔の一覧は、表7のとおりである。この調査区で検出された大畦畔は、正方位系の東西大畦畔SK10503である。条里系の大畦畔は姿を消している。このSK10503の下幅幅は約70cmであり、高さは7～8cmである。盛り畦畔である。

また、溝状遺構は、3区でみられたようなN21°W系のものは確認できず、さらに正方位系のもも確認できなかった。ただ、N30°Wのしついでいえば条里系といえなくもない溝状遺構群のSD10501・SD10504の北部が、これに該当し、河道跡SR10603に接続している。これらの断面形は逆台形であり、水路と認定できる。またSD10501付近のこれに並行する複数の溝状遺構は畦畔脇の採土溝のようである。なおSD10504は調査区中央南部から南東部にかけて河道跡SR10603の東流路に並行に流れている。

b 小畦畔の構造

5-2-1層水田の小畦畔は盛土から構成されている。

②区画・畦畔の配列と変遷

5-2-1層水田の小畦畔の多くは正方位系である。また、1辺の長さが2m以下の、いわゆるミニ水田が多数検出された。

③田面状況

足跡状の痕跡は、ほとんど検出されなかった。

<2> 水利

①用排水施設

河道跡SR10603西流路は付近の水山にとって、用水路と排水路のそれぞれの機能を溝状遺構SD10501とSD10504が果たしていた。

5) 遺物・火山灰と年代観

年代観にかかわる遺物としては、5-2-2層水田の小畦畔から発見された13世紀後半の山茶碗期の灰釉系陶器がある。

6) 写真図版解説

ここでは、写真図版の中で、特に解説が必要なものを取り上げる。図版98～101：5-2-1層水田の擬似畦畔A(05A)全景他。図版98・99・100-1：この調査区中央北部で、層層りによって強調された東西大畦畔SK10503とその南東側と南西側に提曲凹地が見える。図版100-2・3：ともに強調された東西大畦畔の状況がわかる。特に図版100-2は、大畦畔の高まりがいかに強調されているかがうかがえる。この部分をさらに接近して、とったものが図版106-1である。図版101-1・2は、05A面での小区画の可能性をしめた部分である。この部分では、下位の5-2-1層上面の小区画をぼんやりと反映していた。図版101-3は第215図の泥炭層流動状況断面図にした部分の状況を示している。泥炭層のブロックがラミナの発達した青灰色粘土の中に浮かぶように位置している。図版102～105は、5-2-1層上面の遺構検出状況である。どれも、かなり小区画のミニ水田であることがわかる。擬似畦畔Aの05Aで強調されていた東西大畦畔SK10503が、実際には、より小規模であったことがわかる。図版106-2・3、107-3・4の4点は、小畦畔や田面から発見された箸状木製品の出土状況である。図版106-2は小畦畔の交点からの出土例。図版107-4は小畦畔中央での出土例。その他は垂直または、斜めに地面につきささった状況で出土した箸状木製品である。これらは第198図にも図がした。また、箸状木製品の先端が細くけずれたり、焼けていたりすることがわかる。図版106-4は、鉄製の小刀の先端が曲がっていることがわかる。図版107-1・2は、調査区北西部の小畦畔の検出状況とその確認方法である。5-2-1層水田の小畦畔の検出は、5-1層を除去する方法で行ったが、この小畦畔の高まりをやや削平すると、これらの図版のように、5-2-1-2層の灰白色粘土粒子が大きく残り、それが帯状に連続する部分が小畦畔の高まり部分と一致して存在することが多かった。このように、帯状の灰白色粘土粒子列の連続によっても小畦畔であることを確かめた。図版108は5-2-2層水田の耕作土下面及び河道跡SR10603の完掘状況である。5-2-2層水田の耕作土下面では、擬似畦畔Bとしての畦畔痕跡は明瞭には検出できなかったが、溝状遺構は明瞭に検出できた。また、河道跡の蛇行の状況や掘削深度が、7～11層の泥炭質の暗色層、12層の糸里型水田の耕作土、さらにその下位の13層の青灰白色シルト質粘土層、さらにその直下の14層の腐植の薄層と15層の弥生時代中期から古墳時代前期までの水田の黒っぽい耕作土にまで及んでいることがわかる。図版109-3：溝状遺構SD10501とSD10502、SD10505の平面確認状況とSD10501とSD10502の断面形状である。SD10501は平

面・断面ともに明瞭であるが、その他の溝状遺構は不明瞭であることがわかる。図版110-1の河道跡の岸部の6層灰白色粘土の上面の写真の手前に刻まれた数珠の刻みは擾乱ができたときに刻まれた重機の爪跡である。図版110-4・5は、河道跡や溝状遺構SD10501から出土した鉄鎌である。鎌の先端が欠損していたり曲がっていたりしており、戦闘もしくは戦闘訓練がこの河道跡付近で行われたことがわかる。遺物纏にも書いたが、遺跡の付近に住む、麻機の土豪、岩崎氏にかかわる戦闘もしくは戦闘訓練かもしれない。図版110-6は、5-3層中から出土した鉄鎌である。このように刃を地面に刺し、柄を水平に地面に接触させる状況で検出された。検出直後は、鉄刃の表面にはほとんど錆が浮かばず、今研いだばかりとも思われるように光っていた。写真撮影後、数時間後には黒く錆びてしまった。図版111-1は、河道跡の西流路であるが、河床に多数の凹が確認された。これらは、連続するものもあり、人間の足跡かもしれない。図版111-4、112-1からは5-3の内部に暗色や白色の粘土粒子が散在し、攪拌行為が行われた可能性を示すものである。図版112-2・4は、河道跡の東流路の両岸部分の基盤土層が河道中央に向けて、水平ラミナがあがっていることがわかる。これは、河道が掘削され、掘削部分の重量が消失し、その後、河道が水で満たされない状況がしばらく継続すれば、河床部分にかかる重量＝下方への圧力が消失もしくは減退することから、それまで圧迫されていた河床より下位の上層が膨張し、結果として河道の両岸の水平ラミナが河道中央に向かってあがって見えることになる。これは、水河期に形成された氷床が温暖期に溶けて流れだし、氷床下面への圧力が無くなり、これまで圧迫されていた氷床下面の地盤が膨張して標高が上昇する、いわゆるアイソスタシーにも似た作用が発生していたことが推定できた。このような観察は、清水市の長崎遺跡の2区でも観察できた。図版112-3は河道跡東流路の中央部にできた瘤状の高まり部分の断面である。この盛り上がり、河床に堆積した砂層の厚さはこの瘤状の高まり部分で薄いことから、この撓曲地形の発生は、下刻直後である可能性がある(第195図のk列参照)。

第5節 近世以降の河道跡と溝状遺構群

1 遺構の概要……3区1層遺構

1層での遺構・遺物調査は、擾乱がなかった3区でのみ実施した。しかし、ここでは水田遺構の調査は、調査期間の関係で、実施しなかった。そこで、これまでとは記述方法を変更した。

(1) 土層の観察と年代観

5-1層～1層の堆積：5-2-1層の中世水山の上面には、5-1層の灰色粘土、4層の灰色粘土、3層の茶褐色泥炭の自然堆積層が、それぞれ数cmの厚さで堆積している。この上に、部分的に2層の灰色粘土(砂混じり)が数cmの厚さで堆積している。この上に1層の黄灰色シルト質粘土が10数cmの厚さで堆積している。これが1層水山の耕作土である。この1層の下位に黄褐色粘土の土が1～2cmの厚さで部分的に堆積している。これは、客土として敷かれた可能性もある。

1層中の陶器片から、この層は、近世の水田遺構と考えられる。

(2) 遺構と遺物

遺構としては、調査区北西端部から検出された河道跡SR30103と調査区東部で検出された溝状遺構SD30101・30104・30105、さらに調査区西部で検出された畦畔下位に転写された酸化鉄の帯から推定された畦畔SK30102、調査区北中部で、表土除去中に検出された矢板列畦畔SK30106である。

これらの遺構の内、河道跡SR301036と溝状遺構SD30101、さらに畦畔SK30102の3つの遺構は、明治期に作成された地籍図(静岡市役所所蔵。1/600)に記載されていた。河道跡SR301036は、旧安東川の河道、溝状遺構SD30101は水路である。

①調査区北西端部から検出された河道跡SR30103：地籍図では、旧安東川である。この河道は安倍川から分流し、安倍川扇状地を北流し、池ヶ谷遺跡付近で東流し、ここにいたったものである。この河道の左岸は旧上土新田の小字「菅澤」、右岸は旧北安東村の小字「道空除」である。検出された遺構は、地籍図の位置と比べるとやや南寄りである。これは、地籍図情報を正確に、現行の都市計画図にプロットできなかったことによるが、もう一つ考えられることは河道変遷である。この河道は北側に湾曲した部分であり、右岸が滑走斜面、左岸が攻撃斜面に該当する。そこで、河道は右岸側から左岸側に流路変遷する。第206図の断面図をみると、この原則にのっとり、北東側の流路が南東側の流路を切って、次第に右岸側から左岸側に流路変遷していることが確認できた。したがって、この調査区で検出された部分は、この旧安東川の下刻直後の流路跡とも考えられる。検出長は約16mであり南岸のみが検出されたので、対岸までの距離は不明である、また最も深い河床部分と埋没直前の覆土上面までの厚さは約80cmである。

なお、第206図の覆土の名称を列記すると、覆土①は茶褐色砂層、覆土②は暗灰褐色シルト、覆土③は上部が灰色シルト・下部が暗灰褐色シルト、覆土④は灰白色シルト質粘土(細砂がごく少量ブロック状に入る)、覆土⑤は暗灰褐色シルト(ところどころに7層の黒泥のブロックを巻き上げている)となる。この覆土①の河床の粗砂に混じって、アルミニウムの弁当箱や「ピース」とプリントされたビニール袋が出土した。「ピース」は、昭和33年～38年に販売された洗剤であり、この時期に機能していた河道であることがわかる。この遺物の出方は、この耕地整理は昭和40年8月から実施された土地改良事業によって、旧安東川は埋められていることとも整合している。なお、この河道跡の覆土の下位から出土した遺物は、曲物が7点、漆椀が5点、下駄が1点である。

写真図版113-1～4が、この河道跡の平面確認状況と完掘状況である。写真で完掘状況の河床が暗色になっている部分は、7～10層の黒泥～泥炭部分であり、ここが掘削されたことがわかる。

②溝状遺構SD30101・30104・30105：この内、SD30101は、地籍図では、この東側は旧下足洗新田の小字「加藤島」、西側は旧北安東村の小字「道空除」である。このSD30101は、旧12双川から発し、北流して旧安東川にいたる灌漑水路である。検出長は約38mで1層から掘り込まれたようだ。

平均下端幅は1.1m、平均上端幅は1.5m、掘削深さは約36cmである。この溝状遺構の覆土は暗緑黄色粘土と部分的に黄褐色の細砂のブロックを含む。溝状遺構の底には人頭大の河原石の円礫が敷かれていた。また、岸部には、約40本の護岸杭が打たれていた。なお、旧地主から聞き取り調査では、昭和40年代に実施された土地改良事業で埋められたが、その前に、この水路をコンクリート護岸するため河原石を入れたという。なお、この溝状遺構の南端部で、タガが検出され、その内部はまわりより青色を帯び、覆土中からマジミ約30点と石や近代陶器片、ガラス片が出土した。

写真図版114-1・2が、この溝状遺構の完掘状況である。図版114-3が、タガの検出状況である。

なお、他の2本の溝状遺構については、連続性が不明瞭であり、畦畔跡の採土溝の可能性も否定できない。

③畦畔下位に転写された酸化鉄の帯から推定された畦畔SK30102：この酸化鉄の帯が平面検出されたのは、5-2-1層上面である。1層の畦畔の芯部に集積された鉄分が下位の5-2-1層上面に沈着したものである。中間の2～5-1層には沈着は、みられなかった。言い換えると、1層水田の畦畔が、約20cm下の層位に転写(プリント)されていたのである。このような現象については、筆者は、静岡県埋蔵文化財調査研究所1993の「研究紀要」Ⅳに、転写畦畔の問題を述べたことがあるが、この現象の生成機構については、この論文を参照されたい。また、この1層水田のこの部分では灌水・落水の繰り返しが行われる乾田の兆候があったことがわかった。

また、この畦畔痕跡の位置は、地籍図では境界線に該当する。

④表土除去中に検出された矢板列畦畔SK30106：これは地籍図には記載されていないが、東西方向の筆界線の延長部分に位置する。写真図版113-5のような矢板列であった。軟弱土壌への対策として、近世段階でも矢板列畦畔が一部に使用されていたことがわかる。このことは、前述の「乾田の兆候」と比べ、それが近接しているので、奇異に思えるかもしれないが、このような乾湿の分布が存在したことを示しているといえよう。

第V章 まとめ

ここでは、遺構面での上土遺跡（立石地区）の、遺構面での主要な特色と水田遺構の調査方法について、当遺跡の調査にかかわる工夫と問題点について簡潔に述べる。

1 遺構面での特色

上土遺跡（立石地区）は、静岡平野北部の麻機低地の東部に位置し、沼沢地化と陸化を交互に繰返す環境変遷により、陸化した段階で造成された古代から近世の水田跡が4時期にわたり発見された。①弥生時代中期後葉から古墳時代前期、②古墳時代中後期？から奈良時代・平安時代初期、③鎌倉時代、④近世～近代の4時期の水田跡である。

従来、麻機低地の開発は、近世からであり、それまでは沼地であったといわれてきた（小澤誠・「江戸時代の千代田」千代田誌「千代田誌をつくる編集委員会1984）。それでは、この低地の周辺の丘陵部に散在する古墳群の生産基盤がどこにあるのかが問題となる。今回の調査によって、麻機低地の中央部の最も低い部分であっても、弥生時代中期後葉には水田開発が行われ、さらに古墳前期～中期の湿地化と洪水堆積による中断を挿むが、古墳時代中後期には再開が行われていたことが判明した。このことは、周辺の古墳群の生産基盤の一部に、この麻機低地の水田稲作があったことを明らかにした。このほかいくつかの事実が明らかになり、それによって何がいえるのか述べていきたい。

(1) 弥生時代の水田 — この低地での水田開発の初現は弥生時代中期後葉にまで遡る —

先行する東隣の立石地区の調査（静岡市教委調査）では、当遺跡の15層水田に該当する層位の水田を調査したが、遺物では、弥生時代後期までしか廻り得なかったと報告されている。しかし、当遺跡の調査によって、麻機低地の最深部での開発が弥生時代中期後葉にまで遡ることがわかった。

これまで、静岡バイパス関連遺跡では、麻機低地西部の池ヶ谷遺跡（「池ヶ谷遺跡Ⅱ」1993静岡県埋蔵文化財調査研究所）や、巴川流域に位置する清水市長崎遺跡でも、水田開発の開始は弥生時代中期後葉にまで遡ること（「長崎遺跡Ⅰ」1991静岡県埋蔵文化財調査研究所）がわかっており、この時期には、静岡・清水平野（以下、静岡平野と略す）北部に位置する巴川流域の麻機低地・巴川流域では水田稲作が開始されていたことが推定できる。ただし、麻機低地・巴川低地の中間の長尾川扇状地末端の瀬名遺跡では、弥生時代中期前葉にまで水田開発が遡る可能性があり（「瀬名遺跡Ⅱ」1993静岡県埋蔵文化財調査研究所）、微高地的な部分から次第に低地部分に開発が及んだことが推定できる。

— 開発・廃絶と地下水位 —

また、この低地の開発時期が地下水位の低下時期であったことは、この時期の長崎遺跡で、平地を侵食する河道路が複数確認されていることから推定されていたが（「長崎遺跡Ⅰ」1991、「研究紀要Ⅲ」静岡県埋蔵文化財調査研究所1990）、当遺跡の場合では、盛土のみの大畦畔の検出から、当時の地下水位の低下による土壌の乾燥化傾向が、推定できる。大畦畔を杭・矢板や敷板で補強するのが顕著になるのは、その後の地下水位の上昇期と関連するのかもしれない。

なお、この弥生時代中期後葉から古墳前期の水田が、大睦畔に囲まれた小区画であることは、静清平野の諸遺跡での調査で共通してうかがえる特徴であるが、当遺跡の場合、1辺1~2mという、群馬県の御布呂遺跡での極めて小区画な水田（「御布呂遺跡」高崎市教育委員会1980）、いわゆる「ミニ水田」が、2区で検出された。静岡県教委調査の土土遺跡加藤島地区でも、この時期の水田が「ミニ水田」であった（「ふちゅうる」8号1995静岡市教委）と報告されている。地形勾配も緩やかな地域であっても、なぜ、極端な小区画を採用したのか、今後の検討課題である。

また、当遺跡の初期水田は、古墳時代前期に湿地化＝地下水位の上昇によって廃絶し、その後、古墳時代中期頃の洪水堆積物によって、厚く覆われている。この現象は、巴川低地の清水市長崎遺跡や、麻機低地西部の池ヶ谷遺跡など、静清平野の全域で確認されている。

このことは、静清平野の低地帯の水田域の大半がこの時期に湿地化によって廃絶している可能性が考えられる（「研究紀要Ⅲ」1990）。このような地下水位上昇に伴う遺跡の廃絶現象は、浜松市伊場遺跡や磐田市御殿の宮遺跡でも確認されている。そこで、より広域な現象、気候変動に伴う海面の上昇等との関係についても検討する必要がある。

(2) 奈良時代に条里型水田 — 静清平野で最も低湿な地域でも、奈良時代に条里型水田が施工—

当遺跡の西隣の岳美遺跡では、条里型坪界大睦畔の盛土の斜面の直上から、奈良時代の第3区半期の土器が複数出土し、条里型水田の施工がこの時期にまで遡ることが明らかになった（山本真史「条里型水田から出土した8世紀後半の須恵器—岳美遺跡—」「研究所報」58号1995静岡県埋蔵文化財調査研究所）。当遺跡でも、1区の条里方向の溝状遺構SD11201の覆土の中から、奈良時代前半の須恵器の転用税が1点発見されている。このことから、当遺跡の条里型水田の施工は奈良時代前半には遡りうるといえよう。また、これらの律令期の条里型水田の施工基準と推定される静岡平野中部の曲金北遺跡で発見された古代東海道の遺構（第209図）は、その側溝の底から発見された土器から8世紀中頃にまで遡るといわれていた（「曲金北遺跡」静岡県埋蔵文化財調査研究所1996）が、奈良時代前半にまで遡る可能性がある。

当遺跡の条里型水田が奈良時代の前半には施工されたとすれば、N39°W系の静清平野の広域条里の施工は、麻機低地のような静清平野で最も低湿な地域でも、律令期のかんまりは早い段階で施工された可能性を示しており、奈良盆地をはじめ各地の埋没条里型水田の調査では、条里型水田の初現を平安時代以降にまで下げる調査所見が提出されている（寺沢薫「大和における中世開発の—様相—」尾尾遺跡の調査と小栗荘「条里制研究」第7号1991）中で、奈良時代前半の条里型水田の発見は貴重な成果といえよう。

(3) 条里型水田の成立直前 — この条里型水田の施工が、先行する条里型水田以前の水田区画を耕地整理して実施され、耕地整理中の段階の水田とも考えられる遺構が発見されたこと—

当遺跡では、第1に、先行する条里型水田以前の水田区画を耕地整理したことが判明した。第2に、耕地整理中の段階の水田とも考えられる遺構が発見された。

第1のことは、条里型水田以前の水田区画がすでに存在しており、それを耕地整理して条里型水田を構築したという証拠を明らかにしたことである。具体的には、当遺跡の2区・3区で検出された条里型水田の坪界大睦畔の下位に、いわゆる擬似畦畔Bという自然堆積層の高まりが発見されなかったのである。そこには、条里型水田が施工される直前まで機能していた水田耕作土中の耕作による土壌擾乱による粘土粒子の動きが観察できた。

従来、古代史研究者や歴史地理学者から、「条里開拓」という概念で、この時期の大規模な開田が行われたといわれてきたが、当遺跡の調査では、条里型坪界大睦畔の盛土の下部には、いわゆる擬似畦畔Bといわれる自然堆積層の残存が確認できなかった。そこで、これは開発水田ではなく耕地整理型の水

田であると考えられる。

それでは、条里型水田以前の水田の形状とはどんなものであったのか。これが、前述の第2のことである。3区・2区では、条里型水田以前の大畦畔はじめ小畦畔の痕跡が多数検出できた。2区では、これらの痕跡は盛土を伴わない杭列や敷板列が、耕作上下面の調査時に明らかになった。ところが3区では、条里型水田以前の大畦畔はじめ小畦畔の痕跡が、杭列や敷板列だけでなく、盛土を伴って、条里型水田の耕作上の上面起伏として観察できたのである。この3区の場合は、条里型水田の大畦畔の施工がまず実施され、その次に、主要な坪内畦畔を施工する途中で、埋没してしまったと考えられる。

今後、条里型水田の調査にあたって、これら2つの要素に着目すれば、それが開発型であるのか、それとも耕地整理型であるのかを判断することができるようになるだろう。

なお、静岡平野で調査した条里型水田の坪界大畦畔で、疑似畦畔Bを伴うものは、管見では、今のところ皆無である。ただし、筆者は、袋井市教委が調査した川山、藤藏淵遺跡の条里坪界大畦畔では、疑似畦畔Bが確認でき、この場合は、「条里開拓」と認めてよいと考えられる（白澤崇「川山、藤藏淵遺跡の条里遺構」『条里制研究』第9号1993、欠田勝「研究報」40号静岡県埋蔵文化財調査研究所1993）。

(4) 条里型水田の坪界大畦畔の付け替え — 律令期施工の坪界大畦畔よりも遡る、別の坪界大畦畔の可能性 —

当遺跡の3区、2区では、律令期施工の条里坪界大畦畔として盛土を伴った遺構を検出しているが、それに近接して、盛土を伴わない敷板列が主体となる、条里系の方向性を持つ大畦畔痕跡が検出できた。3区では、南北坪界大畦畔SK31201の東隣に位置する南北大畦畔痕跡のSK31205、2区では、南北坪界大畦畔SK21203の東隣に位置する南北大畦畔痕跡のSK21209、東西坪界大畦畔SK21202の南隣に位置する東西大畦畔痕跡のSK21210である（第114図参照）。

このような事例は、当遺跡の西隣の岳美遺跡の9～11区の条里型水田からも確認されている（「岳美遺跡1」静岡県埋蔵文化財調査研究所1995）。また、このような事例は河内平野の池島・福万寺遺跡の場合にも存在している（江浦洋「池島・福万寺遺跡の条里遺構とその諸問題」『条里制研究』第8号1992）。このように、条里施工は、試行錯誤を繰り返しながら実施していたと考えられる。

(5) 中世水田の開発と小区画水田

当遺跡では、これまで、あまり明らかでなかった中世での低湿地開発が、近世新田開発以前に存在し、弥生～古墳時代に一般的であった小区画水田が再び採用されている。

中世水田が、小区画に広がる傾向があるという指摘は、岡山市南方釜田遺跡の調査（根本修「岡山市南方釜田遺跡における条里地割の変遷」『条里制研究』5号1989）で指摘されているが、これは灌漑水の不足に対応するものといわれている。当遺跡の調査でも、小区画の確認ができていたが、これも灌漑水の不足に対応するかどうかは不明である。この時期の水田調査例の増加を待って検討していきたい。

(6) 中世水田が律令期条里型水田から継承したものと改変したもの

前述の岡山の中世水田は、律令期の条里型水田を踏襲したものであったが、当遺跡の場合、数10cmの泥炭や粘土の自然堆積層をはさみ、約400年間の断絶を経て、再開発されている。この再開発水田の区画は、条里型大畦畔の大畦畔を復旧しても小区画は非条里型の正方形的な方向性を示す3区5-2層水田。小区画が正方形的な場合と条里的な方向性の2者の混在する2区。小区画のほとんどが正方形的な1区。というようにさまざまな形態が確認できた。

中世再開発は、条里大畦畔を尊重しつつもその内部の区画はその方向性に規制されていない可能性が

ある。なお、3区では5-2-1層水田の段階では条里型坪界大畦畔すら復旧されていないのは、はじめは条里型坪界大畦畔を復旧しても、その後、洪水被害にあったなら、その復旧水田では条里型坪界大畦畔の復旧はされていないのである。中世という時代に、条里がどのように扱われたのかを示す貴重は考古資料といえよう。

なお、中世史研究者は、「中世大開発」という概念で水田や畑の開発が平安末から鎌倉時代にかけて行われるというのが、実は、条里型水田の再開発が、地下水位の低下したこの時期に開始されると考えた方がよいのではないか。気候学者達がいう「中世小氷期」の開始と呼応しているのである。これも、今後の検討課題である。

(7) 災害・自然環境の変化と開発行為

当遺跡での、水田上壤や遺構断面の観察から、水田開発と埋没のサイクリックな展開が明らかとなった。4時期の水田調査を行ったが、いずれの水田もこの低地がある程度、地下水位が低下して、乾燥した段階で開発または再開発がおこなわれている。また、水田の廃絶は、粘土の洪水堆積がダイレクトにくるのでなく、その直前に湿地化が行われているようである。これは泥炭層の堆積からわかる。特に平安時代の泥炭の堆積は厚さ数10cmであり、加藤芳朗氏のいう「平安海進」（加藤芳朗「環境システム研究」2号1995）の存在が想定できよう。当遺跡の水田の廃絶は、このような地下水位の上昇に起因する。そこで、地下水位上昇災害とでもいうものであろう。

このように、各時期の水田が経営された時期の乾燥状況や開発・再開発・復旧といった災害や自然環境の状況に対応した開発行為の変遷の様子が、耕作土や畦畔の断面観察や区画の検出状況から確認できた。

(8) 地震災害の痕跡など

以上のような、遺構の特色の他に、当遺跡では複数の時代に生じた地割れ痕跡（第210・211図等）が多数発見され、この地域の地震災害の特性がうかがえたことも、当遺跡の調査の成果である。

通例、被圧地下水の中にある砂層が地表下に存在する場合、地震の発生に伴って噴砂が発生する。しかし、このような粘土の軟弱層の場合、3区では噴砂のみならず、噴泥が発生している。

また、低角の逆断層地形や雁行する正断層が発生している（第212～214図）。さらにこれらの地震に連動して、拗曲凹地が生じている。このような地変が遺構の形状を変形させている事例として、3区の15層小区画水田の田面の変形があげられる。一つの田面の中の高い部分と低い部分との落差が10cm以上あっては水田耕作はできないとする藤原宏志氏の見解（藤原宏志他「先史時代水田の区画規模決定要因に関する検討」『考古学と自然科学』第21号1989）に反して、小区画内の落差は約30cmもある事例を報告した。これは、後世の地変が、それ以前に形成された遺構を変形させた事例である。また、15層水田の大畦畔の雁岸杭・矢板列の地中切断と斜め約45°に傾斜した杭列が存在し、それとともに垂直に打ち込まれた杭が併存する事例（2区SK21506）は、地盤の傾斜（上本進二「季刊考古学」24号1993）が15層水田の経営時に生じたことを暗示している。層滑りの直後に垂直に杭が打たれたものと考えられるからだ。

なお、第215図は、泥炭層の流動状況がうかがえた部分の断面図である。このような泥炭層が切れて水平移動することの原因の一つは地震動であろう。また、滞水して重くなった泥炭ブロックが、斜面を滑落し、千切れていく場合や、浮いて、風に流されていくなかで泥炭ブロックが、千切れてしまう場合があるようだ。

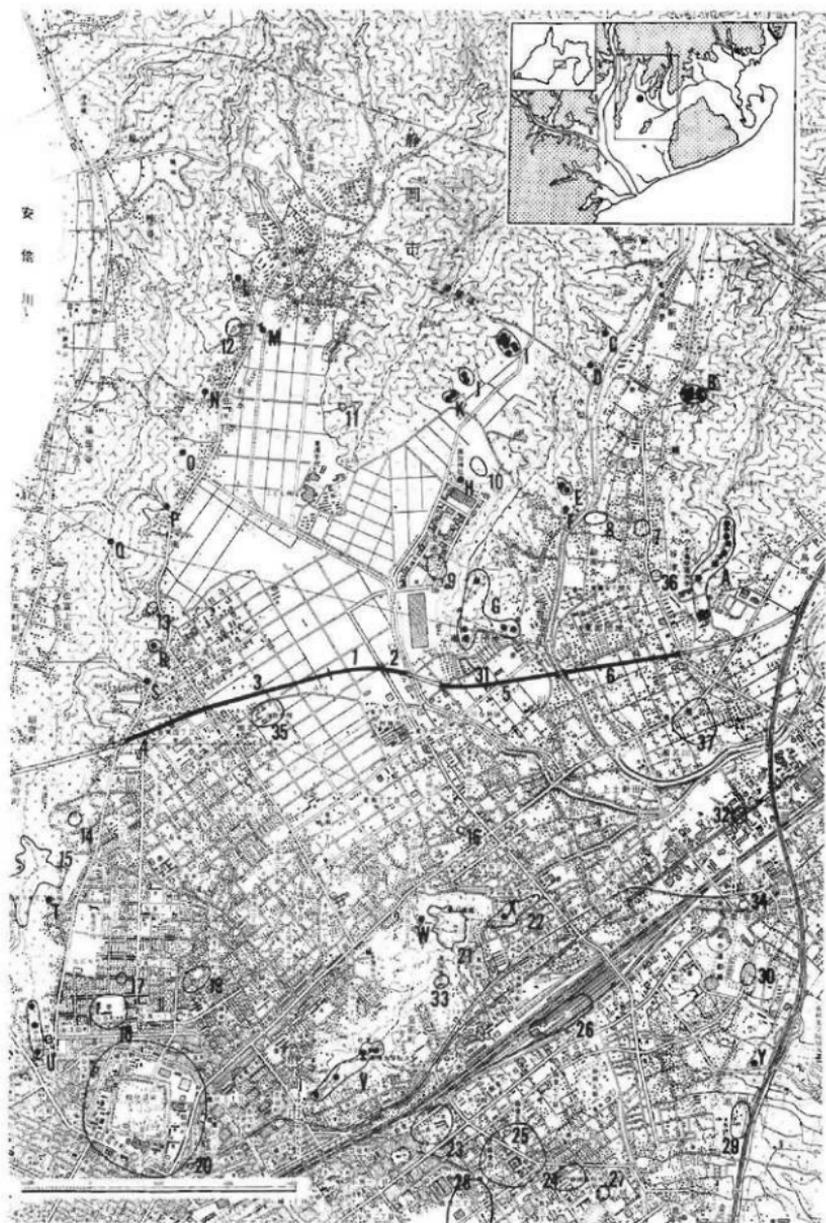
2 当遺跡の調査にかかわる工夫と問題

第208図にまとめて図示したように、水田遺構の調査方法に関して、このような3種類の調査方法を試みた。それぞれ、本文中でも述べているが、ここでは、通例の調査方法との違いを明らかにしつつ工夫と問題点を述べたい。

図の左上の、2種類の擬似畦畔Bとしたものは、通例、擬似畦畔Bとして図示されるのは斎野裕彦氏らが作成した模式図であり、上のような図である（斎野裕彦氏他「富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市教育委員会:987）であるが、実際には、この図でも示したような「扁平畦畔の埋没」とした断面形をとることが多い。そこで、このような断面の形状では、断面から擬似畦畔Bであることを識別することはほとんど不可能になることが多い。そこで、平面での粘土ブロックの密集した帯状の列を探すことになる。この「扁平畦畔の埋没」の場合は、このように断面観察と平面精査をリンクさせて実施すると有効であった。これらの中で、一方だけでは、擬似畦畔Bとは関連のない部分を擬似畦畔Bと誤認しかねないという問題点がある。

図の下部、復旧に伴う畦畔の移動と溝痕跡の確認としたものは、耕作土中の灰白色粘土粒子またはブロックの集積帯が、擬似畦畔Bを構成しているのか、それとも溝状遺構の凹地の上を覆い、筋状にブロックの集積帯を構成しているのか。この判別に悩んだが、図で示したような変遷がおえるのではないかと、最終的に判断した。

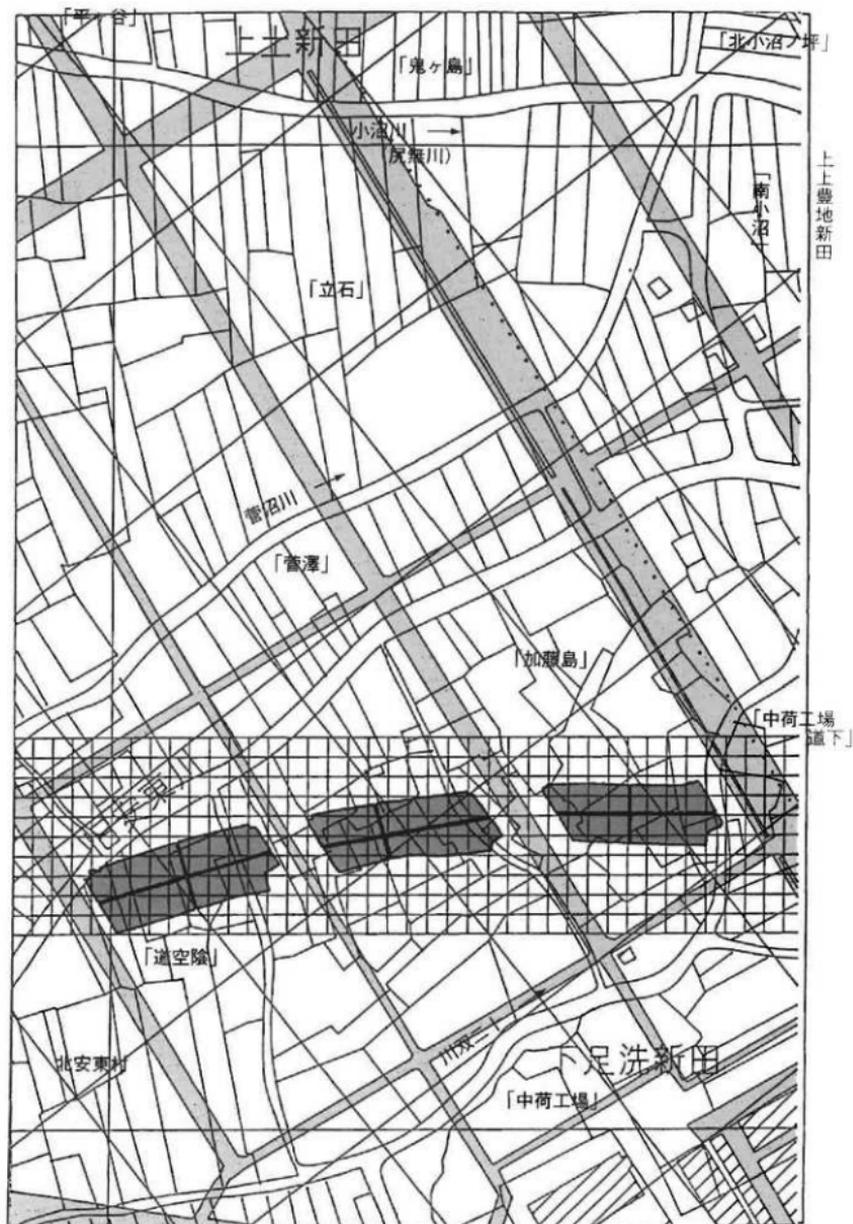
図の右上は桑里坪界大畦畔を設置した場合、それ以前の大畦畔はどのようになったのかは、図示の通りである。



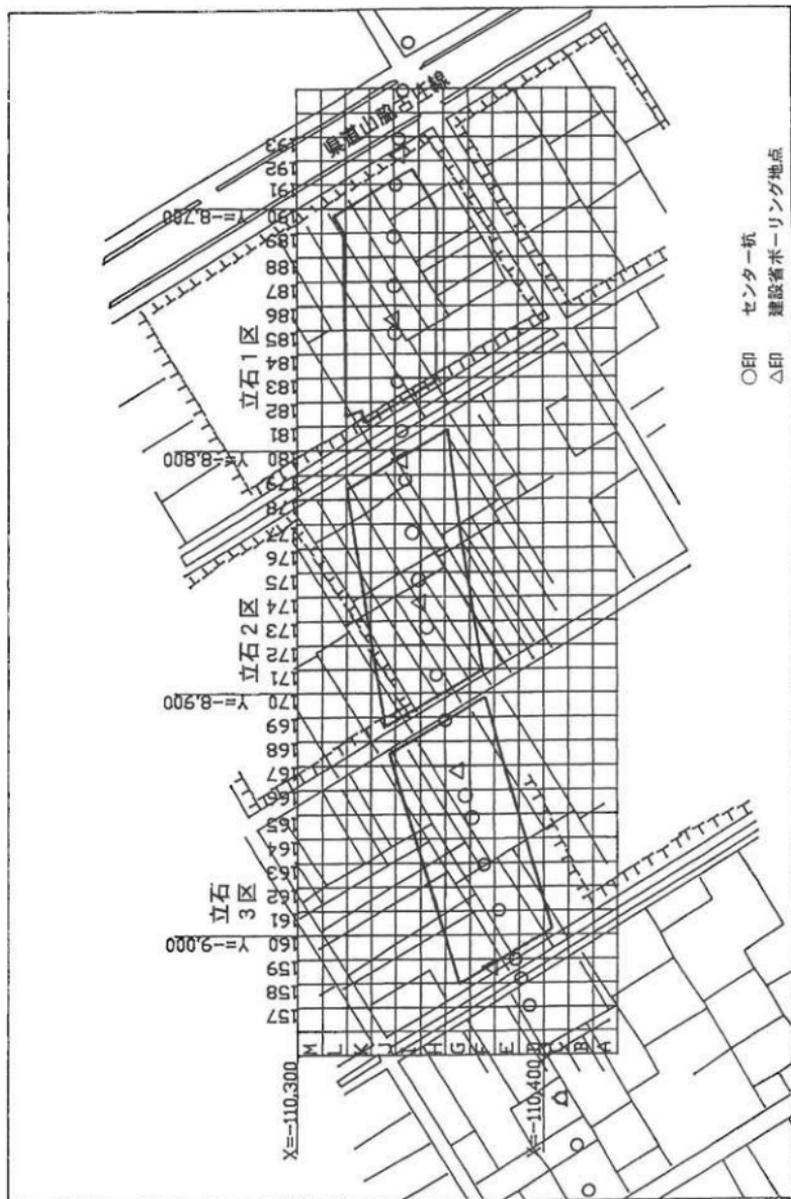
第 2 圖 上土遺跡付近遺跡分布図

第1表・上土遺跡付近遺跡地名表

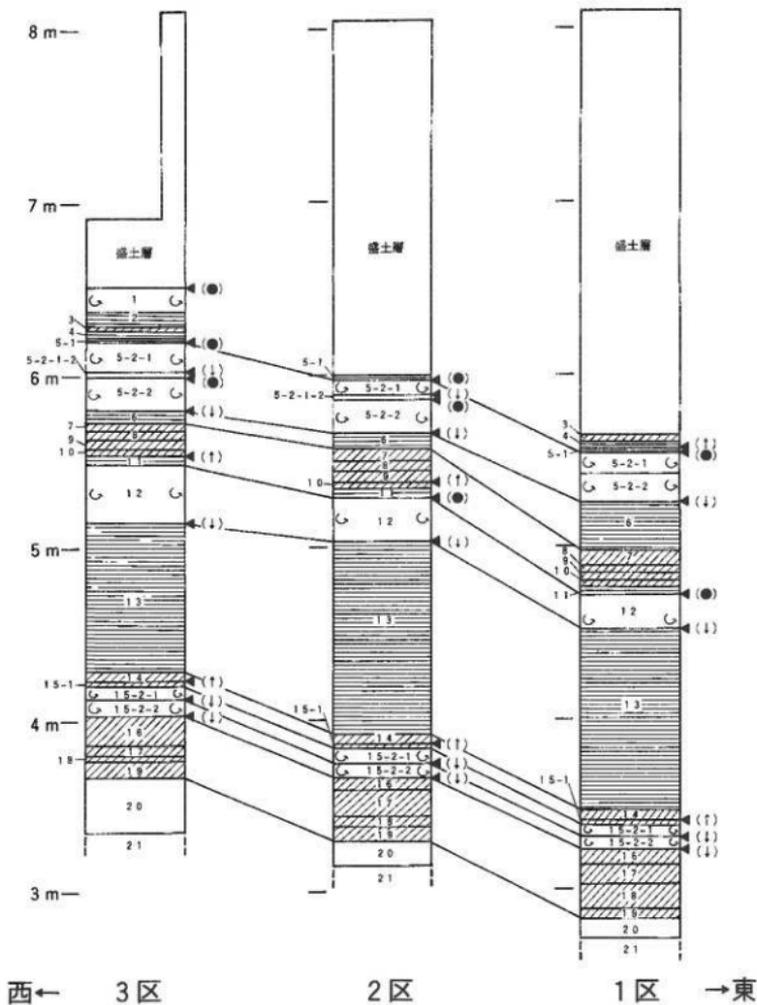
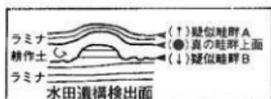
遺跡			古墳		
遺跡名	所在地	時期	遺跡名	所在地	時期
1 上土遺跡(立石地区)	静岡市立石静岡市立石	弥生(中)～近世	A 瀬名古墳群	* 瀬名塚下地	古墳
2 上土遺跡(加藤地区)	* 加藤島	弥生(中)～近世	B 権原谷古墳群	* 瀬名権原谷	古墳(後)・中世
3 岳美遺跡	* 岳美池	平安	C 井戸ヶ谷1号墳	* 北沼上井戸ヶ谷	古墳(後)
4 池ヶ谷遺跡	* 北安東・大岩	弥生(後)～平安	D 上坂古墳群	* 北沼上	古墳(後)
5 川合遺跡(川合地区)	* 川合	弥生～近世	E 水梨古墳群	* 瀬名水梨	古墳
川合遺跡(宮下地区)	* 川合宮下	平安～鎌倉	F 利倉神社上古墳	* 瀬名水梨	古墳
川合遺跡(内浜地区)	* 川合内浜	平安	G 南沼上古墳群	* 南沼上	古墳
6 瀬名遺跡	* 瀬名	弥生～中世	H 南沼上諏訪神社古墳	* 南沼上	古墳
7 下夕村遺跡	* 瀬名	古墳(中)	I 三瀬ヶ谷古墳群	* 南沼上三瀬ヶ谷	古墳(後)
8 切石遺跡	* 瀬名切石	古墳	J 小洞ヶ谷古墳群	* 南沼上小洞ヶ谷	古墳
9 長崎鼻遺跡	* 南沼上長崎鼻	縄文(中)	K 惣ヶ谷古墳群	* 南沼上惣ヶ谷	古墳(後)・中世
10 佐敷堂遺跡	* 南沼上佐敷堂	縄文～平安	L 羽高古墳	* 羽高	古墳(後)
11 「安倍郡」印出土地	* 東石神	平安	M 有永古墳	* 有永	古墳(後)
12 有永前田遺跡	* 有永	縄文(後)	N 平山古墳	* 南塚神	古墳(後)
13 時ヶ谷遺跡	* 南時ヶ谷	縄文(早)・弥生	O 八津口古墳	* 南八津	古墳
14 大在家遺跡	* 大岩3丁目	古墳	P 谷久保古墳	* 南草場	古墳
15 駿機山城	* 大岩・昭府町・壱上	中世	Q マルツコウ古墳	* 南谷久保	古墳
16 千代田遺跡	* 千代田6丁目	弥生(後)	R 鶴瀬古墳群	* 南鶴瀬	古墳(後)
17 大岩遺跡	* 大岩本町	弥生	S 池ヶ谷古墳	* 池ヶ谷	古墳(後)
18 静岡高校校地内遺跡	* 長谷町	弥生	T 飯濟寺古墳	* 大岩	古墳(後)
19 西千代田遺跡	* 西千代田2丁目	弥生(後)	U 駿機山古墳群	* 宮ヶ崎町	古墳(後)
20 駿府城内遺跡	* 城内他	弥生(中)～古墳	V 谷津山古墳群	* 榑木・香谷他	古墳
21 雲岩山城	* 香谷	中世	W 井上邸古墳	* 香谷	古墳(後)
22 長沼砦	* 香谷・長沼	中世	X 茶臼山古墳	* 香谷他	古墳(後)
23 曲金日遺跡	* 曲金2丁目	古墳	Y 池田丸山古墳	* 池田	古墳(後)
24 小藤杉本堀合坪遺跡	* 小藤	平安			
25 曲金A遺跡	* 小藤1丁目他	弥生・古墳			
26 曲金北遺跡	* 曲金・池田・長沼	弥生(中)～古代			
27 小藤笹田堀合坪遺跡	* 小藤	平安～中世			
28 豊田遺跡	* 豊田1丁目他	弥生・古墳			
29 本質寺裏遺跡	* 池田	縄文			
30 栗原遺跡	* 聖一色・栗原	弥生			
31 川合遺跡(八反田地区)	* 南沼上	弥生(中)～現代			
32 森ノ口坪遺跡	* 国吉田(森ノ口坪)	弥生			
33 榑木瓦葺遺跡	* 榑木(護国神社)	古代			
34 道下遺跡	* 国吉田(道下坪)	弥生			
35 水ヶ池遺跡	* 城北2丁目	弥生・平安			
36 東下遺跡	* 瀬名東下	古墳			
37 瀬名川遺跡	* 瀬名川	弥生(後)			



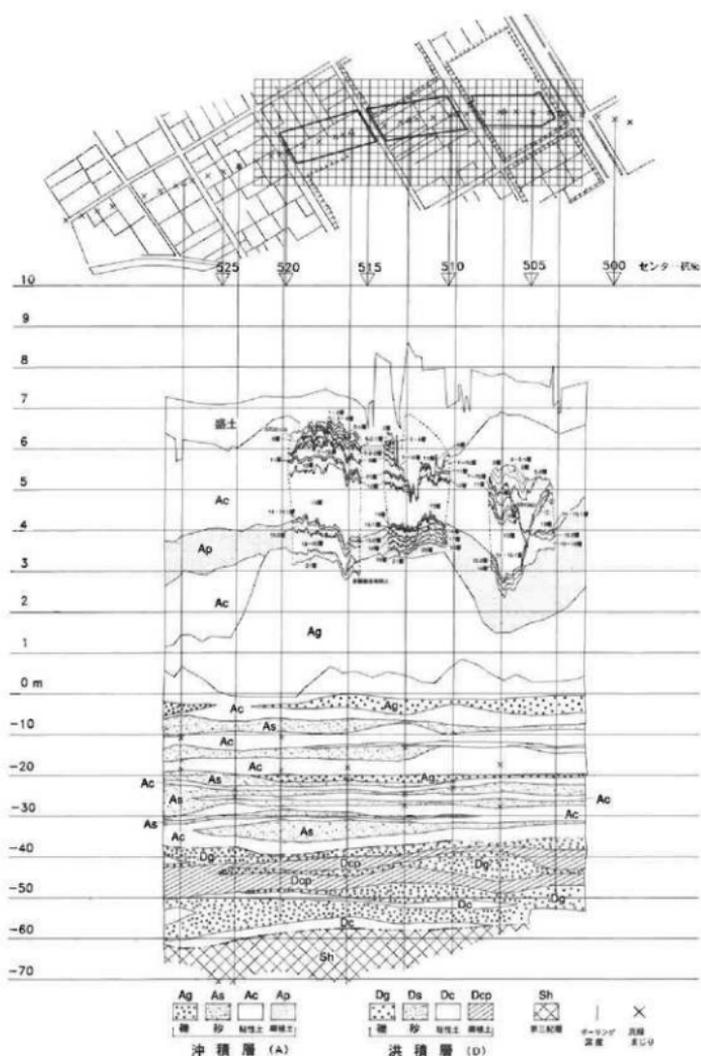
第 3 図 上土遺跡周辺新旧地形図



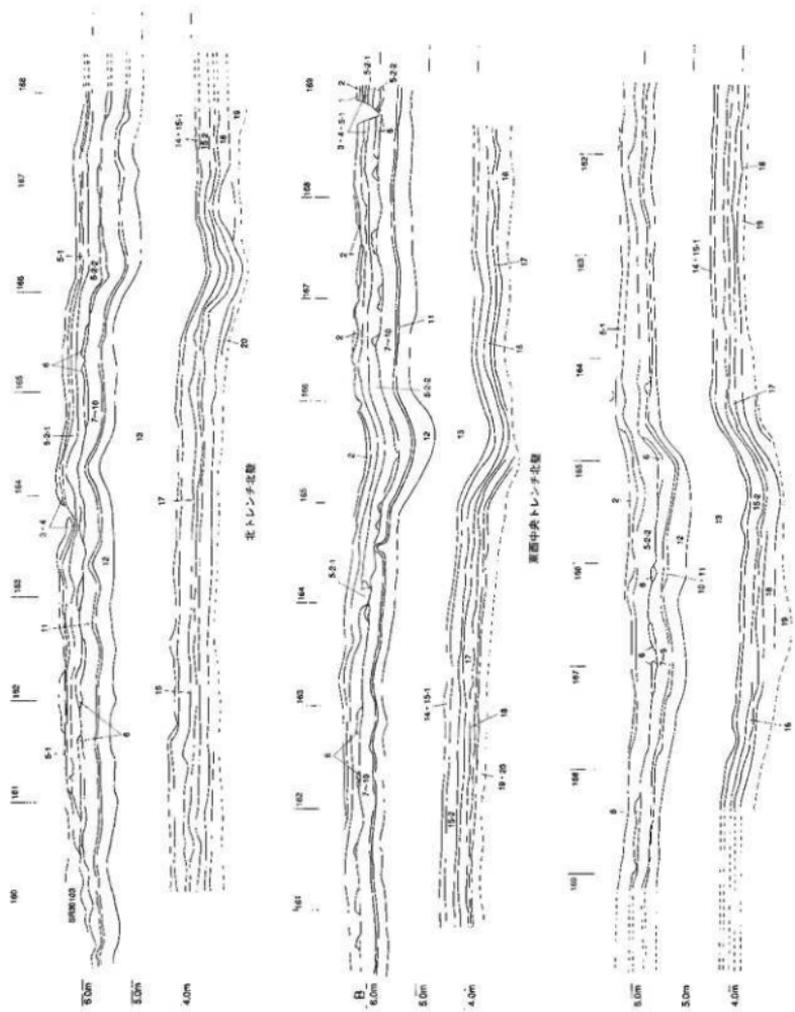
第 4 図 グリッド配置図



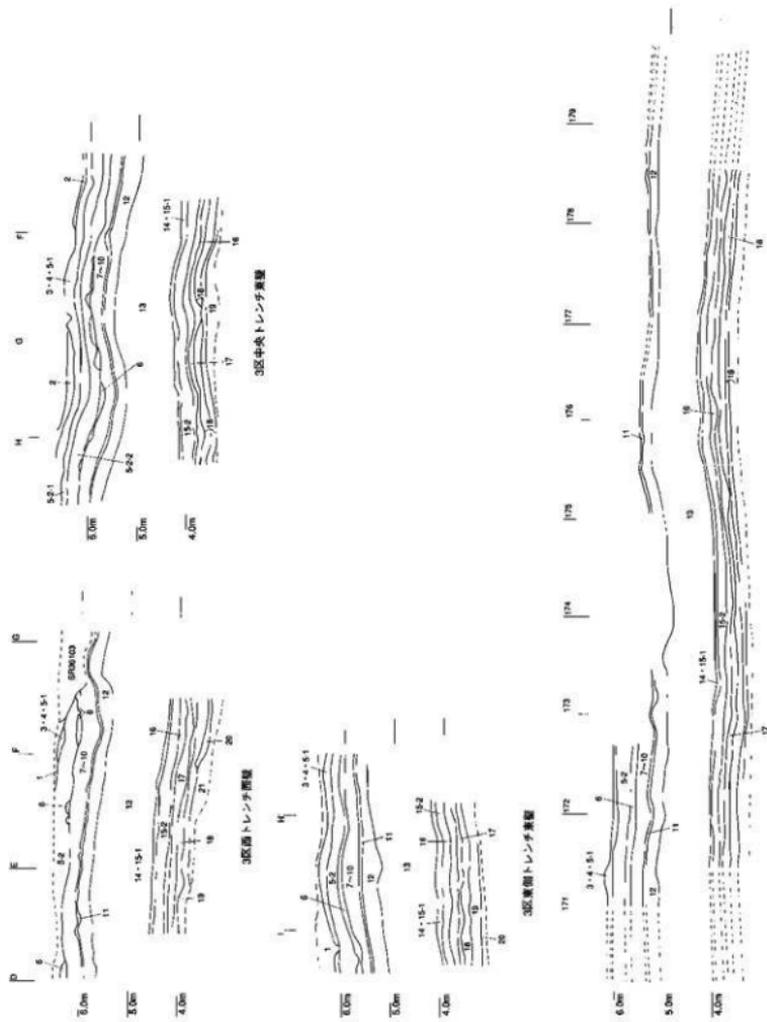
第 5 図 上土遺跡土層柱状模式図



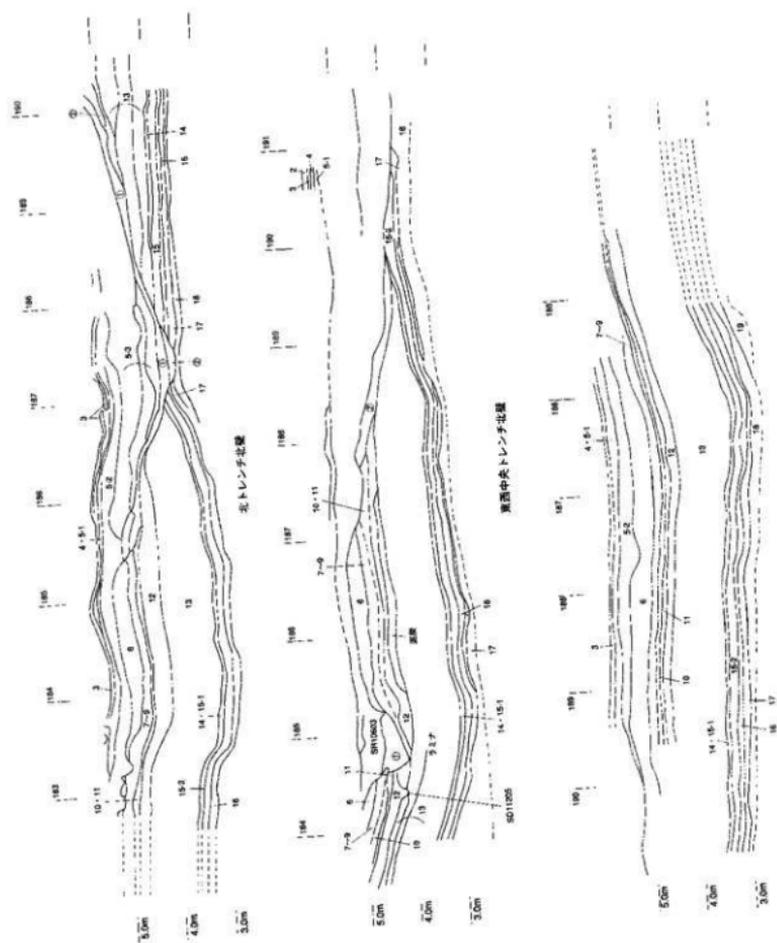
第 6 図 上土遺跡土層断面概念図



第 7 図 3 区土層断面図

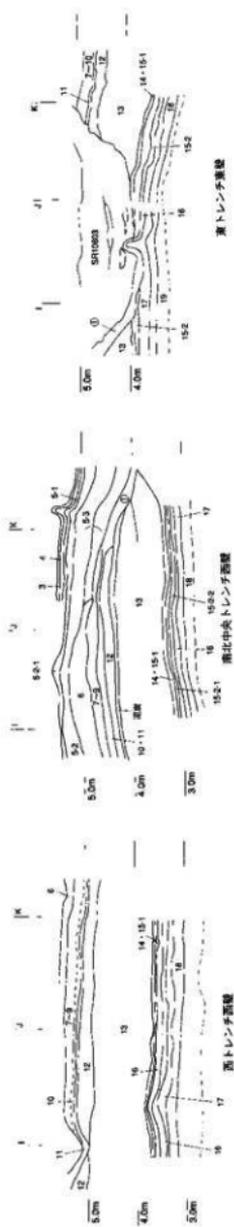


第 8 図 3 区・2 区土層断面構造

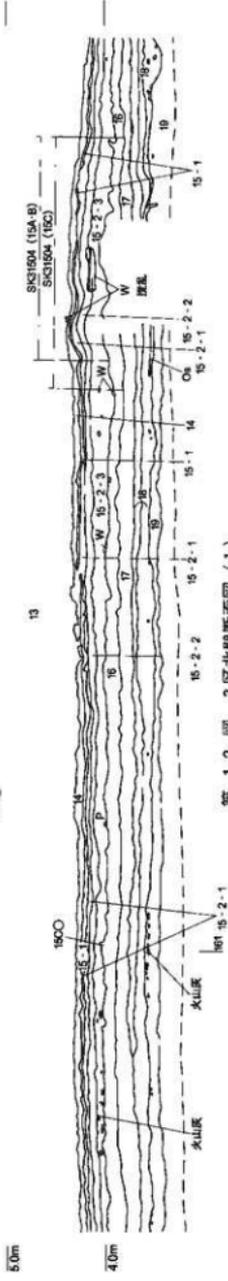
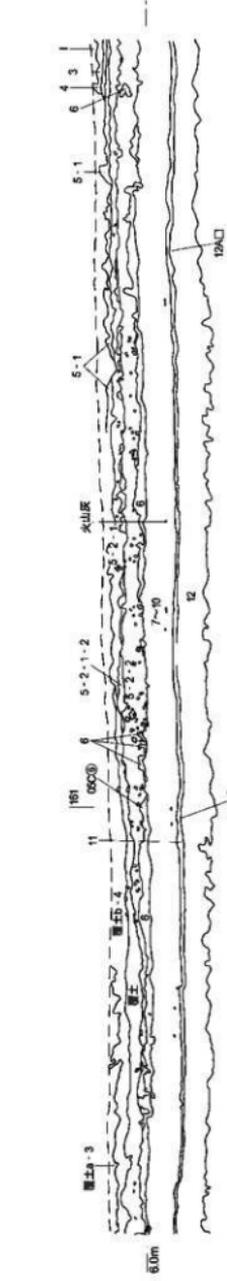
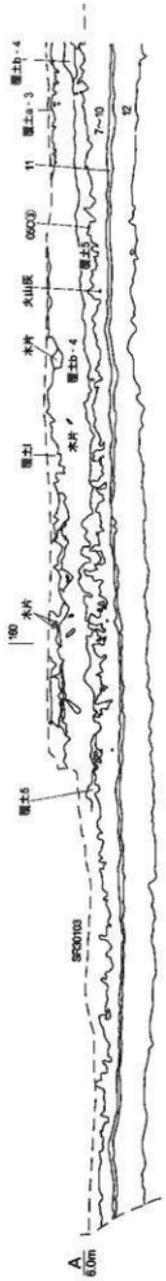


南トレンチ断面

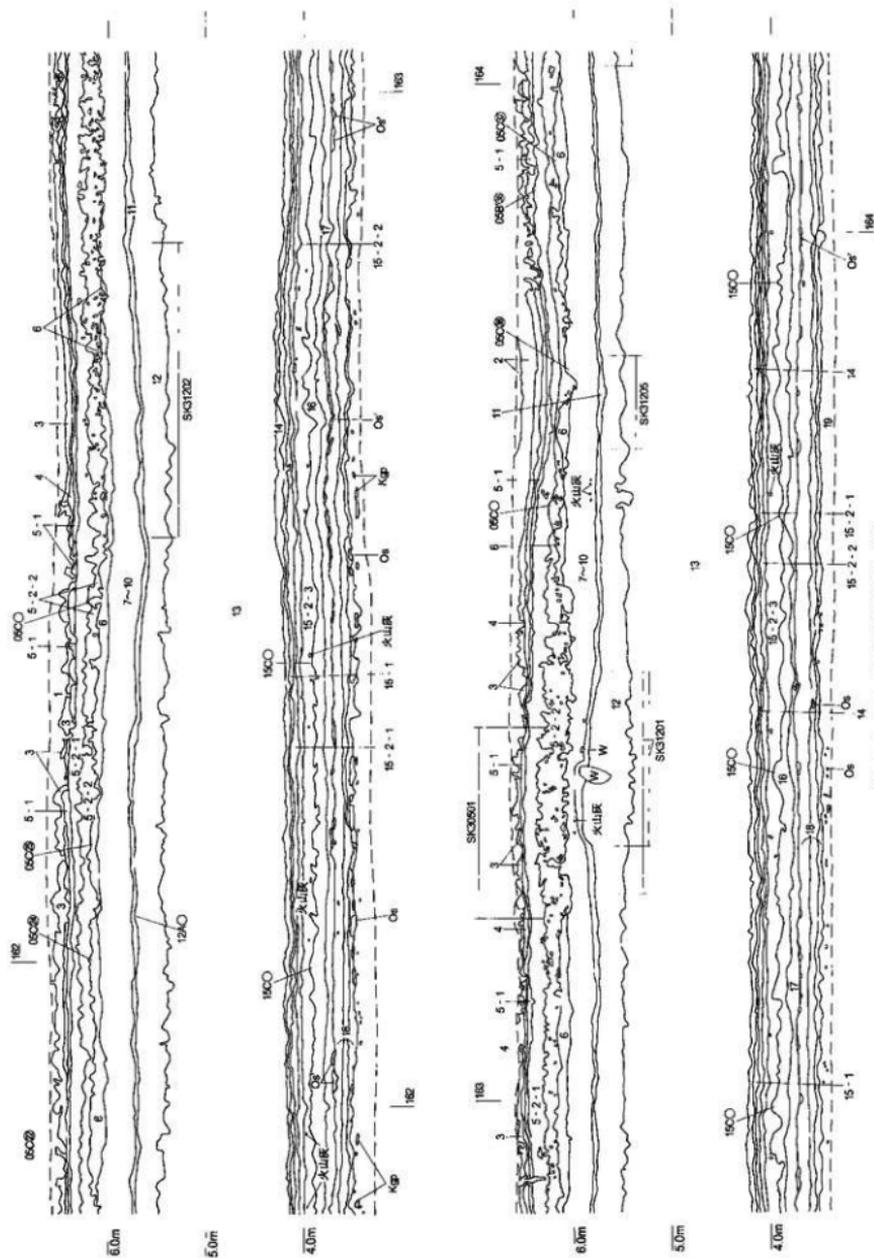
第10図 1区土層断面図



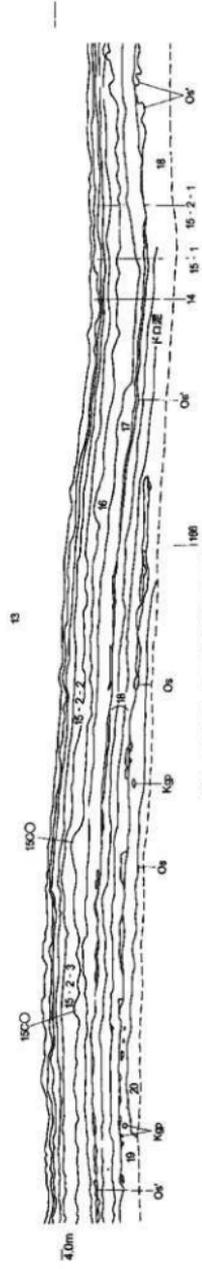
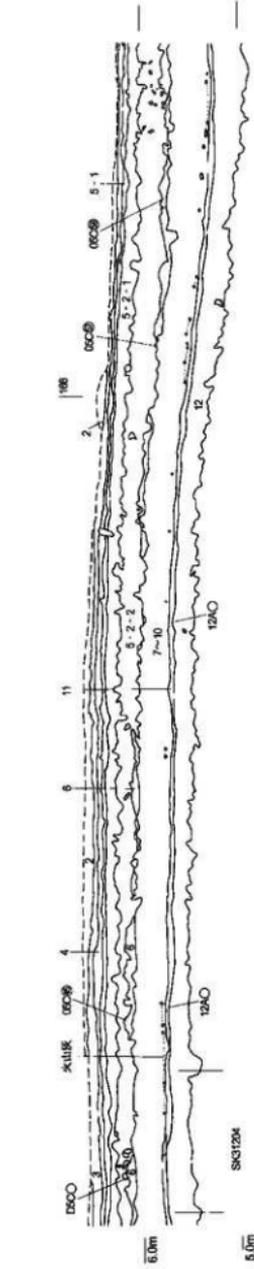
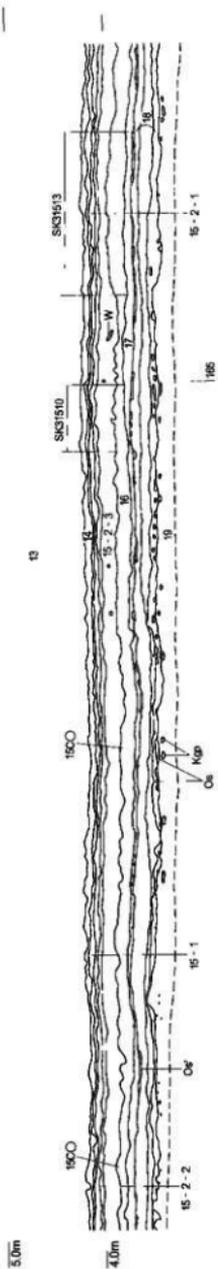
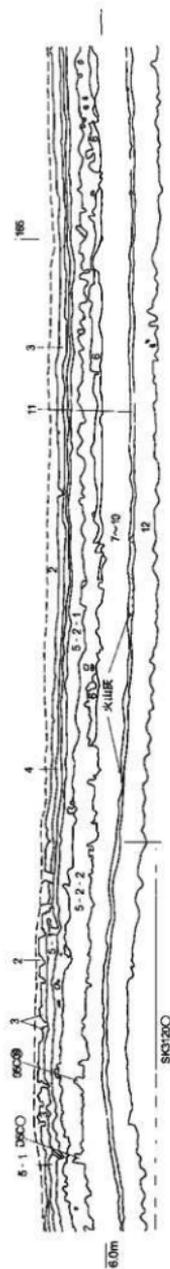
第 11 図 1 区土層断面縮図



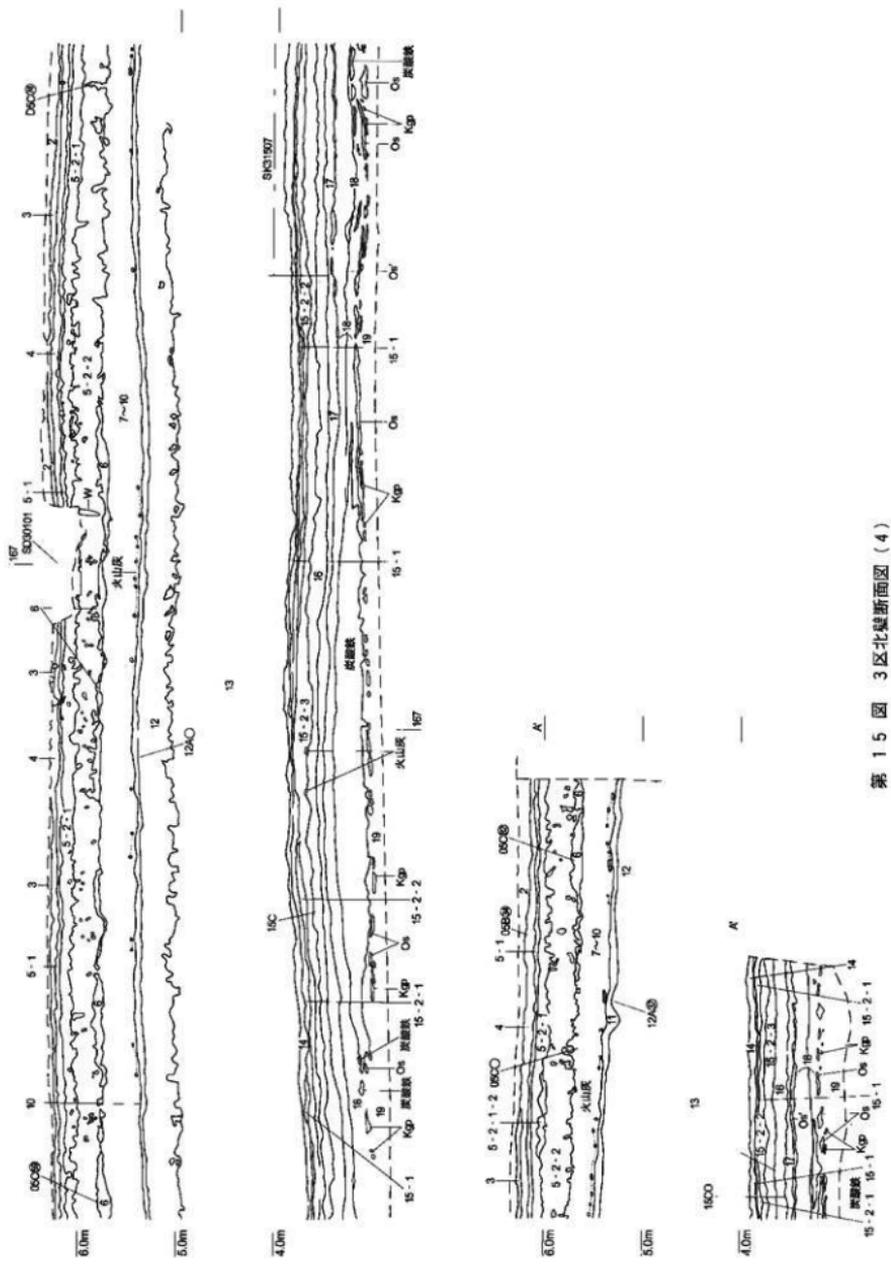
第 12 图 3 区北壁断面图 (1)



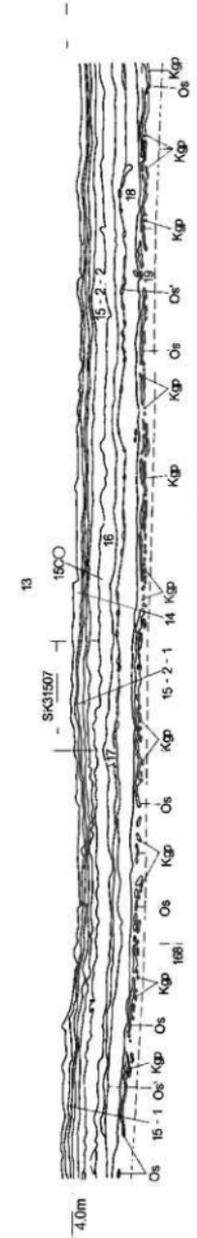
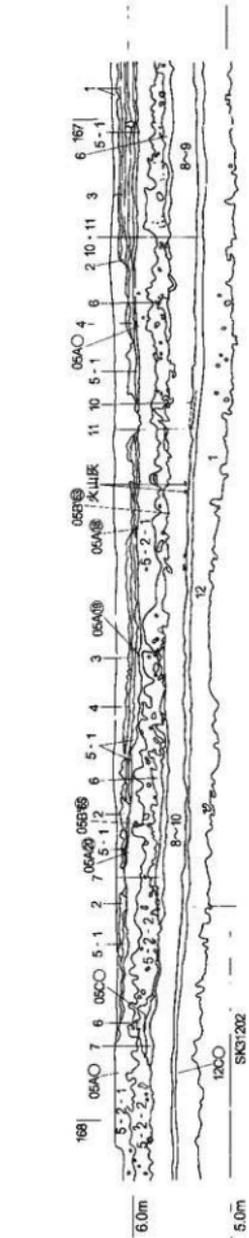
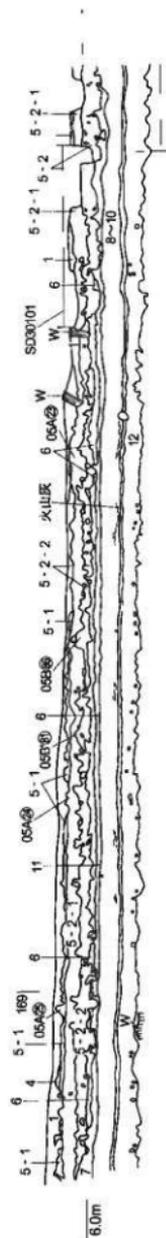
第 13 图 3 区北壁断面图 (2)

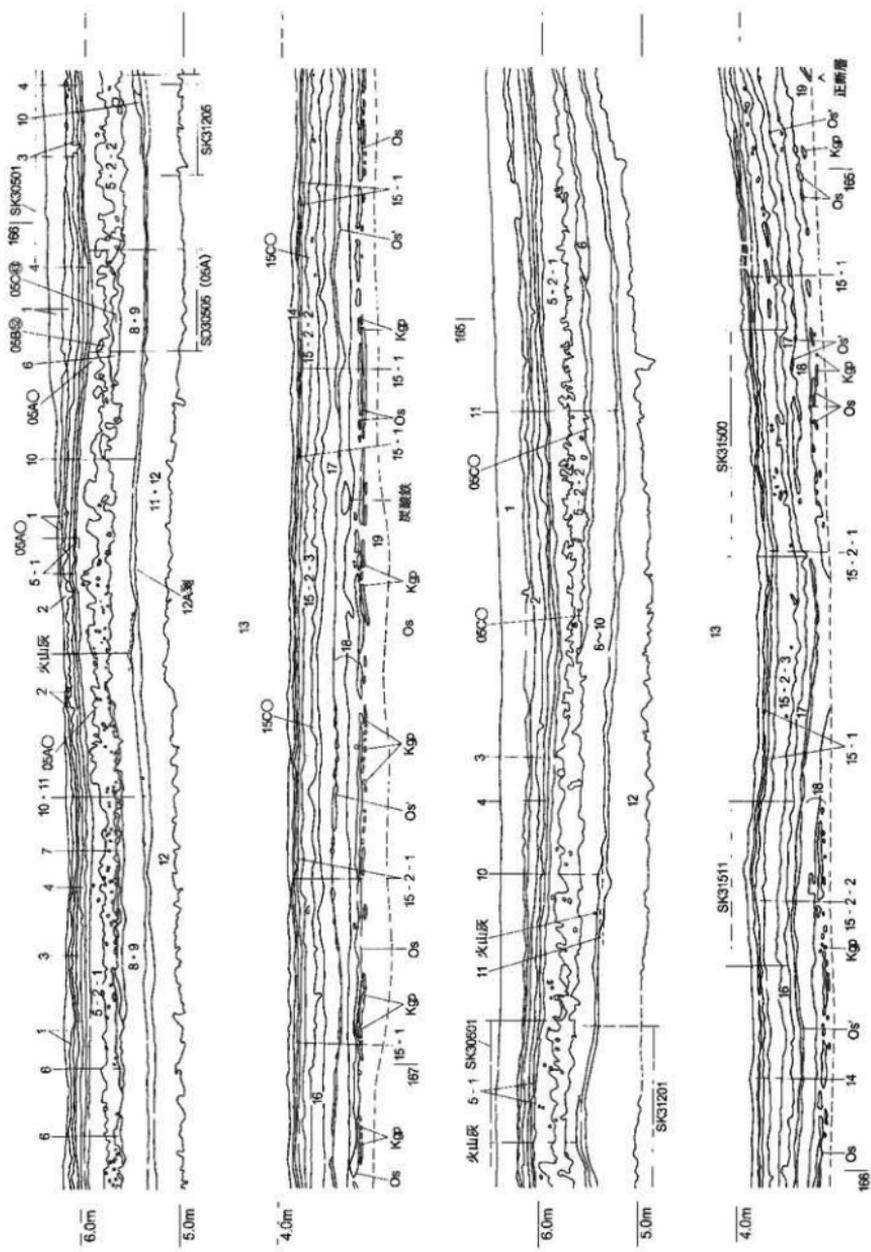


第 1 4 图 3 区北壁断面图 (3)

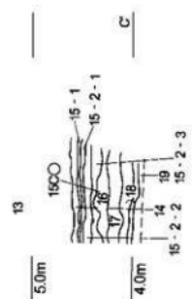
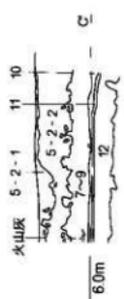
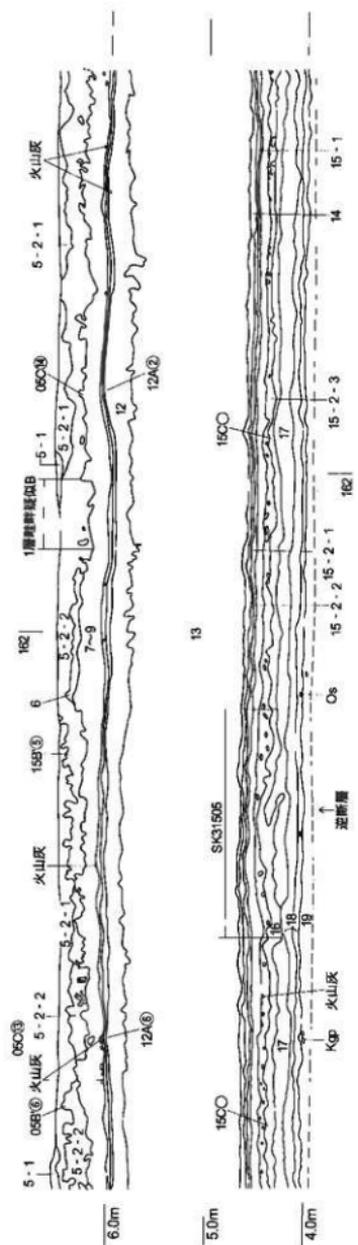


第 15 图 3 区北壁断面 (4)

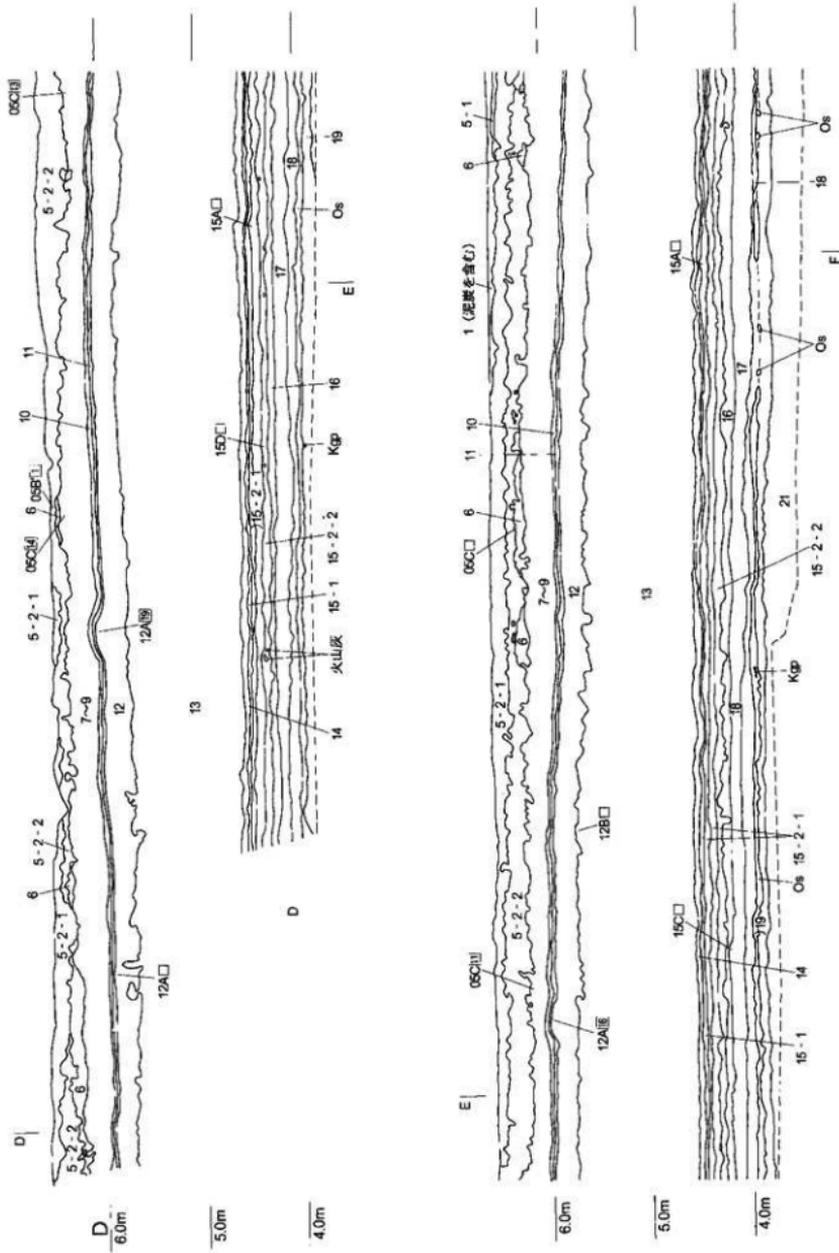




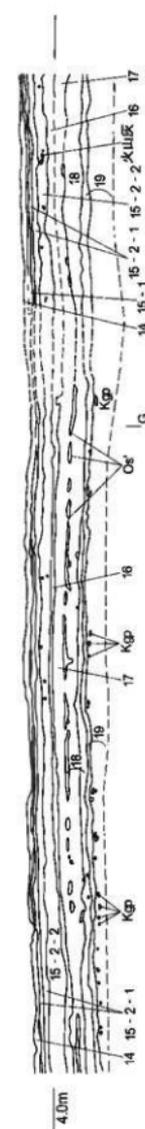
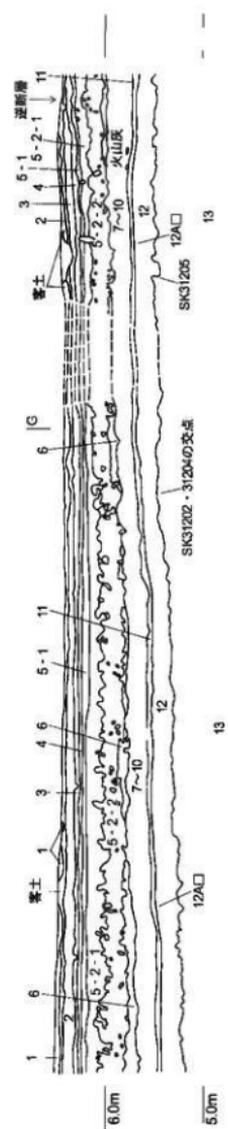
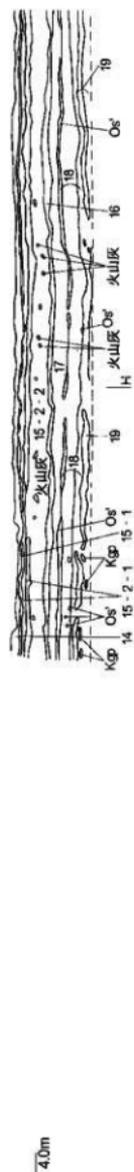
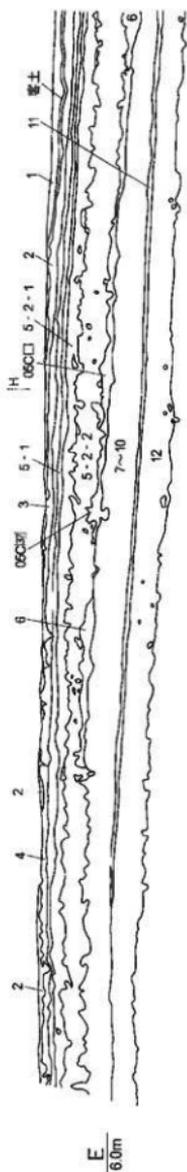
第 2 1 图 3 区南壁断面图 (2)



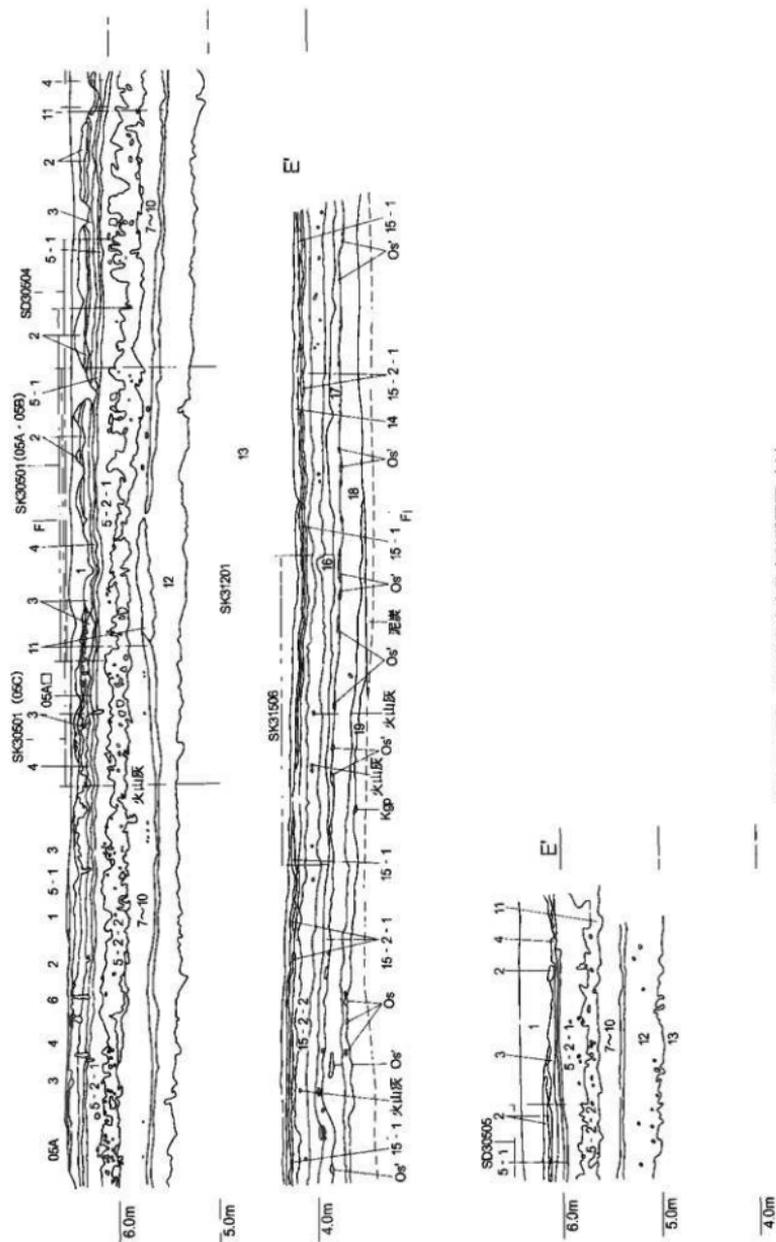
第 3 区南壁断面图 (4)



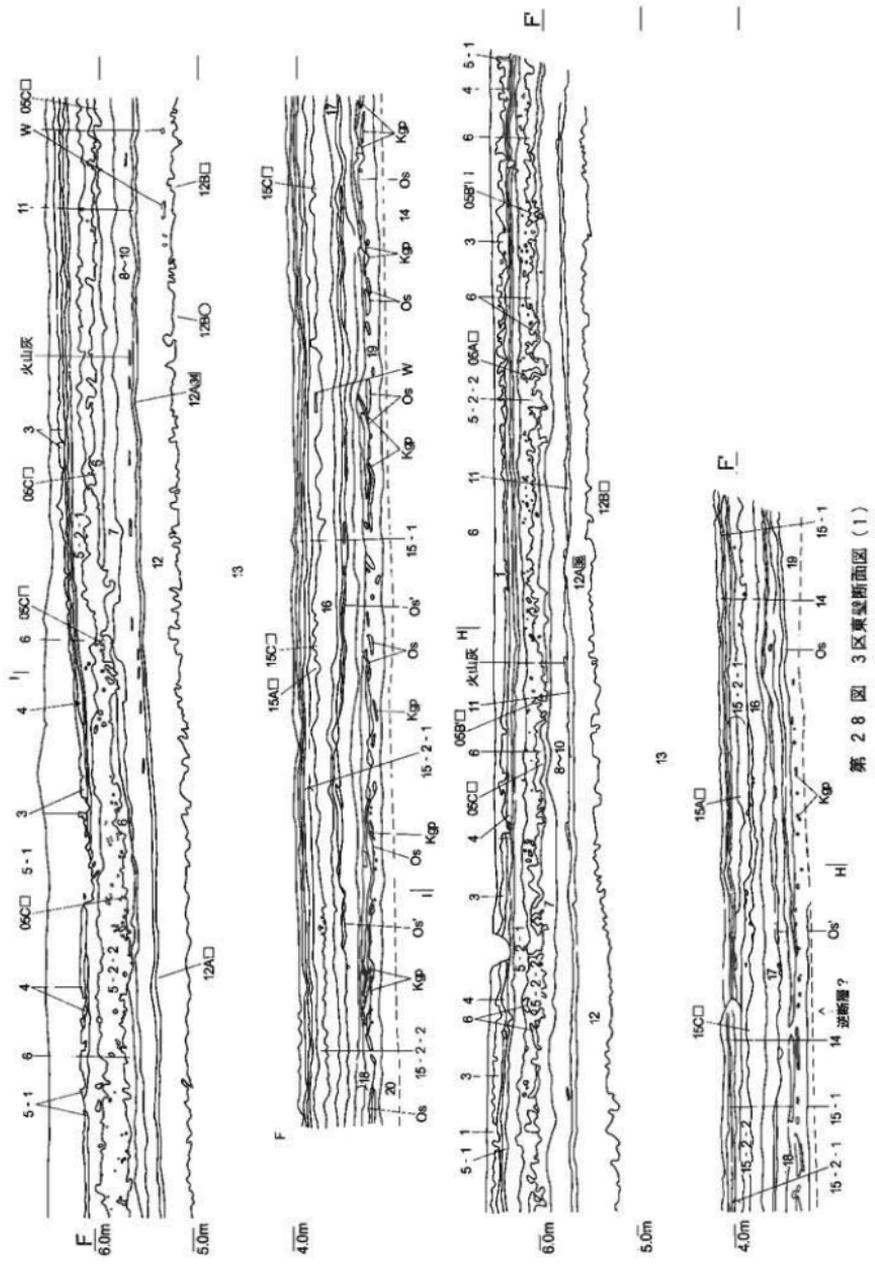
第 24 图 3 区西壁断面图 (1)



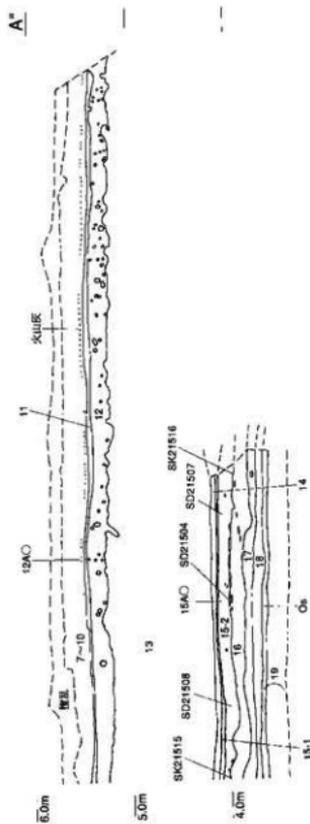
第 26 图 3 区南北中央带莫壁断面图 (1)



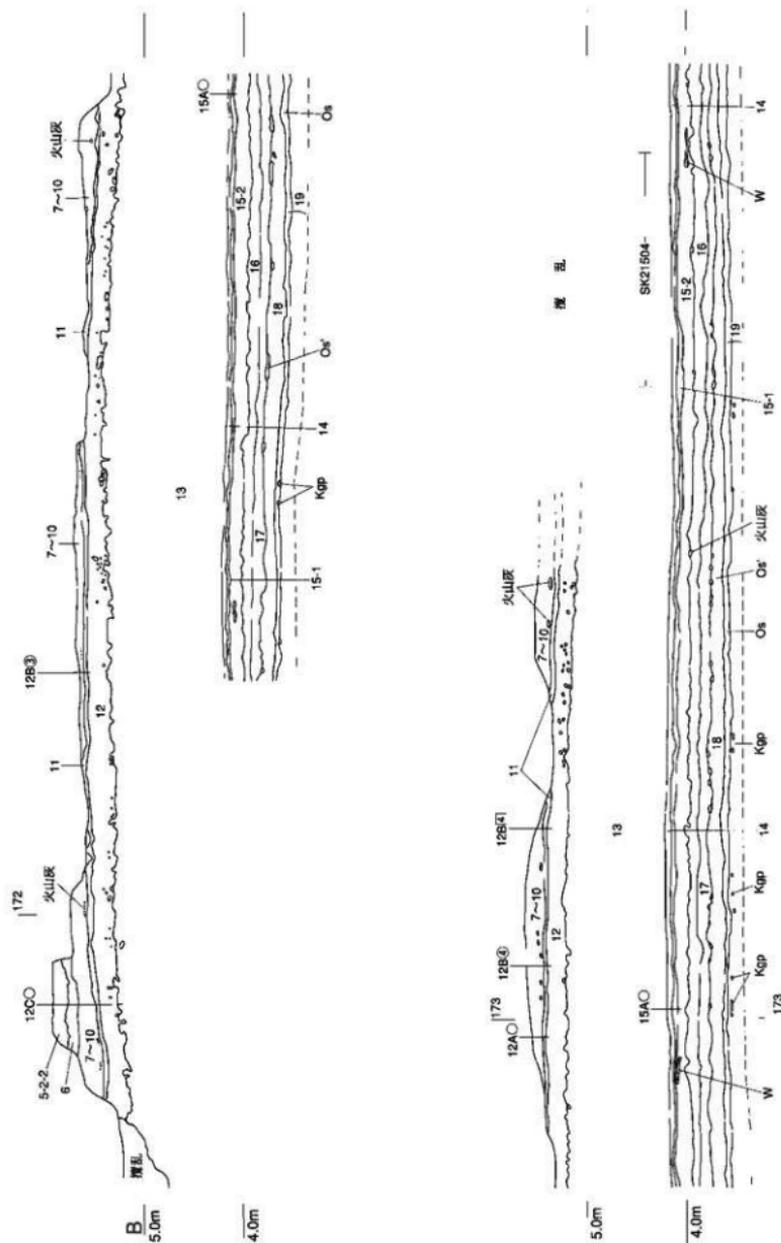
第 27 图 3 区南北中央带黄岩断面图 (2)



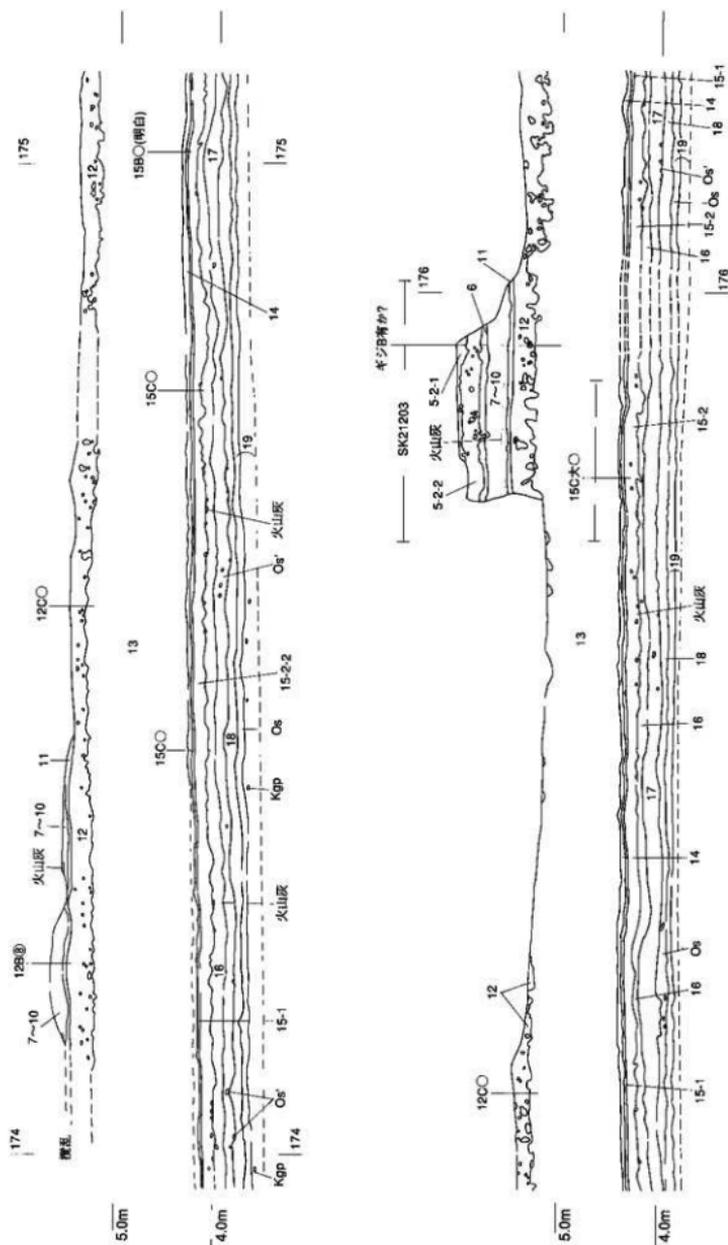
第 28 图 3 区东段断面图 (1)



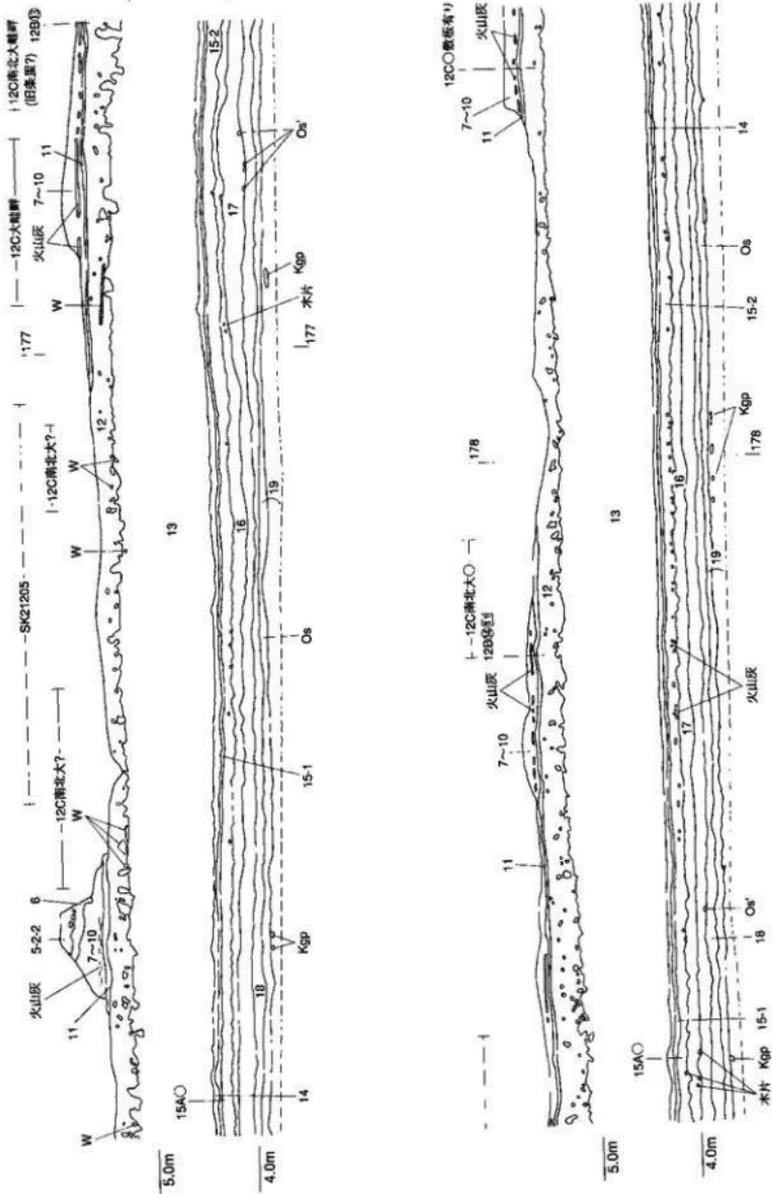
第 3 3 图 2 区北壁断面图 (4)



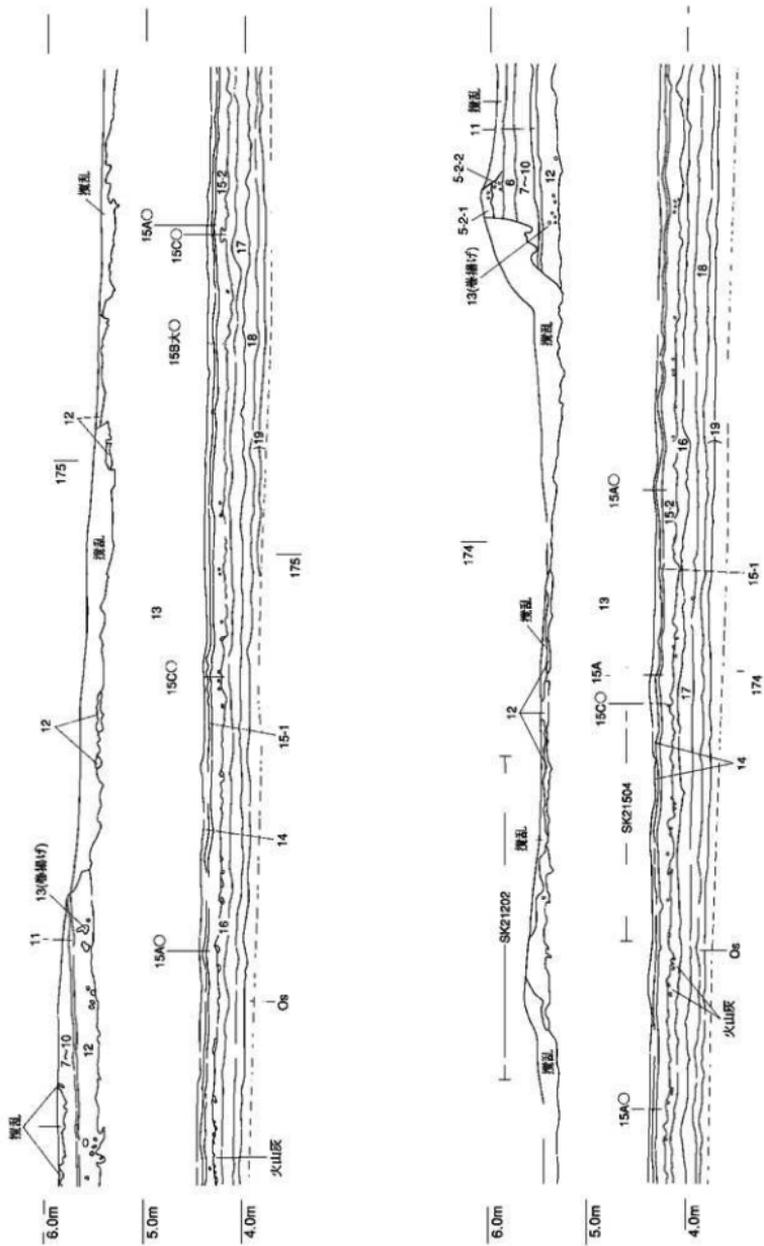
第 3 4 图 2 区东西中央带北翼断面图 (1)



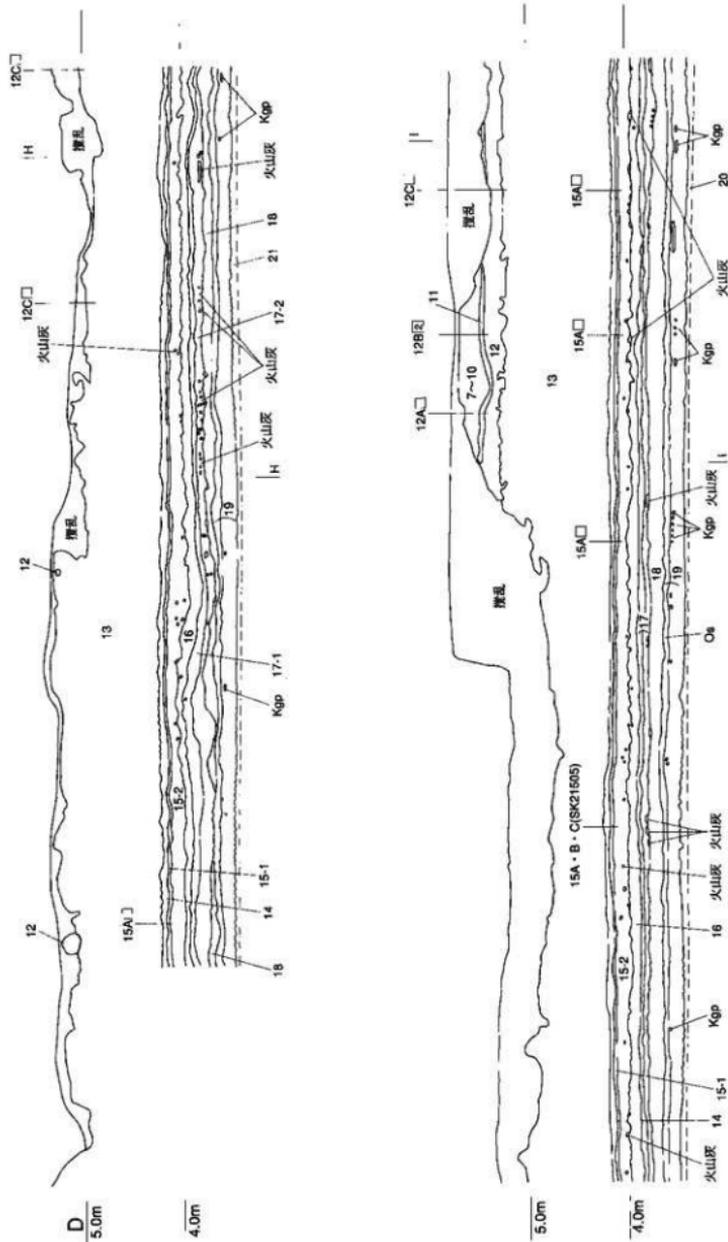
第 35 图 2 区東西中央帯北盤断面图 (2)



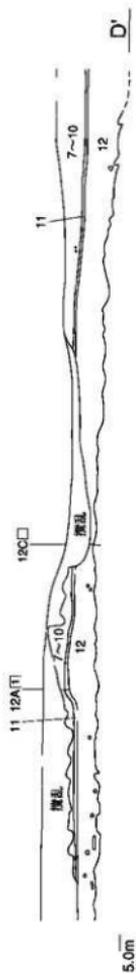
第 3 6 图 2 区東西中央帯北壁断面图 (3)



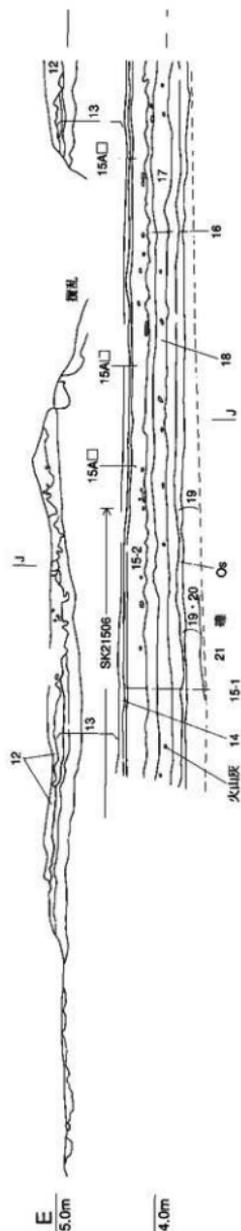
第 40 图 2 区南壁断面图 (3)



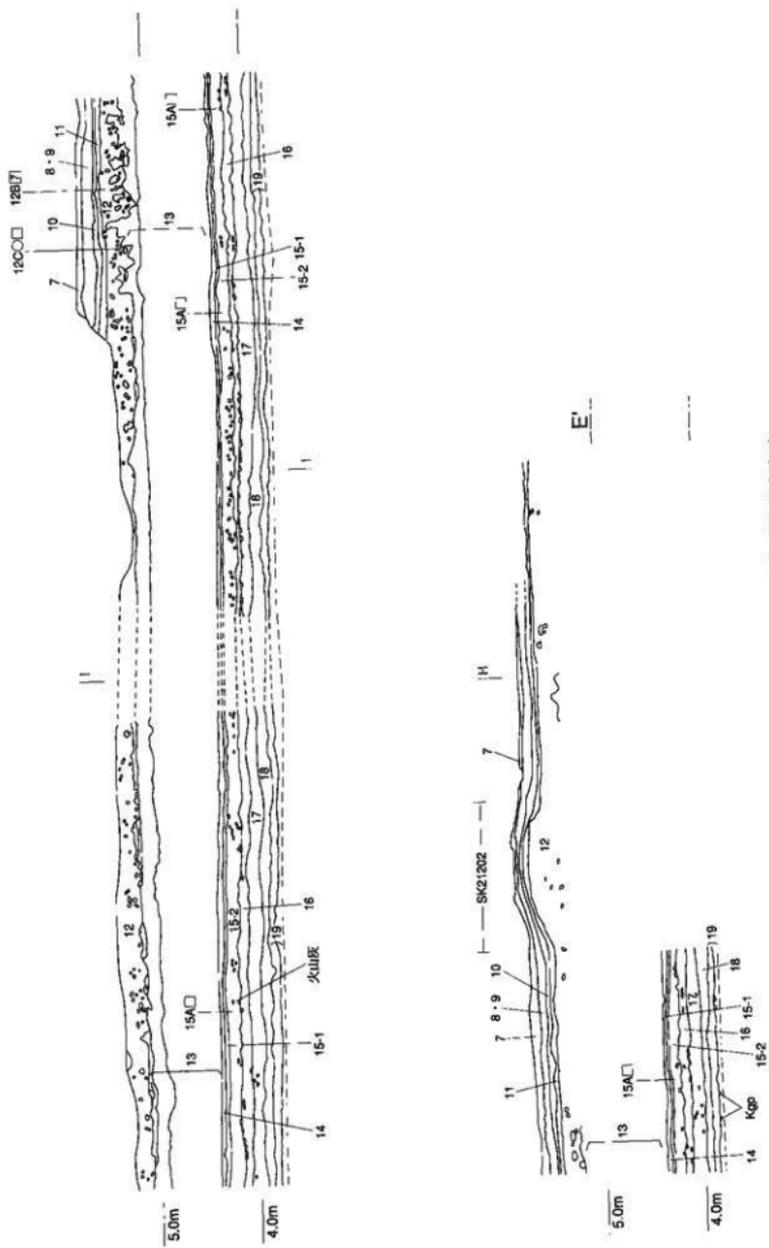
第 4 2 图 2 区西壁断面图 (1)



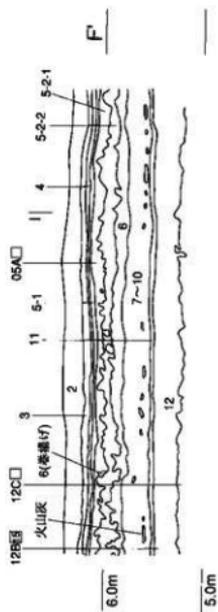
第 4 3 图 2 区西麓断面图 (2)



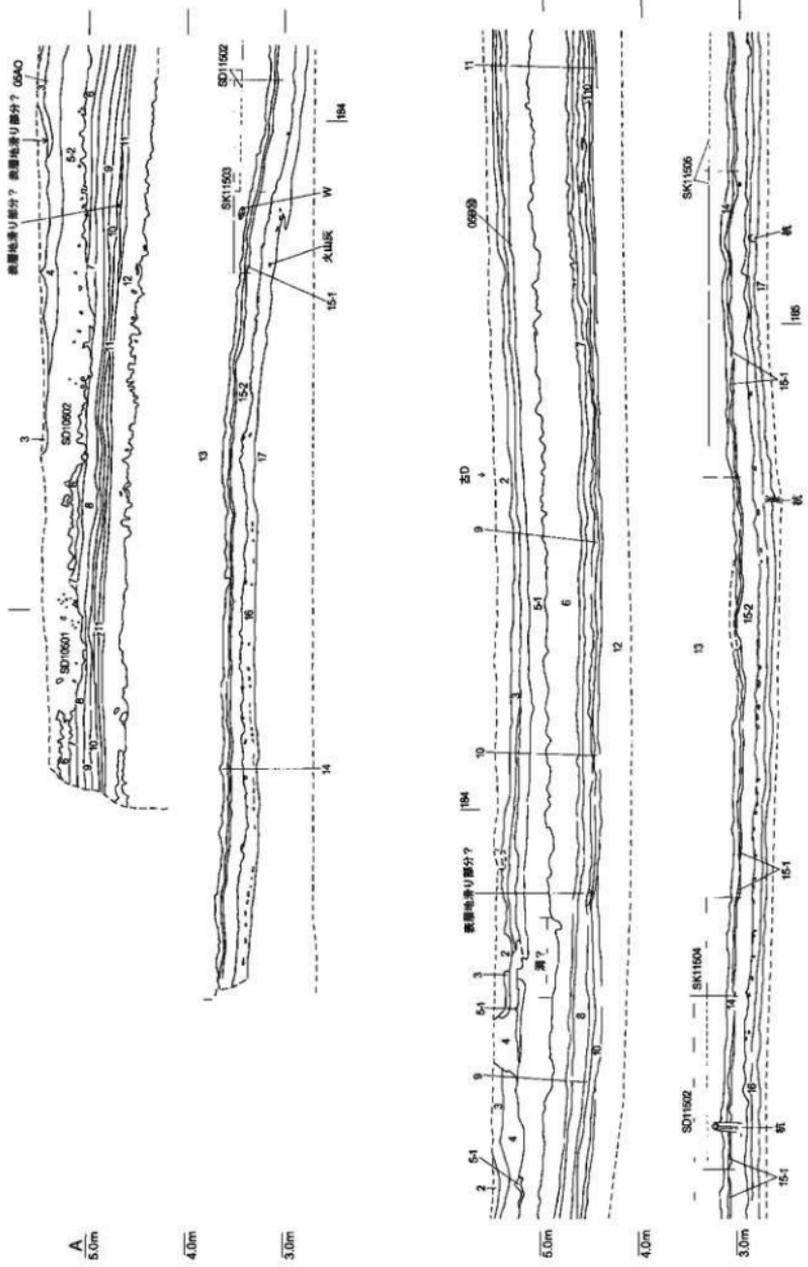
第 4 4 图 2 区南北中央带东麓断面图 (1)



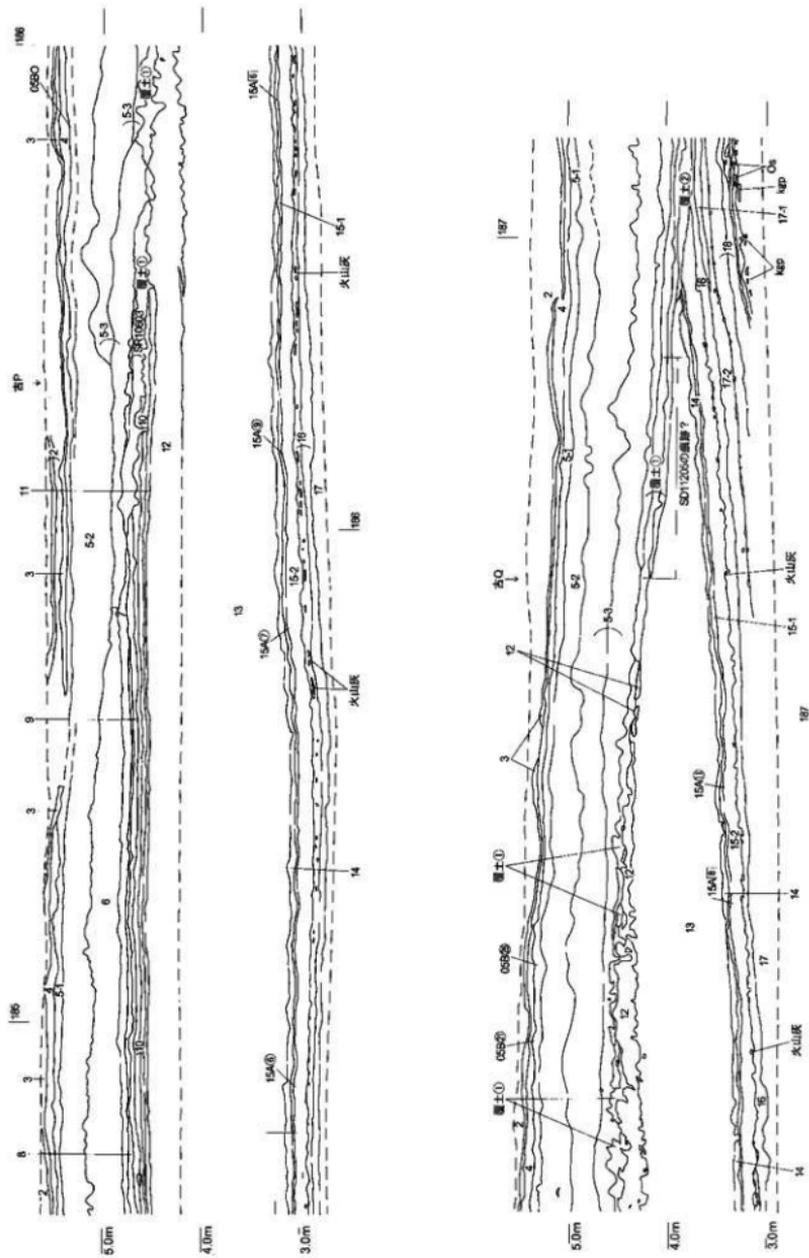
第 4 5 图 2 区南北中央带横断面图 (2)



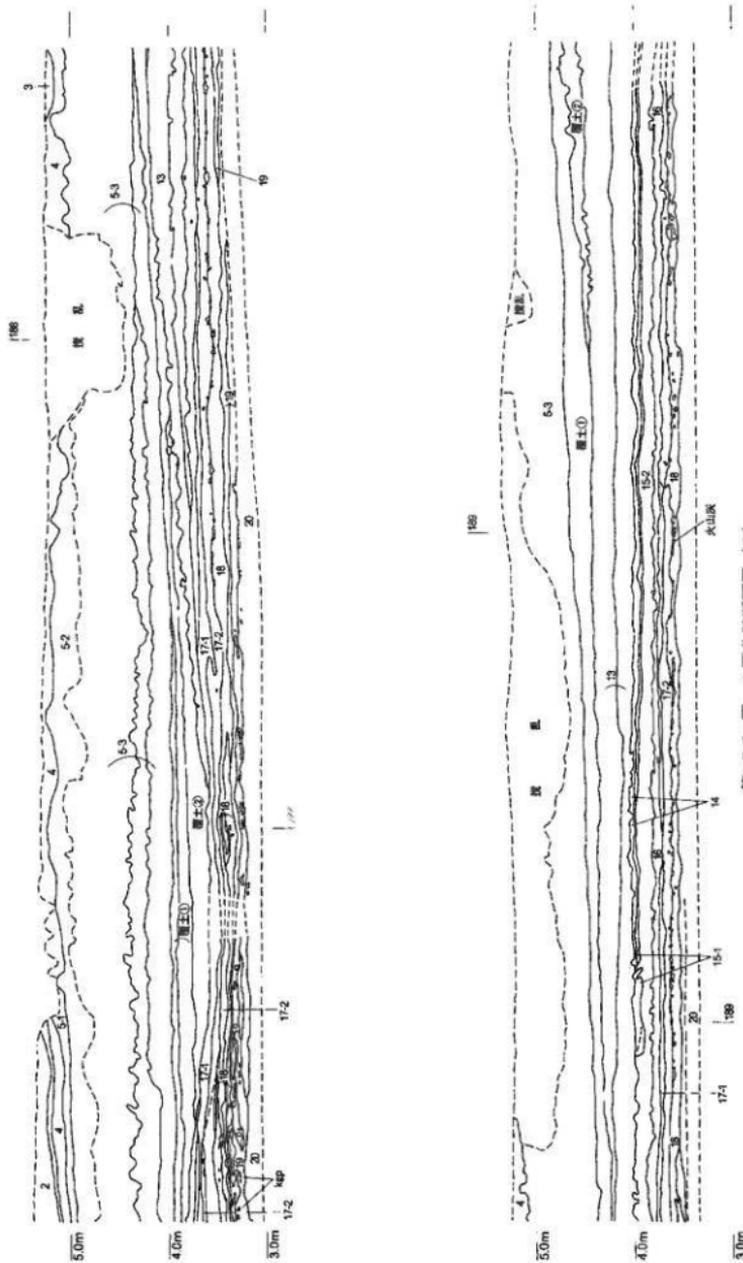
第 4 7 图 2 区東壁断面图 (2)



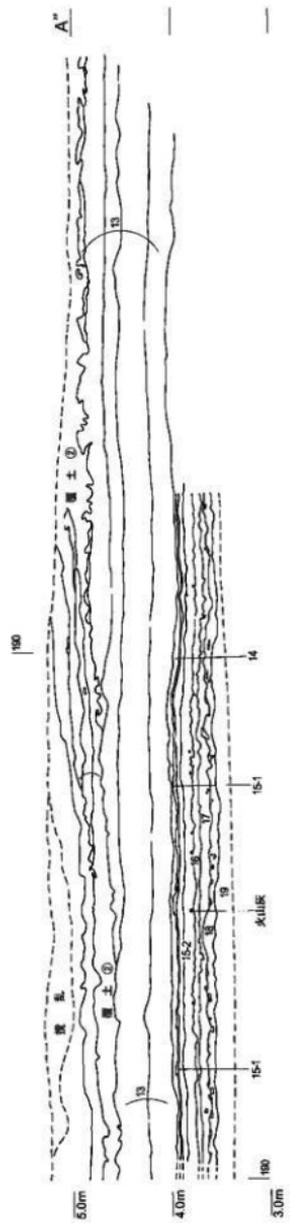
第 4 8 図 1 区北壁断面図 (1)



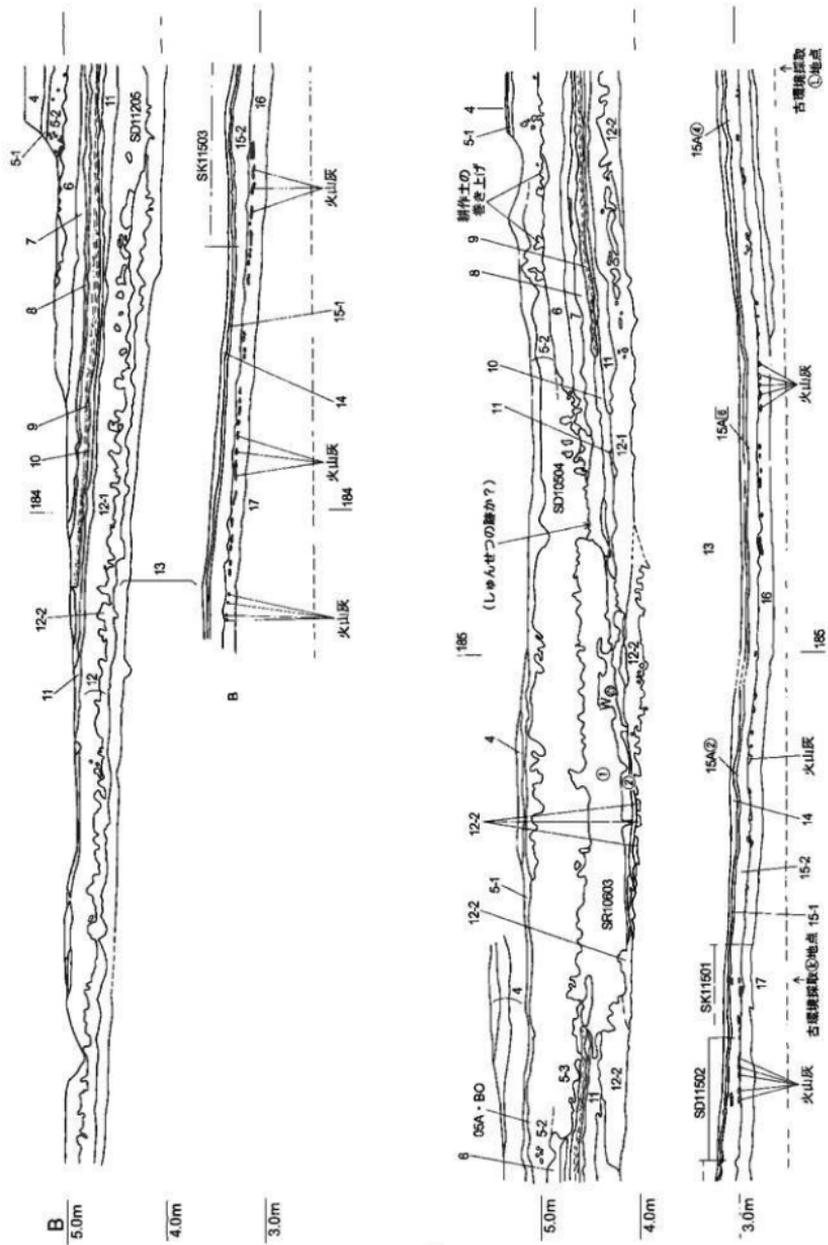
第 49 圖 1 区北壁断面図 (2)



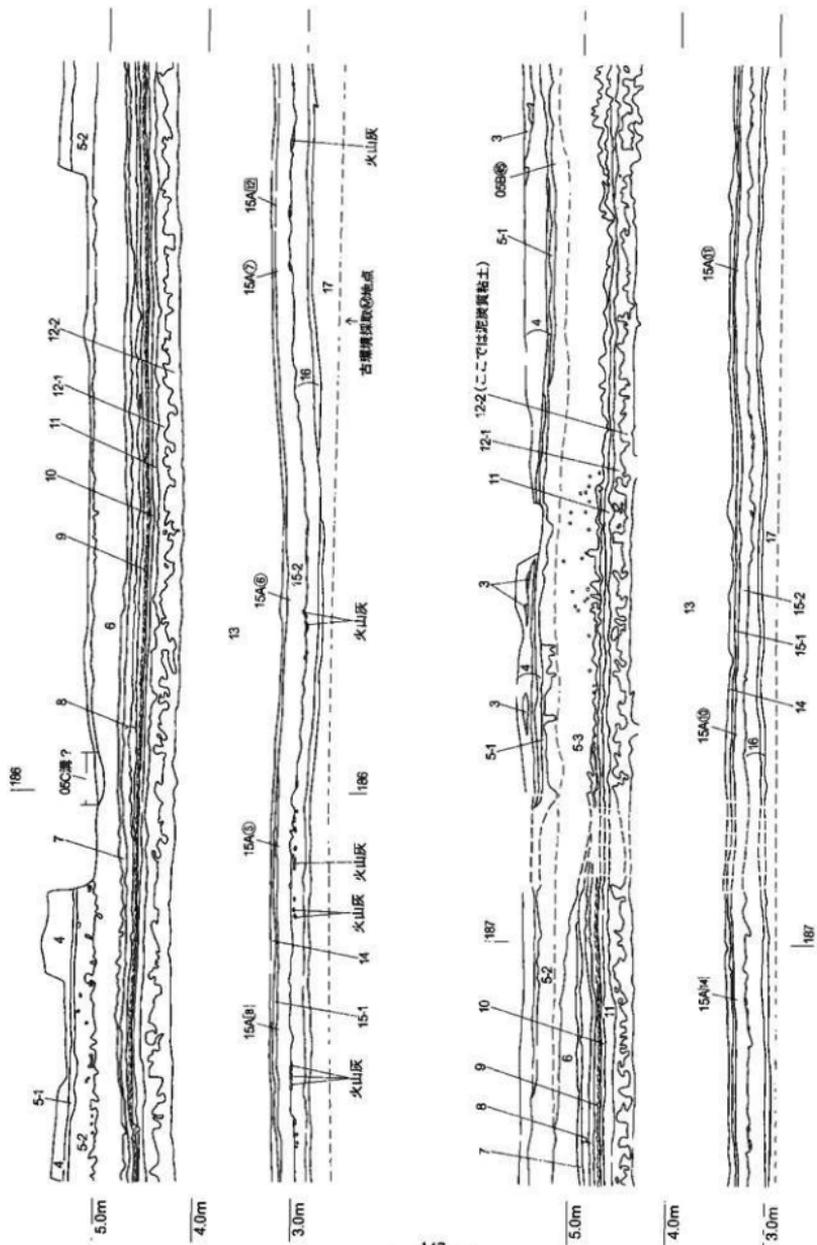
第 50 图 1 区北震断面图 (3)



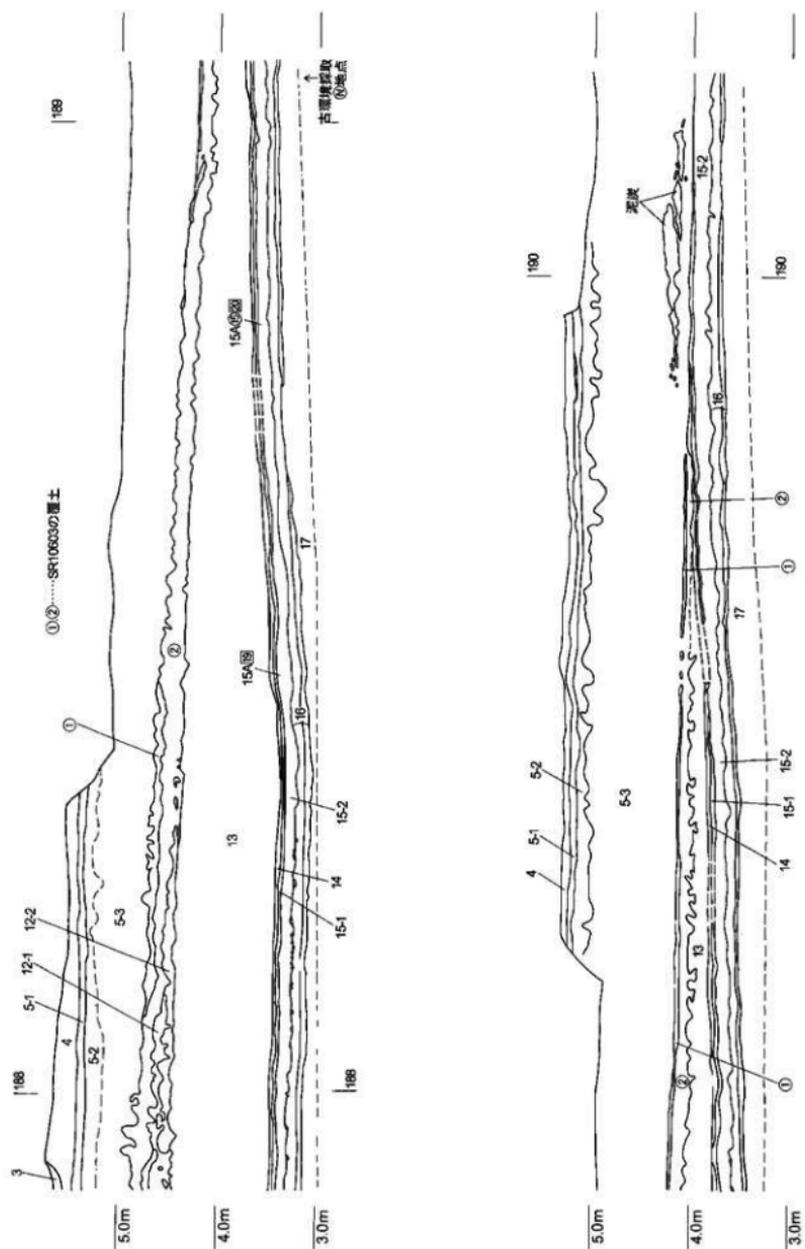
第 5 1 图 1 区北岩断面图 (4)



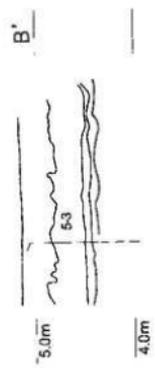
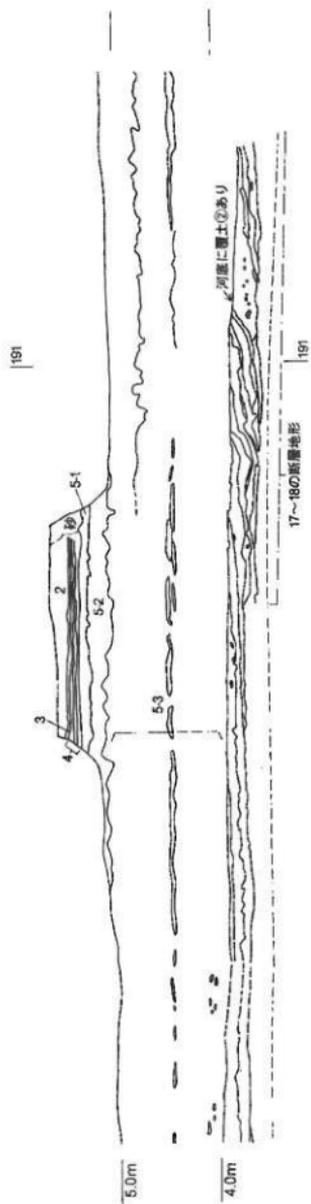
第 5 2 図 1 区東西中央帯北壁断面図 (1)



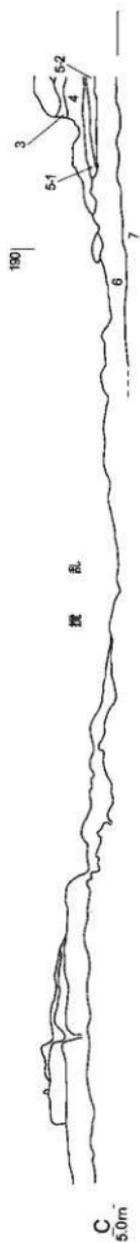
第 5 3 图 1 区東西中央部北壁断面图 (2)



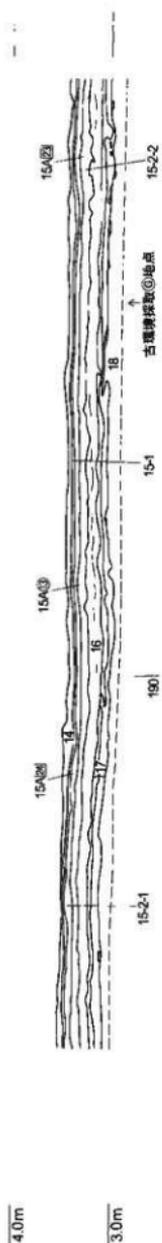
第 5 4 图 1 区東西中央部北壁断面图 (3)



第 5 図 1 区東西中央帯北壁断面図 (4)

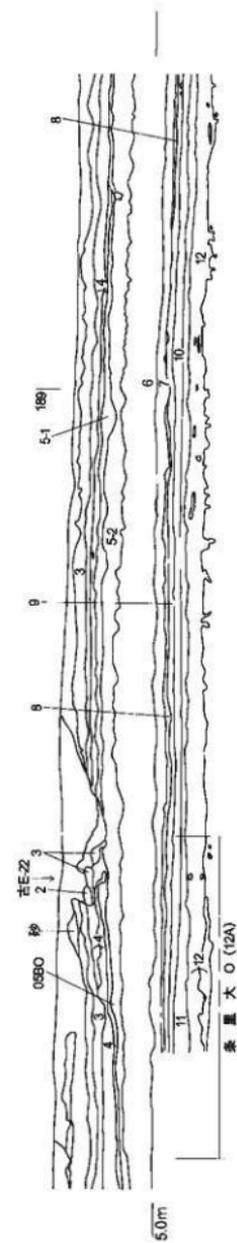


C
5.0m



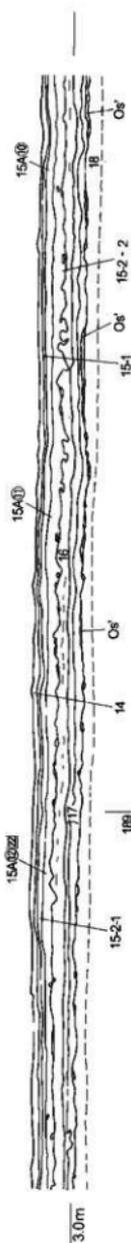
4.0m

3.0m



5.0m

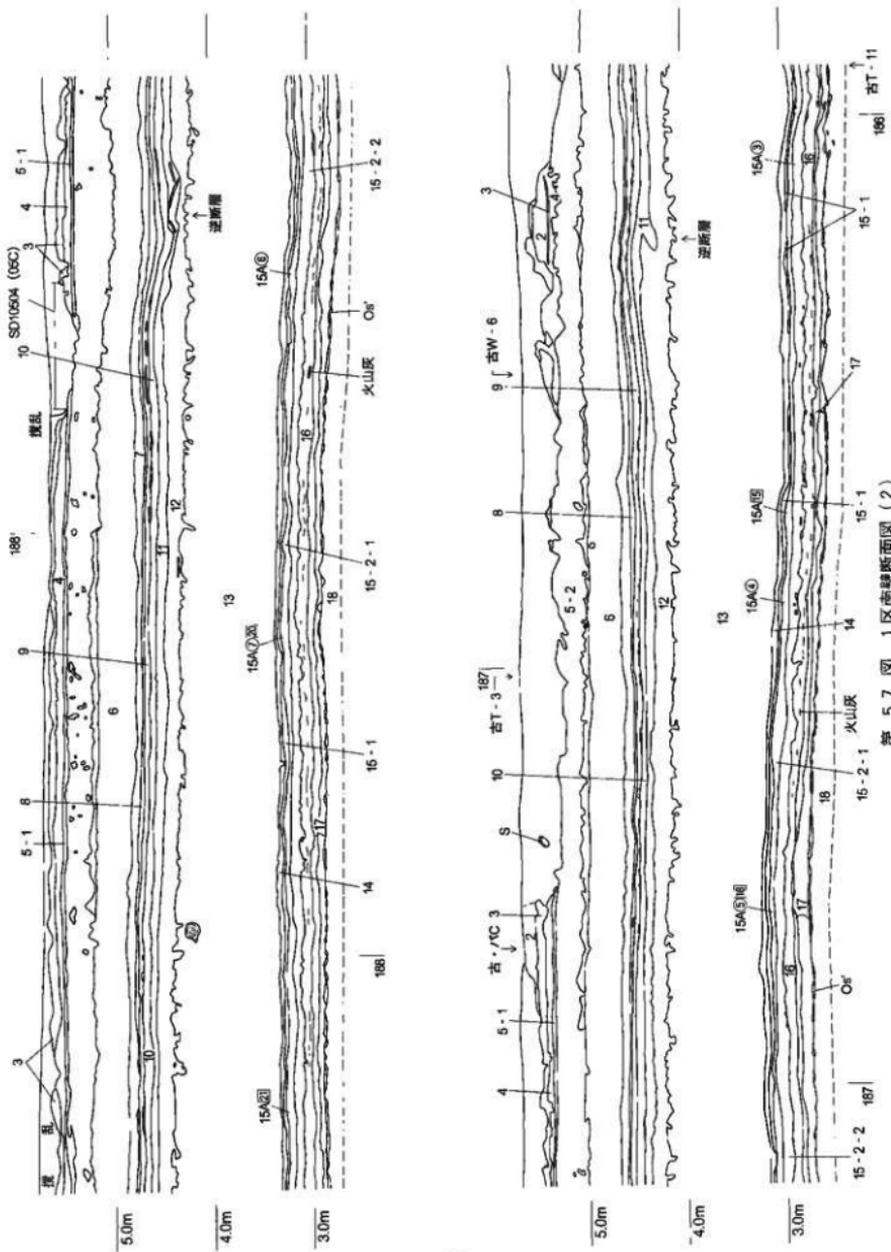
4.0m



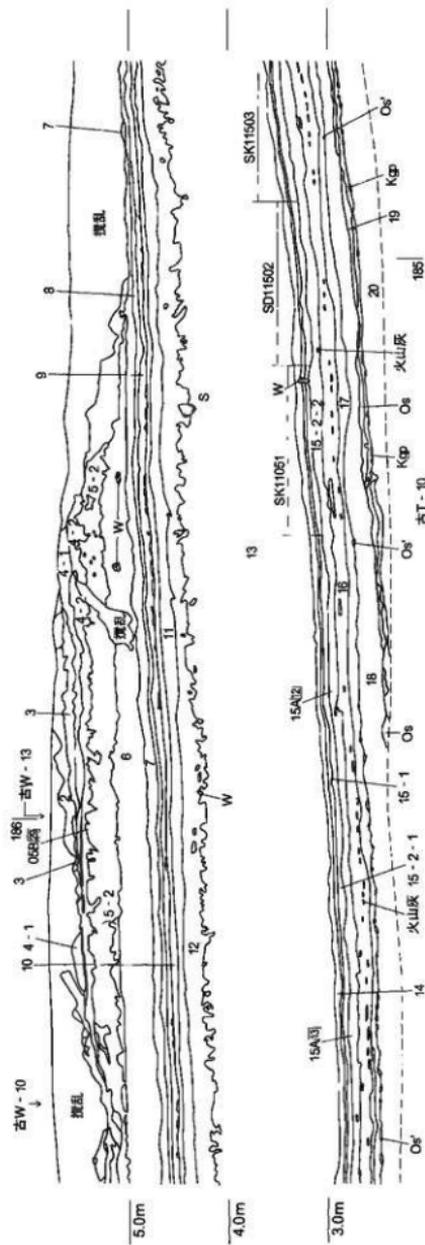
4.0m

3.0m

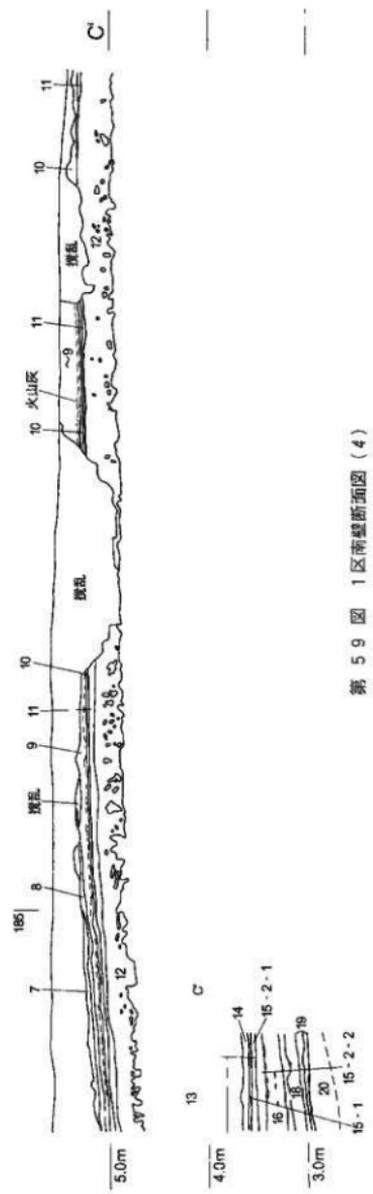
第 56 图 1 区南壁断面图 (1)



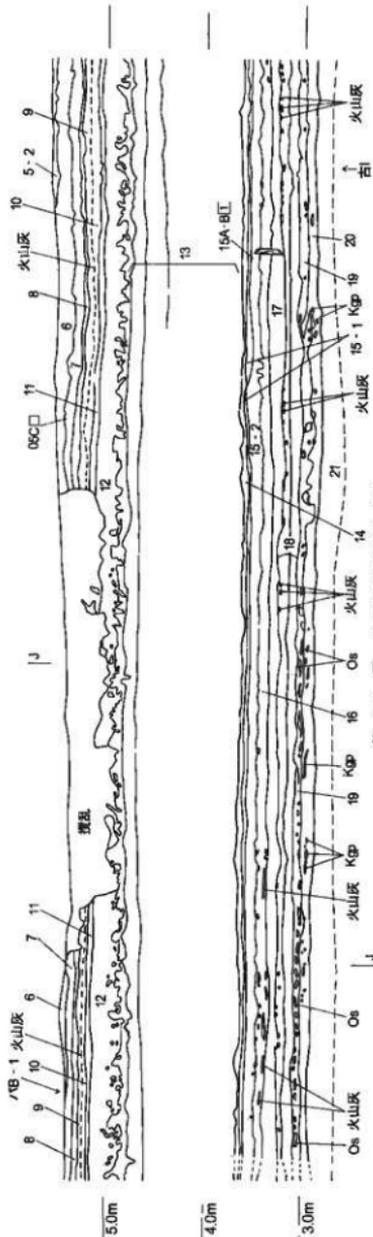
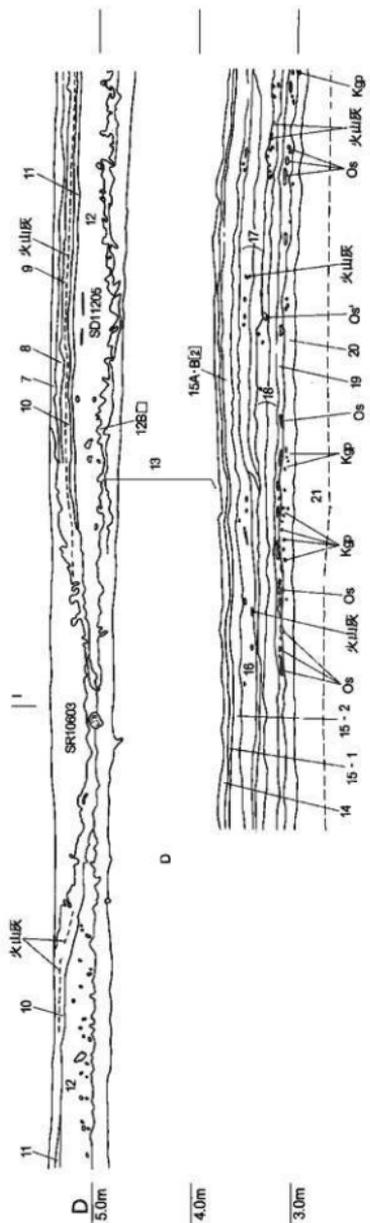
第 5 7 图 1 区南壁断面图 (2)



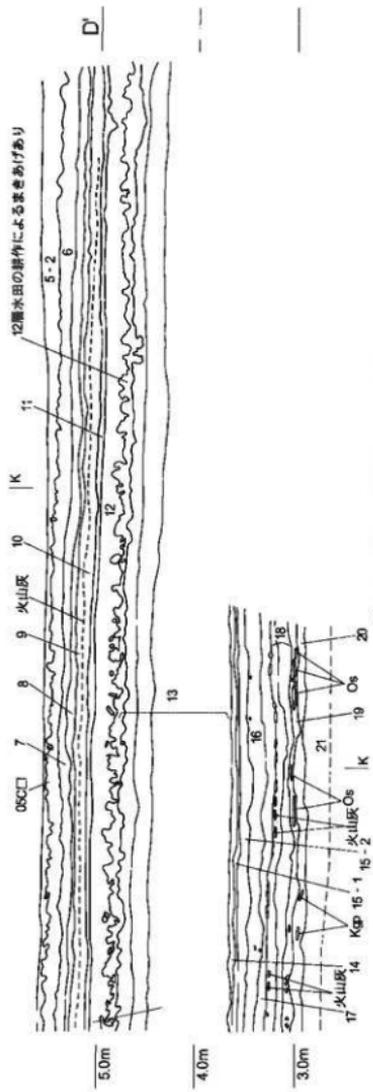
第 58 图 1 区南壁断面图 (3)



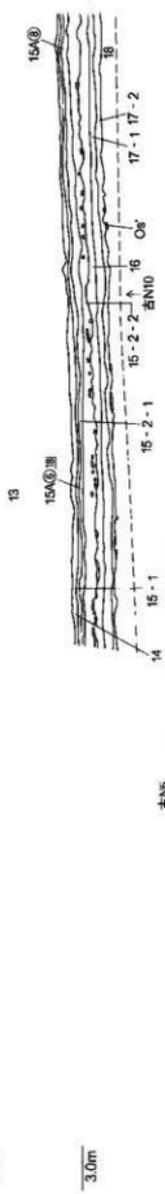
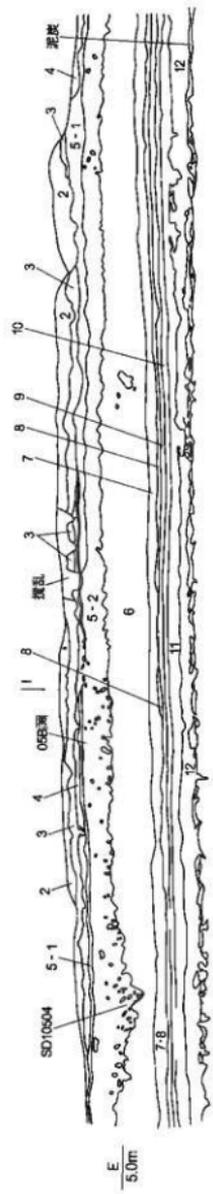
第 59 图 1 区南壁断面图 (4)



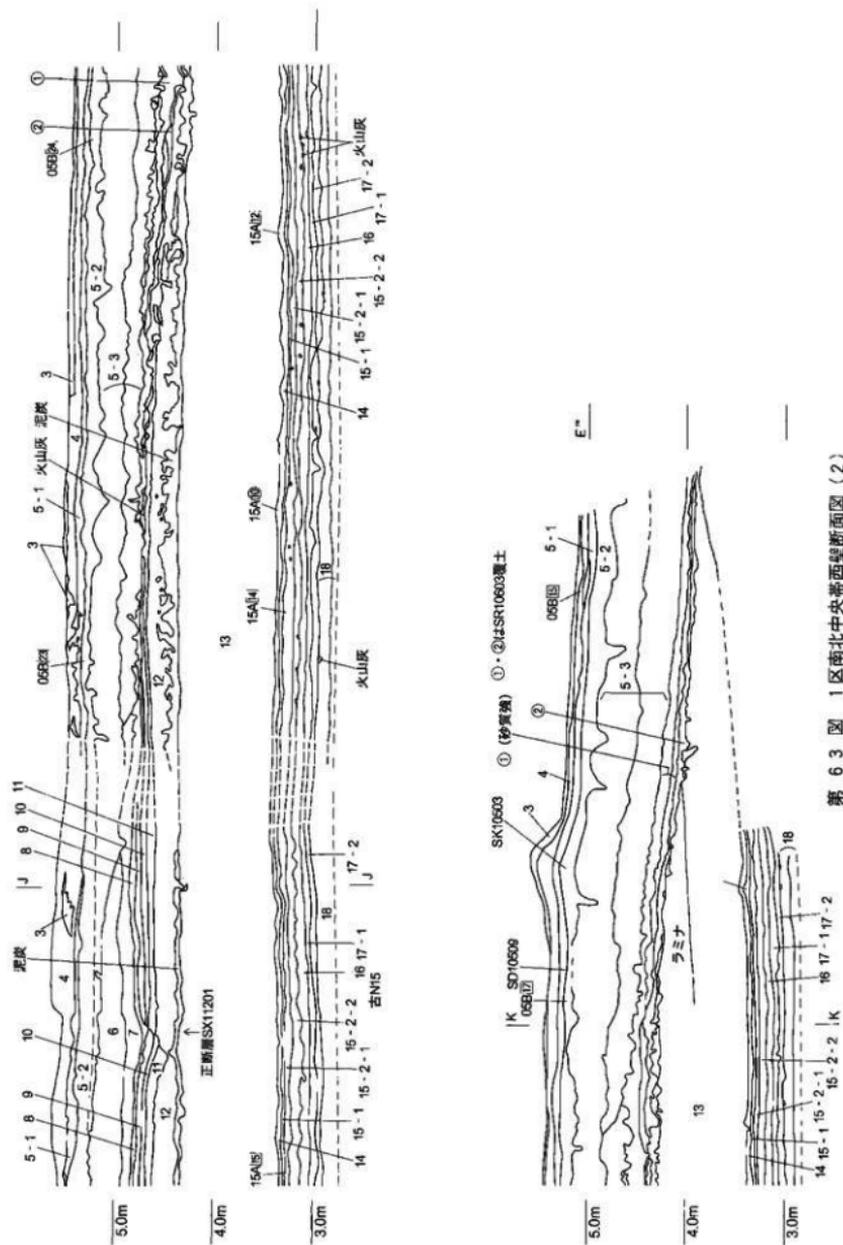
第 60 图 1 区西壁断面图 (1)



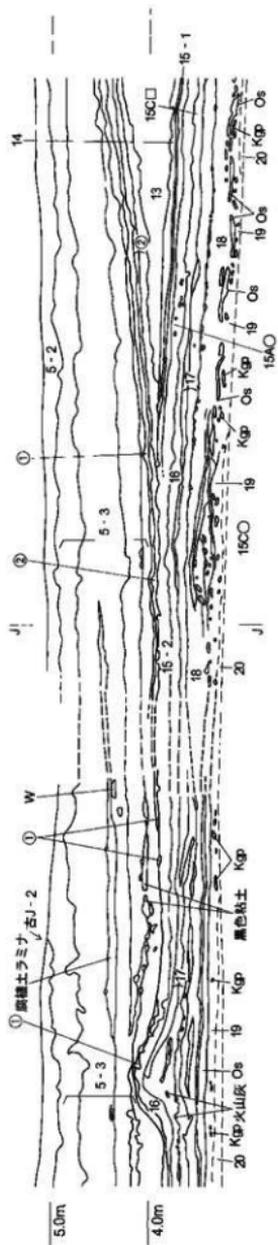
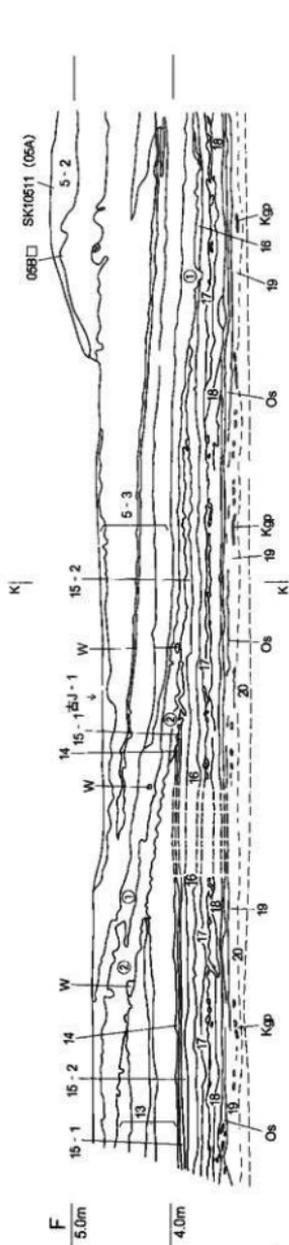
第 6 1 図 1 区西壁断面図 (2)



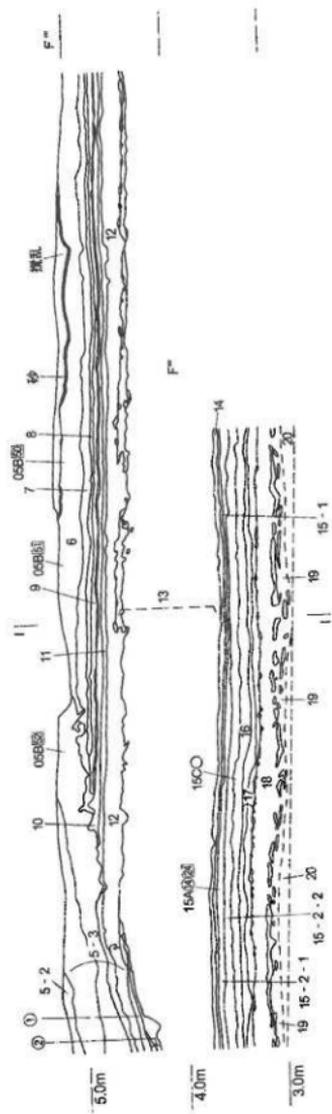
第 6 2 図 1 区南北中央帯西壁断面図 (1)



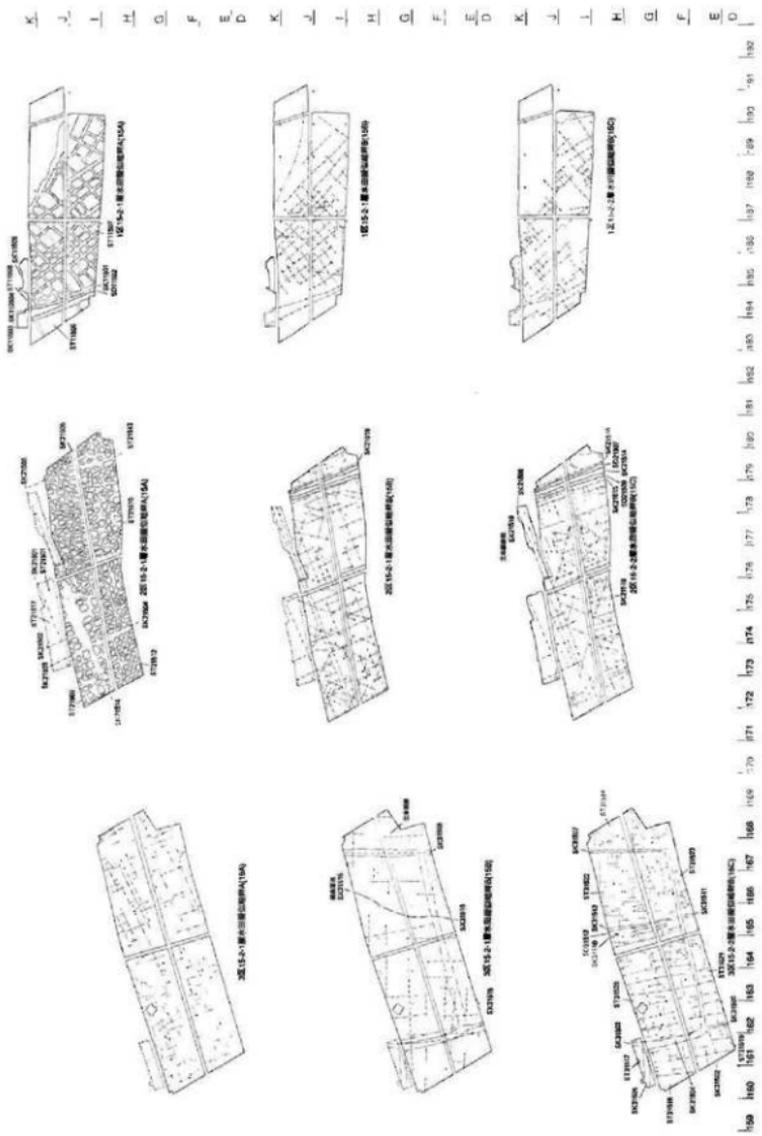
第 6 3 图 1 区南北中央新西壁断面图 (2)



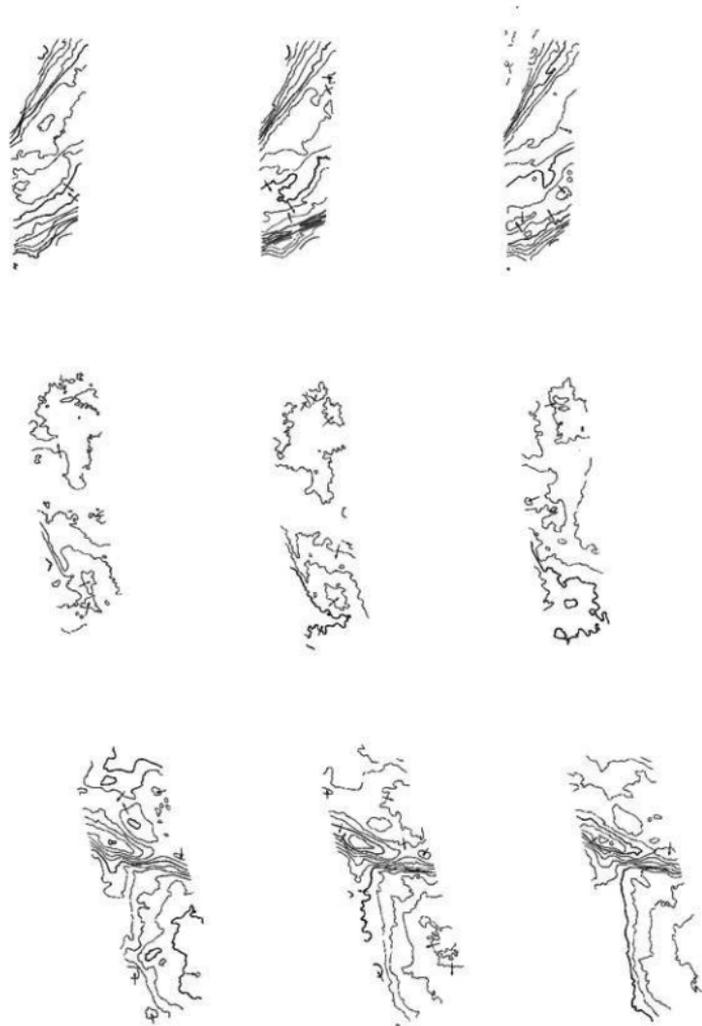
第 6 4 图 1 区東壁断面図 (1)



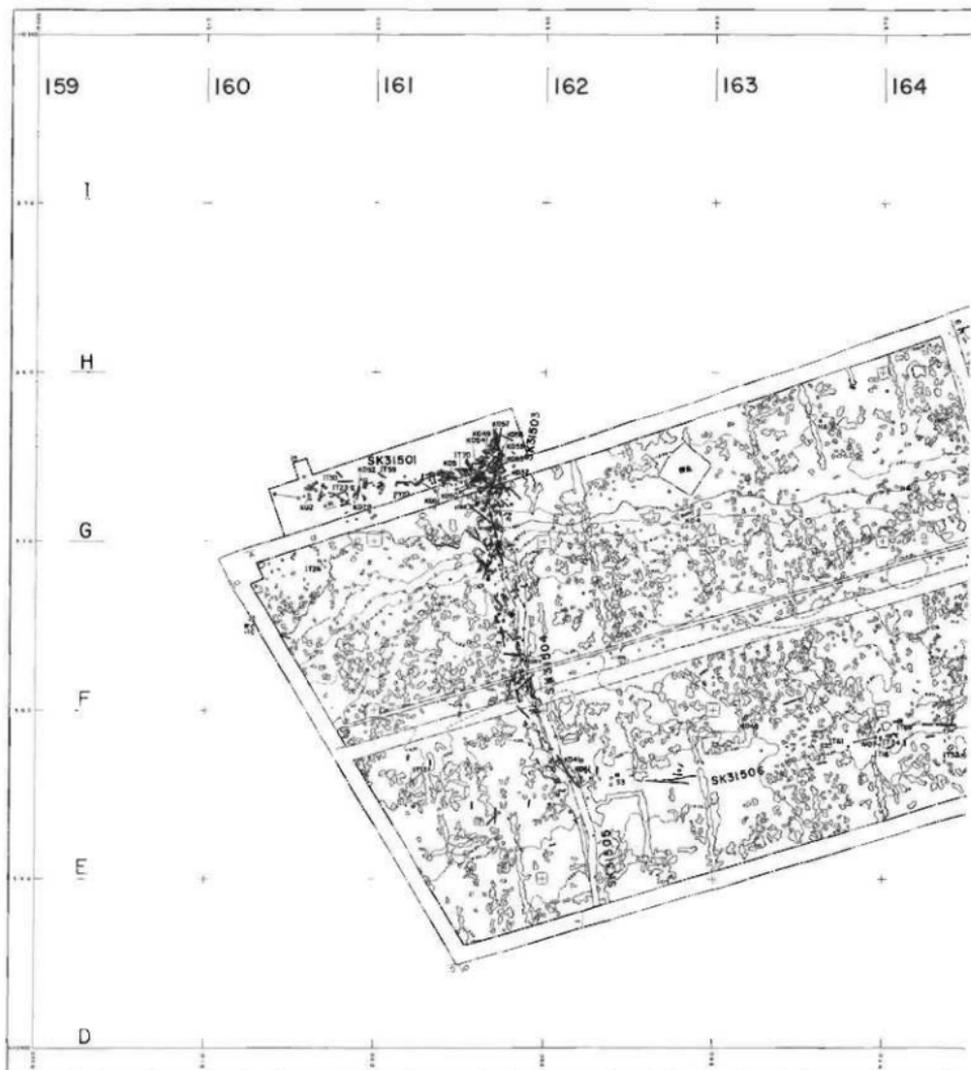
第 6 5 图 1 区横断面图 (2)

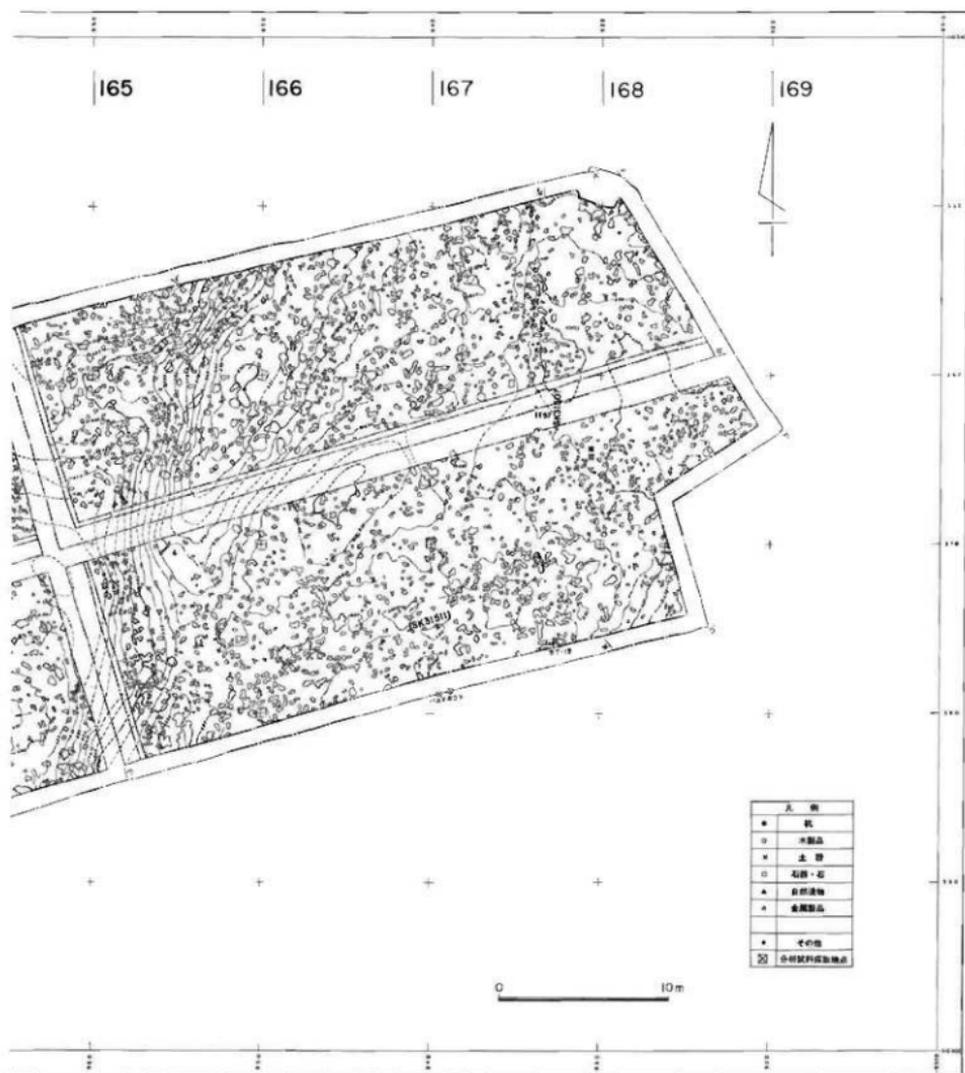


第 6 图 1 5 层水塔结构变透图

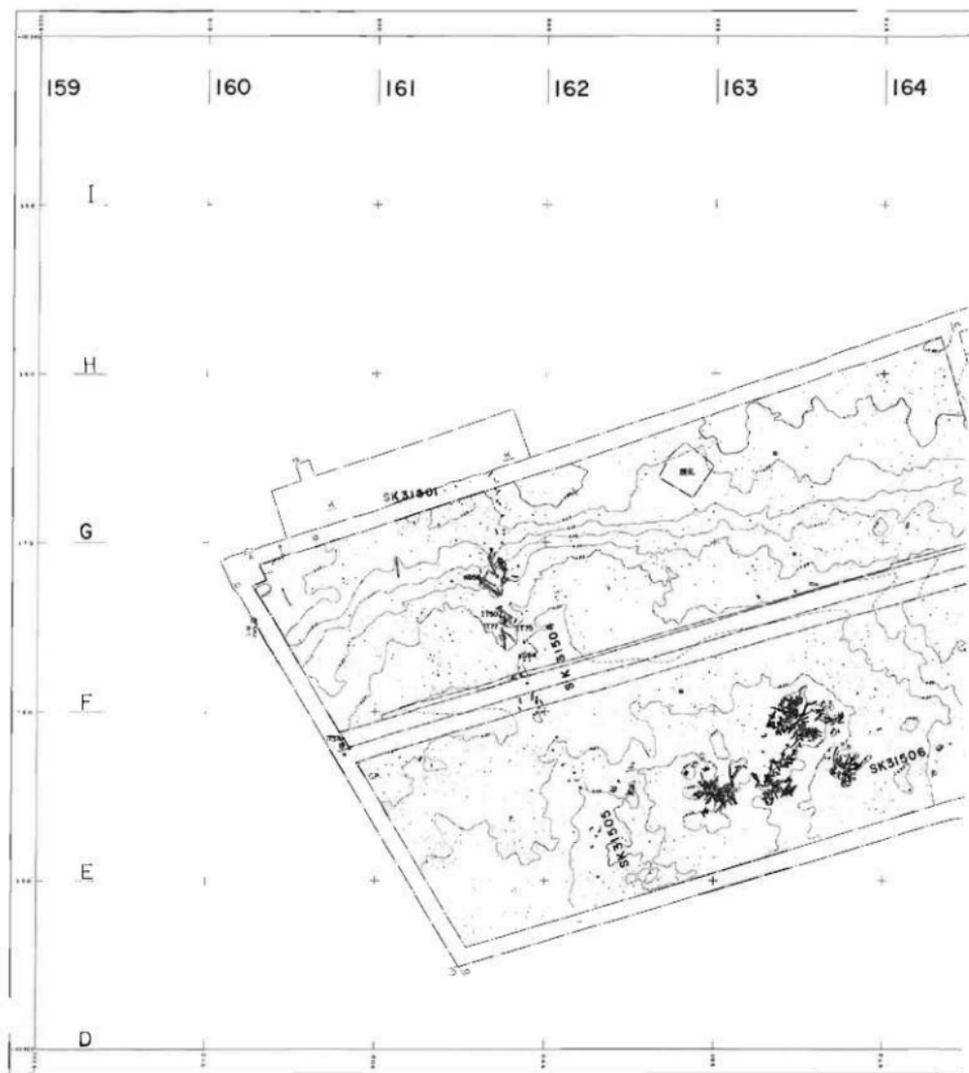


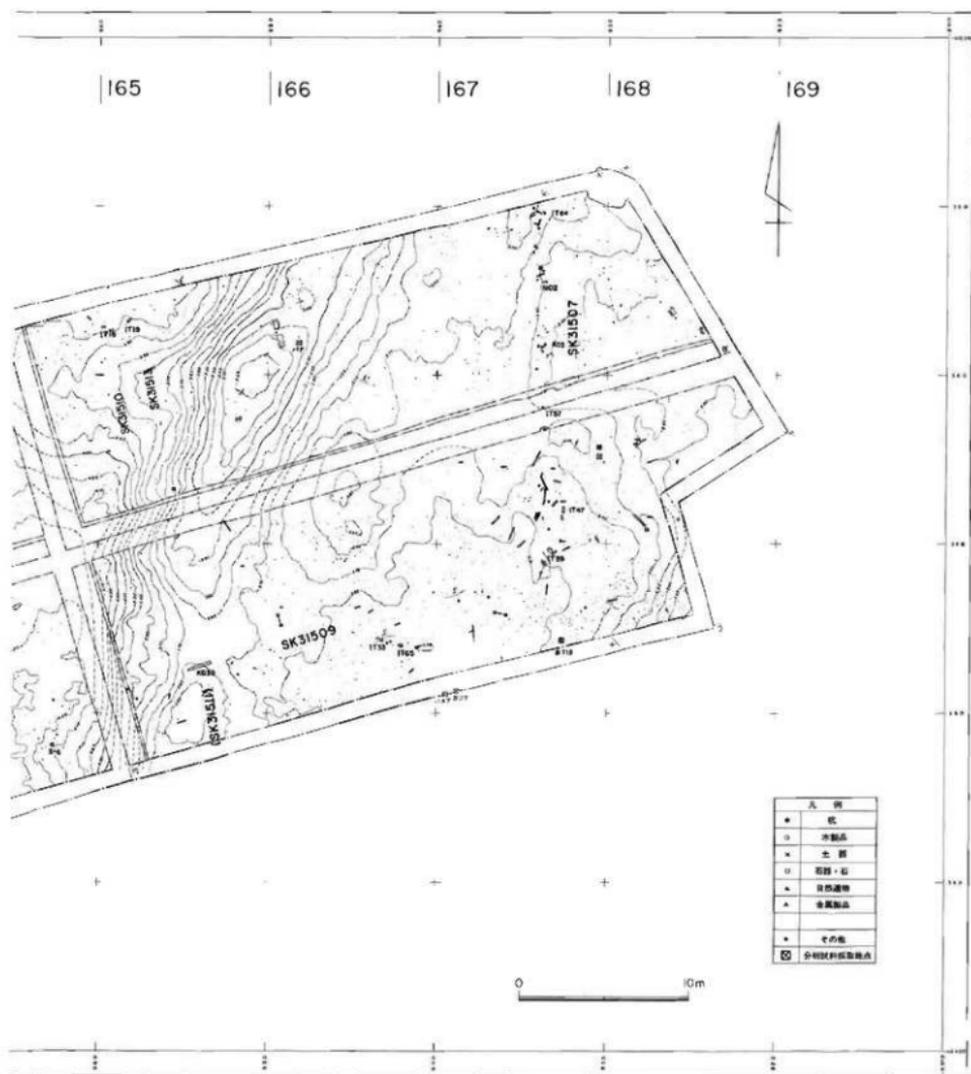
第 67 图 15 層水田地形起伏變遷圖



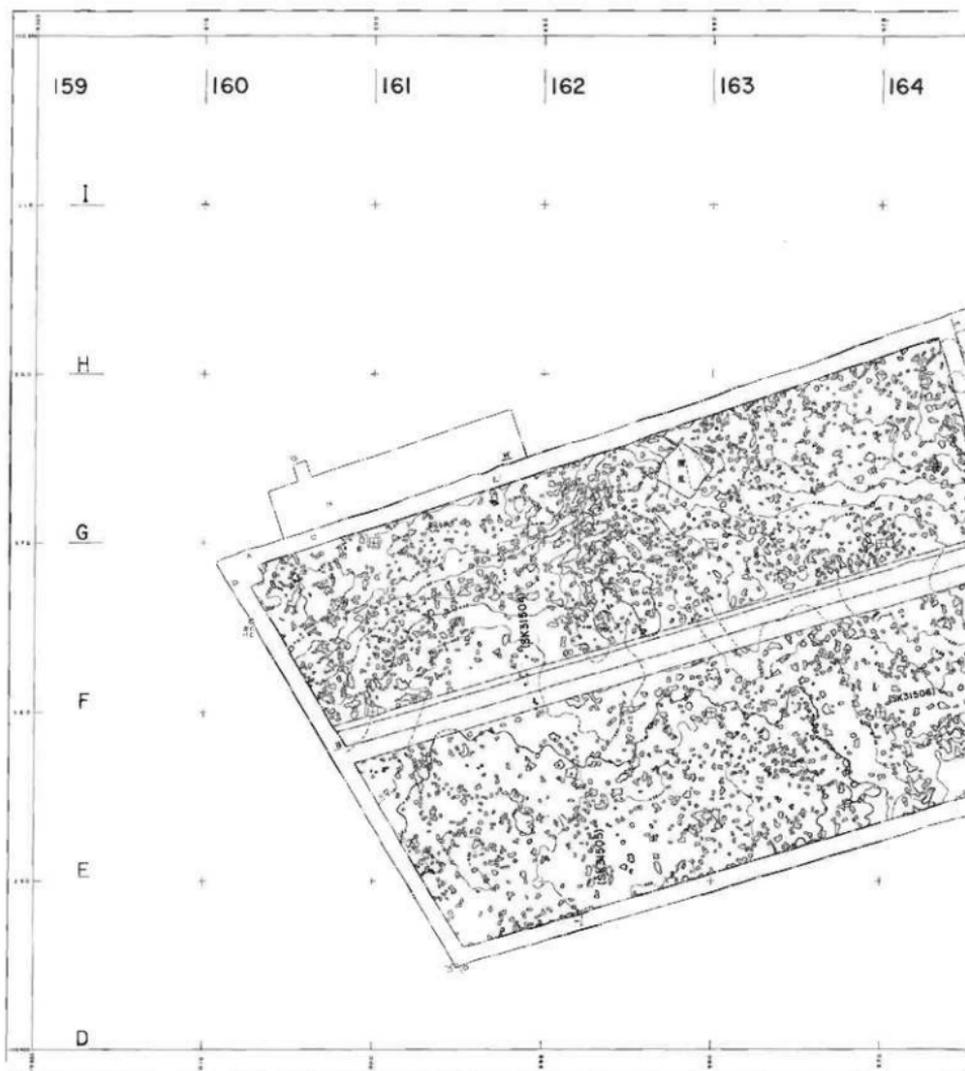


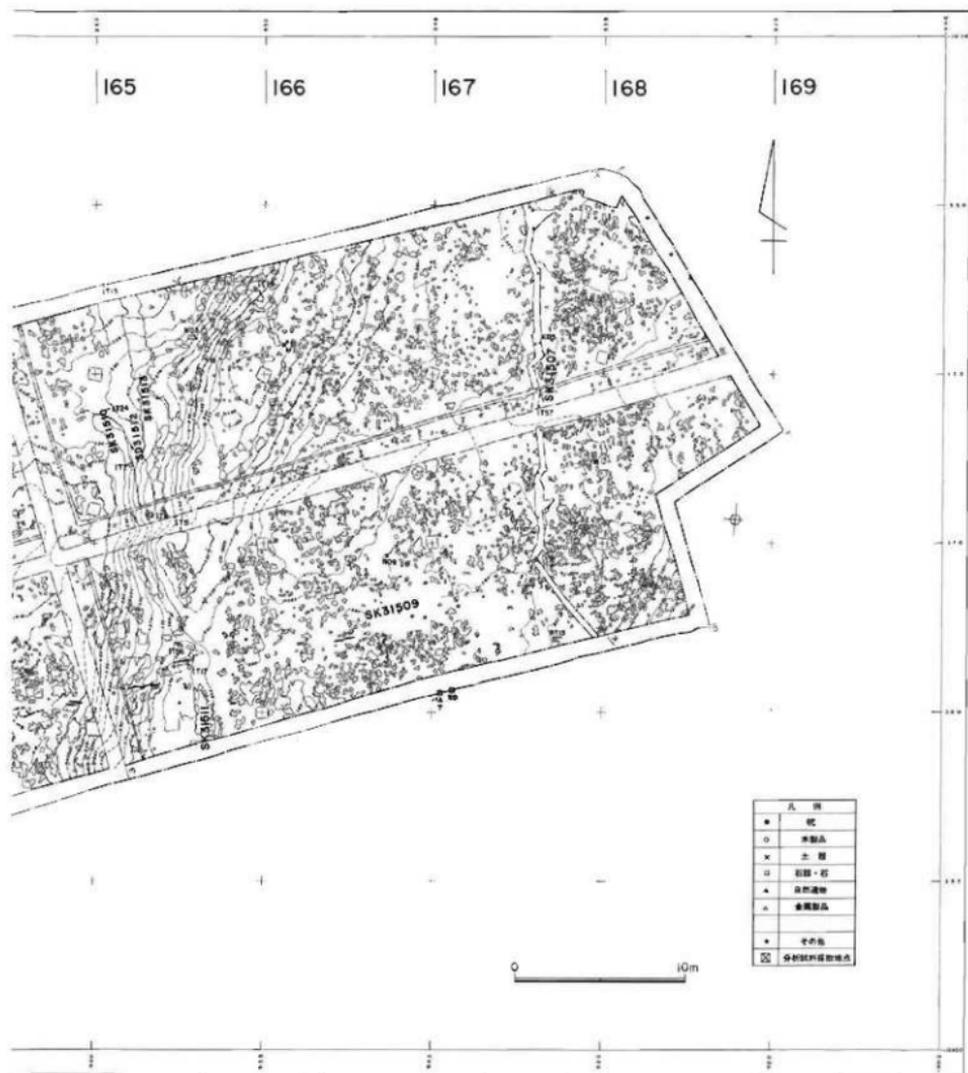
第 68 図 3区15-2-1番水田(15A)全体図



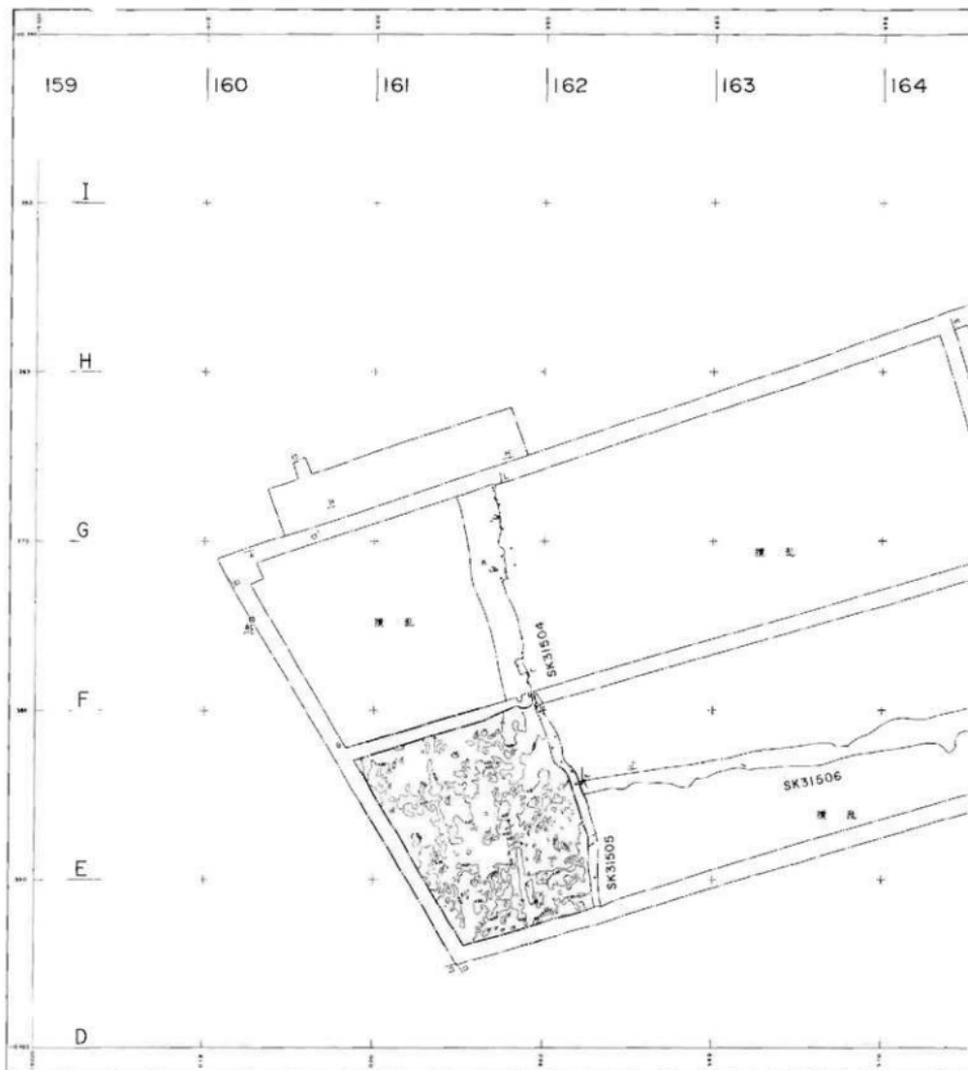


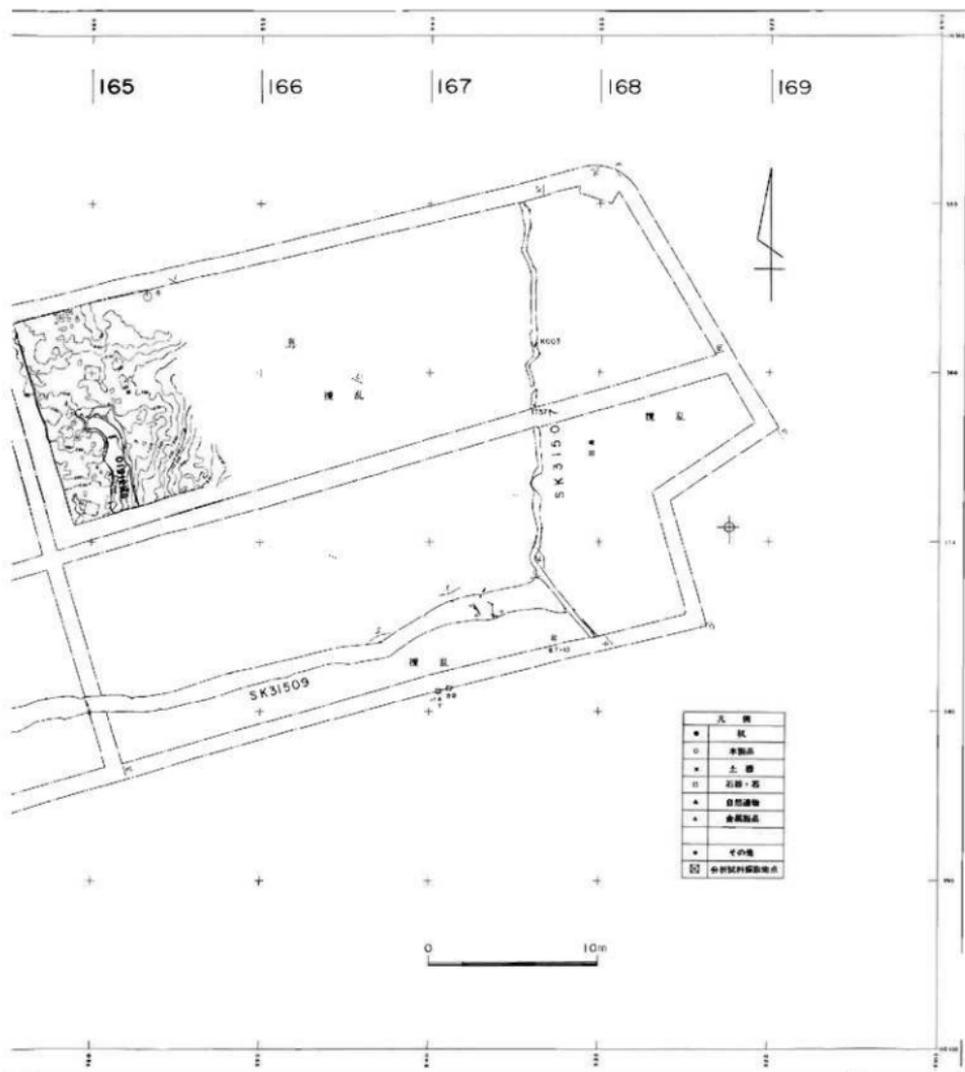
第 69 図 3区15-2-1 罾水田 (15B) 全体図



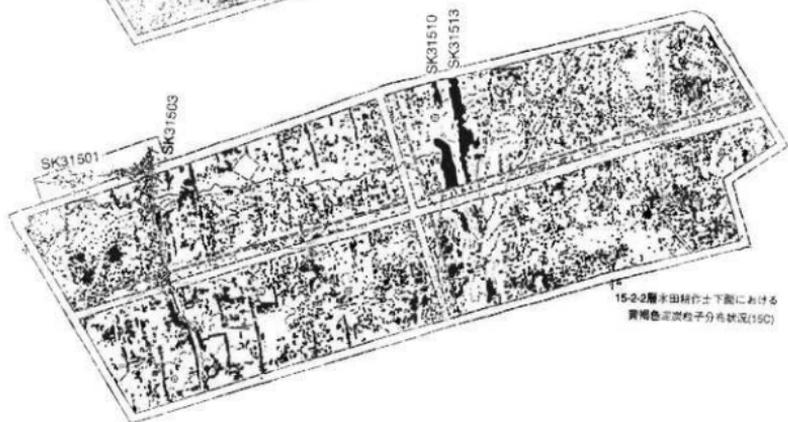
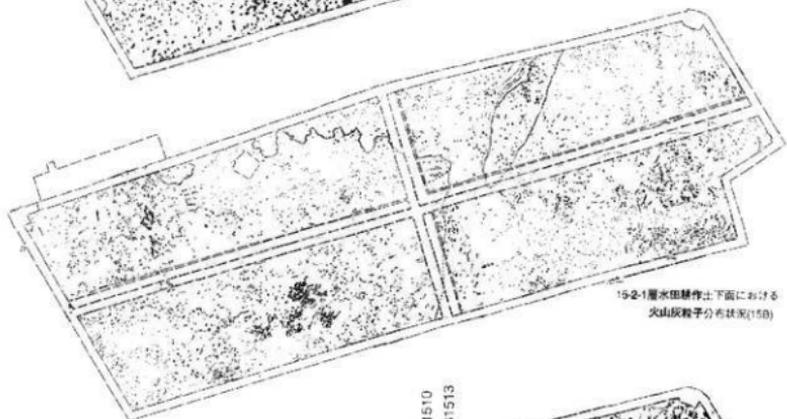
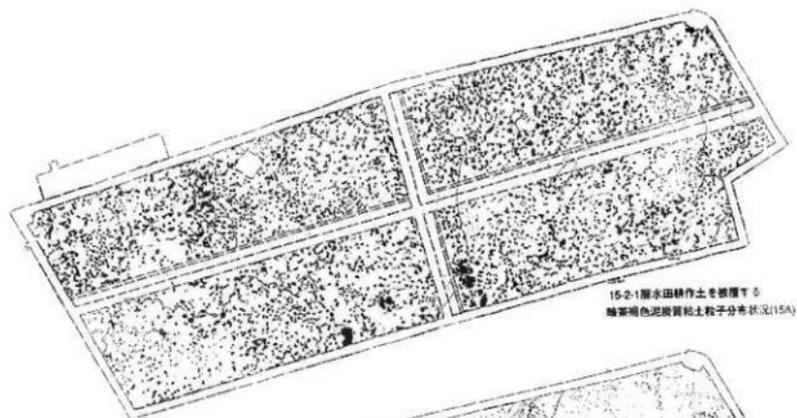


第70图 3区15-2-2層水田(15C)全体图

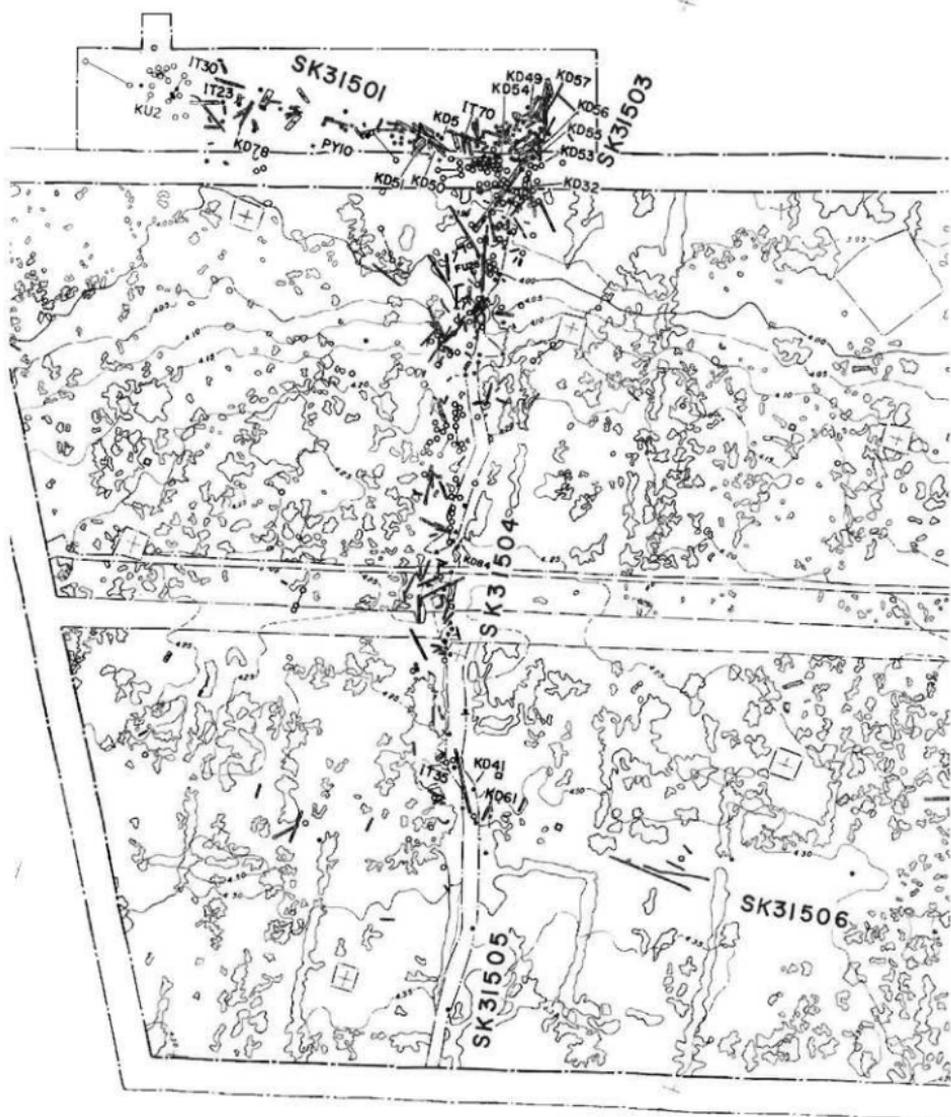




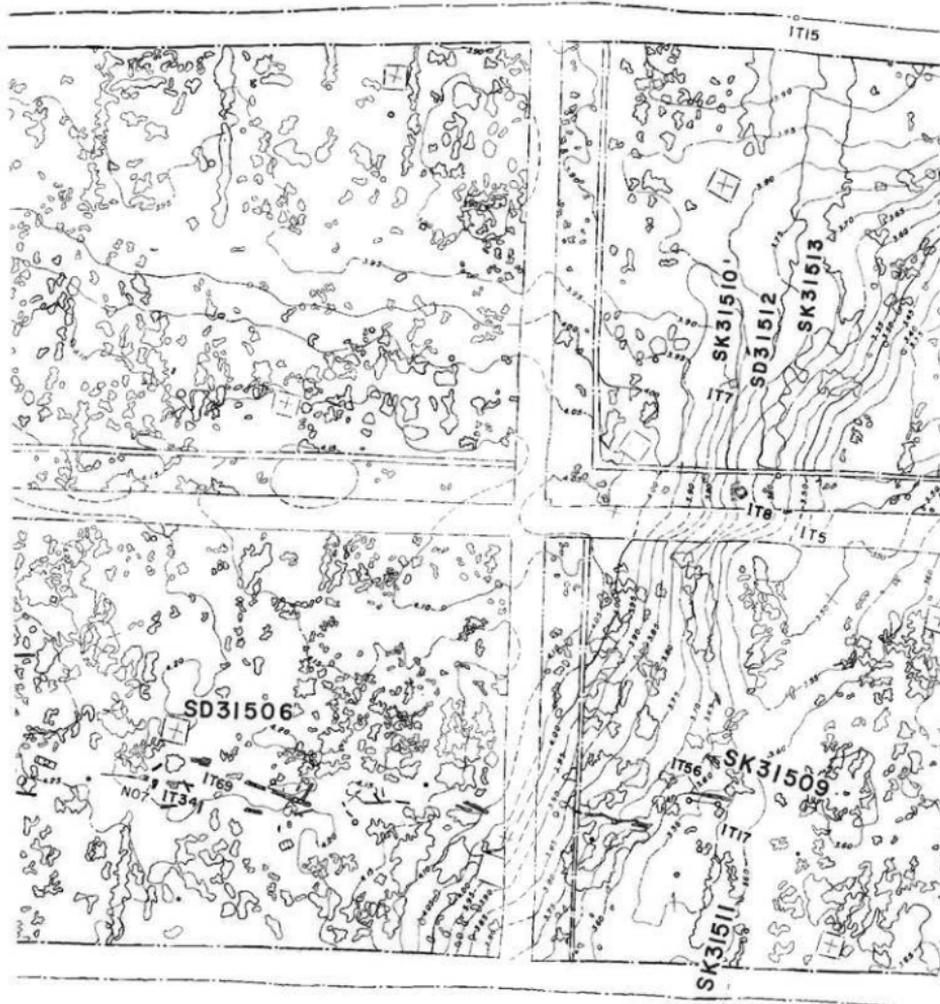
第 7 1 図 3区 15-2-2層水田 (15D) 全体区



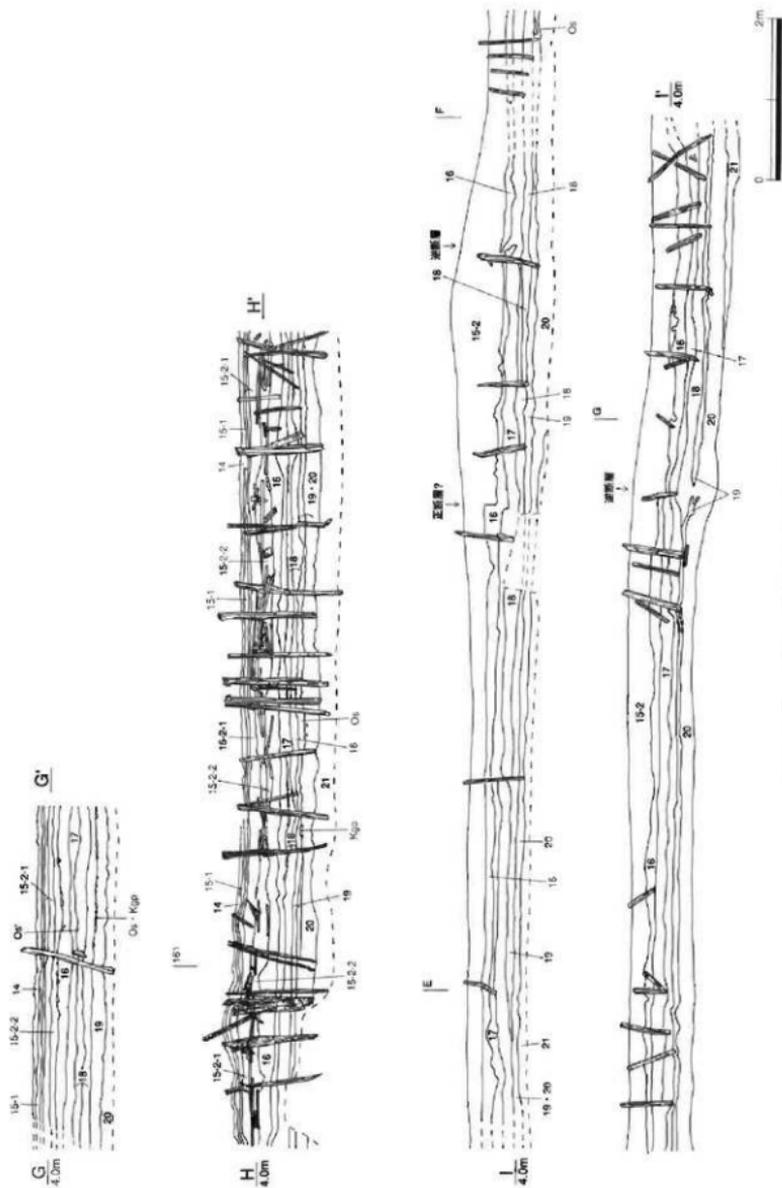
第 7 2 図 3 区 1 5 層水田検出状況



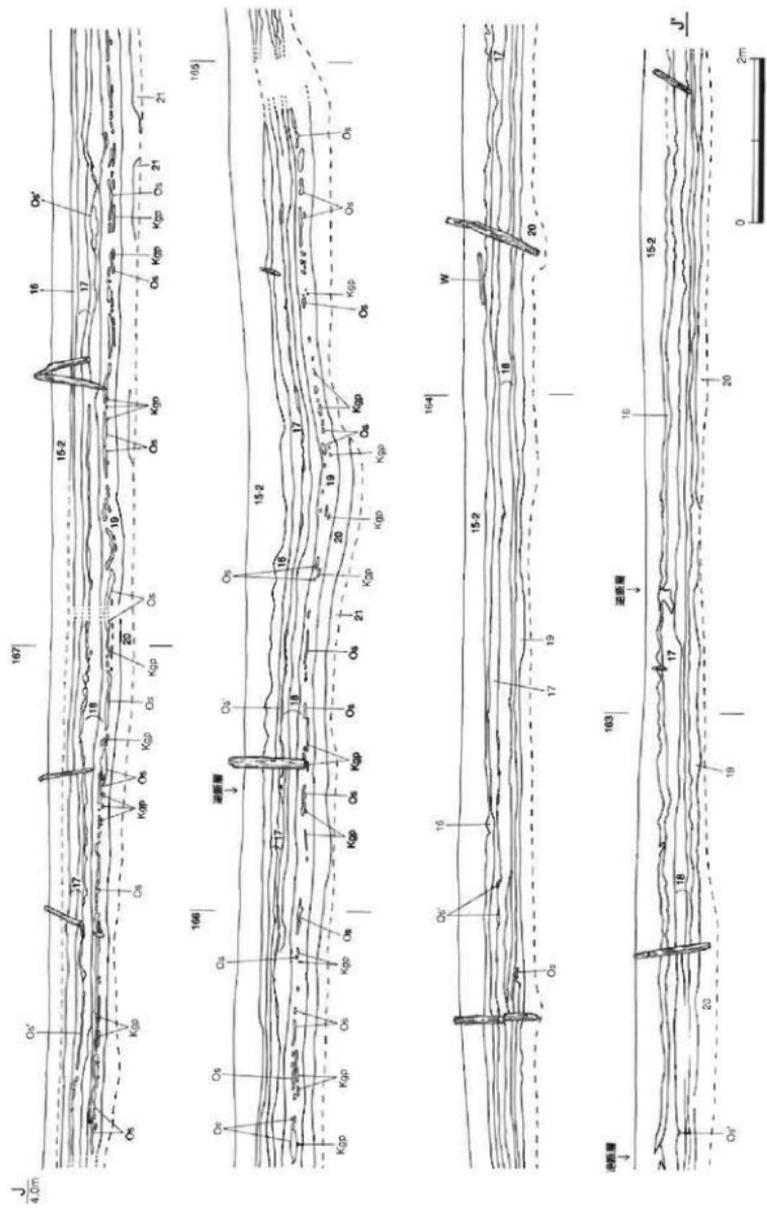
第 73 图 3区15-2-2层水田(15C)杭列大畦群集中部平面图



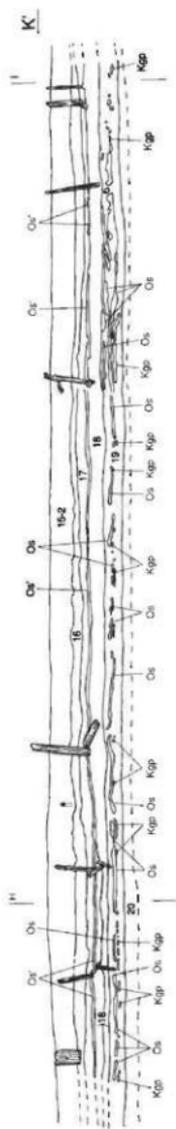
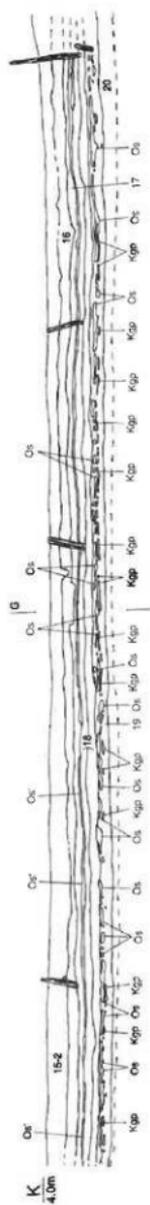
第 7 4 図 3区15-2-2層水田(15C) 盛土大戦畔と杭列大陸群交差部付近平面図



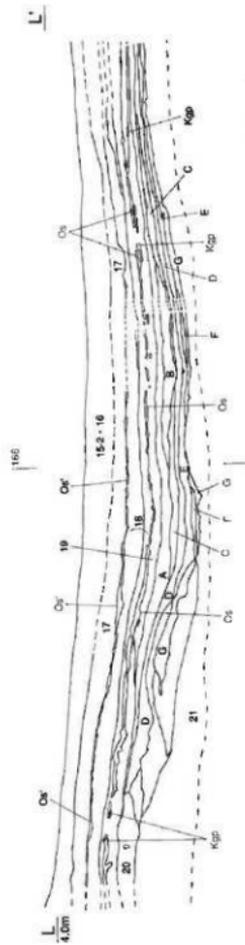
第 7 5 图 3 区 1 5 层 杭 列 大 陆 断 面 (1)



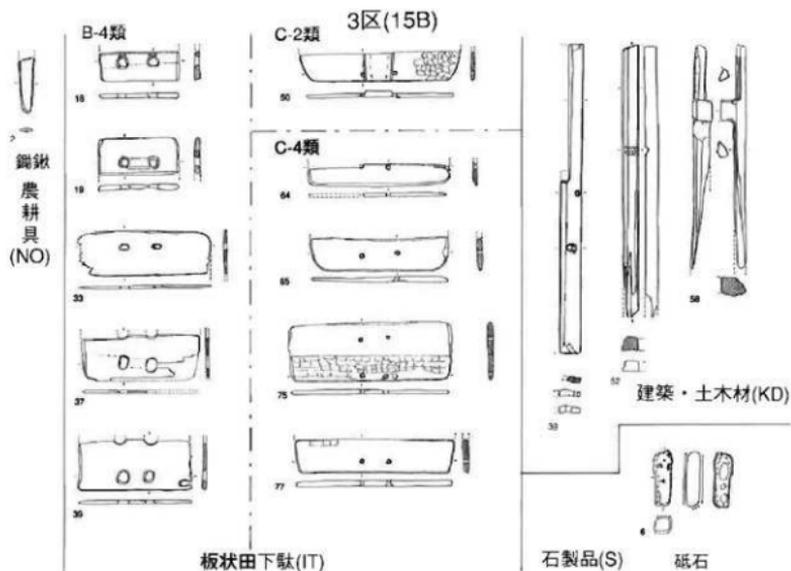
第 7 6 图 3 区 15 层枕列大鞋形剖面图 (2)



第 77 图 3 区 15 层机列大柱断面图 (3)

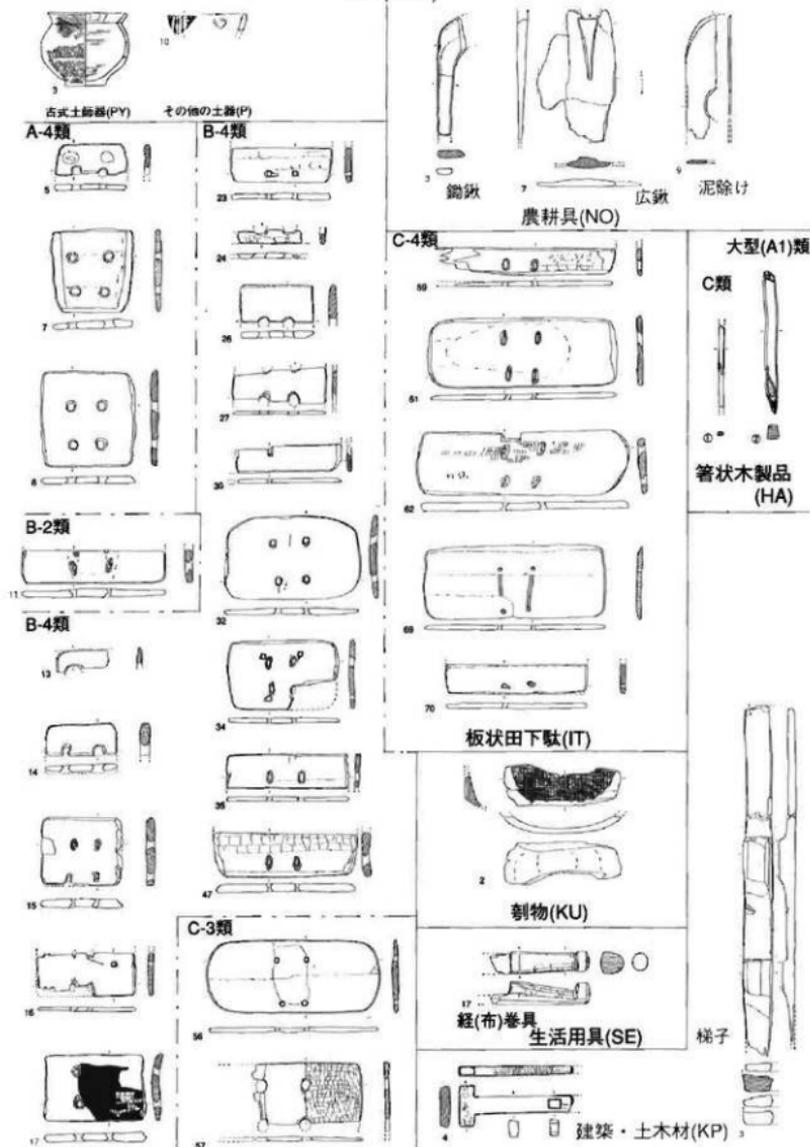


第 78 图 3 区 15 层机列大柱断面图 (4) 15 层横曲成横断面图

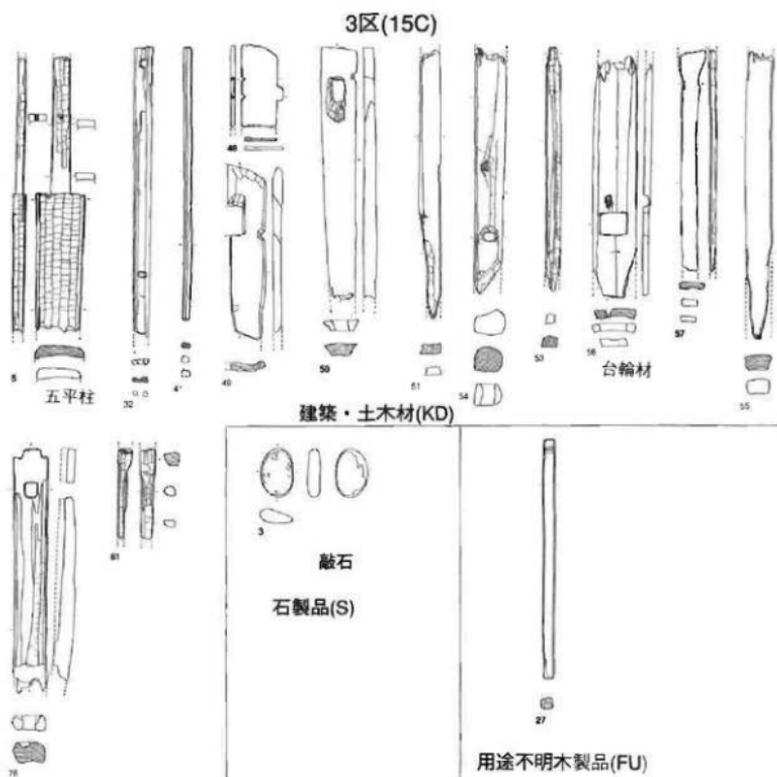


第 79 図 3区15-2-1層水田(15B)出土遺物集成図

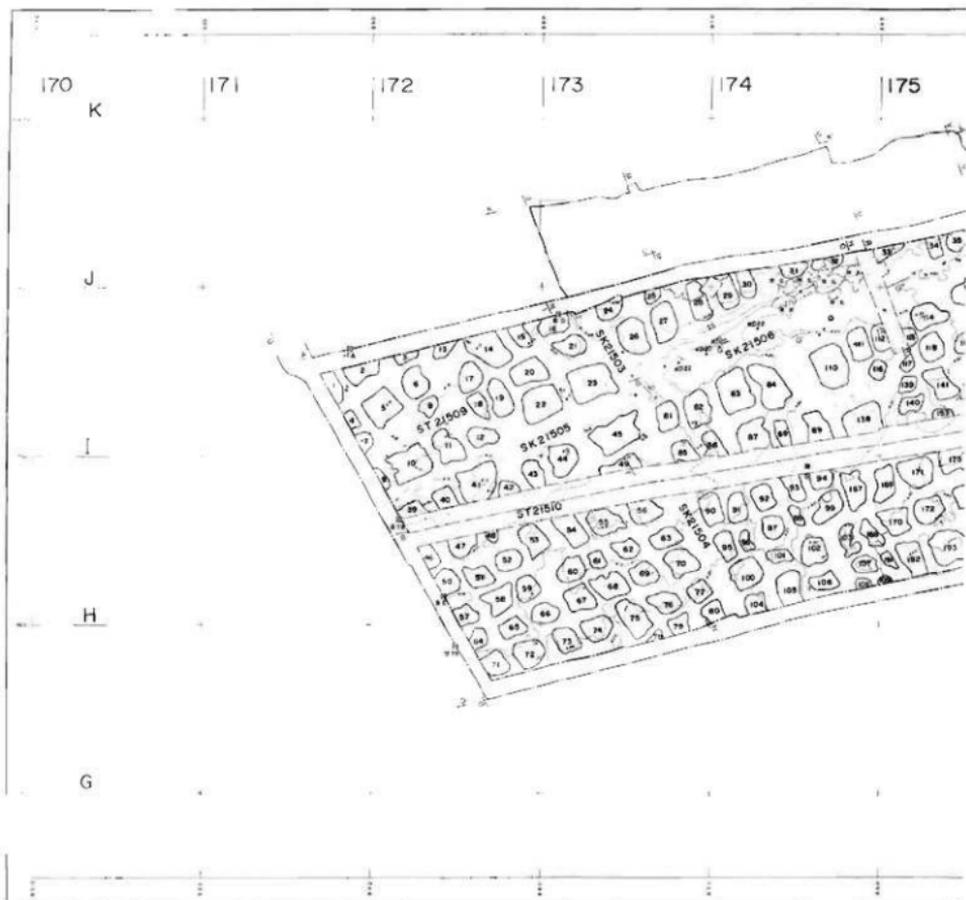
3区(15C)

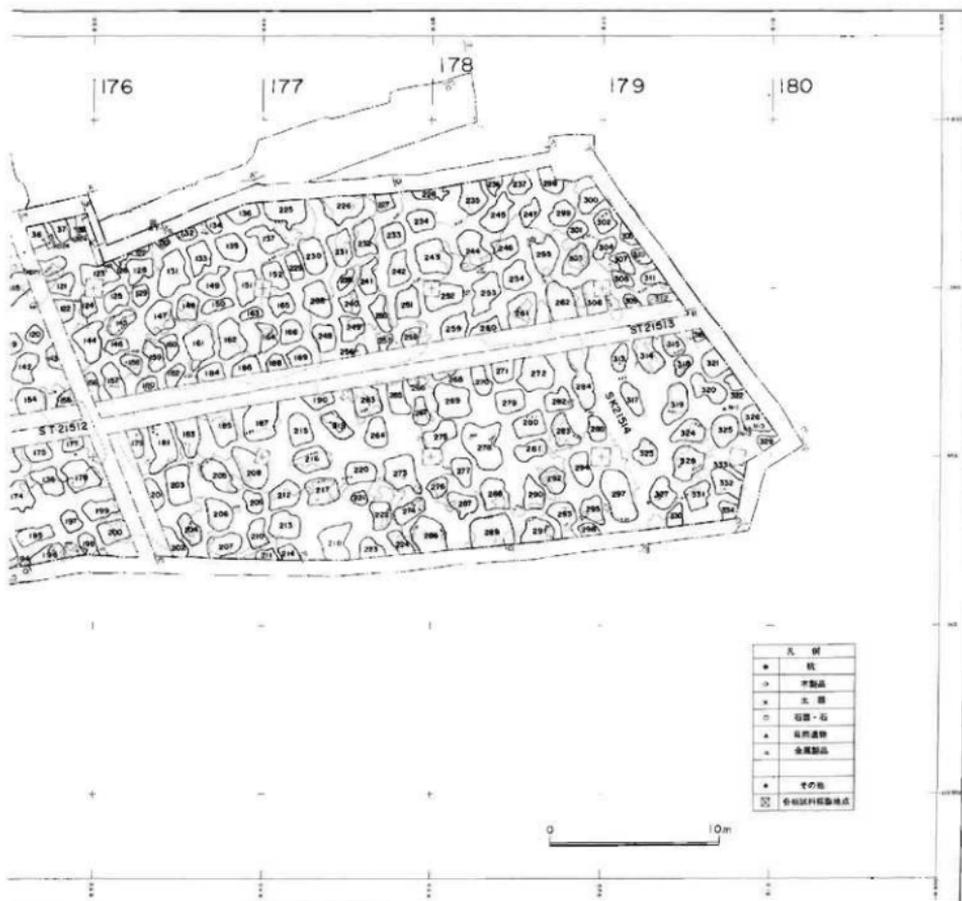


第 80 図 3区15-2-2層水田(15C)出土遺物集成図(1)

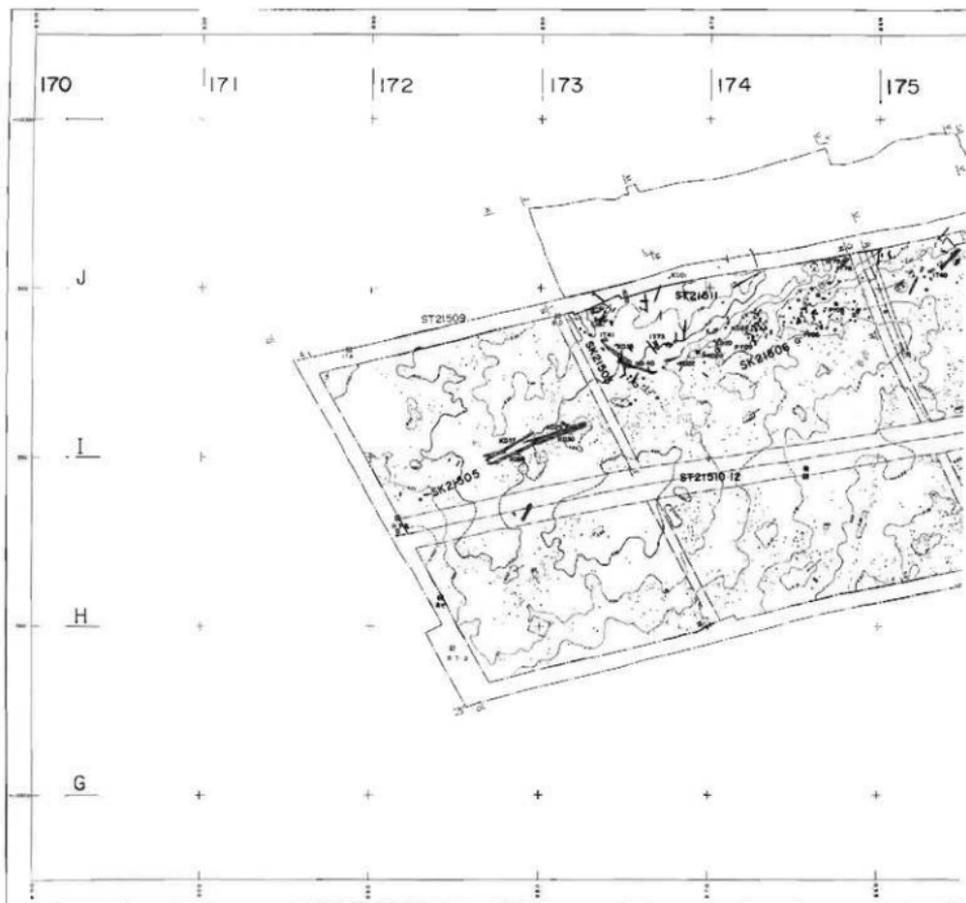


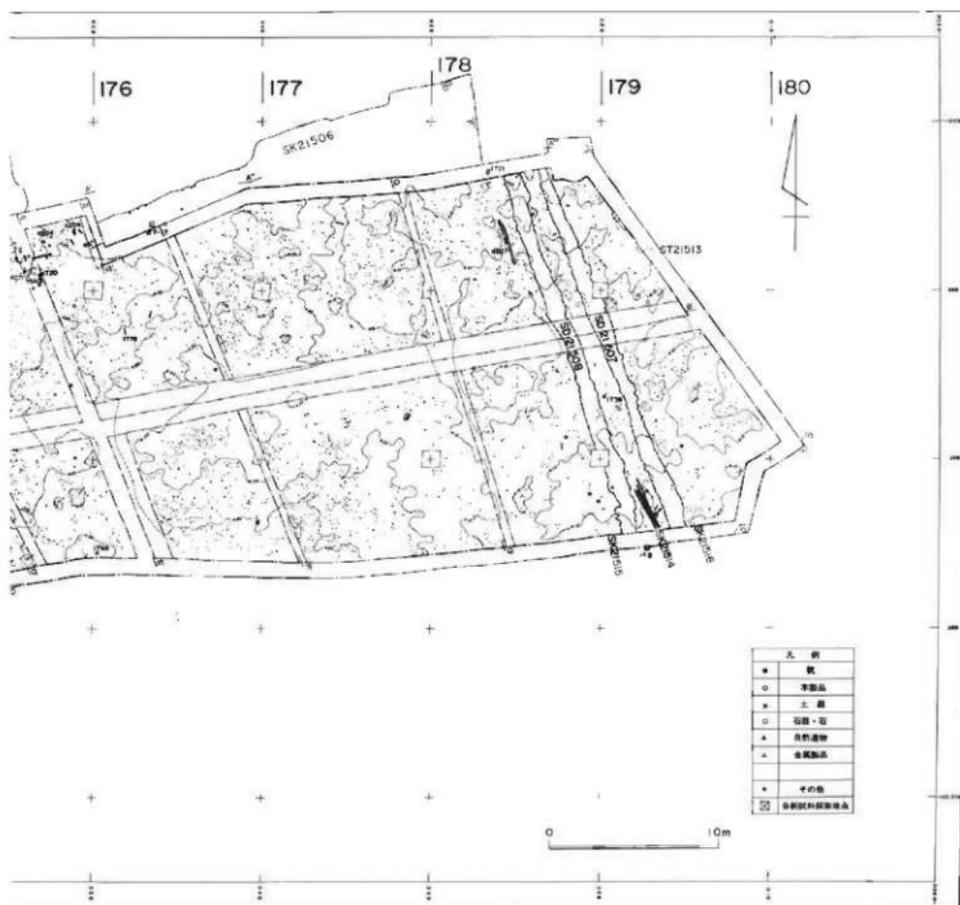
第 81 図 3区15-2-2層水田(15C)出土遺物集成図(2)



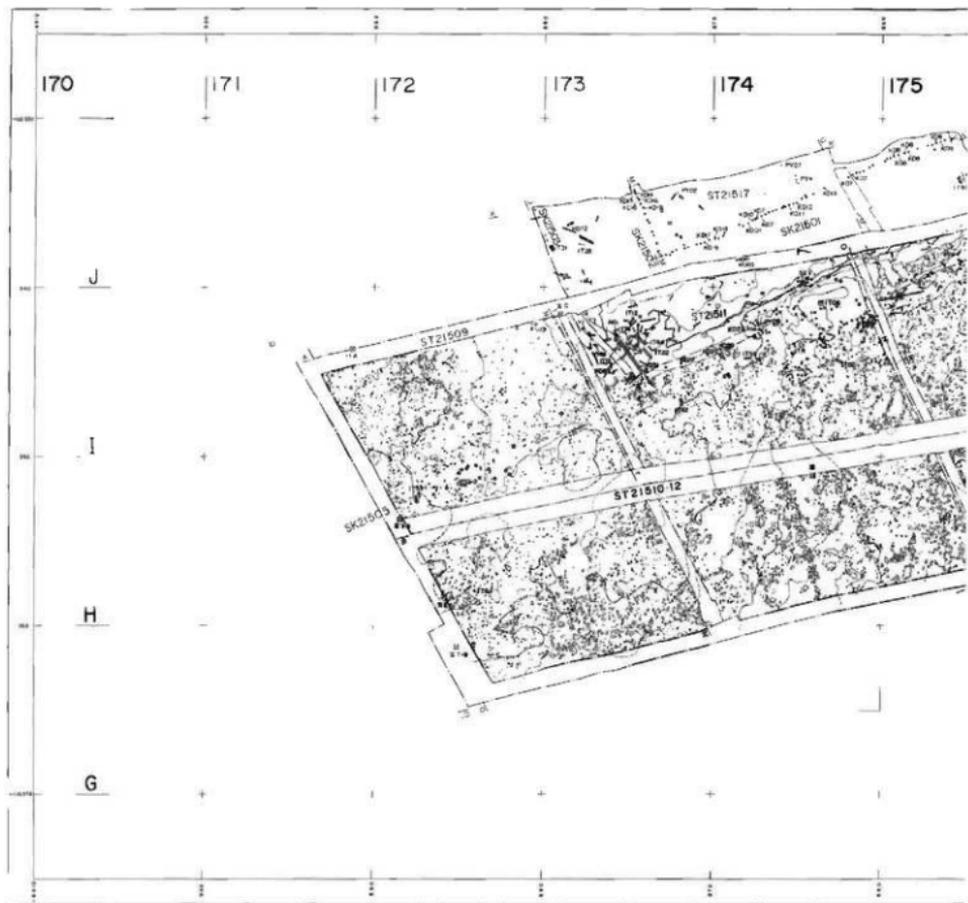


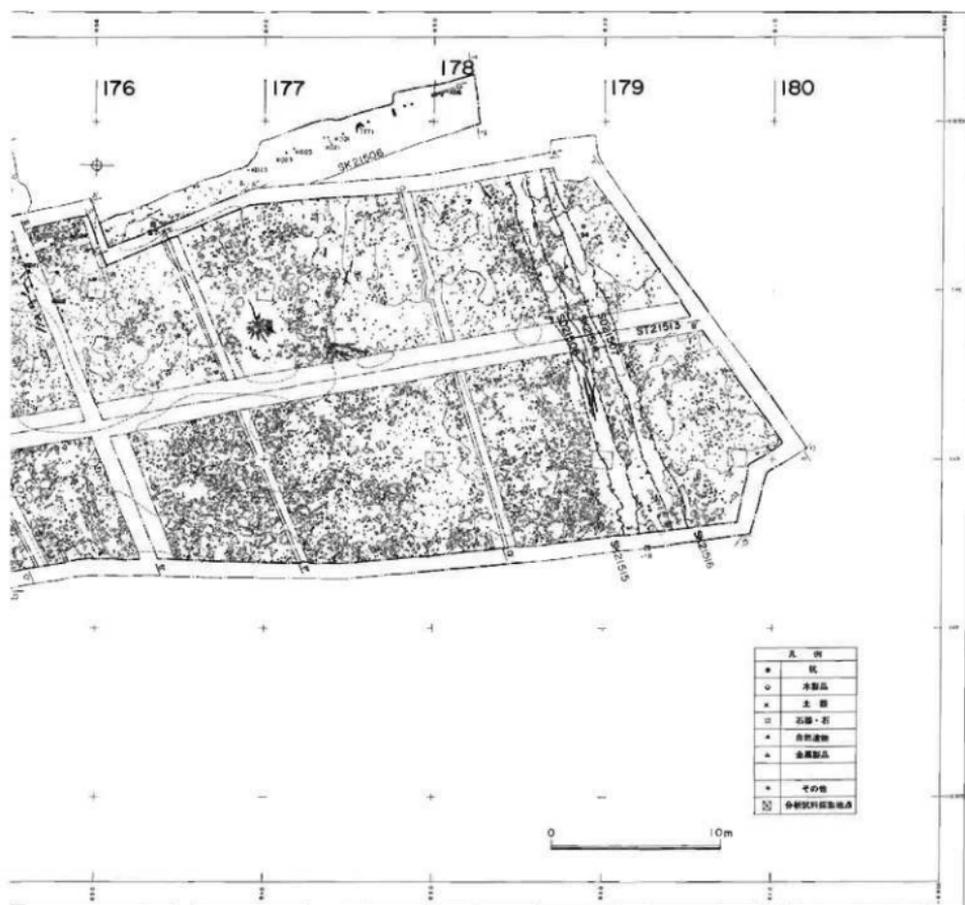
第 82 図 2区15-2-1層水田(15A)全体図



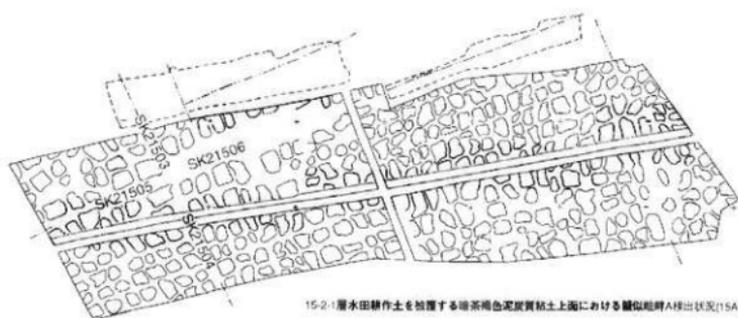


第 83 図 2区15-2-1層水田(15B)全体図





第 84 図 2区15-2-2圃水田(15C)全体図



15-2-1層水田耕作土を被覆する暗茶褐色泥炭質粘土上面における疑似組網A様出状況(15A)

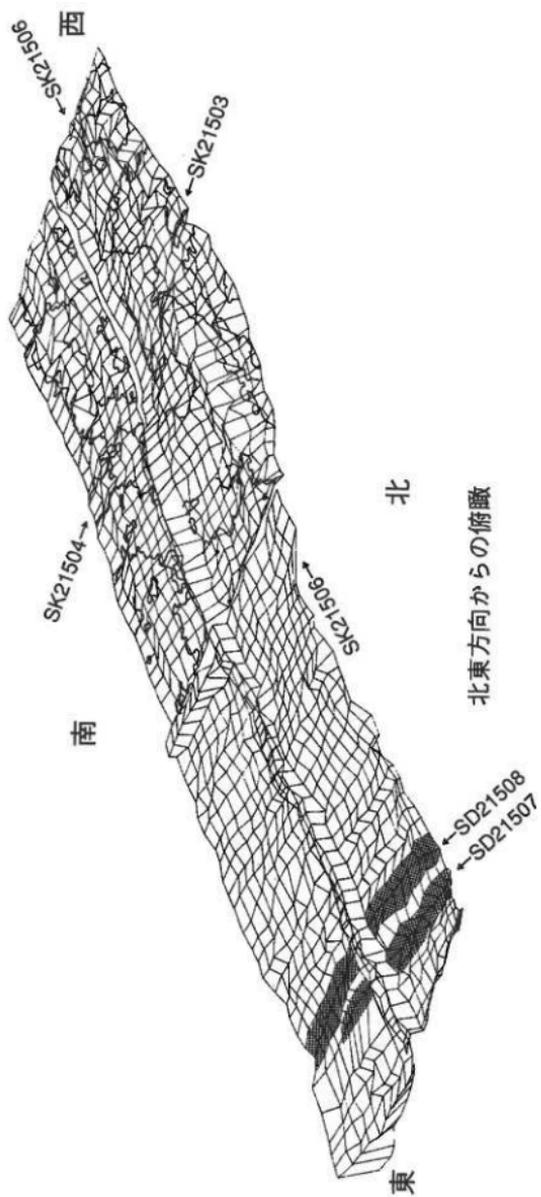


15-2-1層水田耕作土下面における火山灰粒子分布状況(15B)



15-2-2層水田耕作土下面における黄褐色泥炭粒子分布状況(15C)

第 8 5 図 2 区 1 5 層水田検出状況



第 86 図 2 区 15-2-1 層水田 (15A) 類似畦畔 A 地形起伏図

第2表・2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(1)

水田 番号									水田 番号									
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H	
1		4.09	[12]			10.91		12.7	46	4.12	[1.3]		0.8	[1.4]		7	1.1	
2		4.11	[1.2]	[11.9]		2.6		10.9	47	4.09	[1.3]	[1.7]		2		9.8	1.3	
3		4.13	[1.1]	0.9		2.2		10.8	48	4.09	[0.8]	[1.3]		1.8		13.3		
4		4.1	[1.7]			10.9	[1.1]	6.6	49	4.08	[1.3]	[0.5]	3.3			10.4	3	
5	3.32	4.16	3.2	3.4	2.7	2.5	正方形 C	10.3	50	4.13	2.2		[1.4]	[1.5]		7.5		
6	2.22	4.17	2	2.2	2.3	2.1		15.2	51	1.68	4.13	1.8	2	2	2	その他	12.1	3.5
7		4.11	1.6		[1.1]	[1.2]		7.8	52	1.61	4.13	1.9	1.8	1.8	1.8	長方形 A	14.4	2
8	1.01	4.16	1.7	1.7	2.1	1.9	その他	13.3	53	2.25	4.15	[2.5]	[3.1]		2.1	長方形 B	14.2	2.9
9		4.12	2.1		[0.6]	[0.6]		6.2	54		4.09	[2.2]	[2.6]		1.9	B	12.7	2.2
10	3.86	4.12	2.4	2.2	3	2.9	長方形 A	8.4	55		4.09	[1.8]	[2.2]		2.3		11.7	1.2
11	2.56	4.1	2.6	2.3	2.1	2.1	B	11.3	56		4.1	[1.5]	[2.1]		1.1		11.6	3
12	1.65	4.1	0.9	2	2.5	2.2	台形 A	12.9	57		4.14	1.9		[1.5]	[1.5]		9.1	2.3
13		4.13	[1.1]	[11.3]		1.8		13.1	58	2.14	4.11	2	2.1	2.6	2		9.9	3.2
14		4.08	[2]	[3.2]		1.9	B	11.7	59	1.7	4.14	1.9	2.7	1.9	2.1	台形 B	12.6	1
15		4.06	[1.6]	[2.0]		1.4	B	11	60	1.81	4.14	1.6	1.6	2.2	2.5	楕円形 A	14.7	4.5
16		4.06	[1.1]	[1.6]		2.3		11.7	61	0.84	4.12	1.6	1.6	1.4	1.5	正方形 C	12.7	3
17	1.94	4.12	2.4	2.2	2.1	2	楕円形 B	14.4	62	1.44	4.14	1.7	1.6	2.1	2.1		14.6	2
18	1.34	4.11	2.3	1.2	2	2.3	B	14.6	63	1.78	4.13	1.6	1.6	2.1	2.1	長方形 A	11	3
19	2.35	4.08	2.7	2.3	1.6	1.8	楕円形 B	13.7	64		4.14	1.6		[1.5]	[1.5]		10.3	
20	2.59	4.08	2.2	1.6	2.8	2.8	台形 A	13.2	65	1.4	4.15	1.7	1.4	2	2.1	長方形 A	13.1	
21	1.72	4.01	1.9	1.9	[2.3]	[2.3]	台形 A	6.4	66	1.64	4.2	1.8	1.5	2.1	2.1	楕円形 A	14.5	
22	4.25	4.08	1.9	2.1	2.8	3	長方形 A	12	67	2.19	4.18	2.1	1.8	2	2.3	台形 A	16.3	2
23	4.77	4.09	2.6	2.2	2.6	3	長方形 A	9.2	68	2.45	4.16	1.9	2.1	2.2	2.1	長方形 A	13.3	5.1
24		4.02	[0.9]	[1.4]		1.9		10.8	69	1.77	4.15	2	2.2	2.1	2	正方形 C	12.2	2.7
25		4.01	[1.4]	[1.2]		2.2		9.9	70	2.44	4.16	2	2.3	2.1	1.9	正方形 C	12.5	1.8
26	3.05	4.05	2.5	2.4	2.3	1.5	台形 B	8.2	71		4.16	2.1		[1.5]			10.3	1.3
27	2.78	4.04	2.5	2.1	2.2	2.3	長方形 B	8.4	72	2.41	4.15	[2.2]	[1.8]	2.5		台形 A	9	3.5
28	(2.43)	4.04	[2.4]	[2.9]		2.1	長方形 B	14	73	1.78	4.2	[2.7]	[2.1]	1.7		長方形 B	11.5	0.1
29		4.01	[1.9]	[2.3]		1.5	B	5.9	74	2.03	4.2	[2.7]	[2.7]	2.3		台形 A	11.8	2.5
30		4.03	[1.4]	[1.9]		1.9	B	7.6	75	3.02	4.21	2.3	[2.7]	2.1	[1.7]	長方形 B	12.4	3.1
31		4.05	[0.7]	[1.4]		2.4		3.3	76	1.84	4.2	2	2	2	2.1	その他 A	13.4	0
32		4.09	[0.7]	[0.7]		[2.8]		5.5	77	1.32	4.2	1.6	1.8	1.9	1.6	正方形 C	11.1	
33		4.15	[1.1]	[0.7]		[2.4]		5	78					[1.7]				
34		4.27	[1.3]	[1.1]		[1.9]	B	7.6	79		4.22	1.4	1	2.1			10.8	
35		4.3		[1.3]		[1.4]		12	80		4.23	[1.4]	[1.2]	1.6			10.9	
36		4.34	[1.3]			[1.3]		8.5	81	1.92	4.13	2.1	2.2	1.6	1.3	長方形 B	10.7	2.2
37		4.34	[1.3]	[1.3]		1.2	B	6.8	82	2.78	4.16	2.4	2.5	1.9	2	長方形 B	10.8	0.9
38		4.35		[1.3]				7.3	83	4.25	4.17	2.9	2.6	2.5	2.5	長方形 B	11.9	7.9
39		4.15	[1.1]		[1.9]			7.7	84	3.94	4.18	3.6	3.3	1.5	2.7	B	9.5	10.5
40		4.14	[1.5]	[1.1]		1.8	B	11.5	85		4.11	[1.8]	[1.5]	1.3			10.4	0.6
41		4.1	[2.2]	[1.5]		3.4		12.4	86		4.15	2	[1.4]	2		B	8.8	1
42		4.08	[1.9]	[2.3]		0.8		9	87		4.19	[2.3]	[1.8]	2.5			10.7	1.4
43		4.12	[2.1]	[1.9]		1.5	楕円形 B	12.6	88		4.24	[2]	[2]	1.6		B	9.7	
44	2.51	4.1	[2.7]	[2.1]		2.4		7.3	89		4.27	[2.4]	[2.0]	1.1		B	11.6	2.6
45	4.26	4.12	2.1	2.1	3.8	2.9	長方形 A	11.1	90	2.07	4.14	[2.2]	[2.6]		1.2	長方形 B	9.9	1.8

水田計測表

A面積 (㎡) B平均標高 (m) C南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が北道、下段が南道 D東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北道、下段が南道 E形状
 F土軸方向 (A東西、B南北、Cその他) G下段の水田面から当該田面までの堆積量 (cm) H小区面内比高差 (cm) : 上記の数値で、長さが必要なものは()、測定できないものは後出値を [] で示す。

第3表・2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(2)

水田 番号	A								水田 番号	A												
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H					
91	1.89	4.2	[2.4]	[2.6]		1.4	長方形	B	11.9	2.9	136	4.37	(1.1)	1.3	1.7		11.6	2.2				
92	1.62	4.22	[1.9]	[2.1]		1.9	長方形	B	11.3		137	2.17	4.39	2.6	2.4	1.7	2.2	15.1	1.2			
93		4.26	[1.5]	[1.6]		1.8		B	11.6		138		4.28	[2.1]	2.2	3.6		8.6	4.2			
94		4.28	[1.0]	[1.5]		1.7			10.8		139	0.84	4.28	1.1	1.5	1.4	2.4		7.5			
95	1.54	4.19	2	2.3	1.2	1.2	長方形	B	11.2	2.2	140	1.17	4.29	2	1.6	2.4		その他	A	7.9		
96	0.66	4.23	1.6	1.6	1.3	1.6		B	12.8	2.2	141	2.42	4.31	2.6	2.3	2.2	1.8	その他	B	9.2	0.8	
97	1.5	4.23	2	1.9	1.8	1.7	楕円形		13		142	1.98	4.31	2.3	1.9	2.6	2.5	長方形	B	7		
98	0.7	4.26	1.8	2	1.4	1.1		B	11	5	143		4.33		2.3	10.8	[1]			6.7		
99	2.27	4.3	1.9	2.3	2.2	2.5		A	12.8	1.5	144	2.66	4.33	2.8		[2.3]	[1.5]		B	8.6	2.2	
100	2.75	4.22	2	1.9	2.2	1.7	正方形	C	11.7	2.9	145	1.52	4.35	1.9	1.2	1.9	1.8			10.8	0.8	
101	0.95	4.27	1.3	1.3	2.2	1.9	その他	A	13.3	5	146	0.91	4.35	0.9	1.3	1.8	2					
102	2.02	4.31	2.1	2.3	2.1	2.2	台形		15.8	2.5	147	2.55	4.35	1.8	2.6	2.4	1.6			10.4	1.4	
103	1.37	4.29	2.4	2.2	1.6	1.8			8.7	0.7	148	1.64	4.34	2.3	1.8	1.2	1.4	止方形	C	9.7	1	
104		4.23	[1.5]	[1.3]		1.7			9.4	2	149	1.95	4.36	2.7	1.4	1.9	1.8			11.3	2.3	
105		4.27	[2.2]	[2.2]		1.5		B	10.9	3.5	150	1.09	4.37	1.1	1.4	1.8	2.4	長方形	A	11.5		
106	1.3	4.33	[1.8]	[1.6]		2.3	長方形	A	13.4		151	(2.18)	4.37	(2.4)	2.6	1.7	1.4	長方形	A	13.3		
107	1.27	4.31	1.6	1	1.8	2.5	楕円形	A	9	0.6	152	(1.72)	4.34	2.2	2.4	1.4	1.5	台形	B	10		
108		4.33	[0.7]	[0.8]		1.7			13.2		153		4.27	[0.8]	11.11	1.9				8.3	2.9	
109		4.35	[0.8]	[0.7]		0.9			15	0	154		4.32	1.6	1.7	2.5				8.7	3	
110	4.39	4.21	3.4	3.1	2.2	2	長方形	B	9.6	1.8	155		4.35		[1.7]	[1]				7.6	0	
111	2.15	4.21	2	2	1.7	1.5	長方形	D	8.5	3.5	156		4.34	2		0.9				9.5	1.2	
112		4.23		2	0.9				9.7	1.7	157		4.34	2.4	2	1.3			B	9.3	3.8	
113		4.25	2.1		[0.5]	[1]			10.3		158	1.04	4.35	1.7	1.7	1.3	1	台形		10	0.8	
114	2.46	4.27	2	1.7	2.5	2.5			8.2	2	159	1.42	4.35	1.9	2.5	1.1	1.4			12	2.4	
115		4.32		2	[2.7]	[2.1]		A	6.5	2.9	160	1.07	4.32	1.5	2	1.6	1	その他	B	9.7		
116	0.91	4.24	2.2	1.3	2.4	1.4			9.2		161	3.11	4.3	2.2	2.7	2.1	1.8		B	8.4	5.2	
117	0.59	4.27	1.5	1.1	0.5	1.4	台形		8.6		162	2.88	4.34	2.5	2.5	1.4	2.3	台形	B	11.8	2.5	
118	1.97	4.29	2	1.5	1.9	2	正方形	C	9.4	0.5	163	0.74	4.35	1.1	0.9	1.7	1.8	長方形	A	9.3	0.3	
119	1.33	4.3	2.1	2.4	1.8	1.9	楕円形		7.2	0.2	164	1.33	4.35	2	2.3	1.8	1.3		B	11	1.6	
120	0.82	4.31		2	[1.5]	[1.5]	正方形	C	6.9		165	1.49	4.32	1.4	(1.9)	(2.1)	1.7	長方形	A	8.8	2.1	
121		4.31	1.9		[1.8]	[1.4]		A	7.5		166	1.61	4.34	1.7	1.6	1.7	1.9	台形		9.9		
122		4.33	1.6		[1.4]	[0.9]			9.9	1.8	167	2.39	4.31	2.7	[3.1]		1.4	H	11	2		
123	(2.31)	4.31	[1.5]	[1.4]		2.9	台形	A	7.5	2.8	168	1.28	4.33	[2.3]	2.2	1	1.5		B	9	2.4	
124	(1.04)	4.34	1.3	2	1.3	1.4	台形	B	10.7	1.4	169	1.99	4.32	2.4	2.7		2.1	台形	B	10.9	0.9	
125	1.48	4.32	1.6	1.6	1.6	1.6	その他	A	8.9	0.2	170	2.29	4.36	2.1	2.3	2.4	1.7	台形	B	10.9	1	
126		4.33	[0.3]	[1.0]		1			8.5		171	2.94	4.34	[2.0]	[2.4]			2.2	台形		12.2	3.2
127		4.33	0.6	0.3		1.5					172	2.36	4.39	2.3	2.1	2.2	2.5	台形	A	13.2	2.1	
128	1.74	4.33	1.8	1.5	2	1.5	台形	A	8.9	1.8	173		4.32	[1.5]	[2.0]			2.5		11	4.5	
129	0.96	4.35	1	1.1	1.4	1.8	その他	B	10		174	2.68	4.39	2.6	2.6	2.5	2.6	台形	A	15.8	4.9	
130		4.35	0.8	0.6		1.5			7.9		175		4.34	[1.1]	[1.5]			2.1		10	0.1	
131	3.46	4.35	2.3	2.6	1.6	2.8			10.2	0.2	176	2.05	4.37	2.7	2.6	2.3	1.6	台形	B	11.5	1.8	
132		4.37	1	0.8		1.7			10.1	3.2	177		4.33		1.1			[2.2]		8.4	2	
133	1.92	4.37	1.7	2.3	1.7	1.9	台形	A	10.3	1.2	178	2.83	4.34		2.3	[2.5]	[2.3]	台形	B	8.4	2.3	
134		4.4	1.3	1		1.8					179		4.25	[1.8]				[0.9]			13.8	3.1
135	2.2	4.39	2.4	2.2	1.8	1.8	その他	B	13.1		180		4.34	[0.9]	[0.8]	2				10.3	3.5	

水田計測表
 A面積(m²) B平均標高(m) C南北方向畦畔の長さ(m) D東方向畦畔の長さ(m) E形状
 F主軸方向(A東、B南、Cその他) G下位の水田面から当該田面までの堆積量(cm) H小区圃内比高(cm) 上記の数値で、長さが測定できるものは()、測定できないものは横線を示す。 { } は不明。

第4表・2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(3)

水田 番号	A								水田 番号	A											
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H				
181		4.27	[2.4]	[2.7]		[2.8]	B	8.3	5.2	226	4.28	[1.1]	[2]		3.1		10.3	6			
182		4.31	[1.1]	[1.5]	1.8			10.9	1	227	4.25	[1.2]	[1.7]		1.8	B	14.4	2.9			
183		4.28	[2.3]	[2.4]		1.8	B	11.6	2.5	228	4.22	[1]	[0.9]		2.6		11.9	2.6			
184		4.39	[1.5]	[10.5]	1.8			19.8	8.9	229	1.28	4.3	2.2	2.2	1.1	1	長方形	B	6.4		
185		4.26	[2.0]	[2.3]		2	B	7.1	2.8	230	2.53	4.32	2.8	2.2	1.7	1.1	長方形	B	10.3	5	
186		4.32	[1.5]	[0.8]	1.9			9.4	1.7	231	2.27	4.26	2.4	2.6	1.6	1.5	長方形	B	7.8	5	
187		4.22	[3.2]	[2.0]		2.4	B	6.6	4	232	2.27	4.21	2.7	2.4	1.5	1.7			9.7	5	
188		4.34	[1.2]	[0.8]	1.3			10.6		233	1.67	4.19	1.9	2	1.5	1.9	正方形	C	8	0.3	
189		4.32	[1.4]	[1.2]	1.9			10		234	1.71	4.18	1.7	1.9	2.3	2.1	長方形	A	10	2	
190		4.26	[0.8]	[1.8]		1.9		7.7	0.9	235	4.19	[1.4]	[2.6]		1.8	B	10.4	1.5			
191	0.56	4.37	[2.1]	[2.4]	1.2	台形	B	14.6		236	4.18	[0.8]	[1.4]		1		12.8				
192		4.4	[2.6]	[2.3]	1.9		B	14.4	0.3	237	[1.3]	[1.2]		2.1		B					
193	3.82	4.4	2.4	[2.6]	2.5	[1.6]	その他	A	13.5	1.3	238	2.57	4.3	2.4	2.3	2.6	1.8	台形	B	11.3	3
194		4.4	[0.5]		[1.6]					239	0.69	4.25	1.3	1.4	1.5	1.4	台形	A	8.1	0.2	
195	1.66	4.39	1.8	2.2	2.6	2.7	長方形	A	13.4	0.8	240	1.09	4.24	1.8	1.1	1.4	1.6	台形	B	9	1.5
196		4.4	[1.4]	[0.5]	2.7			[2.9]	0	241	1.7	4.21	2.2	2.5	1.7	1.6	B	8.2	5		
197	1.16	4.39	1.7	2	1.6	1.6	長方形	B	10.4	0.7	242	2.06	4.18	2.1	2.4	1.9	1.9	台形	B	7.3	0.3
198		4.4	[2.0]	[1.2]	1.6		B	8.9	0.8	243	3.32	4.2	3	2.1	2.3	2.4	台形	B	9.4	3.1	
199		4.36		1.7	[2.3]	[3]	A	7	1	244	3.01	4.17	3.1	3	1.5	2.5	B	6.6	5		
200		4.38		2	2		A	9.6	3.6	245	2.54	4.17	1.4	1.9	2.8	3.4	長方形	A	11.2	4.5	
201		4.31	2.3		[1.1]	[0.8]		8.7	1.2	246	1.52	4.2	1.5	1.8	1.7	1.7	台形	A	10.4	1.4	
202		4.37	2.8		[0.8]			10.9	4.9	247	1.15	4.17	2.2	1.6	1.8	1.6	その他	A	12.4	2.7	
203	2.96	4.34	2.5	2.6	2.2	2.1	長方形	B	13.3	2	248	1.69	4.29	[2.2]	[2.7]	1.8	長方形	B	9.6	1	
204	1.65	4.35	1.9	2.8	1.5	1.3	長方形	B	8.9	1.4	249	1.69	4.24	1.2	3	1.8	2.1		6.1	0.7	
205		4.34	2.4	3.7	1.9	0.7	B	12.4	5	250	1.54	4.21	2.6	1.9	1.6	1.5	B	7	1.3		
206	2.36	4.33	1.4	2.4	2.1	2.2	楕円形	A	7.5	2.3	251	2.21	4.21	2.5	2.4	1.9	1.8	長方形	B	7.5	1.2
207		4.37	[2.1]	[1.5]	1.9		A	10	4.5	252	2.81	4.22	1.8	2.5	2.7	2.5	A	7.4	1.9		
208	(3.39)	4.28	2.6	2.5	1.7	2.9	B	8.5	3	253	2.88	4.22	2.8	2.7	2.2	1.8			9.7	2.7	
209	1.12	4.31	1.3	1.5	2	1.5	B	8.5		254	2.06	4.23	2	1.8	1.7	2.2			9	1.7	
210	1.54	4.35	1.9	1.3	1.2	1.5	B	9.4	1.4	255	2.73	4.2	3.3	3	1.6	1.5	B	11	0.4		
211			[0.9]	[0.4]	1.5					256		4.21	[1.1]	[0.5]	2.1				3.3		
212	2.3	4.28	2.3	1.3	2.4	2.2	A	8.5	3.2	257	4.26	[1]	[1.1]	1.5					8.8	0.5	
213	2.56	4.33	1.9	1.9	2.2	2.1	正方形	C	7.2	2.2	258	4.23	[1.3]	[1]	1.8				8	2	
214		4.31	[1.1]	[0.9]	2.1			3.2		259	4.23	[1.9]	[1.3]	2.5					7		
215	2.23	4.23	2	1.9	2.6	2.3	長方形	B	6	1	260	4.24	[1.2]	[0.9]	1.7				9.4	1.9	
216	2.49	4.25	2.4	2	2.3	2.2	台形	A	6.7	1.4	261	4.26	[2.3]	[1.6]	2.5			B	9.7	2	
217	2.51	4.28	2.4	2.6	2.2	2.2	長方形	A	6.1	1	262		4.21	[2.1]	[2.3]	2.3			B	8.9	4
218		4.32	[2.7]	[2.3]	3.1		B	6.2	2.7	263	4.24	[1.7]	[2.1]		2			B	6.4	1	
219	1.84	4.25	2.9	3	1.9	1.2	その他	B	8.5	1.4	264	1.8	4.25	2.2	1.7	2	2.4	台形	B	5.2	2.3
220	2.01	4.27	1.3	2.4	2.3	2	長方形	A	6.2	1	265	4.26	[2.5]	2.1		1.1		B	7.6	2.6	
221	0.56	4.3	1.2	1.2	1.4	1.6	台形		6.8	0	266	4.27	[0.8]	[0.9]		1.2			9.3		
222	1.67	4.3	1.7	2.1	2	1.5	長方形	B	7.2	3.7	267	1.27	4.25	1.8	2.2	1.2	1.7	B	7.8		
223		4.31	[1.5]	[1.1]	1.9			6.6	1.5	268	4.24	[0.6]	[0.5]		2.1				8.4		
224		4.31	[1.7]	[1.5]	1.7			6.3	1	269	3.59	4.21	2.4	2.2	2.1	2.8	台形		4.6	1.6	
225		4.37	[1.7]	[1.8]		3		10.8	4.6	270	4.23	[1.5]	[2.3]		1.4	B	7.7	0.4			

水田計測表

A面積 (m²) B平均標高 (m) C南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東辺、下段が西辺 D東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 E形状
F主軸方向 (A東西、B南北、Cその他) G下段の水田から当該田までの距離量 (m) H小区内北高さ (m) : 上記の数値で、長さが指定できるものは()、指定できないものは抜出量を「」で示す。

第5表・2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(4)

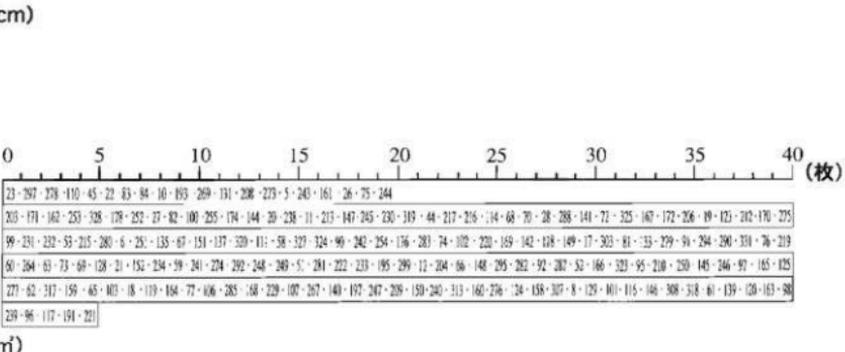
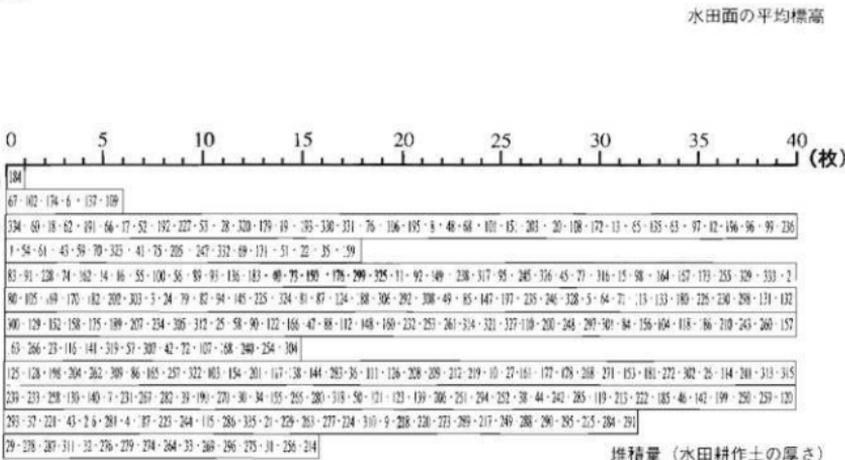
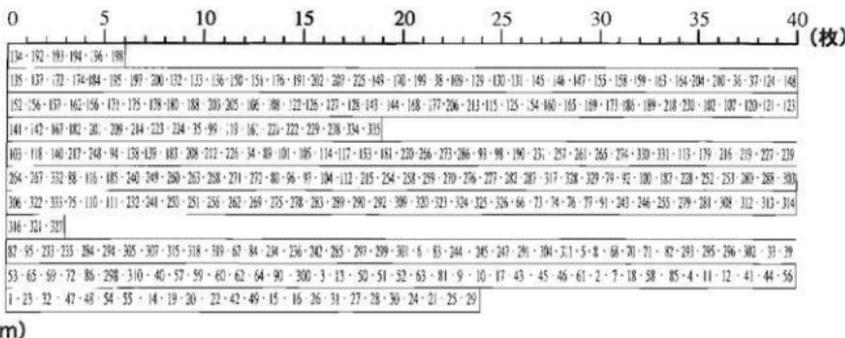
水田番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田番号	A	B	C	D	E	F	G	H					
271		4.24	[1.5]	[1.5]				8.4	0.4	304		4.17	1	1.9	1.6	2.1	A	9	4			
272		4.24	[1.9]	[3]		2.2		8.3	2.8	305		4.19		1	0.9				10			
273	3.37	4.27	2.4	3.2	2	2.7		6.2	3.5	306		4.22	[2.8]	[2.1]	1.4		B	10.6	3.3			
274	1.7	4.26	1	1.5	2.4	2.4	長方形	A	5.3	4	307	1.02	4.19	1.8	2.2	1.6	0.4	B	9.1			
275	[2.28]	4.21	2.2	2.6	2.7	2.2	A	3.5	4.3	308	0.88	4.2	2	1.7	1.5	1.9	台形	A	10.5	0.8		
276	1.05	4.23	1.7	1	2.5	1.8		5.5	2.3	309		4.21	[0.9]	[1.1]	1.9		B	8.9				
277	1.47	4.23	2.2	2.2	1.2	1.8	台形	B	6.4	3.3	310		4.15		1.6	[0.8]	[0.9]		6.3	0.5		
278	4.49	4.21	3.1	3.7	2.8	1.9	B	5.8	4.8	311		4.17		0.8	1.4	1.8	A	5.6	1.1			
279	1.9	4.2	1.5	1.4	2	2.2	正方形	C	5.5	0	312		4.2		[0.9]	1.8			10	0.7		
280	2.23	4.22	2.2	1.5	1.8	2.4	台形	A	7.6		313	1.08	4.2	[2.5]	[2.4]		1.8	B	8.2	1		
281	1.68	4.2	1.8	1.7	2.4	3	長方形	A	6.7	0.2	314		4.2	[2.8]	[2.2]		2.1	B	9.7	2		
282	1.65	4.23	1.3	1.4	1.9	2	台形	A	7.8	5	315		4.19	[1.1]	[1.7]		1.4	B	8.2	2.2		
283	2.04	4.21	2.3	2.4	2	1.9	台形	B	8.6	0.9	316		4.2		[1.1]	[1.4]			11.1	0.5		
284		4.19	[3.7]	[4]		1.9	B	6	3.7	317	1.44	4.23	3.4	2.9	1.8	2.1	長方形	B	11.3			
285	1.29	4.18	2.7	2.7	1.9	1.9	B	7.3	1.8	318	0.88	4.19	1.4	1.1	1.4	1.9	A	7.6	2.9			
286		4.27	[3]	[1.7]	2.2		B	6.5	5	319	2.53	4.19	2	3.1	2	2.6	B	9.2	3.4			
287	1.62	4.23	1.8	2.2	2.2	1.8		5.8	1.8	320	2.16	4.21	3.4	2	1	2.5			14	0.5		
288	2.43	4.22	2.3	2.3	1.9	2.1	正方形	C	6.1	2.8	321		4.2		1.4	[2.4]	[1.4]			9.7		
289		4.21	[2]	[2]	2.9			6.2	5.8	322		4.22		1.7	[0.8]	[1]				8.8		
290	1.85	4.21	2.9	2.6	1.1	1.8	台形	B	6.1	2.4	323	1.55	4.21	3.7	2.8	2.1	1.8			12.5	1.5	
291		4.17	[0.8]	[1.8]	5.1			6	5.4	324	2.08	4.21	1.9	0.8	3.4	2.7	A	10.8	2.6			
292	1.7	4.21	2.6	2.2	1.8	1.9		10.5	1.1	325	2.41	4.21	2.1	2.7	1.7	2.1	楕円形		11.5	1		
293		4.16	[2.6]	[1.9]	2.4			6.9	1.1	326		4.21		2.1	[1]	[1.9]				11.2	1.2	
294	1.86	4.19	2.5	2.6	1.9	1.3	長方形	B	7.5	0.3	327	2.13	4.2	2.1	3	1.8	2.3			9.7	1	
295	1.64	4.16	[2.8]	[3.2]	1.3			6.1	5	328	2.86	4.23	0.8	2.5	2.7	2.9				10.4	5	
296		4.16	[1]	[0.6]	1.3			4.4	3.8	329		4.23	[1.3]	[1.9]						11	0.2	
297	4.56	4.18	[5]	[4.5]	1.9		長方形	B	9.6	6.9	330		4.26	[1.7]	[0.2]	2.3		B		13.5	0.7	
298		4.15	[0.7]	[2.1]		1.7		10.3		331	1.85	4.26	[2.9]	[2.3]	1.8		台形			13.5	1.6	
299	1.66	4.18	1.5	3.3	1.7	1.8	正方形	C	11.5		332		4.25	[1.6]	1.7	1.6	[1.6]			12.3	2.8	
300		4.14		1.8	[0.7]	1.8	A	10.1	3.2	333		4.22	[1.3]	[1.8]	1.7					11		
301		4.18	1.6	0.9	1.7	1.6	正方形	C	9.6	4.5	334		4.3		[1.3]	1.6					14.8	
302		4.16		1.3	[1.8]	[2.2]	正方形	C	8.3	2.8	335		4.3	0.8		[1.8]	[1.8]	A		6.5	0.2	
303	1.94	4.22	1.9	2	1.3	2.5	台形	A	10.9	2.6	平均	20.13	4.23								10.08	2.4

水田計測表
 A面積(m²) B平均標高(m) C南北方向畦畔の長さ(m) D東段が東辺、下段が西辺 E東西方向畦畔の長さ(m) F形状
 F主軸方向(A東西、B南北、Cその他) G下段の水田面から当該田面までの堆積量(m) H小区内比高差(m) I上記の数値で、長さが推定できるものは()、推定できないものは換出値を[]で示す。

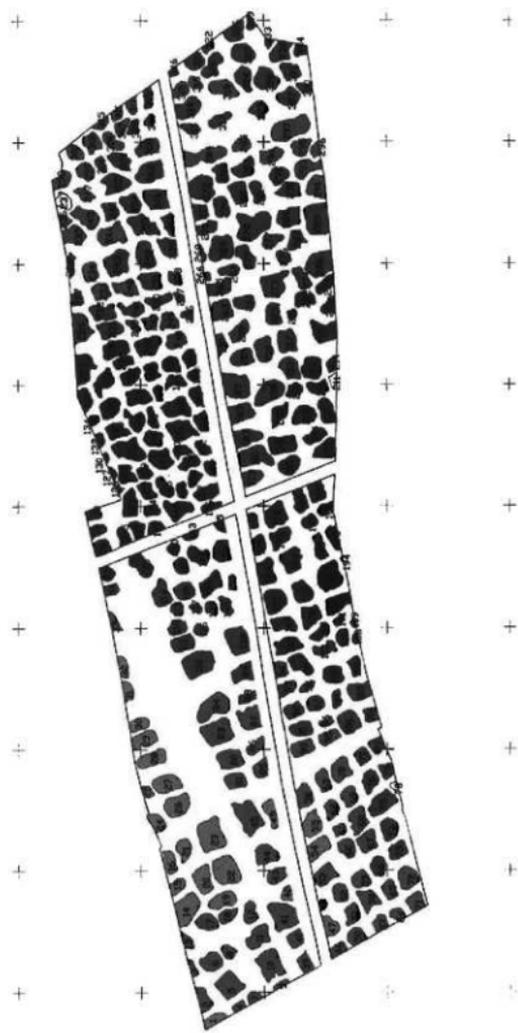
2区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(畦畔)

遺構番号	A	B	C	D	E	F	G	H	備考	
SK21503	大	枕列	B	N36°W	5.6	1.5		6.5	4.7	
SK21504	大		B	N24°W	14.9	1.54		[0.2]	0.3	
SK21505	大		A	E25°N	16	1.28		3.3	1.8	
SK21506	大	枕列	A	E24°N-D15°N	25.8	2.92		1.1	0.4	

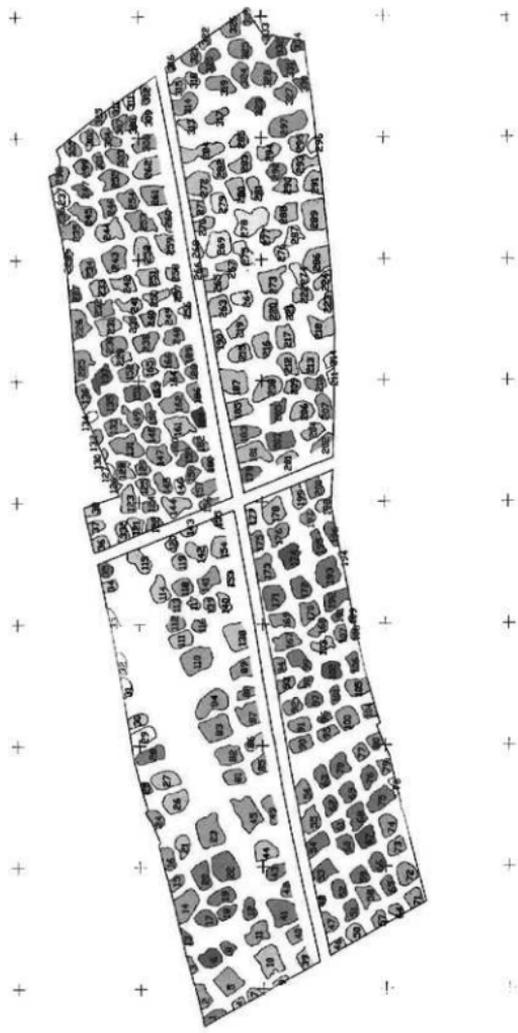
畦畔計測表
 A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(枕列、盛土、掘出) C軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E換出長(m) F推定長は()、定
 結しないものは[] F換出面での上端幅(m) G換出面での下端幅(m) H・1田面比高差(m)



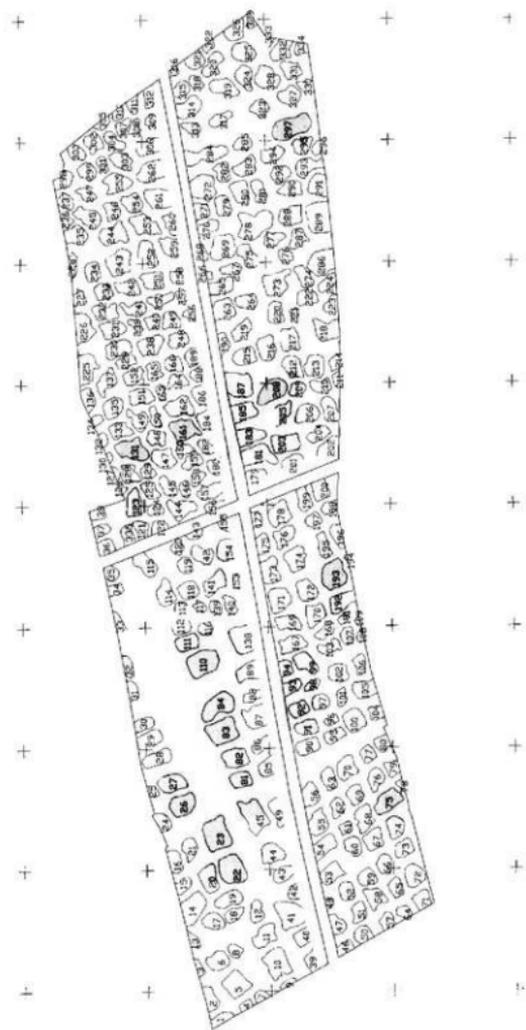
第 8 7 図 2 区 1 5 - 2 - 1 層水田 (1 5 A) 水田分析グラフ



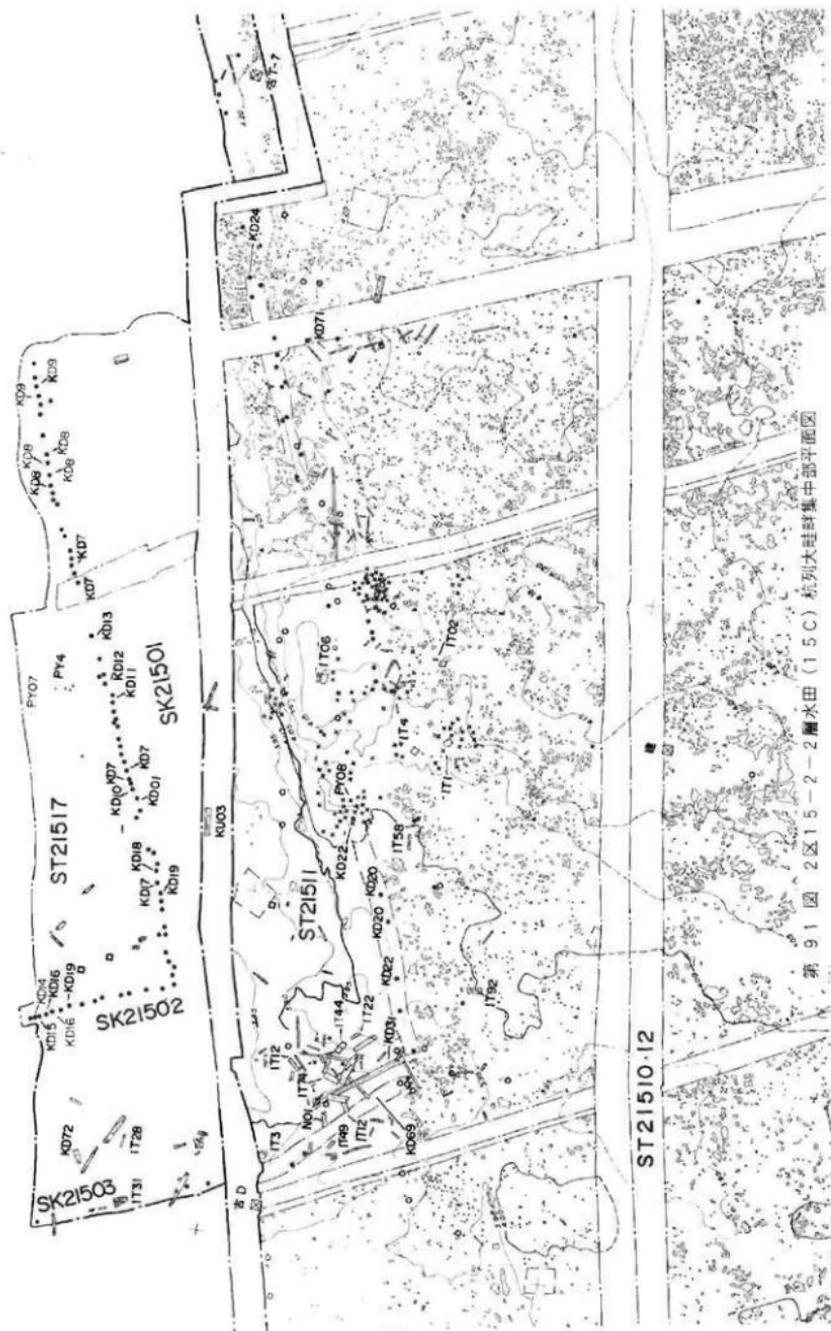
第 88 图 2 区 15-2-1 原水田 (15 A) 水田標高分析図



第 89 图 2 区 15-2-1 腐水田 (15A) 水田堆積層分析图



第 90 图 2 区 15-2-1 落水田 (15A) 水田面积分析图

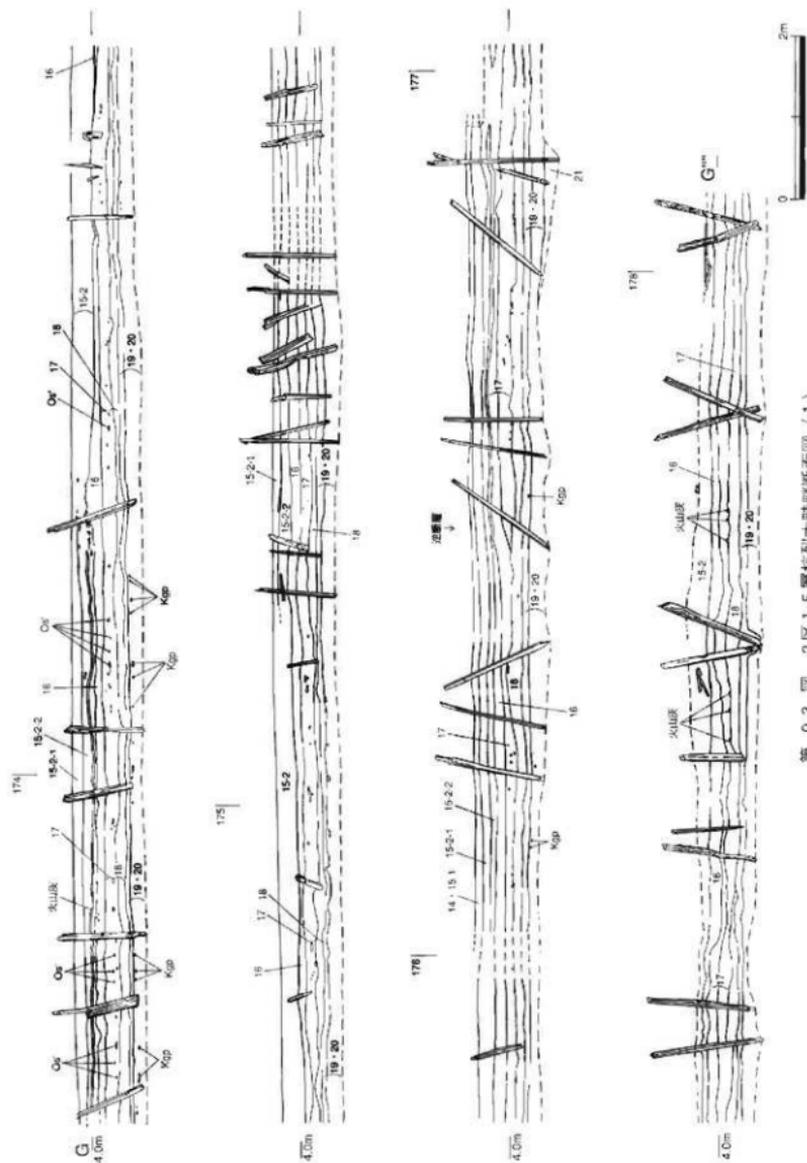


第 91 图 2区15-2-2層水田(15C) 新列大趾群集中部平面図

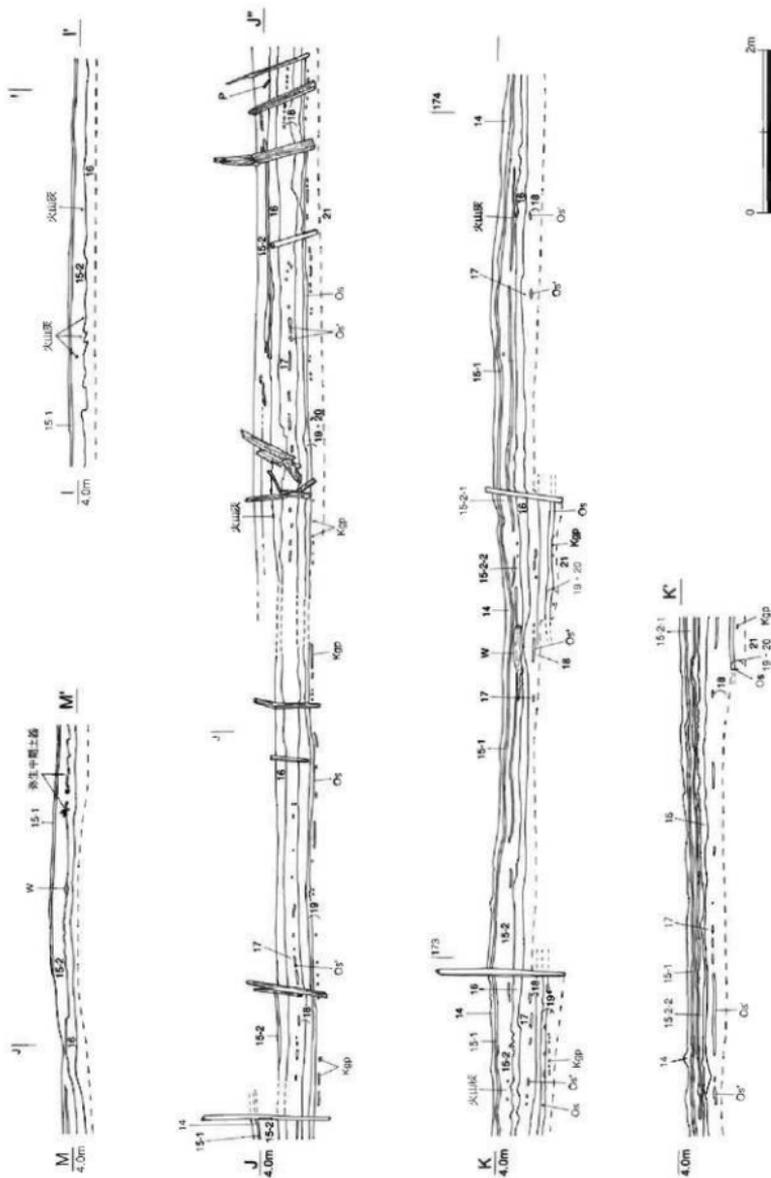


第 92 図 2区15-2-2層水田 (15C) 溝状遺構付近平面図

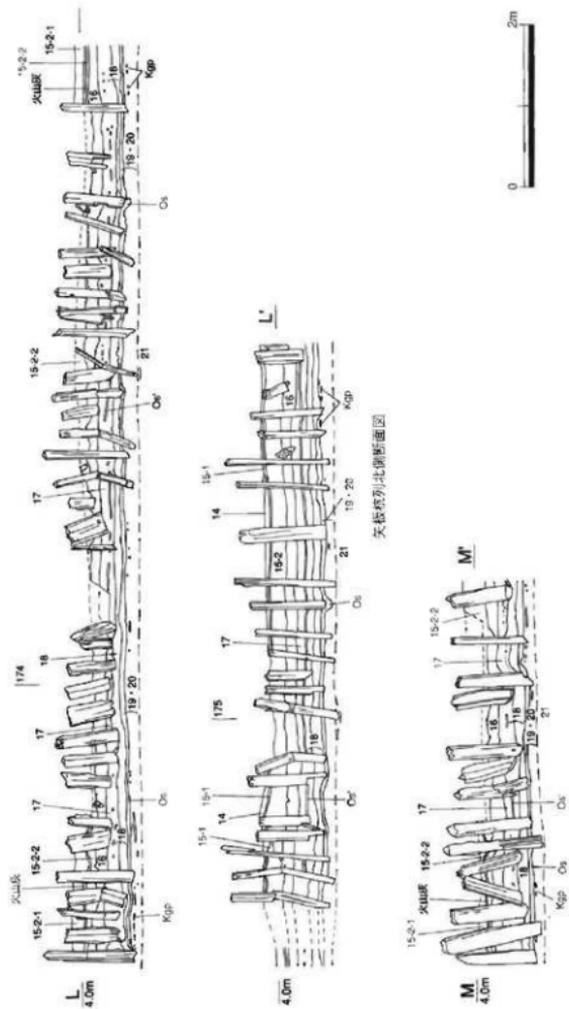
⊠ B



第 9 3 图 2 区 1 5 层和列大时断面图 (1)

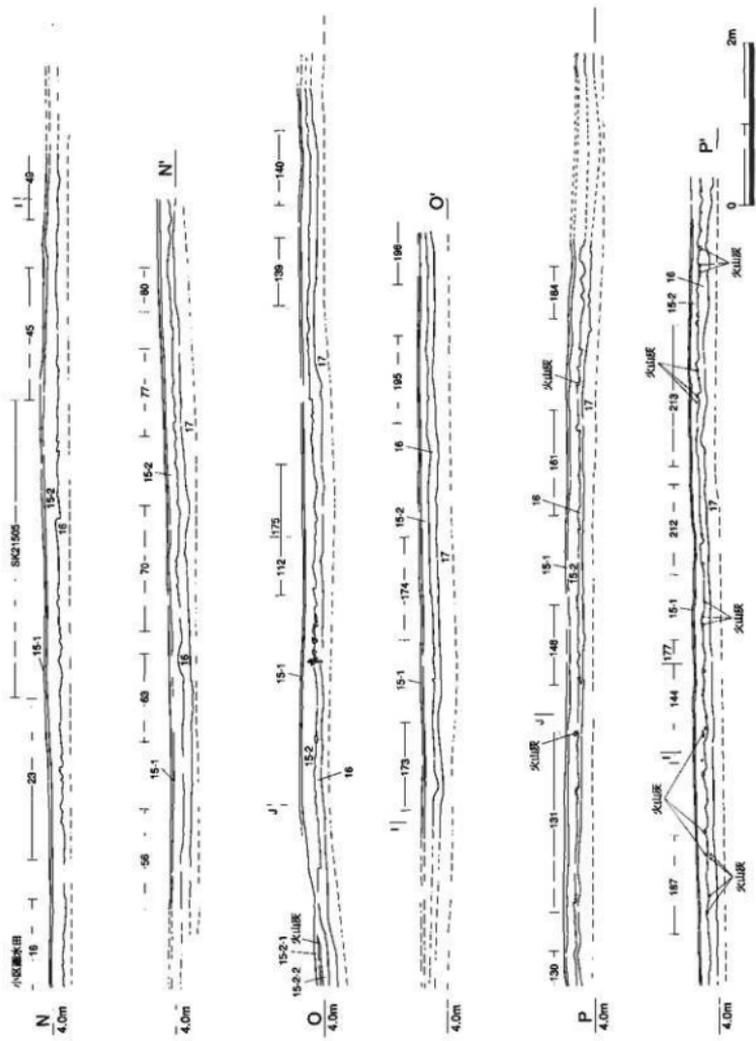


第 9 4 图 2 区 1 5 层杭列大柱群剖面图 (2)

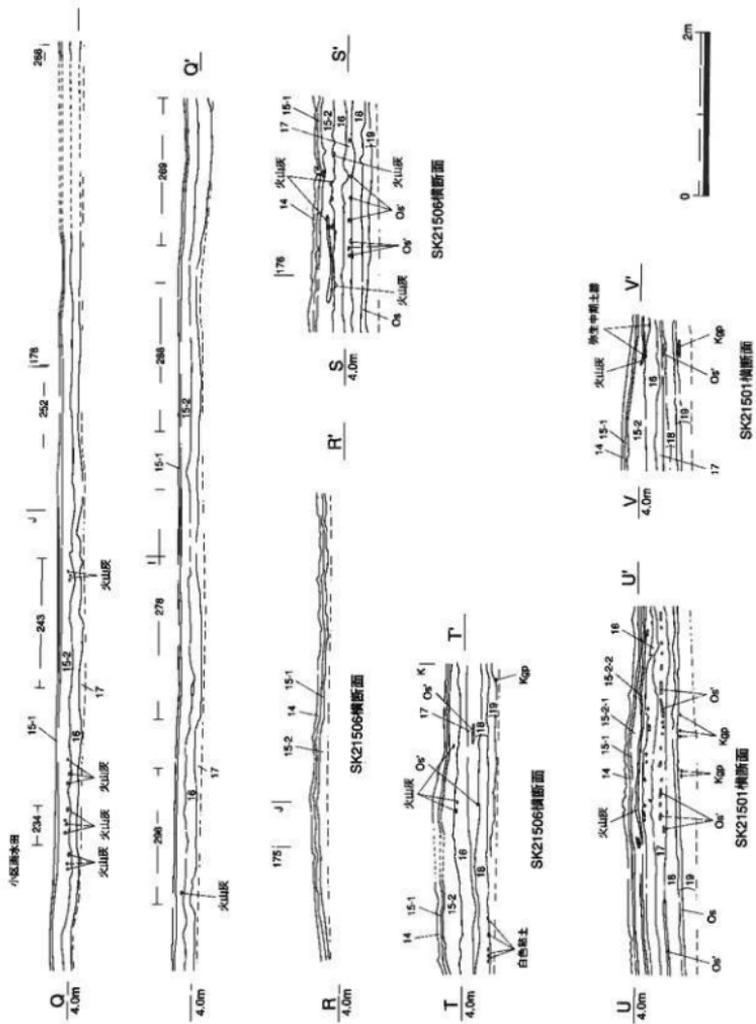


矢板桩列西面剖面图

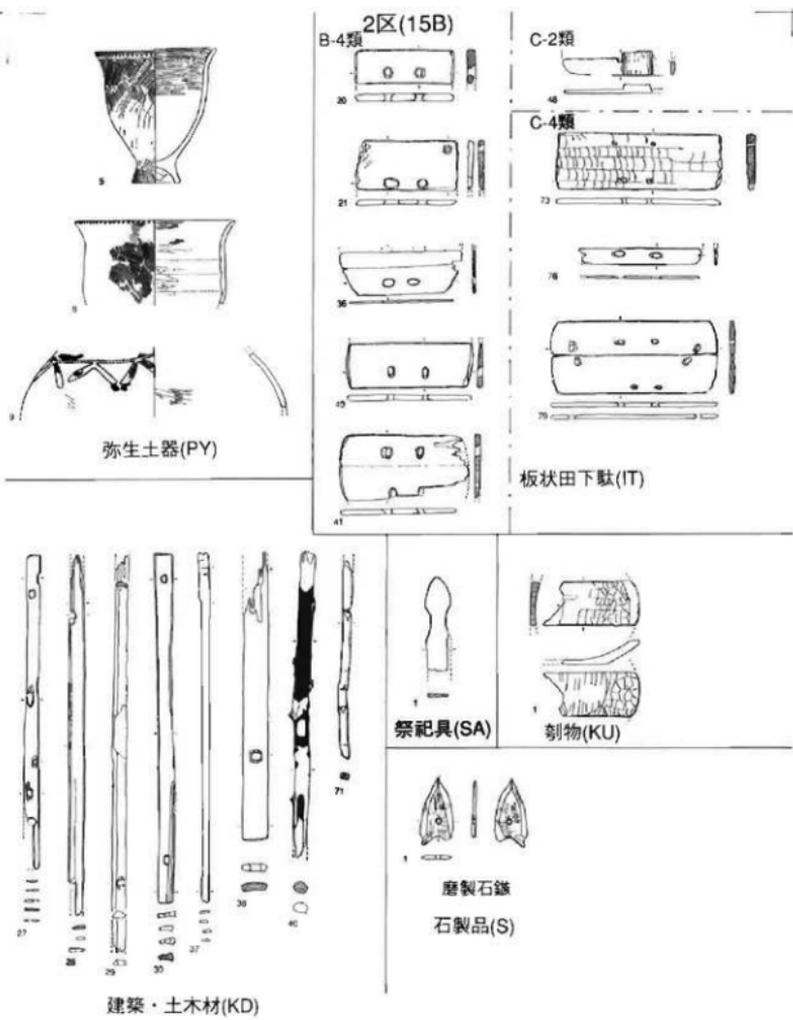
第 9 5 图 2 区 1 5 号矢板桩列大群剖面图



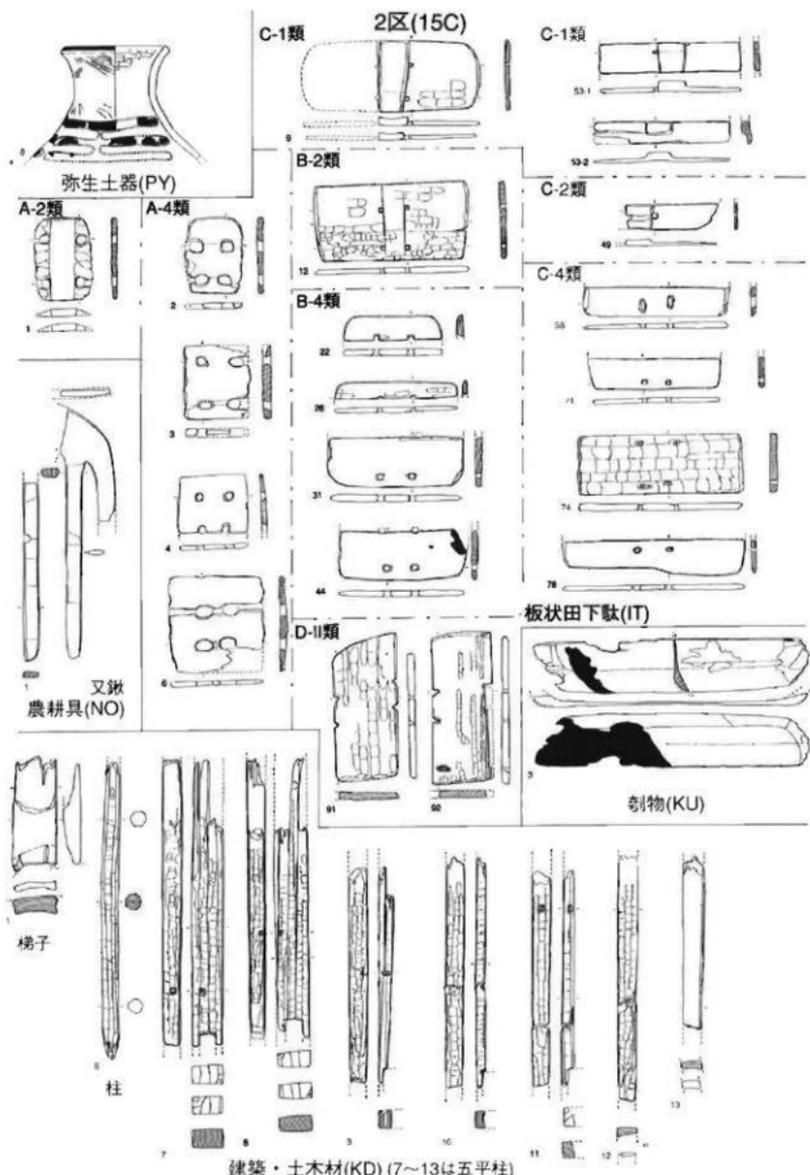
第 9.6 图 2 区 1.5 层地质断面图 (1)



第 97 图 2 区 15 層柱断面图 (2)

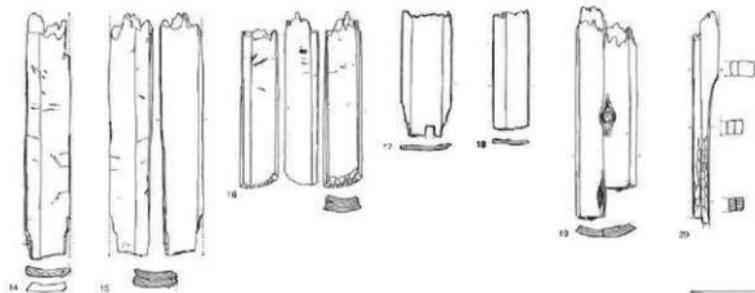


第 98 図 2区15-2-1層水田(15B)出土遺物集成図



第 99 図 2区15-2-2層水田(15C)出土遺物集成図(1)

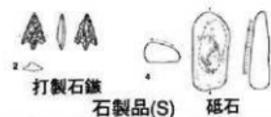
2区(15C)



角柱



建築・土木材(KD)



打製石鏃

石製品(S)

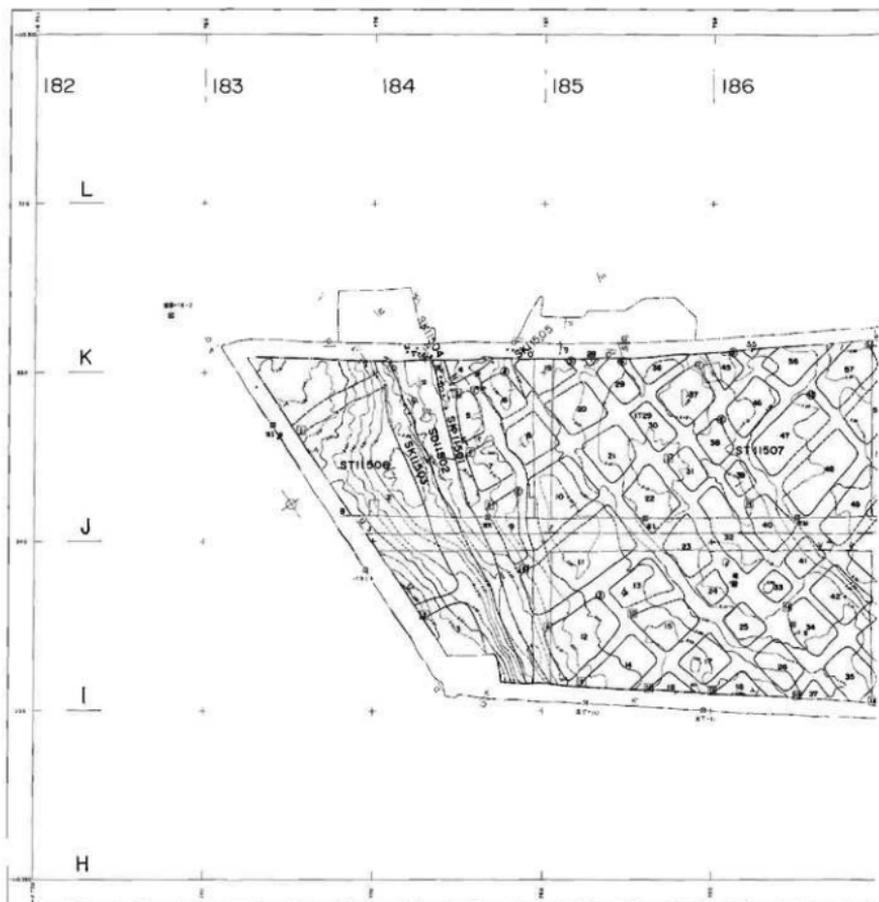
砧石

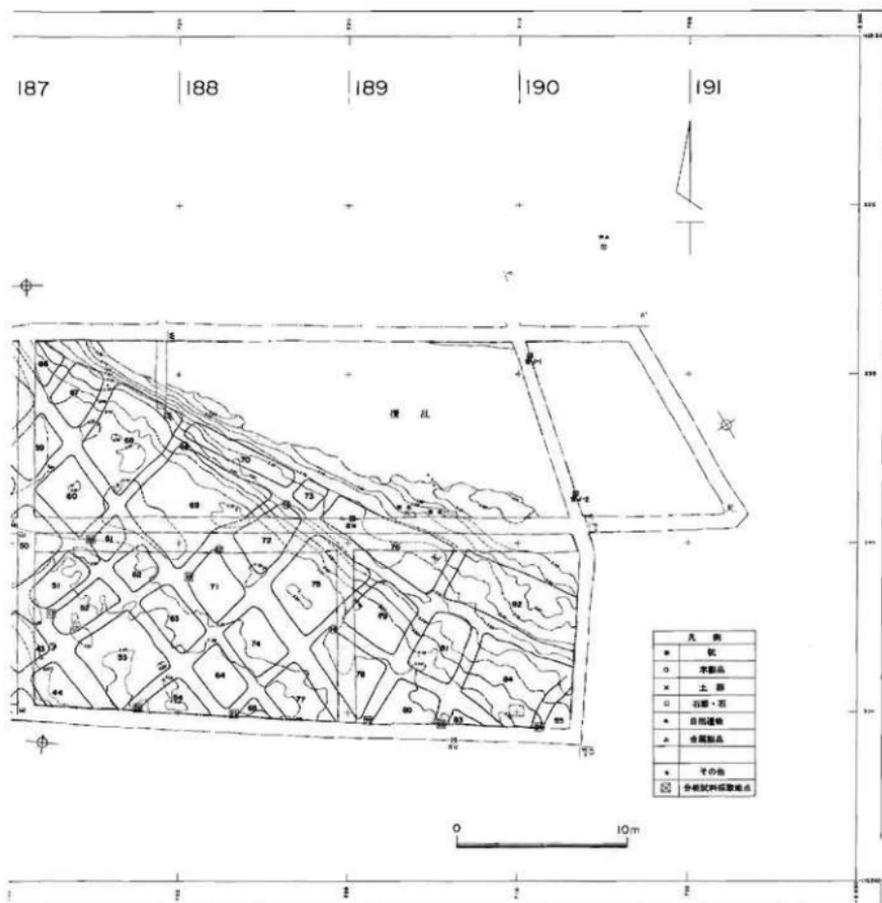
用途不明
木製品(FU)



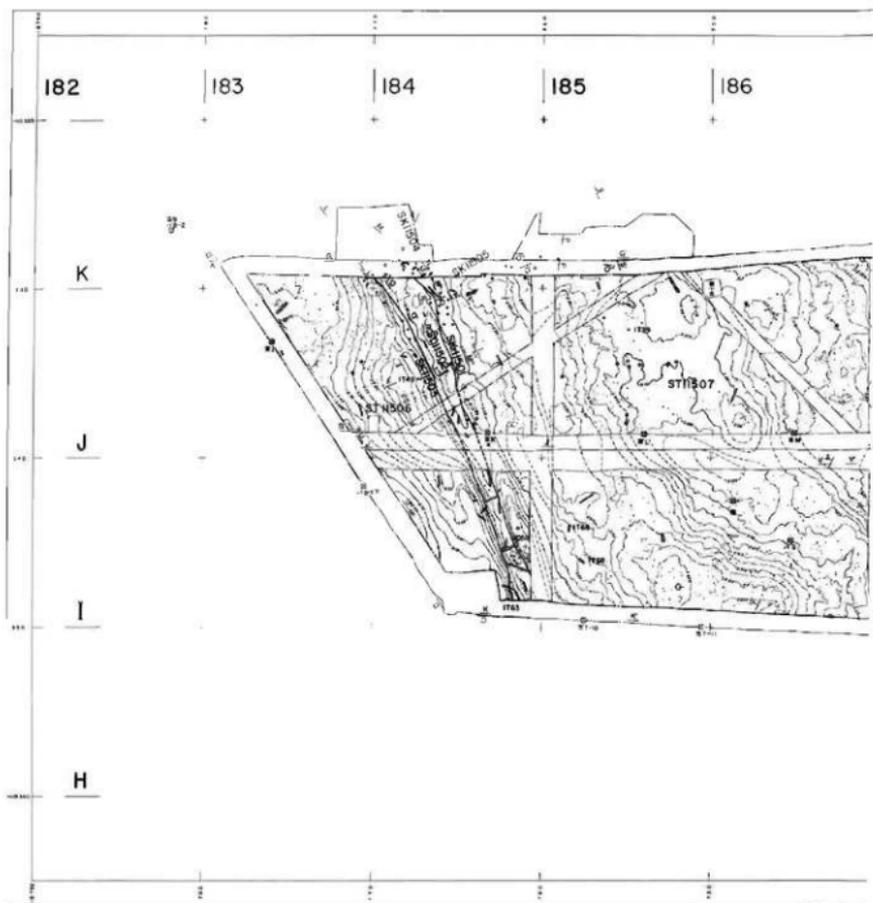
その他の土器(P)

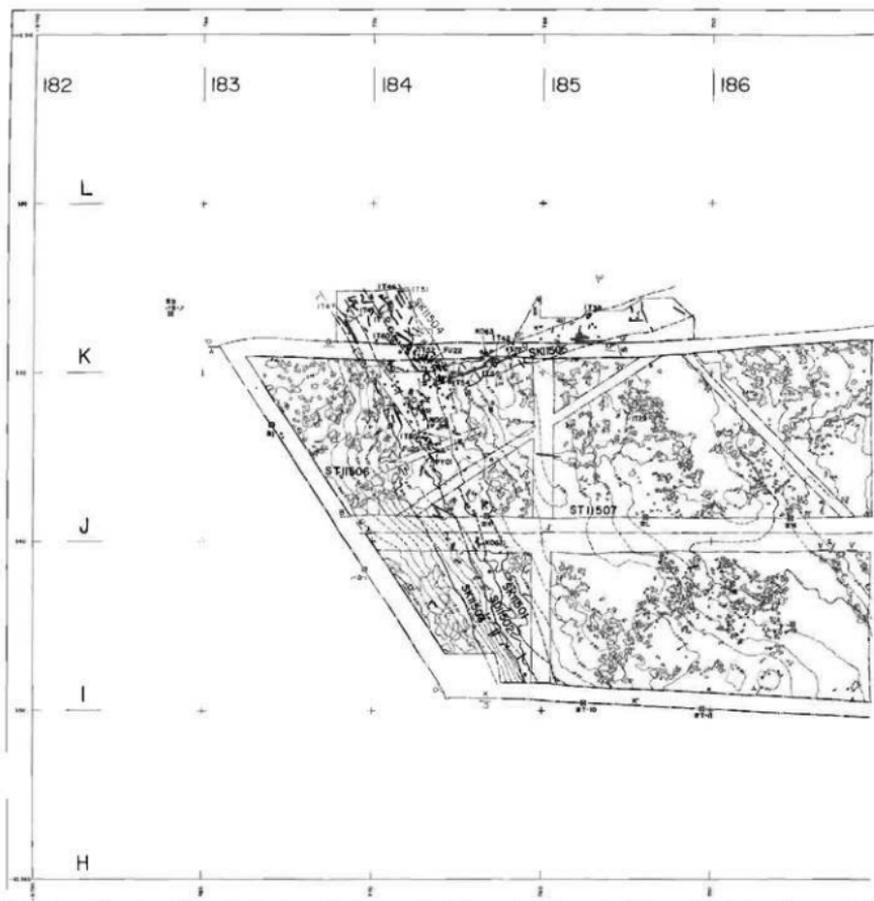
第100図 2区15-2-2層水田(15C)出土遺物集成図(2)

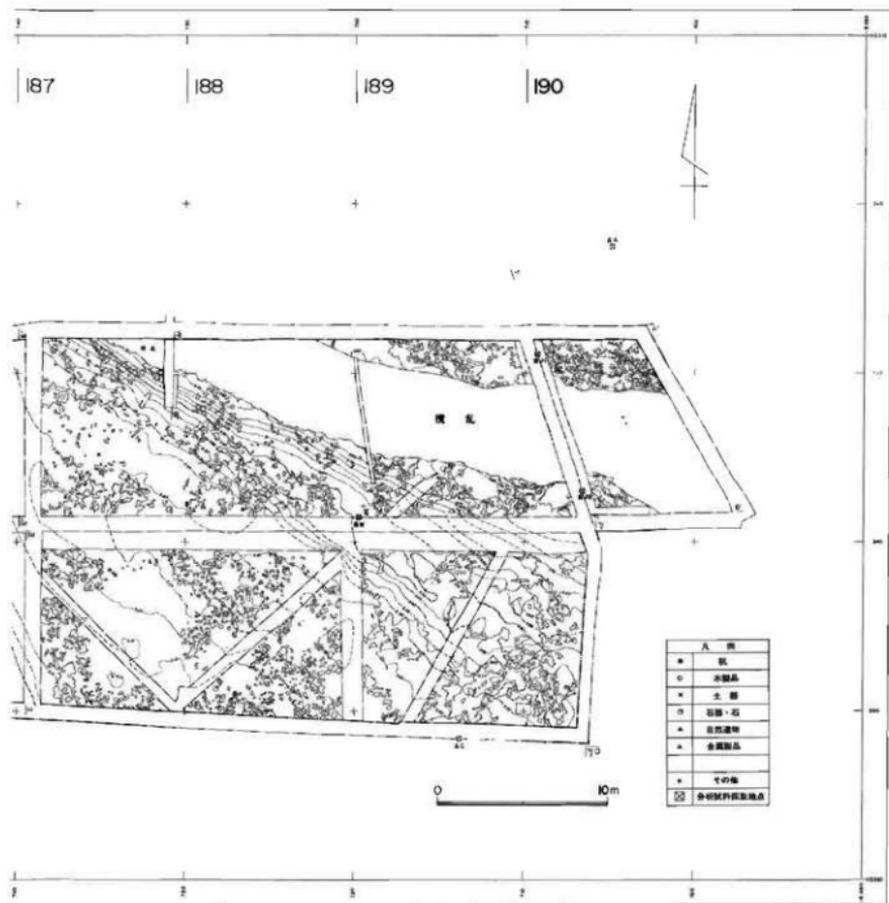




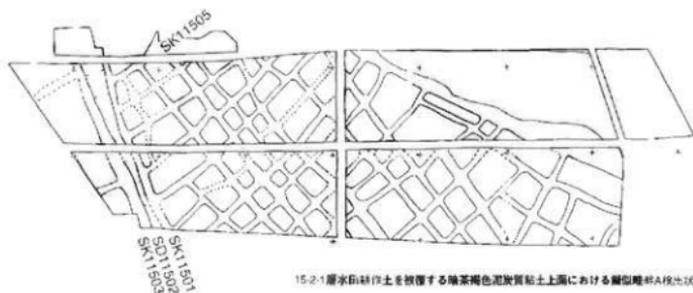
第101図 1区15-2-1層水田(15A)全体図



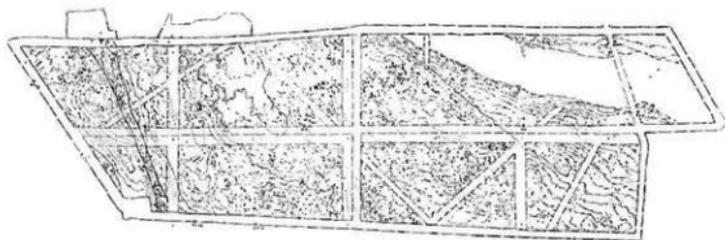




第103図 1区15-2-2層水田(15C)全体図



15-2-1層水田耕作土を被覆する暗茶褐色泥炭質粘土上面における層位略称A検出状況(15A)



15-2-1層水田耕作土下面における火山灰粒子分布状況(15B)



15-2-2層水田耕作土下面における黄褐色泥炭粒子分布状況(15C)

第104図 1区15層水田検出状況

第6表・1区15-2-1層水田擬似畦畔A(15A)計測表(1)

水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H				
1		3.53	[1]		[5.8]			8	(13)	44		3.25	[4.3]	[1.5]	(3.35)		B	8	(5)		
2		3.64	(13.7)		[5.8]	[2.75]		B	9	(35)	45		3.17	[1.55]	[3.25]		2.65	台形	12	(3)	
3		3.56	[6]		[2.75]				12	(8)	46	6.27	3.17	2.7	2.85	3.2	4.3	長方形	A	12	(3)
4		3.04		[2.15]		[3.6]			11	(5)	47	[10.9]	3.23	2.8	2.85	5.35	(5.55)	長方形	A	14	(7)
5	(3.44)	3.07	(3.2)	3.5	(1.2)	(2.1)	長方形	B	11	2	48	(10.64)	3.28	2.75	3.1	(5.55)	(5.55)	長方形	A	13	(5)
6	(4.21)	2.94	3.2	(3.2)	2.2	(3)	長方形	B	9	2	49	(7.31)	3.31	(2.75)	(2.5)	(5.55)	(5.25)	長方形	A	14	(3)
7	(4.86)	3.09	(3.2)	3.4	(2.1)	2.8	台形	A	12	6	50	(13.89)	3.35	(3.9)	(3.85)	(5.25)	(4.85)	長方形	A	15	(8)
8	(5.91)	2.96	3.2	(3.2)	(3)	3.4	台形	A	9	2	51	(6)	3.3	(2.6)	(2.1)	(4.85)	4.6	長方形	A	10	(5)
9	(5)	3.09	(5)	(4.6)	2.4	1.25	台形	B	13	(6)	52	6.43	3.28	2.5	2.05	4.6	4.85	長方形	A	4	(5)
10	(13.96)	2.95	3.8	(5)	3.4	(4.85)	台形	A	8	(7)	53	(17.86)	3.25	4.9	(5.4)	4.85	(5.3)	正方形	C	7	(4)
11	(20.67)	2.98	(3.9)	3.5	(7.15)	(8.1)	長方形	A	15	(5)	54		3.25	[3.7]		[4.1]				5	(2)
12	(12.47)	3.07	3	(4.3)	4.2	[4.95]	台形	A	14	9	55		3.23		[1.55]		[1.6]			15	
13	(5.88)	2.99	3.3	2.25	4	(4)	台形	A	10	2	56		3.31		2.7	[1.6]	[5.4]		A	23	(6)
14		3.01	3.15		[4.65]	[2.35]		A	12	(10)	57	(8.1)	3.32	[1.6]	2.8	[3.5]	(4.5)	長方形	A	15	(6)
15	(7.06)	2.97	2.4	4	(4)	3.55	台形	B	12	6	58	(7.21)	3.31	(2.45)	2.75	(4.5)	(4.35)	長方形	A	14	(2)
16		2.92	[2.75]		[2.35]				11		59	(7.30)	3.33	3.1	(2.75)	(4.35)	(3.95)	台形	A	9	(4)
17	5.11	2.96	3	2.75	3.55	3.1	長方形	A	11	5	60	(10.53)	3.37	4.6	(4.4)	(3.95)	(3.3)	台形	B	12	(3)
18		2.92	[3.1]		[3.05]				10	(1)	61	(3.73)	3.32	(2.35)	(2.15)	(3.3)	(3)	長方形	A	6	
19	(6.18)	3.05	3.4	3.2	3.4	3.5	正方形	C	12	(2)	62	(4.4)	3.33	(2.75)	2.5	(3)	2.9	正方形	C	6	(2)
20	(6.69)	3.05	3.15	3.2	(3.5)	3.5	正方形	C	13	4	63	8.32	3.31	4.5	4.9	2.9	2.75	長方形	B	6	(5)
21	6.37	3.11	2.9	3.8	3.5	3.15	台形	B	14	3	64	6.77	3.25	4	(4.1)	2.75	[2.7]	長方形	B	5	(3)
22	(7.35)	3.15	3.8	(3.9)	3.15	(3.4)	台形	B	14	(5)	65		3.28	[2.2]		[2.35]				8	(2)
23	(6.08)	3.13	(3.9)	(3.3)	(3.4)	(2.7)	台形	B	13	(2)	66		3.49	[1.2]	[4.2]		3	台形	B	15	(5)
24	(2.3)	3.16	2.2	2.4	(2.7)	2.65	正方形	C	14	1	67	7.23	3.43	2.6	3.1	3	4.35	台形	A	14	(19)
25	3.75	3.12	3.05	3	2.65	2.8	長方形	B	14	4	68	21.88	3.4	5.2	4.6	4.35	7	台形	A	11	(22)
26	5.12	3.01	3.3	(3.6)	2.9	(2.65)	長方形	B	13	6	69	(32.28)	3.39	6.95	(5.85)	5.5	(8)	台形	A	8	(15)
27		3.02	[2.2]		[2.4]				6		70	7.43	3.62	7.3	6.95	1.35	1.65	長方形	B	5	(10)
28		3.06		[1.2]		[1.3]			11		71	(8.18)	3.36	(3.7)	4.5	(3.5)	3.6	台形	B	4	(2)
29	(3.88)	3.11	[3.4]	3.15	[2.2]	2.1	長方形	B	13	(4)	72	(9.21)	3.41	(2.35)	(3.7)	(4.45)	(5.15)	台形	A	6	(20)
30	4.21	3.16	3.45	2.9	2.1	2.25	長方形	B	17	2	73	2.30	3.65	2.3	(2.35)	1.65	(2.2)	正方形	C	9	(2)
31	3.5	3.14	2.85	3.05	2.25	2.25	長方形	B	14	1	74	9	3.35	4.3	4	3.6	3.4	長方形	B	5	(4)
32	(8.21)	3.15	(6)	(6.15)	2.25	2.5	長方形	B	14	(3)	75	(19.05)	3.4	(5.2)	4.3	(5.15)	(6.65)	台形	A	12	(12)
33	2.35	3.19	2.3	2.35	2.5	2.45	正方形	C	14	3	76	(19.33)	3.64	(8)	(8.7)	(2.15)	(3.8)	台形	B	7	(7)
34	5.94	3.1	4	4	2.45	2.7	台形	B	9	2	77		3.3	[5.15]	[2.2]	3.4			B	6	(10)
35	(6.4)	3.07	(3.5)	[2.2]	2.7	[1.8]	長方形	B	7	(5)	78	(12.01)	3.41	(4.8)	(5.85)	2.6	(4.55)	台形	B	9	(16)
36		3.1	[2.55]		[3.8]				12	(1)	79	(11.57)	3.43	3.5	(4.8)	(4.1)	4.1	正方形	C	7	(14)
37	(7.2)	3.07	3.1	3.45	3.65	3	台形	A	11	6	80		3.38	3.55		[3.8]	[1.8]			7	(3)
38	3.42	3.13	2.85	2.85	2.5	2.15	台形	B	13	2	81	9.93	3.46	3	3.55	4.1	4.7	長方形	A	2	(14)
39	(2.34)	3.12	2.5	2.1	2.15	(2.1)	長方形	B	11	6	82		3.74	[6.9]	[9]	3.8			B	11	(15)
40	(5.78)	3.12	(3.5)	(3.9)	(2.1)	(2.75)	長方形	B	12	(10)	83		3.4	[3.2]		[1.8]				6	
41	(3.18)	3.19	(2.5)	2.3	(2.75)	2.95	長方形	A	12	(9)	84	(21.6)	3.53	[6]	[3.2]	4.7	[6.9]	台形	B	7	(15)
42	(6.76)	3.14	(3.85)	4	2.95	(3.15)	長方形	B	8	(10)	85		3.53			[4]				6	(3)
43	(8.12)	3.21	(4.1)	(3.5)	(3.15)	(3.35)	長方形	B	8	(15)	平均	8.42	3.23							1042	6.53

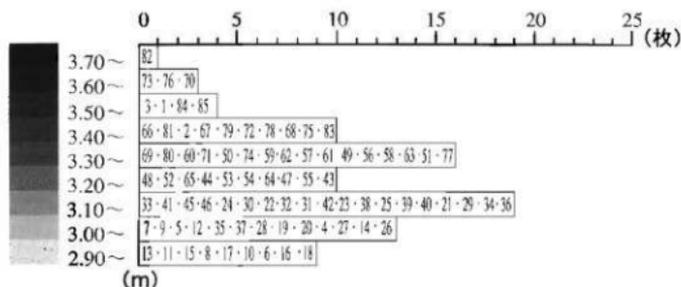
水田計測表

A 面積 (㎡) B 平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東道、下段が西道 D 東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北道、下段が南道 E 形状
 F 主軸方向 (A東西、B南北、Cその他) G 下段の水田面から高田田までの標高差 (cm) H 小區内別高さ差 (cm) : 上記の数値で、長さが測定できるものは
 ()、測定できないものは検出値を [] で示す。

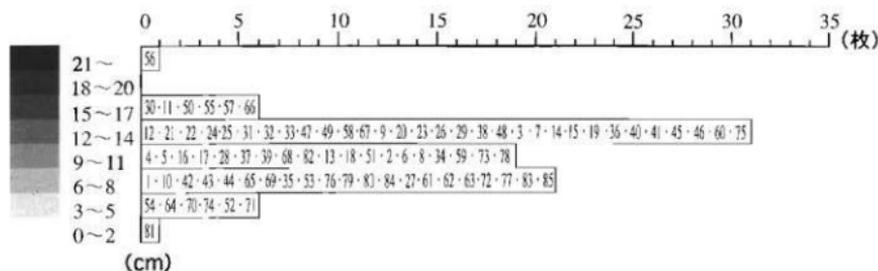
第7表 1区15-2-1層水田疑似畦畔A(15A)計測表(2)

道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛土	A	E 29. 5° N		[5.8]	0.83		2	11	
2小	盛土	A	E 22° N		[2.75]	0.8		15	3	
3小	盛土	A	E 29. 5° N		[3.6]	0.7		1	-1	SK11505
4小	盛土	A	E 32° N		[9.9]	0.5		-0.1	-3	
5小	盛土	A	E 32° N-E 30. 5° N		[15.26]	0.7		2	1	
6小	盛土	A	E 40° N		10.3	0.7		4	5	
7小	盛土	A	E 43. 5° N		[9.55]	0.71		1	-2	
8小	盛土	A	E 36° N-E 46. 5° N		[24.85]	0.74		-0.4	-0.4	
9小	盛土	A	E 45. 5° N		[4.65]	0.6		-2	4	
10小	盛土	A	E 22. 5° N-E 40° N		(6.7)	0.55		2	1	
11小	盛土	A	E 34° N-E 46. 5° N		(12.15)	0.65		1	-0.1	
12小	盛土	A	E 44° N		[26.7]	0.79		-0.4	2	
13小	盛土	A	E 41. 5° N		[5.95]	0.72		-2	6	
14小	盛土	A	E 44. 5° N		18.95	0.6		0	2	
15小	盛土	A	E 55° N-E 45° N		[13.3]	0.65		-5	0.2	
16小	盛土	A	E 45. 5° N-E 58° N		10.15	0.57		2	2	
17小	盛土	A	E 40° N		7.6	0.42		0.1	1	
18小	盛土	A	E 45° N-E 35° N		12.9	0.6		3	3	
19小	盛土	A	E 48. 5° N-E 38° N		(9.6)	0.6		2	1	
20小	盛土	A	E 43° N-E 53° N		[17.75]	0.69		-1	1	
21小	盛土	A	E 43° N		[12.45]	0.54		2	1	
22小	盛土	A	E 61° N		[11.7]	0.85		3	-1	
23小	盛土	A	E 67° N		[6.5]	0.78		6	1	
24小	盛土	A	E 66° N-E 41. 5° N		[4]	0.75		2	2	
SK11501	大	柱列	B	N 24. 5° W	[18.55]	0.95		8		
SK11503	大	柱列	B	N 23. 5° W	[20.7]	1.34			-23	
SK11504	大	柱列	B	N 24. 5° W	[20.5]	0.6		6		
1小	盛土	B	N 33. 5° W-N 25° W		(6.1)	0.83		9	-3	
2小	盛土	B	N 30° W-N 3. 5° W		(5)	0.5		11	-4	
3小	盛土	B	N 45° W		18.9	0.6		-3	-6	
4小	盛土	B	N 40° W		[25.4]	0.82		-6	7	
5小	盛土	B	N 40. 5° W		[25.7]	0.93		0.1	5	
6小	盛土	B	N 43° W		[26.7]	0.52		-5	1	
7小	盛土	B	N 30° W		[3.2]	0.6		-2	8	
8小	盛土	B	N 40° W-N 45° W		[23.6]	0.87		-2	9	
9小	盛土	B	N 53° W		[4.25]	0.6		-4	29	
10小	盛土	B	N 40° W		[25.9]	0.7		1	2	
11小	盛土	B	N 36. 5° W		[27.55]	0.67		-4	5	
12小	盛土	B	N 34° W		[13]	0.11		-4	3	
13小	盛土	B	N 58° W		[11.55]	0.82		-6	2	
14小	盛土	B	N 50° W-N 62. 5° W		6.95	0.55		-2	21	
15小	盛土	B	N 68° W-N 55° W		[20.05]	0.77		-6	17	

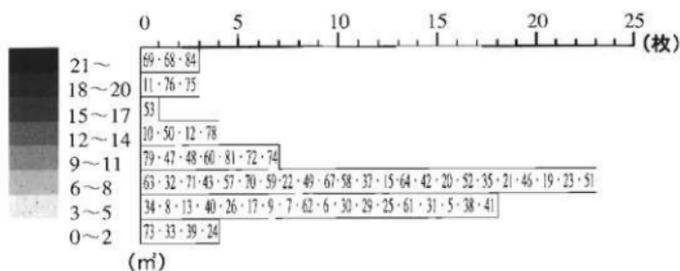
畦畔計測表
A畦畔長(大、中、小) B畦畔測定(柱列、盛土、削出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E検出長(m):測定長()、完結しないものは[] F検出面での上層幅(m) G検出面での下層幅(m) H・I田面比高差(%)



水田面の平均標高

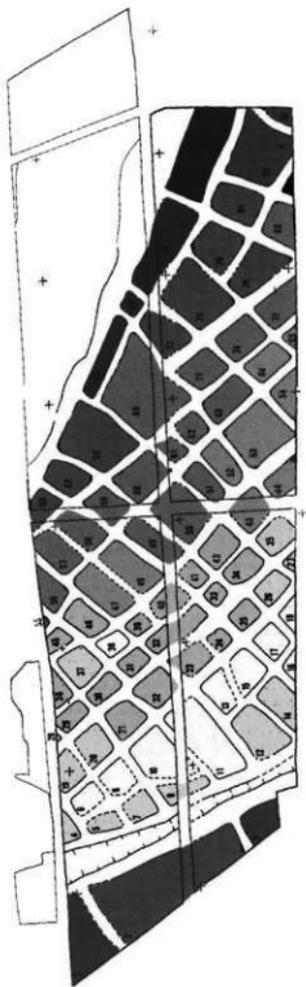


堆積量 (水田耕作土の厚さ)

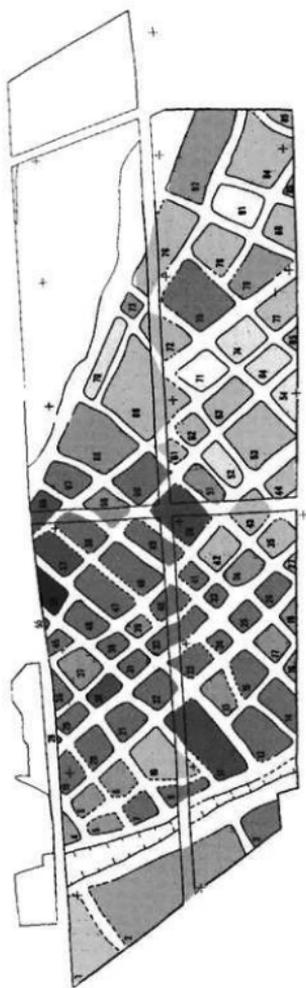


第105図 1区15-2-1層水田(15A)水田分析グラフ

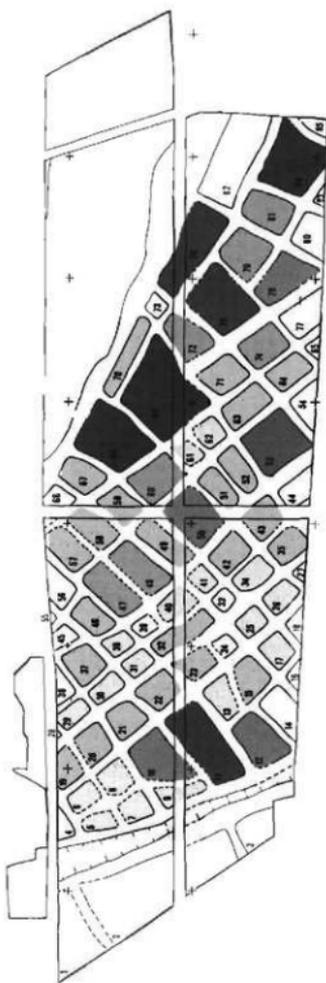
水田面積



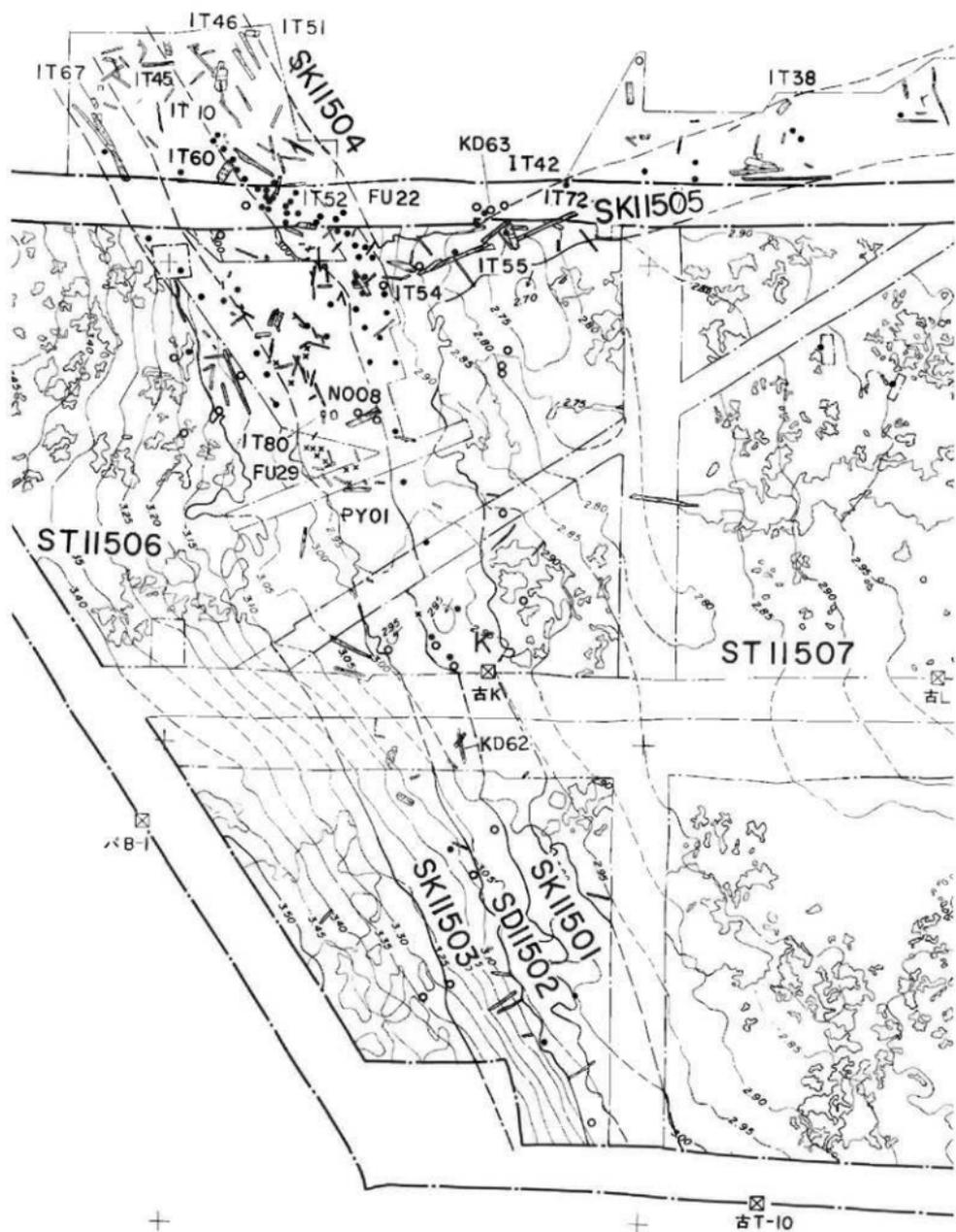
第106図 1区15-2-1層水田(15A)水田標高分析図



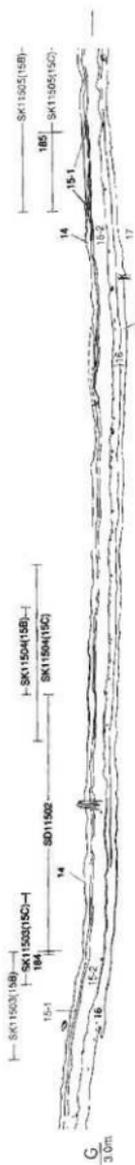
第107図 1区15-2-1落水田(15A)水田地積量分析図



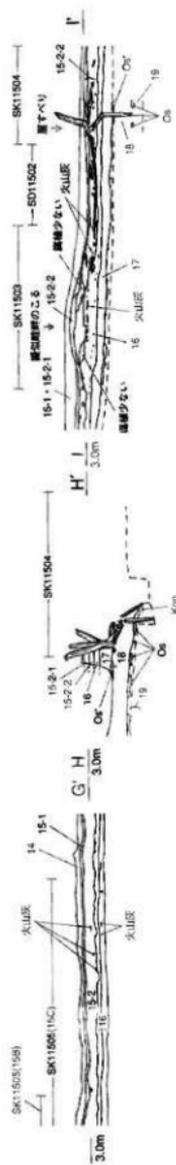
第108图 1区15-2-1層水田(15A)水田積分析図



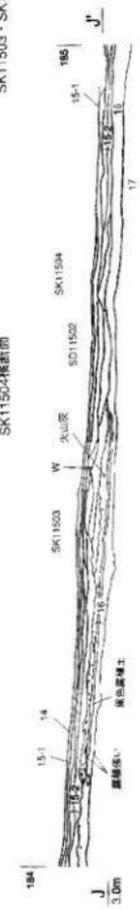
第109图 1区15-2-1 澗水田(15A) 杭列大陸群 集中部平面图



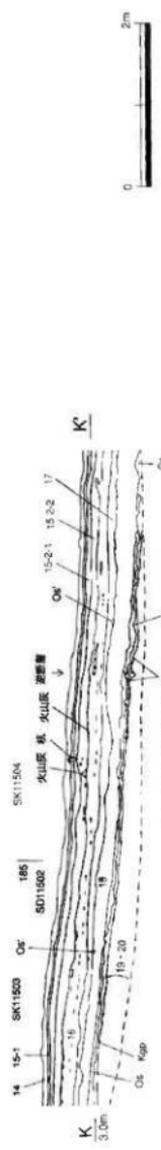
SK11503・11504、SD11502横断面・SK11505斜横断面



SK11503・SK11504、SD11502横断面



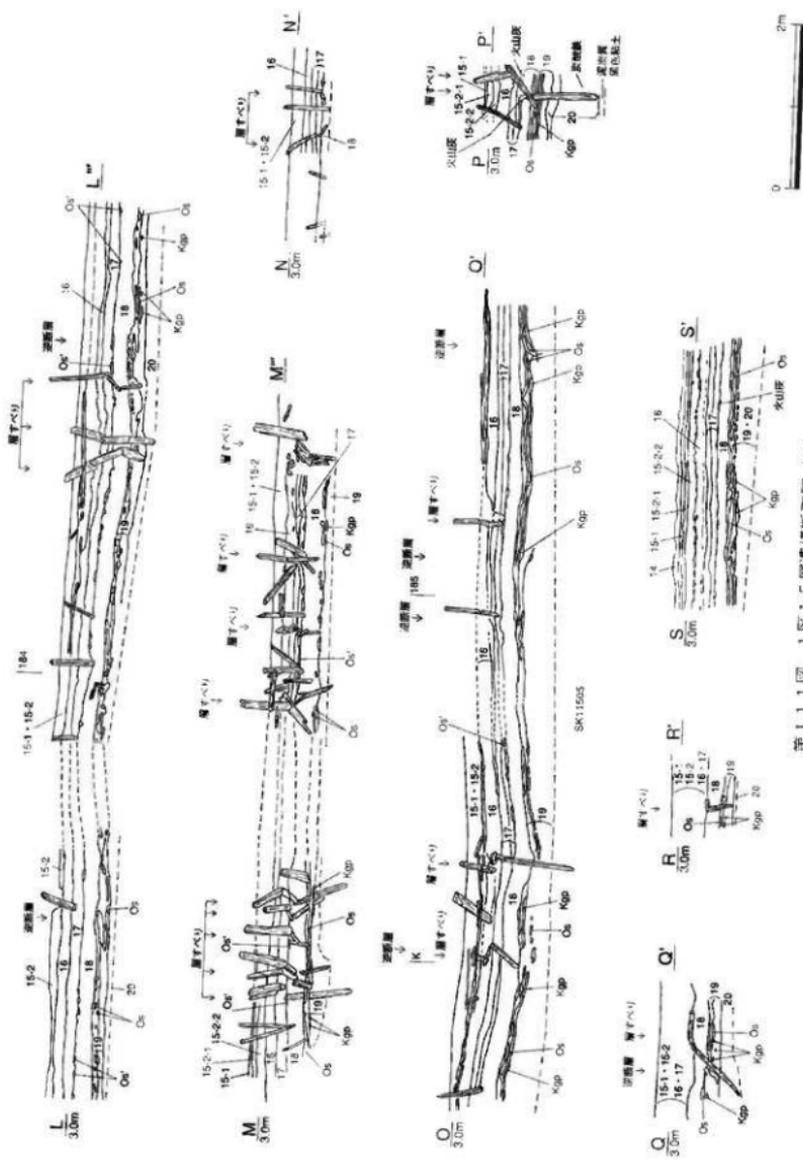
SK11503・11504、SD11502横断面



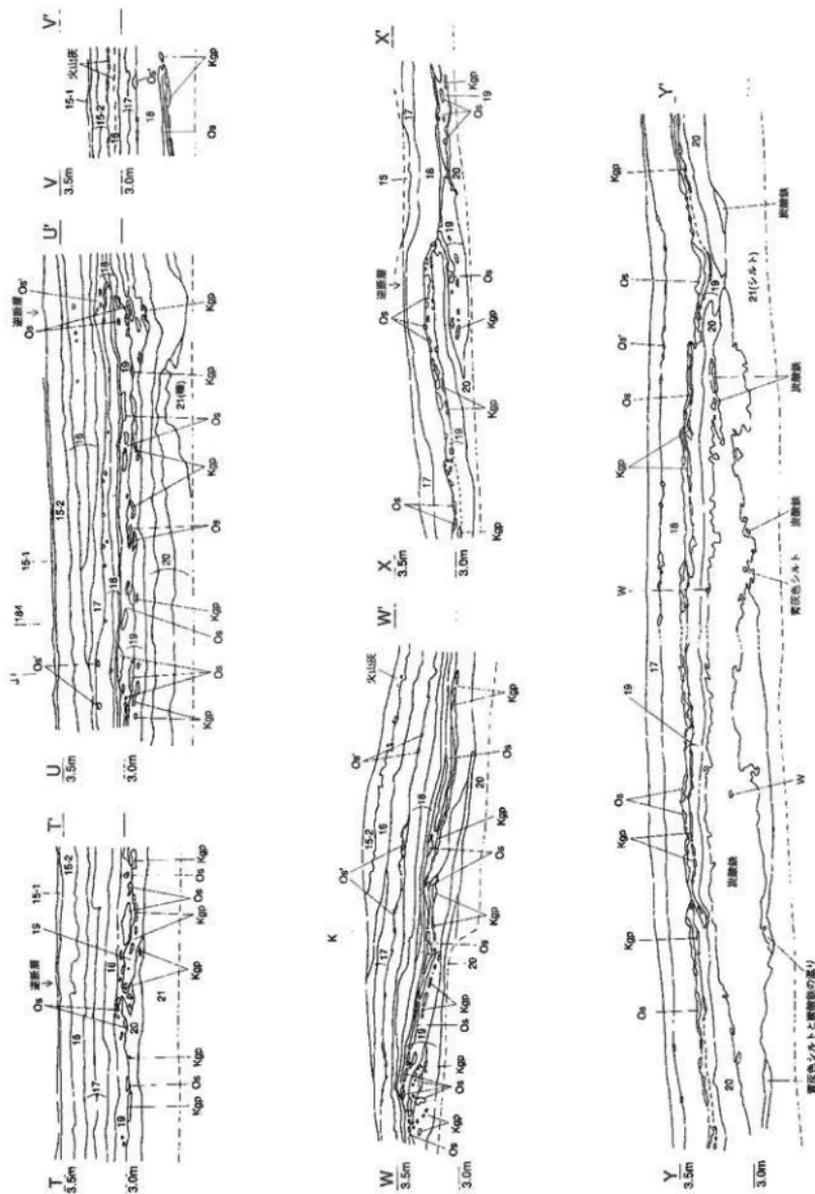
SK11503・11504、SD11502横断面

第110図 1区15層邊横断面図(1)

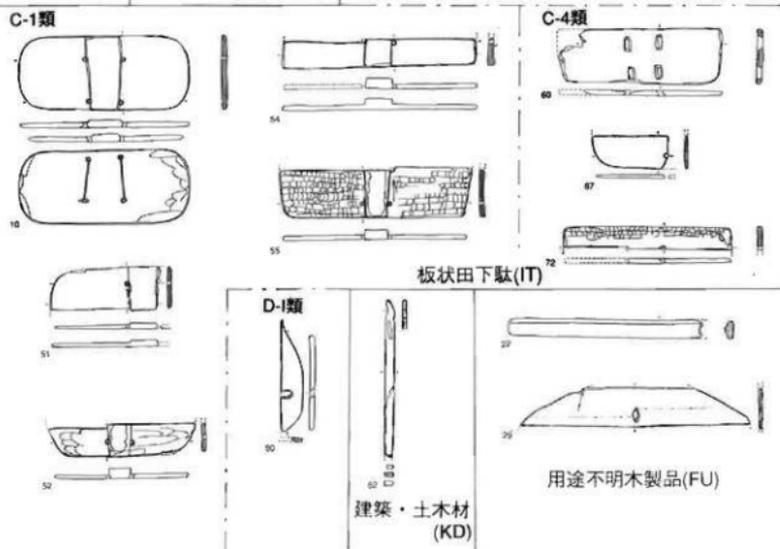
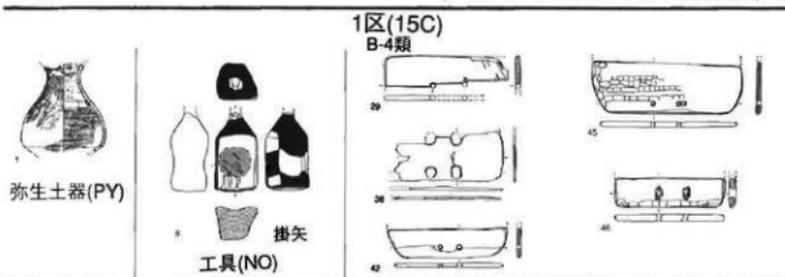
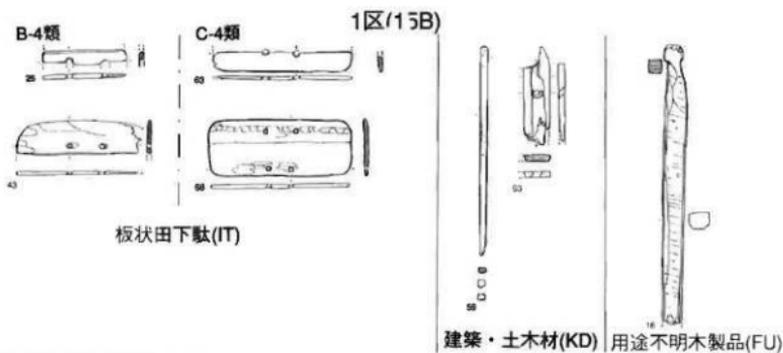




第111图 1区15層構造断面図(2)



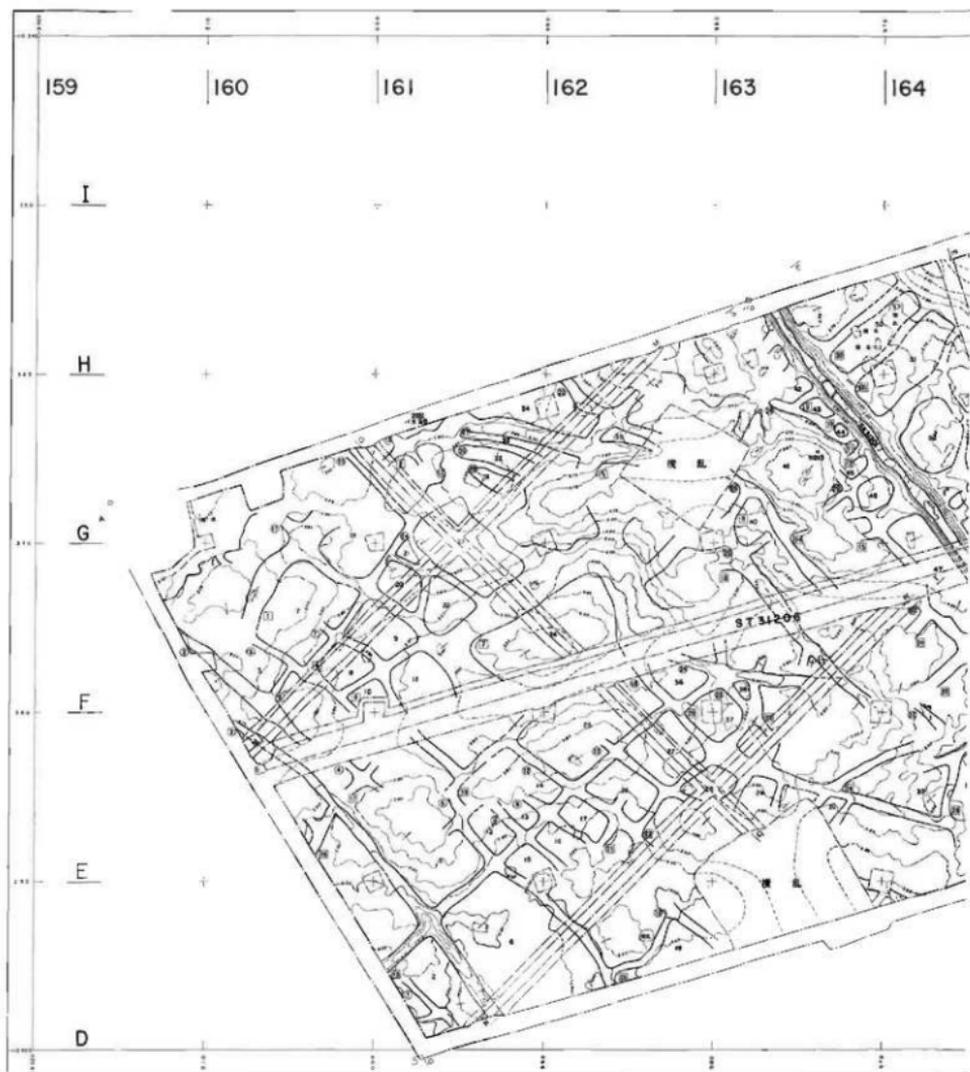
第112図 1区15層断面図



第113図 1区15-2-1層水田(15B) 15-2-2層水田(15C) 出土遺物集成図(1)

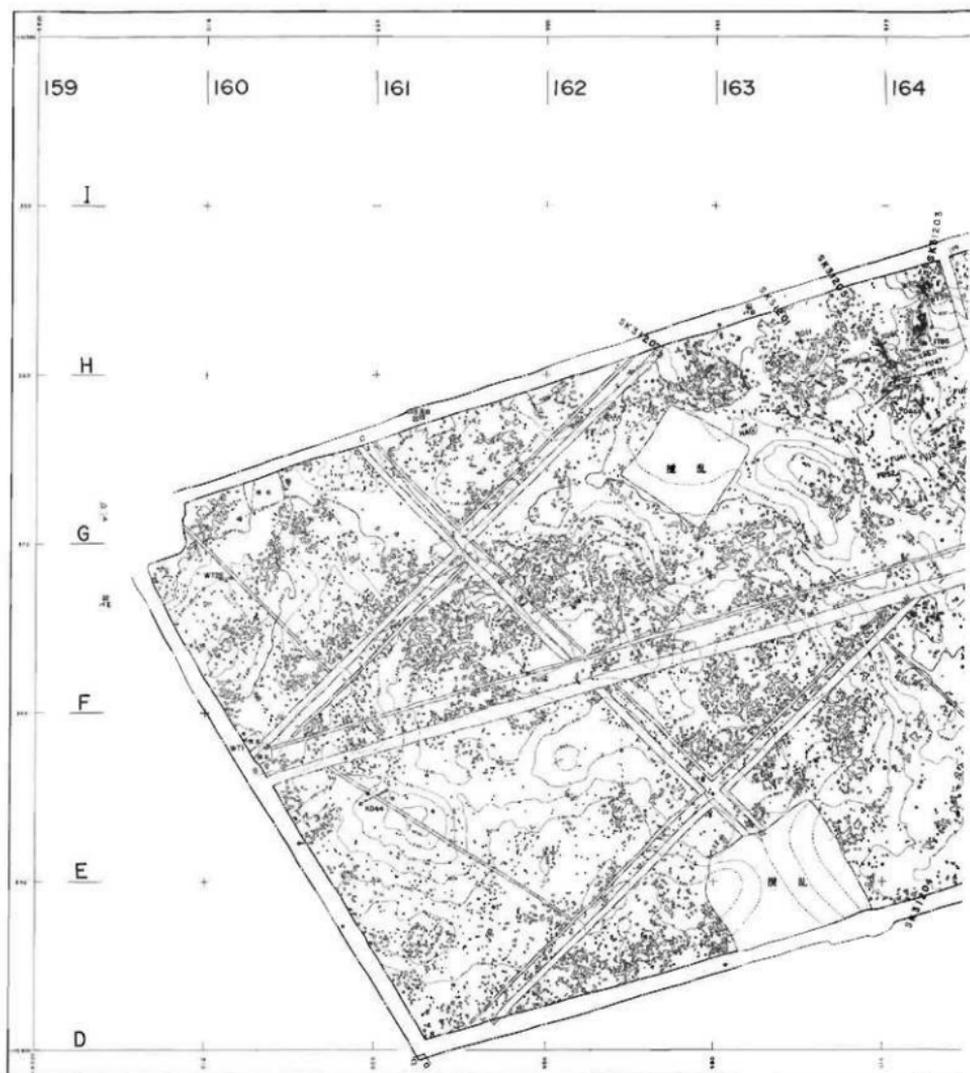


第 115 图 1 2 层水田地形起伏变通图



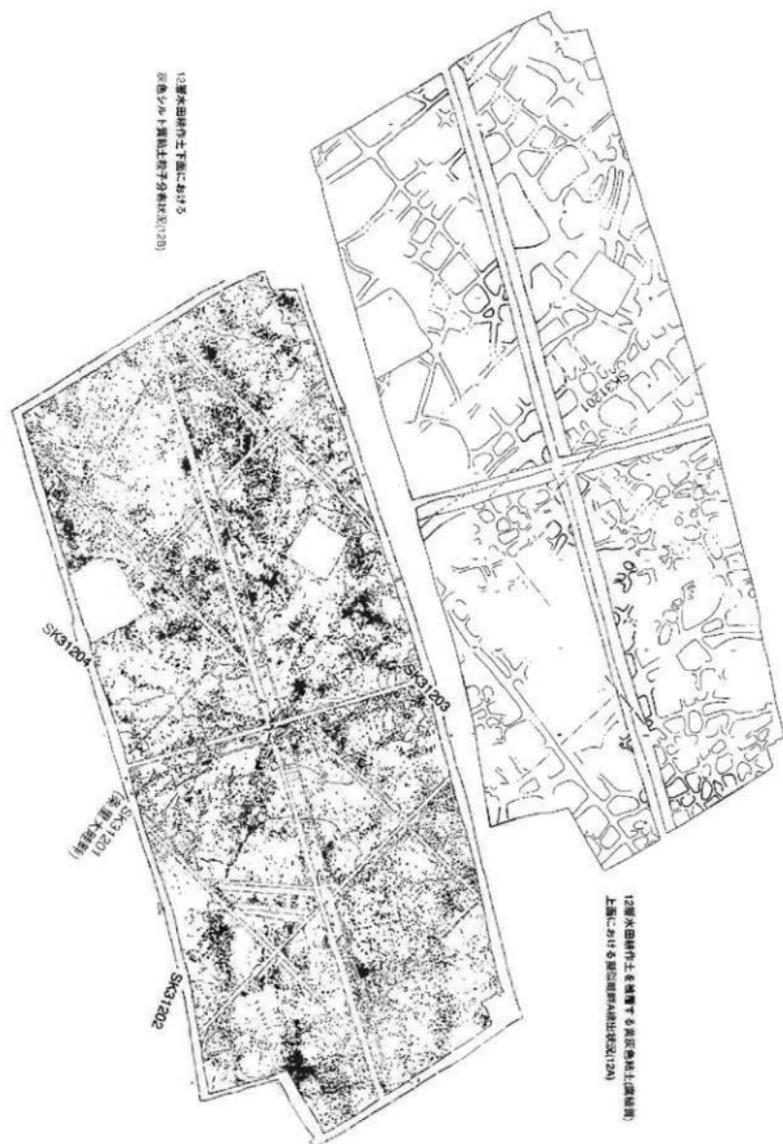


第116図 3区12層水田(12A)全体図





第117图 3区12層水田(12B)全体図



第118図 3区12層水田検出状況

第8表・3区12層水田擬似畦畔A(12A)計測表(1)

水田 番号	水田								水田 番号	水田												
	A	B	C		D	E	F	G		H	A	B	C		D	E	F	G	H			
1		6.02	(8.9)		[2.85]	[3.8]			21	(15)	46	3.14	5.76	2.5	1.45	2.1	2.9	楕円形	C	30	6	
2		6.05	[6.1]		[3.8]				22	(9)	47	(17.82)	5.78	(8)	(8.9)	2.6	2.6	長方形	B	31	(7)	
3		5.72	[2.7]	[6.25]		2.9			24	(8)	48	3.68	5.81	3.3	3.4	1.8	1.75	長方形	B	30	1	
4		5.82	[4.4]	[2.45]	2.9				24	(5)	49		5.77	[1.9]	2.1	1.75	[1.3]			32	(6)	
5		5.89	3.25		[1]	5.1			16	(10)	50	(9.9)	5.78	1.75	2.6	(6.45)	(6.65)	長方形	A	31	(5)	
6		6	[10.2]	[6.1]	5.1				18	(4)	51	(15.18)	5.75	(2.5)	3.6	(6.55)	(7.3)	長方形	A	32	(13)	
7	[21.96]	5.77	[4.7]	[4.3]	[6.5]			長方形	A	21	(14)	52	(11.86)	5.68	2.8	4.4	3.9	(11.65)	楕円形	C	29	(9)
8		5.88	[1.5]	[1]		2.95			24	(1)	53	1.76	5.62	2.6	2.7	2.8		その他	B	30	3	
9	(8.83)	5.88	(4.65)	(3.4)	3.5	3.3	長方形	B	24	(2)	54	(2.18)	5.83	2.7	(3.05)	(1.75)	0.95	長方形	B	34	(5)	
10		5.87	[1.6]	[1.2]	2.95				24	(2)	55	(4.1)	5.83	2.9	(3.5)	(2.75)	1.75	長方形	B	31	(18)	
11		5.91	[3.3]	[2.3]	3.3				15	(4)	56	(2.01)	5.75	1	1.05	(3.3)	(3.4)	長方形	A	31	(4)	
12	(4.38)	5.91	(3.3)	3.25	(2.2)	2.4	長方形	B	11	(5)	57	(1.74)	5.8	1.2	(1.6)	(1.8)	(1.55)	台形	C	32	(6)	
13		5.92	[1.7]	[2.15]		2			16	(4)	58	1.39	5.74	1.7	0.95	1.4		台形	C	31	(3)	
14		5.84	[2.95]	[1.6]		2.1			14	(2)	59	1.61	5.77	2.6	2.4	1.8	1	長方形	B	31	3	
15		5.98	[2.9]	(5.5)	2.4				16	(1)	60	0.51	5.74	2.1	2.4	0.8	0.45	長方形	B	34	2	
16		5.97	[3]	[2.9]	2				14	(1)	61	1.73	5.66	1.5	2.7	2.6	0.95			31	10	
17	4.43	5.94	3.3	3.5	2.1	2.3	長方形	B	12	2	62		5.57	[1]	[0.7]		1			29	(5)	
18		5.95	[3.35]	[0.7]	5.8				15	(3)	63		5.6	[0.9]	[0.95]	1.1				30		
19		5.79	[1.35]	(4.75)	[2.35]	4.6			29	(6)	64		5.6	[1.2]	[0.9]	1.1				31		
20	(5.45)	5.77	(2.2)	(3.5)	2.35	(3.1)	台形	B	29	(8)	65		5.51	[2.2]	[1.15]	2.1				31	(4)	
21	(1.05)	5.76	(2.8)	(2.15)	1.7		その他	B	30	(1)	66		5.47	[0.4]	[0.9]	1.9				34	(4)	
22	(7.15)	5.83	(4.1)	1.95	(3.05)	3.9	台形	B	20	(10)	67		5.69	(2.35)	2.3	(2.2)	2.3			31	(3)	
23	[20.12]	5.79	(6.8)	(6.4)	(4.4)	(4.2)	長方形	B	25	(14)	68	0.34	5.71	1.25	1.25	0.7	0.7	長方形	B			
24		5.87	[5]	[2.7]	(9.2)				16	(16)	69	0.62	5.62	1.3	1.05	1.45	1.2	正方形	C	37	3	
25		5.84	[2.4]	(4.7)	[2.1]				15	(21)	70	(2.98)	5.63	2	(2.35)	(2.7)	(1.65)			39	(5)	
26	(8.62)	5.88	3.75		3.45	3	長方形	B	12	(9)	71	(0.89)	5.32	(1.55)	1.3	1.05	(1.3)	台形	B	37	(5)	
27	(12.07)	5.87	4.1	3.75	(4.35)	(3.9)	正方形	C	10	(11)	72	0.32	5.31	1.15	0.95	1.3		その他	A	41		
28		5.92	(2.05)	[0.85]	[3.55]	[1.35]			(14)	73	1.32	5.32	1	(2.45)	(2.45)	1.4					0.3	
29		5.94	1.8		[2.3]	[2]			12	(1)	74		5.35	(1.8)	1.55	1.4	(2.4)			46	(5)	
30		5.85	1.45		[1.4]	[2.1]			20	(1)	75	(0.75)	5.39	(0.9)	1.2	1.8	(1.3)	長方形	B	44	(0.1)	
31		5.88	[1.3]	[2.1]	1.8				29	(4)	76	0.66	5.4	0.9	1.2	1.3	1.35	台形	A	42	0.2	
32		5.86	[4.7]	[3.2]	1.4				29	(2)	77	(2.09)	5.48	2.8	(2.05)	1.55	(1.55)	長方形	B	35	(2)	
33		5.83	(7.6)	[4.7]	1.65	[1.1]			28	(2)	78	(2.15)	5.32	1.85	(2.1)	2.1	(1.8)	長方形	B	46	4	
34		5.82	[3.6]	[8.1]	2.4				29	(9)	79		5.34	[2.8]	[2.65]	1.1				44	(8)	
35		5.78	[2.5]	[2.6]	2.4				32	(10)	80		5.49	[2.5]		[1.3]	[2.35]			37	(2)	
36		5.92	[2]	[2.7]		3.3			19	(2)	81	(1.17)	5.49	1.7	[0.2]	(0.85)	1	台形	C	39	(2)	
37	6.74	5.94	3.8	3.6	3.3	3	正方形	C	15	5	82	1.75	5.5	1.9	1.65	1.6	2	正方形	C	41	2	
38	0.74	5.95	2.15	3.8	1.9		その他	B	19	1	83	1.86	5.48	2.45	1.55	1.95	1.35			45	1	
39		5.85	3.75	7.05					24	(12)	84	2.61	5.44	2.9	1.4	2.45	1.95	台形	B	44	2	
40		5.79		2.1	2.75	2			24	(6)	85	(3.05)	5.42	(3.35)	(3.15)	(1.7)	1.6	長方形	B	43	(0.6)	
41		5.6		(5.6)	[2.3]	(4.65)			26	(18)	86		5.55	1.7		[1.1]	[1.3]			33	(0.2)	
42		5.82	1.6	1.75	(2.7)	1.9			35	(3)	87		5.3	(0.85)	[1.15]	1.6				38	(0.7)	
43	(1.35)	5.82	2	2.25	1.9	1.15	台形	B	33	(3)	88		5.34	[2.6]	[1.2]	2.05				33	(10)	
44	0.44	5.75	1.35	1.4	1.15	0.9	長方形	B			89	2.2	5.34	3.25	2.85	2.05	1.25	長方形	B	31	1	
45		5.74	1.3	(1.6)	(2.35)	2.1			33	9	90		5.42	[6.2]	[6.15]		2.65			31	(13)	

水田計測表

A 面積 (m²) B 平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) D 東方向畦畔の長さ (m) E 土段が東向き、F 土段が西向き D 東西方向畦畔の長さ (m) I 土段が北向き、J 土段が南向き K 形状
 F 下向き (A 南向、B 北向き、C その他) G 下向きの水田面から専断田面までの堆積量 (cm) H 小區内南北点差 (cm) I 上記の数値で、長さが測定できるものは ()、測定できないものは抜出欄を [] で示す。

第9表・3区12層水田擬似畦畔A(12A)計測表(2)

水田番号	水田番号								水田番号	水田番号											
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H				
91	0.43	5.32	1.15	1.4	1.15	0.4	その他	C	37	118	5.67	2.05	[2.7]				27	(6)			
92	0.21	5.33	1.3	1.15	0.6	0.45	長方形	A	33	119	5.69	[0.75]	[0.85]	1.75			34	(1)			
93	1.87	5.37	1.7	1.95	1.85	1.45	台形	A	33	5	120	5.9	5.71	3.9	4.55	1.75	2.2	27	4		
94	(2.43)	5.4	1.2	(1.7)	2.15	(3.3)	楕円形	C	29	(0.8)	121		5.7		[3.2]	3.2		20	(5)		
95	(8.82)	5.44	(4.2)	3.9	3.85	2.4	台形	C	32	(7)	122	0.89	5.39	0.8	3.6	2.2	1.2	25	1		
96		5.52	[1.3]	[1.05]	2.9				37	(5)	123	(1.85)	5.42	2.65	(3)	1.2	1.4	長方形	B	23	(5)
97		5.64	[1.1]	[1.35]	2.85				36	(5)	124	(1.9)	5.4	(1.8)	(2.6)	1.3	1.3	長方形	B	22	(4)
98		5.69	[1.25]	[0.95]	0.85					(2)	125	2.11	5.42	2.1	2.9	1.6	2			22	6
99		5.57		[3.3]						(7)	126	(3.28)	5.58	2.1	2.8	(2.85)	2.1	正方形	C	29	(6)
100	(8.26)	5.4	[5.55]			(3.55)	台形	B	24	(5)	127	5.51		2.1	[1.7]	[1.7]				28	(7)
101	1.34	5.56	2.8	1.9	1.7	1.45	楕円形	C	31	2	128	(1.29)	5.59	0.95	1.2	(2.3)	(1.95)	楕円形	C	31	(2)
102	3.16	5.57	1.25	1.7	3.4	2.6	楕円形	C	34	6	129		5.59	[1]	0.7	[1.7]	1.7			29	(2)
103	(3.66)	5.61		3.4		2.25	台形	B	34	(4)	130	(2.64)	5.55	2	(2.05)	(1.35)	3.5			27	(8)
104	(4.8)	5.57	2.9		(2)	2.4	台形	B	35	(8)	131	2.02	5.6	1.95	0.95	1.7	2.7	楕円形	C	30	5
105		5.67	1.1	[1.1]	2.25	[0.95]			31	(2)	132		5.64		1.95	[0.95]	[1]			29	(1)
106		5.66	[1.3]	[0.9]	1.85				36	(3)	133		5.57	[2.8]	[2.3]	2.2				25	(5)
107		5.61	[2.2]	[1.4]	2.4				33	(5)	134	(1.75)	5.64	2.4	(1.5)	(1.2)	1.3	長方形	B	27	(2)
108			[0.55]	[0.6]	0.6						135	5.66		(1.55)	[1.8]	[1.2]				31	(0.2)
109	(3.13)	5.41	(2.35)	(2.2)	(2.7)	1.9	正方形	C	36	(3)	136	5.63	[1.25]	[1.05]	1.3					26	(0.6)
110	(1.28)	5.5	(1.95)	1.25	1.6	2.2			30	(1)	137		5.63	(2.15)	[1.2]					28	(2)
111		5.52	[1.6]	[1.6]					32	(4)	138	(0.71)	5.67	1.1	1.25	(1.25)	0.95	台形	C		(2)
112		5.51	[2.05]	[1.6]		1.4			28	(3)	139	(0.44)	5.63	1.4	(1.3)	1.15	0.65	その他	A	22	
113		5.58	(1.4)	[1.65]	1.4				29		140	(1.69)	5.69	(2.7)	1.4	1.4	(2.35)	台形	B	23	(7)
114	1.6	5.55	1.85	2	1.2	1.65			25	2	141	3.39	5.72	2.85	2.9	2.4	1.5	長方形	B	19	5
115	(2.41)	5.7	(3.5)	3.7	2.5		その他	B	22	(6)	142		5.68	[1.1]	[0.7]	3				18	(7)
116	(11.02)	5.64	(4.3)	3.9	4.15	(4.15)	台形	C	24	(7)	143		5.8		[4.05]	[2.5]				(20)	(7)
117		5.73	(5.15)	[0.3]	[2.2]				24	(9)	平均	3.92	5.66							28.05	5.07

水田計測表

A面積 (㎡) B平均標高 (m) C南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東道、下段が西道 D東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北道、下段が南道 E形状
F主軸方向 (A東道、B南北、Cその他) G下段の水田面から当該田面までの埋積高 (cm) H小区画内比高差 (cm) : 上記の数値で、長さが推定できるものは ()、推定できないものは横線を [] で示す。

3区12層水田擬似畦畔A(12A)計測表(2)(畦畔)

区画番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛土	A	E 6 7° N-E 3 8° N		[8.15]	1.28			7	
2小	盛土	A	E 2 3° N		[4.9]	0.93				
3小	盛土	A	E 5 7° N			2.9	0.38	11	1	
4小	盛土	A	E 5 4° 5' N		[14.9]	0.7		5	1	
5小	盛土	A	E 7 2° 5' N-E 4 3° 5' N		[5.85]	0.63		3	7	
6小	盛土	A	E 3 4° 5' N		6.25	0.45		1	-1	
7小	盛土	A	E 3 2° N		[9.2]	1.82		[1]	13	
8小	盛土	A	E 5 8° 5' N		2.75	0.5			-3	
9小	盛土	A	E 3 2° N			1.9	0.45		2	2
10小	盛土	A	E 2 1° 5' N			1.15	0.55		0	7
11小	盛土	A	E 2 4° N			0.9	0.4		3	
12小	盛土	A	E 3 7° 5' N		[1.1]	0.45				8

畦畔計測表
A畦畔形状 (大、中、小) B畦畔構造 (枕刈、巻土、削出) C主軸基本方位 (A東道、B南北、Cその他) D方位 E株間長 (m) : 測定長は ()、完結しないものは [] F株間面での上埋積 (m) G株間面での下埋積 (m) H・I田面比高差 (cm)

第10表・3区12層水田擬似畦畔A (i2A) 計測表(3)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
13小	盛土	A	E3°N-E37.5°N		(3.4)	0.5		5		
14小	盛土	A	E38.5°N		(6.75)	0.5		9	1	
15小	盛土	A	E27°N		(3.8)	1		7	5	
16小	盛土	A	E64°N		(2.85)	0.6			-3	
17小	盛土	A	E43.5°N		(2.4)	0.52				
18小	盛土	A	E42°N		(6.2)	0.55				
19小	盛土	A	E42.5°N		(23.2)	0.56		16	1	
20小	盛土	A	E36°N		3.3	0.65		3	1	
21小	盛土	A	E52.5°N		(3.4)	0.53		2		
22小	盛土	A	E56.5°N-E40°N		(9.9)	0.44		7	7	
23小	盛土	A	E83.5°N		(3.15)	0.55		2		
24小	盛土	A	E45.5°N		(1.75)	0.75				
25小	盛土	A	E19.5°N-E64.5°N		5.8	0.4			5	
26小	盛土	A	E27°N		(5.6)	0.5			8	
27小	盛土	A	E43.5°N-E33°N		(5.7)	0.73			1	
28小	盛土	A	E77.5°N		(3.75)	0.55		4		
29小	盛土	A	E27.5°N		1.75	0.5		0	4	
30小	盛土	A	E38°N		(6.45)	0.55			0	
31小	盛土	A	E44.5°N		(6.65)	0.64		4	7	
32小	盛土	A	E17°N-E43.5°N		11.15	0.59		4	1	
33小	盛土	A	E8°N-E30°N		(3.8)	0.58		5	1	
34小	盛土	A	E60.5°N-E33°N		(10.65)	0.38		3	1	
35小	盛土	A	E40°N		(5.3)	0.63				
36小	盛土	A	E43.5°N		(2.7)	0.55			3	
37小	盛土	A	E34.5°N		(2.75)	0.35		1	-1	
38小	盛土	A	E39°N		(35.8)	0.77		5	5	
SK31201	大	杭列	B	N39°W	(37.3)	17.6	4.75	24	18	
1小	盛土	B	N44°W		(4.1)	0.4		-3	1	
2小	盛土	B	N39.5°W		(22.75)	0.58		16	7	
3小	盛土	B	N50.5°W		(8.7)	0.84		0		
4小	盛土	B	N53.5°W		(2.6)	0.4				
5小	盛土	B	N56°W		(7.8)	0.47		5	11	
6小	盛土	B	N48.5°W-N38.5°W		(15.15)	0.52		3	3	
7小	盛土	B	N23.5°W-N57.5°W		(15.85)	0.48		5	2	
8小	盛土	B	N50°W		(5.05)	0.45		0	0	
9小	盛土	B	N53.5°W		(5.2)	0.45		4	-2	
10小	盛土	B	N52°W		(3.85)	0.6			5	
11小	盛土	B	N52°W		(14.65)	0.95		8	3	
12小	盛土	B	N56.5°W		(8.45)	0.62		3	-1	
13小	盛土	B	N52°W		(6.05)	0.46		-2	0	
14小	盛土	B	N55°W-N28°W		(6.5)	0.4		-4	1	
15小	盛土	B	N42.5°W		(5.6)	0.35			1	
16小	盛土	B	N40.5°W		(2.3)	0.38				
17小	盛土	B	N47.5°W		(7.85)	0.98		2	11	

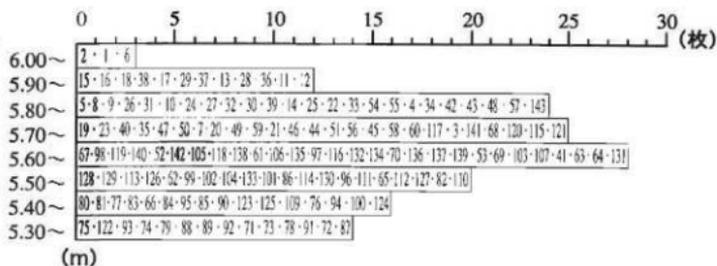
1 概計測表

A 畦畔形状 (大、中、小) B 畦畔構造 (杭列、盛土、削出) C 主軸基方位 (A 東西、B 南北、C その他) D 方位 E 検出長 (m) : 測定長は ()、完結しないものは [] F 検出面での上端幅 (m) G 検出面での下端幅 (m) H・I 田面比高差 (cm)

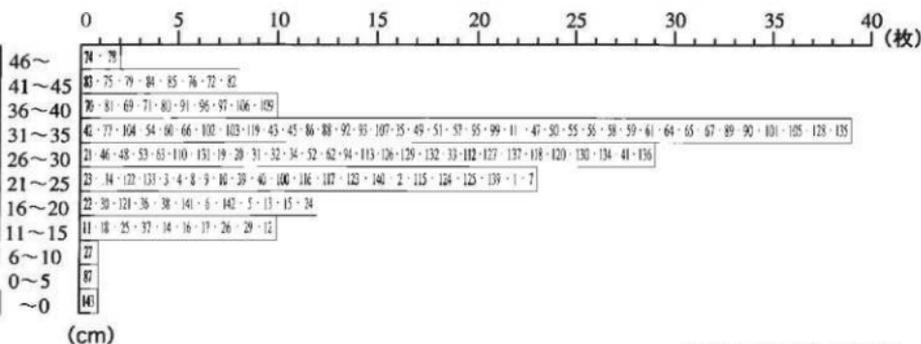
第11表・3区12層水田擬似畦畔A(12A)計測表(4)

遺跡番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
18小	盛土	B	N43°W		[20.6]	0.55		4	6	
19小	盛土	B	N68.5°W-N90°W		[1.3]	0.45		4	2	
20小	盛土	B	N76.5°W		[4.7]	0.45		3	0	
21小	盛土	B	N79.5°W		[10.7]	1.03		6	2	
22小	盛土	B	N67°W-N32°W		[6.1]	0.62			4	
23小	盛土	B	N41.5°W		[4.75]	0.5		0	1	
24小	盛土	B	N80.5°W		[7]	0.65			6	
25小	盛土	B	N43.5°W		[13.7]	0.77		6		
26小	盛土	B	N33°W-N60.5°W		[8.2]	0.6		-3	-2	
27小	盛土	B	N48.5°W		[1.85]	0.5				
28小	盛土	B	N50.5°W-N69.5°W		[5.4]	0.49			1	
29小	盛土	B	N44°W-N16.5°W-N44°W		[6.75]	0.5		-1		
30小	盛土	B	N42°W		[9.5]	0.73		2		
31小	盛土	B	N40°W		[5.2]	0.48			2	
32小	盛土	B	N48°W		[3.25]	0.8				
33小	盛土	B	N24°W-N35°E		[9.5]	0.61		3		
34小	盛土	B	N15.5°W-N27.5°W		[9.05]	0.94		4	5	
35小	盛土	B	N39.5°W		[3.2]	0.76		0	6	
36小	盛土	B	N53°W-N25°W		[5.4]	0.62		0	4	
37小	盛土	B	N31°W		[14.95]	0.51		2	2	
38小	盛土	B	N57°W-N23°W-N42.5°W		[7.5]	0.43		-2	1	
39小	盛土	B	N42.5°W		[5.45]	0.8		2	9	
40小	盛土	B	N29.5°W		3.4	0.25				

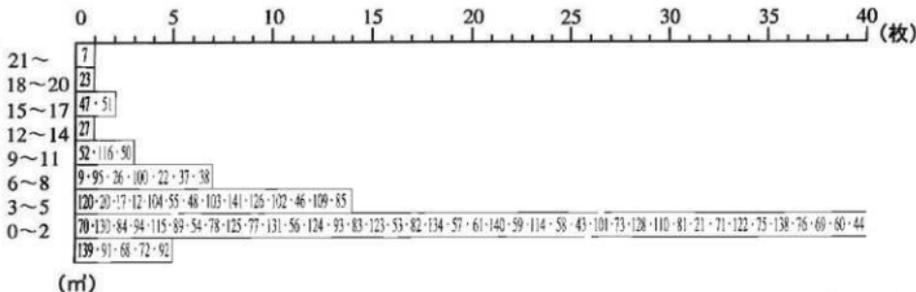
1 概略計測表
A 畦畔現況 (大、中、小) B 畦畔構造 (横列、盛上、割出) C 主軸基本方位 (A東西、B南北、Cその他) D 方位 E 横出長 (m) ; 横定長は ()、定長しないものは [] F 横出面での下幅 (m) G 横出面での下幅 (m) H・I 田面比高差 (m)



水田面の平均標高



堆積量 (水田耕作土の厚さ)

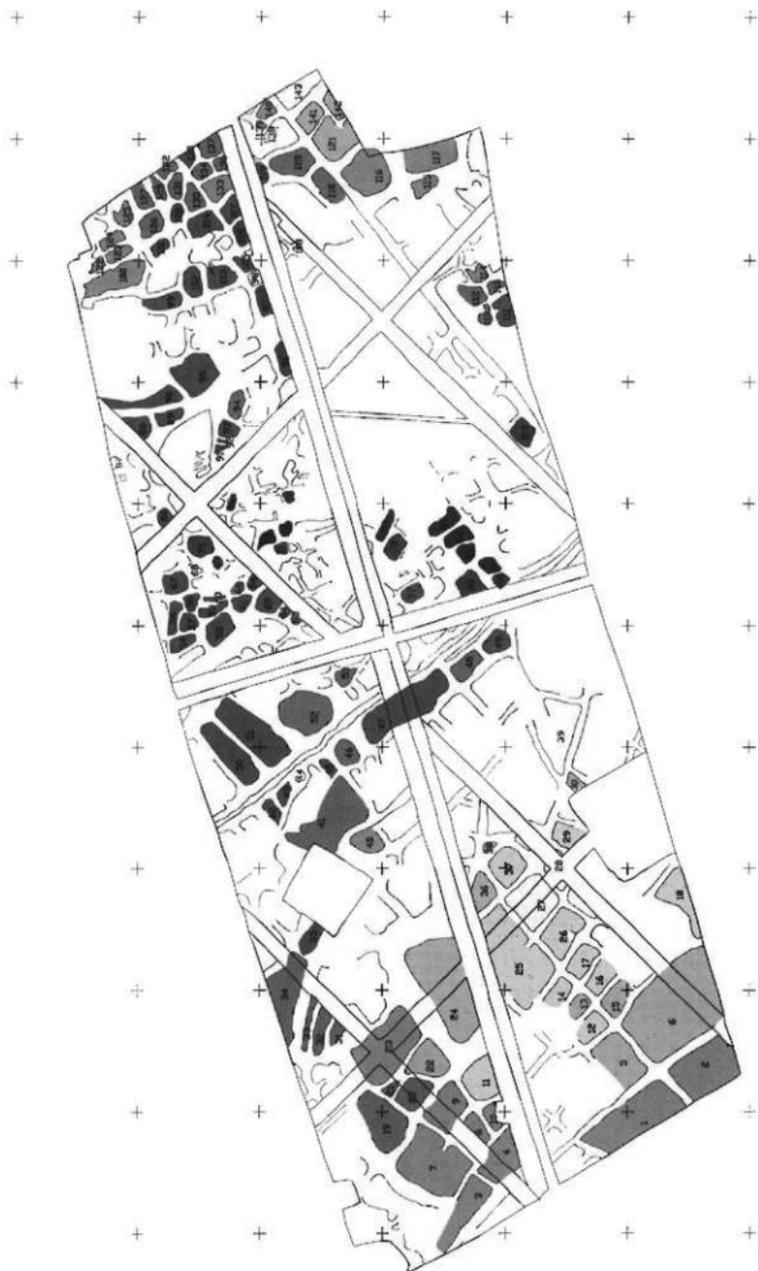


第119図 3区12層水田(12A)水田分析グラフ

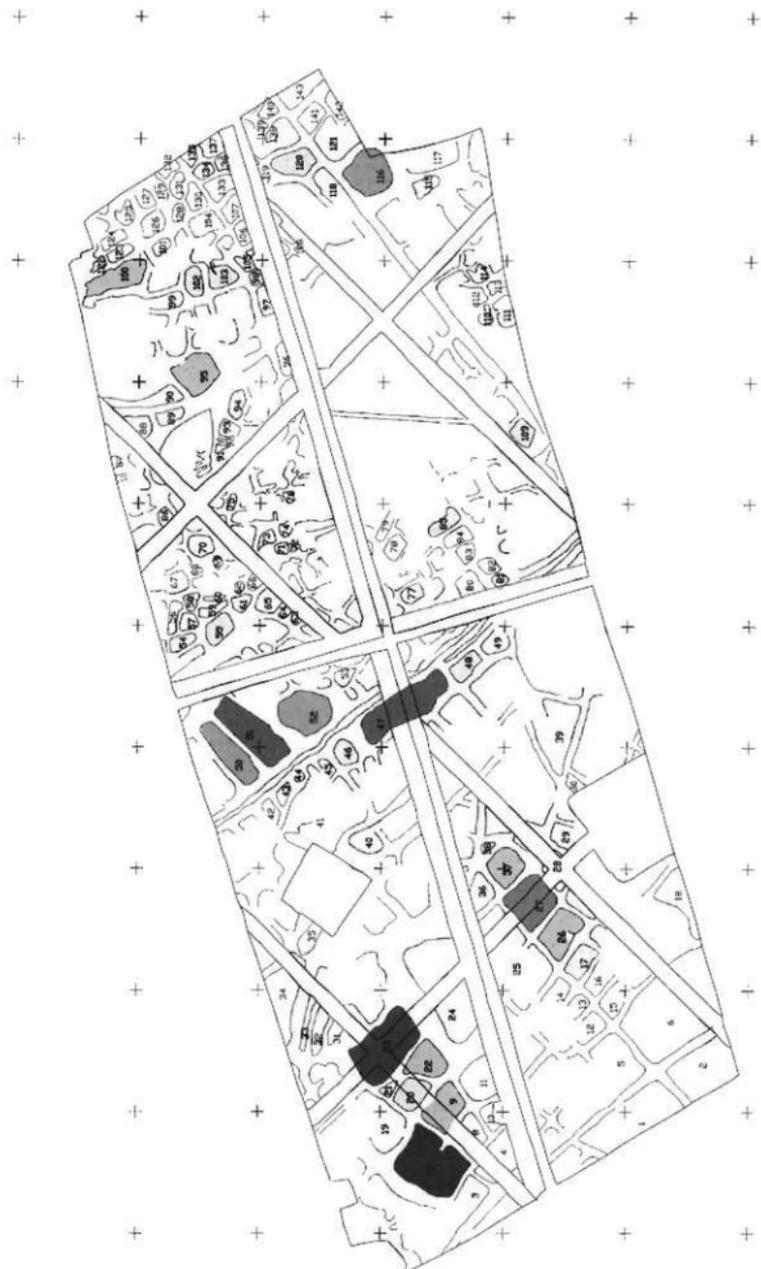
水田面積



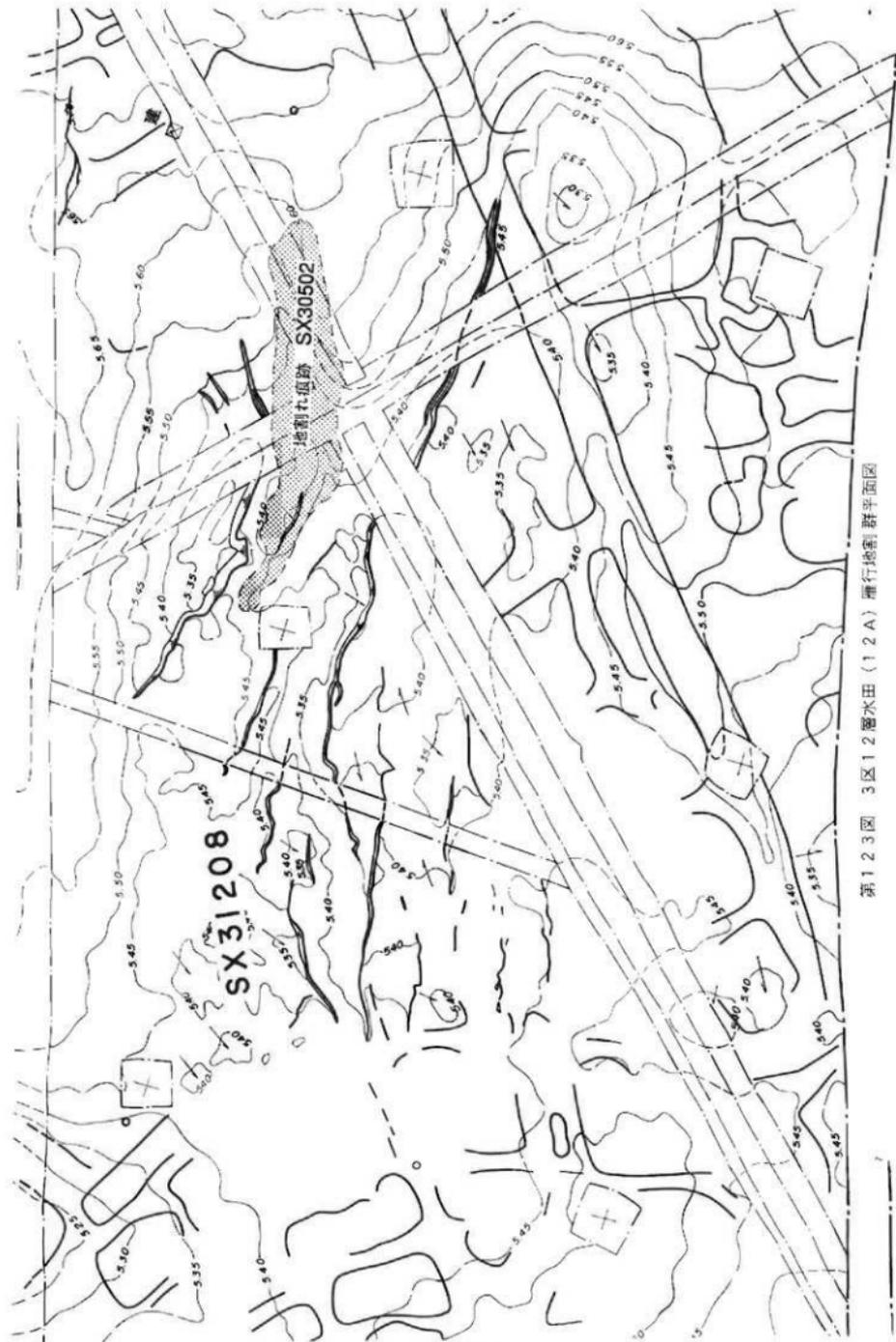
第120图 3区12原水田(12A)水田標高分析图



第121图 3区12層水田(12A)水田堆積層分析図



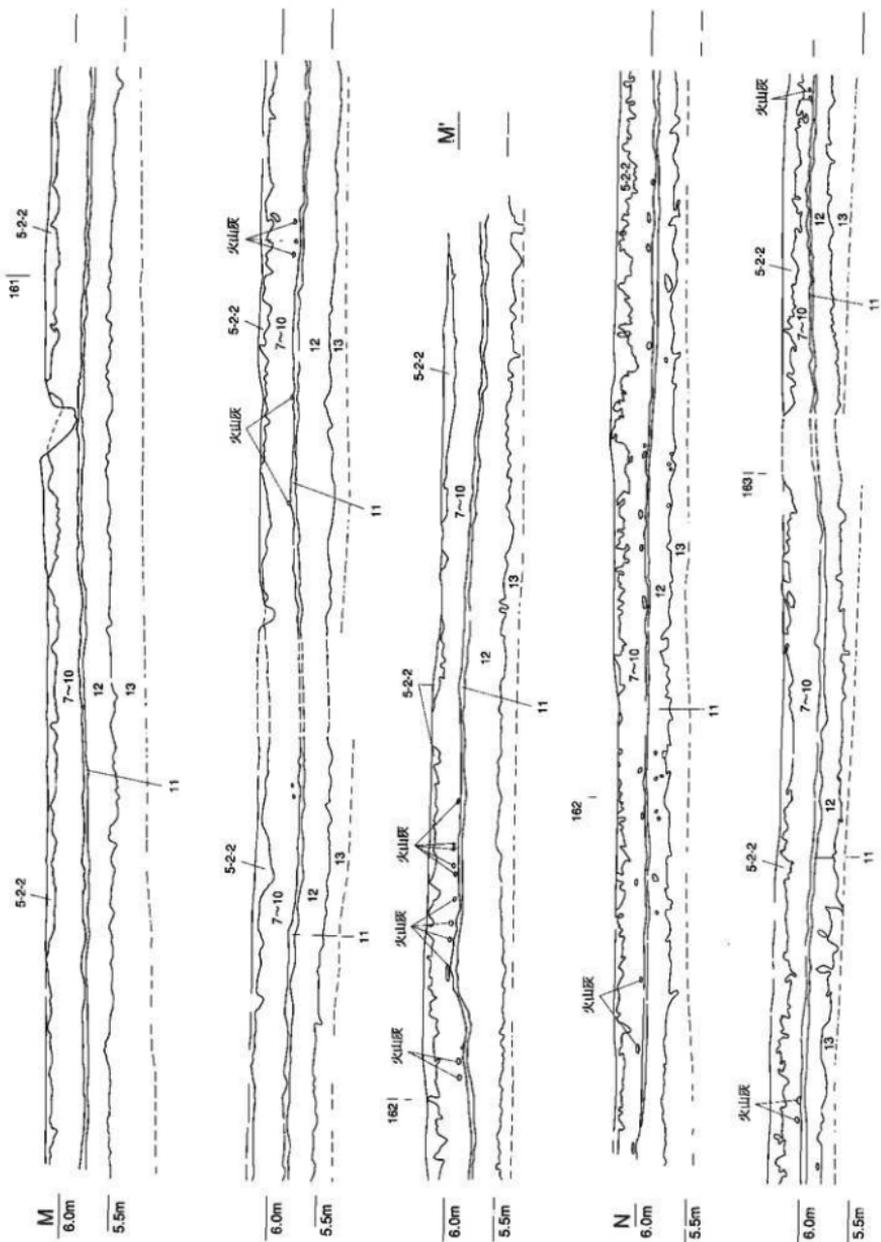
第122图 3区12潜水田(12A)水田精析区



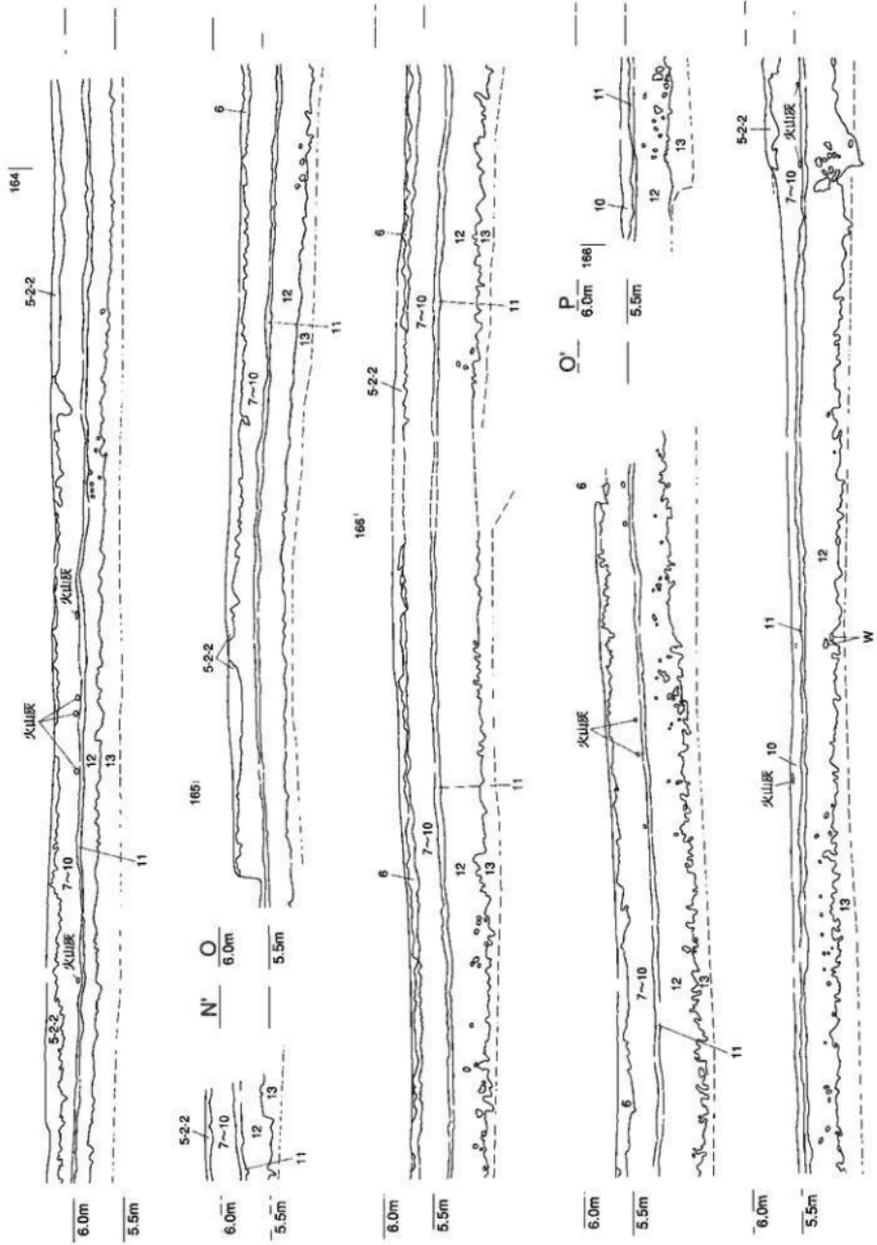
第123图 3区12漫水田(12A) 雁行地割跡平面图



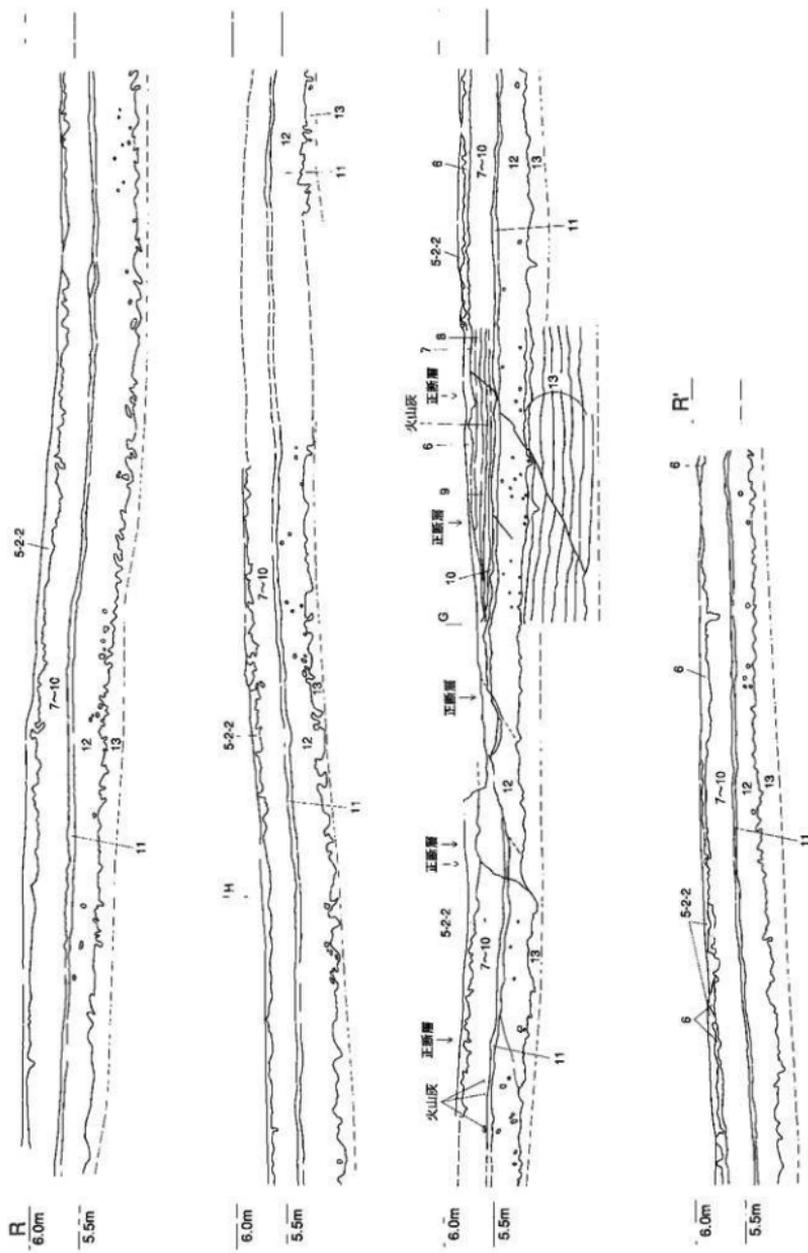
第124图 3区12層水田(12B) 杭列集中 平面图



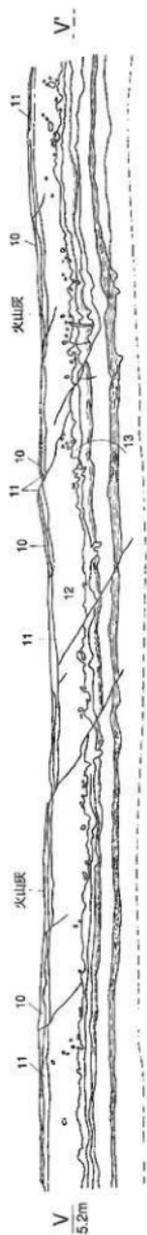
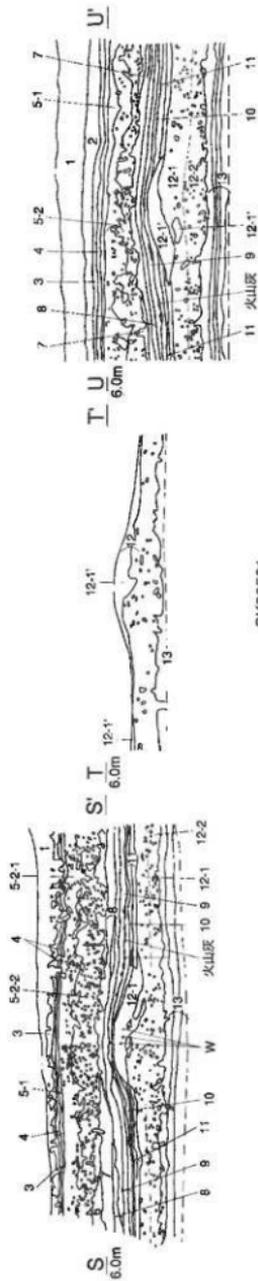
第 1 2 5 图 3 区 1 2 层温精断面图 (1)



第126图 3区12層連横断面图(2)



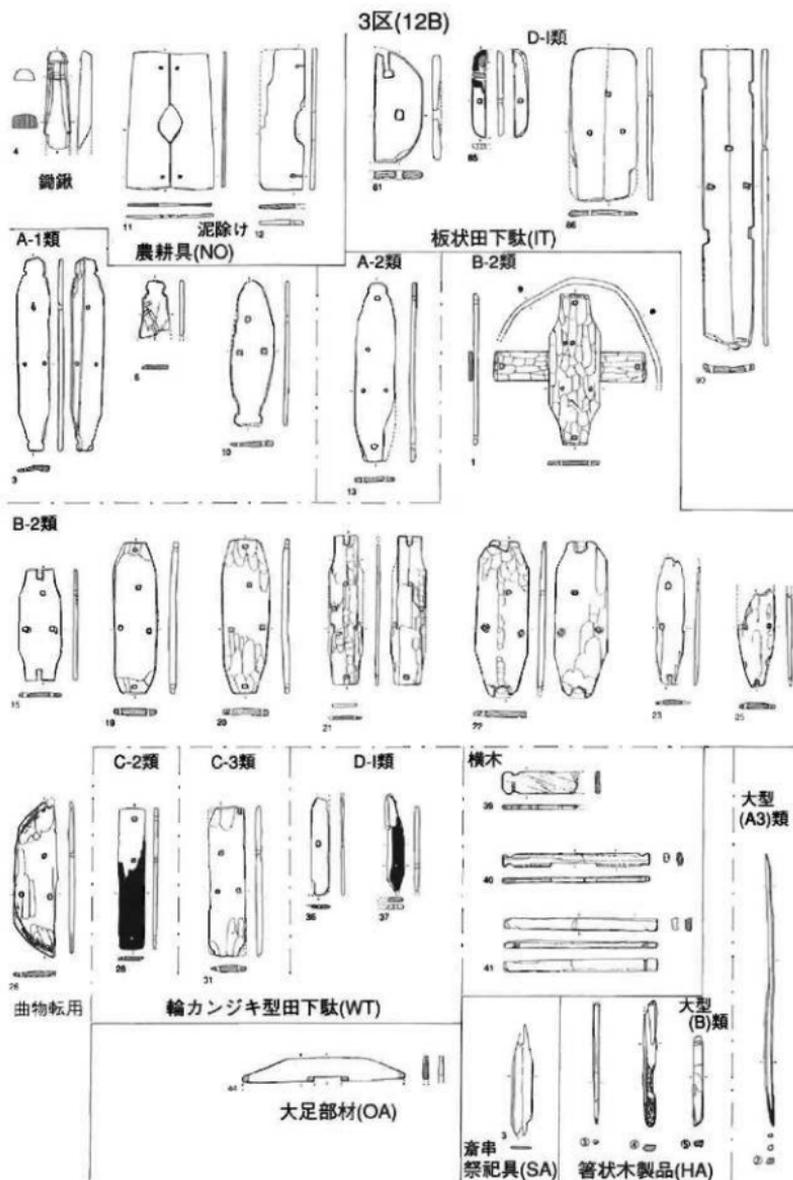
第 1 2 8 图 3 区 1 2 層構造断面图 (4)



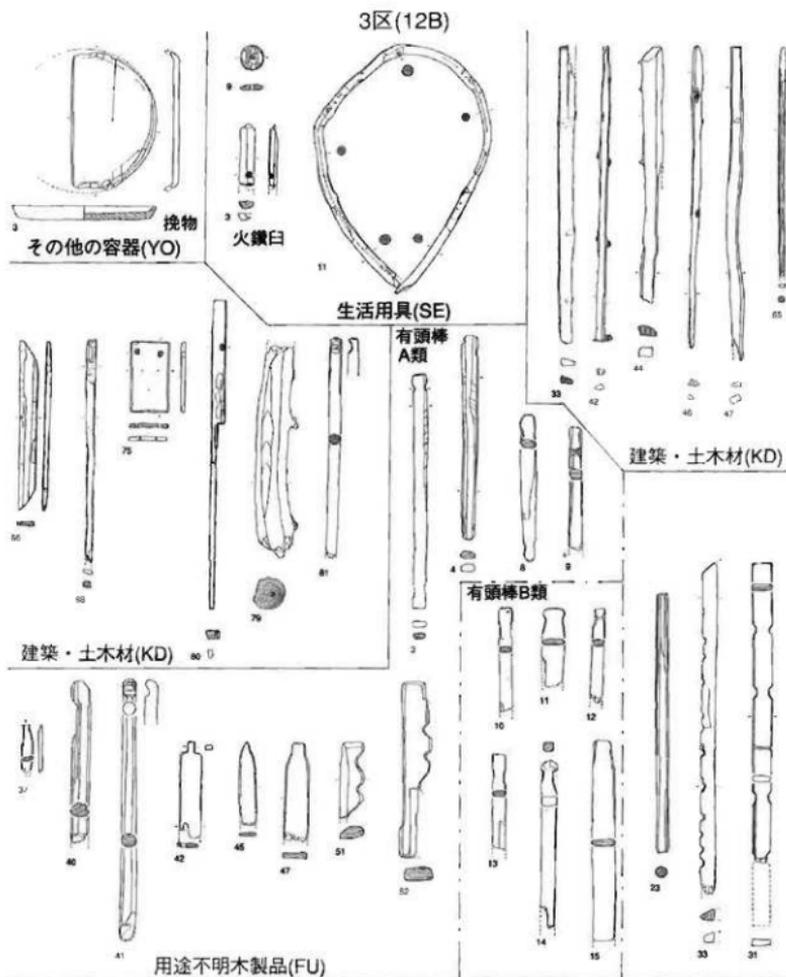
第 1 2 9 图 3 区 1 2 层详细剖面图 (5)



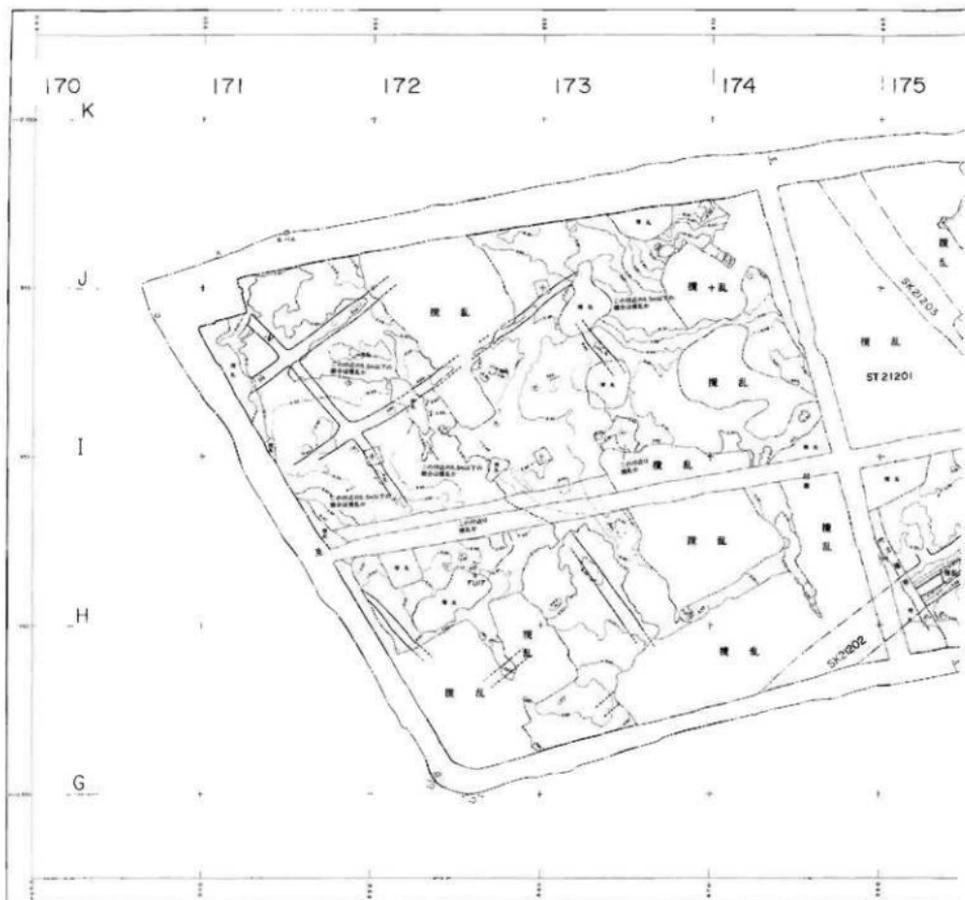
第130図 3区12層水田(12A)出土遺物集成図

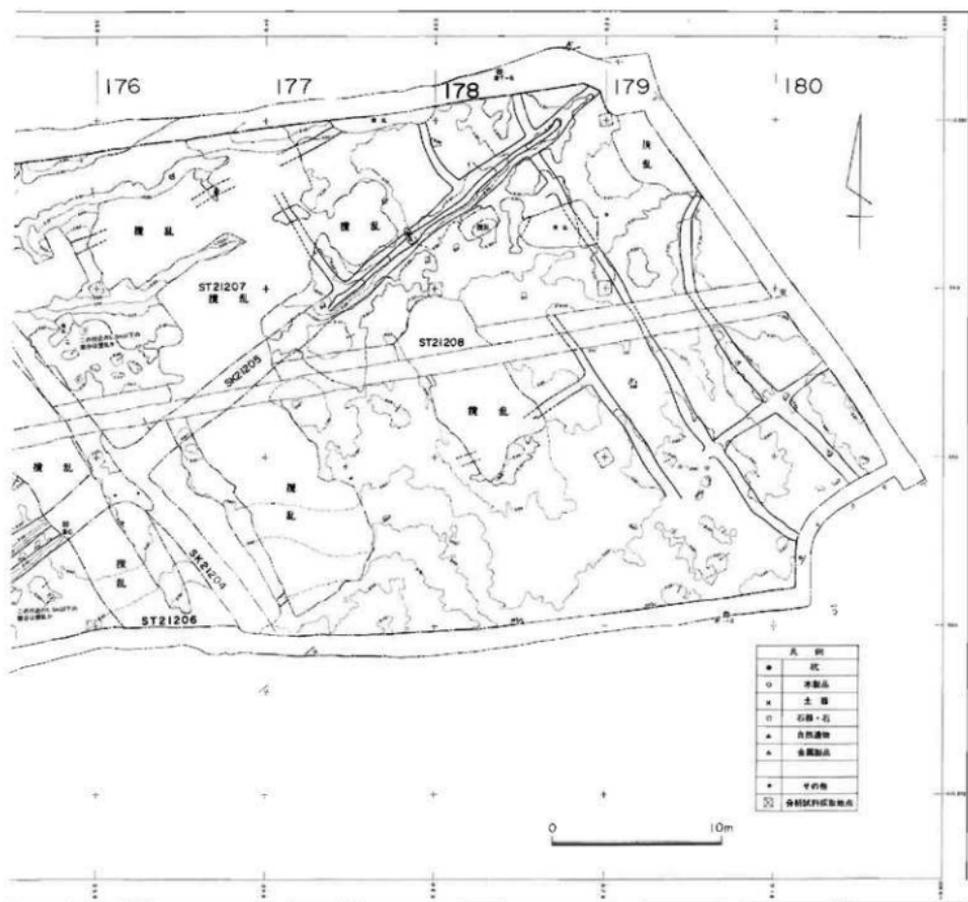


第131図 3区12層水田(12B)出土遺物集成図(1)

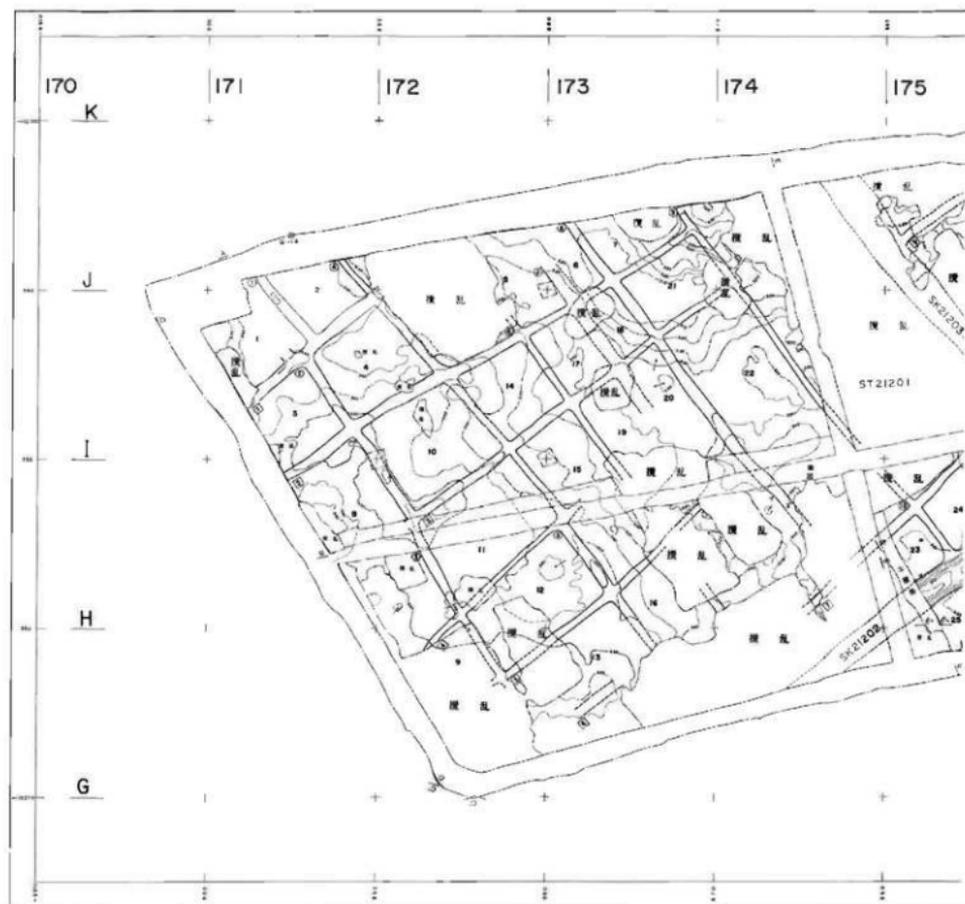


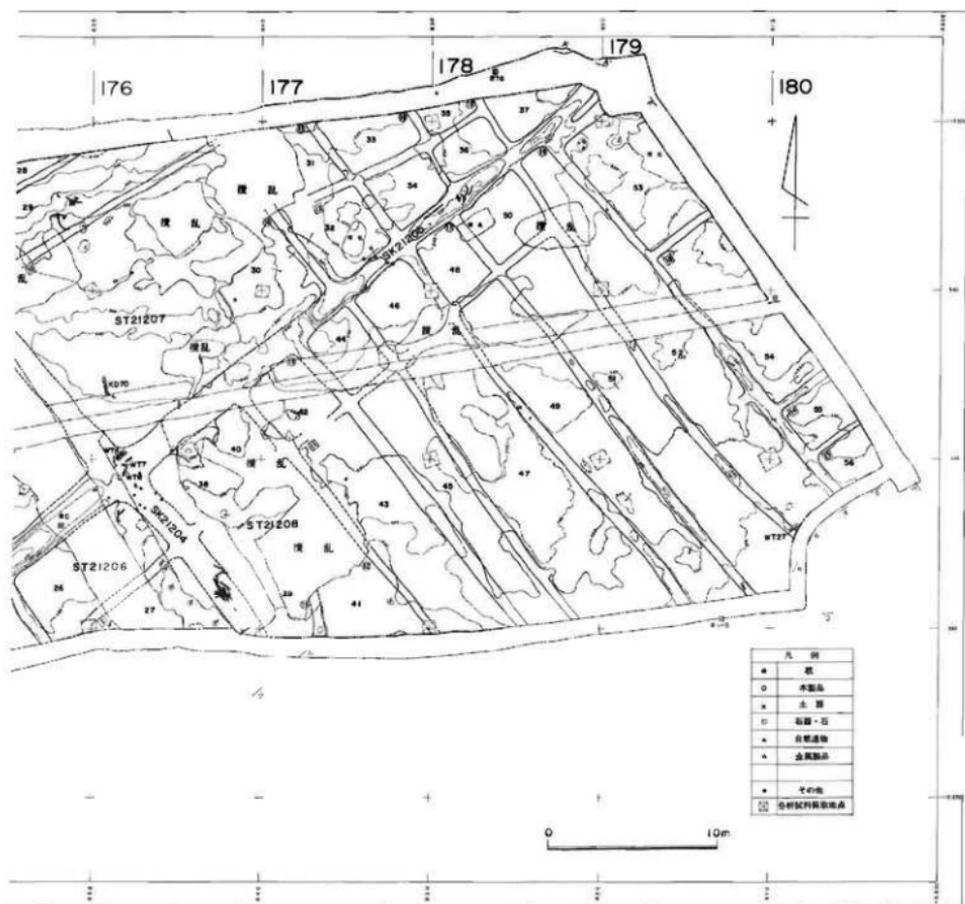
第132図 3区12層水田(12B)出土遺物集成図(2)



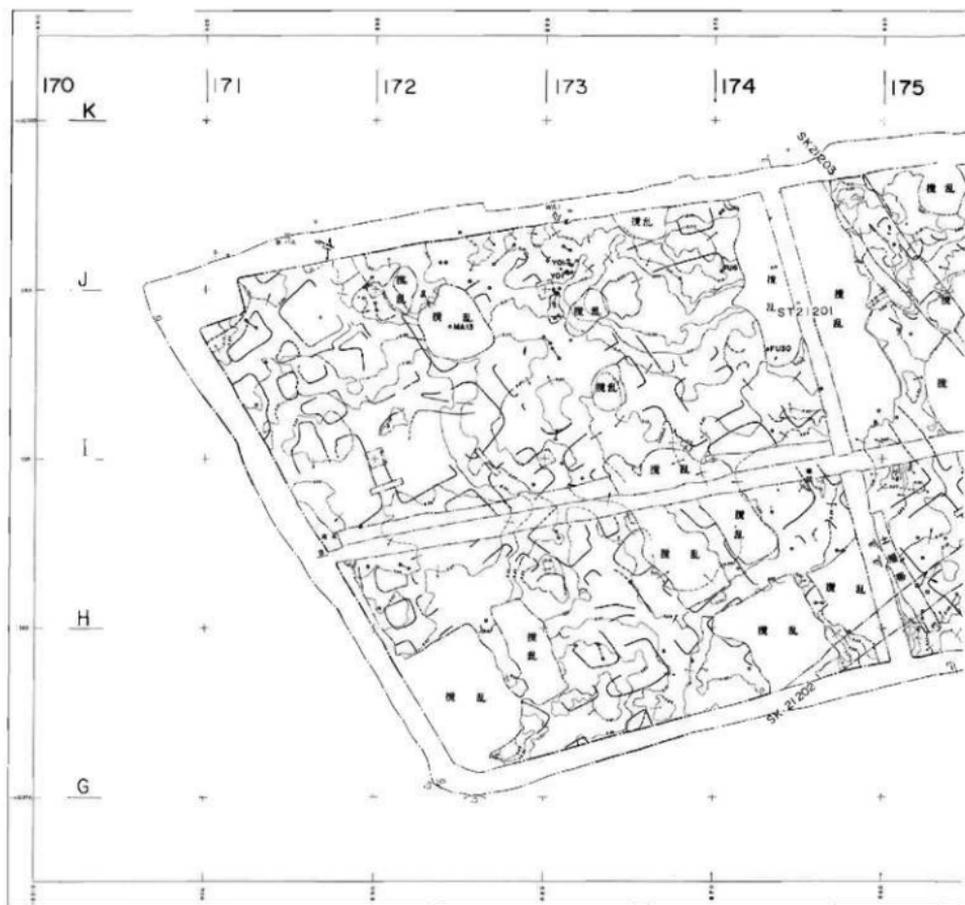


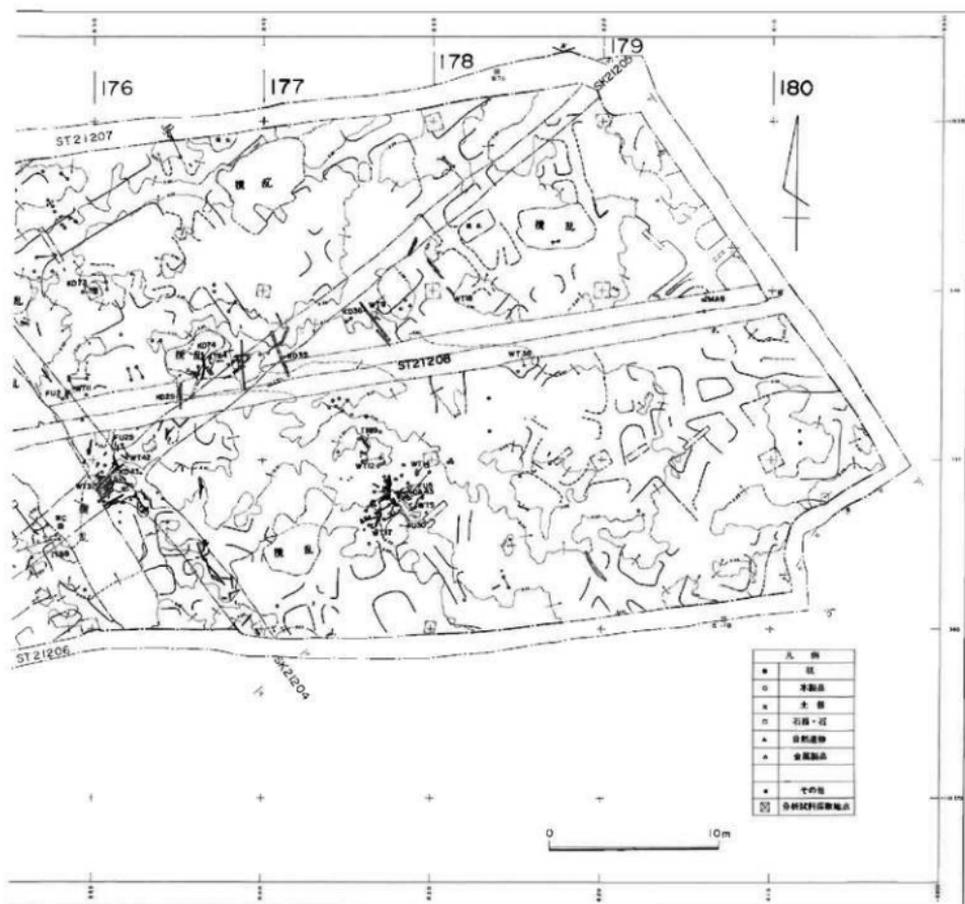
第133图 2区12層水田(12A)全体图





第134図 2区12層水田(12B)全体図





第135図 2区12層水田(12C)全体図

第12表・2区12層水田上面(12B)計測表(1)

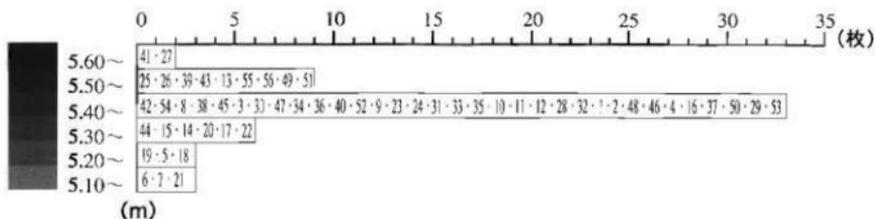
水田 番号	水田 番号								水田 番号	水田 番号												
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H					
1		5.43	[5.2]			[5.1]			20	(10)	29		5.4			[9.2]	[15.8]	長方形	A	15	15	
2		5.43	[3]	[5.2]		4.3			20	(5)	30		5.47	[5.7]		[15.8]		長方形	A	12	17	
3		5.47	5.1		[4.6]	[4.9]			15	(11)	31		5.45	[4.3]				(4.7)			15	(10)
4	25	91	5.41	6.2	5.1	5.4	6.3	台形	A	15	13	32	5.44	4.2	[5.7]	(4.7)	4.9	台形	B	9	11	
5			5.26	[5.5]	[9.2]			(8.9)		16	(10)	33	5.45	[2.3]	[4.2]		4.9				13	(7)
6			5.19	[4.3]	[5.5]			(2.5)		12	(4)	34	12.62	5.46	3	4.2	4.9	4.5	台形	A	12	6
7			5.18	[1.6]	[4.3]			5.7		9	(18)	35	5.45	[0.8]	[2.3]		3.8				10	(2)
8			5.48	(12.8)		[4.9]	[3]			13	(17)	36	8.43	5.46	2.8	3	3.8	3.9	長方形	A	12	12
9			5.45	[0.7]		[3]				11		37	5.41			[3.3]		[5.6]			11	3
10	(34.19)		5.44	(5.8)	6.4	6.3	(7)	正方形	C	13	12	38	5.48	(4.6)	(4.5)	(2.9)	(3.5)				15	2
11	(37.38)		5.44	(5.2)	(6.3)	(7)	(8)	台形	A	7	15	39	5.53	[9.7]	(7.1)		(3.5)				14	10
12			5.44	(5.2)	(4.5)	(8)	[8]	長方形	A	22	11	40	5.46	(4.5)	(4.6)	(3.3)	(3.9)				15	2
13			5.51	(4.5)		[8]		長方形	A	16	10	41	5.63	[6.3]	[9.7]	(3.9)				[2]		2
14	(19.94)		5.35	(4.5)	5.8	5	4.5	台形	B	14	18	42	5.49	(4.5)	(4.6)	(4.3)	(4.5)	正方形	C	21	4	
15			5.38	(9.9)	(10.5)	4.5	(4.7)	長方形	B	16	16	43	5.53	[16.7]	[5.4]	(4.5)		長方形	B	17	20	
16			5.41	(5.2)	[4.1]	(4.7)				15	5	44	(13.87)	5.39	(4.5)	(4.5)	(3.9)	(3.7)	長方形	B	10	10
17	(12.32)		5.3	(4.5)	(5)	(3.7)	(3.5)	長方形	B	12	16	45	5.48	[18.4]	[16.7]	(3.7)		長方形	B	17	9	
18	(7.77)		5.25	4.2	(4.5)	(2.4)	(2.8)	長方形	B	13	15	46	5.42	(4.5)	(4.5)	4.5	(4.4)	正方形	C	13	8	
19			5.29	(9.4)	(9.9)	(3.5)		長方形	B	15	3	47	5.47	[22.1]	[18.4]	(4.4)		長方形	B	20	11	
20			5.34	[8.6]	(9.4)	(2.8)		長方形	B	17	10	48	(12.08)	5.43	(4.1)	(4.5)	3.4	(3.7)	長方形	B	10	9
21	(18.16)		5.17	(4.1)	4.2	5.7	(5.7)	長方形	B	9	24	49	5.5	[24.4]	[22.1]	(3.7)		長方形	B	20	11	
22			5.3	(17)	(18)	(5.6)	(5.9)	長方形	B	15	25	50	(15.51)	5.41	4.1	(4.1)	4.8	(4.4)	正方形	C	19	2
23			5.45	3.6		[8.4]	[2.7]	長方形	A	14	0	51	5.5	[23.4]	[24.4]	(4.4)		長方形	B	20	14	
24			5.45		3.6	[7.9]	[7.8]	長方形	A	15	1	52	5.46	[26.8]	[27.5]	2.4		長方形	B	14	16	
25			5.55	[4.3]		[9]				16	(2)	53	5.4		8.4	[3.6]	[4.3]				14	(13)
26			5.55	(4.2)	[4.3]	(8.4)	[7.8]	長方形	A	17	4	54	5.49		(11.7)	[4.3]	[3.9]				19	(7)
27			5.6	[5.4]		[7.8]				15	(1)	55	5.51		3.5	[3.9]	[3.6]				17	(7)
28			5.44		[4]		[9.2]			17		56	5.51		[2.5]	3.6					18	(7)
										平均	18.18	5.43									14.85	9.87

水田計測表
A面積 (㎡) B平均標高 (m) C南北方向畔畔の長さ (m) ; 上段が東辺、下段が西辺 D東西方向畔畔の長さ (m) ; 上段が北辺、下段が南辺 E形状
F走向方向 (A:東西、B:南北、C:その他) G下位の水田面から当該田面までの堆積量 (㎥) H小区面内比高差 (㎝) ; 上記の数値は、長さが測定できるものは ()、測定できないものは換出値を [] で示す。

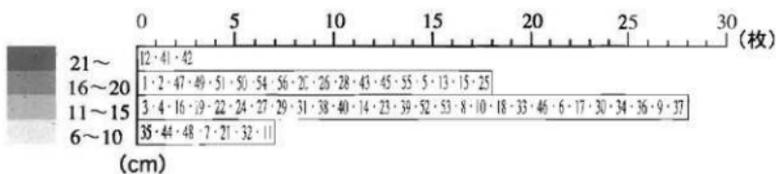
第13表・2区12層水田上面(12B)計測表(2)

測号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
SK21202	大	枕列	A	E 3 8° N	[19.5]	1.8		22.5	10	
SK21205	大	枕列	A	E 4 0° N	[36.8]	1.5	(0.4)	16	17	
	1小	盛土	A	E 4 0° N	[9.4]	0.7		7	6	
	2小	盛土	A	E 3 8° N-E 3 0° N	[28.2]	0.6		10	8	
	3小	盛土	A	E 3 6° N	[23.5]	0.5		5	3.5	
	4小	盛土	A	E 4 4° N	(11)	0.3		1.5	3	
	5小	盛土	A	E 4 1° N	[15.3]	0.45		3	-2	
	6小	盛土	A	E 3 6° N	[3]	0.6		4	1	
	7小	盛土	A	E 4 4° N	[12]	0.5		2	0	
	8小	盛土	A	E 3 9° N	[6.3]	0.6				
	9小	盛土	A	E 3 1° N	[9.2]	0.45		4	7	
	10小	盛土	A	E 3 1° N	[12.6]	0.5		10	3	
	11小	盛土	A	E 4 1° N	[16]	0.45		5	-3	
	12小	盛土	A	E 2 5° N	[11.5]	0.55		4	4	
	13小	盛土	A	E 3 7° N	[4.3]	0.5		7	-2	
	14小	盛土	A	E 3 6° N	[3.9]	0.5		7	5	
	15小	盛土	A	E 3 5° N	[3.6]	0.35		2	2	
SK21209	大	枕列	B	N 3 9° W	[23.1]	1.8		1	1	
SK21204	大	枕列	B	N 4 1° W	[12.3]	1.6		0	-10	
	1小	盛土	B	N 4 2° W	[5.2]	0.6		2	2	
	2小	盛土	B	N 4 5° W	11.5	0.55		8	6	
	3小	盛土	B	N 3 9° W	[5.1]	0.55		-3	1	
	4小	盛土	B	N 4 1° W	[18.5]	0.4		1	-3	
	5小	盛土	B	N 3 6° W	[9.5]	0.6		9	1	
	6小	盛土	B	N 3 6° W	[20.8]	0.4		0	-7	
	7小	盛土	B	N 3 5° W	[10.5]	0.8		4	2	
	8小	盛土	B	N 4 0° W	[22.7]	0.65		3	3	
	9小	盛土	B	N 3 7° W	[14.7]	0.4			10	
	10小	盛土	B	N 3 5° W	[10.4]	0.6		0	0	
	11小	盛土	B	N 1 0° W	[2.5]	0.6		4	0	
	12小	盛土	B	N 4 0° W	[6.3]	0.5		8	-2	
	13小	盛土	B	N 3 9° W	[21.2]	0.8		7	2	
	14小	盛土	B	N 4 0° W-N 3 5° W	[29.9]	0.6		8	7	
	15小	盛土	B	N 3 8° W	[36.3]	0.6		1.5	2.5	
	16小	盛土	B	N 3 0° W	[5.3]	0.5		7	5	
	17小	盛土	B	N 3 8° W	[28.5]	0.65		8	7	
	18小	盛土	B	N 3 2° W-N 4 1° W	[32]	0.6		8	4	
	19小	盛土	B	N 4 0° W	[26.1]	0.7		7	7	

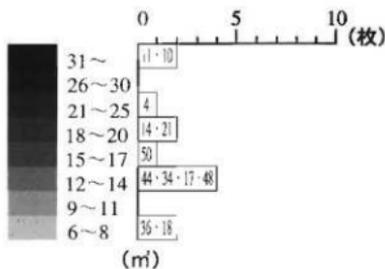
略号計測表
 A 畦畔規模(大、中、小) B 畦畔構造(枕列、盛土、別出) C 主軸基本方位(A:東西、B:南北、C:その他) D 方位 E 横出長(m); 推定長は()、定納しないものは[] F 抜出での上端幅(m) G 抜出での下端幅(m) H・I 田面比高差(m)



水田面の平均標高

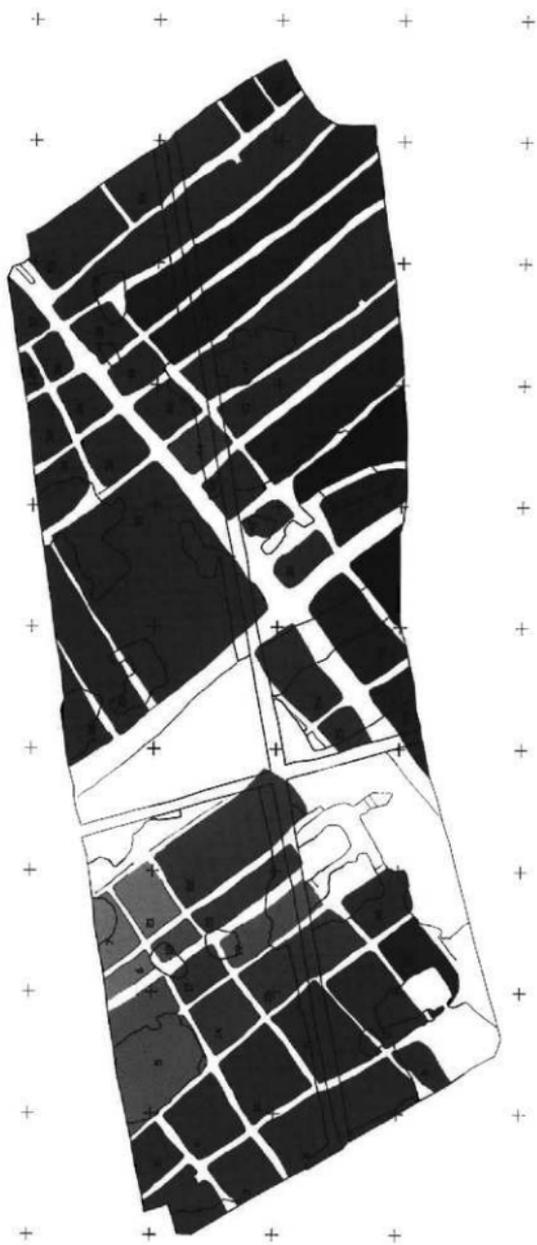


堆積量 (水田耕作土の厚さ)

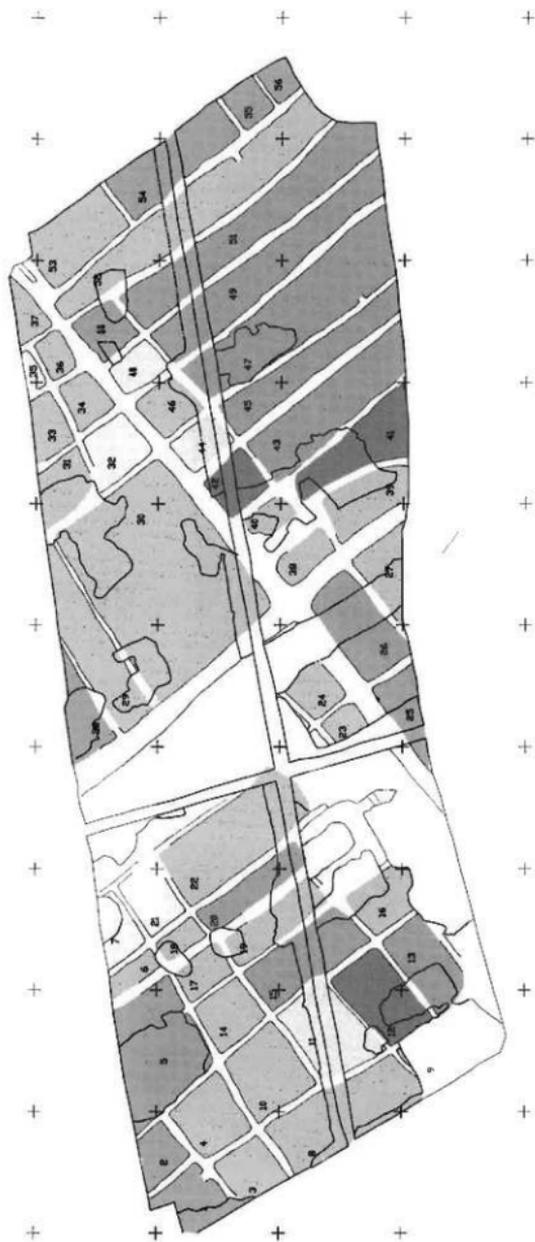


水田面責

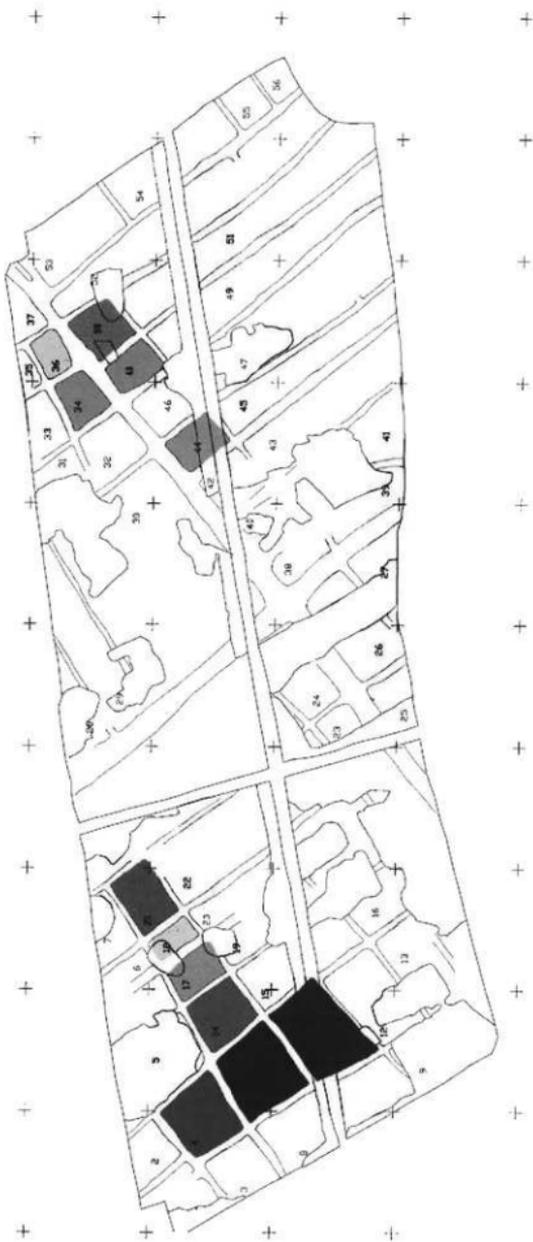
第136図 2区12層水田(12B)分析グラフ



第137图 2区12厘水田(12B) 標高分析图



第138图 2区12番水田(12B)堆積量分析图



第139区 2区12層水田(12B)面積分析区

第14表・2区12層水田擬似畦畔B(12C)計測表(1)

水田 番号									水田 番号														
	A	B	C		D		E	F		G	H	A	B	C		D		E	F	G	H		
1	(3.37)	5.24	2.2	[4.6]	[3.3]	台形	A		0.6	18	(13.95)	5.32	4.7	[4.2]	[4.9]	正方形	C		93.3	7.6			
2	(8.69)	5.23	(4.3)	4.1	3.5	2.7	台形	B		3.4	19	(10.26)	5.36	(3.9)	(4)	[4.9]	(4.5)	正方形	C		96	7.1	
3	(1.17)	5.25	(1.9)	1	(2.1)	(2.7)					20	(4.5)	5.4	(0.7)	(2.8)		(2.5)	長方形	B		103	1.8	
4	(1.48)	5.29	2	(2.2)	(1.8)	1.8			2.9	21		5.44	(2.3)		(2.4)	(1.4)						4.4	
5		5.26	1.5	(2)	(1.2)	2.2			1.2	22		5.44	[2.1]	(1.5)	(2.5)								4.4
6	(3.25)	5.33	2.8	3.3	4	1.8			5	23		5.41	[2.5]	[2]		2.7							3
7		5.35	[2.8]	[2.5]	[2.7]			B	6.7	24		5.42	[2.5]	[2.4]	2.7								6.1
8		5.34	[5.2]	[1.5]	2.4			B	3.7	25		5.35	(5)	[0.7]	3.5	[2]		B					6.2
9		5.37	[1]	[2.7]		2.5			1.9	26		5.36	2.4	(2)	1.4	2.1							1
10		5.24	(4.4)	[2.1]	[4.2]				112.2	12.6	27		5.34	[1.2]	(2.7)	3.2	[0.5]	A		115			2.3
11	(2.41)	5.41	(2.2)	2.4	2.5	[2]	正方形	C		1.9	28		5.29	(2.8)	(2.7)	(1.2)	1.7	B					2.2
12	(3.43)	5.35	3	2.5	(2.6)	2.5	台形		113.9	2.5	29		5.3	3.3	(2.3)	(2.6)	(2.9)			112.1			5
13		5.25	[2]	[4.5]		2.5			112.8	3.5	30	2.18	5.3	1.8	2.3	2.4	3	台形	A	108.5			1.1
14		5.18	3	(3.3)	(8)	(7.8)	A		109.5	7.2	31		5.31	2.3	(2.8)	(3.8)	3.5						3.7
15		5.15	[3.7]	(2.6)	7.8		A		105.8	9.9	32		5.31	(0.9)	2.3	2.5	2.7			108			1
16		5.24	(7.2)		4.6	[3.8]	長方形	B	104.1	11.8	33		5.32	(2.4)	(3.4)	3.1	(2.3)			111			1.2
17		5.22	[1.8]	[2.5]	[1.2]	[4.2]	A		89.7	15	平均		4.97	5.31						106.3			4.62

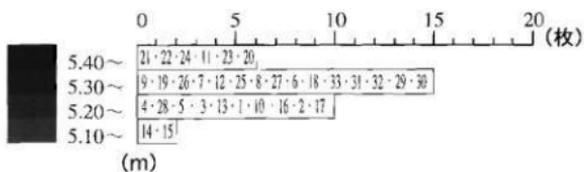
水田計測表

A面積(m²) B平均標高(m) C南北方向畦畔の長さ(m) : 上段が東辺、下段が西辺 D東西方向畦畔の長さ(m) : 上段が北辺、下段が南辺 E形状
F主軸方向(A東西、B南北、Cその他) G下段の水田面から当該田面までの厚積量(cm) H小區画内比高差(cm) : 上記の数値で、長さが測定できるものは()、測定できないものは換出値を[]で示す。

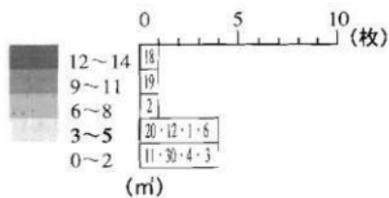
第15表・2区12層水田擬似畦畔B(12C)計測表(2)

道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛土	A	E 44° N		[6.9]	1.2		4.2	-3	
2小	盛土	A	E 38° N		[4.3]	1		0	1	
3小	盛土	A	E 28° N		7.1	1		3.7	1.5	
4小	盛土	A	E 33° N		[13.1]	1.4		3	-10	
5小	盛土	A	E 19° N - E 38° N		[15.7]	0.9		3	-10	
6小	盛土	A	E 28° N		[13.4]	1		0	3	
7小	盛土	A	E 29° N		[5]	0.8		3	2	
8小	盛土	A	E 41° N		[5]	0.9		1	0	
9小	盛土	A	E 35° N		[5.6]	1		7	-3	
10小	盛土	A	E 30° N		[6.6]	0.8		2	-2	
11小	盛土	A	E 27° N		6.2	0.9		4	2	
12小	盛土	A	E 31° N		10.8	1.7		10	-3	
13小	盛土	A	E 34° N		5.8	1.3		0	1	
14小	盛土	A	E 7° N		2.4	0.4				
15小	盛土	A	E 33° N		[4]	1.2		2	0	
16小	盛土	A	E 35° N		5.7	1.1	0.15	0	0	
17小	盛土	A	E 20° S		4.5	1.3		1	2	
18小	盛土	A	E 15° N		4.5	0.8		3	1	
19小	盛土	A	E 3° N		5.3	1.1		2	-1	
1小	盛土	B	N 37° W		[4]	0.9		-2.5	-1	
2小	盛土	B	N 22° W		[0.4]	1.2		-1	1	
3小	盛土	B	N 44° W		[11]	0.9		-2	7	
4小	盛土	B	N 39° W		[9.7]	1.1		-2	-1	
5小	盛土	B	N 33° W		[6.4]	1.1		-3	5.2	
6小	盛土	B	N 36° W		[7.1]	1.3		2	1	
7小	盛土	B	N 41° W		[16.1]	1		4.9	0.9	
8小	盛土	B	N 40° W		[6.8]	0.6		0	1.2	
9小	盛土	B	N 15° W		[6.7]	0.7		-1.6	1	
10小	盛土	B	N 36° W		[10.7]	1.2		0.6	1.6	

畦畔計測表
A 畦畔規模 (大、小) B 畦畔構造 (伏列、盛土、荒出) C 上軸基本方位 (A 東西、B 南北、C その他) D 方位 E 検出長 (m) : 測定長は ()、完結しないものは [] F 検出面での上端幅 (m) G 検出面での下端幅 (m) H・I 田面比高差 (cm)

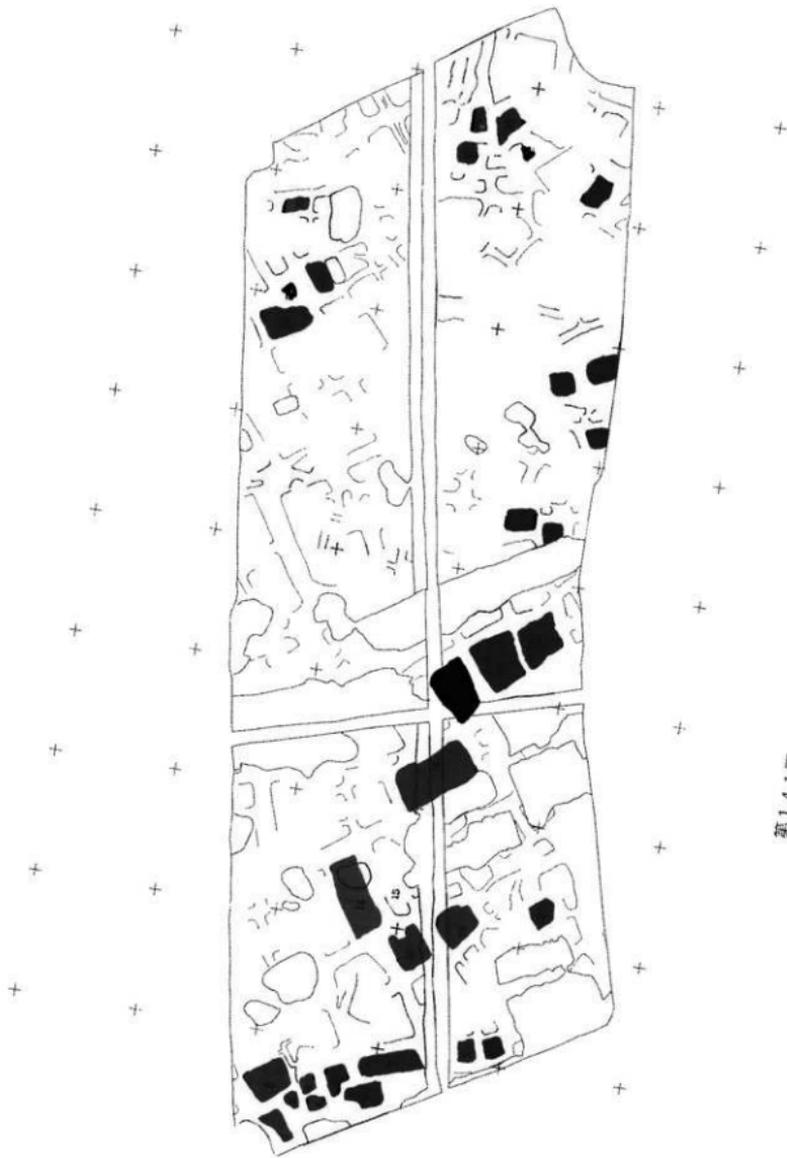


水田面の平均標高

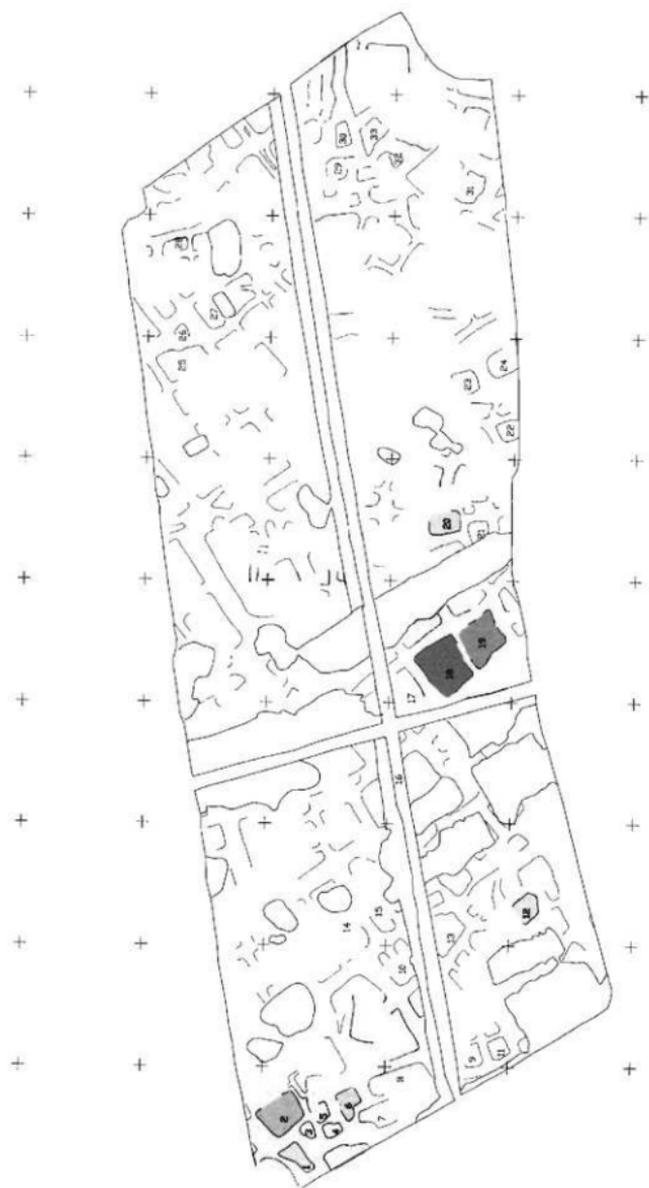


水田面積

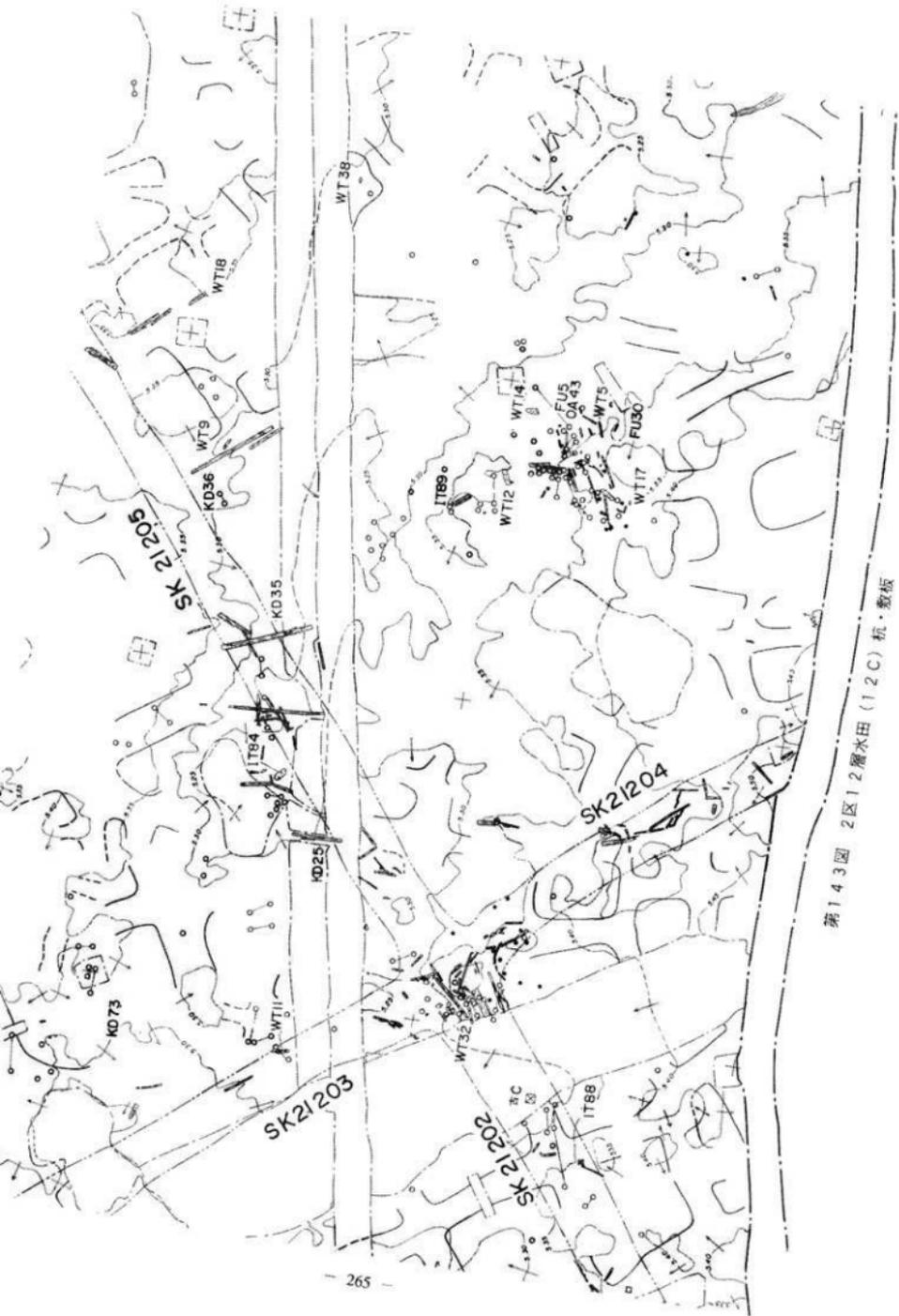
第140図 2区12層水田(12C)分析グラフ



第141图 2区12層水田(12C)標高分析图



第142图 2区12亩水田(12C)面积分析图



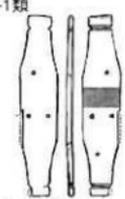
第143圖 2区12畝水田(12C)杭・敷板

2区(12A)

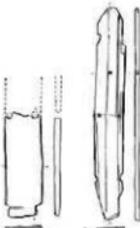


用途不明木製品 (FU)

A-1類



2区(12B)



輪カンジキ型田下駄(WT)

C-2類

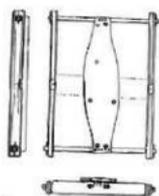


用途不明木製品 (FU)



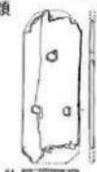
建築・土木材 (KD)

2区(12C)

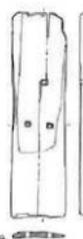
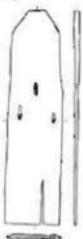


枠型田下駄(WA)

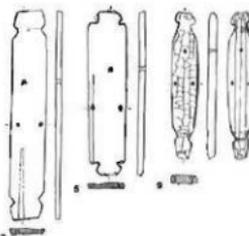
D-1類



板状田下駄(IT)



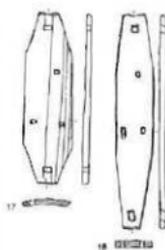
A-1類



A-2類



B-2類



C-3類



輪カンジキ型田下駄(WT)



横木

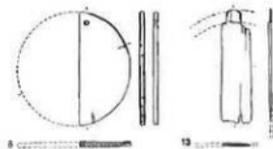


大足部材(OA)

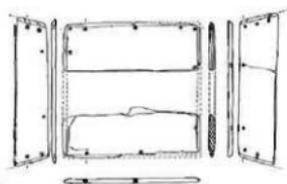
第145図 2区12層水田(12A)出土遺物集成図、12層水田(12B)出土遺物集成図

第146図 2区12層水田(12C)出土遺物集成図(1)

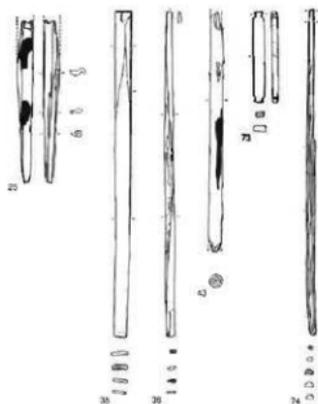
2区(12C)



曲物(MA)

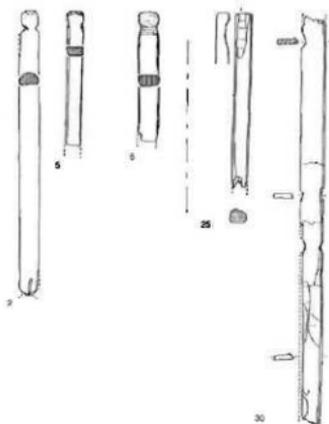


その他の容器(YO) 箱物



建築・土木材(KD)

有頭棒A類



用途不明木製品(FU)

第147図 2区12層水田(12C)出土遺物集成図(2)

第16表 1区12層水田擬似畦畔B(12B)計測表

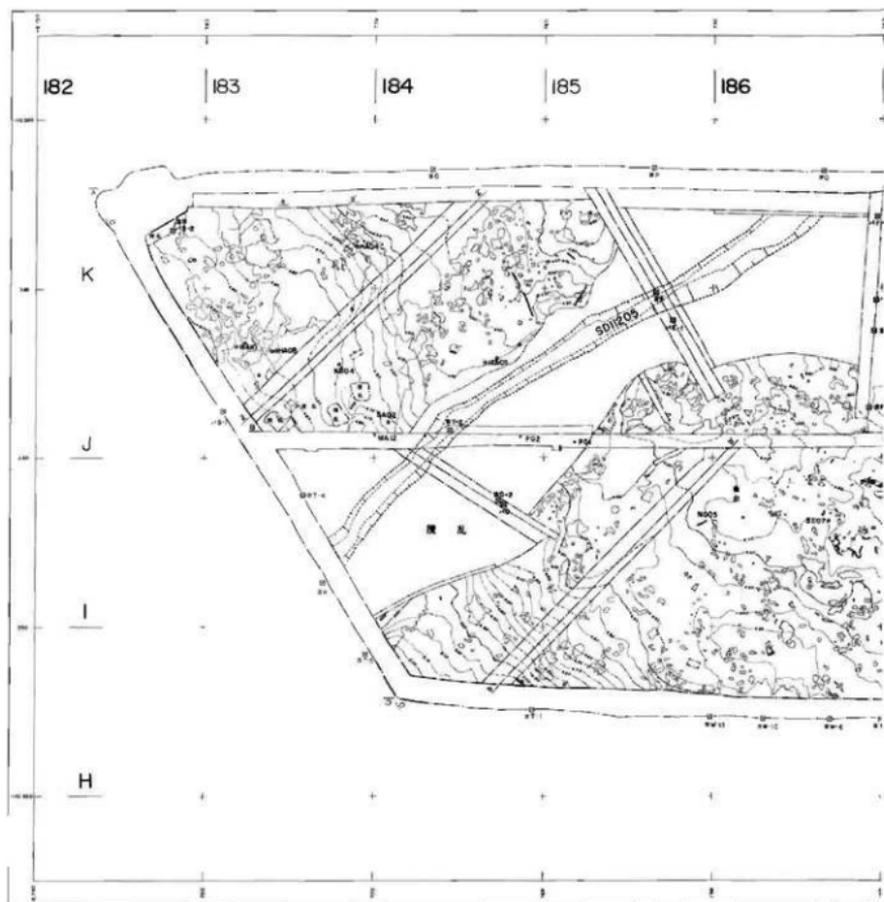
道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛土	A	E 3 0° 5' N E 8° N		[4.8]	0.5				
2小	盛土	A	E 4 8° N		[0.7]	0.5				
3小	盛土	A	E 3 8° 5' N		[1.1]	0.5				
4小	盛土	A	E 4 2° 5' N		[0.8]	0.65				
5小	盛土	A	E 4 3° N		[0.7]	0.6				
1小	盛土	B	N 3 6° W		[2]	0.5				
2小	盛土	B	N 3 8° W		[5.4]	0.7				
3小	盛土	B	N 4 0° W		[0.8]	0.5				

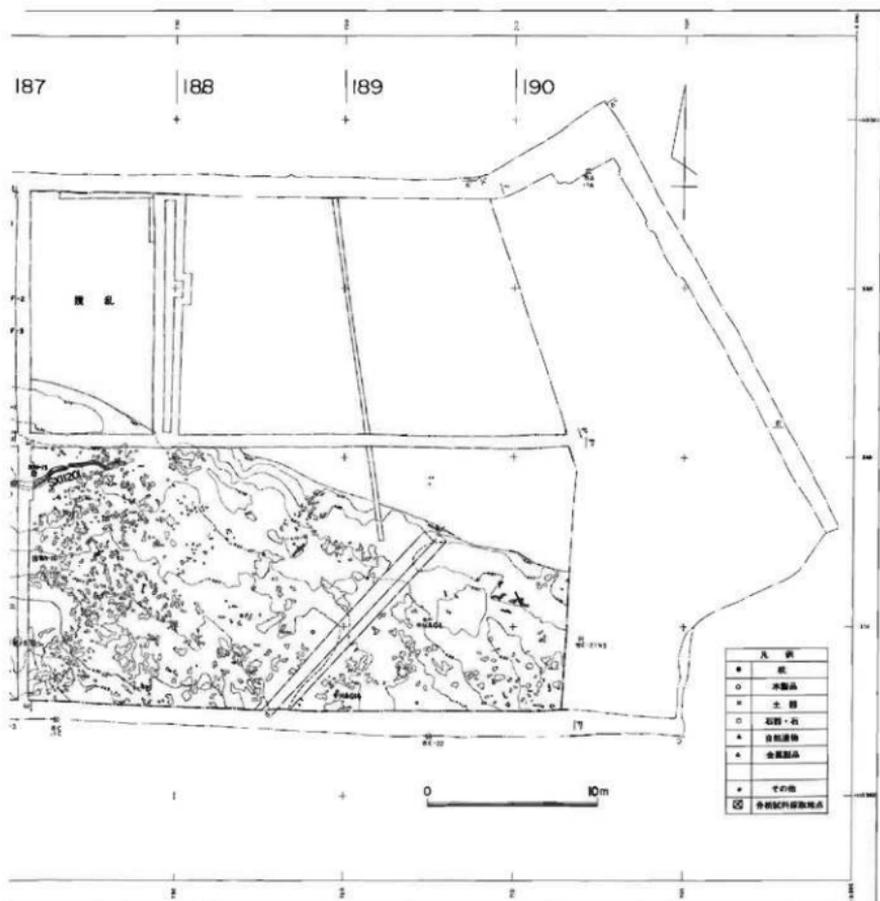
隣畔計測表
 A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(板列、盛土、打込) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E検出長(m) ; 推定長は()、完結しないものは[] F検出面での上端幅(m) G検出面での下端幅(m) H・I田面比高差(cm)

1区12層水田擬似畦畔B(12B)計測表(溝)

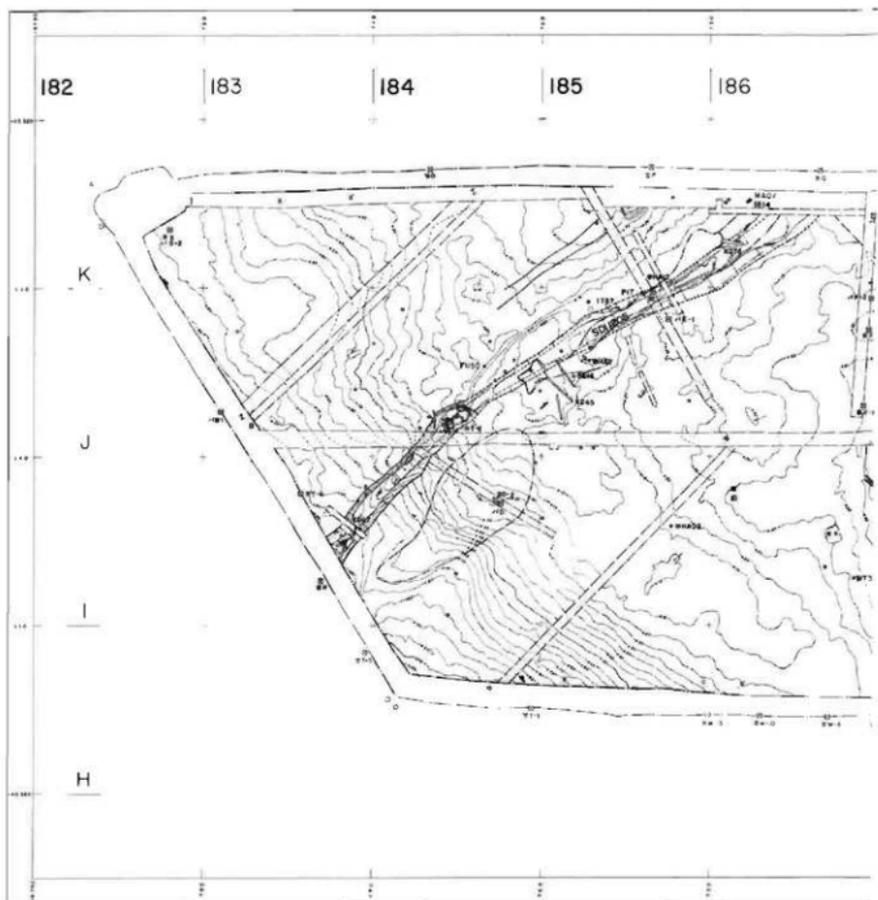
道標番号	A	B	C	D	E	F	G	備考
SD:1205	A	E 4 7° N E 2 8° N		[33.85]	1.5			

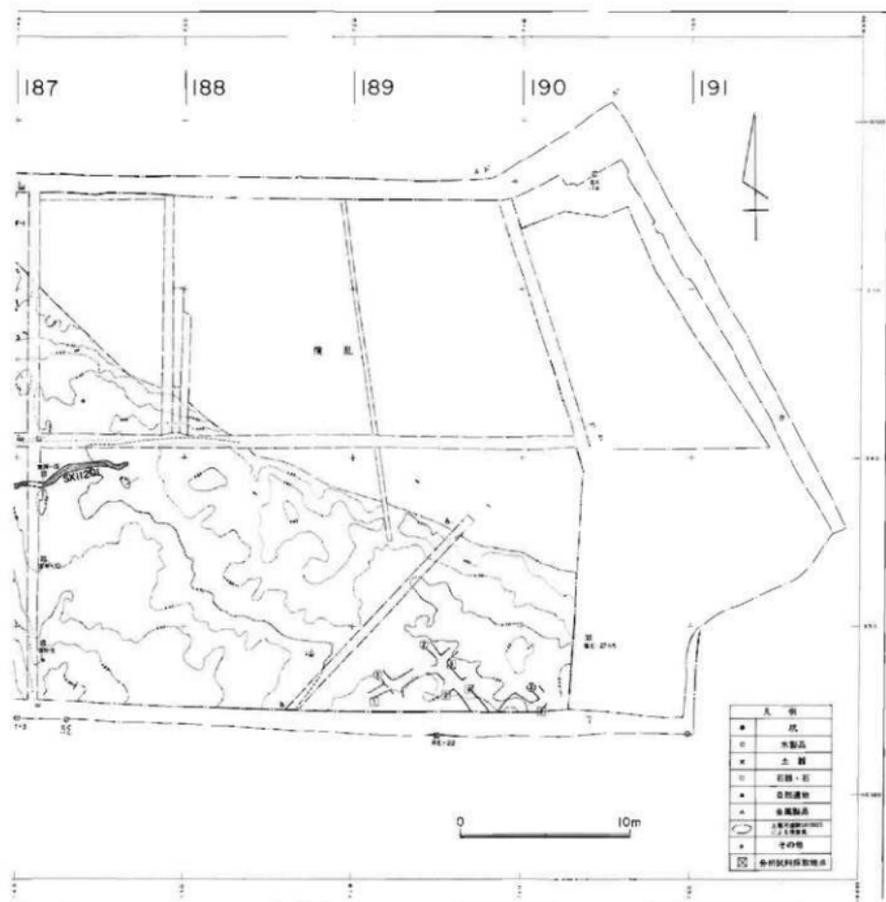
溝状道標計測表
 A主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) B方位 C検出長(m) ; 推定長は()、完結しないものは[] D検出面での上端幅(m) E検出面での下端幅(m) F覆土 G断面形



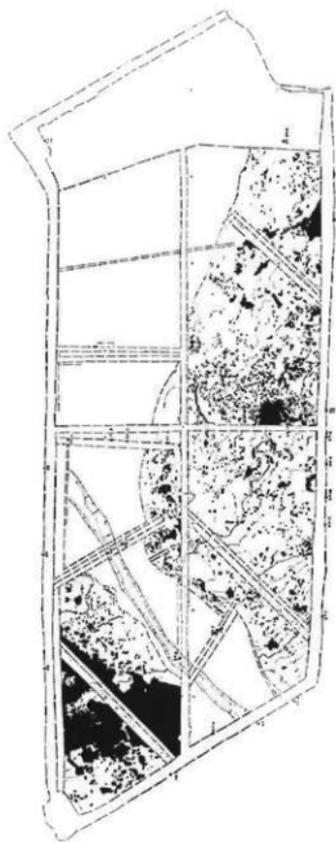


第148図 1区12層水田(12A)全体図

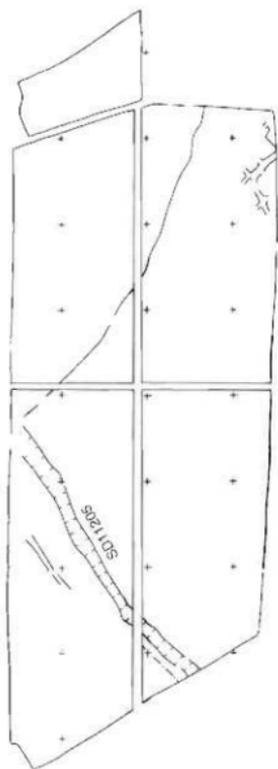




第149図 1区12層水田(122)全体図

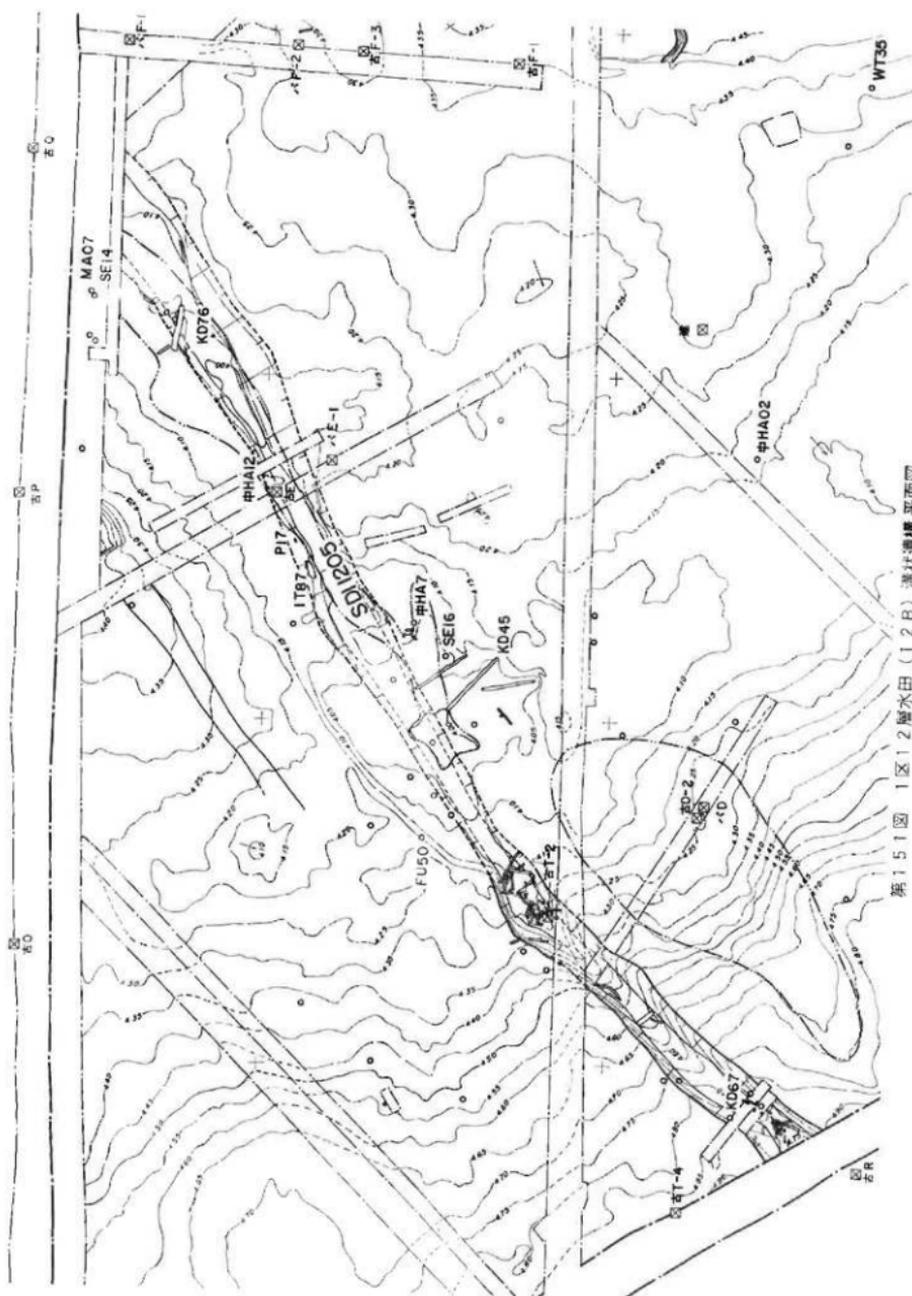


12層水田耕作土を横断する黄灰色粘土層の崩れ崩れ分子分布状況(12A)

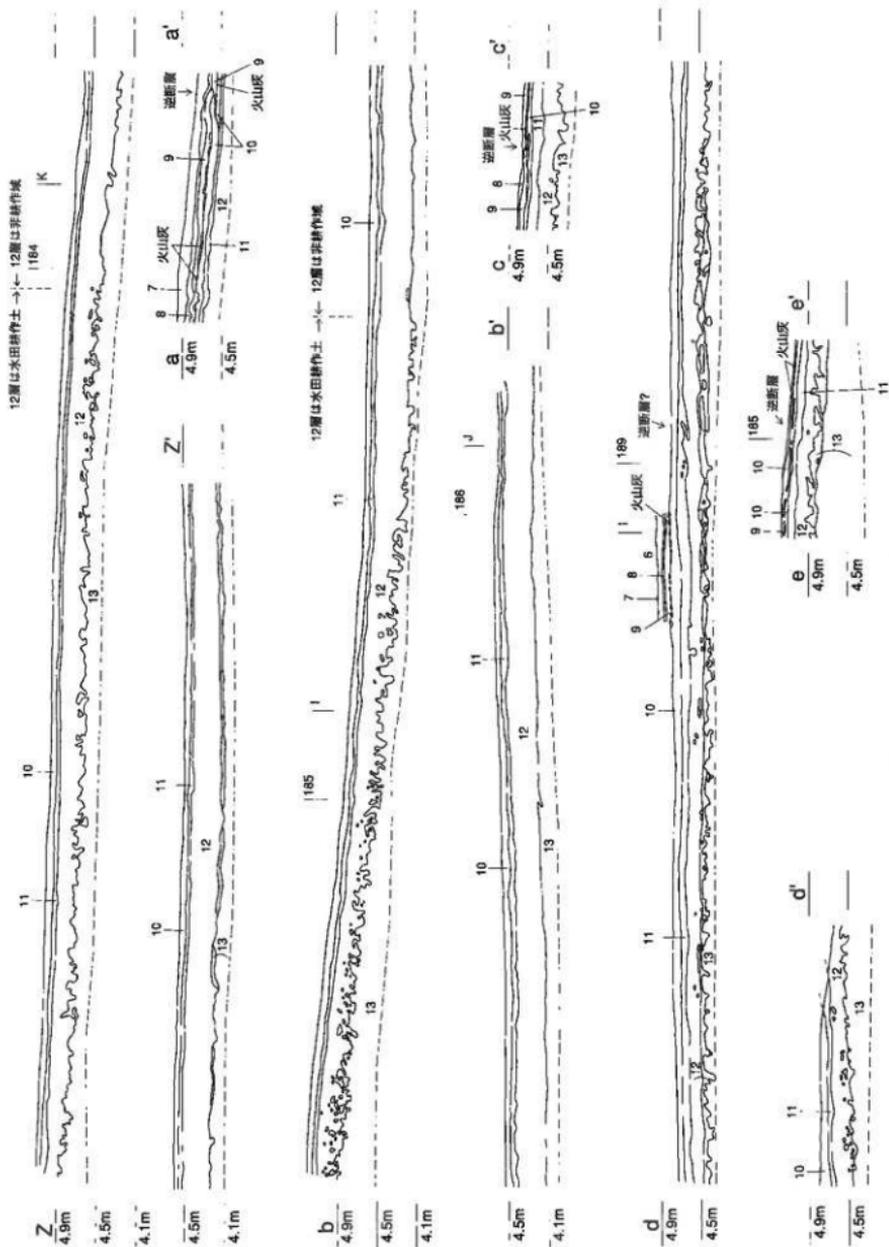


12層水田耕作土下面における灰色シルト質粘土上面の肥厚層二状況(12B)

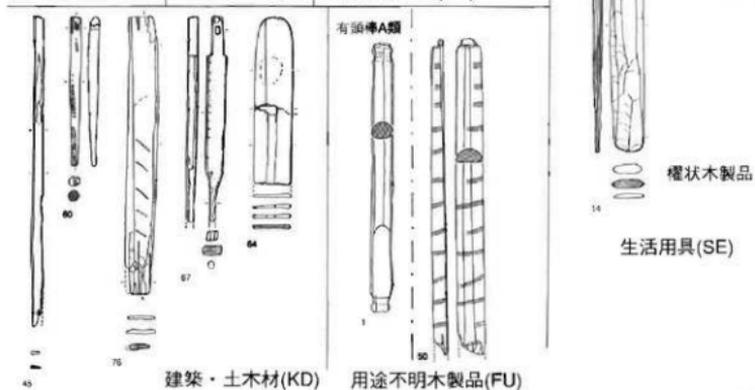
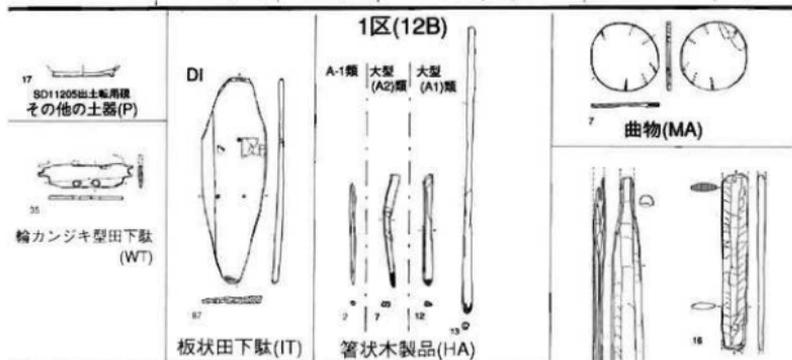
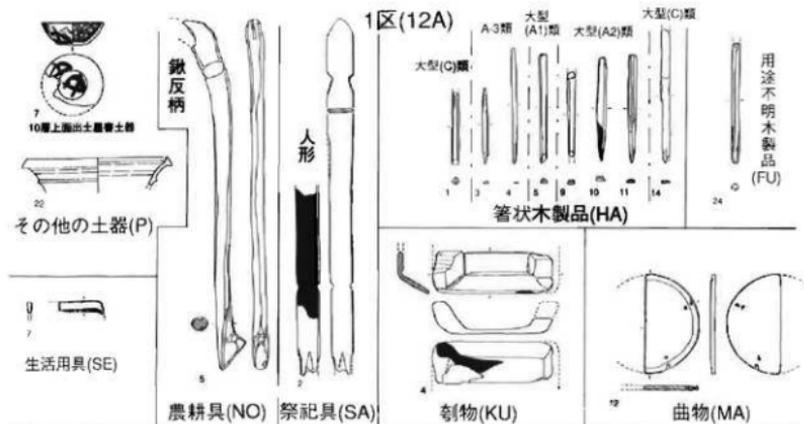
第150図 1区12層水田検出状況



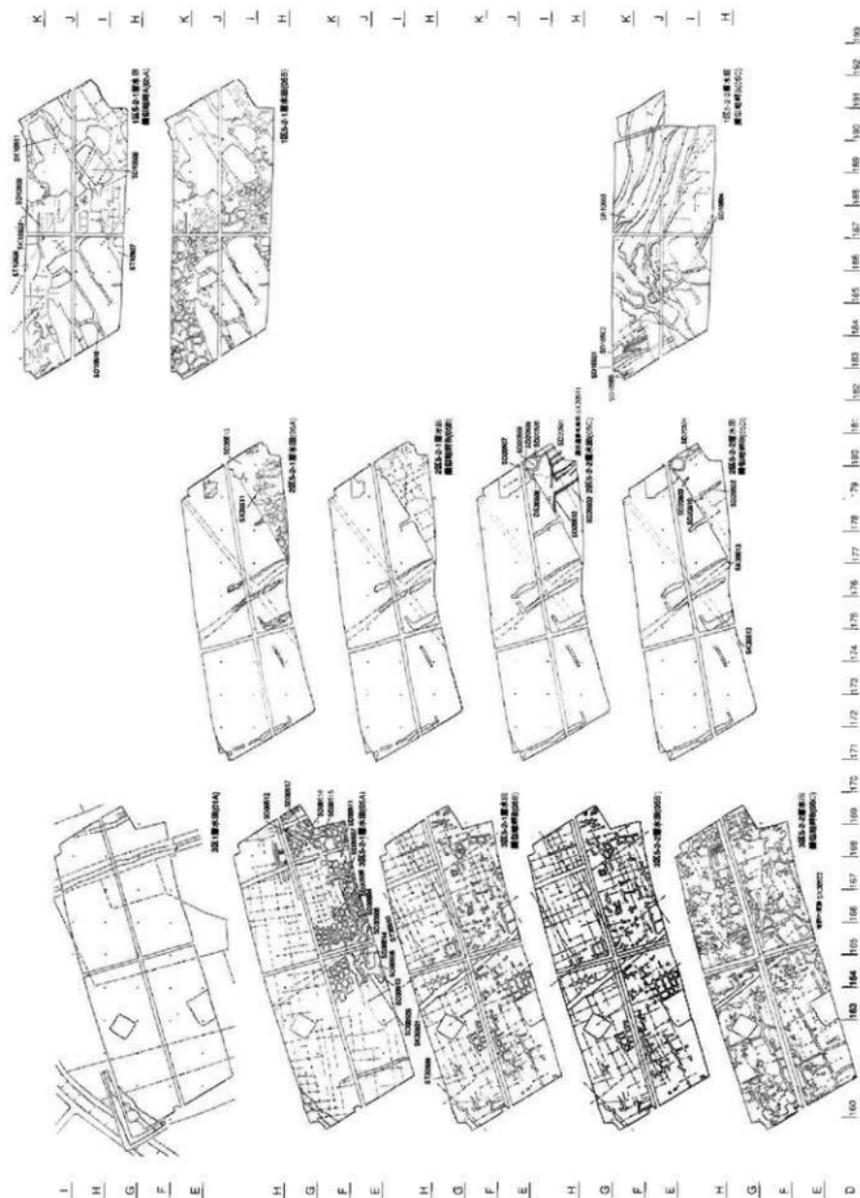
第151图 1区12畝水田(12B)溝状遺構平面図

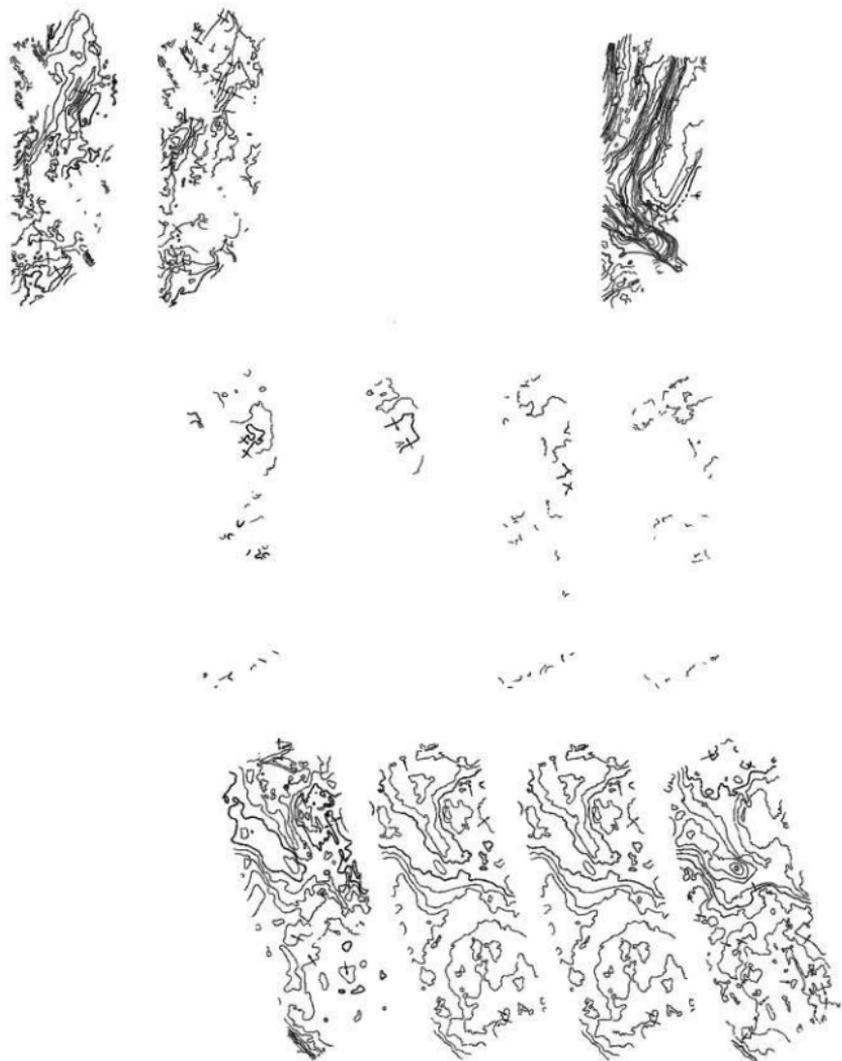


第 152 図 2 区 1, 2 層連横断面図

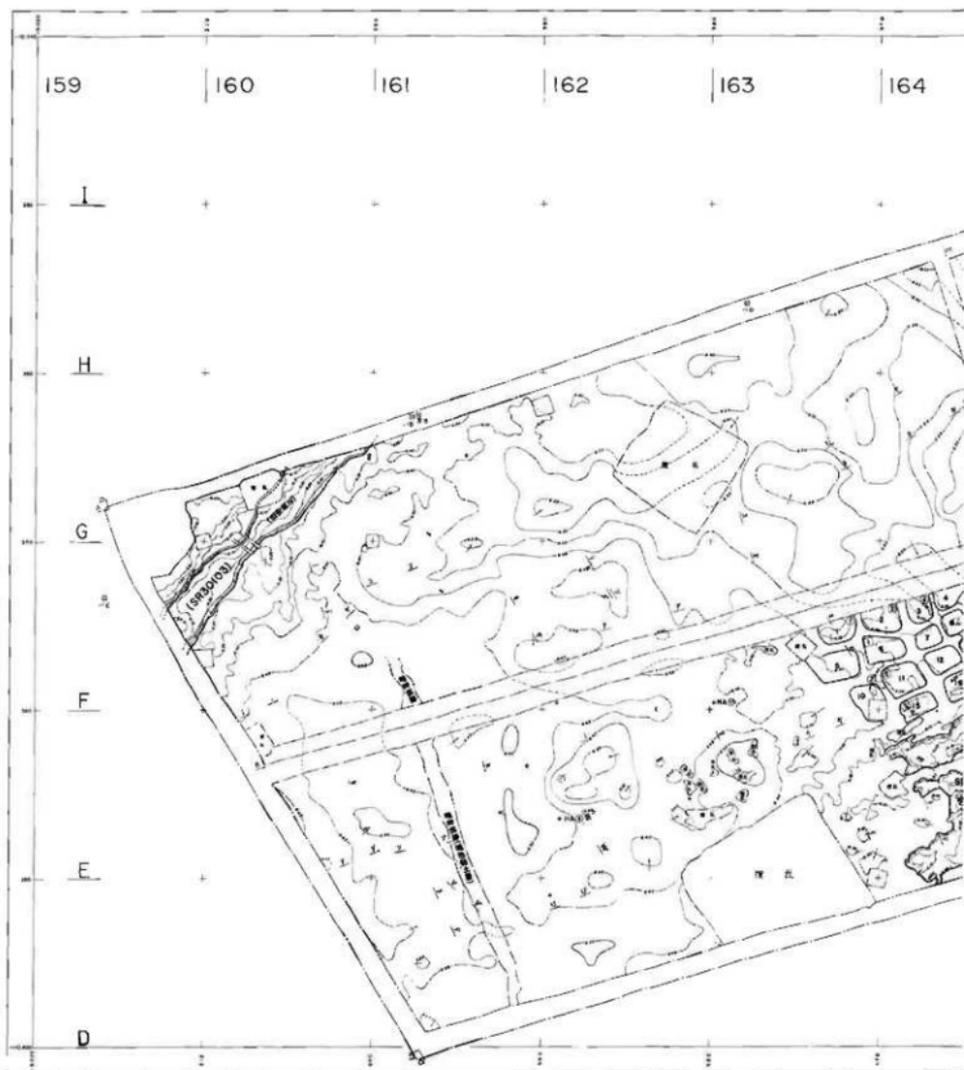


第153図 1区12層水田(12A)出土遺物集成図、12層水田(12B)出土遺物集成図



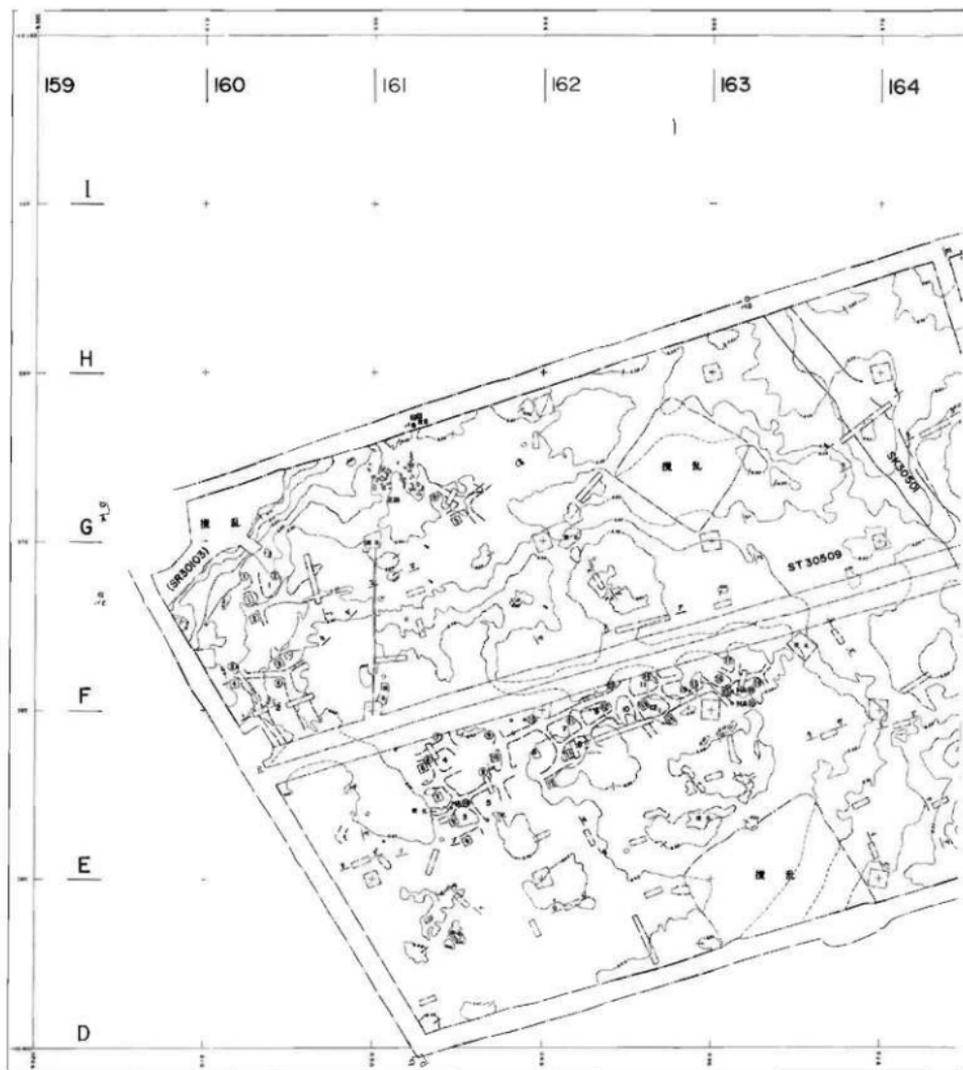


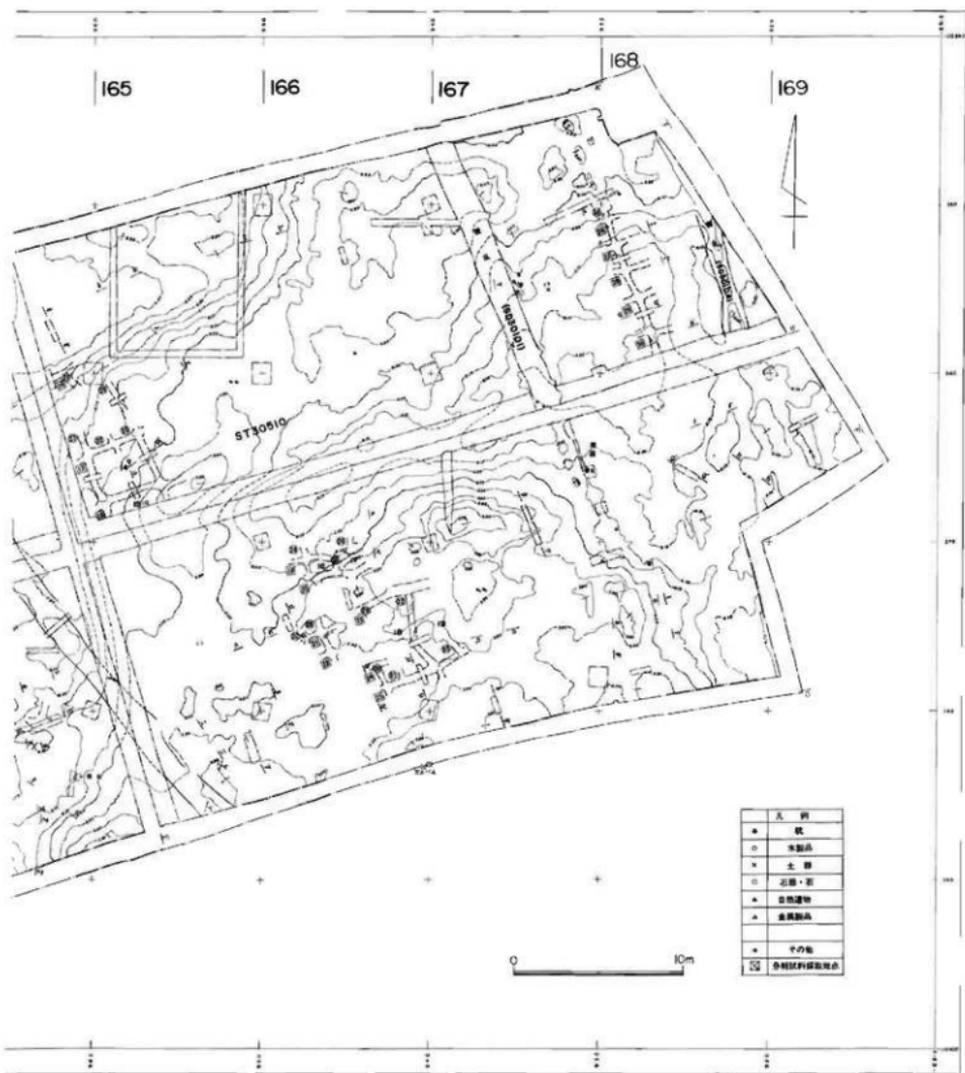
第155圖 5層水田地形起伏變遷圖



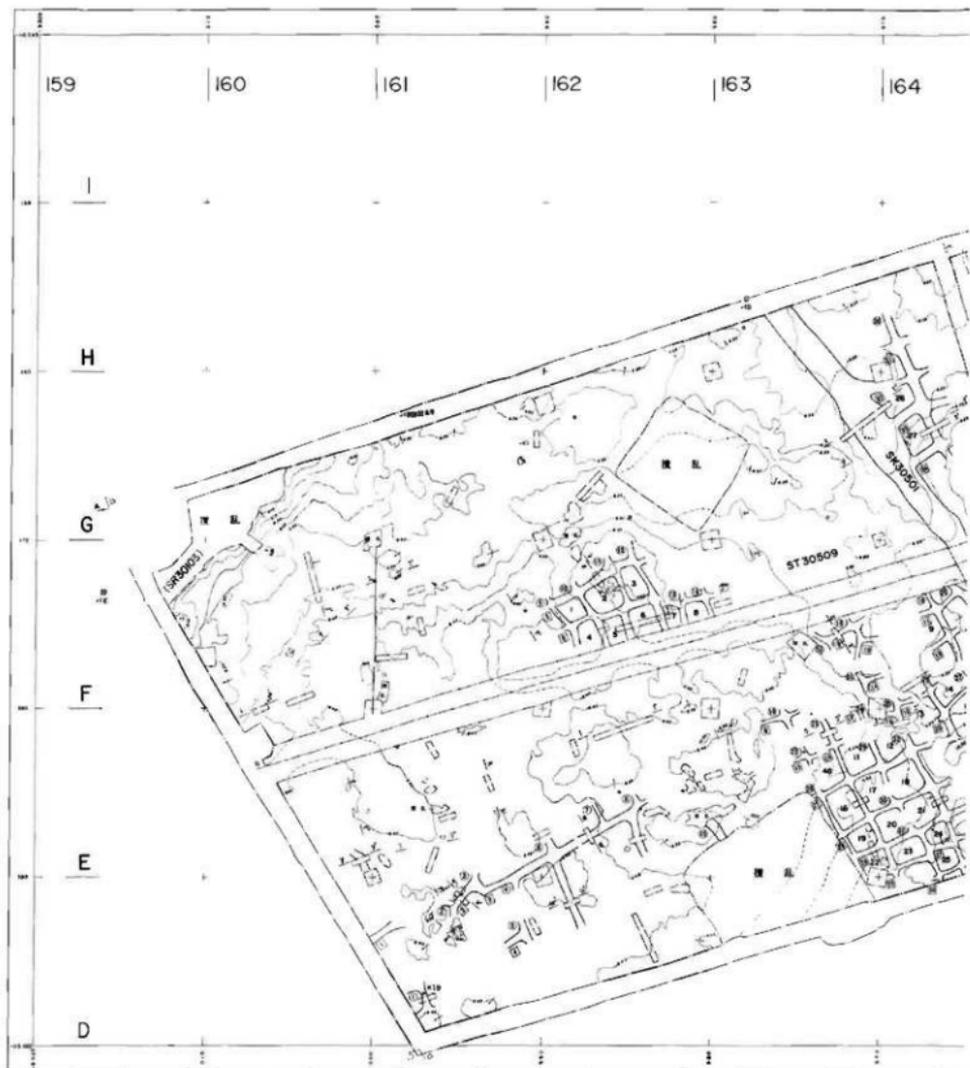


第156図 3区5-2-1層水田(05A)全体図



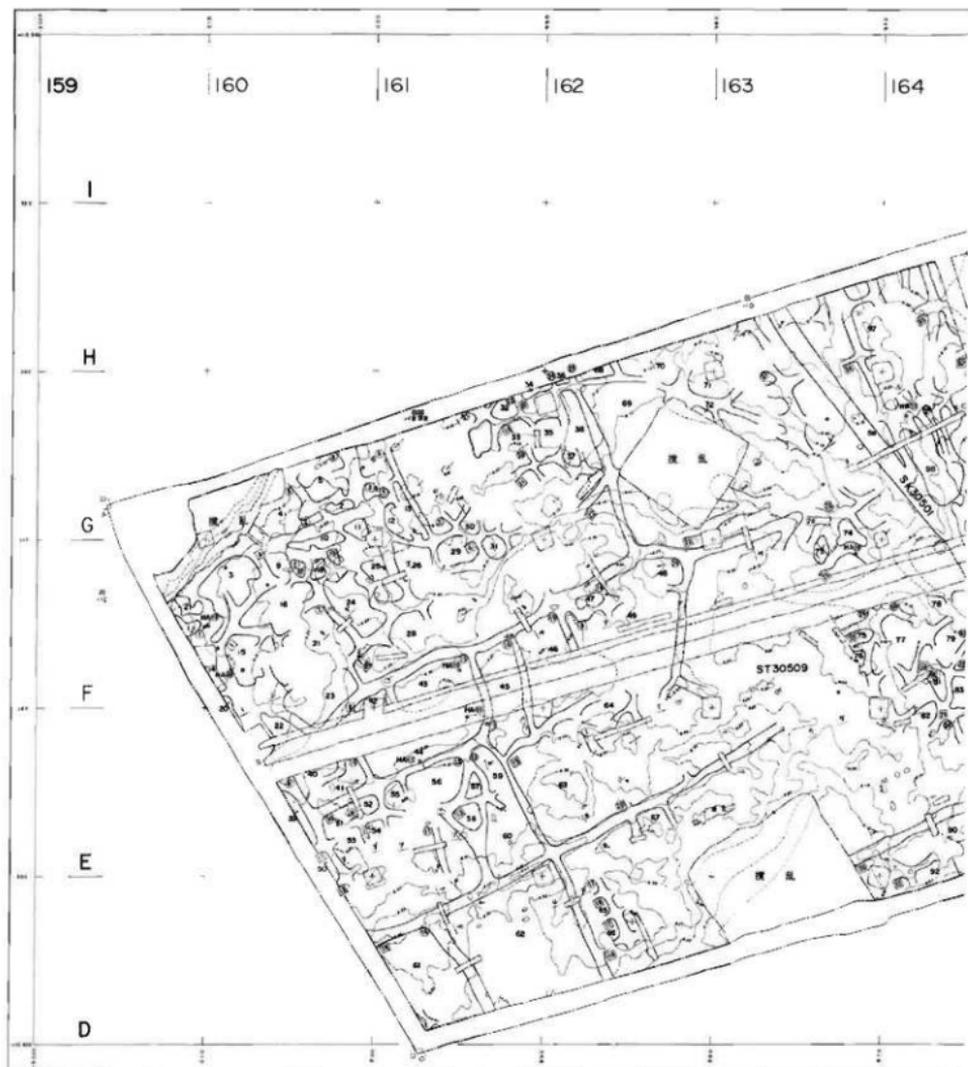


第157図 3区5-2-1層水田(05B)全体図





第158図 3区5-2-2層水田(05B')全体図





第159図 3区5-2-2層水田(05C)全体図

第17表・3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(1)

水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H					
1		6.35	[1.6]	[1.4]		2.45	長方形	A	8	(1.1)	45	(2.62)	5.97	(1.9)	1.7	2.6	(2.45)	長方形	A	1	1.8	
2		6.34	[1.9]	[1.1]		2.9	長方形	A	10	(1.9)	46		5.98		[0.9]	1.1				3	(0.6)	
3		6.33	[1.6]	[1.9]		1.95	長方形	B	9	(3.7)	47		6.01	[2.1]		[2.1]				2	(3.4)	
4		6.23		[1.13]		3.4			3	(0.4)	48	2.11	6.05	1.5	1.1	2.2	2.7	台形	A	5	2.5	
5	(4.58)	6.4	2.2	[2]	[2.4]	2.85	長方形	A	10	2.5	49	1.89	6	1.4	1.5	2.5	1.75	台形	A	1	0.2	
6	3.17	6.36	1.3	2.3	2.9	3	長方形	A	10	2.4	50	1.16	6.02	1.3	1.4	1.5	1.6	長方形	A	2	3.1	
7	1.64	6.31	1.5	1.35	1.95	2.3	台形	A	6	0.3	51	1.67	6.02	1.2	1.65	1.55	2.3	長方形	A	3	1.2	
8	1.75	6.26	1.7	1.8	1.7	1.75	正方形	C	6	2.4	52	2.8	6.03	2.15	1.7	2.1	2.55	台形	A	2	3.1	
9	1.64	6.24	2.6	1.65	1.7	1.7	長方形	B	4	0.8	53	3.57	6.02	1.7	2.2	2.9	2.7	長方形	A	2	1.2	
10	(3.64)	6.38	[1.65]	3.2	2.4	[1.05]	長方形	B	4	(1.2)	54	2.81	6.04	1.55	1.65	2.65	2.8	長方形	A	4	1.2	
11	3.85	6.32	2.15	2.45	2.55	2.75	正方形	C	8	3.3	55		6.02		1.6	[0.6]	[1.5]			6		
12	2.51	6.32	1.6	2.15	2.55	2.6	長方形	A	6	1.8	56	6.01	2.9	[0.45]	1.45					10	2.1	
13	2.32	6.29	2	1.6	2.5	1.7	台形	A	5	2.9	57	1.67	6	1.6	1.45	2.45	2.05	長方形	A	4	0.3	
14	1.48	6.29	2	2	1.1	1.85	長方形	B	5		58	1.2	6.02	1.6	1.55	0.8	1.9	台形	B	2		
15	2.46	6.35	1.6	1.6	2.75	2.9	長方形	A	9	1.3	59		5.97	[1.5]	[1.45]	1.35				3	(3.3)	
16	3.07	6.33	2.2	1.6	2.6	2.5	長方形	A	9	1.4	60		6.01	[1.1]	[1.5]	2				6	0.6	
17	2.31	6.29	1.9	2.2	2.1	1.65	長方形	B	6	2.4	61	2.1	6.03	1.35	1.5	2.35	2.3	長方形	A	3	1.1	
18	1.7	6.22	2	1.9	1.45	1.85	長方形	B	0	3.5	62	1.28	6.01	1.4	1.4	2.3	1.25	台形	A	4	1.8	
19	6.16	[0.8]			[1.1]				16		63	1.7	6.01	1.8	0.9	2	2.35	台形	A	4	0.2	
20	6.02	[1.15]	[0.45]		1.4				7	(1.7)	64	1.45	6.02	1.6	1.5	1.65	1.65	台形	A	6	0.6	
21	6.03	[1.9]	[1]		1.75	長方形	B	12	(1.8)	65	1.59	6.01	1.7	1.6	2.1	0.95	台形	C	7	0.2		
22	6.03	[0.8]	[0.8]		1.8				7	2.2	66		6.01		1.45	[1.2]	[0.7]					
23	6.13		[0.9]		[1.4]				8	3.1	67	0.92	5.99	1.5	1.2	0.95	1.35	台形	B		1.1	
24	1.53	6.04	1.85	1.3	1.8	1.55	台形	B	6	1.2	68	0.95	5.98	1.3	1.5	1.65	1.05	正方形	C			
25	6.13		1.85	[1.4]	[1]				10	2.7	69	0.72	5.98	0.9	1.35	1.2	1.2	正方形	C	1		
26	(3.3)	6.1	2	[0.9]	[1.75]	2.5	長方形	A	2	(1.9)	70	1.52	5.98	0.85	1.4	2.75	2.15	長方形	A	3	0.7	
27	2.24	6.06	2.4	2.35	1.4	1.5	長方形	B	7	1.6	71	(3.95)	5.97	2.2	1.15	(2.45)	3.8	長方形	A	8	3.6	
28	1.85	6.04	1.7	2.4	1.75	1.25	長方形	B	7	1	72		5.97	[1.2]	2.2	[1]	1.5			9	(1.8)	
29	1.27	6.06	1.45	1.7	1.55	1.35	正方形	C	10	0.1	73	(1.88)	5.96	2.35	(1.85)	(7.25)	1.95	長方形	B	6	2.9	
30	6.08		1.45	[1]		[1.45]			7	2.2	74			[0.65]		[1.6]						
31	0.82	6.05	1.9	0.75	1.5	1.85	台形	A	5	0.3	75		5.94	[0.9]	[0.65]	2.05				2	(0.6)	
32	0.96	6.02	1.6	1.4	1.35	1.15	長方形	B	2		76		5.94	[0.8]	[0.9]	1.6				4	(1.2)	
33	1.06	6.07	1.4	1.6	1.35	1.5	長方形	B	8	1.9	77		5.94	[0.8]	[0.8]	2.5					(3.9)	
34	6.08		1.4	[1.2]	[1.35]				6		78		5.88	[0.9]	[0.8]	1.75				2	(1.6)	
35	6.03	5.5		[2.5]	[2.75]				3	(2)	79		5.94	[1.1]	[0.9]	1.55				4	(4.4)	
36	1.06	6.05	1.5	1.75	1.2	1.3	長方形	B	5	0.1	80		5.97	[1.25]	[1.1]	1.9				8	(0.2)	
37	1.76	6.01	2.2	3.3	1.3	1.2	長方形	B	2	2.4	81		5.9	[1.35]	[0.95]	1.65				1	(0.2)	
38	0.981	6.04	1.5	1.4	1.4	1.5	正方形	C			82		6		[0.8]		[1]			5		
39	2.46	6.05	1.7	1.5	2.3	2.5	長方形	A	4	0.4	83		5.95	[0.6]	[0.85]		1.1			15	(0.4)	
40	6.02	2.1		[1.2]	[1.5]				2	(0.9)	84	2.35	5.97	2	1.95	1.9	2.1	正方形	C	3	3.7	
41	1.4	6.03	1.15	2	1.3	1.75	正方形	C	3	2.1	85	2.36	5.96	1.9	2	2	2.2	正方形	C	5	3.5	
42	1.72	6.03	1.8	2.5	1.5	1.2	梯形	B	7	0.3	86		5.97		[1]	[1.6]				6	(1.5)	
43	2.82	6.01	2	1.8	2.5	2.5	長方形	A	2	1.7	87	2.01	5.98	1.3	1.45	2.2	2.35	長方形	A	5	0.7	
44	1.6	6.03	1.6	1.6	1.4	2	台形	A	4	2.6	88	1.76	5.96	2.05	1.8	0.9	1.95	長方形	B	3	2.8	

水田計測表

A 面積 (㎡) B 平均標高 (m) C 南北方向畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 D 東西方向畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 E 形状
F 主軸方向 (A 東西、B 南北、C その他) G 下段の水田面から当該田面までの堆積量 (cm) H 小区画内高低差 (m) : 上記の数値で、長さが測定できるものは ()、測定できないものは後出値を [] で示す。

第18表・3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(2)

水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H			
89		6	1.5	1.85	[1.3]			5 (0.1)	114	2.39	6.16	1.65	1.4	2.55	2.35	長方形	A	5	2.5	
90		6.01		1.6	[2.5]	[2.95]		8 (2.9)	115		6.15		1.85	[1.2]	[1.1]			1	(0.2)	
91		5.99	[1.3]	[1.05]	1.5			9 (0.4)	116		6.17	1.65		[1.3]	[1.3]			8	(3.9)	
92		6.24	[1.5]		[5.35]			7 (2.9)	117	2.48	6.19	2	1.9	1.9	2.3	正方形	C	12	2.7	
93		6.26	[1.95]	[2]	3.8			4 (3.9)	118	2.65	6.19	1.7	2	2.25	2.1	止方形	C	4	2.6	
94		6.25		[1.95]	2.85			5 (4.1)	119		6.18		1.7	[1.8]	[1.5]	長方形	A	2	(1.7)	
95		6.28	[0.7]			[0.7]		10	120		6.15	1.2		[1.15]	[0.9]			20	(0.2)	
96		6.26	[1.1]	[0.7]		2.1		6 (1.1)	121	1.92	6.12	1.4	0.95	2.3	2.85	長方形	A	5	3.1	
97		6.23	[1.05]	[1.4]		1.6	B	3 (1.9)	122	2.4	6.21	2.3	1.4	2.1	2.05	台形	A	3	1.8	
98		6.22		[1.05]		[1.5]		4	123		6.23		1.35	[1.5]	[0.9]			3	(3.3)	
99		6.21	[0.7]	[0.85]		0.75		6 (1.7)	124		6.23		0.95	[0.9]	[1.05]			3	(0.4)	
100		6.26	[1.3]		[0.7]			8	125		6.09	[0.75]		[0.8]				14	(1.3)	
101	1.82	6.27	1.6	1.3	2	2.4	長方形	A	7	2	126		6.13	[0.8]	[0.75]	2.85	長方形	A	9	(2.6)
102	2.86	6.24	2.95	1.6	1.1	3	台形	A	3	2.7	127		6.18	[0.8]	[0.8]	2.05			3	(1.5)
103	1.48	6.23	1.9	1.25	1.5	1.55	台形	A	4	0.7	128		6.22		[0.8]	[1.05]			2	
104	2.02	6.22	2.3	0.9	2.65	1.9	台形	A	2	0.1	129		6.17	[1.9]			[1.1]		7	(0.4)
105	(2.4)	6.24	[0.6]	1.75	2.35	[2.4]	長方形	A	9	(1.5)	130		6.13	[1.15]		[1.1]	[1.2]		4	(0.4)
106		6.2	1.75	1.3	[1]	3.1	長方形	A	5	(0.2)	131		6.18	1.4		[0.9]	[0.8]		8	(0.5)
107		6.18	[1.9]		[1.3]			8	132		6.19	1.15		[0.95]	[1.1]			6	(1.4)	
108					[0.8]	[0.85]			133		6.22	[1.5]		[1.3]	[1.4]			7		
109		6.18	[0.8]		[1.3]			8	134		6.15		[1.7]	[1.2]	[1.25]			5		
110		6.22	[1.1]		[0.95]			14 (1.9)	135		6.15		2.15	[1.25]	[0.8]			5	(1.8)	
111	3.28	6.22	2.7	1.6	2.7	2.05	台形	A	7	1.6	136		6.18		1.6	[0.8]	[0.4]		3	
112		6.17	[0.9]	1.8	1.15	[1.2]		5 (8.5)	137		6.21		1.45	[0.4]	[0.2]					
113		6.16		1.95	[1.2]	[1.2]		6 (3.1)	平均	2.07	6.11							5.64	1.83	

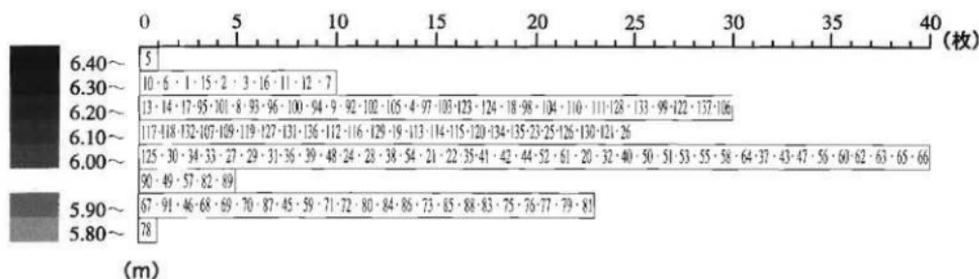
水田計測表

A主種(㎡) B平均標高(m) C南北方向畦畔の長さ(m) : 上段が東辺、下段が西辺 D東西方向畦畔の長さ(m) : 上段が北辺、下段が南辺 E形状
F主軸方向(A東向、B南北、Cその他) G下位の水田面から当該田面までの堆積量(cm) H小区面内比高差(cm) : 上記の数値で、長さが測定できるものは()、測定できないものは検出値を[]で示す。

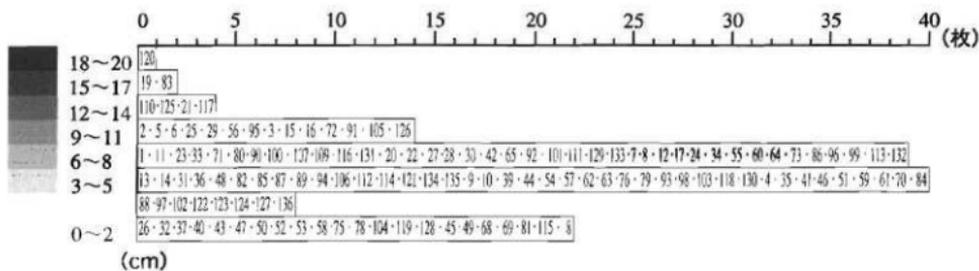
第19表・3区5-2-1層水田上面(05A)計測表(3)

道積番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛上	A	E 2. 5° S-R 30° N		8.25	0.36		3	1.3	
2小	盛上	A	E 21° N		8.75	0.39		3	2.5	
3小	盛上	A	E 28. 5° N-E 15. 5° N		8.9	0.33		4	4	
4小	盛上	A	E 5° S		[5.7]	[0.33]		-0.3	-0.3	
5小	盛上	A	E 6° N		[8.05]	0.34		1	3	
6小	盛上	A	E 12. 5° E-E 15. 5° N		[6.2]	0.4		0.3	2	
7小	盛上	A	E 10° N		4	0.43		0.5	3	
8小	盛上	A	E 40° N-E 6° N		[8.5]	0.37		2	2	
9小	盛上	A	E 27° N-E 6. 5° N		[8.35]	0.34		3	2	
10小	盛上	A	E 32° N-E 4 S-E 19° N		[13]	0.34		-1	1	
11小	盛上	A	E 28° N-E 10. 5° N		[12]	1.73	0.43			
12小	盛上	A	E 13. 5° N-E 31° N		[7.2]	0.35		1.5	2	
13小	盛上	A	E 9° N		[6.85]	0.32		0.8	3	
1小	盛上	B	N 9° W		[3.8]	0.43		4	1.5	
2小	盛上	B	N 28. 5° W		4.05	0.4		6	2	
3小	盛上	B	N 13° W-N 33. 5° W		[6.95]	0.64		4	2	
4小	盛上	B	N 20. 5° W		[3.1]	0.25		8	0	
5小	盛上	B	N 10° W		[5.3]	0.39		4	-5.5	
6小	盛上	H	N 9° E-N 20° W		5.3	0.34		3	2	
7小	盛上	D	N 12° E-N 13° W		[5.45]	0.34		1	-0.3	
8小	盛上	B	N 12° W		2.8	0.35		-0.5	2	
9小	盛上	B	N 5. 5° W-N 32° W		3.9	0.42		1.5	4	
10小	盛上	B	N 4° W		[5.4]	0.36		-1	2	
11小	盛上	B	N 13° W		3.3	0.33		1.5	1.5	
12小	盛上	B	N 3° W		[5.6]	0.31		-4	3	
13小	盛上	B	N 29° W		[2.9]	0.63		4	2	
14小	盛上	B	N 15° W		3.4	0.3		-3	1	
15小	盛上	B	N 36. 5° W		2.65	0.3		-1	-2	
16小	盛上	H	N 8 E-N 31° W		[3.2]	0.4		-1	-1	
17小	盛上	D	N 32° W-N 6° E		2.65	0.35		-1	-1	
18小	盛上	B	N 35° W		[3.1]	0.3		-3	2	
19小	盛上	B	N 33. 5° W		[2.3]	0.31		2	1.5	
20小	盛上	B	N 39. 5° W		[3.6]	0.45		2	4	
21小	盛上	B	N 33. 5° W		[2]	0.75	0.2	3	9	
22小	盛上	B	N 19° W		[1.95]	1	0.3	6	5	
23小	盛上	B	N 23. 5° W-N 10° W		[3.6]	0.22		2	4	
24小	盛上	B	N 32° W		[4.2]	0.33		1	5	
25小	盛上	B	N 32. 5° W-N 15° W		[4.8]	0.36		-0.8	0.6	
26小	盛上	B	N 42° W		[7.1]	0.4		-0.8	1	

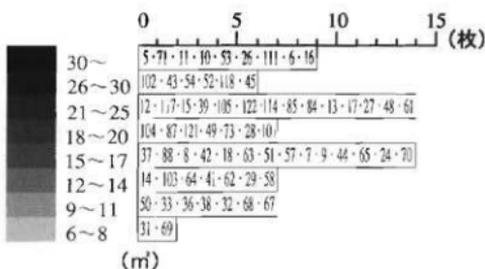
畦畔計測表
 A畦畔長度(大、中、小) B畦畔標高(枕刈、盛上、引出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E検出長(m):推定長()、完結しないものは[] F検出面での上端幅(m) G検出面での下端幅(m) H・I田面比高差(%)



水田面の平均標高

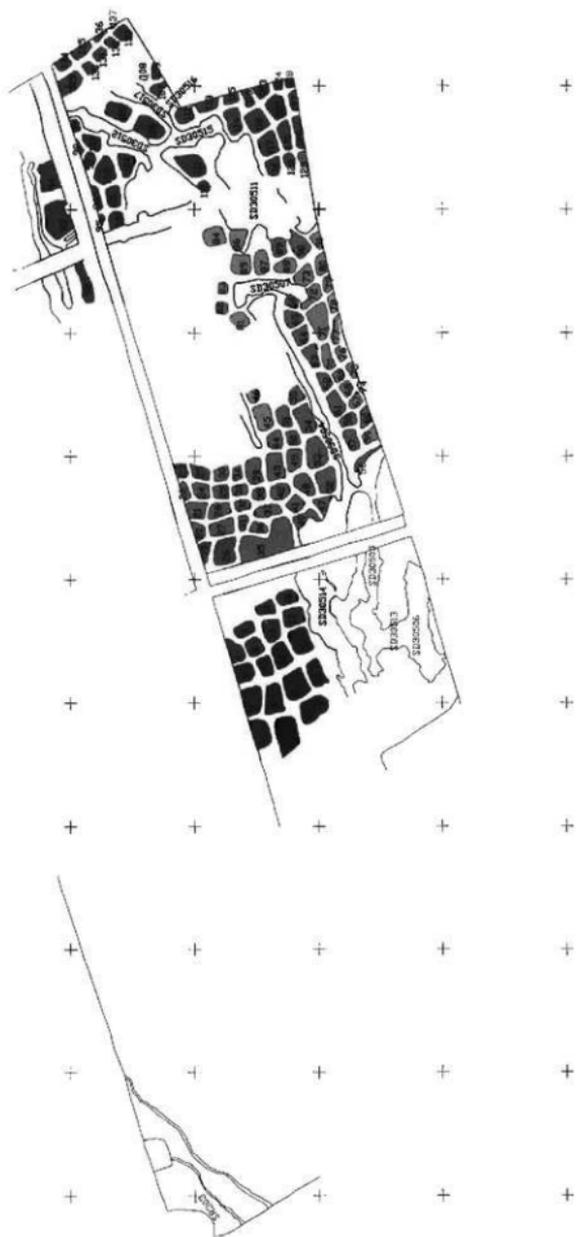


堆積量 (水田耕作土の厚さ)

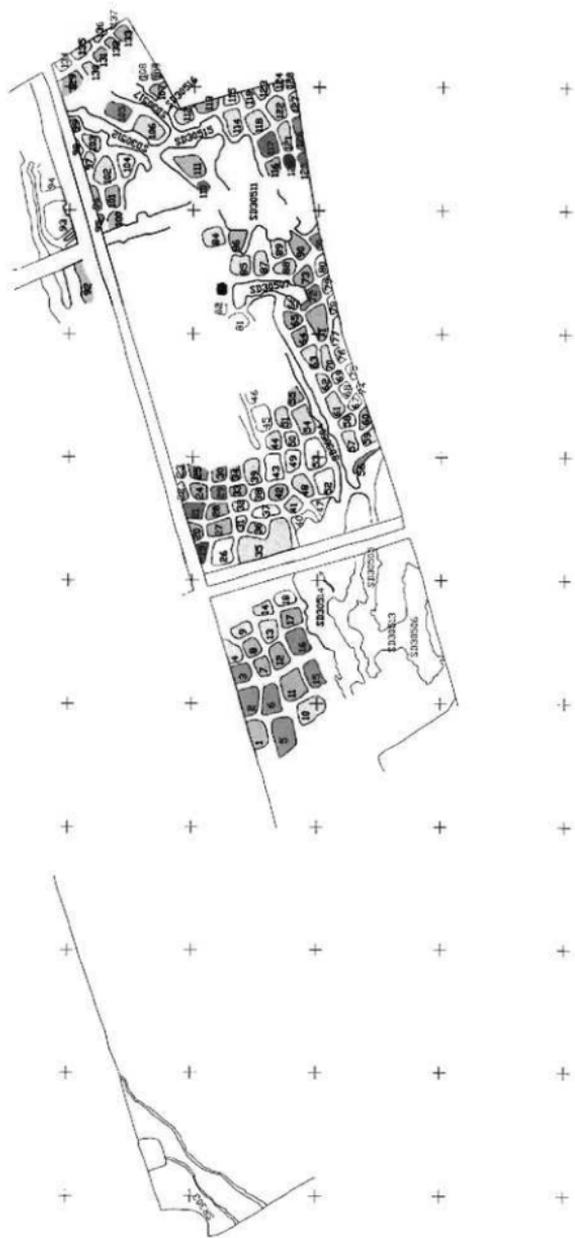


水田面積

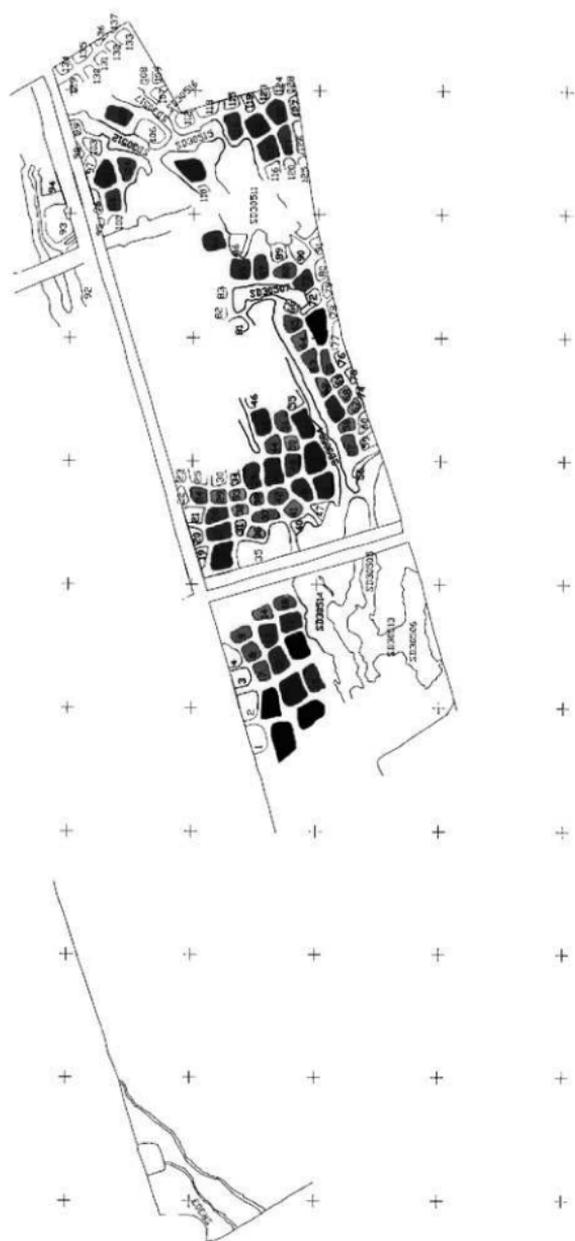
第160図 3区5-2-1層水田(0.5A)分析グラフ



第161图 3区5-2-1落水田(05A) 等高分析图



第162图 3区5-2-1号水田(05A)堆積層分析图

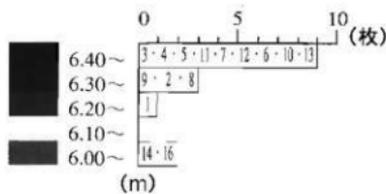


第163图 3区5-2-1腐水田(0.5A)面積分析图

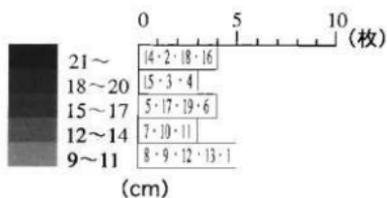
第21表・3区5-2-1層水田疑似畦畔B(05B)計測表(2)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
24小	盛土	A	E14°N			[2.2]	0.33			
29小	盛土	A	E20.5°N			[2.85]	0.4			
30小	盛土	A	E18°N			[2.3]	0.38			
1小	盛土	B	N13°W			[3.1]	0.35			
2小	盛土	B	N5°E			[1.2]	0.5			
3小	盛土	B	N31.5°W			[5.2]	0.43			
4小	盛土	B	N24°W			[3.85]	0.77			
5小	盛土	B	N39°W-N57.5°W			[3.25]	0.32			
6小	盛土	B	N50°W-N29.5°W			[5.35]	0.34			
7小	盛土	B	N36°W			[1.4]	0.5			
8小	盛土	B	N25.5°W			[2.5]	0.42			
9小	盛土	B	N16°W			[2.6]	0.45			
10小	盛土	B	N9°E-N39.5°W			3.6	0.32			
11小	盛土	B	N17.5°W-N32.5°W			2.65	0.33			
12小	盛土	B	N7.5°W			[1.5]	0.35			
13小	盛土	B	N32.5°W-N17°E			[3.85]	0.4			
14小	盛土	B	N48°W-N12°E-N28.5°W			[2]	0.35			
15小	盛土	B	N50°W			[2.25]	0.35			
16小	盛土	B	N59°W			[1.1]	0.25			
17小	盛土	B	N2.5°E			[1.1]	0.33			
18小	盛土	B	N27°W			[0.65]	0.3			
19小	盛土	B	N44°W			[1.3]	0.35			
20小	盛土	B	N30.5°W			[2.05]	0.3			
21小	盛土	B	N18.5°W			[4.9]	0.43			
22小	盛土	B	N22°W			[1.25]	0.28			
23小	盛土	B	N27.5°W			[4.7]	0.38			
24小	盛土	B	N21°W-N60°W-N14°W			[1.85]	0.3			
25小	盛土	B	N1.5°E			0.75	0.4			
26小	盛土	B	N5°W			[0.65]	0.3			
27小	盛土	B	N21.5°W			[0.75]	0.25			
28小	盛土	B	N20.5°W			[2.6]	0.3			
29小	盛土	B	N28.5°W			[0.5]	0.4			
30小	盛土	B	N27.5°W			[1.95]	0.35			
31小	盛土	B	N13.5°W			[0.65]	0.25			
32小	盛土	B	N42°W-N6.5°W			[5.9]	0.35			
33小	盛土	B	N32°W			[0.65]	0.4			
34小	盛土	B	N21.5°W			[8.9]	0.39			

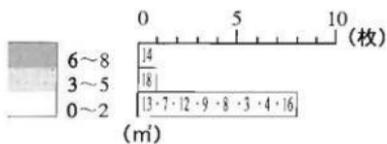
畦畔計測表
A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(板列、盛土、削出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E横出長(m);推定長は()、完
筋しないものは() F横出面での土層幅(m) G横出面でのド端幅(m) H・I出面比高差(cm)



水田面の平均標高



堆積量 (水田耕作土の厚さ)

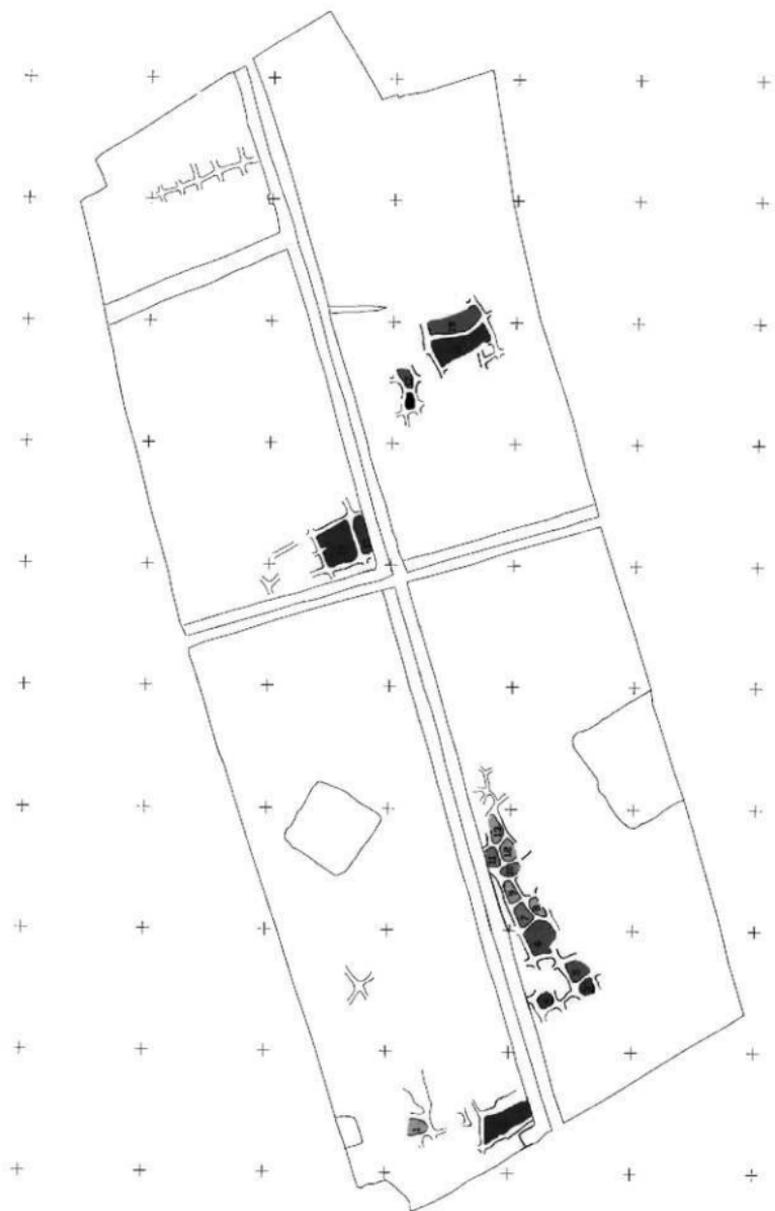


水田面積

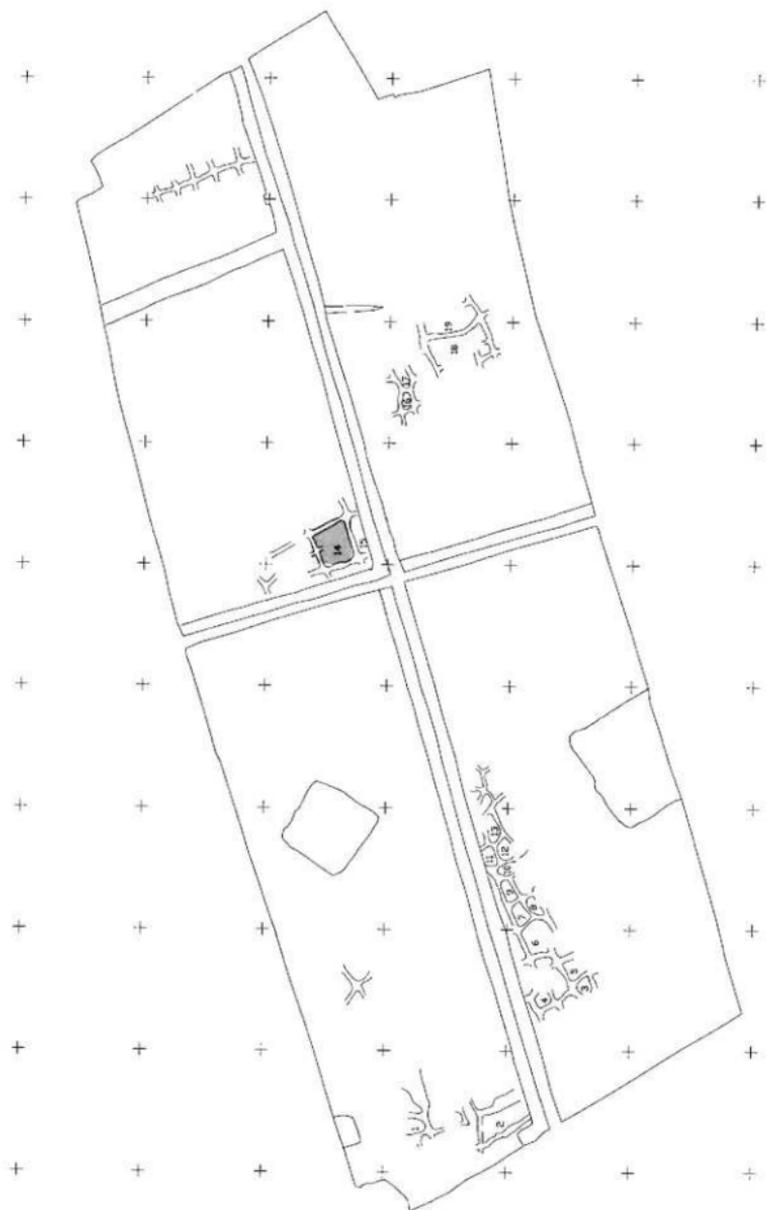
第164図 3区5-2-1層水田(05B)分析グラフ



第165図 3区5-2-1層水田(05B)標高分析図



第166图 3区5-2-1层水田(05B)堆積層分析图



第167图 3区5-2-1窟水田(05B)面精分析图

第22表・3区5-2-2層水田上面(05B')計測表(1)

水田 番号	A B C D E F G H								水田 番号	A B C D E F G H								
	1	1.58	6.34	1.6	1.8	1.7	1.5	台形		A	24	1.32	6.18	1.5	1.15	1.8	1.6	台形
2	3.49	6.4	2.3	1.6	(2.4)	2.4	正方形	C	25	1.6	6.18	1.5	1.65	1.6	1.55	正方形	C	
3	2.17	6.39	2.5	2.3	1.45	1.55	長方形	B	1	26	(3.03)	6.36	1.75	(2.8)	2	台形	A	
4		6.33	(1.75)	(1.8)	1.5				(2)	27	(3.26)	6.28	(2.5)	2	1.9	長方形	B	
5		6.37	(1.7)	(1.75)	1.6				(4)	28		5.91	(3)	(3.8)				
6		6.37	(2)	(1.7)	2.1				(2)	29		5.91	1.3	(1.3)	10.85	1.6	正方形	C
7		6.35	(1.25)	(2)	(1.6)				(1)	30		5.84	(1.5)	(1.3)	(1.4)			
8			(1.15)	(1.25)	1.5					31		5.9	(1.6)	(1.5)	1.95			
9		6.25	1.8		(1.1)	(1.4)			(1)	32	0.84	1.45	0.95	1.4	1.15	台形	B	
10		6.2	(3.25)	(3.45)	1.7				(3)	33		6	(1.2)	2.1	(0.7)	2		
11		6.34	(1.8)	2.3	(0.6)	2.1			(2)	34		5.89	1.25	(2.75)	(3.45)		A	(10)
12		6.27	(1)	(1.8)	2				(1)	35	2.61	6.09	1.45	2.15	3.3	1.7	台形	A
13		6.26	1.5	(1)	(2.05)	(0.7)			(3)	36		6.15	(0.4)	1.45	(1.3)	1.85	A	(4)
14		6.25	(1)	1.5	(0.6)	2.7			(2)	37	1.21	6.12	2.1	1.9	1.7		三角形	B
15		6.25	(0.9)	1.55	2.7				(6)	38	1.61	6.15	1.15	2.1	1.85	2.2	台形	B
16	(3.85)	6.3	(2.5)	2.7	1.9	1.9	長方形	B	1	39		6.15	3.3	2.2	1.7			
17	(3.21)	6.31	(2.3)	(2.5)	2.1	1.8	長方形	B	2	40	2.63	6.08	2.4	2.1	1.7	1.65	長方形	B
18	(3.66)	6.26	2.4	(2.3)	2	2.35	正方形	C	2	41	3.31	6.07	2.1	2.8	1.65	2	台形	B
19	(1.96)	6.28	1.7	1.55	1.9	(1.6)	正方形	C	4	42			(1.1)	(2.5)		1.05	B	
20	(2.69)	6.26	(2)	1.7	1.8	1.8	正方形	C	3	43	0.68	6.03	1.5	1.65	1.05	0.75	梯形	C
21	(3.02)	6.25	(1.9)	(2)	2.35	2.2	正方形	C	3	44		6.08	(0.8)	(1.6)	0.75			
22	(1.87)	6.25	1.4	1.55	(1.6)	(1.85)	正方形	C	2	45	0.79	6.15	1.95	1.5		1.2	三角形	B
23	2.45	6.24	1.5	1.4	2.3	2.3	長方形	A	1	46	2.89	6.35	2.3	(2.3)	(1.7)	1.9	長方形	B
										平均	2.34	6.2						3.26

水田計測表
 A面積(㎡) B平均標高(m) C南北方向畦畔の長さ(m) : 上段が北辺、下段が南辺 D東西方向畦畔の長さ(m) : 上段が北辺、下段が南辺 E形状
 F上軸方向(A東西、B南北、Cその他) G下段の水田面から当層田面までの堆積量(cm) H小区内比高差(cm) : 上記の数値で、長さが測定できるものは()、測定できないものは横抽出 [] で示す。

3区5-2-2層水田上面(05B')計測表(1)(畦畔)

通稱 番号	A B C D				E	F	G	H	I	備考
	1小	盛土	A	E 3 5° N						
2小	盛土	A	E 4 8° N		(1.8)	0.43				
3小	盛土	A	E 2 8. 5° N		(11.1)	0.41				
4小	盛土	A	E 3 5. 5° N		(1.3)	0.45				
5小	盛土	A	E 2 6. 5° N - E 1 1° N		(6.6)	0.43				
6小	盛土	A	E 2 4. 5° N - E 1 0. 5° N - E 1 6. 5° N		(6.15)	0.3				
7小	盛土	A	E 4. 5° S - E 1 1° N		(2.9)	0.35				
8小	盛土	A	E 1 5. 5° N		(2.4)	0.25				
9小	盛土	A	E 3 2. 5° N		(2.6)	0.3				
10小	盛土	A	E 2. 5° N		(1.1)	0.25				
11小	盛土	A	E 1 2. 5° N - E 4 7. 5° N		(2.8)	0.28				
12小	盛土	A	E 3 2° N		0.55	0.3				
13小	盛土	A	E 3 5. 5° N		(2.1)	0.3				
14小	盛土	A	E 1 8° N		(1.05)	0.25				
15小	盛土	A	E 1 9° N		(1.5)	0.2				
16小	盛土	A	E 2 5° N		(1.05)	0.3				

畦畔計測表
 A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(純利、盛土、掘出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E抽出長(m) : 測定長は()、完
 結しないものは[] F抽出部での上層幅(m) G抽出部での下層幅(m) H・I田面比高差(cm)

第23表・3区5-2-2層水田上面(05B')計測表(2)

道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
17小	盛土	A	E 13.5° N		[1.1]	0.25				
18小	盛土	A	E 18.5° N		[2.7]	0.25				
19小	盛土	A	E 3.5° S		[0.7]	0.25				
20小	盛土	A	E 42° N		[3.9]	0.25				
21小	盛土	A	E 27° N E 15° N		[9.1]	0.36				
22小	盛土	A	E 17° N		[0.8]	0.25				
23小	盛土	A	E 43° N		[1.1]	0.28				
24小	盛土	A	E 25° N		[7.65]	0.35				
25小	盛土	A	E 23.5° N		[2.3]	0.2				
26小	盛土	A	E 24.5° N		[7.55]	0.33				
27小	盛土	A	E 17.5° N		[2.5]	0.35				
28小	盛土	A	E 16° N		[1.55]	0.33				
29小	盛土	A	E 19° N		[2.65]	0.35				
30小	盛土	A	E 28° N		[2.35]	0.28				
31小	盛土	A	E 17.5° N		[1.8]	0.5				
32小	盛土	A	E 11° N - E 26° N		[4.1]	0.45				
33小	盛土	A	E 36° N - E 14° N		[3.75]	0.53				
34小	盛土	A	E 31° N		[2.6]	0.5				
35小	盛土	A	E 24.5° N		[2.1]	0.55				
36小	盛土	A	E 30.5° N		[0.9]	0.3				
37小	盛土	A	E 5° S		[0.7]	0.25				
38小	盛土	A	E 19.5° N		[1.3]	0.52				
39小	盛土	A	E 30° N		[2.4]	0.62				
40小	盛土	A	E 18.5° N		[0.85]	0.3				
41小	盛土	A	E 19.5° N		[1.1]	0.35				
42小	盛土	A	E 17.5° N		[1.7]	0.4				
43小	盛土	A	E 62° N		[0.4]	0.25				
44小	盛土	A	E 34° N		[1.1]	0.45				
45小	盛土	A	E 15.5° N		[0.8]	0.4				
46小	盛土	A	E 3.5° N		[1.25]	0.45				
47小	盛土	A	E 39° N		[1.55]	0.35				
48小	盛土	A	E 23.5° N		[0.5]	0.6				
49小	盛土	A	E 21.5° N		[0.75]	0.35				
50小	盛土	A	E 79° N		[0.8]	0.3				
51小	盛土	A	E 12° N		[0.9]	0.3				
52小	盛土	A	E 13.5° N		[1.95]	0.38				
53小	盛土	A	E 25.5° N		[3.3]	0.25				
54小	盛土	A	E 19° N		[13.0]	0.4				
55小	盛土	A	E 13° N		[0.4]	0.2				
56小	盛土	A	E 67.5° N - E 26.5° N		[2.8]	0.4				
57小	盛土	A	E 24° N		[4.2]	0.53				
58小	盛土	A	E 33° N		[1.75]	0.25				
59小	盛土	A	E 27° N		[0.7]	0.25				
60小	盛土	A	E 31° N		[0.5]	0.3				
61小	盛土	A	E 10.5° N		[1.05]	0.3				

計測計測表
A 経呼出度(大、中、小) B 経呼出度(北、南、西、東) C 主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D 方位 E 検出長(m) ; 推定長は()、
 \square 解しないものは [] F 検出面での上端幅(m) G 検出面での下端幅(m) H・I 田面比高低(m)

第24表・3区5-2-2層水田上面(05B')計測表(3)

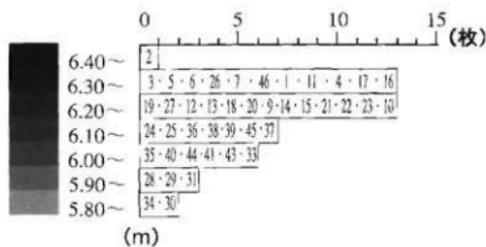
点検番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
62小	盛土	A	E 3. 5° N		[1.3]	0.25				
63小	盛土	A	E 18. 5° N		[7.15]	0.35				
64小	盛土	A	E 27° N		[1.65]	0.35				
65小	盛土	A	E 14. 5° N		[2.1]	0.25				
66小	盛土	A	E 14° N		[0.45]	0.25				
67小	盛土	A	E 18. 5° N		[1.55]	0.33				
68小	盛土	A	E 21. 5° N		[3.45]	0.36				
69小	盛土	A	E 2° N		[1.1]	0.4				
70小	盛土	A	E 16. 5° N		[1.15]	0.25				
71小	盛土	A	E 30. 5° N		[2.8]	0.28				
72小	盛土	A	E 59. 5° N-E 8. 5° N		[1.2]	0.35				
73小	盛土	A	E 32° N-E 25° N-E 14° N		[11.8]	0.44				
74小	盛土	A	E 13. 5° N		[0.65]	0.2				
75小	盛土	A	E 88° N		[0.8]	0.3				
76小	盛土	A	E 63° N-E 15° N		[5.35]	0.25				
77小	盛土	A	E 41. 5° N		2.2	0.28				
78小	盛土	A	E 32. 5° N		[0.8]	0.3				
79小	盛土	A	E 22° N		[0.5]	0.35				
80小	盛土	A	E 43° S-E 5° N		[1.7]	0.3				
81小	盛土	A	E 12. 5° N		[2.3]	0.37				
82小	盛土	A	E 10° N		[1.25]	0.35				
83小	盛土	A	E 12° N-E 46° N		[4.4]	0.35				
84小	盛土	A	E 2° N		[0.5]	0.3				
85小	盛土	A	E 8. 5° N		[2.25]	0.3				
86小	盛土	A	E 5. 5° N		[1.3]	0.4				
87小	盛土	A	E 1. 5° N		[0.6]	0.3				
88小	盛土	A	E 21. 5° N		[0.65]	0.35				
89小	盛土	A	E 30. 5° N		[2.6]	0.3				
90小	盛土	A	E 7° N		[0.5]	0.35				
91小	盛土	A	E 31. 5° N		[0.7]	0.5				
92小	盛土	A	E 9° N		[0.8]	0.2				
93小	盛土	A	E 25° N		[0.35]	0.25				
94小	盛土	A	E 57° N		[1.1]	0.5				
95小	盛土	A	E 17. 5° N		[2.15]	0.25				
96小	盛土	A	E 65. 5° N		[1.25]	0.35				
97小	盛土	A	E 29. 5° N		[0.55]	0.3				
98小	盛土	A	E 26° N-E 52° N		2.05	0.28				
99小	盛土	A	E 7. 5° S		[0.35]	0.35				
100小	盛土	A	E 33° S		[0.4]	0.2				
101小	盛土	A	E 19. 5° N		[0.2]	0.3				
102小	盛土	A	E 33. 5° N		[1.7]	0.3				
103小	盛土	A	E 11. 5° N		[0.6]	0.35				
SK30501	大	B	N 37. 5° W		[37.45]	1.68				
1小	盛土	B	N 21. 5° W		[1.35]	0.4				
2小	盛土	B	N 5° W-N 77° W		[1.3]	0.43				

観測計測表
 A 観測点標 (大、中、小) B 観測点構造 (柱列、盛土) C 本輪基本方位 (A: 東西、B: 南北、C: その他) D 方位 E 検出長 (m) ; 測定長は ()、完結しないものは [] F 検出面での上端幅 (m) G 検出面での下端幅 (m) H・I 田面比高差 (cm)

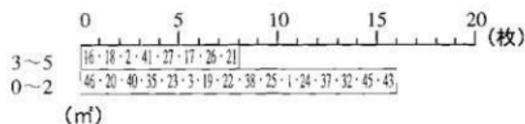
第25表・3区5-2-2層水田上面(05日)計測表(4)

道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
3小	盛土	B	N1° E		10.65	0.4				
4小	盛土	B	N9° W		10.8	0.4				
5小	盛土	B	N20° W		11.5	0.38				
6小	盛土	B	N22° W		15.5	0.43				
7小	盛土	B	N29° W		11.5	0.28				
8小	盛土	B	N19.5° W-N25° E-N19.5° W		13.8	0.48				
9小	盛土	B	N14° W-N40.5° W		14.05	0.35				
10小	盛土	B	N20° W-N33.5° W		14.05	0.4				
11小	盛土	B	N17° W-N30.5° E-N17° W		15.4	0.39				
12小	盛土	B	N18.5° W-N33.5° W-N10.5° W		15.8	0.36				
13小	盛土	B	N10° W		12.05	0.35				
14小	盛土	B	N16° W		11.85	0.25				
15小	盛土	B	N36.5° W		11.5	0.55				
16小	盛土	B	N24.5° W		11.5	0.38				
17小	盛土	B	N20.5° W-N61.5° W		11.45	0.25				
18小	盛土	B	N5° E-N18° W		12.9	0.3				
19小	盛土	B	N25.5° W		14.55	0.35				
20小	盛土	B	N40.5° W		13.75	0.32				
21小	盛土	B	N24.5° W		11.4	0.3				
22小	盛土	B	N29.5° W		11.25	0.25				
23小	盛土	B	N26.5° W		110.1	0.34				
24小	盛土	B	N20.5° W		10.75	0.25				
25小	盛土	B	N12° W		11.35	0.4				
26小	盛土	B	N28° W		13.95	0.35				
27小	盛土	B	N38° W		11.9	0.4				
28小	盛土	B	N28.5° W		16.25	0.25				
29小	盛土	B	N20° W		12.75	0.35				
30小	盛土	B	N38° W		11.1	0.3				
31小	盛土	B	N23° W N80° W N23° W		13.6	0.3				
32小	盛土	B	N21° W		8.85	0.35				
33小	盛土	B	N23.5° W		16.8	0.25				
34小	盛土	B	N14.5° W		11.3	0.28				
35小	盛土	B	N68° W-N34° W		12.4	0.25				
36小	盛土	B	N25° W		19.75	0.53				
37小	盛土	B	N57.5° W		12.3	0.3				
38小	盛土	B	N7° E		12.2	0.35				
39小	盛土	B	N18° W-N16° E-N27° W		12.05	0.33				
40小	盛土	B	N30° W		11.2	0.35				
41小	盛土	B	N39° W		11	0.3				
42小	盛土	B	N18° W		12.7	0.48				
43小	盛土	B	N37.5° W-N11° W		13.5	0.38				
44小	盛土	B	N17.5° W		11.1	0.3				
45小	盛土	B	N26.5° W-N53.5° W-N16° W		14.1	0.38				
46小	盛土	B	N41.5° W		10.8	0.35				
47小	盛土	B	N16.5° W		11.2	0.25				

町野計測表
A町野規模(大、中、小) B畦野構造(行列、盛土、掘出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E横出長(m) 掘出長は()、定
結しないものは「」 F横出面での上端幅(m) G横出面での下端幅(m) H・I田面比高差(cm)

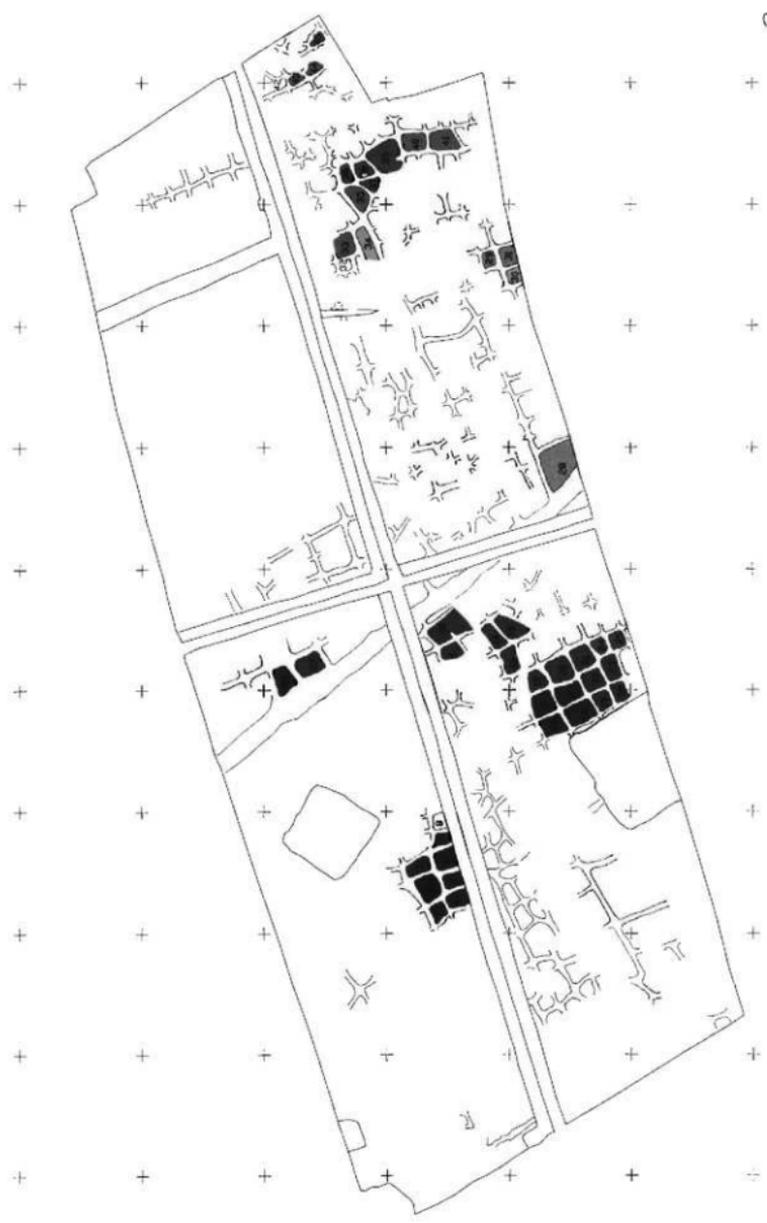


水田面の平均標高

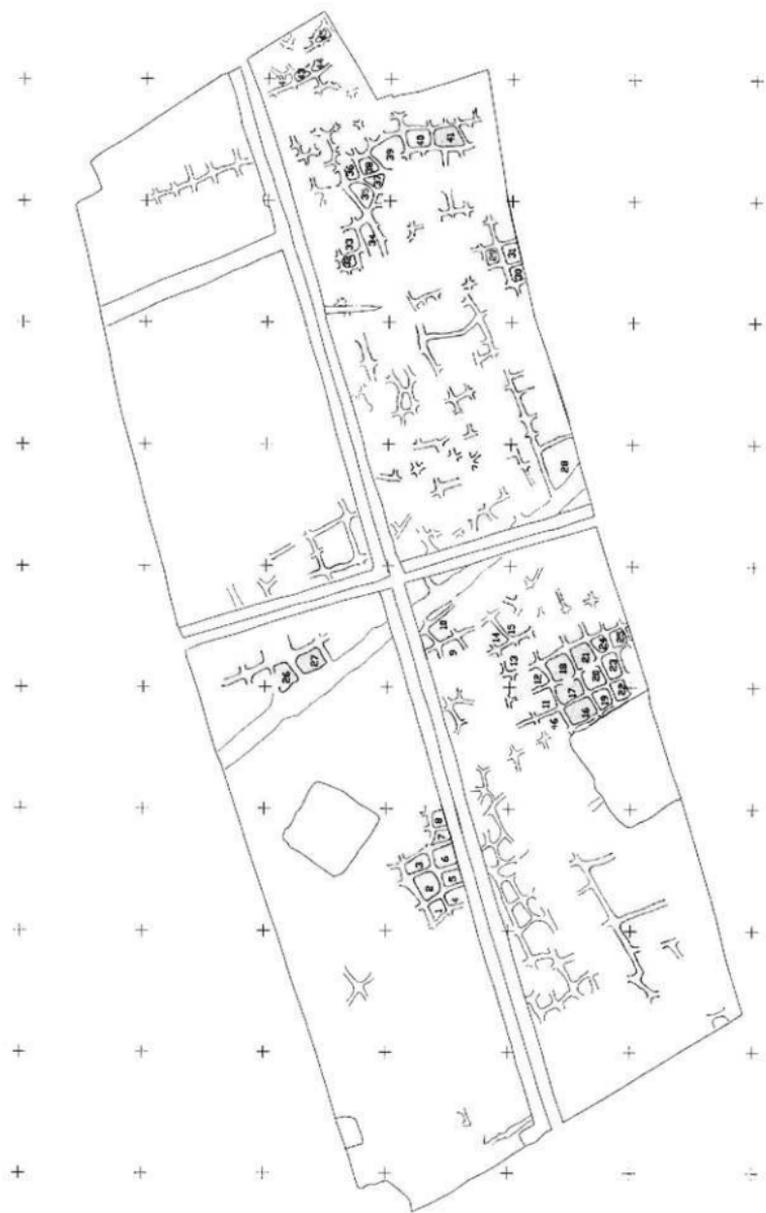


水田面積

第168図 3区5-2-2層水田(05B')分析グラフ



第169图 3区5—2—2層水田(0.5B')標高分析图



第170图 3区5-2-2层水田(0.5m)面精析图

第27表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(1)

水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田 番号	A	B	C	D	E	F	G	H		
1		6.01	[1.81]	[2.2]					46		6.29	[3]	[6.1]	3.1	[4.25]	台形	B	(3)	
2	(1.16)	6.05	0.9	[1.7]					47	1.14	6.31	1.5	1.4	2.05	1.85	長方形	A	2	
3		6.11	2.4	[4.1]	4.85	[5.3]			48	(6.2)	6.22	2.1	1.55	6	14.8	長方形	A	12	
4		6.13	[3.6]	[1.5]		3.95			(6)	49	6.29	[1.75]	[3]	[8.15]				(6)	
5		6.09	[2.7]	2.2	[0.8]	2.6			(7)	50	6.27	2.4		[0.7]	[0.7]			(3)	
6		6.12	[2.4]	[2.2]		2.9			(5)	51		6.3	[1.5]	1.7	[2.85]	[2.55]	台形	A	2
7	0.9	6.14	1.25	1.2	2.6	2.3	長方形	A	3	52		6.28	1.65	[1.45]	1.4	1.4	正方形	C	1
8	(1.1)	6.13	0.8	1.8	2.1	1.7	長方形	A	5	53		6.25	[2.15]	2.4	[2.55]	1.8	台形	B	6
9		6.19	1.9	[2.8]	[1.8]	0.65	台形	B	2	54		6.3	[1]	[0.95]	1.4			(8)	
10	2.09	6.21	2.15	2.35	3.9	3	長方形	A	2	55		6.25	[1.2]	1.65	1.6		台形	B	10
11	(1.21)	6.16	[1.8]	2.15	2.3	1.5	その他	B	2	56		6.27	3.4	[1.15]	4.4	[1.2]	台形	A	7
12	(1.94)	6.15	[3.2]	1.8	1.7	2.4	楕円形	B	3	57	0.94	6.27	1	2.5	1.5	1.9	その他	B	
13	(1.98)	6.14	4.45	[3.65]	0.75	0.8	長方形	B	2	58	1.87	6.25	1.65	[2.85]	2.6	1.25	台形	B	3
14		6.1	[2.4]		[0.8]				3	59		6.27	[3.55]	3.4	0.95	2.15	長方形	B	3
15	(5.13)	6.14	3.35	4.25	2.1	2.15	長方形	B	5	60		6.29	4.55	5.4	[0.95]	4.2	台形	B	16
16		6.16	1.5	3	6.35	[2.3]	楕円形	B	7	61		6.36	[6.7]		[3.6]			(11)	
17	(0.69)	6.2	1.5	1.9	1.45	0.8	台形	A	2	62		6.29	[8.15]	[6.7]	8.2			(12)	
18	1.16	6.19	1.55	1.8	0.85	1.45	台形	B	2	63		6.24	[7.35]	[6.3]	[5.15]	3.45	長方形	B	14
19	0.74	6.2	1.2	1.55	1.45	1.25	台形	B	1	64		6.26	10.85	[1.95]	[1.8]	[2.2]	長方形	A	4
20		6.12	[2.4]		[0.85]				6	65		6.32	1.25		[0.65]	[0.7]	正方形	C	1
21		6.18	3.8	4	4.5	6.25	長方形	A	12	66		6.31	1.7	[0.7]	[0.95]	正方形	C	2	
22		6.14	2.1		1.7				(2)	67		6.25	[2]	[1.5]	1.85			(2)	
23	(10.17)	6.2	1.8	2.7	1.35	2.1	長方形	A	11	68		6.14	[0.95]	[0.5]		2.7		(2)	
24	7.28	6.23	3.85	4.95	3.2	2.75	長方形	B	8	69		6.1	2.5	5.9	4.1	[0.3]		B	(14)
25		6.2	[4]	[4.9]	[1.5]	1.3			9	70		6.11	[1.5]	[0.95]		[3.85]		(8)	
26		6.17	[1.35]	4.8	3.2	[0.8]	台形	B	5	71		6.17	[1.7]	[1.5]		2.35		(5)	
27		6.26	[3]	2.3	2.4	3.2	台形	A	7	72		6.12	[1.1]	[0.6]	2.2			(2)	
28		6.23	[3.9]	[3]	2.9	1.8			4	73	1.04	6.05	1.7	1.8	1.85	1.8	台形	B	5
29	(3.25)	6.14	[3.1]	[2]	1.5	[2.8]	台形	A	2	74	1.73	6.07	2.1	1.7	1.3	1.6		2	
30		6.15	[0.9]	1.05	[1.45]	[0.9]			(2)	75		6.2	1.65		[2.05]	[0.95]		A	
31	1.57	6.15	1.8	1.45	0.6	1.95	正方形	C	2	76		6.2	1.3		[1.05]	[0.55]			
32		6.16	[1.2]	0.8	[1]	1.9			7	77		6.13	[2.7]	4.25	1.25	[3.3]	台形	B	4
33		6.2	1.95	[1.6]	[1.95]	[1.6]	長方形	B	8	78		6.12	[1.8]	[3.25]		1.9		B	9
34		6.15	[0.5]	[1.2]	2.25				7	79		6.13		[2.6]	[1.4]	[2.6]		A	(5)
35	(4.98)	6.2	[3.45]	[1.9]	2.25	1.45	長方形	B	9	80		6.16	[2.7]	[2.5]	[2.75]	[1.5]		(2)	
36		6.19	[0.5]	[0.5]		1.15			8	81		6.11	[2.7]	[3]	2.9	[2.35]		B	3
37		6.2	[1.3]	1.4		0.8	その他	B	0	82		6.12	1.45		[1.5]	[1.5]		A	(2)
38	(4.25)	6.16	5.9	4.9	1.2	1.65	長方形	B	10	83	1.68	6.14	1.8	2.35	1.35	1.45	長方形	B	2
39		6.26	4.05		[0.75]	[0.7]			(3)	84	0.88	6.11	0.85	1.8	1.4	1.9	台形	C	2
40		6.25	[0.55]		[1.3]				8	85	(4.28)	6.13	2.45	2.45	2.4	2.9	正方形	C	4
41		6.27	[1.9]		[2]	4.3	長方形	A	7	86	(1.6)	6.07	1.8	[2.2]	1.45	[2.25]	台形	A	2
42		6.25	[1.35]		[3.45]				8	87		6.07	[2.1]	[2.85]	[2.25]			B	3
43		6.27	[1.85]	[1.35]	5.35				(6)	88	(7.15)	6.04	[1.7]	3.5	4.8		台形	A	7
44		6.25	[1.2]	[1.9]		6.9			(3)	89		5.97		3.7	[4.25]	[5.25]		A	9
45	(13.1)	6.28	[6.1]	[7.3]	2.7	2.5	長方形	B	(8)	90		6.1	[1.4]	[1.3]		[6.9]	長方形	A	12

水田計測表

A 面積 (㎡) B 日平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東辺、下段が西辺 D 東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 E 形状
 F 主軸方向 (A:東西、B:南北、C:その他) G 下段の水田面から当該田面までの堆積量 (m) H 小区内北比高 (cm) : 上段の数値で、長さが推定できるものは ()、推定できないものは積換を [] で示す。

第28表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(2)

水田 番号	A								水田 番号	A									
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H		
91	(3.7)	5.87	[2.45]	1.2	[4.35]	[3.15]	楕円形	A	10	136		5.7	[0.95]	[2.3]	[1.15]	1.8	長方形	B	3
92		6.09	[1.5]	[0.8]	[3.15]				(5)	137		5.75	[0.65]	[1.3]		2.2			(1)
93		5.96	[2]	[1.5]	3.8				(21)	138		5.75	[0.8]	[1.1]		[3.1]			(1)
94		5.68	[2.8]	[2.3]	[2]			B	10	139		5.71	[0.7]	[0.8]		[1.45]			(1)
95	(3.13)	5.73		2.5	[1.65]	[0.8]			(5)	140	1.51	5.69	1.25	1.3	2.15	2.1	台形	A	2
96		6.16	[0.95]	[1.15]		1.95			(1)	141	(0.94)	5.74	1.3	[1.55]	1.4	1.25	正方形	B	1
97	(3.92)	6.19	[0.7]	2.95	1.95	[0.9]	長方形	B	7	142		5.72	[0.8]	[1.3]	1.75				(3)
98		6.06	[6.45]	[7]	1.9	2	長方形	B	10	143		5.72	[1]	[1.6]	2.1				(1)
99		5.95	1.95	2.1	0.8	1.2	長方形	B	0	144	(2.45)	5.7	[3.65]	0.8	1.45	[2.25]	台形	B	1
100	(0.62)	5.95	[0.75]	[1.1]	1.2		楕円形	B	(1)	145		5.75	[1.4]	1.7	[2.25]	1.1		B	2
101		5.95	[0.8]	[0.9]	1			B		146	0.82	5.67	1.45	1.6	1.6	1.35	台形	B	3
102		6	1.8	2.25	0.45	1		B	(1)	147		5.66	[1.4]	1.5	1.25	3.1	長方形	A	1
103		6		[0.8]		[1]				148		5.69	2.25	1.7	2.75	(2.4)	長方形	A	(3)
104		6.06		1.5	[1]	[1.05]		A	(1)	149		5.64	[1.3]	[1.3]		1.9			(2)
105	(0.37)	6	1.75	(2.25)	0.45	1	その他	B		150	(2.94)	5.66	[2.2]	1.85	[2.65]	2.1	長方形	A	1
106		6		0.9	[1.05]	[0.45]				151		5.65		2.2	[1.1]	[1.8]			(5)
107		6.14	[1.85]	[1.3]	3.55	[1.3]		A	(7)	152		5.64	2.4	2.65	1.3	[2.1]	台形	B	1
108		5.97	1.8		[1.4]	[1.4]			(1)	153	0.86	5.67	1.8	2.4	0.75	1.25	長方形	B	
109		5.92	[1.15]		[0.85]	[0.75]		A		154		5.7	1.4		[1]	[1.2]			
110		5.75	2.2		[2.15]	[1.5]			(1)	155	(1.82)	5.7	1.65	1.45	[1.3]	[1.75]	正方形	A	2
111		5.83	[1.2]	1.6	[0.65]	2.1			(9)	156		5.68	[1.4]	3.6	[4.8]	3.45			1
112		5.64	[5.4]	[5.6]	(2.1)		長方形	B	(10)	157		5.6	1.55		[1.2]	[0.9]	長方形	B	
113	0.62	5.74		1	2.1	1.9	楕円形	A	3	158		5.6	[0.85]		[0.85]				(2)
114	1.26	5.74	2.25	2	1.3	1.1	長方形	B	13	159		5.65	[1.3]	1.4	0.75				(5)
115	1.2	5.63	2.05	1.3	1.4	1.1	台形	C	13	160	(1.24)	5.7	[1.1]	[2]	1.25		台形	B	
116		5.84	4.2	[2.6]	[3.6]	4.75			(16)	161		5.77	2.85	[1.2]	[2.8]	[1]	台形	B	7
117	4.56	5.85	4	4.2	1.9	2.2	長方形	B	15	162		5.79	[3.9]	3.15	2.8	[1.15]	正方形	B	15
118	(39.05)	5.86	[5.8]		[7.4]	[7.85]	長方形	A	(13)	163		5.78	[1.9]	3.5	[2.85]	1.9	台形	B	13
119	(7.48)	5.78	2.8	3.5	4.3	3.6	正方形	A	8	164		5.83	[1.5]	[1.9]		2.4			(4)
120	(5.3)	5.85	0.6	[2.8]	[4.55]	4.75	その他	A	2	165	(3.81)	5.79	[1.65]	1.6	[2]	2.5	正方形	A	4
121		5.75	[1.85]	[0.5]	3.6				(4)	166	2.32	5.82	1.3	1.65	2.6	2.4	長方形	A	5
122	(6.76)	5.8	2.35	1.4	4.55	[5.6]	台形	A	3	167	(2.28)	5.9	1.4	1.3	[2.95]	[2.9]	長方形	A	4
123		6.12		[1.7]		[2.2]				168		5.85	2.15		[1.15]	[2.15]	正方形	C	(6)
124		6.09	1.4	[1]	[1]	1.8			1	169	3.32	5.88	2.45	2.15	2.4	2.2	正方形	B	5
125		6.1	2.15	[2.4]	[1.75]	13.5	長方形	B	1	170		5.85	[3.5]	[0.8]	2.35				
126	(2.23)	6.1	2	[1.4]	3.1	[1.35]	長方形	A	1	171		5.86	[1.6]	[1.35]	2.15				(3)
127		6.02	3	[1.15]	[0.5]	1.85	長方形	B	10	172		5.95	[1.6]	[1.6]	1.25			B	(2)
128		6.05	[0.55]	[1.15]		1.35				173		5.98	[1.9]	[1.6]	0.95			B	(2)
129		5.7	[1.15]	[1.25]		1.1		B	(5)	174		5.95	[3.9]	[4.3]	[2.9]			B	11
130		5.7	[1.2]	[1.15]		1			(1)	175		5.95	1.2		[5.05]	[4]	長方形	A	7
131		5.78	[1.8]	[1.2]		[1.9]			(10)	176		6.01	2.1		[4]	[0.7]			(10)
132	(0.72)	5.69	1.55	[0.9]	1.05	[0.7]	台形	B		177	0.85	5.97	1.1	1.2	1.65	1.4	正方形	C	0
133	1.01	5.66	1.7	1.55	1	1.45	台形	B	1	178	0.83	6.01	1.3	2.1	1.4	1.1	長方形	A	4
134	(1.08)	5.75	[0.7]	1.55	1.8	[0.9]	台形	C	1	179		6.01	[1.65]	[1.15]	1.1			B	(2)
135		5.67	[0.7]	0.7	1.4	1.75	楕円形	B		180	(0.55)	6	[1]	1.65	0.75	0.8	楕円形	B	

水田計測表

A 広積 (㎡) B 平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東道, 下段が西道 D 東北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東道, 下段が南道 E 形状
 F 上端方向 (A: 東向, B: 北北, C: その他) G 1段の水田面から当道田面までの堆積量 (㎥) H 小区面内比高差 (cm) : 上記の数値で, 長さが確定できるものは(), 測定できないものは横出値を [] で示す。

第29表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(3)

水田 番号	A B C D E F G H								水田 番号	A B C D E F G H										
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H			
181	(0.57)	6.01	(1.7)	(1.65)	0.8			台形 B		214		5.77	(1.8)		(10.3)					(16)
182	(1.9)	5.99	(3.7)	1.1	1.2	(3.35)		長方形 B		215		5.86	[2]	(1.8)	(3.8)					(4)
183		5.83		(1.95)		(2.7)			(10)	216		6.03		(4.1)		(0.8)	長方形 B			(1)
184		5.92	(1)	4	4.65	(3.3)		その他 C		6	217	2.49	6.02	1.3	1.5	2.5	2	楕円形 B		1
185		5.84	7.15	(5.85)	3.3	1.6		台形 B		8	218		6.03		1.3	(0.8)	0.6	長方形 B		1
186	0.76	5.78	2.55	1.75	0.9	1.4		長方形 B		4	219	(0.55)	6.05	2.15	(1.8)	1.2	0.85	台形 B		
187		2.56	5.74	2.6	1.9	1.4	3.15	台形 A		2	220		6.02		0.9	(1.05)	(1.15)	A		
188		5.77	2.4	7.1	2.9			B	(11)	221		5.99		1.1	(1.15)	(1.35)	A			
189	(2.68)	5.85	1.4	1.9	3.2	(2.1)		正方形 C	(5)	222		5.8	2	0.6	(2.55)	2.45	正方形 C			10
190		5.84	3.8	4.3	(2.85)			B	10	223		5.9	(4.75)	(0.9)	2.75			B		8
191	1.13	5.88	1.1	1	2.1	1.5		長方形 A		224		5.7		(1.8)		(4.3)				(5)
192	(1.07)	5.9	1.6	1.1	2.35			台形 A	2	225	(4.86)	5.89	2.6	3.6	2.9	(2.6)	長方形 B			20
193		5.94	(1.5)	(1.75)		1.05		B	(5)	226		5.89		2.6	(1.2)	(1.9)				(10)
194		5.93	(0.9)	(1.5)		3.35			(2)	227	(2)	6	2.2	2.3	(2.05)	1.75	正方形 C			0
195		5.94	(1.4)	(0.9)		(3.45)			(2)	228		6.01		2.2	2.2	2.2	正方形 A			1
196		5.96	(1.15)	(1.4)		2.6			(3)	229	(1.36)	6.01	(1.25)	1.45	3.55	3.8	長方形 A			8
197		5.86	(1.1)	(1.15)	3.35			A	(12)	230		6	(1.3)	(2.3)	2.2			B		(1)
198		5.82	(2.2)	(1.1)	(3.45)				(15)	231	(1.02)	6.01	(1.4)		(0.8)	(2.3)	台形 A			
199		5.93	(2.6)	(2.2)	5.1				(18)	232	(1.08)	6.07	1.5	(1.4)	(1.5)	(1.4)	正方形 A			1
200	(1.39)	5.75	2.4	(0.6)	1.45	(1.8)		台形 B	2	233		6.01	(1.2)	(1.3)	0.8			B		0
201		5.77		1.3	(4.7)	(1.8)		長方形 A	(13)	234		6.01	(0.35)	(1.2)	1.75			B		
202		5.71	2.75		(4.8)	(5.8)		長方形 A	(13)	235		6.06		3.4	(0.6)	(1.9)				(2)
203	3.48	5.76	3.55	4	1.6	1.5		台形 B	7	236		6.05		(1.7)	(1.9)					(1)
204		5.82	(4.1)	3.55	1.5	(3.5)		台形 B	5	237	(5.23)	6.02	3.5	(4)	2.35	1.9	長方形 B			1
205	1.72	5.72	1.25	1.25	2.7	1.85		長方形 A		238	0.8	6.05	1	1	1.8	2.1	長方形 A			2
206		5.72	(0.65)	3.2	2.4	(1.25)		台形 B	2	239	0.62	6	1.45	1	2.5	1.85	長方形 A			2
207		5.74	(1.9)	1.25	4.5	(0.7)		長方形 A	4	240	0.74	6.06	1.1	2.15	1.4	1.4	正方形 B			2
208	(1.26)	5.76	(0.65)	1.05	(1.3)	1.9		台形 A	1	241	(1.56)	6.01	0.8	(1.1)	3.5	(2.7)	長方形 A			2
209		5.83	2.15	(1.05)	(1.5)	1.05		B	6	242		6.02	(0.9)	(0.8)	1.4					
210		5.82	3.9	2.25	(5.9)	(3.05)		台形 A	7	243		6.05	(2.1)	(0.9)	1.9			B		
211		5.86	1.4	0.8	(3.75)			A	8	244		5.96		(1.6)		(1.4)				
212	2.29	5.9	1.3	1.7	2.1	3		台形 A	6	245		6.07	(5.95)	1.4						(12)
213		5.84	2.3	(3.6)	(3.8)			A	8	平均	2.87	5.98								5.2

水田計測表

A面積 (m²) B平均幅 (m) C南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東辺、下段が西辺 D東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 E形状
F主軸方向 (A東西、B南北、Cその他) G下段の水田面から当該田面までの堆積量 (cm) H小区区内比高差 (cm) : 上記の数値で、長さが推定できるものは()、推定できないものは横山換を [] で示す。

第30表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(4)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
1小	盛土	A	W50.5°N		[4.85]	0.4		4	0	
2小	盛土	A	W15°N		2.8	0.45		6	2	
3小	盛土	A	W17°N-W21.5°S-W36.5°N		(2.9)	0.4		3	3	
4小	盛土	A	W21°N		8.8	0.7		6	2	
5小	盛土	A	W11°N W10.5°S-W42°N		[11.35]	0.5		2	3	
6小	盛土	A	W9°N		[2.85]	0.25		0	1	
7小	盛土	A	W38°N		[5.3]	0.7		6	2	
8小	盛土	A	W27°N		[30.3]	0.6		8	6	
9小	盛土	A	W27°N		[2.65]	0.5		6	6	
10小	盛土	A	W24°N		(11)	0.6		7	2	
11小	盛土	A	W52.5°N-W18°N-W7.5°S		[5.95]	0.45		0	1	
12小	盛土	A	W16°N		[3.6]	0.25		0	0	
13小	盛土	A	W34°N		(1.3)	0.3		0		
14小	盛土	A	W27°N		[27.49]	0.6		14	9	
15小	盛土	A	W30°N		[7]	0.5		-2	2	
16小	盛土	A	W11.5°N		[1.2]	0.3			1	
17小	盛土	A	W27°N		[1.25]	0.3				
18小	盛土	A	W21.5°N		[2.7]	0.4		-1		
19小	盛土	A	W18°N		[2]	0.25		4	0	
20小	盛土	A	W12.5°N-W18°S		[14.9]	0.5		2	3	
21小	盛土	A	W17.5°N-W14°S		[6.4]	0.4		-2		
22小	盛土	A	W50.5°N		[2.9]	0.45				
23小	盛土	A	W21.5°N		[5.8]	0.45				
24小	盛土	A	W5.5°S-W35°N		[4.3]	0.5			5	
25小	盛土	A	W38.5°N W13°S-W50°N		[5.7]	0.5		0		
26小	盛土	A	W25.5°N		[3.2]	0.5			2	
27小	盛土	A	W73.5°N-W34°N		[4.6]	0.3		1	0	
28小	盛土	A	W9°S		[3.8]	0.3		-3	0	
29小	盛土	A	W21.5°N		(6.2)	0.6		-1	5	
30小	盛土	A	W26°N		[8.05]	0.55			10	
31小	盛土	A	W42.5°N-W9°N		[4.35]	0.5		-2	3	
32小	盛土	A	W30.5°N		[2.8]	0.45		0	1	
33小	盛土	A	W21.5°N		[3.8]	0.6		-5	-1	
34小	盛土	A	W22.5°N		[1.95]	0.3		-1	-4	
35小	盛土	A	W13°N		[2.1]	0.55				
36小	盛土	A	W17.5°N		[2.1]	0.3		1		
37小	盛土	A	W22°N		[6.05]	0.7				
38小	盛土	A	W83°N		[2]	0.7			2	
39小	盛土	A	W54.5°N		3.4	0.4		-2	9	
40小	盛土	A	W7.5°S		[18.7]	0.5			-12	
41小	盛土	A	W40.5°N-W9.5°N-W30.5°N		(13)	0.5		4	6	
42小	盛土	A	W25°N		(8.9)	0.55		3	3	
43小	盛土	A	W36.5°N-W54°N		8.55	0.45		-2	1	
44小	盛土	A	W30.5°N		[3.1]	0.85		24	24	
45小	盛土	A	W44.5°N		[6.2]	1		7	8	

畦畔計測表

A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(抗、盛土、削土) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E検出長(m);推定長()、定結しないものは[] F検出側の上端幅(m) G検出側の下端幅(m) H・I田面高低差(cm)

第31表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(5)

道積番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
46小	盛土	A	W13.5°N		[2.85]	0.35		-5	3	
47小	盛土	A	W34°N-W4°N		[8.2]	0.7		1	1	
48小	盛土	A	W25.5°N		(5.8)	0.5		0	2	
49小	盛土	A	W1°N-W41.5°N		[3.9]	0.5		3	-1	
50小	盛土	A	W41°N-W17.5°N		(11.8)	0.8		1	-4	
51小	盛土	A	W19°N		[2.1]	0.4		4	3	
52小	盛土	A	W46.5°N		[3.2]	0.5		7	5	
53小	盛土	A	W34.5°N		[5.85]	0.5		5	4	
54小	盛土	A	W10.5°N		(16.25)	0.4		-4	4	
55小	盛土	A	W10°N		[4.7]	0.7		0	9	
56小	盛土	A	W6°S		[16.5]	0.75		1	-1	
57小	盛土	A	W24°N		[5.2]	0.6		0	-1	
58小	盛土	A	W23.5°N		[2.6]	0.3		-1	-1	
59小	盛土	A	W45°N		[2]	0.35		3		
60小	盛土	A	W35.5°N		[6.05]	0.4		-1		
61小	盛土	A	W30°N		[2.6]	0.4		-1		
62小	盛土	A	W21°N		[2.4]	0.5			-3	
63小	盛土	A	W26.5°N		[2]	0.45		5		
64小	盛土	A	W22.5°N		[11.5]	0.5		1	3	
65小	盛土	A	W3.5°N		(3.75)	0.4		5	1	
66小	盛土	A	W4.5°N		[2.7]	0.35				
67小	盛土	A	W12.5°N		[9.8]	0.4		-3	3	
68小	盛土	A	W19°N		[3.8]	0.35		1		
69小	盛土	A	W19°N		[7.35]	0.4		-1	2	
70小	盛土	A	W21°N		[3.35]	0.35		2	-1	
71小	盛土	A	W33°N		[6.1]	0.6		2		
72小	盛土	A	W18°N-W0.5°S		[6.9]	0.8		-2	-11	
73小	盛土	A	W23.5°N		[3.6]	0.5				
74小	盛土	A	W35.5°N		[3.7]	0.4		8	0	
75小	盛土	A	W6°N		[18]	0.6		4	-2	
76小	盛土	A	W16.5°N		[6.5]	0.4		2	-4	
77小	盛土	A	W16°N-W2°S		[6.2]	0.5		3	-1	
78小	盛土	A	W26°N		[6.65]	0.4		7	0	
79小	盛土	A	W28.5°N		[2.5]	0.2		4	3	
80小	盛土	A	W31.5°N		[1.15]	0.25				
81小	盛土	A	W29°N		[2.35]	0.4				
82小	盛土	A	W17.5°N		[4.55]	0.7		2	1	
83小	盛土	A	W42.5°N-W10°N		2.55	0.5		-1	3	
84小	盛土	A	W15°N		5.1	0.4			1	
85小	盛土	A	W6.5°N		4.8	0.3		3	1	
86小	盛土	A	W19.5°N		[5.2]	0.8		2	4	
SK30501大	杭列	B	N33°W		[7.9]	1.2		3	-1	
1小	盛土	B	N22.5°W		[7.2]	1		-3	2.5	
2小	盛土	B	N38°W		(4.55)	0.6		5	10	
3小	盛土	B	N64.5°W-N20.5°W-N48.5°W-N30°W		[10.6]	0.45		2	-2	

畦畔計測表
A地呼名称(大、中、小) B畦畔構造(杭列、盛土、削出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E檢出長(m) F檢出幅(m) G檢出面での下階幅(m) H・I田面比高差(m) 完結しないものは[]

第32表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(6)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
4小	盛土	B	N31.5°W-N10°W		[11.3]	0.8		1	0	
5小	盛土	B	N27.5°W		[3.65]	0.3		3	3	
6小	盛土	B	N3.5°W-N29.5°W		[8.2]	0.35		1	0	
7小	盛土	B	N21.5°W-N48.5°W		[3.8]	0.3		0	1	
8小	盛土	B	N32°W		[6.95]	0.6		-1	0	
9小	盛土	B	N14°W		[1.9]	0.3		1	3	
10小	盛土	B	N10°W-N27.5°W		[4.55]	0.4		2	-1	
11小	盛土	B	N14.5°W		[2.85]	0.45				
12小	盛土	B	N43.5°W-N17.5°E		6.25	0.5		1	2	
13小	盛土	B	N1°W-N35°W		8.8	0.4		0	2	
14小	盛土	B	N33°W		[6.7]	0.75		6	-1	
15小	盛土	B	N25.5°W-N9.5°W		[2.17]	0.5		3	4	
16小	盛土	B	N12°W		(6.1)	0.4		-4	-3	
17小	盛土	B	N28°W		[4.5]	0.5			2	
18小	盛土	B	N25°W		[3.05]	0.45		-4	-4	
19小	盛土	B	N29°W		[2.4]	0.35		10	4	
20小	盛土	B	N18°W		[2.4]	0.5		5	6	
21小	盛土	B	N2.5°W-N48°W		[3.2]	0.55		2		
22小	盛土	B	N24.5°W		[2.2]	0.5		0	0	
23小	盛土	B	N34°W		[2.1]	0.3		-3	-3	
24小	盛土	B	N16.5°W		[2.6]	0.35		2	2	
25小	盛土	B	N17.5°W		[11.3]	0.55		7	1	
26小	盛土	B	N8°E		(8.9)	0.5			-2	
27小	盛土	B	N28.5°W		16	0.7				
28小	盛土	B	N3°E		[3]	0.45		-1	1	
29小	盛土	B	N2.5°E-N8.5°W		[6.9]	0.45		2	-2	
30小	盛土	B	N18°W-N33.5°W		[2.7]	0.5		5	4	
31小	盛土	B	N29°E-N1°E-N30.5°E		[6.1]	0.4		-3	1	
32小	盛土	B	N3.5°E		[2.6]	0.4		1	-1	
33小	盛土	B	N20°W-N31°E		[2.45]	0.35		2	-1	
34小	盛土	B	N25.5°W		[5.05]	0.4		6		
35小	盛土	B	N59°W		(3.5)	0.4		0	-2	
36小	盛土	B	N22°W		[12.5]	0.5		0		
37小	盛土	B	N21.5°W		[1.6]	0.6			0	
38小	盛土	B	N23.5°W		(7.1)	0.4			-2	
39小	盛土	B	N1°E-N13.5°W		[4.8]	0.6				
40小	盛土	B	N49°W-N74.5°W		[2]	0.7		5	1	
41小	盛土	B	N32°W		[5.65]	0.4		6	-3	
42小	盛土	B	N14.5°W		4.2	0.6		0	1	
43小	盛土	B	N27.5°W		[4.65]	0.5		-3	2	
44小	盛土	B	N24°W		[6.2]	0.6		4		
45小	盛土	B	N14°W-N11.5°E		4.25	0.5			1	
46小	盛土	B	N5°W		[4.8]	0.4			3	
47小	盛土	B	N21.5°W		[6.8]	0.65		1	3	
48小	盛土	B	N4.5°W-N46.5°W-N9°W		[6.65]	0.5		-1	0	

畦畔計測表

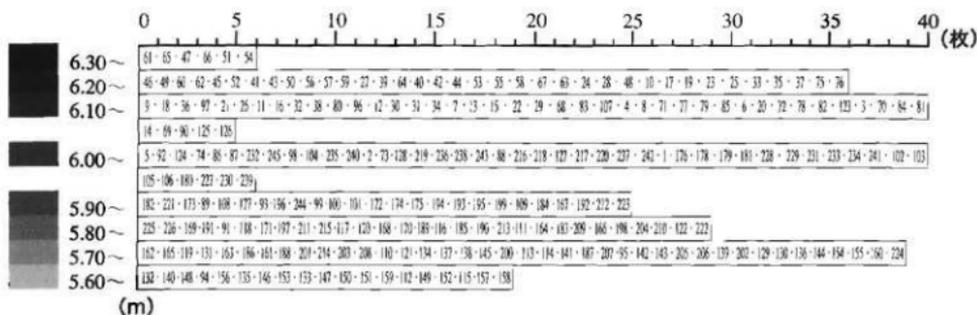
A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(敷土、明沟) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E横出長(m);横定長は(), 定

額しないものは[] F横出面での上端幅(m) G横出面での下端幅(m) H・I田面比高差(cm)

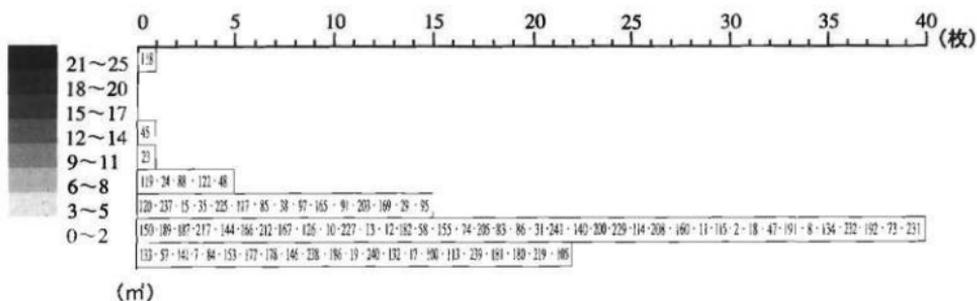
第33表・3区5-2-2層水田擬似畦畔B(05C)計測表(7)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
49小	盛土	B	N23.5°W-N42.5°W		[11.8]	0.6		-3	5	
50小	盛土	B	N43°W-N72.5°W		[13.5]	0.5		3	0	
51小	盛土	B	N42°W-N3.5°E		[10.5]	0.6		5	3	
52小	盛土	B	N52.5°W-N30°W		3.15	0.5		0	2	
53小	盛土	B	N14.5°W		[3.1]	0.3				
54小	盛土	B	N18.5°W		[7.5]	0.4		2	3	
55小	盛土	B	N4E-N27°W		3.75	0.6		2	2	
56小	盛土	B	N24°W		[1.1]	0.35			-1	
57小	盛土	B	N35°W		[2.15]	0.4		5		
58小	盛土	B	N23°W		[2.7]	0.35		1	1	
59小	盛土	B	N1.5°E-N39.5°W-N7.5°E		[4.1]	0.45		-8	1	
60小	盛土	B	N26.5°W		3.5	0.35		7	6	
61小	盛土	B	N6.5°W		[2.45]	0.35		-1	1	
62小	盛土	B	N8.5°W		[2]	0.3		2	-1	
63小	盛土	B	N11°W		[3.7]	0.9		-2		
64小	盛土	B	N22°W		[6.45]	0.3		-3	2	
65小	盛土	B	N26°W		[3.6]	0.5		-2	5	
66小	盛土	B	N21.5°W		[3.1]	0.35			2	
67小	盛土	B	N34°W		[3]	0.55		2	3	
68小	盛土	B	N44.5°W-N18°W		[5.65]	0.4		-2	3	
69小	盛土	B	N17.5°W-N30.5°E-N39°W		[7.1]	0.4		1	13	
70小	盛土	B	N32°W		[2.4]	0.3				
71小	盛土	B	N22.5°W		[7.1]	0.7			8	
72小	盛土	B	N55°W		[4.1]	0.7			6	
73小	盛土	B	N35.5°W-N5.5°W		[4.2]	0.35		1		
74小	盛土	B	N20°W		[3.55]	0.45		0	4	
75小	盛土	B	N14.5°W		[1.7]	0.4		2		
76小	盛土	B	N29°W-N3.5°E		[4.45]	0.3		1	2	
77小	盛土	B	N46°W-N17.5°W-N10°E		[4.4]	0.35		2	3	
78小	盛土	B	N34.5°W		[2.7]	0.4			3	
79小	盛土	B	N34°W		[1.15]	0.25				
80小	盛土	B	N18.5°W		[2]	0.5				
81小	盛土	B	N28°W		[5.5]	0.5		1	1	
82小	盛土	B	N21°W		[25.75]	0.6		3	2	
83小	盛土	B	N3°E-N45.5°W		[2.8]	0.4		1	2	
84小	盛土	B	N20°W		[2.6]	0.35		-3	1	
85小	盛土	B	N18.5°W		[4]	0.8		2	2	
86小	盛土	B	N35°W-N4.5°E		[2.3]	0.7		-4	0	
87小	盛土	B	N25°W-N13°W		[7.5]	0.7		2	2	

畦畔計測表
A畦畔假設(大、中、小) B畦畔構造(抗列、盛土、削出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他)
D方位 E検出長(m) 測定長は()、完結しないものは[] F検出面での上端幅(m) G検出面での下端幅(m) H・I断面比高差(cm)



水田面の平均標高



水田面積

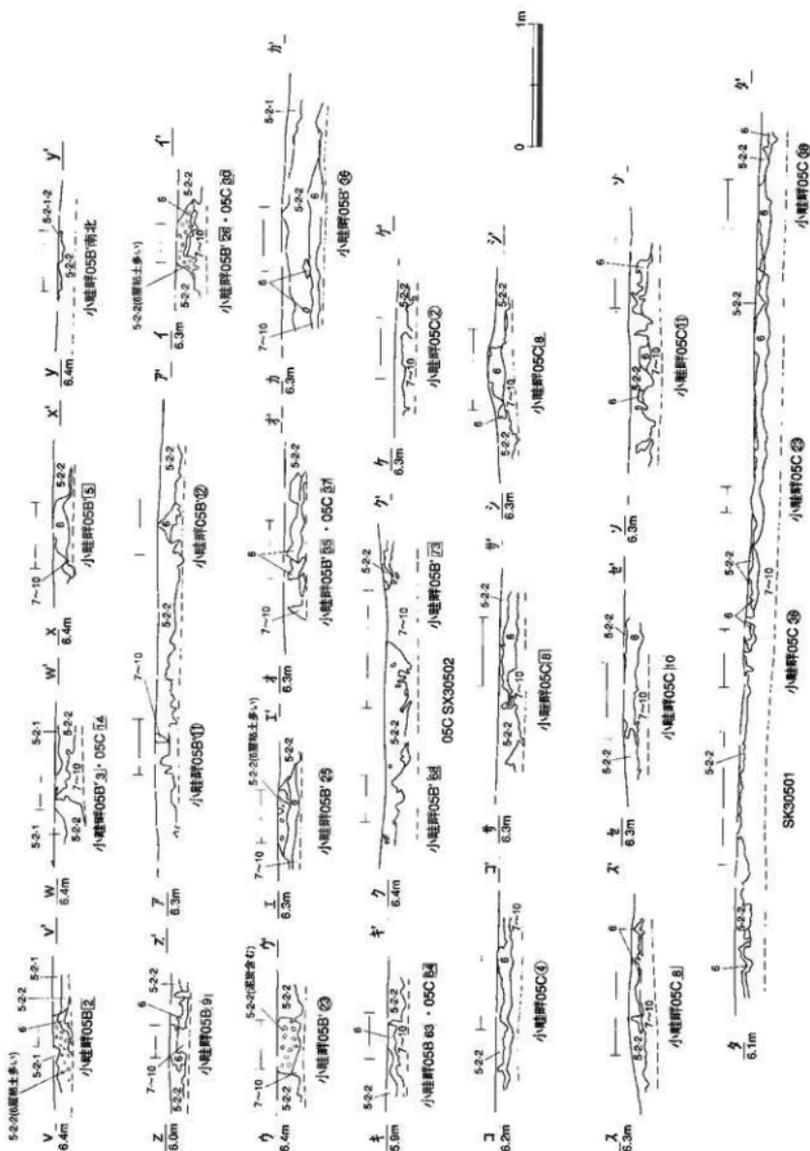
第171図 3区5-2-2層水田(05C)分析グラフ



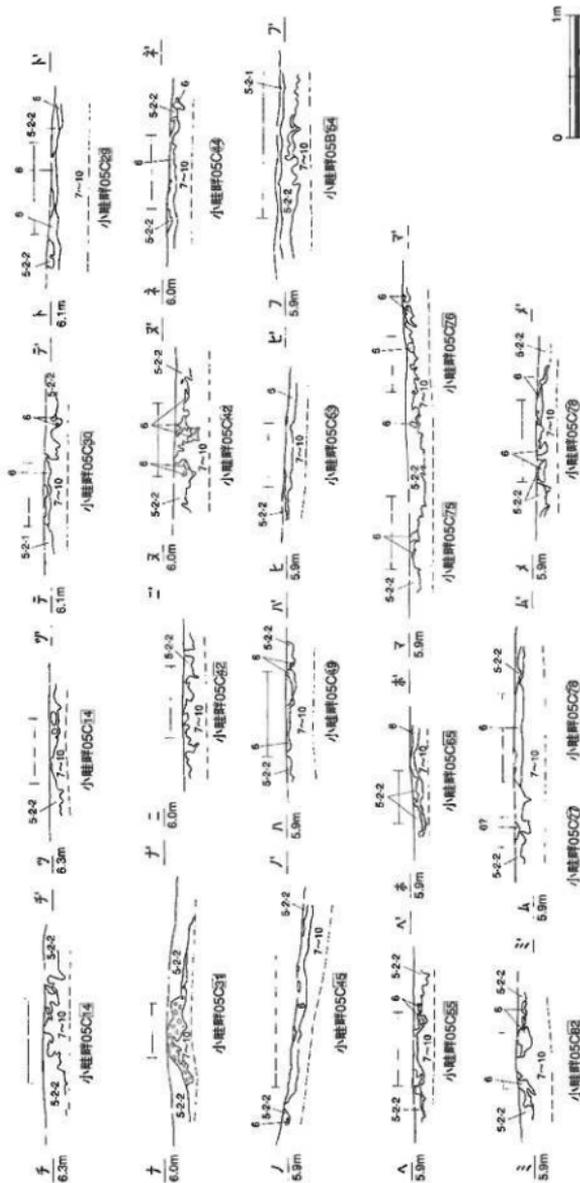
第172図 3区5-2-2落水田(0.5C)標高分析図



第173图 3区5-2-2号水田(0.5C)面积分析图

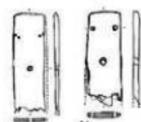


第175图 3区5層水田遺構断面図(2)



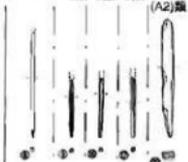
第176图 3区5層水田連絡断面図(3)

C-3類

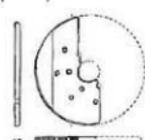


輪カンジキ型
田下駄(WT)

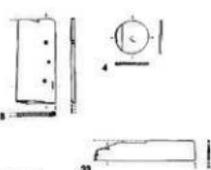
A-1類 A-2類 B類 C類 大型(A2)類 3区(05A)



箆状木製品(HA)

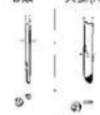


曲物(MA)

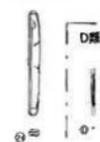


3区(05B)

B類 大型(A1)類

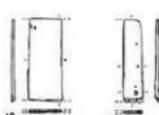


大型(A1)類



箆状木製品(HA)

3区(05B')



曲物(MA)



漆椀(UR)



鉛玉

金属製品(KI)



用途不明
木製品
(FU)

3区(05C)

A-2類

C類

大型(A2)類

D類



舟形木製品

祭祀具(SA)

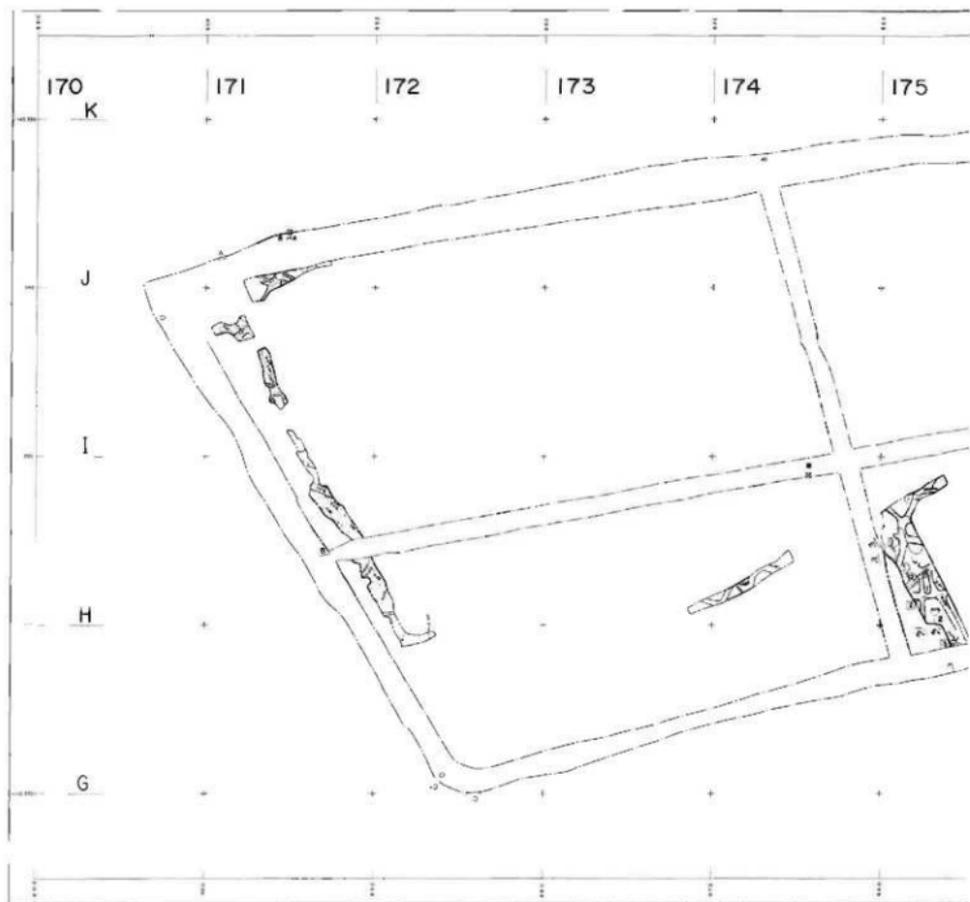


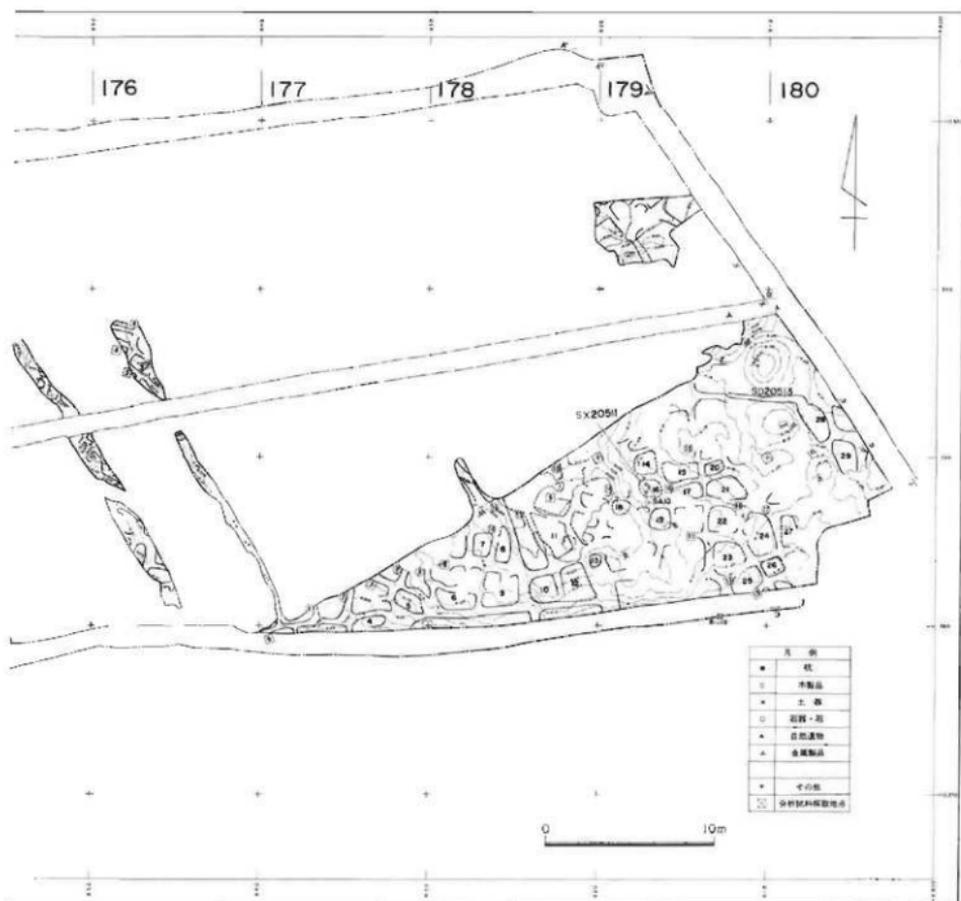
箆状木製品(HA)



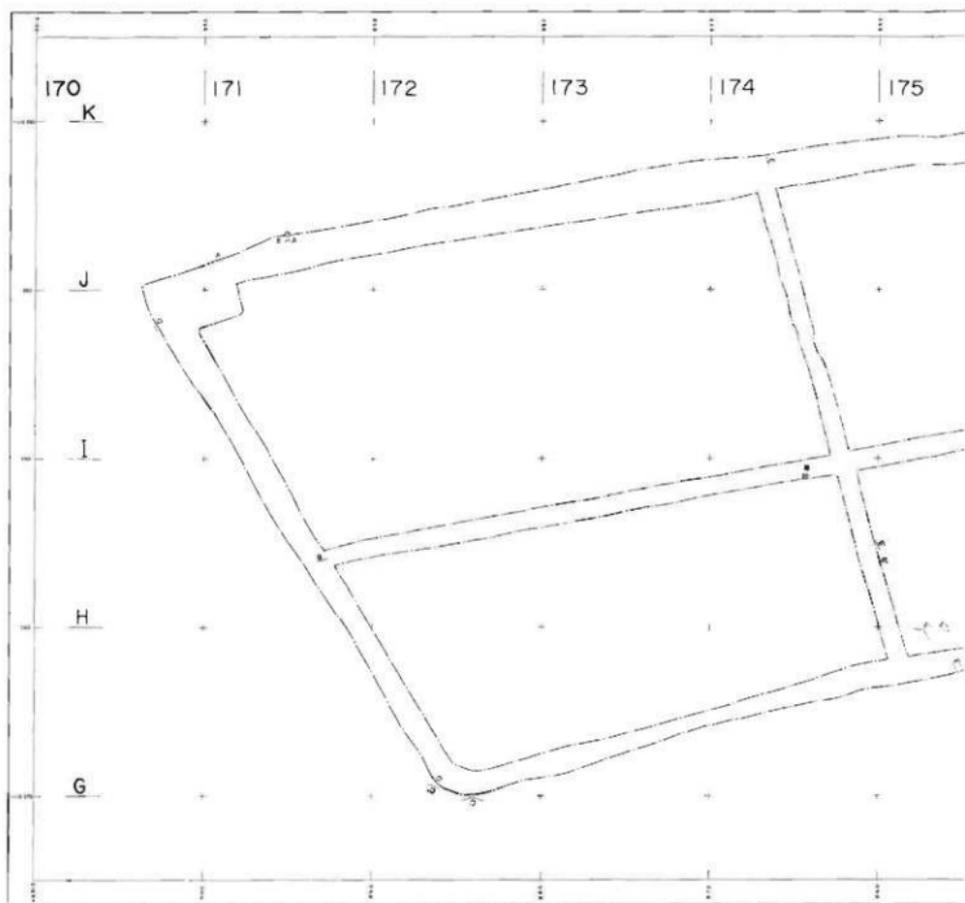
用途不明木製品
(FU)

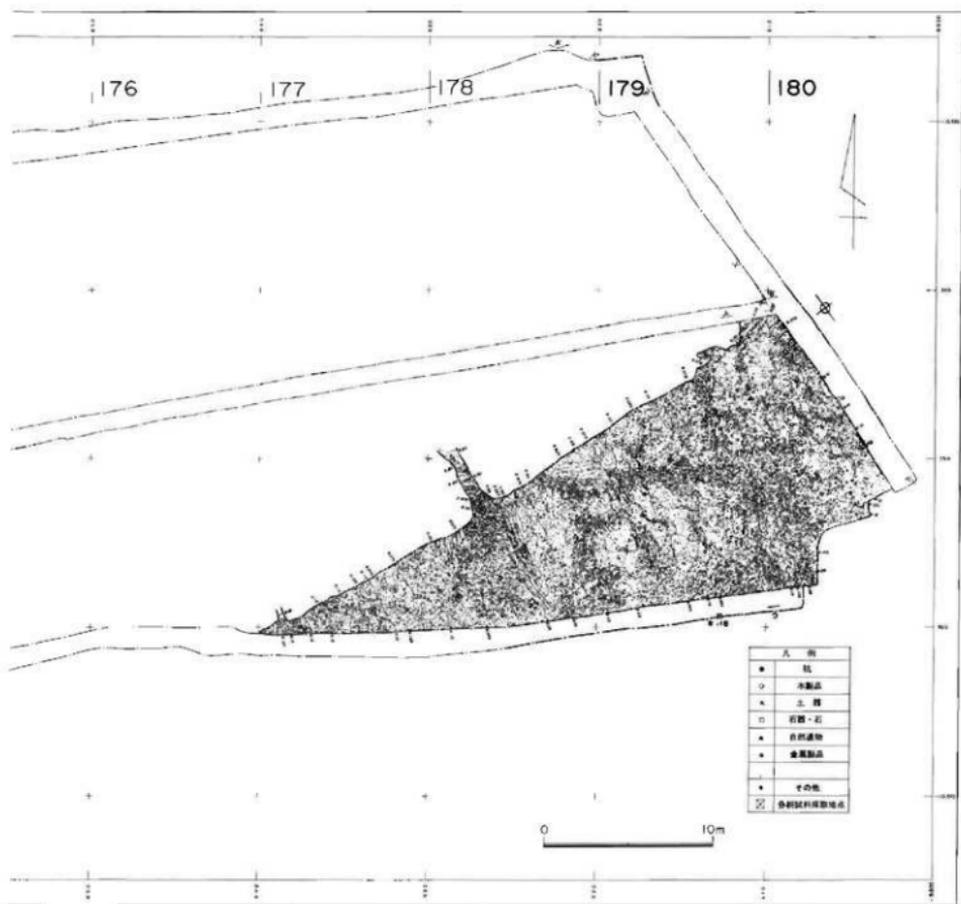
第177図 3区5-2-1層水田(05A) 5-2-2層水田(05B') 5-2-2層水田(05C) 出土遺物集成図



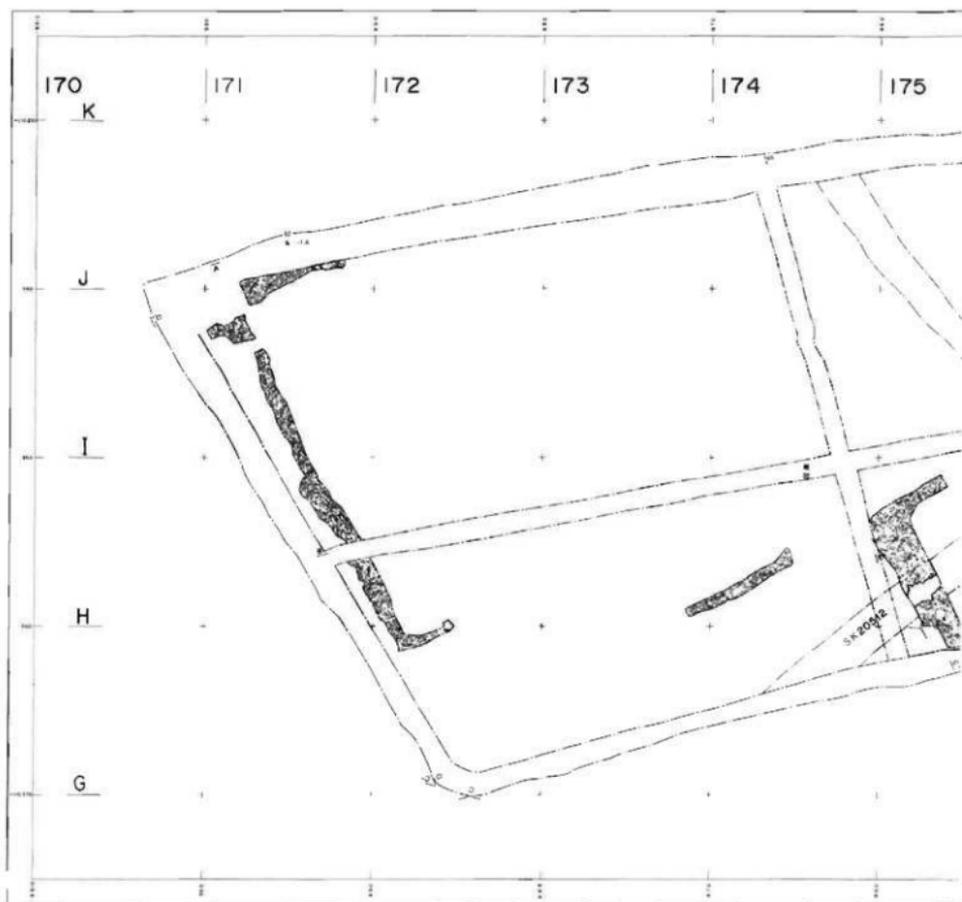


第178区 2区5-2-1層水田(05A)全体図



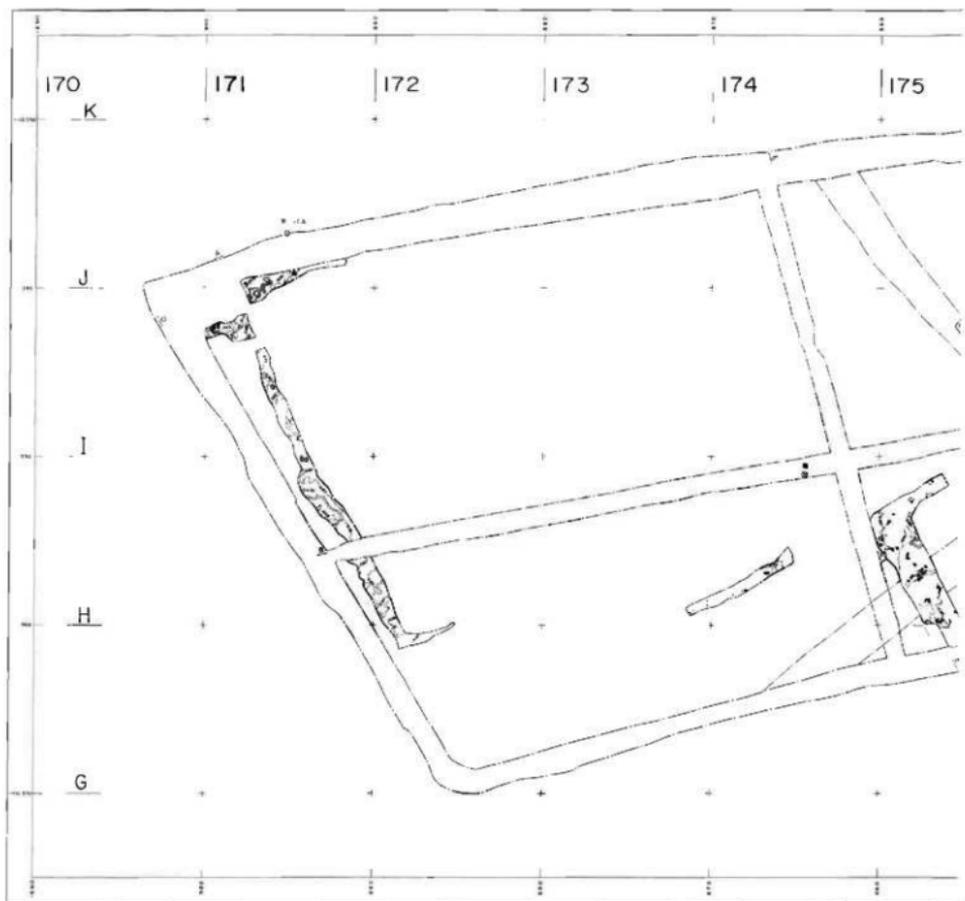


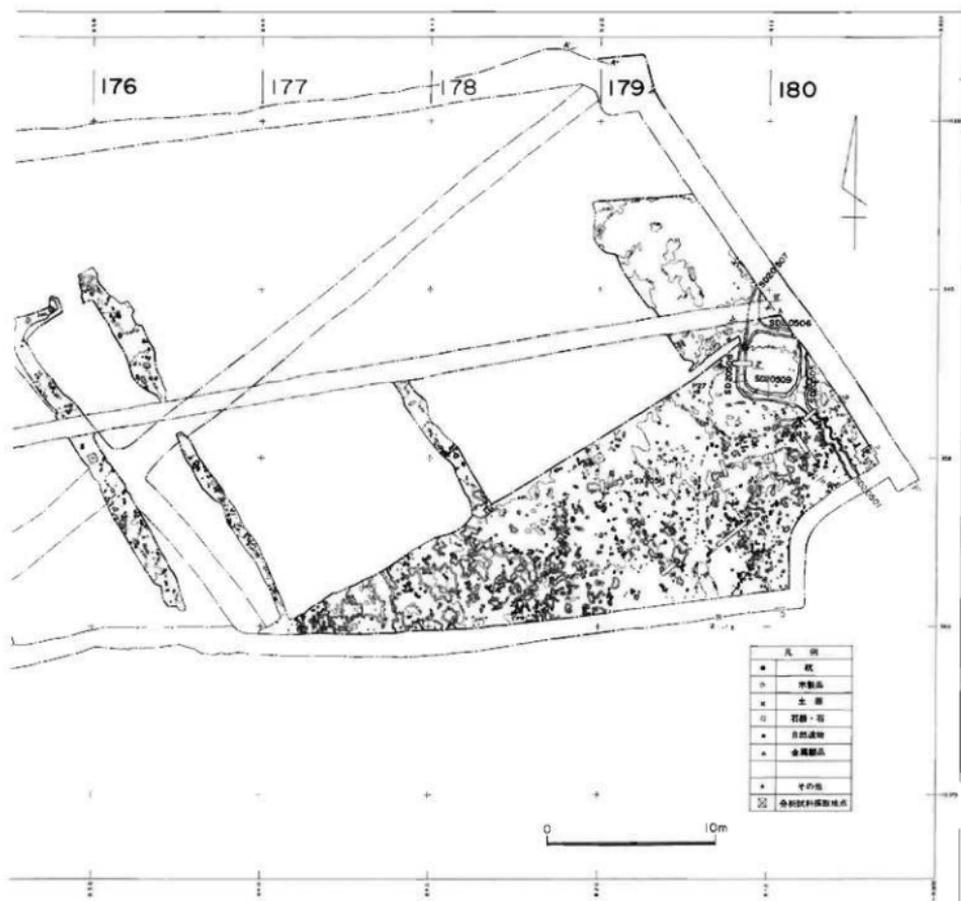
第179図 2区5-2-1層水田(05B)全体図





第180团 2区5-2-2層水田(05C)全体图





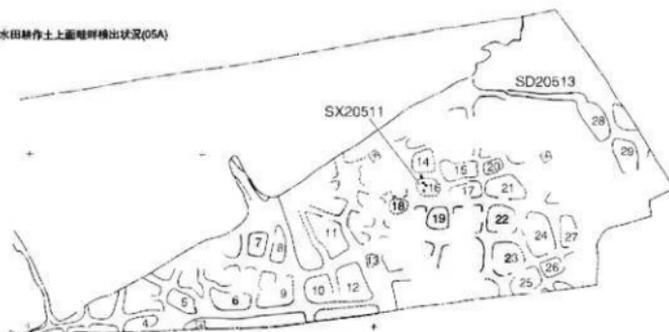
第181図 2区5-2-2層水田(05D)全体図

第34表 2区5-2-2層水田上面(05C)溝状遺構計測表

遺構番号	A	B	C	D	E	F	G	備考
SD20501	B	N 2 9 ° W	[3.13]	0.6	11.6			
SD20502	B	N 3 3 . 5 ° W	[7.48]	0.7	6.1			
SD20503	B	N 5 1 . 5 ° W	[2.5]	0.65	4.9			
SD20504	A	E 2 9 . 5 ° N	[1.55]	0.55	10.3			
SD20505	B	N 7 . 5 ° E	[2.8]	0.7	10.7			
SD20506	A	E 1 1 ° S	[2.3]	0.4	12.1			
SD20507	B	N 1 5 ° W	[0.5]	0.85	14.8			
SD20508	B	N 7 . 5 ° E	[3.85]	0.45	12			
SD20509	A	E 7 . 5 ° S	3.2	0.58	10.8			
SD20510	A	E 1 ° N	[2.25]	0.6	5.2			
SD20513	A・B	E 5 ° S - N 8 6 . 5 ° W		7.1	0.8	2		

溝状遺構計測表
A 主軸基本方位 (A東西、B南北、Cその他) B方位 C検出長 (m) : 測定長は ()、完結しないものは [] D検出面での上端幅 (m) E検出面での掘削深さ (cm) F覆土 G断面形

5-2-1層水田耕作土上面堆積物抽出状況(05A)

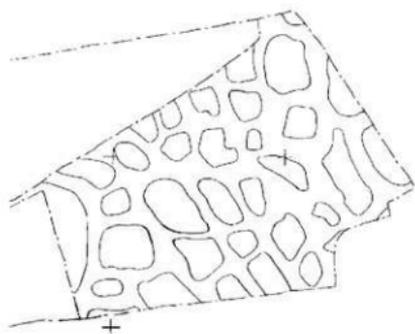


5-2-1層水田耕作土下面における灰色シルト質粘土粒子抽出状況(05B)

*耕作により攪拌された粒子の大きい部分が集積状態にみられる。



*右の図は上記の堆積物の粘土粒子の
密集部分を図示したものである。



第182図 2区5-2-1層水田検出状況

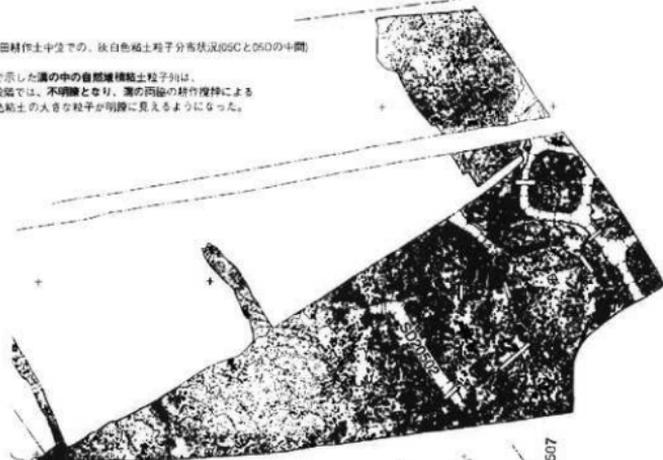
5-2-2層水田耕作土上面における
灰色シルト質粘土粒子種の検出状況(05C)

*通常は、粘土粒子の形状の別は、顕微鏡でと
考えられるが、断面を観察すると、5-2-2層水田に
設けられた溝の壁の中に、上部の自然堆積土
(ラミナ状の粘土粒子)と理解される。



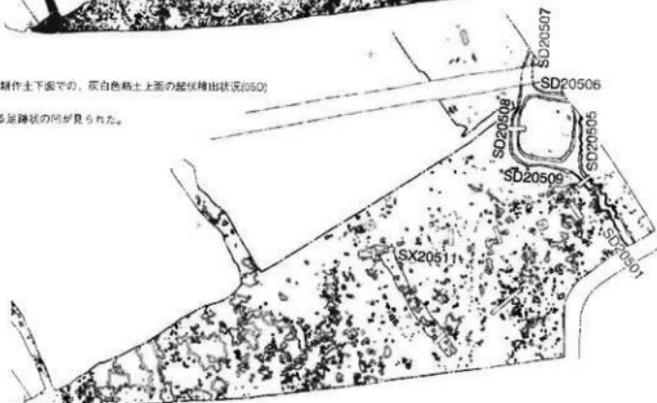
5-2-2層水田耕作土中位での、灰白色粘土粒子分布状況(05Cと05Dの中間)

*上で示した溝の中の自然堆積粘土粒子は、
この段階では、不明瞭とせり、溝の両側の耕作層による
灰白色粘土の大きな粒子が明確に見えるようになった。



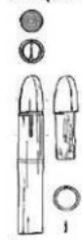
5-2-2層水田耕作土下面での、灰白色粘土上面の起伏検出状況(05D)

*連続する起伏状の境が見られた。



第183図 2区5-2-2層水田検出状況

2区(05A)



SX20511出土

祭祀具(SA)

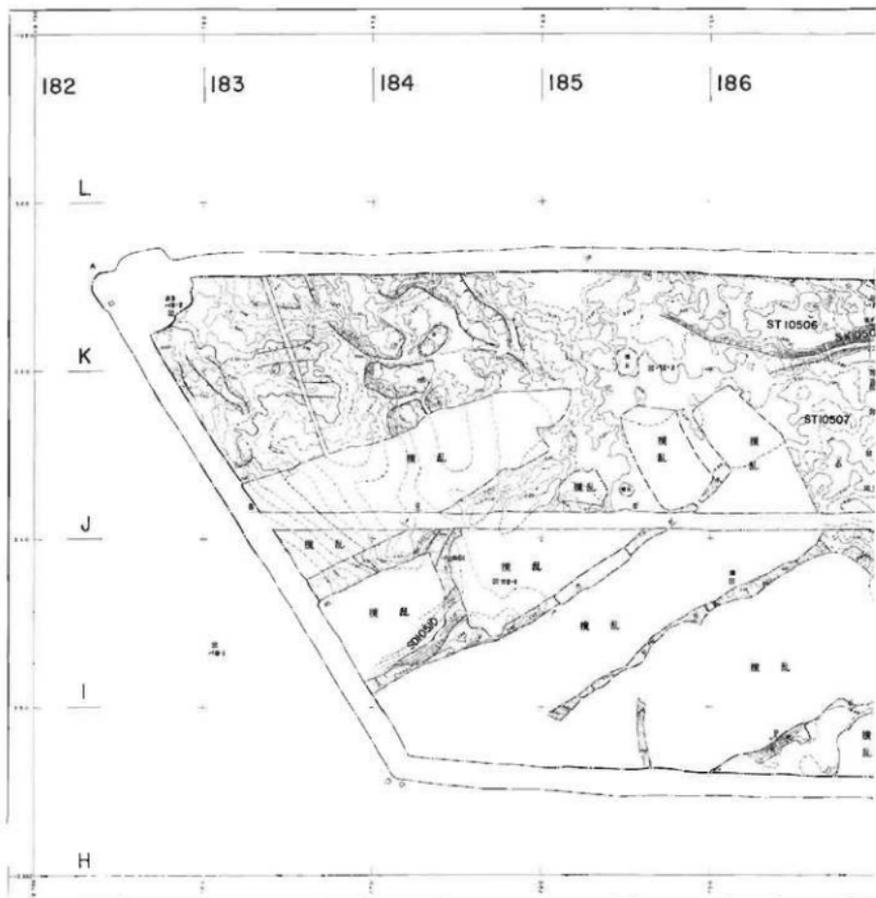
2区(05C)

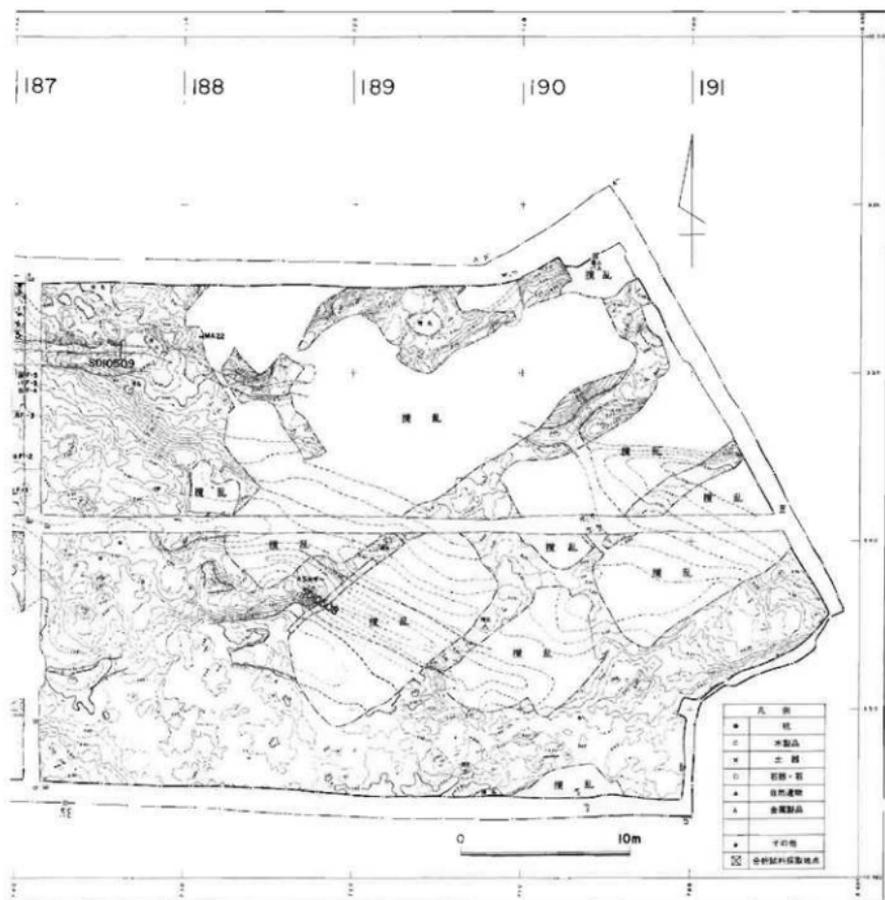


常滑壺

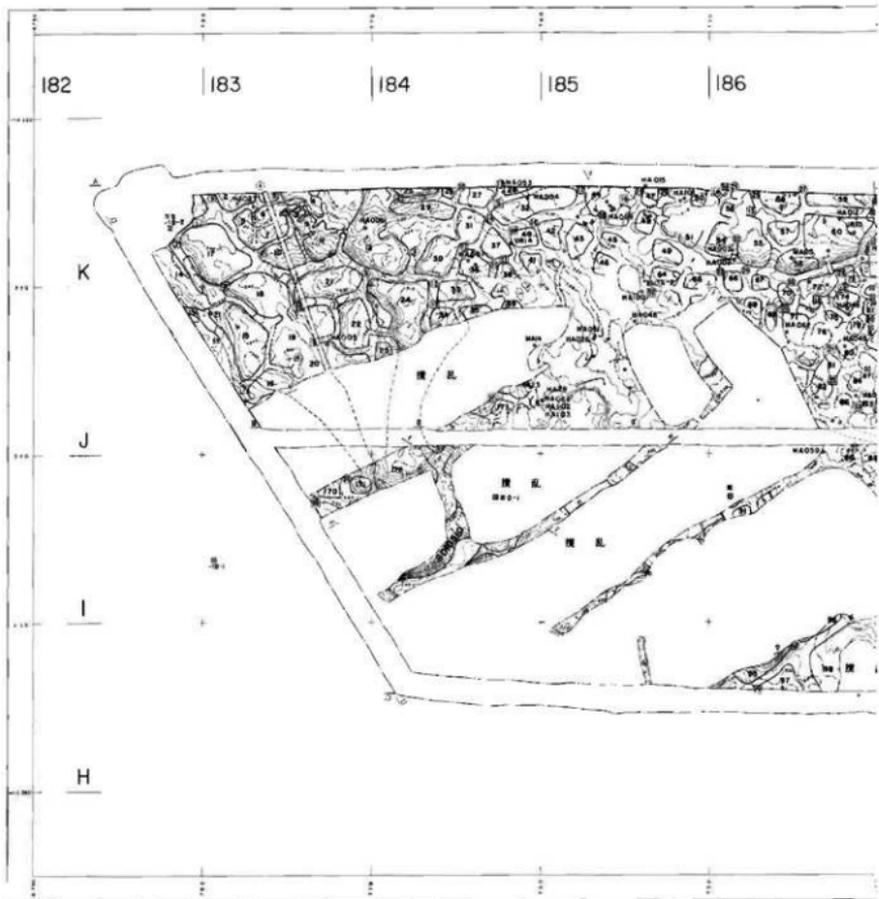
その他の土器(P)

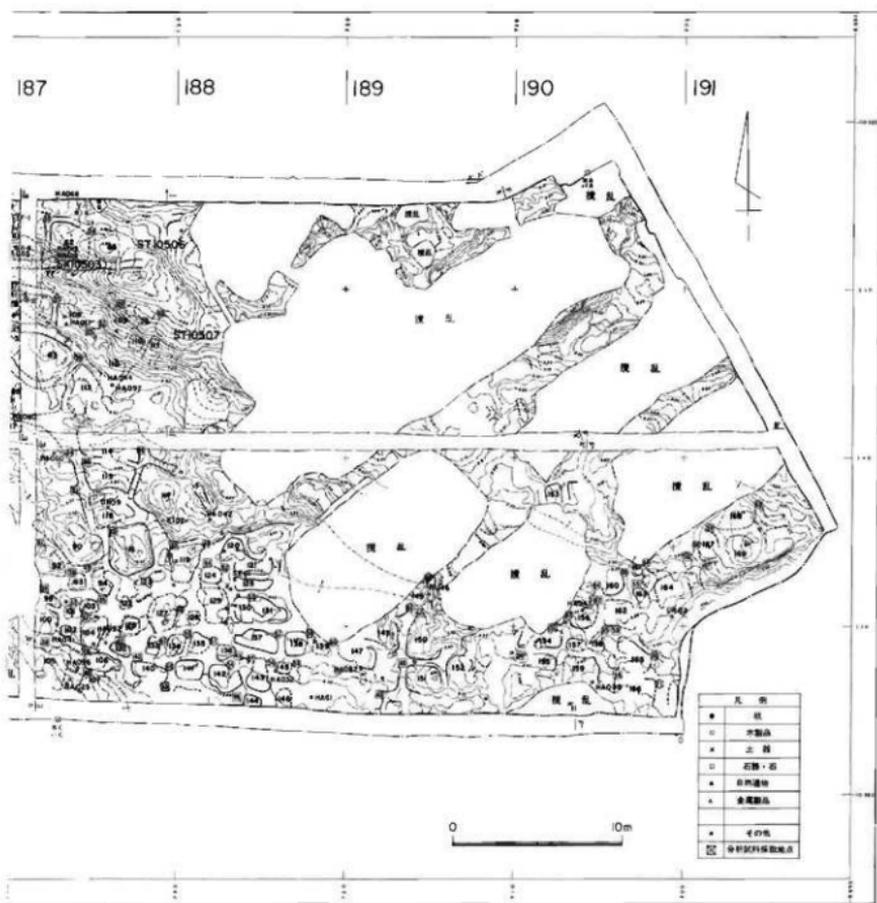
第184図 2区5-2-1層水田(05B)出土遺物集成図



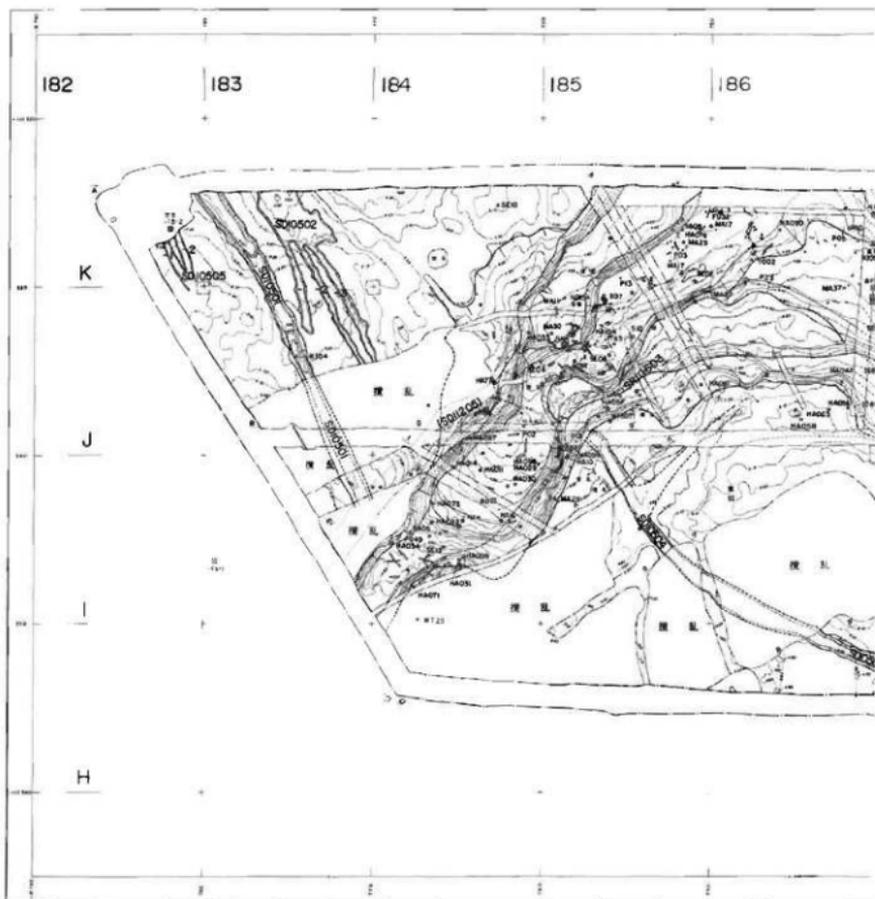


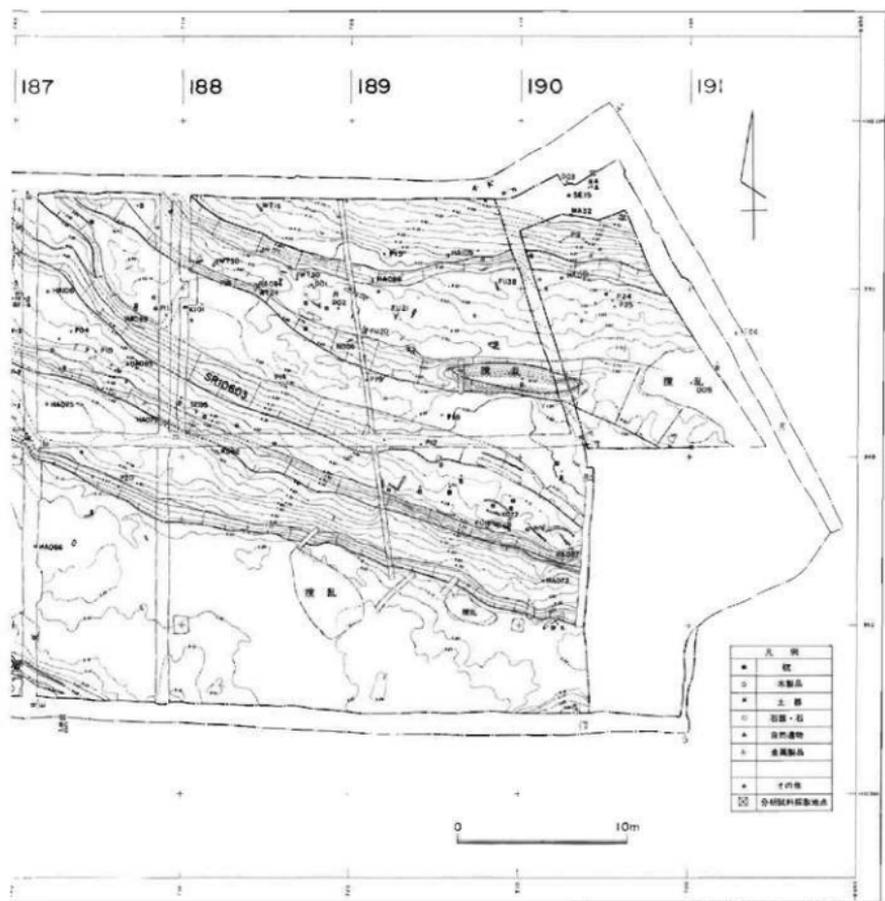
第185図 1区5-2-1層水田(05A)全体図





第186図 1区5-2-1層水田〈05B〉全体図





第187図 1区5-2-2層水田(05C)河道跡全体区

第35表・1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(1)

水田番号	A	B	C	D	E	F	G	H	水田番号	A	B	C	D	E	F	G	H				
1		5.45	[1.2]		[1.8]			22 (20)	46		5.28		1.8	[1.6]	[1.4]			(3)			
2		5.32	[0.65]	[1.2]		2.65		18 (5)	47		5.24	[1.35]	[1.05]		1.4			(1)			
3		5.26	[0.45]	[0.65]		(1.4)		(3)	48	1.19	5.19	1.8	1.8	1.4	1.4	正方形	C	3			
4		5.23	[2]			0.7		(4)	49	1.82	5.21	0.95	2	2.55	2.3	長方形	A	1			
5 (1.67)			(2.85)	2.9	1.9		その他	B	10	50		5.17	[1.2]	[1.2]		1.65		(2)			
6		5.24	(1)	(1.4)	1.7	(2.15)	長方形	A	5	51		5.18	[1.75]	[0.65]		1.45		(5)			
7		5.35	1.1	(1.5)	(2.15)	(2.7)	長方形	A	10	52		5.17	[0.7]	[0.75]				(3)			
8		5.27	[0.5]	[0.75]	(1.1)	(1.2)	長方形	A	3	53		5.12		1.25	(0.85)	[1]		(2)			
9		5.29	0.8	[1]	1.2	(1.7)	長方形	A	8	54	(2.41)	5.11	(2.5)	2.75	(1.6)	2.6	台形	B	9		
10 (3.61)		5.44	2.3	2.15	(2.7)	(1.55)	台形	A	21	15	55	(4.37)	5.13	3.55	(3.3)	(1.6)	2	B	13		
11		5.35	1.1	1.8	(2.4)	(3.4)	A	17	20	56		5.06	[1]	[1.7]		2.4		(3)			
12		5.19	1.8	(1.6)	(2.85)	4.2	長方形	A	11	(8)	57	1.92	5.12	1.75	2.3	2.2	1.4	正方形	A	3	
13		5.57	[6.2]		[0.35]			(8)	58	(2.53)	5.18	(2.6)	1.4	1.4	3.5	A		11			
14		5.53	[4.3]	[1.2]		(1.4)		18 (11)	59		5.02	[0.55]	[1]		4.4			(13)			
15 (8.41)		5.48	6.3	5 (1.4)		2	長方形	B	13	(13)	60	(8.77)	5.09	(2.9)	(4.4)	4.4	(2.3)	A	18		
16		5.48	(1.75)	[0.8]	2	[0.85]		16	13	61	(5.13)	4.95	(2.8)	(2.9)	(2.25)	(3.2)	台形	B	(2)		
17	9.42	5.44	2.9	4.3	(3.7)	3.1	長方形	B	15	11	62	(4.64)	4.92	(2)	(2.65)	(2.7)	2.8	長方形	A	13	
18 (5.89)		5.46	3.9	3.8	3.1	(1.6)	楕円形	B	15	5	63		4.82		(2)	[1]	[3.1]		(5)		
19		5.44	2.1	(1.75)	(6.5)	(3.5)	長方形	A	16	10	64	(1.54)	5.22	(1.2)	1.4	2.3	(2)	長方形	A	4	
20		5.38	2.6	[0.7]	(3.5)	[0.6]		17	(8)	65	(1.7)	5.24	(1.6)	1.2	(2.2)	(2.65)	長方形	A	2		
21 (6.08)		5.42	1.3	1.85	(4.9)	(4.25)	楕円形	B	22	10	66	(1.17)	5.22	1.35	1.6	1.6	(1.6)	長方形	C	3	
22 (4.62)		5.38	(3.55)	3	2.85	1.65	長方形	A	18	10	67	0.8	5.24	1.2	1.35	1.8	1.5	正方形	C	3	
23		5.3	[0.9]	[1.25]	1.05			20	(4)	68		5.24	[1.75]	[0.75]	1.15				(3)		
24		5.17	[3.1]	[5.45]	4.2		B	12	(11)	69		5.25	[1.6]	[1.4]	0.75		長方形	B	(0.2)		
25		5.02	[0.6]	[0.95]		2.75		11	(5)	70	0.85	5.26	1.8	2	1.05		1	楕円形	B	4	
26		5.15	[0.95]	[0.6]				12	(5)	71		5.28	[2]	[1.1]	2.1				(3)		
27		5.23	[1.8]	[0.95]		2.1		16	(3)	72		5.25	(3.5)	1.8	(2.8)	1.5			5		
28		5.3		[0.8]		[2.6]		21	(3)	73	0.64	5.21	1.6	0.85	1.05	1.25	正方形	C	3		
29 (2.99)		5.15	[1.35]	1	4.65	(4.3)	長方形	A	20	13	74	1.48	5.23	1.55	1.5	1.65	1.55	C	3		
30 (4.17)		5.19	1.9	3.25	(1.85)	2.7	長方形	B	16	5	75	(0.59)	5.28	(1.2)	0.8	1.55	(1.6)	長方形	A	0	
31 (2.52)		5.18	(2.3)	1.75	2.25	(1.65)	長方形	B	14	3	76	(1.32)	5.28	(1.5)	(1.95)	(1.6)	(1)	正方形	B	1	
32 (5.67)		5.3	1.6	1.65	(6.05)	(4.6)	長方形	A	23	9	77		5.14		(1.5)		(3.8)	長方形	A	(18)	
33	2.33	5.21	1.3	1.4	2.2		3	台形	A	20	10	78		5.2	(2.25)	(1.95)	(3.8)	(3.85)	長方形	A	(10)
34		5.2	[1.1]	[1.7]	1.35			17	(10)	79	(0.86)	5.26	(1.5)	(1.8)	(1.1)	(1.4)	正方形	C	3		
35		5.17	[0.45]	[1.1]	2.3			22	(5)	80	(1.09)	5.3	(1.65)	(1)	(1.4)	(1.75)	正方形	C	0.4		
36 (2.6)		5.17	(2.25)	1.9	2.2	2.5	台形	B	15	9	81	(1.33)	5.3	(1.2)	(1.75)	(1.75)	(1.85)	正方形	C	3	
37 (2.03)		5.17	2.8	1.5	(1.75)	1.3	台形	B	15	6	82	(1.25)	5.31	(1.5)	(1.35)	(1.85)	(1.5)	正方形	C	3	
38		5.13	(2.3)	(2.2)	1.3	(3.35)	台形	A	27	(8)	83	(8.54)	5.26	(3.35)	1.5	(5.1)	(3.4)	A	(6)		
39		5.1	[0.65]	[0.45]	1.85			29	(3)	84	(0.75)	5.33	(1.4)	(1.2)	(1.2)	1.25	長方形	B	1		
40 (1.51)		5.22	1.8	1.3	1.95	(1.6)	長方形	A	23	7	85		5.31	(2.3)		(5.55)	(5.2)	長方形	A	(5)	
41 (1.08)		5.16	(2.35)	(2.7)	2		その他	B	29	3	86	(0.95)	5.33	[1.15]	[1.7]	(1.25)		正方形	C	27	
42	1.87	5.26	(2.75)	1.8	2.3	(2.4)	台形	B	27	5	87		5.3		[0.9]	[1.15]			(8)		
43	2.22	5.28	2.55	(2.9)	1.75	1.3	台形	B	4	88	(0.84)	5.4	(1.45)	(1.55)	(1.2)	(1.15)	長方形	B	20		
44		5.27	(2.8)	(1.6)		(3.3)				89		5.4		(2.1)	[0.6]	[1.05]			21	(9)	
45		5.24		(1.3)	1.95	[1]	A		(5)	90	(6.03)	5.37	(1.85)	(4)	(4.7)	2.15	台形	A	13	(8)	

水田計測表

A 面積 (m²) B 平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) D 上段が東道、下段が西道 E 東西方向畦畔の長さ (m) F 上段が北道、下段が南道 E 形状
F 主軸方向 (A 東西、B 南北、C その他) G 下段の水田面積から当該田面までの堆積量 (m) H 小區内比高差 (cm) I 上記の数値で、長さが測定できるものは「 」、測定できないものは横線を「 」で示す。

第36表・1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(2)

水田 番号	水田 番号								水田 番号	水田 番号									
	A	B	C	D	E	F	G	H		A	B	C	D	E	F	G	H		
91		5.42	[0.85]	[0.4]	1.65			22	(2)	133	(0.73)	5.44	1.5	1.6	(1.2)	1.4	長方形 B	26	1
92		5.39			[2.95]	[1.5]		16	(8)	134	(1.15)	5.41	1.55	1.5	1.3	1.55	台形 C	26	2
93	(0.85)	5.42	[1.45]	(1.15)	(1)	(1.9)	正方形 C	16	4	135	(1.19)	5.43	(1.45)	(1.55)	(1.7)	(1.5)	台形 C	27	1
94	(1.36)	5.43	[1.65]	(2.8)	(1.2)	(1.5)	B	18	11	136	(0.79)	5.44	(1.05)	(1.45)	(1.5)	(1.1)	長方形 A	33	3
95		5.25	[0.65]	[1.3]		(3.9)		26	(30)	137	2.48	5.46	1.8	0.8	2.9	3.55	長方形 B	25	1
96		5.28	[0.4]	[0.65]		3.7		33	(10)	138	(1.76)	5.45	(2)	1.8	(1.9)	1.55	長方形 B	22	1
97		5.31	[2.5]		[3.65]			33	(3)	139		5.45	[1]	[1.75]		(1.6)		21	(0.3)
98		5.29		[2.5]	[3.75]			31	(5)	140	(1.94)	5.44	1.3	0.9	(2.75)	(3.1)	長方形 A	27	3
99		5.45	(1)		[2]	[0.9]	A	21	(1)	141	(1.89)	5.44	1.65	(1.3)	2.5	(2)	長方形 A	29	1
100		5.42	(1.8)	[0.75]	[1.3]			24	(5)	142		5.45	(1.1)	1.65	(2.25)	2.55		30	1
101	(0.27)	5.48	(1.4)	(1.2)	(0.7)	(0.9)	長方形 B		0	143	(1.98)	5.45	(2.4)	(2.3)	(1.2)	1.6	長方形 B	23	1
102	[0.4]	5.44	(1.3)	(1.2)	(0.9)	(1.2)	台形 A	25	3	144		5.44	[0.55]	[0.85]	1.6			28	(1)
103	[0.7]	5.45	(1.5)	(1.4)	(1.1)	(2.2)	台形 A	20	0	145	(0.58)	5.44	(1.05)	(1.45)	(1.5)	(1.1)	長方形 A	22	2
104	(2.99)	5.43	(2.7)	(1.8)	(2.2)	(1.6)	台形 B	24	5	146		5.45	[1.75]	[1.5]	(1.1)			24	(3)
105		5.33	(3.3)		[2.5]			18	(11)	147		5.44	1.5	(1.55)	(3.05)	(2.8)	長方形 A	28	2
106	(2.06)	5.4	0.95	1.2	3.2	(2.9)	長方形 A	26	5	148		5.45	2.25		[0.65]	[2.55]		19	(3)
107		5.35	[0.5]	[0.85]	(2.85)			26	(10)	149		5.36	[1.7]		[1.3]			17	(13)
108	(2.41)	5.19		[4.75]	[2]	[1.6]		(18)	150	(3.88)	5.36	(3.45)	(3.05)	1	2.5	台形 B	13	5	
109		5.04	(2.05)	(2.35)	(2.3)	(1.6)		20	151	(2.82)	5.4	(2.3)	2.2	2.5	(2.7)	長方形 A	15	10	
110	(0.67)	5.13	(1.5)	(1.3)	(1)	(1.1)	正方形 C	10	152		5.37	[0.7]	[1.5]	(2.8)		その他 B	13	5	
111		5.11	(1.85)	(1.85)	(1.2)	(1.2)	長方形 B		18	153		5.17	[1.6]	[1.1]	1.5			10	(3)
112		5.28	(1.9)	(1.9)	(3.45)	(3)		10	154		5.38	(1.45)	(1.75)	(2.85)	(3.05)	長方形 A	21	5	
113		5.35	(4.25)	(2.5)	(1.45)	(2.1)		4	155		5.38	1.3		[2.55]	[1.2]			19	(4)
114		5.23	[1.1]	[0.5]		(3.9)		(4)	156	(1.67)	5.32	(2.65)	(1.7)	(1.8)	1.3			4	1
115	(4.22)	5.28	2.1	2.05	(3.9)	2.75	長方形 A		8	157	(0.75)	5.38	(1.05)	(1.5)	(1.3)	(1.6)	長方形 A	1	1
116	(3.55)	5.33	(1.35)	(2.7)	(3.1)	台形 A	17	8	158	(0.83)	5.35	(1.8)	(1.1)	(1.1)	(1.4)	台形 B		3	
117	(12.52)	5.25	(6.5)	(3.35)	2.7	(3.65)	長方形 B	18	159		5.4	[1.7]	[1.75]	(2.45)				(2)	
118	6.68	5.32	3.5	3.4	2.6	2.6	正方形 C	11	14	160		5.36	[1.2]	[0.5]		1.6		(2)	
119	(3.26)	5.39	(3)	(2.6)	(3.2)	(2)	台形 B	16	8	161		5.32	[0.75]	[0.75]		1.1		(3)	
120	(1.16)	5.41	1.05	1.75		(2.3)	台形 A	17	6	162	(2.96)	5.35	(2.75)	(1.6)	(1.6)	(2.15)	正方形 C		5
121		5.45	(1.25)	0.6	(3.05)	2.8	長方形 A	20	1	163		5.34	[1.4]	[1.6]	1.1			(1)	
122	(0.3)	5.43	(1.8)	(1.9)		(1.55)	その他 C		1	164		5.33	[1.4]	[1.5]	(2.85)			(5)	
123	(1.42)	5.4	(1.1)	(1.8)	(2.7)	(1.9)		16	3	165		5.4	(1.15)	(2.7)	(3)	(2.55)		1	
124	(1.09)	5.39	1.2	(1.8)	(1.3)	(2)	楕円形 C	16	3	166		5.41	[1.7]	[1.1]	(3.4)			(4)	
125	(1.38)	5.43	1.05	(1.2)	2.8	2.55	長方形 A	20	1	167	(1.89)	5.21	(1.5)	(2.5)	(1.6)	(1.7)	台形 B		3
126	(1.27)	5.42	2.1	1.35	1.6	1.85	台形 C	23	3	168		5.17	[0.9]	[1.1]		(2.7)		(8)	
127	3.04	5.42	(2.5)	(1.4)	(3.35)	(2.3)	楕円形 C	21	4	169		5.15	(2.3)	(2.3)	(4.9)	(4.5)	台形 A		26
128	(0.49)	5.43	(1.2)	(1)	(1.1)	(1.3)	正方形 C	29	0	170		5.64	[1.55]	[0.4]		1.8		16	(8)
129	(2.97)	5.43	(2.5)	(2.55)	(2)	(1.8)	長方形 B	26	3	171	1.03	5.52	1.45	1.45	1.4	1.7	正方形 C	20	9
130	(1.36)	5.45	(1.95)	(1.9)	1.2	1.4	長方形 B	25	2	172		5.34	[3.2]	[1.7]				14	(20)
131	(1.91)	5.45	1.95	(1.95)	1.85	2.55	その他 A	26	0.1	173	(0.85)	5.09	(1.35)	1.25	1.25	(1.95)	正方形 C		5
132	0.78	5.43	1.4	0.75	1.85	1.6	長方形 A	25	5	平均		2.49	7.48					20.67	6.17

水田計測表
A 形状 (m) B 平均標高 (m) C 南北方向畦畔の長さ (m) : 上段が東辺、F 段が西辺 D 東西方向畦畔の長さ (m) : 上段が北辺、下段が南辺 E 形状
F 土壌方向 (A 東西、B 南北、C その他) G ト位の水面高から当該田面までの増積量 (cm) H 小区内比高差 (cm) : 上記の数値で、長さが測定できるものは
()、測定できないものは検出値を [] で示す。

第37表・1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(3)

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
SK10903	大	枕列	A	E20° S-E16.5° N-E1° S	[19.2]	0.4		11	18	
1小	盛土	A	E17.5° N	[5.7]	0.3			1	-0.3	
2小	盛土	A	E29° N	(2.7)	0.15			5	4	
3小	盛土	A	E30° N		3.1	0.3		6	4	
4小	盛土	A	E18.5° N-E20° S-E5° N	(11.35)	0.4			10	8	
5小	盛土	A	E4.5° S-E20.5° N	(4.25)	0.4			8	4	
6小	盛土	A	E16.5° N-E53° S-E3° N	[3.9]	0.25			3	7	
7小	盛土	A	E47° N-E14° S	[4.1]	0.25			2	5	
8小	盛土	A	E3° N-E15° S		6.9	0.25		3	0	
9小	盛土	A	E17.5° N	[3.2]	0.2			3	3	
10小	盛土	A	E15° N-E16° S		9.55	0.54		2	2	
11小	盛土	A	E14.5° N-E23° S	[6.5]	0.2			-2	5	
12小	盛土	A	E4° N	[5.5]	0.3			2	5	
13小	盛土	A	E14.5° S	[2.3]	0.25			-4	1	
14小	盛土	A	E25° S	[1.6]	0.25			-2	-1	
15小	盛土	A	E1° S	[13.75]	0.34			6	0	
16小	盛土	A	E3.5° S	[7.75]	0.3			1	-1	
17小	盛土	A	E3.5° S	[5.8]	0.35			9	0	
18小	盛土	A	E17° S	[2.25]	0.25			2	0	
19小	盛土	A	E29° N	[2.45]	0.25			2	-3	
20小	盛土	A	E32° S-E30.5° N	(10.65)	0.33			3.4	0.3	
21小	盛土	A	E33° S	[2.55]	0.25			0	0	
22小	盛土	A	E28° S	[2.05]	0.15			1	1	
23小	盛土	A	E1.5° S	[7.3]	0.45			0	3	
24小	盛土	A	E12° S-E46° S	(6.55)	0.37			8	0	
25小	盛土	A	E29.5° S	[2.3]	0.4			16	-8	
26小	盛土	A	E40° S	[4.1]	0.2				-11	
27小	盛土	A	E13° S	[2.45]	0.3				1	
28小	盛土	A	E2.5° S	[3.1]	0.3			6		
29小	盛土	A	E34° N	[7.4]	0.3			7	3	
30小	盛土	A	E6° S	(3.9)	0.25			2	-3	
31小	盛土	A	E9.5° N-E23° S	[3.6]	0.2			5	0	
32小	盛土	A	E22° N		2.6	0.3		5	6	
33小	盛土	A	E12° N	[3.2]	0.2			15	1	
34小	盛土	A	E12° N	(2.2)	0.4			6	1	
35小	盛土	A	E19.5° N		2.6	0.2		8	0	
36小	盛土	A	E13.5° S	[4.6]	1.1			5	0.3	
37小	盛土	A	E9.5° N	[12.8]	0.4			2	1	
38小	盛土	A	E1.5° S	[2.5]	0.63			-2	7	
39小	盛土	A	E4.5° S		3.2	0.3		0	3	
40小	盛土	A	E6.5° S	[4.2]	0.2			0	5	
41小	盛土	A	E4.5° N	[12.95]	0.38			1	0	
42小	盛土	A	E1.5° N	(5.25)	4.5			1	-1	
43小	盛土	A	E6° S	[2.9]	0.5			0		
44小	盛土	A	E7° S	[4.1]	0.33			2	4	

畦畔計測表

A畦畔規模(大、中、小) B畦畔構造(枕列、盛土、削出) C土輪基本方位(A:東面、B:南、C:その他) D方位 E線出長(m); 帯定長は()、完結しないものは[] F抜出面での上端幅(m) G抜出面での下端幅(m) H・I田面比高差(cm)

第38表・1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(4)

通稱番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
45小	盛土	A	E7°S		[9.85]	0.52		1	2	
46小	盛土	A	E15°S		[1.6]	0.25		0	1	
47小	盛土	A	E1.5°S		[2.3]	0.35		6	6	
48小	盛土	A	E1.5°S		[2.5]	0.3		7	3	
49小	盛土	A	E4°S		[2.6]	0.5		5		
50小	盛土	A	E2.5°S		[4.35]	0.3		3	1	
51小	盛土	A	E9.5°S		[2.3]	0.45		6	0	
52小	盛土	A	E4.5°N		[1.6]	0.2		0	1	
53小	盛土	A	E13°S-E36.5°S		[4.75]	0.3		0	1	
54小	盛土	A	E0.5°S		[3.4]	0.25		1	0	
55小	盛土	A	E19°N		[3.95]	0.48		3	1	
56小	盛土	A	E6°S		[0.7]	0.15				
57小	盛土	A	E11°N		[1.2]	0.2		2	8	
58小	盛土	A	E25°S-E13.5°N		[4.05]	0.49		3	1	
1小	盛土	B	N21.5°W-N48°W		[6.95]	0.4		9	1	
2小	盛土	B	N7.5°E-N57°W-N29.5°W		[10.6]	0.3		6	4	
3小	盛土	B	N6°W-N55°W-N33.5°W		[8.7]	0.4		10	3	
4小	盛土	B	N2°W		[3.4]	0.1		4	4	
5小	盛土	B	N25°W		[3.75]	0.15		6	0	
6小	盛土	B	N14.5°E		[1.65]	0.2		9	-1	
7小	盛土	B	N6°E-N26°W		3	0.25		10	4	
8小	盛土	B	N4°E-N25°W-N18°E		[5.45]	0.3		12	-10	
9小	盛土	B	N23.5°E		[3.25]	0.35		9	9	
10小	盛土	B	N21°E		[3.1]	0.2		-2	4	
11小	盛土	B	N19.5°E		1.9	0.25		8	6	
12小	盛土	B	N26°W-N10°E		[3.1]	0.4		2	8	
13小	盛土	B	N25.5°E		[4.6]	0.3		-3	4	
14小	盛土	B	N28.5°W		[4.65]	0.35		-2	5	
15小	盛土	B	N13°E		[2.25]	0.3		2	-2	
16小	盛土	B	N14.5°W		[3.95]	0.1		-1	4	
17小	盛土	B	N12°W-N35°E-N2°W		[5.85]	0.35		4	3	
18小	盛土	B	N14.5°E		[3.45]	0.4		3	0	
19小	盛土	B	N13.5°E		[1.85]	0.4		1	-2	
20小	盛土	B	N3°E		[6.25]	0.33		3	-1	
21小	盛土	B	N27°E		[6.8]	0.3		2	0.3	
22小	盛土	B	N4.5°E		[0.9]	0.25		8	10	
23小	盛土	B	N1.5°E		[1.6]	0.35		3	1	
24小	盛土	B	N5.5°W		[2.1]	0.4		-1	1	
25小	盛土	B	N6.5°W-N21.5°E-N22°W		[8.75]	0.3		4	3	
26小	盛土	B	N10.1°E-N24°W		1.8	0.3		3	2	
27小	盛土	B	N6°W-N66.5°W-N1°E		[5.35]	0.2		4	2	
28小	盛土	B	N33.5°E-N4.5°W		[5.85]	0.33		1	1	
29小	盛土	B	N34.5°E-N55°W-N24.5°E-N2°W		[13.35]	0.3		6	2	
30小	盛土	B	N28.5°E		[5.85]	0.5		1	2	
31小	盛土	B	N3°E		[1.8]	0.5		8	4	

略称計測表

A叫野原(大、中、小) B叫野種類(扇形、盛土、窪出) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E横出長(m); 測定長は()、記録しないものは[] F検出面の上端幅(m) G検出面の下端幅(m) H・I田面比高差(cm)

第39表・1区5-2-1層水田上面(05B)計測表(5)

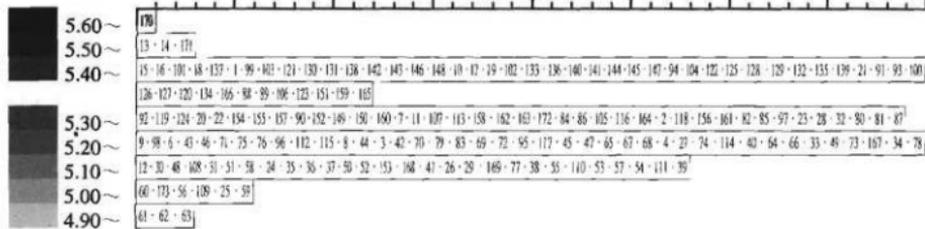
道標番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	備考
32小	盛土	B	N10.5°W		[2.1]	0.35		5	5	
33小	盛土	B	N3.5°W		[2.65]	0.2		23	20	
34小	盛土	B	N2.5°W		[2]	0.3		6	4	
35小	盛土	B	N3.5°W		[2.25]	0.25		1	0	
36小	盛土	B	N13.5°W-N16°E		[4.75]	0.3		1	3	
37小	盛土	B	N33.5°E		[1.3]	0.2		3	4	
38小	盛土	B	N36°E		[2.05]	0.15		0	9	
39小	盛土	B	N25°E		[4.45]	0.25		4	2	
40小	盛土	B	N24°W		[3.15]	0.85		-3	-2	
41小	盛土	B	N10°E-N43°W		[7.25]	0.3		2	2	
42小	盛土	B	N15°E-N2.5°W		[6.25]	0.6		1	3	
43小	盛土	B	N5°W		[1.45]	0.3		1	2	
44小	盛土	B	N14.5°E-N3°W-N14°W		[12.95]	0.5		3	2	
45小	盛土	B	N6°W-N22°E-N55°W-N5°W-N18.5°E		[16.75]	0.5		1	3	
46小	盛土	B	N8°E		[1]	0.55		0	1	
47小	盛土	B	N15.5°E		[1.5]	0.3		2	-1	
48小	盛土	B	N10.5°W		[1.3]	0.45		-1	-1	
49小	盛土	B	N14.5°W-N24.5°E		[5.55]	0.3		3	3	
50小	盛土	B	N15°E		[1.55]	0.2		0	2	
51小	盛土	B	N5.5°E-N19°E		[3.1]	0.3		0	1	
52小	盛土	B	N2°W		[3.7]	0.4		1	4	
53小	盛土	B	N7°W		[1.95]	0.1		0	0	
54小	盛土	B	N26.5°E		[1.85]	0.2			1	
55小	盛土	B	N16.5°E		[2.85]	0.2		1	0	
56小	盛土	B	N4°E-N8°W		[2.95]	0.4		2	2	
57小	盛土	B	N1.5°W		[1.8]	0.35		0	-1	
58小	盛土	B	N2.5°W		[2.8]	0.25			1	
59小	盛土	B	N7.5°E		[1.75]	0.35		2	0	
60小	盛土	B	N4°E		[1]	0.4		0	1	
61小	盛土	B	N1°W-N32.5°E		[6.35]	0.4		7	-1	
62小	盛土	B	N8°W		[6.45]	0.35		3	1	
63小	盛土	B	N8.5°E		[4.4]	0.3		1	2	
64小	盛土	B	N5.5°W-N48.5°E-N2.5°W		[3.7]	0.3		0.3	2	
65小	盛土	B	N1.5°W		[4.2]	0.6		-1	2	
66小	盛土	B	N13.5°W		[2.8]	0.4		3	0	
67小	盛土	B	N20°W		[2.15]	0.3		0	0	
68小	盛土	B	N19.5°W-N3.5°E		[3.1]	0.5		14	5	
69小	盛土	B	N26°W-N34°E-N7°W		[2.3]	0.6			4	
70小	盛土	B	N8.5°E		[1.15]	0.2			0	
71小	盛土	B	N7°E		[2.3]	0.7			0	

臨時計測表
 A臨時尺標(大、中、小) B臨時標識(枕列、盛土、掘削) C主軸基本方位(A東西、B南北、Cその他) D方位 E検出長(m);推定長(°)、定
 結しないものは[] F検出面での上層幅(m) G検出面での下層幅(m) H・I田面比高差(m)

第40表・1区5-2-2層水田疑似畦畔B(05C)計測表

測線番号	A	B	C	D	E	F	G	備考
SD10501	B	N 2 3 . 5 ° W - N 3 6 ° W	[20.7]	1.19	12			
SD10502北	B	N 3 3 ° W	[3.45]	2.47	0.3			
SD10502-1	B	N 1 5 . 5 ° W		5.7	0.53	0.3		
SD10502-2	B	N 2 8 ° W	[8.3]	0.32	17			
SD10502-3	B	N 3 1 . 5 ° W	[8.7]	0.53	0.3			
SD10504	B	N 6 7 ° W - N 3 6 ° W	[26.25]	0.83	0.6			
SD10505市	B	N 2 4 . 5 ° W	[1.2]	0.82	0.4			
SD10505-1	B	N 2 7 ° W	[2.0]	0.45	0.1			
SD10505-2	B	N 2 0 ° W	[2.2]	0.45	0.4			
溝状遺構計測表 A 主軸系方位 (A東西、B南北、Cその他) B 方位 C 検出長 (m) : 測定長は ()、完結しないものは [] D 検出面での上端幅 (m) E 検出面での 幅別深さ (cm) F 覆土 G 断面形								

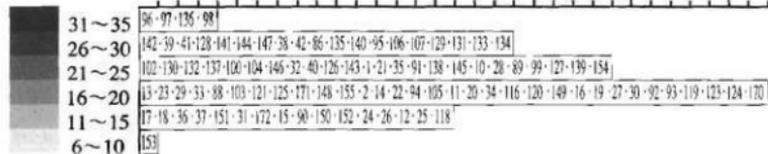
0 5 10 15 20 25 30 35 40 (枚)



(m)

水田面の平均標高

0 5 10 15 20 25 30 35 (枚)



(cm)

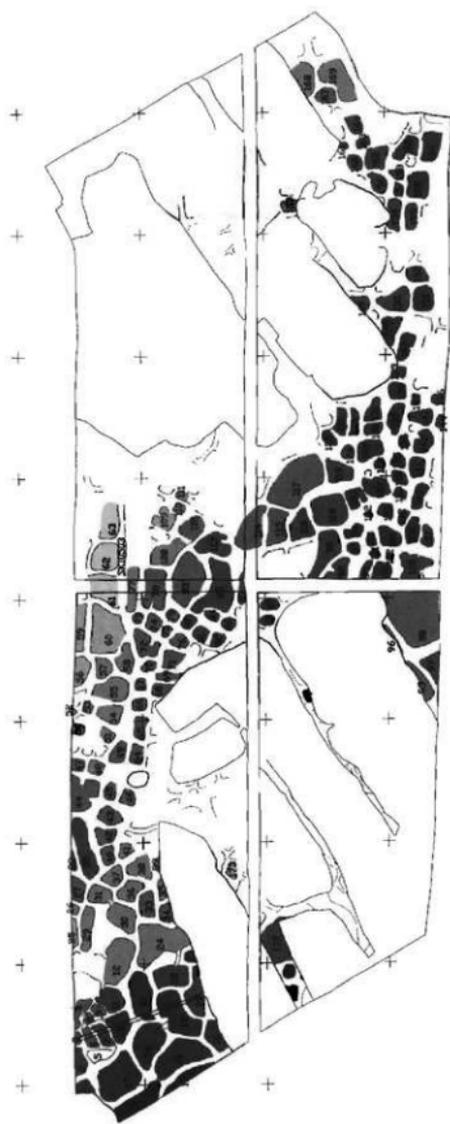
堆積量 (水田耕作土の厚さ)

0 5 10 15 20 25 30 35 40 (枚)

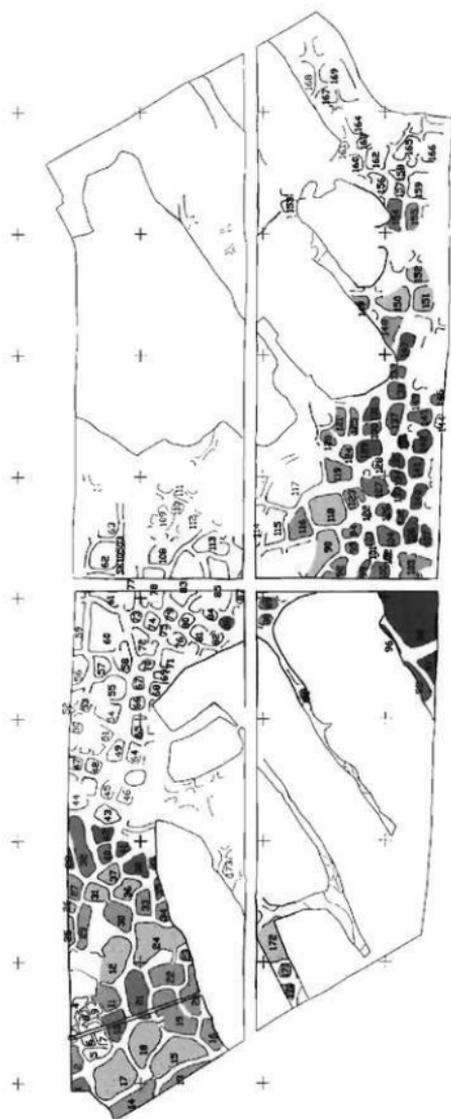


(㎡)

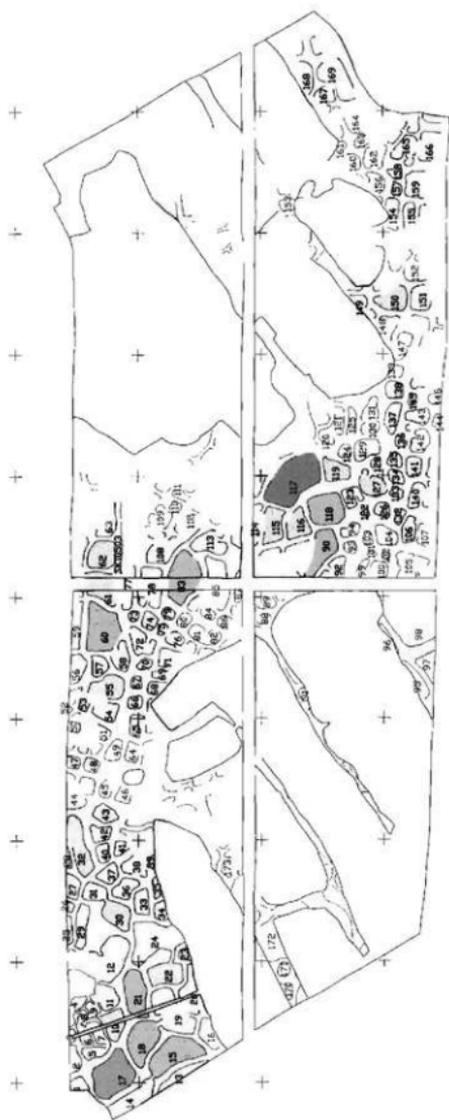
水田面積



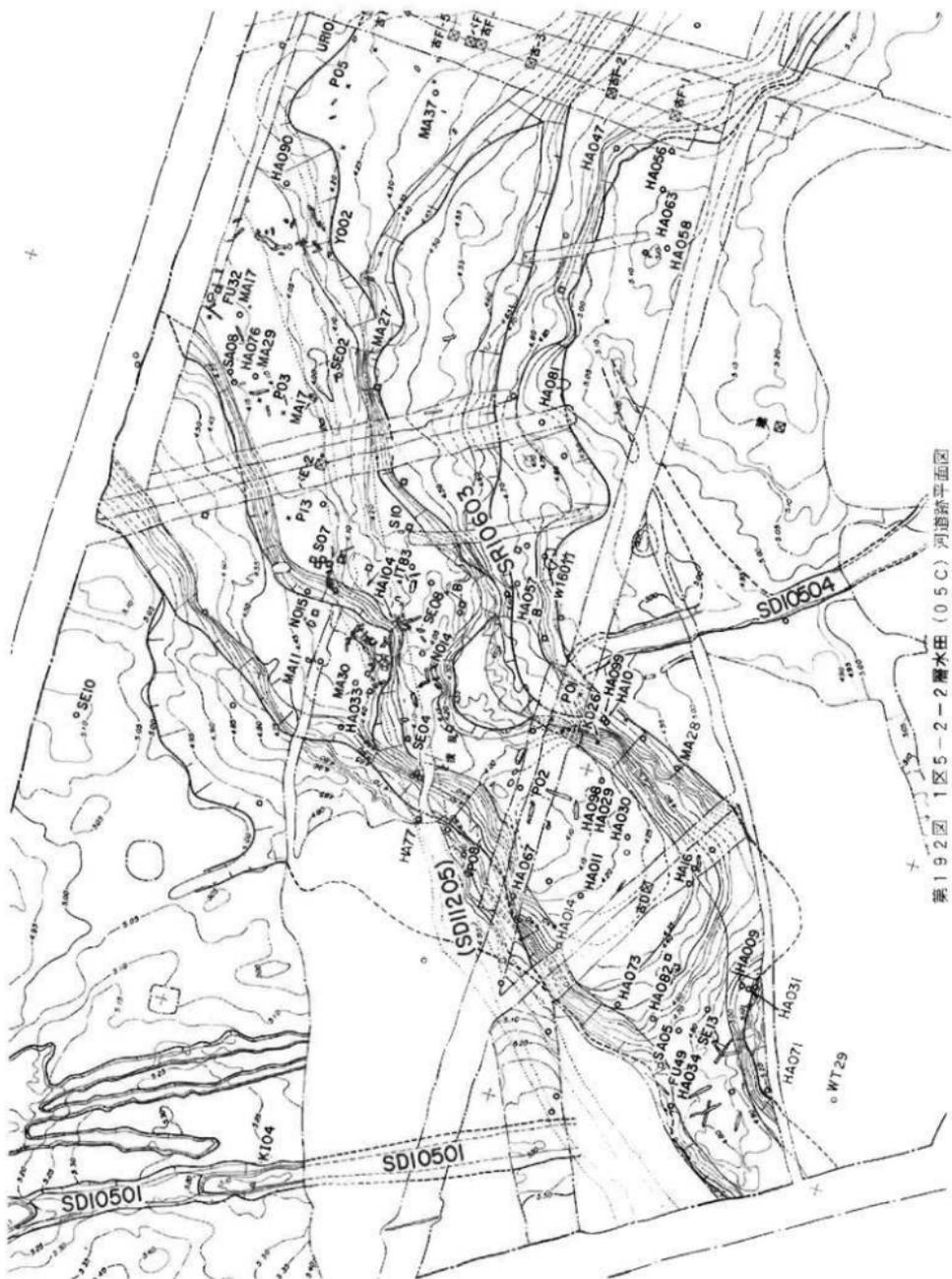
第189图 1区5-2-1層水田(05B)標高分析図



第190图 1区5-2-1層水田(0.5B)堆積層分析図

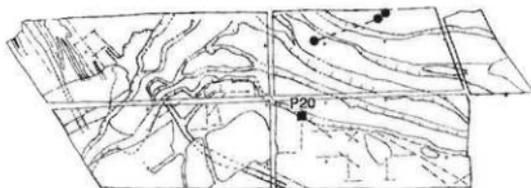


第191图 1区5-2-1露水田(05B)面积分析图

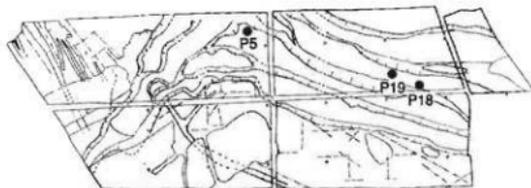


第 192 图 1 区 5-2-2 層水田 (0.5C) 河道跡平面図

- 13世紀
- 12世紀



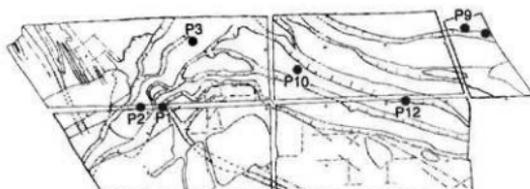
- 11世紀



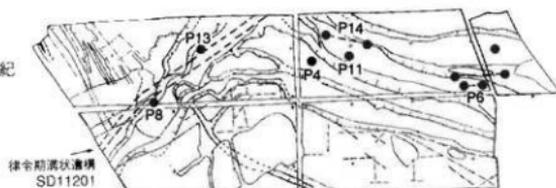
- 10世紀



- 9世紀

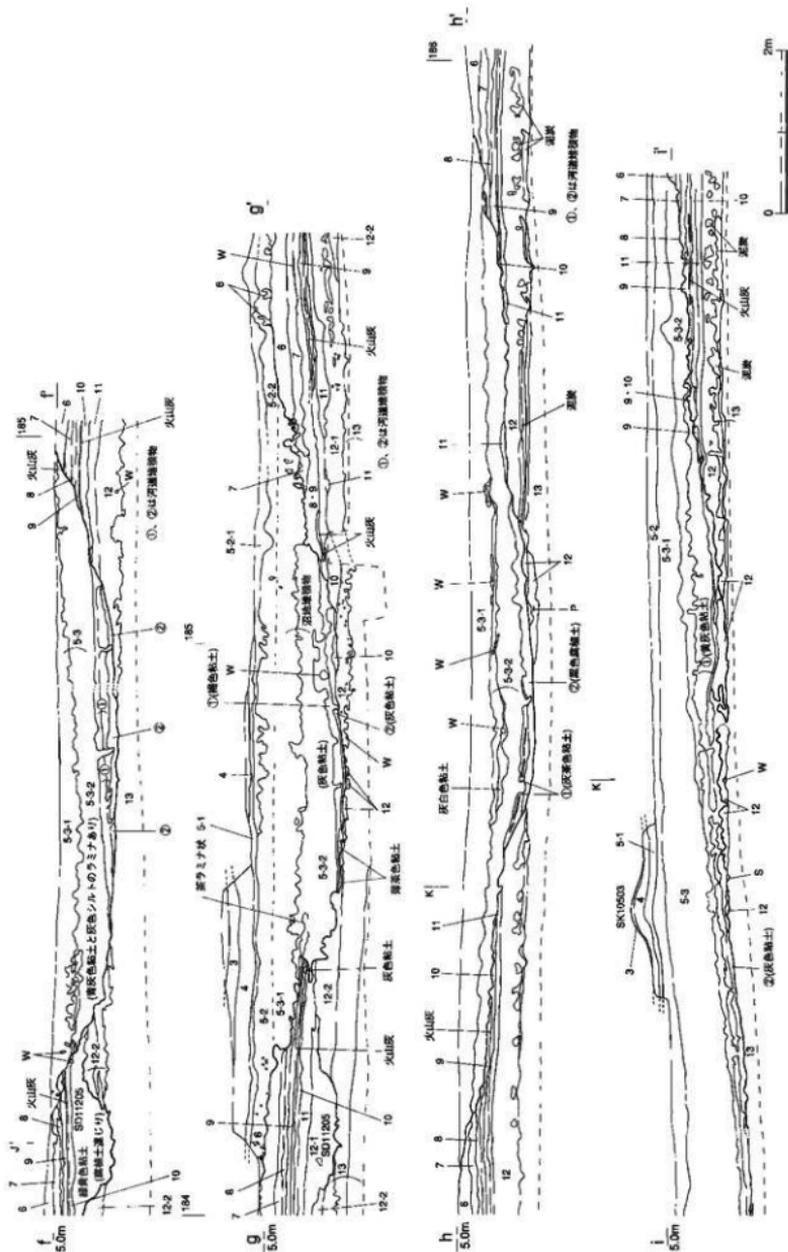


- 7世紀末～8世紀

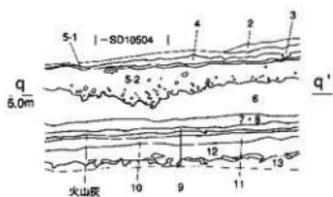
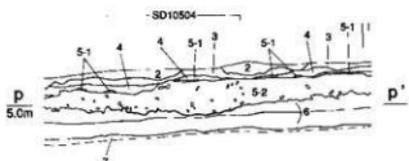
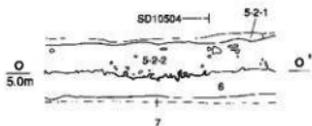
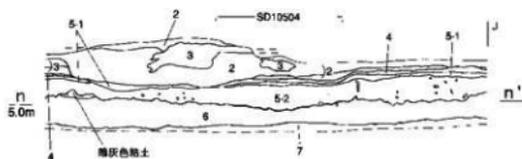
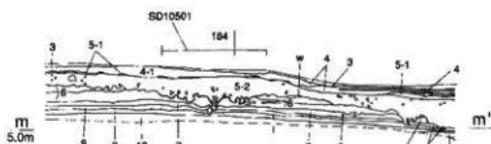
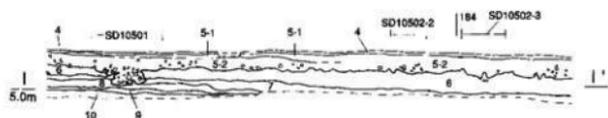


※遺物を結ぶ破線は、接合関係を示す。

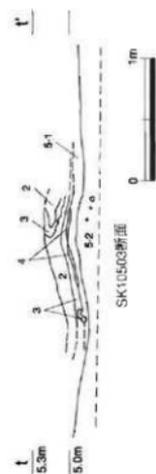
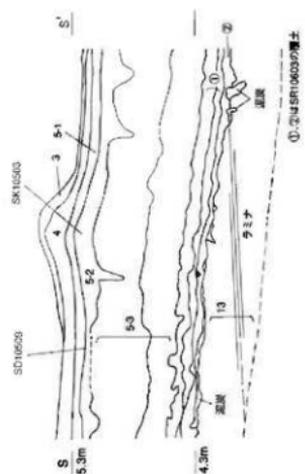
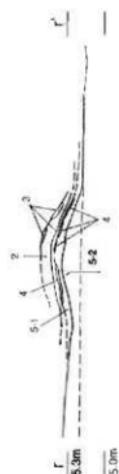
第193図 1区5層河道跡土器出土位置図(年代観別)



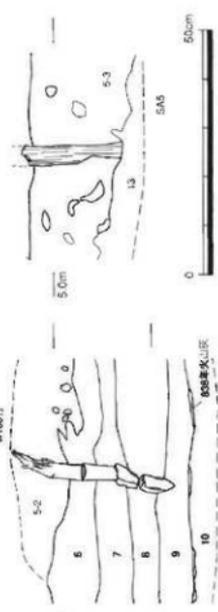
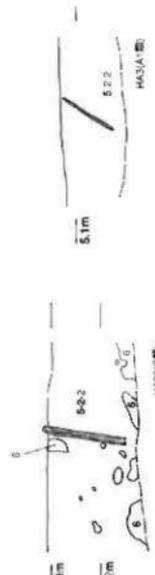
第194図 1区5層河道横断面図(1)



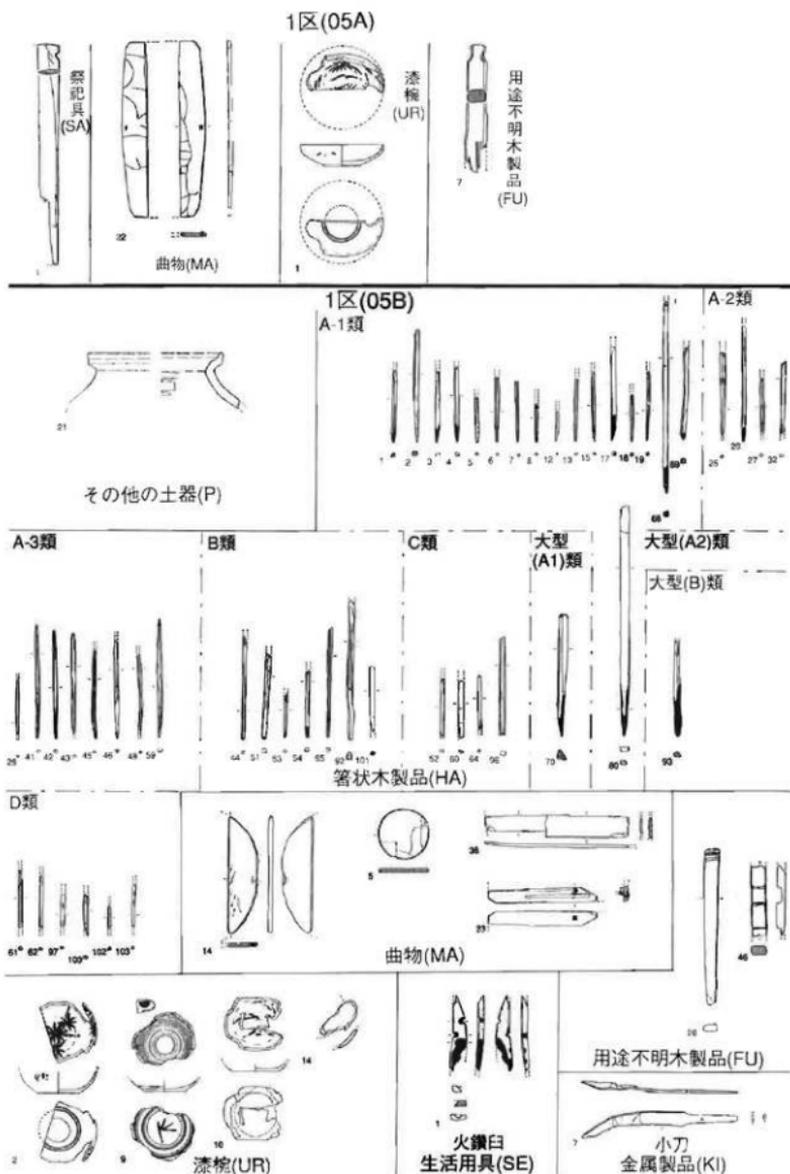
第196图 1区5层状构造断面图



第197图 1区5-2-1層水田(05A)大群群断面



第198图 1区5-2-1層水田(05B)著水製品着出断面



第199図 1区5-2-1層水田(05A)(05B)出土遺物集成図

1区(05C)



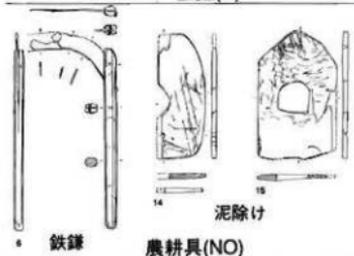
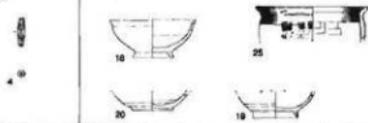
その他の土器(P)

A類



土鐘(D)

B類



鉄鎌

農耕具(NO)

泥除け

A類

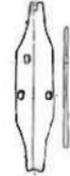


D-I類

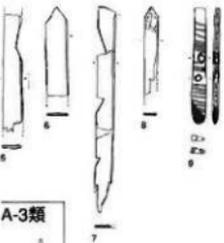
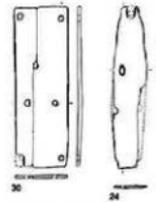


板状田下駄
(IT)

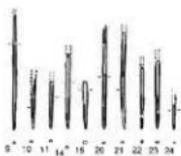
B-2類



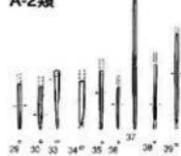
輪カンジキ型田下駄(WT)



A-1類



A-2類



C-3類



A-3類

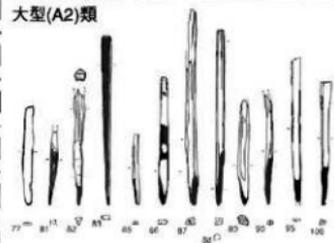


祭祀具(SA)

大型(A1)類



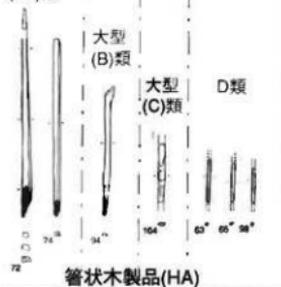
大型(A2)類



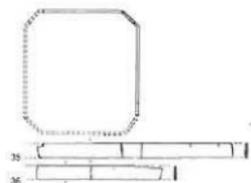
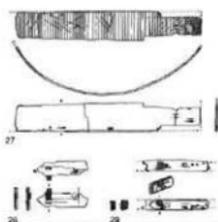
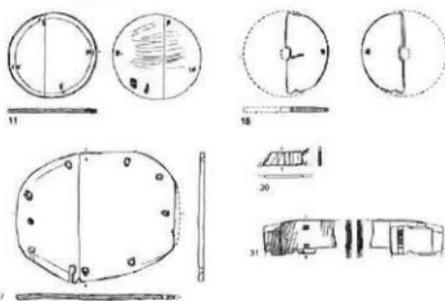
箸状木製品(HA)

第200図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(1)

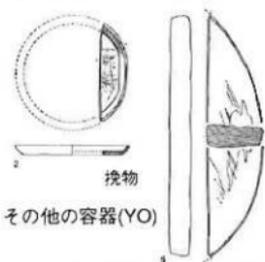
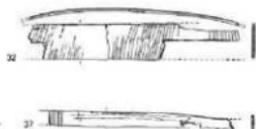
大型
(A3)類



1区(05C)



曲物(MA)



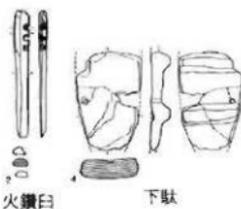
その他の容器(YO)



箱物



漆碗(UR)

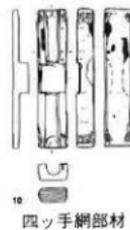


火鑊白

下駄



下駄



四ッ手網部材



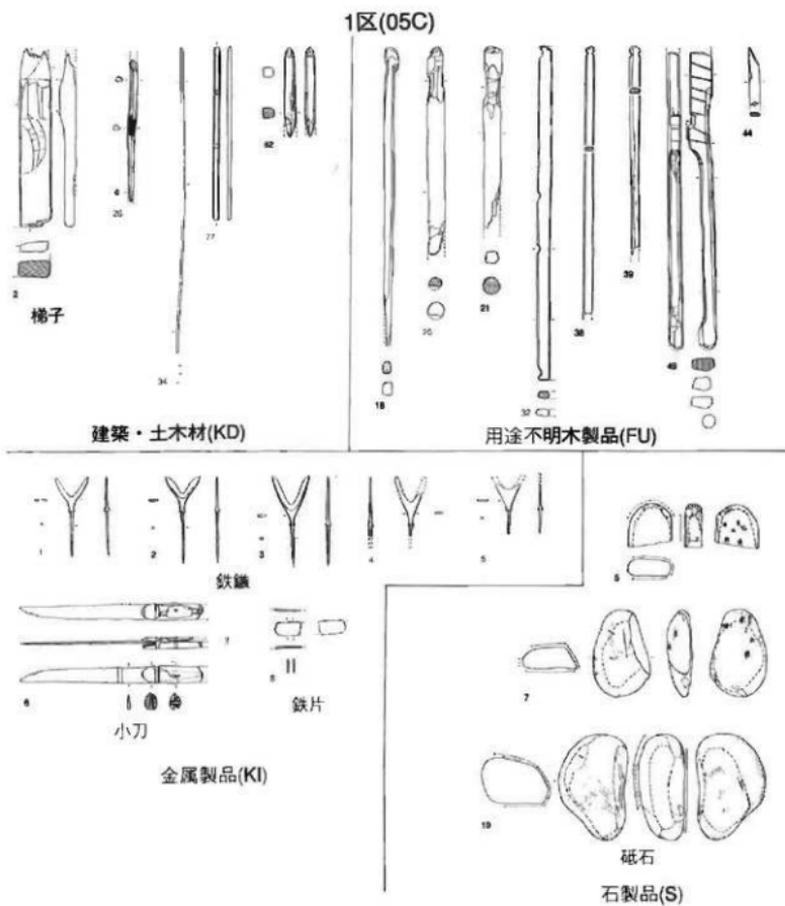
弓



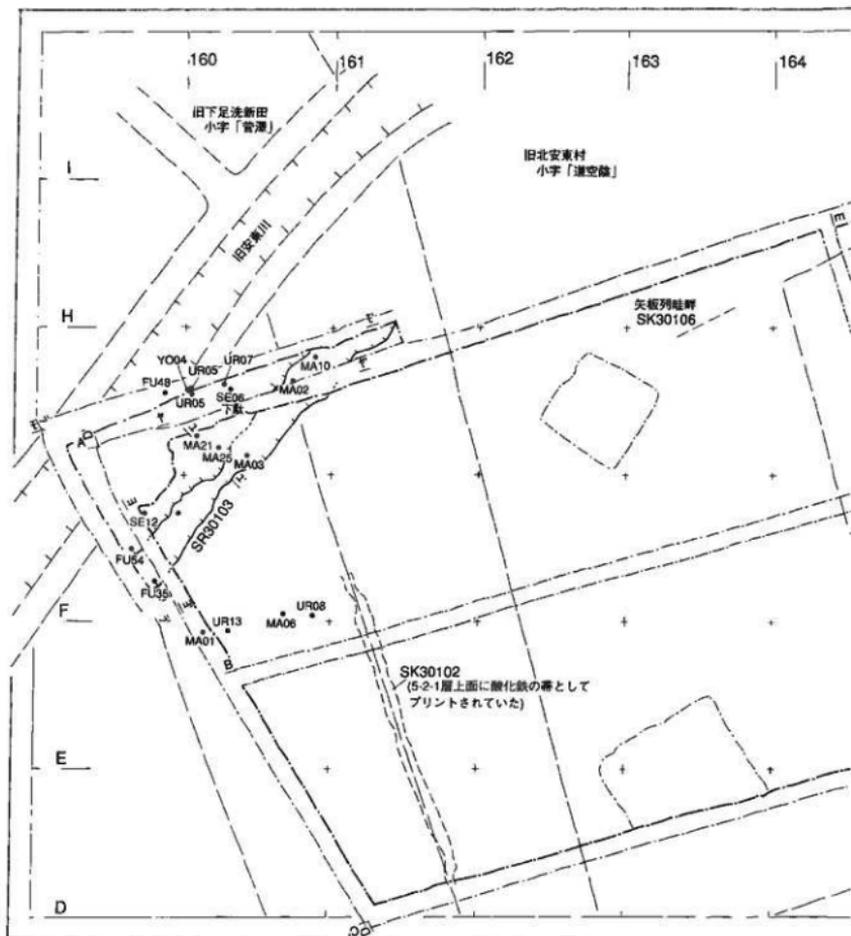
管状木製品

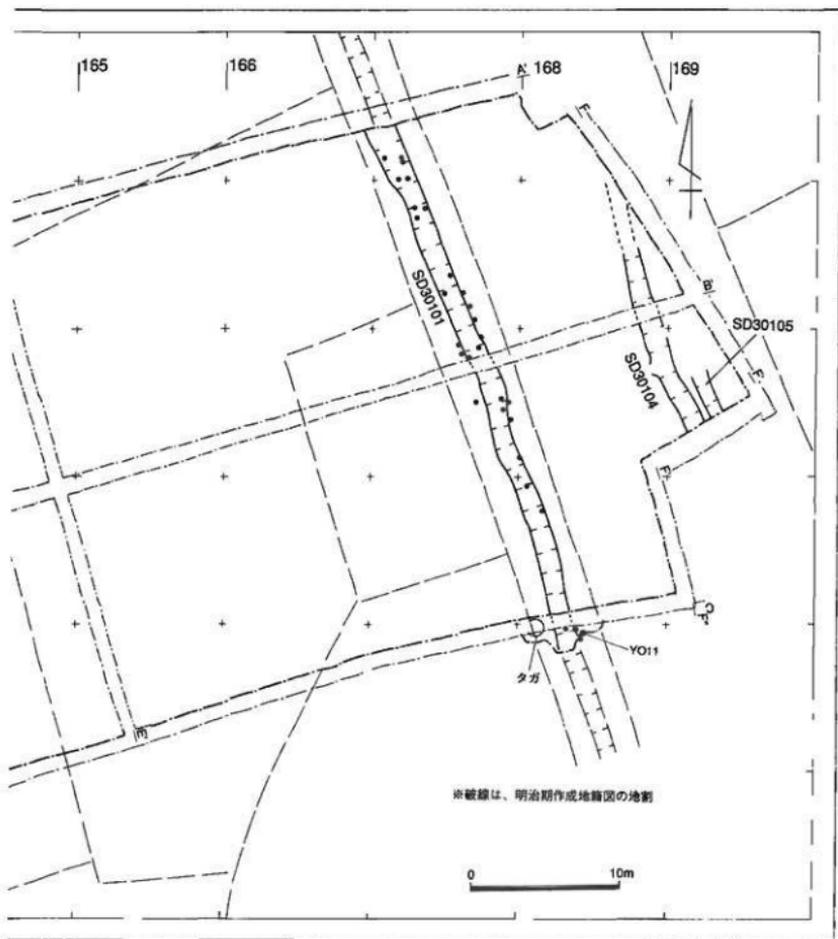
生活用具(SE)

第201図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(2)

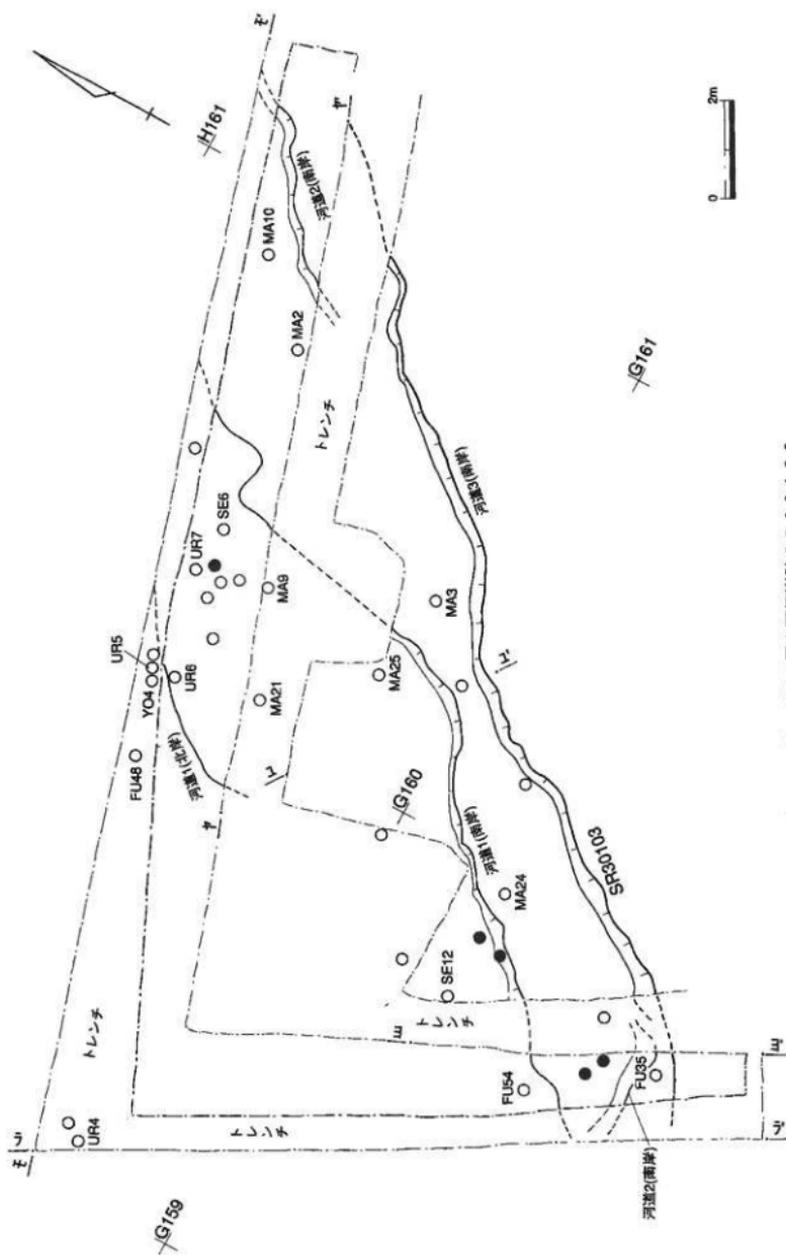


第202図 1区5-2-1層水田河道跡出土遺物集成図(3)



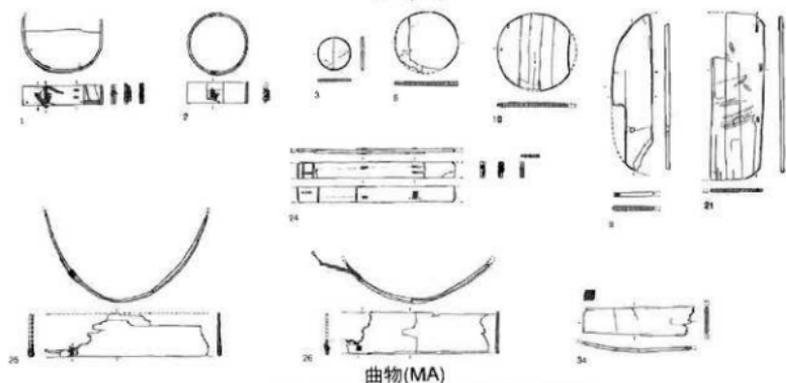


第203図 3区1層上面水田全体図

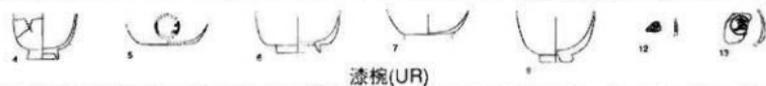


第205図 3区1層上面河道跡SR30103

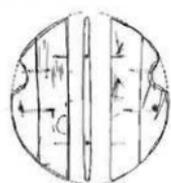
3区(01)



曲物(MA)

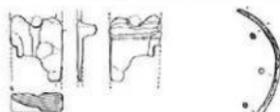


漆碗(UR)



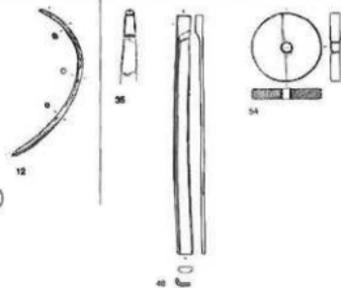
桶

その他容器(YO)



下駄

生活用具(SE)

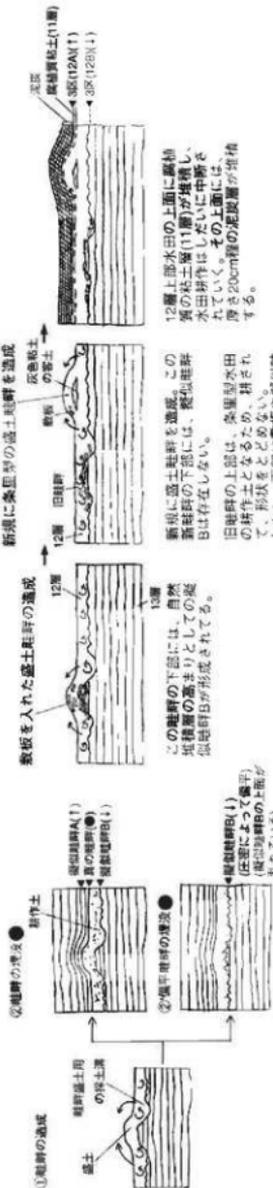


用途不明木製品(FU)

第207図 3区1層上面出土遺物集成図

(面上倒田型)

(3区15-2-2層水田) → 2種類の擬似畦畔B-



※ 3区15-2-2層水田の調査では、疑似畦畔Bを移出した。
 その際、上記の①、②のような疑似畦畔Bの断面図が
 確認できた。

(畦畔移動型) (3区12層水田) → 畦畔位置の移動

①12層下部水田の造成



この畦畔の下部には、自然
 傾斜層の高まりとしての擬
 似畦畔Bが形成されている。

②12層上部水田(奈良型水田)の造成



新築に盛土畦畔を造成。この
 新畦畔の下部には、疑似畦畔
 Bは存在しない。
 旧畦畔の上部は、奈良型水田
 の坪状土となるため、移され
 ず、形状もほとんど変わらない。
 しかし、下部は假設や疑似
 畦畔の高まりが残存する。

●印は、断面図で観察された
 畦畔断面の状況。

(畦畔移動型) [2区5-2-1層水田 - 5-2-2層水田] → 一度田にともなう畦畔の移動と溝痕跡の確認

①5-2-2層水田の造成



盛土畦畔と溝状遺構を造成

③5-2-1層水田の造成



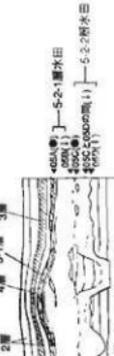
5-2-1層を耕して、5-2-1
 層水田を造成。5-2-1層水
 田の畦畔の下に疑似畦畔B
 が形成される。

④畦畔のつけかえ



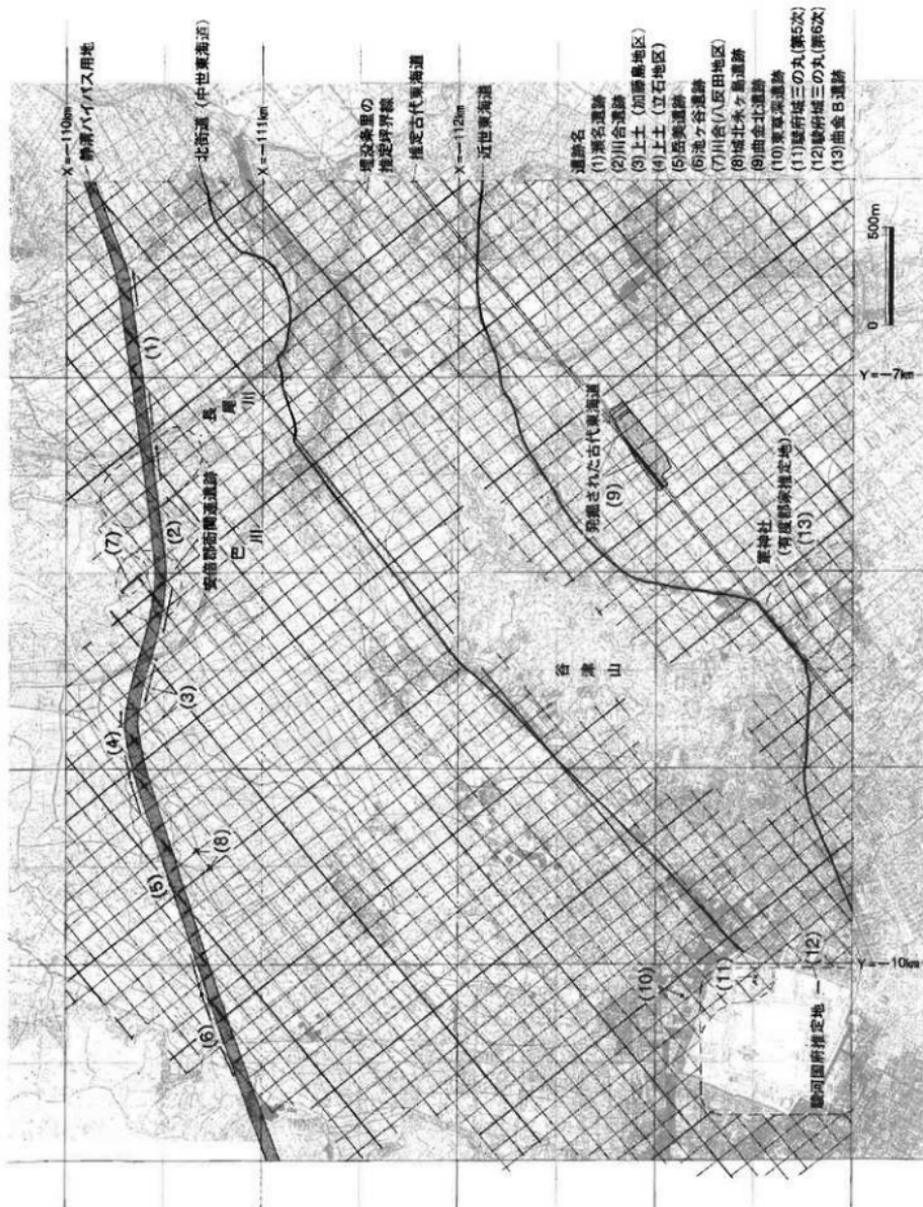
5-2-1層水田の畦畔が移動
 し、③図のような疑似畦
 畔Bの上部が耕作によって
 覆われる。

⑤粘土・泥炭による造成

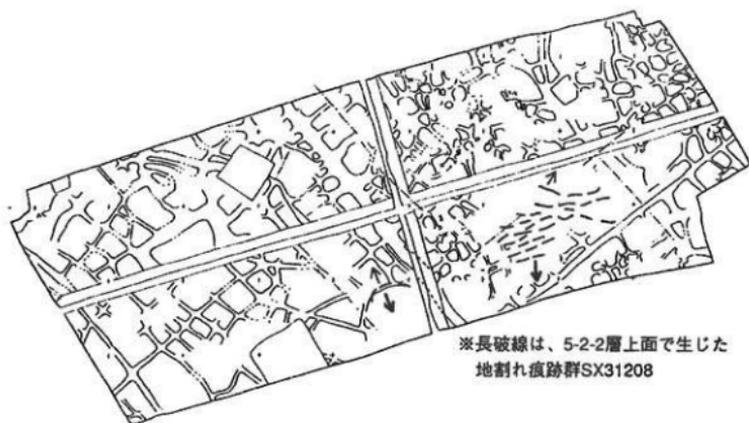


5-2-1層水田の上部が自然
 傾斜粘土(腐植層)によつ
 て覆われる。

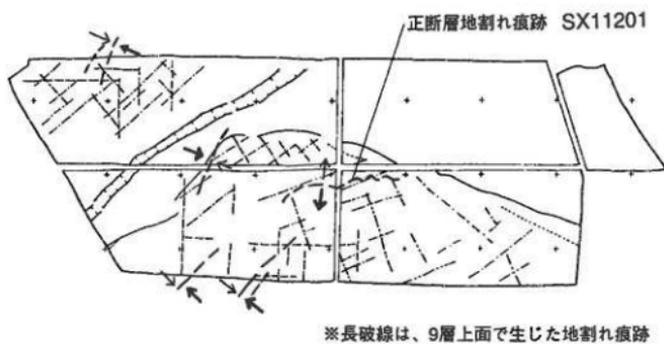
第208図 上土遺跡で検出された疑似畦畔成立過程推定図



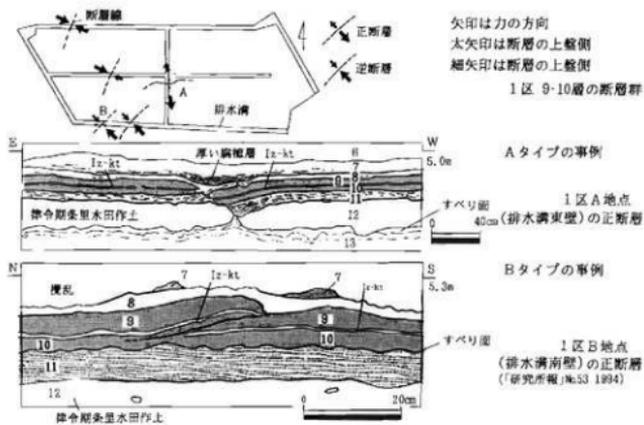
第209図 発掘された埋没奈良と北朝国に残された武原奈良一靜岡平野北部・中部一



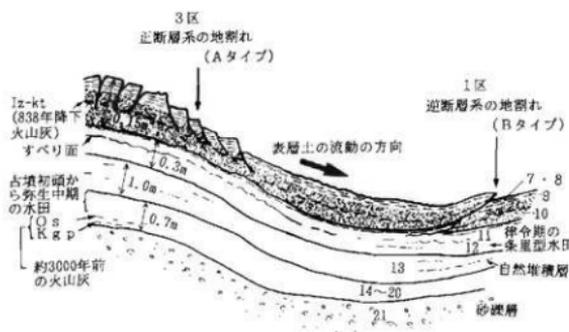
第210図 地震痕跡位置図3区12層(12A)



第211図 地震痕跡位置図1区12層(12A)



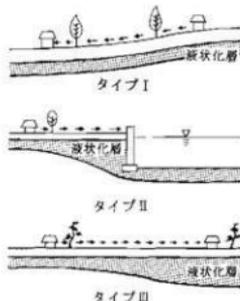
第212図 1区断層断面図



第213図 12層水田被覆土の地震による流動状況推定図

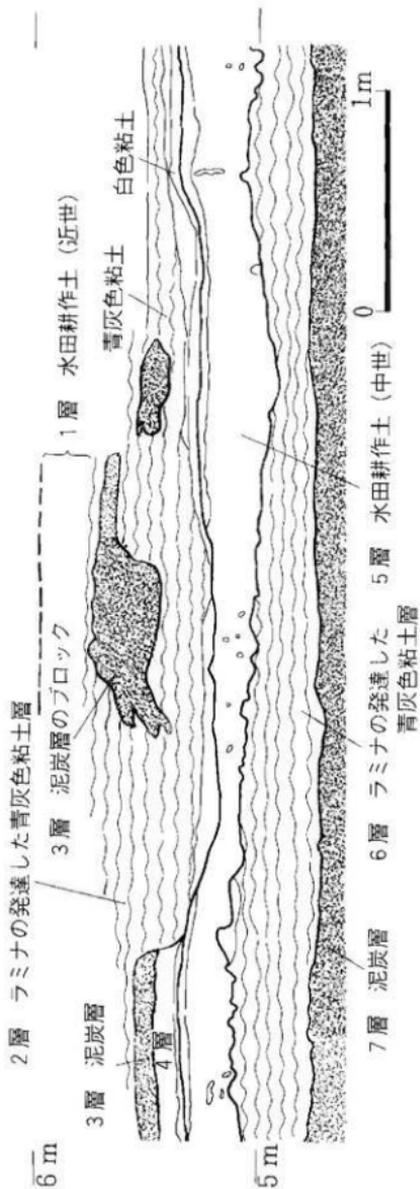


新潟地震により、信濃川の八千代橋～万代橋間では、16～23mも川幅が縮まった



・左図 新潟市信濃川～新潟駅
付近の地盤の永久変位
・右図 地盤の永久変位の発生
状態
(ともに 新田政則1991)

第214図 新潟地震(1964年)による表層地盤の側方流動

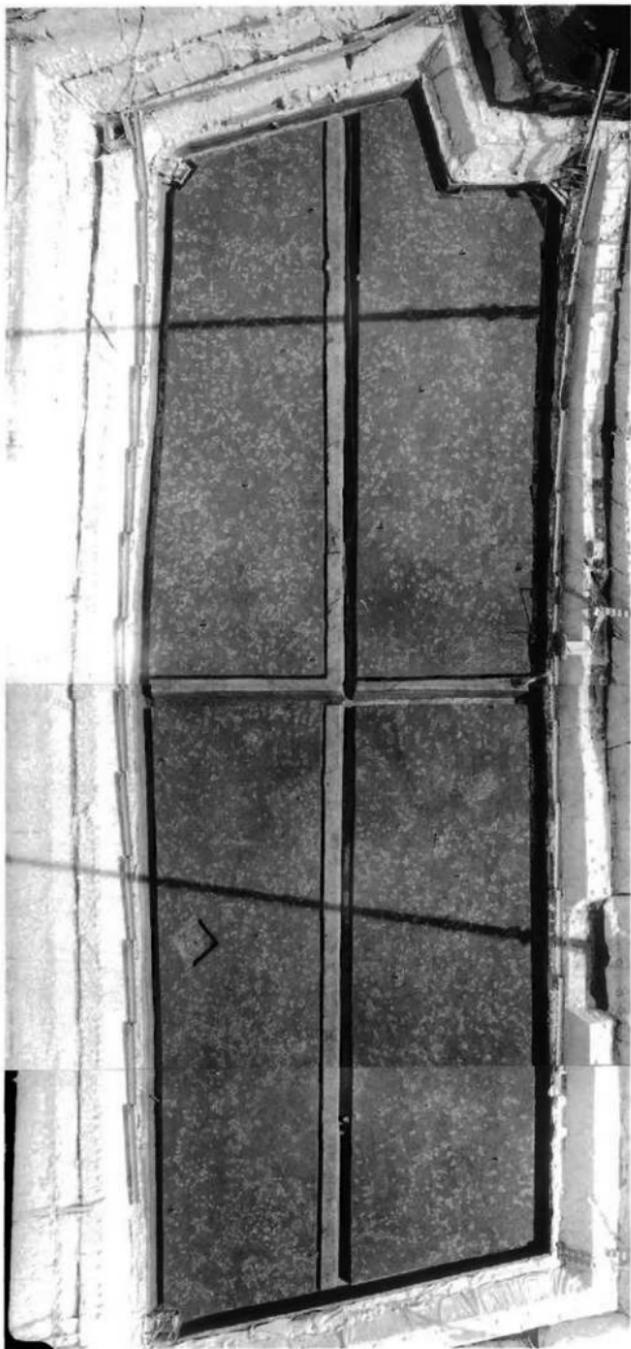


第215図 泥炭層流動状況断面図 (1区)

圖 版



静岡県北部空中写真（1948年1月8日米軍撮影）



3区15-2-1唐水田園池畦畔A (15A) 全景空中写真



1.北西から



2.北東から



3.南東から



1 全景 (西から)



2 西半分全景 (南東から)



3 東半分全景 (南から)



3区15-2-1層水田遺址群B (15B) 全景空中写真

3区15-2-1層水田掘削畦畔B (15B)



1. 全景 (南東から)



2. 西半分全景 (南西から)



3. 立木根株群 [E163グリッド付近] 全景 (南から)



3区15-2番水田原位碑群B (15C) 全景空中写真



1.全景 (南西から)

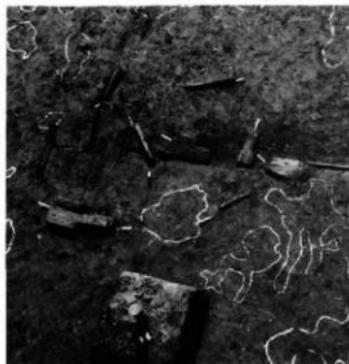


2.全景 (南東から)



3.西部検出状況 (南東から)

3区下層水田大畦畔



1. S K31506 (中央部) の敷材 (田下畦面) (F164グリッド紙付近: 北から)



2. S K31504 (北部) 内部の杭列・敷材解体状況 (南西から)



3. S K31501内部の杭列・敷材検出状況 (南東から)



4. 3区下層水田大畦畔 S K31501 (中央部) 内部の杭列・敷材検出状況 (南から)



1. SK 31501杭列・敷材解体状況 (西から)



2. SK 31501内部の杭列・敷材検出状況 (南西から)



3. SK 31501・31503内部の杭列・敷材検出状況 (東から)



4. SK 31501横断面 (164) の状況 (南東から)



1.調査区中央部北部（中央のH165グリッド杭北から）



2.調査区中央部北部（中央奥にH165グリッド杭南から）



3.調査区南西部（南東から）



2区15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 全景空中写真



1.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 全景 (南西から)



2.大畦畔SK 21505・21506検出状況 (15-1層上面) (西から)



3.全景 (北東から)



4.南東部での、鹿の下顎 (N1) の検出状況 (南から)



5.鹿の上顎 (左がN2 [上顎?], 右がN3 [右上顎]) (南から)



1.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 東部全景 (南から)



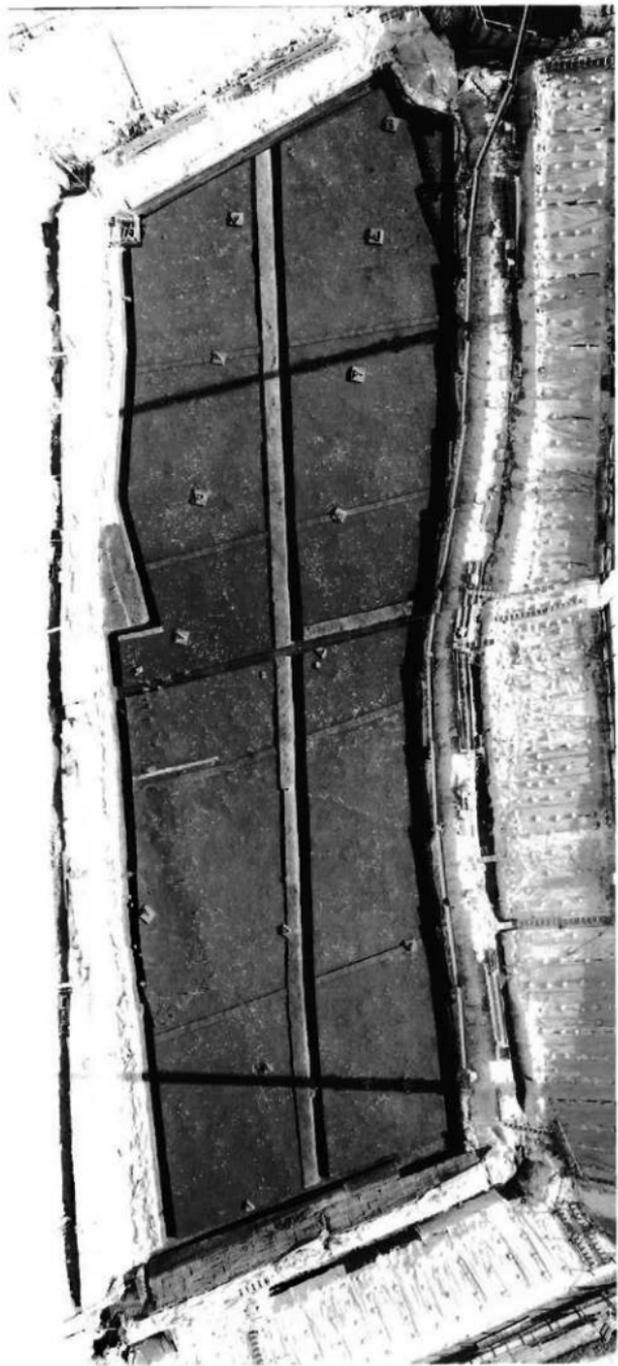
2.15-2-1層水田擬似畦畔A (15A) 南北小畦畔【小区画181と179の間】(北から)



3.東西小畦畔【小区画199と178の間】(東から)



4.大畦畔 SK 21506横断面の土層 (中央部：西から)



2区15-2-1層水田擬似群B (15B) 全景空中写真



1.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 全景 (西から)



2.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 全景 (北東から)



3.15-2-1層水田擬似畦畔B (15B) 南西ブロック中央東寄りを南北に通る火山灰列 (南から)



4.16層上面の北東ブロック西部の立木根株 (ヤナギ属) (北から)



1 直文大畦群 SK 21506・S K 21503 検出状況（北東から）



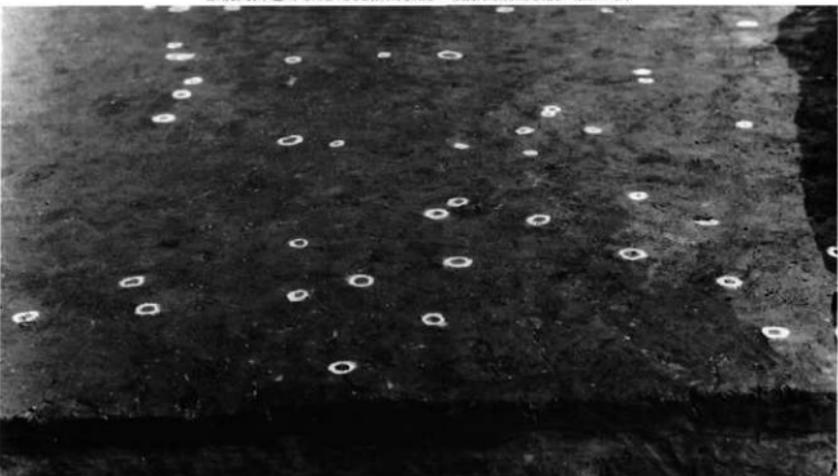
2 杭列大畦群 SK 21506 横断面検出状況（調査区中央北部：東から）



1.杭列大畦畔SK 21506検出状況（西から）



2.杭列大畦畔SK 21506検出状況・横断面検出状況（西から）



3.15-2-1層水田疑似畦畔B（15B）で検出された火山灰を白線マーキングした状況（調査区中央南北トレンチの東壁、東西土層帯のすぐ北：I176グリッド中西部付近：西から）



1.敷板列大畦畔SK 21505検出状況(西から)



2.2列並行の杭列畦畔SK 21506検出状況(西から)



3.南北並列水路の西側SK 21515の敷板(K.D27)(南から)



4.南北並列水路の中央SK 21514の敷材群(北から)



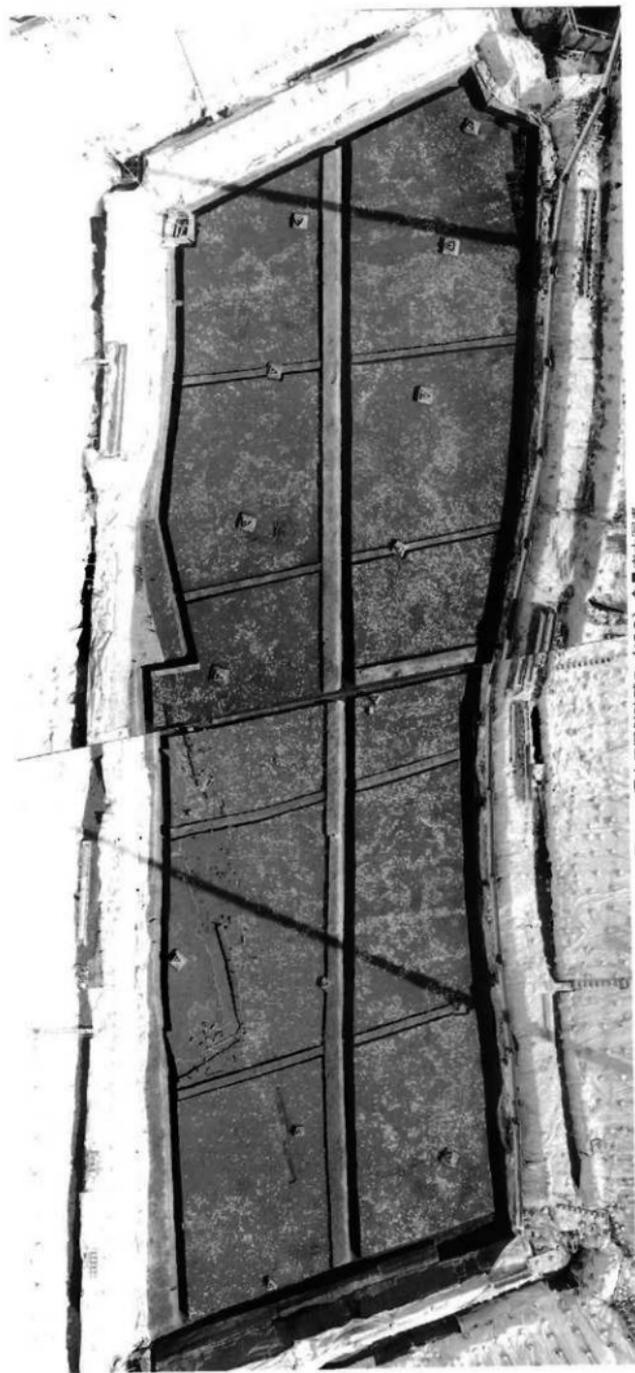
1.杭列大畦畔 SK 21506の土器片群検出状況（北西から）



2.杭列大畦畔 SK 21506の土器片群検出状況（南東から）



3.2区15-2-1層水田擬似畦畔B（15B）で検出された火山灰を白線マーキングする直前の状況



2区15.2層水田築似群B (15C) 全景空中写真



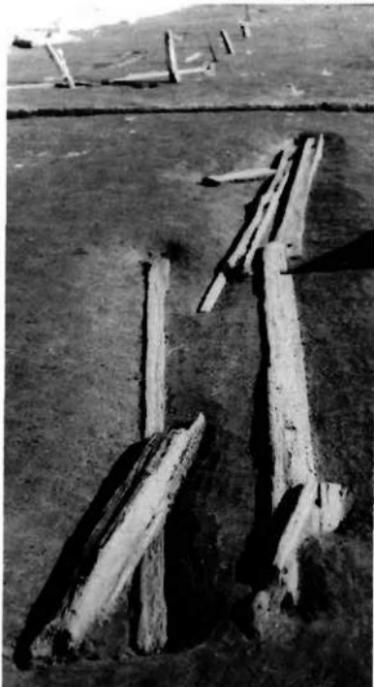
1. 全景 (南東から)



2. 北部全景 (西から)



1. 杭列大畦畔 SK 21503・21506の直文接合部付近 (西から)



2. 杭列大畦畔 SK 21506 (174・175列付近) (南西から)



3. 大畦畔 SK 21505の敷板検出状況 (南西から)



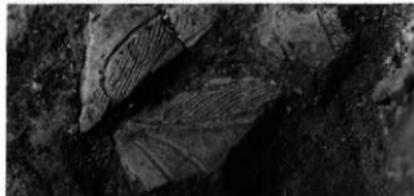
4. 大畦畔 SK 21505の敷板検出状況 (北西から)



1. SK 21503・21506の直交接合部の北東部付近の杭列・敷板群の分布状況（北東から）



2. 15-2-2層下部・敷板列大睦畔 S K 21506上面の土器片（壺P Y09）集中出土状況（I174グリッド北西部；北西から）



3. 15-2-2層下部・SK 21506での P Y09（有東式）



4. 15-2-2層下部・SK 21501の北側出土器（P Y04：有東式の壺）（東から）



5. 15-2-2層下部・SK 21501の北側出土土器（P Y07：弥生後期後葉の壺）（南から）



6. 2区15-2-2層下部・SK 21501の北側出土土器（P Y02：弥生後期後葉の壺）（南から）

2区15層水田東部



1.南北方向並列水路と水路脇の畦畔検出状況（北北西から）



2.南北方向並列水路の完掘状況（北北西から）



3.南北方向並列水路・付設畦畔の横断面（112）（南から）



4.南北方向並列水路の完掘状況（南から）



1.北東拡張部 SK 21506付近15-2-2層上面の火山灰粒子 (南西から)



2.北東拡張部 SK 21506付近15層上面の杭列・敷板 (南西から)



3.15層水田15-2-2層下部SK 21506上面出土土器片 (壺P Y09) (南東から)



4.15層水田15-2-2層下部SK 21506上面出土土器片 (壺P Y09) [拡大] (南東から)



5.15層水田15-2-2層下部SK 21506上面出土土器片 (弥生中期後葉の壺P Y05) (南から)



1.15層水田15-2-2層下部SK 21506解体状況 (16層上面) (南西から)



2.15層水田15-2-2層下部SK 21506解体状況 (17層上部と2層部:北西から)



3.15層水田15-2-2層下部SK 21506解体状況 (16層上面) (左側にIT 06:北西から)



4.15層水田15-2-2層下部SK 21506-21500北東側壁中出土土埴製品 (手前左IT 02, 右IT 04, 奥の溝長板K 09:北東から)



5.17層上面の起伏 (南西部:西から)



6.17層上面起伏横断面 (南西部:西から) [剥取前]



7.17層上面起伏横断面 (南西部:西から) [剥取後]



1.板状田下駄 IT 06 (S K 21506)



2.板状田下駄 IT 02 (S K 21506)



3.板状田下駄 IT 20 (S K 21506)



4.板状田下駄 IT 01 (SK 21506)



5.板状田下駄 IT 04 (SK 21506)



6.板状田下駄 IT 41 (SK 21503)



7.板状田下駄 IT 74 (SK 21503)



8.板状田下駄 IT 79 (SK 21506)



9.板状田下駄 IT 73 (SK 21503)



10.板状田下駄 IT 48 (南北大陸畔?)



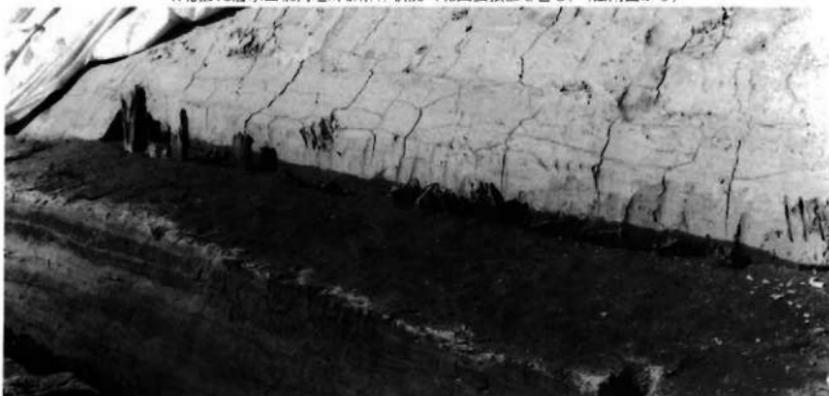
11.磨製石鏃 S-10 (SK 21506)



12.木製祭祀具 SA01 (SK 21506)



1. 北部15層水田杭列畦群群解体状況（北西孤張部を含む）（西南西から）



2. 北外周トレンチの北側での東西矢板列SK 21501検出状況（J173グリッド南東部付近：南東から）



3. 北西孤張部での東西矢板列SK 21501解体状況（J174グリッド中央：南から）【ステレオ写真】



1. 東西矢板列 SK 21501解体状況 [西壁] (南から)



2. SK 21501解体状況 [中央：西部] (南から)



3. SK 21501解体状況 [中央：中部] (南から)



4. SK 21501解体状況 [東] (南から)



5. 南北杭列 SK 21503解体状況 [中] (西から)



6. 東西杭列 SK 21506解体状況 [中] (南から)



7. SK 21506解体状況 [東] (南から)



8. SK 21506解体状況 [東端] (南から)



1区15-2-1 泗水汪蔡似群A (15A) 全景空中写真



1.全景 (東から)



2.北西部全景 (東から)



3.杭列畦畔付きの南北水路SD 11503と横断面 (南から)



1.全景 (南西から)



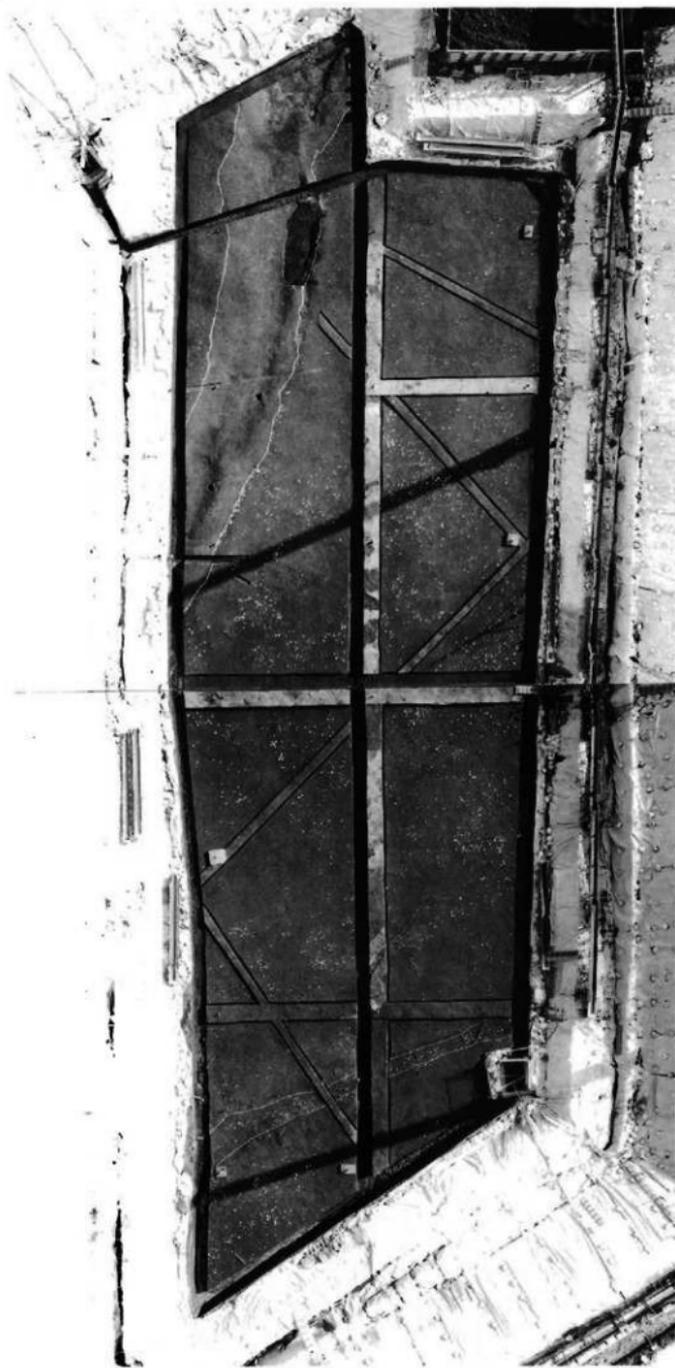
2.西半部全景 (南東から)



3.中央部全景 (南西から)



4.中央部全景 (南東から)



1区15-2-1層水田原位群B (15B) 全景空中写真



1.全景 (南西から)



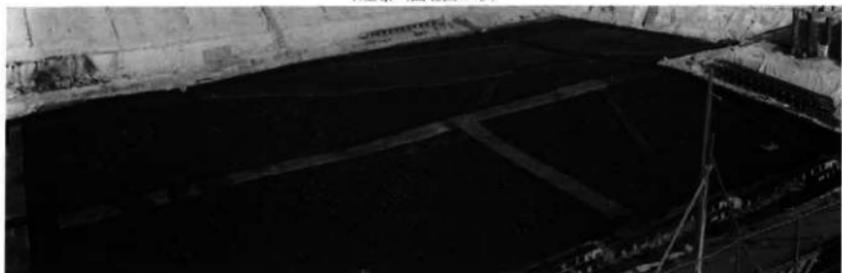
2.全景 (南東から)



3.西半部全景 (南南東から)



1.全景 (西北西から)



2.中東部全景 (南西から)



3.南北水路S D 11502全景 (南西から)



4. SD 11502北部 (東から)



1.全景 (北から)



2.北部 (南西から)



3.南部 (北西から)



1区15-2-2層水田原中野町B (15C) 全館空中写真



1.西から



2.南西から



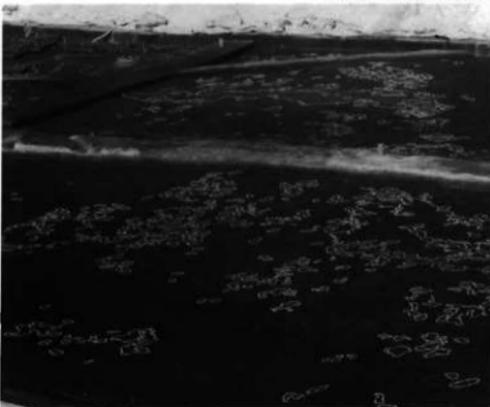
3.西から



1.全景 (南東から)



2.北西部全景 (北東から)



3.中部・疑似畦畔B検出状況 (南東から)



4.南北水路SD11502検出状況全景 (南から)



1.15-2-2層水田擬似畦畔B (15C) 南北水路S D 11502検出状況北部 (南から)



2.南北水路SD 11502北部付近の杭列畦畔群解体状況北部 (南から)



3.南北水路SD 11502北部付近の杭列群解体状況と水路・両畦畔の横断面 (南から)



4.南北水路SD 11502北部付近の杭列群解体状況 (北東から)



1. SD 11502北部付近の杭列群解体状況（南東から）



2.南北水路SD11502北部付近の杭列群（北東拡張部：中央S K11504、奥S K11503、手前右手大型板状田下駄I T10）（北東から）



3. SK 11504の杭列露出状況（K184グリッド南西部：北東から）



4. SK 11505杭列・敷板群検出状況（北東から）



1.15層水田・北東拡張部 SK 11504杭列・矢板検出状況（南西から）



2.15層水田・北拡張部 SK 11505杭列・敷材列検出状況（南から）



3.15層水田・南北水路西側畦畔 SK 11503の矢板・杭検出状況（南西から）



4.15層水田・SK 11503北東拡張部の杭・矢板検出状況（南西から）



5.南西部の20層直下に形成されていた両面凸レンズ状の黄灰色粘土層（南東から）



1. SK 11505の縦断面 (南東から)



2. SK 11501の縦断面 (南東から)



3. SK 11505西部の縦断面 (南から)



4. SK 11503北部の縦断面 (南西から)



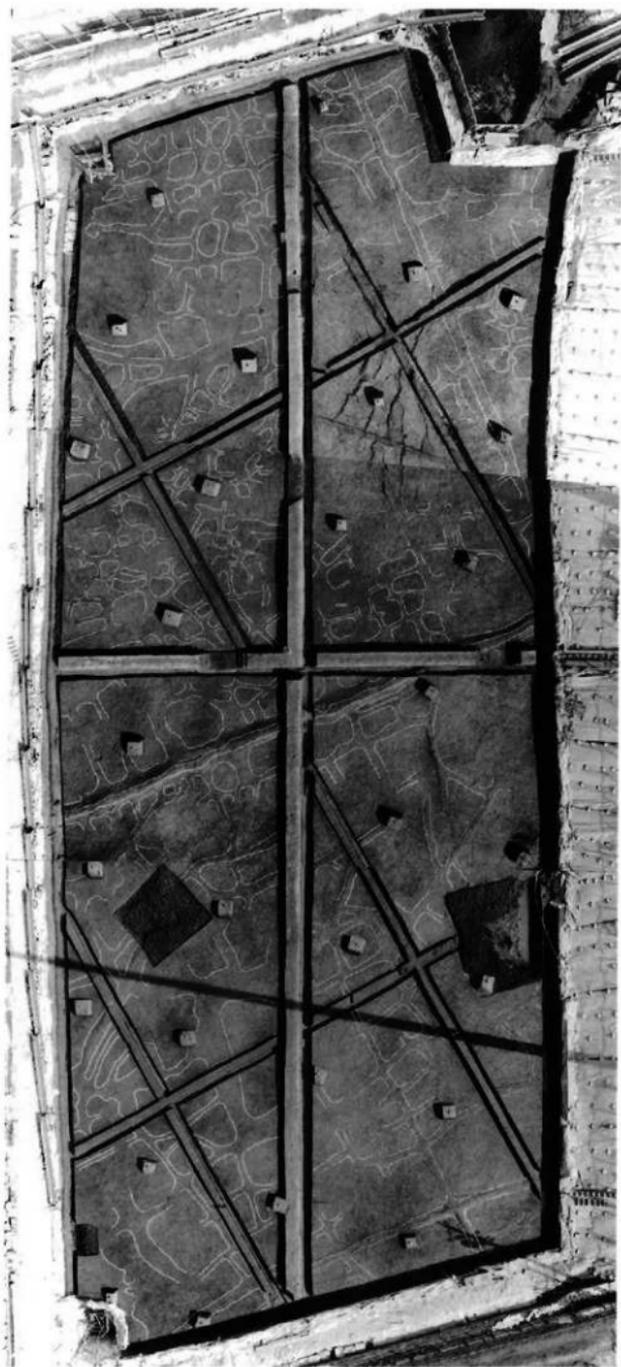
5. SK 11504の縦断面 (北東から)



6. SK 11504の横断面 (南から)



7. SK 11505の杭の屈折状況 (東南東から)



3区12層水田塚位群A (12A) 全景空中写真



1.全景 (南東から)



2.中央部全景・中央に南北菜里坪界大畦群が検出された (南から)



3.全景 (西南西から)



1. 近接写真 (西南西から)



2. 西半分全景 (南東から)



3. 東半分全景 (南から)



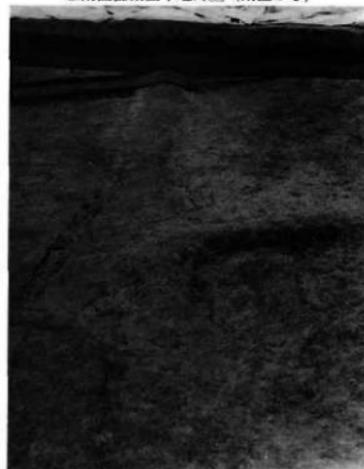
1.南東部東西中畦群⑧ (南西から)



2.南西部東西中畦群⑨ (南西から)



3.南北条里大畦群 SK 31201 (北西から)



4.南西部、南北②と東西⑨の各中畦群の盛上り状況 (北西から)



5.南西部、東西⑨南北②の各中畦群の盛上り状況 (北東から)



1.南北条里坪界大畦畔 SK 31201断面 (南から)



2.南北条里坪界大畦畔 SK 31201断面 (北から)



1.雁行地割れ（西から）



2.雁行地割れ（東から）



3.地割れ発生に伴う5層水田の機田現象（G167グリッド机：西から）



4.雁行地割れの段差の状況と横断面（F167グリッド北東部：東から）



1.南西から



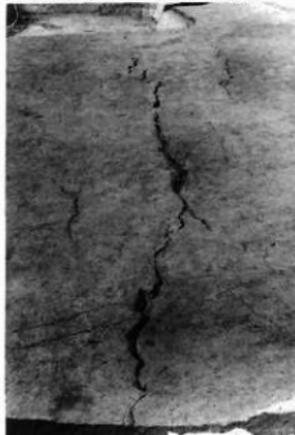
2.段差と横断面 (F166・167グリッド:東から)



3.段差と横断面 (G166・167グリッド:東から)



4.段差状況 (東から)



5.地割れ状況 (北東から)



6.段差と横断面 (南西から)



7.地割れ状況 (西から)



3区12号水田墓出组群B (12B) 全景空中写真



1.全景 (南西から)



2.全景 (東から)



3.北部全景 (北東から)



1. 中部の複数の斜交する矢板・杭列 (南東から)



2. SK31205出土輪カンジキ田跡 (WT13:北中)



3. 非条里型のSK 31205北部の敷板・杭列 (南西から)



4. 非条里型のSK 31203の敷板列 (北から)



5. 輪カンジキ田下駄 (WT1:南東から)



6. 輪カンジキ田下駄 (WT1:北西から)

3区12層水田擬似畦畔B (12B)



1. 中央部 SK 31201・31205解体状況 (南東から)



2. SK31205出土輪カンジキ田下駄 (WT 19と20:北西から)



3. 非条型型 SK 31202南東部の敷板・杭列 (南東から)



4. SK31202南東部の敷板群 (南西から)



5. 条型型 SK 31201南部の敷板群 (南東から)



6. 非条型型 SK 31204に直交する敷板群 (北東から)



7. SK 31203の敷材群と板状田下駄 1T 81 (縦割れ状態) (東から)



2区12層水田類似畦SF A (12A) 全照空中写真



1. 擬似畦畔A (12A) 全景 (南西から)



2. 擬似畦畔A (12A) 南東部・SK21202全景 (南西から)



3. 擬似畦畔A (12A) 東部・小畦畔群 (南東から)



4. 擬似畦畔A (12A) 西部・小畦畔群 (南東から)



5. 南北菜里大畦畔数枚・杭列 (南東から)



2区12番水田上面(12B) 全景空中写真



1.全景 (南西から)



2.東西条里坪界大畦畔SK 21202検出状況 (南西から)



3.東西条里坪界大畦畔SK 21202検出状況 (北東から)



4.東西条里坪界大畦畔SK 21202の横断面 (調査区中央部：H175南西部)



1. 全景 (南東から)



2. ST 21208内の小畦群検出状況 (南東から)



3. ST 21201内の小畦群検出状況 (南東から)



1 条里坪界大睦群 SK 21202・SK 21204 交点付近検出状況 (南東から)



2 条里坪界東西大睦群 SK 21202 横断面 (H175 グリッド北西部；北東から)

3 条里坪界大睦群 SK 21202 中
西部検出状況 (北東から)

4 条里坪界南北大睦群 SK 21204 横断面 (G176 グリッド；北西から)



2区12號水田原古墳群B (12C) 全墓室中写真



1. 全景 (南西から)



2. 中央部付近全景 (南西から)



3. 条里型と非条里型の疑似畦畔Bの混在 (北東部：北東から)



4. 条里大畦畔交点出土輪カンジキ型田下駄横木 (WT 42)



1.西部全景 (南西から)



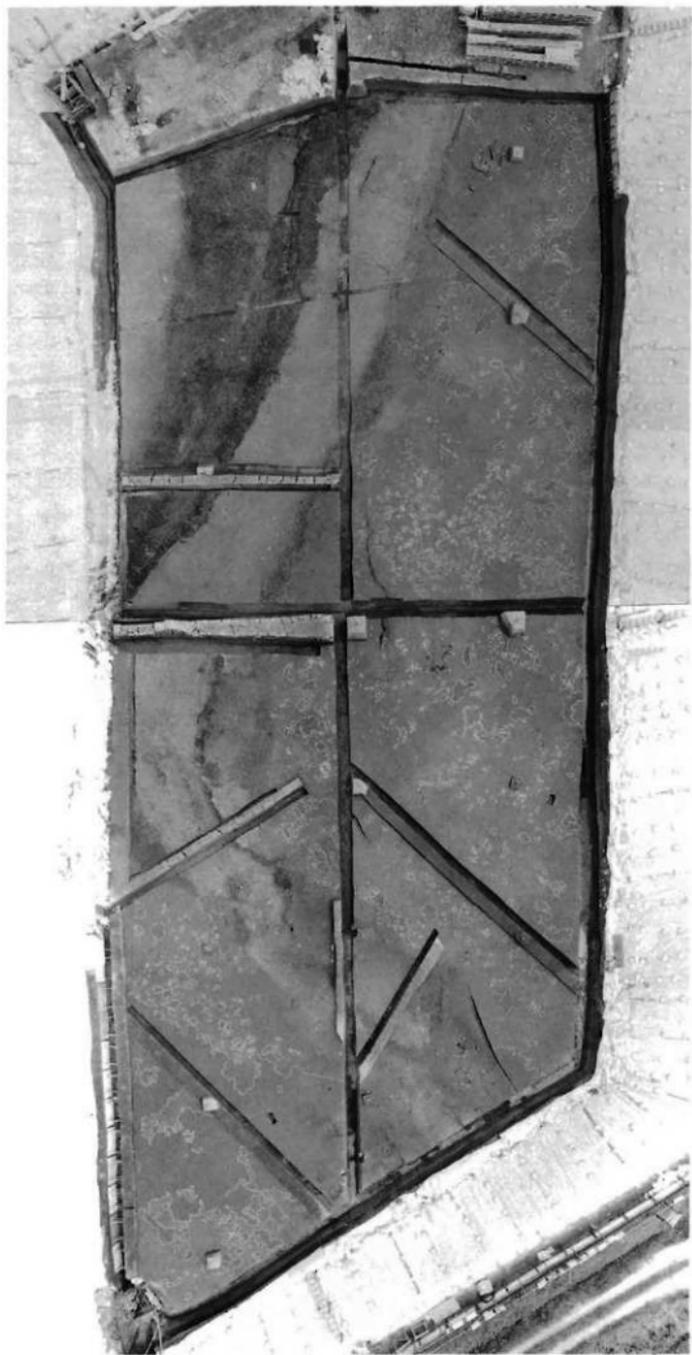
2.柔里坪界大畦畔の交点付近の杭列・敷板列の検出状況 (南東から)



3.杵型田下駄 (VA1) 検出状況 (南から)



4.杵型田下駄 (VA1) 検出状況 (西から)



1区12區水田上面(12A)全景空中写真



1.12層水田上面(12A)全景(南東から)



3.10層上面出土の黒書土器(P7)



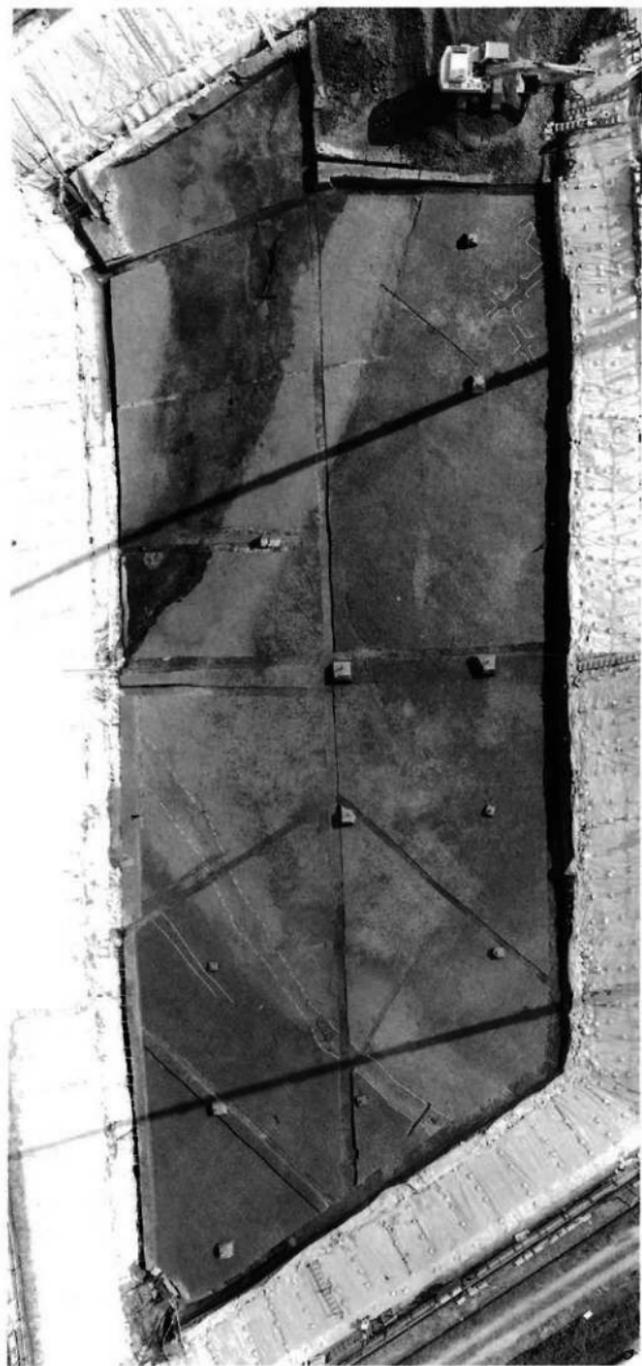
4.SR10603右岸、12層糧食部分出土の甕残片(P1)



5.SR10603右岸、12層糧食部分出土の甕残片(P2)



2.12層水田上面(12A)全景(北西から)



1区12層木田権位墓群B(12B)全景空中写真



1.12層水田擬似畦畔B (12B) 全景 (東から)



2.12層水田擬似畦畔B (12B) 全景 (南西から)



3.12層水田擬似畦畔B (12B) 全景 (北西から)



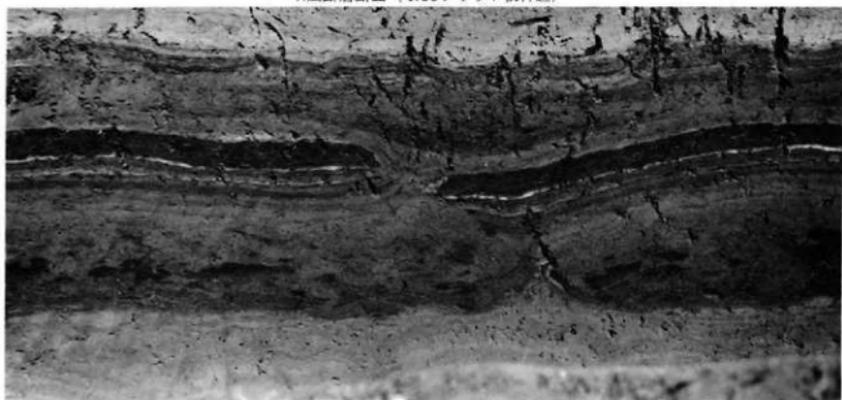
4.12層水田擬似畦畔B (12B) 圧縮 (w380) (J183)



5.5.5層河道跡 SR10603河床出土の用途不明木製品 F U49 (I184グリッド)



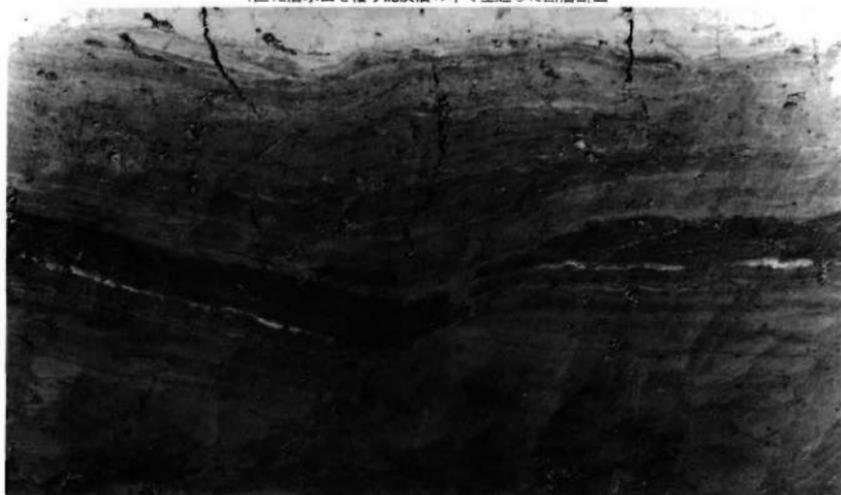
1.逆断層断面（1185グリッド杭付近）



2.正断層断面（1187グリッド北西部：西から）



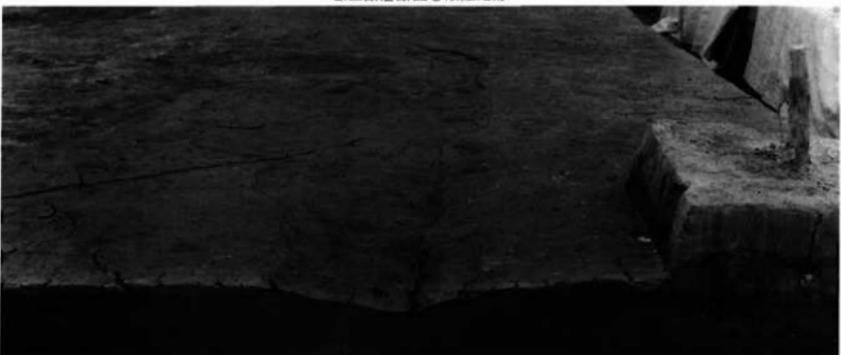
3.正断層断面（1187グリッド北西部：西から）と段差地形



1.正断面



2.正断面と段差地形



3.正断面と段差地形割れの中に堆積した粘土層をそのまま残した状態



3区5-2-1廣水田上面 (OSA) 全景空中写真



1.南東部付近全景 (西南西から)



2.南部全景 (西南西から)



3.小区画水田検出状況 (F164グリッド付近:北東から)



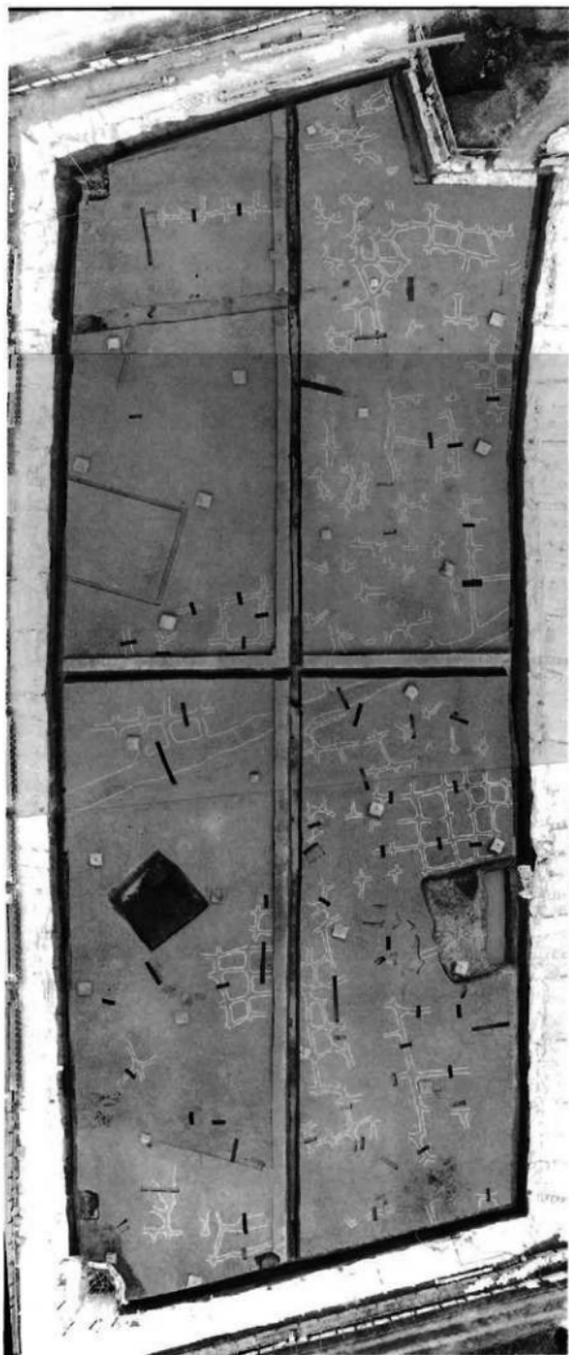
4.不整形水路跡 SD 30505検出状況



5.不整形水路跡 SD 30505 (E164:東から)



6.整形水路跡 SD 30508・溝内の足跡 (F166グリッド:西南西から)



3区5-2-1膠水田遺址群B (O5B) 全景·3区5-2-2腐水田上面 (O5B') 全景



1.全景 (西南西から)



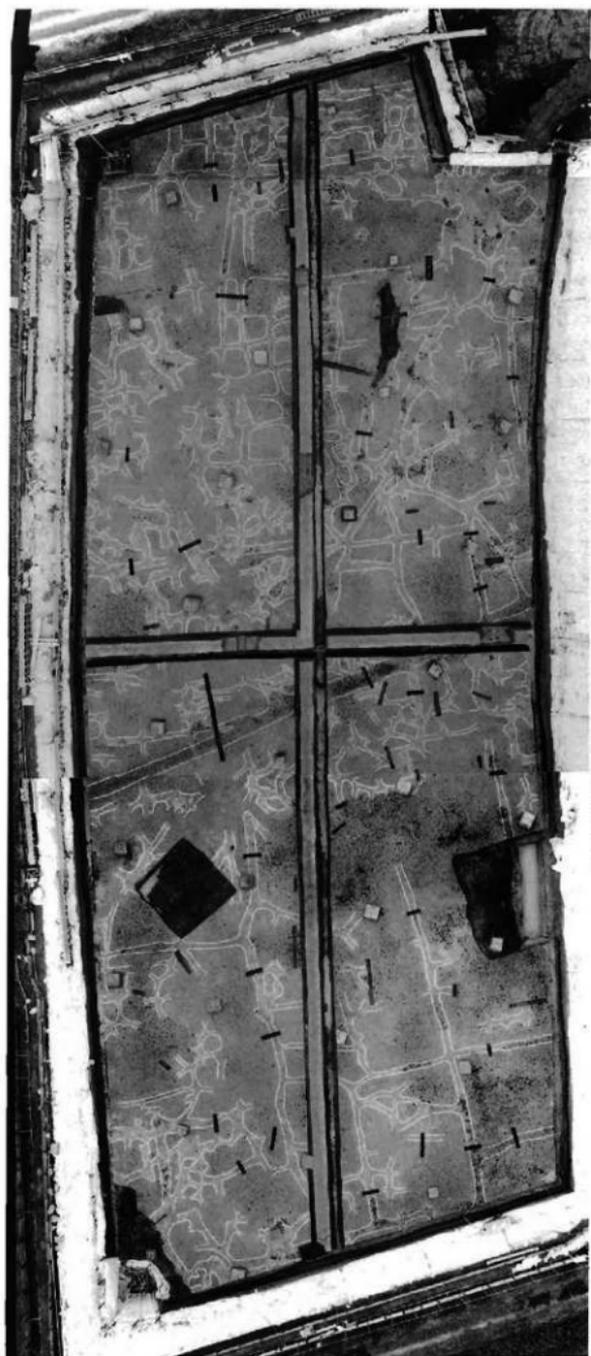
3.5-2-2層水田の南北小畦畔⑥検出状況
(D162グリッド：南から)



2.全景 (北西から)



4.5-2-2層水田の南北小畦畔⑥と横断面
(D162グリッド：南から)



3区5-2-2彌水田園印跡群B (05C) 全景空中写真



1. 全景 (北西から)



2. 西半部全景 (南東から)



3. 中央部全景 (南東から)



4. 東半部全景 (南から)



1.調査区北西部の疑似畦畔B検出状況・右手に東西中畦畔⑧(南西から)



2.調査区南西部の疑似畦畔B検出状況・右手に東西中畦畔④(西南西から)



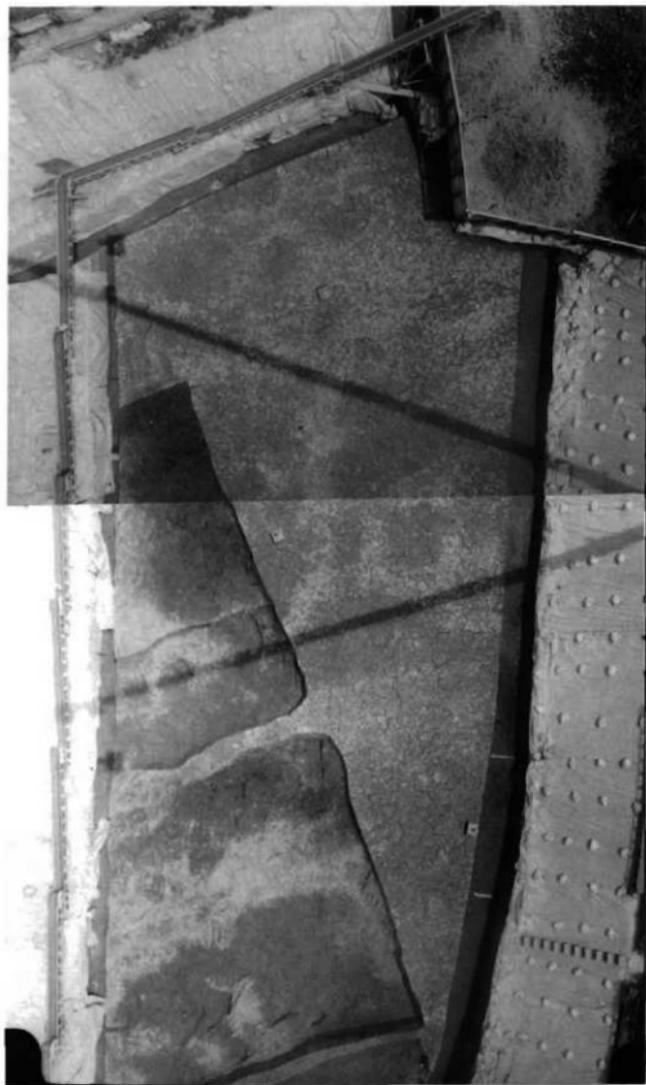
3. E160グリッドでの東西小畦畔⑩の疑似畦畔B検出状況(西南西から)



4. D161グリッドでの東西小畦畔⑨の疑似畦畔B検出状況(西南西から)



2区5-2-1層水田上面(05A) 全景空中写真



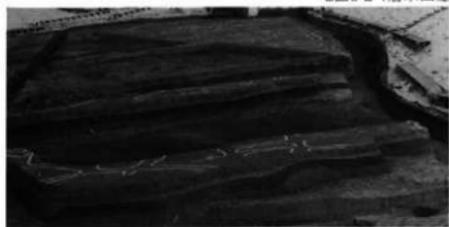
2区5-2-1福水田稻似畦畔B (05日) 調査区南東部全景空中写真



2区5-2層水田上面 (05C) 全景空中写真



2区5-2-2層水田原跡群B (05D) 全景空中写真



1.南中東部全景 (西から)



2.南東部全景空中写真



3.南東部全景 (南から)



4.南東部全景 (東から)



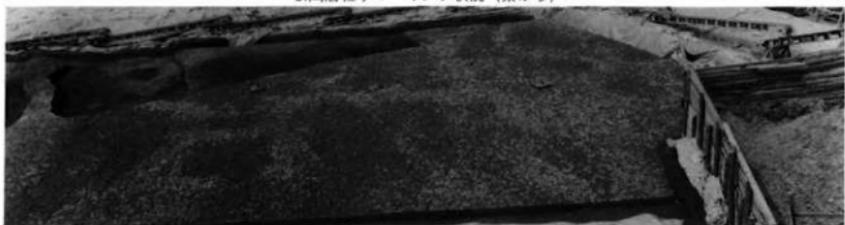
1.5-2-1-2層間層粒子検出状況 (南東部全景：東から)



2.間層粒子検出状況 (南から)



3.間層粒子マーキング状況 (東から)



4.間層粒子マーキング状況 (南から)



1.南東部全景空中写真



2.南東部全景 (南から)



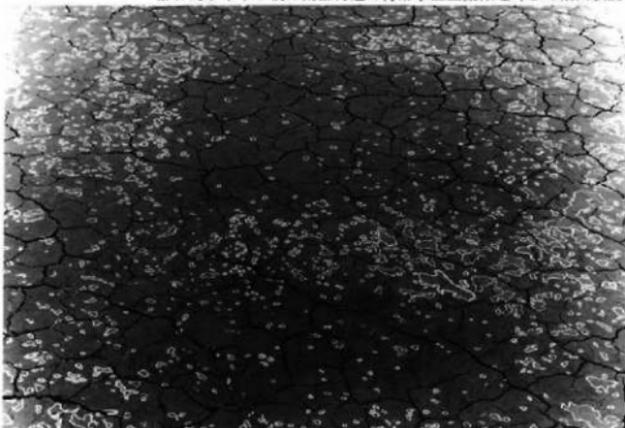
3.H1178・179グリッド付近の状況 (西から)



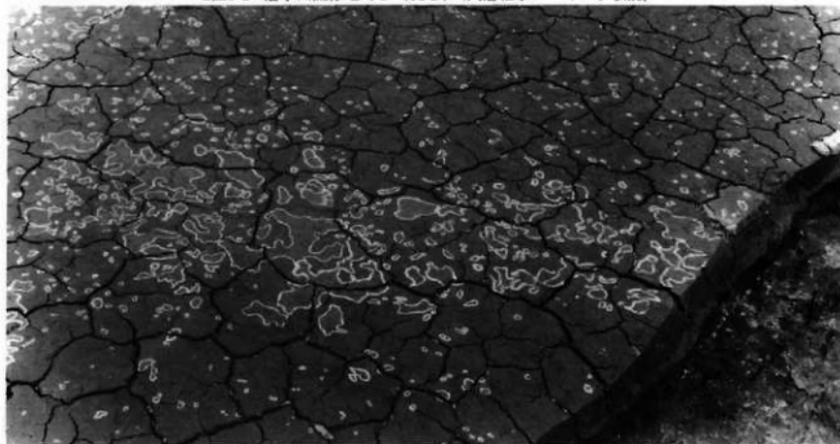
1. H178・179グリッド付近の状況 (北東から)



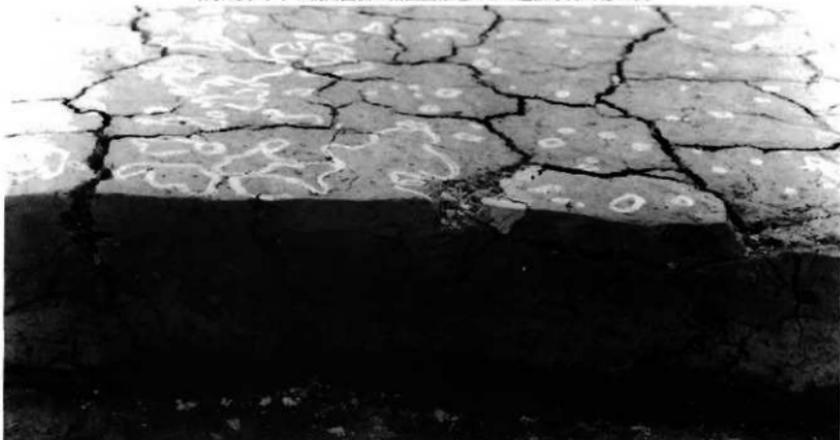
2. H179グリッド杭の南部付近の方形小区画擬似畦畔Bの検出状況 (北から)



3.2の近接写真 (北から)



1. 1179グリッド杭南西側の東西擬似畦畔Bの近接写真 (北から)



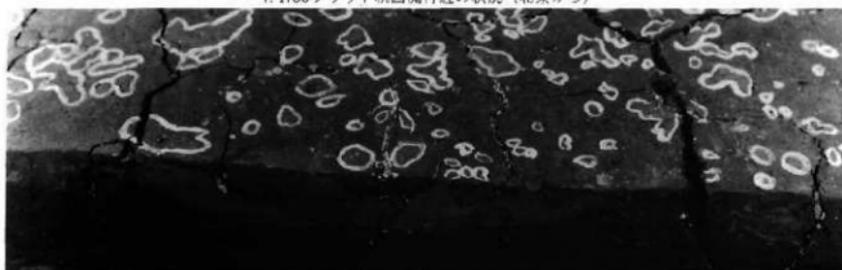
2.1の近接写真 (北西から)



3.1の東側の延長部分
(1180グリッド杭
付近：北西から)



1. 1180グリッド杭西側付近の状況 (北東から)



2. 1の断面部分の近接写真 (北東から)



3. 1180グリッド杭北側付近の状況 (西から)



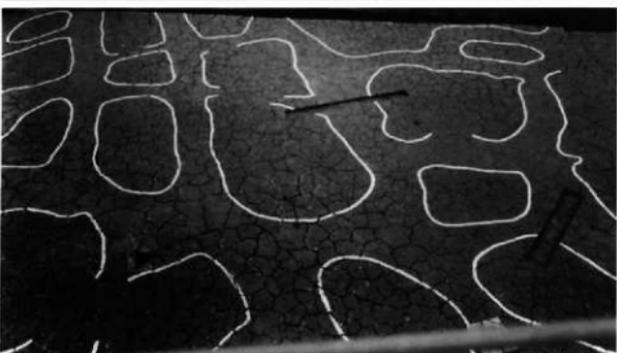
1. 推定畦畔全景 (東北東から)



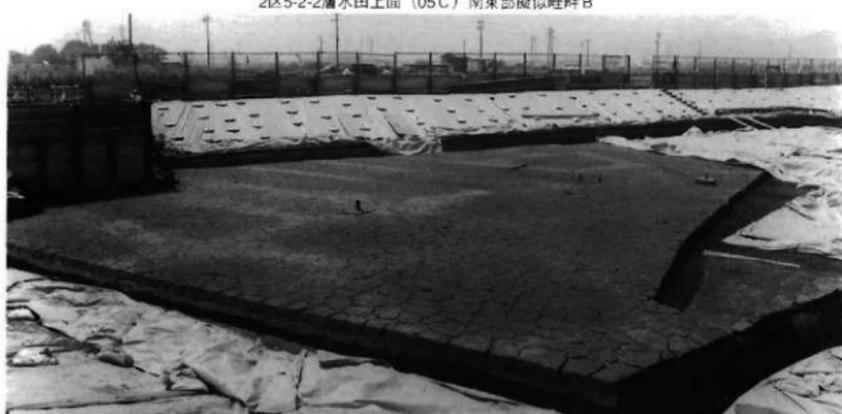
2. 推定畦畔全景 (北西から)



3. 推定畦畔全景 (南西から)



4. 2の左手部分の近接写真 (西南西から)



1.溝状遺構群検出状況全景(北東から)



2.溝状遺構群検出状況(北東から)



3.溝状遺構群検出状況(北東から)



1.溝状遺構群検出状況 (H179グリッド：南から)



2.溝状遺構群検出状況 (H179グリッド：北西から)



3.溝状遺構群検出状況 (H179グリッド：北西から)



1. 溝状遺構群検出状況 (H179グリッド：南から)



2. S D20502検出状況 (H179グリッド：北から)



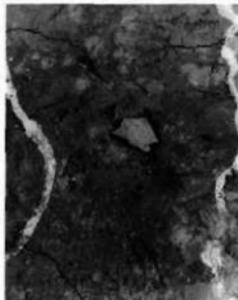
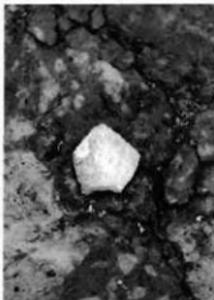
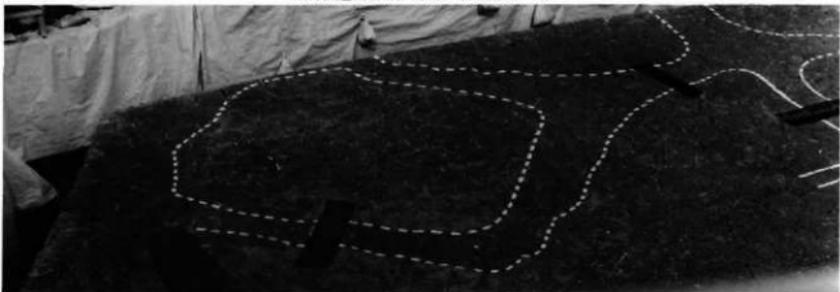
3. S D20508検出状況 (H179グリッド北東部：南から)



1.溝状遺構群全景 (南西から)



2.溝状遺構群検出状況 (西北西から)



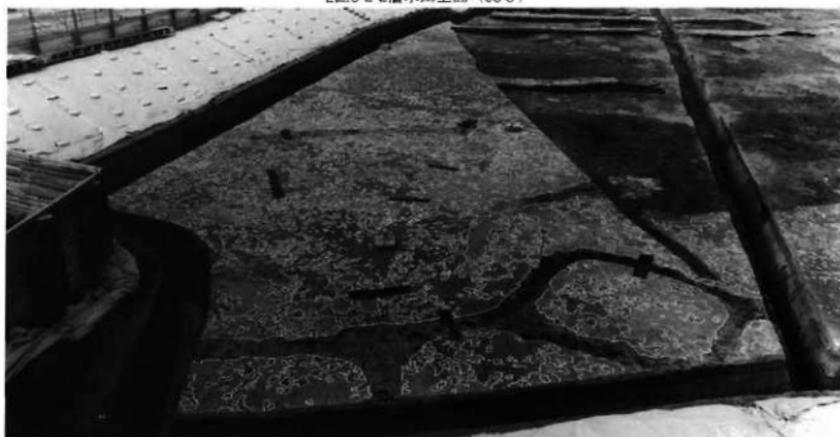
3.溝状遺構群検出状況 (1179・180
グリッド：西から)

4.出土陶器片 (P
25) (13世紀常滑
壺)

5.出土陶器片 (P3)
(13世紀常滑壺)



2区5-2-2層水田上面 (05C) 南東主要部空中写真



1.南東部疑似畦畔B検出状況 (北西から)



2.南東部疑似畦畔B検出状況 (南東から)



3.東端部疑似畦畔B検出状況 (J179グリッド：東から)



1.5-2-2層水田疑似畦畔B (05D) 南東主要部全景空中写真



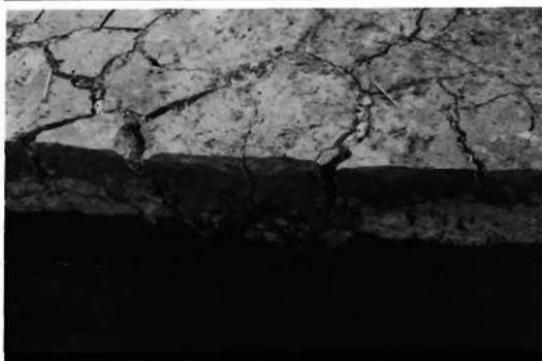
2.2区条里坪界南北大畦畔の横断面 (H177グリッド北西部：北西から)



1.東端部・溝状遺構群完掘状況



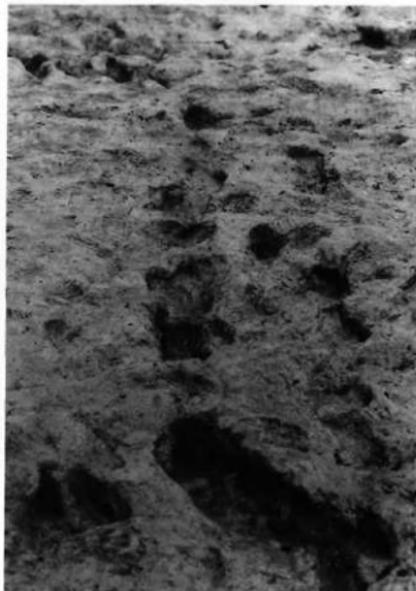
2.南東端部・溝状遺構 SD 20501完掘状況 (北西から)



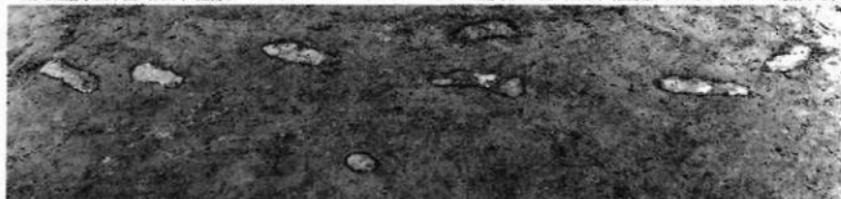
3.南東端部・溝状遺構 SD 20507完掘状況 (北から)



1.5-2-2層水田下面 (05D) 足跡群 (I179グリッド:北から)



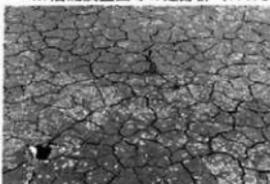
2.5-2-2層水田下面 (05D) 足跡群 (I179グリッド:北東から)



3.6層灰色粘土下面・7層泥炭上面での東西方向足跡遺構の検出状況 (I178グリッド北東部:北から)



4.7層泥炭上面での足跡群 (H175グリッド:北東から)

5.7層泥炭上面での足跡群
(I179グリッド:東から)6.5-2-2層水田下面 (05D)
竹製品遺構 S X 20511
(I179グリッド:北西から)7.5-2-2層水田下面 (05D)
S X 20511解体状況 (北
から)8.5-2-2層水田下面 (05D)
S X 20511解体状況 (西
から)



1区5-2-1窟木田城似群A (05A)



1.東から



2.北西から



1. 中西部全景 (東から)



2. 東西大畦群 SK 10503 検出状況 (東から)



3. 東西大畦群 SK 10503 検出状況 (西から)



1.5-2-1層水田擬似畦畔A (05A) 北西部小区画水田遺構検出状況 (東から)



2.5-2-1層水田擬似畦畔A (05A) 北西部小区画水田遺構検出状況 (北西から)



3.3層泥炭の流動状態 (I185グリッド北西部：南東から)



1区S-2-1層水田上面 (05 B) 全景空中写真



1.東から



2.西から



1.全景 (南西から)



2.東半部全景 (西から)



3.南中部 (H187グリット付近: 南西から)



1.北中部 (J186グリット付近:南西から)



2.北西部 (K183グリット付近)と土層断面 (南西から)



3.北西部 (K185・186グリット付近:北から)



4.南東部 (H190グリット付近:南から)



1.東西大畦畔横断面(東から)



2.5-2-1層水田上面(05B)管状木製品(HA2)出土状況(東西大畦畔SK 10503と南北小畦畔の交点:K 186グリット南西部)(南から)



3.5-2層水田上面管状木製品(HA96)出土状況(東西と南北の交点の小畦畔交点)



4.5-2-1層水田上面中南部東西小畦畔(田東脇)出土小刀(K 17)



1. 擬似畦畔B東西小畦畔②の検出状況 (中部: H186グリット北東部: 南東から)



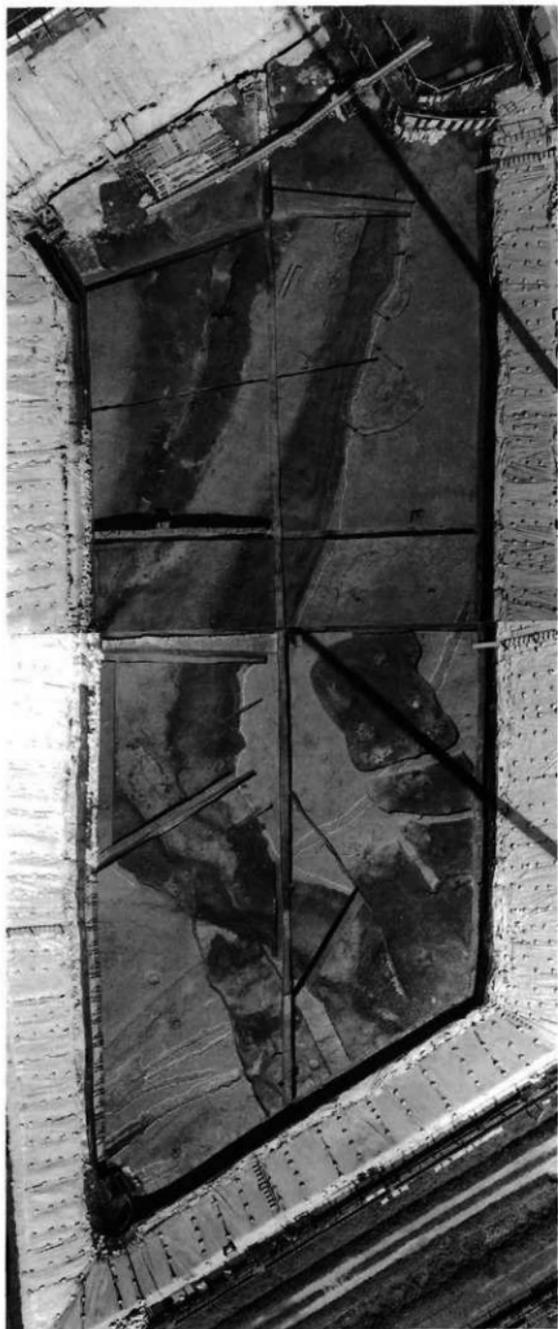
2. 東西小畦畔②の擬似畦畔Bの検出状況 (北西部: K182グリット南東部: 南東から)



3. H A 102出土状況 (J 184グリット南東部)



4. H A 80出土状況 (東西小畦畔2②上面付近: 西から)



1区5-2層水田敷化野群B(05C)・中世河橋跡SR10603全景空中写真



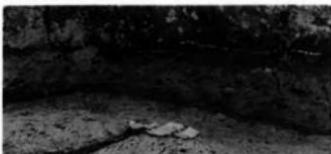
1.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)・中世河道跡 SR 10603完掘状況全景 (南西から)



2.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)・中世河道跡 SR 10603完掘状況全景 (南東から)



3.5-2-2層水田擬似畦畔B (05C)溝状遺構群 SD 10501等確認状況 (横断面55: J 183グリット北部: 南東から)



4. SD 10501完掘状況 (東南東から)

5. 中世河道跡内土師器坏 (P 8) 出土状況 (J 184グリット中南部)

6. 中世河道跡岸部杭 (W429) 出土状況 (J 185グリット北端部: 土層帯の中部)



1. 中世河道跡確認状況全景 (南西から)



3. 河道跡出土横桁 (SE 6) (J185グリッド)



4. 河道跡出土鉄釘 (K 15) (K186グリッド)



5. 2層目下65D10501出土鉄釘 (K14) (J183グリッド)



2. 中世河道跡完掘状況全景 (東南東から)



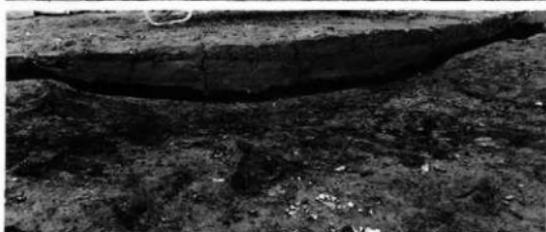
6. 中世河道跡出土鉄釘 (NO 6) (H188グリッド中東部)



7. 7層出土四ツ手柄杓材 (SE 10) (K184グリッド)



1. 西側流路横断面（手前は土層帯1奥は中央東西土層帯南西から）



2. 西側流路横断面（中央東西土層帯：南から）



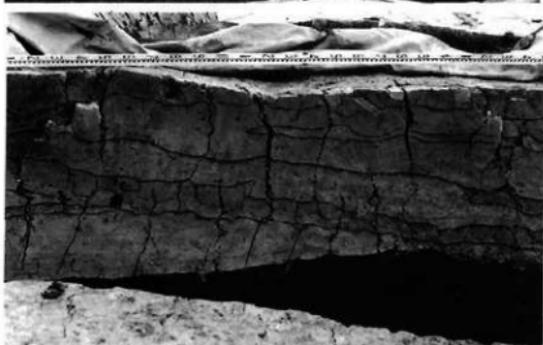
3. 西側流路横断面（手前は土層帯2、奥は中央東西土層帯南から）



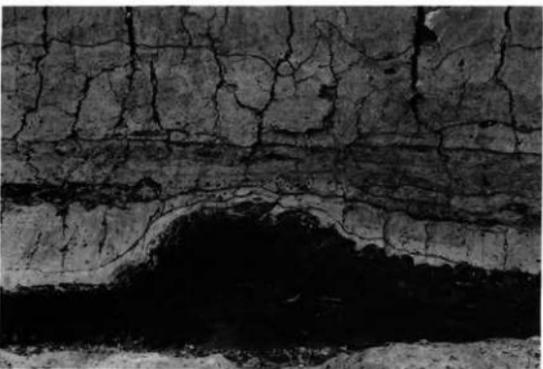
4. 東側流路中央部横断面（中央南北土層帯北部：西から）



1. 右岸付近横断面（中央南北土層帯南部：西から）



2. 左岸付近横断面（東側壁面土層帯北部：西から）



3. 中央部横断面（東側壁面南北土層帯：西から）



4. 右岸付近横断面（東側壁面南北土層帯南部：西から）



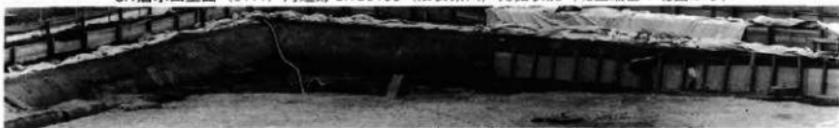
1.1層水田上面(01A)河道跡SR30103(旧安東川)確認状況(北西端部:南西から)



2.1層水田上面(01A)河道跡SR30103(旧安東川)完掘状況(北西端部:南西から)



3.1層水田上面(01A)河道跡SR30103(旧安東川)完掘状況(北西端部:北西から)



4.1層水田上面(01A)河道跡SR30103(旧安東川)完掘状況(北西端部:南東から)



5.1層水田設置された畦畔脇の矢板護岸(北西部)



1.溝状遺構 SD30101南部検出状況とタガ (YO6) (調査区南東部：北から)



2.溝状遺構 SD30101完掘状況 (調査区東部：南東南から)



3.タガ (YO6) (調査区南東部：北から)

報告書抄録

ふりがな	あげつち いせき たていしちく			いこうへん			
書名	上土遺跡(立石地区) I (遺構編)						
副書名	平成4・5年度静岡バイパス(上土遺跡立石地区)埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告						
シリーズ番号	第77集						
編著者名	矢田勝 池田将章						
編集機関	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所						
所在地	〒424 静岡県清水市江尻台町18-5 TEL.(0543)67-1171						
発行年月日	1996年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
あげつち いせき 上土遺跡 たていしちく 立石地区	しずおかけん 静岡県 しずおかし 静岡市 たていし 立石	22201	35度 0分 18秒	138度 0分 10秒	1992年 10月1日 ～ 1994年 3月3日	70,294㎡	道路(国道1 号静岡バイパ ス)建設に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上土遺跡 立石地区	水田	近代～近世	旧河道・水路跡 ・畦畔痕跡	陶器片・漆椀・曲物	遊離泥炭層の確認		
		中世	水田・盛土畦畔 ・溝状遺構・祭 祀遺構・地割跡	常滑系甕片・山茶碗 ・鉄鏝・箸状木製品 ・鉄製小刀	中世小区画水田確 認。土粒子分布で 疑似畦畔の検出。		
		平安～中世	旧河道・溝状遺 構	灰釉陶器・須恵器・ 土師器・土錘・田下 駄・泥除け・横櫛・ 鉄鏝・鉄鍬			
		奈良時代～平安 時代初期(条里 と別方向の畦畔 痕跡は、古墳後 期?～奈良)	条里型水田・溝 状遺構・地割跡	転用硯・駿東型坏・ 甲斐型墨書坏・椀型 田下駄・輪カンジキ 型田下駄・板状田下 駄	律令期条里水田と その下位から別方 向の畦畔痕跡を確 認。		
		弥生時代中期後 葉～古墳時代前 期	水田・杭列畦畔 ・溝状遺構・地 割跡・撓曲地形	古式土師器・弥生土 器・多叉楸・板状田 下駄・鳥形状木製品 ・舟形木製品・台輪 ・棟持材	弥生～古墳水田大 畦畔の杭・矢板の 地震による地中切 断の確認。火山灰 粒子等で疑似畦畔 の検出。		

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第77集

上土遺跡（立石地区）

（遺構編）

平成4・5年度静岡バイパス（上土遺跡立石地区）

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成8年3月31日

編集発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

清水市江尻台18-5

TEL 0543-67-1171

印刷所 株式会社 三 創

静岡市中村町166番地の1

TEL 054-282-4031